表４　土坑一覧表

区	№.	位　置	形 状	規　模 (cm)			図	PL	備　考　・　重　複	特　徴
				長径	短径	深度				
I	14	053 , -929	長円形	180	78	11	148	43		
I	15	049 , -928	不整長円形	600	158	15	148	43		
I	16	047 , -925	長円形	264	190	12	148	43	フレイク。	
I	17	043 , -926	長円形	195	164	18	148	43		
I	18	041 , -928	長円形	216	142	28	148	43		
I	19	038 , -915	円形	185	179	28	148	43	上面と覆土中に礫多。多孔石。	④⑥
I	21	020 , -900	隅丸方形	60	53	31	148	43	22 土坑を切る。	
I	22	020 , -900	長円形	47	(30)	29	148	43	21 土坑に切られる。	
I	23	021 , -900	長円形	60	51	18	148	-		
I	24	022 , -898	長円形	71	63	28	148	43	石器３点。	
I	25	021 , -902	長円形	73	68	38	148	43	石器７点。	
I	26	023 , -900	長円形	90	80	17	149	43		
I	27	024 , -901	長円形	74	60	18	149	43	４住居敷石下。	
I	30	020 , -887	円形	90	78	19	149	43		
I	31	020 , -888	長円形	75	64	31	149	43		
I	32	018 , -887	長円形	65	52	33	149	43	伏褄。	
I	33	019 , -888	隅丸方形	48	35	28	149	43		
I	34	031 , -889	長円形	122	105	38	149	44	上面に礫。覆土中に礫・土器多。横褄（加ＥⅠ新）。	①②④⑥
I	35	035 , -884	長円形	345	197	34	149	44	上面に礫。覆土中に礫・土器多。石器７点。	
I	58	024 , -891	円形	188	173	25	149	44	14 住居を切る。土器多。石器 18 点。	
I	59	023 , -893	円形	125	120	27	149	44	土器多。石器３点。	②
I	60	028 , -884	長円形か	280	—	45	150	44	石器７点。	
I	61	027 , -886	長円形	130	117	19	150	44		
I	62	026 , -888	長円形	115	97	27	150	44	14 住居を切る。	
I	63	027 , -889	長円形	117	84	17	150	44	14 住居を切る。	
I	64	026 , -891	長円形	125	64	27	150	44	14 住居を切る。	
I	65	022 , -890	長円形	105	88	26	150	44	14 住居を切る。	
I	66	022 , -891	隅丸方形	89	84	14	150	44	リタッチドフレイク。	
I	67	023 , -895	長円形	79	64	22	150	44	打斧（1）。	
I	68	024 , -894	円形	65	55	27	150	45		
I	69	019 , -898	長円形	46	38	26	150	45		
I	70	020 , -898	長円形	57	50	23	150	45		
I	71	021 , -896	円形か	44	(35)	15	151	45	72 土坑に切られる。	
I	72	021 , -896	円形か	56	(55)	19	151	45	71 土坑を切る。	
I	73	020 , -895	長円形	57	45	32	151	45		
I	74	017 , -889	円形	140	132	31	151	45	111 土坑に切られる。石器２点。	
I	75	017 , -893	長円形	192	184	18	151	45	３段掘り。８住居を切る。５配石の真下。	
I	76	032 , -885	長円形	65	50	20	151	45		
I	77	034 , -885	長円形か	83	62	21	151	45		
I	78	032 , -886	長円形	70	60	25	151	45		
I	79	033 , -887	円形	45	41	19	151	45		
I	80	033 , -888	長円形	97	72	20	151	45		
I	81	032 , -887	長円形	77	52	26	151	45		
I	82	031 , -886	長円形	(175)	81	38	151	45	83 土坑に切られる。	
I	83	030 , -885	長円形	(102)	80	41	151	45	82 土坑を切る。	
I	84	030 , -884	長円形	100	90	35	152	45	２段掘り。磨石。	
I	85	030 , -883	円形	75	73	28	152	45	86 土坑を切る。	
I	86	031 , -883	長円形か	(140)	(110)	32	152	45	85 土坑に切られる。フレイク。	
I	87	032 , -885	長円形か	68	58	23	152	45	88 土坑を切る。	
I	88	031 , -885	長円形	(70)	80	29	152	45	87 土坑に切られる。	
I	89	030 , -888	長円形	58	52	10	152	45		
I	90	030 , -887	長円形	40	31	18	152	45		
I	91	030 , -886	長円形	51	41	16	152	45		
I	92	029 , -886	長円形	48	35	20	152	45	93 土坑を切る。	
I	93	029 , -885	長円形	45	37	20	152	45	92 土坑に切られる。	
I	94	029 , -885	円形	52	48	15	152	45	石器２点。	
I	95								平面図ないが遺物あり。石器２点。	
I	96	032 , -888	長円形	110	60	17	152	45	97 土坑に切られる。	
I	97	032 , -888	円形	38	32	50	152	45	96 土坑を切る。	
I	98	029 , -889	円形	138	140	8	152	45	99 土坑に切られる。石器７点。	
I	99	029 , -888	長円形	117	93	34	152	45	98 土坑を切る。打斧（1）。	
I	100	020 , -886	円形	145	140	41	153	—	15 住居炉より下。	
I	101	021 , -885	円形か	(101)	57	41	153	45	15 住居炉より下。焼土・炭化物を含む。	③
I	102	017 , -887	長円形	134	120	42	153	—	106、107 土坑に切られる。16 住居炉の下。石器２点。	
I	103	015 , -889	長円形	103	96	39	153	45	フレイク。	
I	104	015 , -890	円形	80	78	31	153	45	石器３点。	
I	105	015 , -893	円形か	60	(45)	28	153	45		
I	106	017 , -886	長円形	144	113	27	153	—	102 土坑を切る。フレイク。	
I	107	016 , -887	長円形	80	72	26	153	—	102 土坑を切る。	
I	108	015 , -887	長円形	72	60	24	153	—	フレイク。	
I	109	014 , -887	長円形か	(90)	87	16	153	—		
I	110	017 , -888	円形	42	35	33	153	—		
I	111	016 , -888	長円形	51	45	40	151	45	74 土坑を切る。	

区	№.	位　置	形 状	規　模 (cm)			図	PL	備　考　・　重　複	特　徴
				長径	短径	深度				
Ⅰ	112	015 , -889	円形	43	39	23	153	－	打斧（1）。	
Ⅰ	113	021 , -886	長円形	69	62	8	153	－		
Ⅰ	114	028 , -885	円形	56	45	24	153	45		
Ⅰ	115	030 , -890	長円形	(65)	45	9	152	45		
Ⅰ	116	029 , -890	円形	50	48	12	152	45		
Ⅰ	117	028 , -890	円形	(40)	32	13	152	45		
Ⅰ	118	028 , -889	円形	52	43	17	152	45		
Ⅰ	119	019 , -885	長円形	52	38	22	153	45	11 住居炉より下。	
Ⅰ	123								平面図ないが遺物あり。石器５点。	
Ⅱ	3	999 , -840	不整長円形	130	89	28	161	46	上面と覆土中に礫か。	④⑥
Ⅱ	4	003 , -846	円形	215	180	32	161	46		
Ⅱ	5	011 , -883	円形	93	87	42	161	46		
Ⅱ	6	013 , -883	不整円形	39	37	39	161	46	6 柱穴と重複（新旧不明）。	
Ⅱ	8	014 , -883	円形	112	108	34	161	46		
Ⅱ	9	015 , -883	長円形	49	40	13	161	46	上面に礫。礫石器。	④
Ⅱ	10	011 , -873	円形	95	88	34	161	46	11、857 土坑を切る。断面四角（深）石器２点。	⑦
Ⅱ	11	011 , -873	長円形	98	90	30	161	46	10 土坑に切られる。	
Ⅱ	13	008 , -871	不整形	154	90	42	162	46	フレイク。	
Ⅱ	14	010 , -884	長円形か	(67)	(87)	8	162	46,47	3 柱穴、10 柱穴に切られる。	
Ⅱ	15	011 , -883	円形	77	75	60	162	46,47	16 土坑、3 柱穴を切る。断面四角（深）スクレイパー	⑦
Ⅱ	16	012 , -883	長円形か	(85)	97	38	162	46,47	15 土坑に切られる。	
Ⅱ	17	009 , -872	隅丸方形	(105)	92	26	161	47	18 土坑に切られる。	
Ⅱ	18	009 , -871	不整形	83	66	22	161	47	17 土坑を切る。	
Ⅱ	19	012 , -884	円形か	92	80	36	162	47		
Ⅱ	20	010 , -877	不整円形か	90	(72)	72	162	47	21 土坑に切られる。断面四角（深）	⑦
Ⅱ	21	010 , -877	不整円形	75	70	70	162	47	20 土坑、7 柱穴を切る。	
Ⅱ	23	016 , -883	円形	134	130	53	162	47		
Ⅱ	24	007 , -874	円形か	53	51	51	162	47	25 土坑を切る。フレイク。	
Ⅱ	25	007 , -876	円形	133	131	37	162	47	24 土坑に切られる。埋甕。（阿玉台Ⅲ）石器５点。	①
Ⅱ	26	003 , -864	円形か	117	(70)	25	162	47	横甕。（称名寺 ･･･ 出土状況写真のみ）	①
Ⅱ	27	012 , -884	長円形	51	46	43	162	47		
Ⅱ	28	013 , -886	不整円形	(60)	52	26	163	47		
Ⅱ	29	014 , -886	長円形	82	70	70	163	47	石器２点。	
Ⅱ	30	-		－	－	24	163	48	平面図ないが遺物あり。	⑩
Ⅱ	31	009 , -880	円形か	(51)	(21)	39	163	48		
Ⅱ	32	010 , -881	不整円形か	(88)	80	54	163	48		
Ⅱ	33	011 , -877	長円形	98	86	47	163	48		
Ⅱ	34		－	－	－	－	－	－	平面図ないが遺物あり。台石類。	
Ⅱ	35	-	－	－	－	31	163	48	平面図ないが遺物あり。36 土坑に切られる。	⑩
Ⅱ	36	-	－	－	－	23	163	48	平面図なし。35、37 土坑を切る。	
Ⅱ	37	-	－	－	－	40	163	48	平面図ないが遺物あり埋甕(不明)。36 土坑に切られる。石器２点。	⑩
Ⅱ	38	027 , -883	－	(125)	(60)	(29)	163	48	39 土坑に切られる。埋甕。	
Ⅱ	39	027 , -882	長円形か	(90)	75	24	163	48	38 土坑を切る。	
Ⅱ	41	-	－	－	－	39	163	48	平面図ないが遺物あり。	⑩
Ⅱ	42	023 , -878	長円形か	73	60	22	163	48	43 土坑を切る。石器５点。	
Ⅱ	43	023 , -879	円形か	61	(45)	38	163	48	42 土坑に切られる。	
Ⅱ	44	027 , -873	-	98	－	(64)	163	48	横甕。（称名寺）石器２点。	①
Ⅱ	47	018 , -882	長円形	130	92	30	163	49	1 住居を切る。リタッチドフレイク。	
Ⅱ	48	020 , -884	長円形か	(117)	100	20	163	49	1 住に切られる。	
Ⅱ	49	021 , -884	長円形か	170	105	50	164	49		
Ⅱ	50		－	－	－	－	－	－	平面図ないが遺物あり。石器４点。	
Ⅱ	51	028 , -876	円形	138	127	48	164	49	断面四角（浅） 中央に大礫。	⑦
Ⅱ	52	017 , -884	円形	107	100	56	164	49	53 土坑を切る。礫石器。	
Ⅱ	53	018 , -884	長円形	97	70	34	164	49	52 土坑に切られる。石器２点。	
Ⅱ	54	008 , -877	方形	105	(82)	49	164	49	55 土坑。	
Ⅱ	55	008 , -876	楕円形	45	(25)	49	164	49	54 土坑。	
Ⅱ	56	023 , -882	不整長円形	100	60	30	164	49	57 土坑を切る。配石？墓坑？	④
Ⅱ	57	022 , -882	長円形か	110	(90)	(18)	164	49	56 土坑に切られる。58 土坑を切る。断面四角（浅）	⑦
Ⅱ	58	022 , -881	長円形か	(95)	85	(15)	164	49	57 土坑に切られる。墓坑？石囲炉？	④
Ⅱ	59	-	－	－	－	18	164	49	平面図なし。60 土坑を切る。	
Ⅱ	60	-	－	－	－	34	164	49	平面図ないが遺物あり。59 土坑に切られる。埋甕。	
Ⅱ	61	026 , -877	不整長円形	150	115	23	164	49	19 柱穴を切る。底面に礫。横甕。	①⑤
Ⅱ	62	027 , -877	不整長円形	165	135	25	165	49	858 土坑を切る。（堀之内１）石器２点。	
Ⅱ	63	020 , -879	不整円形	60	52	23	164	49		
Ⅱ	64	019 , -878	長円形	79	71	16	165	49,50	埋甕。	
Ⅱ	65	015 , -875	隅丸長方形	195	95	33	165	50		
Ⅱ	67	019 , -876	長円形	63	48	26	165	50	24 柱穴と重複（新旧不明）。	
Ⅱ	68	018 , -877	円形か	93	(67)	9	165	50	24 柱穴に切られる。	
Ⅱ	69	018 , -877	不整円形か	51	36	28	165	50	70 土坑を切る。	
Ⅱ	70	018 , -878	長円形	110	96	32	165	50	69 土坑に切られる。	
Ⅱ	71	-	－	－	－	25	165	50	平面図ないが遺物あり。	⑩
Ⅱ	72	017 , -875	長円形か	190	102	24	165	50	73 土坑を切る。25､26､31 柱穴に切られる。石器３点。	
Ⅱ	73	018 , -875	長円形か	116	－	31	165	50	72 土坑、25 柱穴に切られる。	
Ⅱ	76	006 , -871	円形か	(85)	80	35	162	－		

区	№.	位　置	形 状	規　模 (cm)			図	PL	備　考　・　重　複	特　徴
				長径	短径	深度				
Ⅱ	77	017 , -873	長円形	105	95	49	165	50	フラスコ状。底面に礫。	⑧⑤
Ⅱ	78	014 , -875	円形	79	75	80	166	50	91 土坑を切る。	
Ⅱ	79	014 , -873	長円形	130	100	58	166	50	断面四角（深）。棒状礫。	⑦
Ⅱ	80	013 , -874	不整長円形	165	(105)	34	166	50	81 土坑を切る。断面四角（深）。礫石器。	⑦
Ⅱ	81	012 , -874	円形	68	－	59	166	50	80 土坑に切られる。	
Ⅱ	82	014 , -873	不整長円形	182	100	84	166	50	101 土坑を切る。スクレイパー。	
Ⅱ	83	023 , -870	不整長円形	(96)	42	－	165	50,51	84 土坑を切る。	
Ⅱ	84	024 , -870	不整円形	48	28	－	165	50,51	83 土坑に切られる。楔形石器。	
Ⅱ	85	024 , -871	円形	165	－	28	166	51	埋甕。（加ＥⅢ）	①
Ⅱ	87	020 , -875	円形	上端 160 下 180	上端 150 下 185	66	166	51	フラスコ状。下半に礫びっしり。	⑤⑧
Ⅱ	89	025 , -870	円形	35	32	25	166	51		
Ⅱ	90	026 , -874	円形	52	50	40	166	51	フレイク。	
Ⅱ	91	014 , -875	長円形	(50)	50	54	166	51	78 土坑に切られる。	
Ⅱ	92	028 , -875	長円形か	(110)	80	34	167	51	93 土坑を切る。フレイク。	
Ⅱ	93	027 , -874	円形	46	45	33	167	51	92 土坑に切られる。	
Ⅱ	94	027 , -871	不整長円形か	105	(58)	38	167	51,52	113 土坑に切られる。95 土坑と重複(新旧不明)。埋甕。上面に礫を半周囲む。（加ＥⅡ）石器２点。	①④
Ⅱ	95	026 , -871	長円形か	(100)	78	23	167	51,52	113 土坑を切る。94 土坑と重複(新旧不明)。埋甕。（加ＥⅡ）礫石器。	①
Ⅱ	96	030 , -867	不整長円形	67	54	30	167	52	石器２点。	
Ⅱ	97	030 , -869	不整長方形	87	80	19	167	33		
Ⅱ	98	017 , -872	不整長円形	97	48	84	167	52		
Ⅱ	99	028 , -869	不整長円形	80	73	57	167	32	礫石器。	
Ⅱ	101	015 , -874	不整円形	50	(45)	46	166	52	82 土坑に切られる。	
Ⅱ	102	031 , -871	不整長円形	84	75	43	167	52		
Ⅱ	103	030 , -872	不整長円形	150	125	35	167	52	47 住 -P9 に切られる。	
Ⅱ	106	029 , -871	不整長円形	45	37	23	167	33		
Ⅱ	107	025 , -859	長円形	115	105	23	167	52	フレイク。	
Ⅱ	108	027 , -859	長円形	120	105	20	167	52	断面四角（浅）フレイク。	⑦
Ⅱ	110	029 , -866	長円形	(203)	165	14	167	52	50 柱穴に切られる。伏甕。（加ＥⅣ）	①
Ⅱ	112	026 , -863	長円形	151	135	24	168	52		
Ⅱ	113	027 , -870	長円形	80	70	33	167	52	94、95 土坑に切られる。	
Ⅱ	114	024 , -857	不整長円形	68	60	52	168	52	フレイク。	
Ⅱ	115	026 , -857	長円形	80	70	42	168	52		
Ⅱ	116	023 , -869	長円形	80	75	38	168	53		
Ⅱ	117	025 , -857	不整円形	90	80	38	168	53		
Ⅱ	118	025 , -854	不整長円形	55	30	28	168	53		
Ⅱ	119	025 , -858	円形	48	45	24	168	53		
Ⅱ	121	026 , -851	長円形	60	29	47	168	53		
Ⅱ	123	025 , -849	長円形	57	42	39	168	53	石器５点。	
Ⅱ	124	025 , -850	長円形	59	(46)	41	168	53	33 柱穴を切る。	
Ⅱ	125	022 , -870	隅丸長方形	130	48	50	168	53		
Ⅱ	128	026 , -854	長円形か	128	105	82	168	78	上に 20 配石	
Ⅱ	129	024 , -847	長円形	155	145	11	169	53	礫石器。フレイク。	
Ⅱ	130	022 , -845	不整長円形	172	133	33	169	53		
Ⅱ	131	025 , -868	円形	63	60	33	169	53		
Ⅱ	132	023 , -867	円形	61	55	38	169	53		
Ⅱ	133	023 , -862	長円形	121	54	39	169	53		
Ⅱ	134	022 , -852	不整長円形	(206)	125	52	169	54	135、172 土坑を切る。石器７点。	
Ⅱ	135	021 , -852	長円形か	(70)	(62)	15	169	54	134 土坑に切られる。	
Ⅱ	136	020 , -870	円形	79	74	29	169	54		
Ⅱ	137	025 , -865	不整円形	55	53	23	169	54		
Ⅱ	140	014 , -860	長円形	70	48	30	169	54		
Ⅱ	141	026 , -865	長円形	114	95	24	169	54		
Ⅱ	143	011 , -864	不整円形	(115)	(90)	21	169	54	144 土坑に切られる。打斧（１）。	
Ⅱ	144	011 , -863	隅丸長方形	137	98	44	169	54	143 土坑を切る。石器３点。	
Ⅱ	145	012 , -859	長円形か	132	(93)	52	170	54	146 土坑を切る。埋甕。	
Ⅱ	146	013 , -859	不整円形か	(105)	(105)	24	170	54	145、147 土坑に切られる。埋甕。（加ＥⅡ）石器５点。	①
Ⅱ	147	014 , -860	円形か	75	(70)	40	170	54	146 土坑を切る。底礫。断面四角（深）フレイク。	⑤⑦
Ⅱ	148	012 , -863	円形か	(100)	102	45	170	54	149 土坑に切られる。石器２点。	
Ⅱ	149	011 , -862	円形	50	45	41	170	54	148 土坑を切る。	
Ⅱ	150	012 , -864	長円形	110	80	46	170	54		
Ⅱ	151	017 , -859	長円形か	(72)	68	19	170	54	59 柱穴を切る。	
Ⅱ	152	014 , -858	長円形	86	77	33	170	55		
Ⅱ	153	015 , -858	長円形	(67)	59	24	170	55	155 土坑を切る。	
Ⅱ	154	012 , -865	円形か	(120)	－	28	169	55	5 住居を切る。	
Ⅱ	155	015 , -858	長円形	(55)	50	21	170	55	153 土坑に切られる。	
Ⅱ	156	013 , -857	長円形か	(98)	90	26	170	55	157 土坑を切る。断面四角（浅）	⑦
Ⅱ	157	014 , -856	長円形か	(105)	110	32	170	55	156、158 土坑に切られる。断面四角（浅）	⑦
Ⅱ	158	014 , -856	不整円形	42	39	25	170	55	157 土坑を切る。断面四角（浅）	⑦
Ⅱ	159	009 , -859	長円形	118	100	35	170	55		
Ⅱ	160	006 , -855	長円形か	70	(55)	26	171	55	161 土坑を切る。	
Ⅱ	161	007 , -855	長円形か	(75)	57	24	171	55	160 土坑に切られる。	
Ⅱ	162	007 , -856	長円形	80	60	23	170	55		

区	No.	位置	形状	規模 (cm)			図	PL	備考・重複	特徴
				長径	短径	深度				
Ⅱ	163	006 , -852	長円形	61	54	27	170	55		
Ⅱ	164	007 , -851	長円形	50	44	19	171	55		
Ⅱ	165	006 , -845	長円形	55	48	14	171	55	166 土坑と重複（新旧不明）。	
Ⅱ	166	006 , -845	長円形	69	54	23	171	55	165 土坑と重複（新旧不明）。	
Ⅱ	167	011 , -862	不明	(30)	42	33	171	55	168 土坑と重複（新旧不明）。	
Ⅱ	168	011 , -862	長円形か	(112)	(85)	56	171	55	167、169 土坑と重複（新旧不明）。	
Ⅱ	169	010 , -861	長円形か	(100)	(100)	36	171	55	171 土坑を切る。168 土坑（新旧不明）と重複。	
Ⅱ	170	010 , -860	不整長円形	195	(139)	41	171	55	169、171 土坑に切られる。石器２点。	
Ⅱ	171	009 , -860	長円形	133	106	11	171	55	169 土坑に切られる。170 土坑を切る。	
Ⅱ	172	022 , -853	不整長方形	85	71	43	171	55,56	134 土坑に切られる。埋甕２個（１正位、２逆位ともに堀之内１）	①
Ⅱ	173	019 , -851	長円形か	(76)	78	45	171	56	174 土坑に切られる。272 土坑を切る。横甕。（堀之内１）	①
Ⅱ	174	019 , -851	長円形か	85	65	21	171	56	173 土坑を切る。	
Ⅱ	175	008 , -857	不整円形	65	49	21	171	56	176 土坑を切る。	
Ⅱ	176	007 , -857	長円形か	75	49	14	171	56	175 土坑に切られる。	
Ⅱ	177	006 , -850	長円形	110	95	32	171	56		
Ⅱ	178	008 , -853	長円形	94	85	26	171	56		
Ⅱ	179	014 , -852	隅丸長方形	66	57	29	172	56		
Ⅱ	180	015 , -853	円形	60	50	25	172	56		
Ⅱ	181	016 , -853	長円形	113	95	23	172	56	断面四角（浅）	⑦
Ⅱ	182	018 , -852	隅丸長方形か	91	70	22	172	56	上面に礫。台石か石皿。	
Ⅱ	185	016 , -860	不整長円形	—	60	27	172	56	186 土坑を切る。	
Ⅱ	186	017 , -860	円形か	(115)	110	24	172	56	185、187 土坑に切られる。	
Ⅱ	187	018 , -860	長円形	73	47	40	172	56	186 土坑を切る。	
Ⅱ	188	016 , -854	不整長円形	65	41	28	172	56		
Ⅱ	189	017 , -853	長円形か	(50)	50	19	172	57	190 土坑を切る。	
Ⅱ	190	017 , -853	長円形か	(35)	30	24	172	57	189 土坑に切られる。	
Ⅱ	191	016 , -851	長円形	130	77	18	172	57	埋甕。上面に礫。（称名寺）	①④
Ⅱ	192	020 , -866	円形	70	70	64	172	57	193 土坑を切る。	
Ⅱ	193	020 , -865	不整円形	140	130	41	172	57	192、194 土坑に切られる。195 土坑と重複（新旧不明）。	
Ⅱ	194	021 , -865	円形か	(70)	(62)	41	172	57	193、195 土坑を切る。	
Ⅱ	195	022 , -865	不整長円形か	—	75	45	172	57	193 土坑に切られる。打斧 A.	
Ⅱ	196	023 , -859	長円形	92	65	20	172	57		
Ⅱ	197	012 , -845	長円形	163	(147)	58	172	57	216 土坑に切られる。フラスコ状？	⑧
Ⅱ	198	011 , -840	長円形	110	87	27	172	57	炭を少量含む。	
Ⅱ	199	012 , -847	長円形	(71)	82	28	173	57		
Ⅱ	201	018 , -862	長円形	226	(136)	70	173	57	202、210 土に切られる。209 土を切る。断面四角（深）石器５点。	⑦
Ⅱ	202	018 , -861	円形か	165	(130)	45	173	57	201 土坑を切る。	
Ⅱ	203	020 , -860	円形	120	—	30	173	57	断面四角（浅）	⑦
Ⅱ	204	012 , -872	不整長円形	139	109	58	173	—		
Ⅱ	206	013 , -838	長円形か	(143)	100	38	173	57	207 土坑と重複。（新旧不明）石器２点。	
Ⅱ	207	012 , -837	不整長方形	(120)	130	50	173	57	206 土坑と重複。（新旧不明）	
Ⅱ	208	012 , -843	円形か	(75)	125	28	173	58		
Ⅱ	209	017 , -862	長円形	(70)	65	36	173	58	201 土坑に切られる。	
Ⅱ	210	019 , -861	長円形か	(95)	93	43	173	58	211 土坑を切る。	
Ⅱ	211	019 , -861	不整円形か	114	84	48	173	58	210 土坑に切られる。	
Ⅱ	212	014 , -848	長円形	158	122	40	173	58	石器３点。	
Ⅱ	213	012 , -841	長円形	87	52	38	174	58	礫石器。	
Ⅱ	214	015 , -861	長円形	68	48	35	174	58	215 土坑を切る。	
Ⅱ	215	015 , -861	長円形	139	92	30	174	58	214 土坑に切られる。	
Ⅱ	216	013 , -845	円形	124	(103)	44	174	58	197 土坑を切る。	
Ⅱ	217	016 , -865	長円形	93	65	63	174	58	218 土坑を切る。	
Ⅱ	218	016 , -864	長円形	(115)	88	44	174	58	217 土坑に切られる。219 土坑を切る。	
Ⅱ	219	016 , -863	長円形	(195)	96	45	174	58	218 土坑に切られる。石器２点。	
Ⅱ	220	011 , -838	円形か	65	(46)	28	174	58	221 土坑に切られる。石器２点。	
Ⅱ	221	012 , -839	不整長円形	115	100	22	174	58,59	220 土坑を切る。埋甕。（堀之内１）フレイク。	①
Ⅱ	223	020 , -862	長円形か	50	42	32	174	34		
Ⅱ	224	020 , -863	長円形	65	55	35	174	59		
Ⅱ	227	021 , -863	不整長円形	(84)	60	39	174	59	49 住 P-2 に切られる。	
Ⅱ	229	023 , -864	長円形	135	83	30	174	59		
Ⅱ	230	013 , -840	長円形	65	54	41	174	59		
Ⅱ	231	012 , -840	長円形	55	48	31	174	59	リタッチドフレイク。	
Ⅱ	232	013 , -839	円形	43	40	21	174	59		
Ⅱ	233	013 , -838	長円形	57	46	16	175	59		
Ⅱ	234	025 , -862	長円形	65	48	20	175	59		
Ⅱ	235	025 , -864	長円形か	(52)	50	15	175	59	65 柱穴に切られる。打斧 A.	
Ⅱ	236	022 , -867	長円形	62	45	28	175	59		
Ⅱ	237	-	—	—	—	27	175	59	平面図ないが遺物あり。	⑩
Ⅱ	238	011 , -852	長円形か	(140)	95	29	175	59		
Ⅱ	239	010 , -853	長円形	63	100	39	175	59		
Ⅱ	240	021 , -859	円形	87	81	13	175	59		
Ⅱ	241	009 , -848	長円形	85	65	38	175	60		
Ⅱ	245	009 , -841	円形	60	55	40	175	60		
Ⅱ	246	020 , -855	長円形	131	83	46	176	60	リタッチドフレイク。	

区	№.	位　置	形 状	規　模 (cm)			図	PL	備　考　・　重　複	特　徴
				長径	短径	深度				
Ⅱ	247	012 , -849	長円形	373	217	33	176	60	土器多。	②
Ⅱ	248	014 , -845	長円形	360	291	54	176	60	覆土中に礫多。	⑥
Ⅱ	249	009 , -839	長円形	43	33	36	175	60		
Ⅱ	251	016 , -842	長円形	88	73	21	175	60	埋甕２個。（ともに加ＥⅡ）	①
Ⅱ	252	019 , -846	長円形	70	59	50	175	78	６配石に切られる。	
Ⅱ	253	019 , -842	長円形	138	113	33	175	60		
Ⅱ	254	016 , -834	長円形	287	108	46	176	60	礫石器。	
Ⅱ	255	013 , -834	長円形	160	128	57	176	60		
Ⅱ	256	006 , -836	長円形	147	130	43	176	61		
Ⅱ	258	011 , -834	長円形	131	116	55	176	61	305 土坑と重複。（新旧不明）	
Ⅱ	259	021 , -858	円形か	(86)	115	16	177	61	260 土坑に切られる。断面四角（浅）打斧 A。	⑦
Ⅱ	260	022 , -857	円形	130	121	44	177	61	259 土坑を切る。遺物多。埋甕。断面四角（深）石器４点	⑦②
Ⅱ	261	006 , -838	長円形	100	95	38	177	61	埋甕。（堀之内１）	①
Ⅱ	262	021 , -857	長円形か	53	36	44	177	61	263 土坑を切る。	
Ⅱ	263	021 , -856	長円形か	(75)	30	44	177	61	262 土坑に切られる。	
Ⅱ	264	021 , -855	長円形か	46	26	43	177	61	270 土坑を切る。	
Ⅱ	265	021 , -855	長円形	52	33	35	177	61		
Ⅱ	267	024 , -856	長円形	110	65	49	177	61	268 土坑を切る。	
Ⅱ	268	023 , -857	長円形か	(70)	110	13	177	61	260、267 土坑に切られる。	
Ⅱ	270	021 , -855	長円形か	(56)	34	39	177	61	264 土坑に切られる。	
Ⅱ	271	021 , -850	長円形	(165)	90	41	177	61	伏甕（堀之内１）礫石器。	①
Ⅱ	272	018 , -850	長円形か	(105)	57	36	177	－		
Ⅱ	273	022 , -835	円形	130	120	43	177	10	3 住 5 号埋甕に切られる。ドリル。	
Ⅱ	274	025 , -855	円形か	129	(87)	54	178	42	23 埋甕に切られる。	
Ⅱ	275	010 , -832	長円形	156	(64)	32	177	61		
Ⅱ	276	009 , -832	長円形	350	(196)	48	177	61		
Ⅱ	277	020 , -845	長円形	125	68	15	178	61		
Ⅱ	278	019 , -841	円形	88	81	37	178	61		
Ⅱ	279	016 , -844	長円形か	(40)	40	42	178	61		
Ⅱ	280	016 , -842	長円形	102	96	23	178	61,62		
Ⅱ	281	016 , -845	円形	75	70	26	178	62		
Ⅱ	282	017 , -841	長円形か	98	88	58	178	62	301 土坑と重複。（新旧不明）	
Ⅱ	283	019 , -844	長円形か	123	100	25	178	62	297 土坑（新旧不明）	
Ⅱ	284	016 , -840	長円形	80	70	45	178	62	25 柱穴を切る。	
Ⅱ	285	015 , -841	円形か	55	42	26	178	62	286 土坑を切る。フレイク。	
Ⅱ	286	014 , -841	長円形か	(65)	55	23	178	62	285 土坑に切られる。	
Ⅱ	287	015 , -848	長円形	100	88	31	178	62		
Ⅱ	288	014 , -843	円形か	55	(54)	16	178	62	炭化物を少量含む。	③
Ⅱ	289	017 , -845	長円形	70	50	31	178	62	石器２点。	
Ⅱ	290	013 , -841	円形	38	35	16	179	62	862 土坑を切る。	
Ⅱ	291	014 , -836	長円形か	90	(81)	11	179	62		
Ⅱ	292	014 , -838	長円形	194	145	33	179	62		
Ⅱ	293	018 , -843	円形	55	50	15	178	62		
Ⅱ	294	013 , -841	円形	41	40	18	179	62		
Ⅱ	295	013 , -841	長円形か	55	47	25	179	62	296 土坑を切る。	
Ⅱ	296	012 , -841	長円形か	(40)	27	12	179	62	295 土坑に切られる。	
Ⅱ	297	019 , -843	長円形か	59	(60)	26	178	62	283 土坑と重複。（新旧不明）	
Ⅱ	298	014 , -843	不整長方形	153	106	18	179	－		
Ⅱ	299	014 , -831	長円形	52	48	32	179	62		
Ⅱ	300	017 , -841	長円形か	(101)	87	47	179	62		
Ⅱ	301	017 , -840	長円形	129	122	70	179	62	282 土坑（新旧不明）	
Ⅱ	302	011 , -837	長円形	105	64	33	179	63		
Ⅱ	304	020 , -846	長円形	94	83	46	179	63	6 住 12 柱穴に切られる？	
Ⅱ	305	011 , -835	長円形	86	68	25	179	63	258 土坑と重複。（新旧不明）	
Ⅱ	306	010 , -850	円形か	145	(138)	42	179	63	礫石器。	
Ⅱ	307	018 , -855	円形か	165	(110)	45	180	63	308 土坑に切られる。石器２点。	
Ⅱ	308	018 , -854	長円形か	117	80	37	180	63	307 土坑を切る。	
Ⅱ	312	018 , -865	長円形か	(90)	68	31	180	35,63	49 住 P-4 に切られる。	
Ⅱ	314	019 , -865	長円形	(117)	75	30	180	63		
Ⅱ	315	011 , -856	長円形か	(40)	35	14	180	63	316 土坑に切られる。	
Ⅱ	316	012 , -856	長円形	90	70	39	180	63	315 土坑を切る。	
Ⅱ	317	017 , -842	長円形	80	(70)	31	180	63		
Ⅱ	319	014 , -852	長円形か	(70)	41	36	180	63		
Ⅱ	320	011 , -832	長円形	75	50	21	180	63		
Ⅱ	321	012 , -840	長円形	(233)	130	50	180	63		
Ⅱ	324	005 , -829	長円形	75	71	31	180	63		
Ⅱ	339	050 , -864	長円形	120	102	24	180	63		
Ⅱ	356	035 , -875	長円形	59	43	20	180	63		
Ⅱ	357	035 , -876	円形	50	43	22	180	64		
Ⅱ	358	037 , -881	円形	43	40	21	180	64		
Ⅱ	359	036 , -879	円形	30	25	14	181	64		
Ⅱ	360	038 , -878	円形	49	42	16	181	64		
Ⅱ	361	037 , -879	円形	63	60	19	181	64		
Ⅱ	362	037 , -877	長円形	47	40	19	181	64		

区	№.	位　置	形 状	規　模 (cm)			図	PL	備　考　・　重　複	特　徴
				長径	短径	深度				
Ⅱ	363	043 , -878	不整長円形	59	45	28	181	64		
Ⅱ	364	040 , -879	長円形	97	52	14	181	64		
Ⅱ	365	040 , -877	長円形	47	41	18	181	64		
Ⅱ	366	037 , -877	円形	47	42	15	181	64		
Ⅱ	367	036 , -877	長円形	43	37	19	181	64		
Ⅱ	368	037 , -880	長円形	30	22	23	181	64		
Ⅱ	369	036 , -877	円形	26	24	14	181	64		
Ⅱ	370	036 , -877	円形	35	34	28	181	64		
Ⅱ	371	035 , -877	円形	35	26	18	181	65		
Ⅱ	372	035 , -877	円形	31	30	13	181	65		
Ⅱ	373	035 , -876	長円形	41	34	36	181	65		
Ⅱ	385	039 , -870	円形	47	44	21	181	65		
Ⅱ	387	038 , -870	円形	38	35	14	182	65		
Ⅱ	389	035 , -870	長円形	46	35	16	182	65		
Ⅱ	397	042 , -829	円形か	78	－	36	182	65	上面に礫。	④
Ⅱ	400	045 , -832	長円形	57	49	23	182	65		
Ⅱ	401	045 , -832	長円形	58	38	37	182	65		
Ⅱ	402	040 , -834	長円形	83	73	21	182	65		
Ⅱ	403	044 , -832	長円形	60	52	14	182	65		
Ⅱ	404	040 , -815	長円形	80	68	30	182	65	429 土坑と重複。（新旧不明）	
Ⅱ	407	039 , -816	円形	102	(95)	16	182	65	408 土坑と重複。（新旧不明）	
Ⅱ	408	039 , -816	長円形	51	45	37	182	65	407、409 土坑と重複。（新旧不明）	
Ⅱ	409	039 , -815	長円形か	(32)	50	24	182	65	408、410 土坑と重複。（新旧不明）	
Ⅱ	410	038 , -816	長円形	58	46	11	182	65	409 土坑と重複。（新旧不明）	
Ⅱ	411	046 , -835	長円形	30	25	17	182	65		
Ⅱ	412	048 , -835	円形	43	40	8	182	65		
Ⅱ	413	048 , -838	長円形	33	28	13	182	66		
Ⅱ	414	049 , -839	長円形	29	23	14	182	66		
Ⅱ	415	045 , -838	長円形	58	50	32	182	66		
Ⅱ	416	044 , -828	円形	61	58	25	182	－		
Ⅱ	417	044 , -827	円形	65	56	14	183	66		
Ⅱ	419	043 , -832	円形か	68	(48)	22	183	66	420 土坑に切られる。	
Ⅱ	420	042 , -832	長円形か	(177)	124	37	183	66	419 土坑を切る。431 土坑に切られる。421 土と重複。（新旧不明）	
Ⅱ	421	041 , -832	長円形か	(63)	79	26	183	66	422 土坑を切る。420 土坑と重複。（新旧不明）	
Ⅱ	422	041 , -832	長円形か	-	78	15	183	66	421､426 土坑に切られる。423 土坑と重複。（新旧不明）	
Ⅱ	423	040 , -831	円形か	(56)	-	17	183	66	426 土坑に切られる。422 土坑と重複。（新旧不明）	
Ⅱ	424	035 , -823	円形	64	55	14	183	66		
Ⅱ	425	036 , -823	円形	42	41	27	183	66		
Ⅱ	426	040 , -831	長円形	48	45	27	183	66	422、423 土坑を切る。	
Ⅱ	427	039 , -828	長円形	83	46	8	183	66		
Ⅱ	428	037 , -825	円形	120	(100)	32	183	66	432 土坑と重複（新旧不明）。	
Ⅱ	429	040 , -815	長円形	80	75	47	183	66	404 土坑と重複（新旧不明）。	
Ⅱ	431	042 , -833	長円形	64	48	31	183	－	420 土坑を切る。	
Ⅱ	432	036 , -825	長円形	上端 (94) 下 125	上端 91 下 116	72	183	66	428 土坑と重複。（新旧不明）　フラスコ状土坑(貯蔵穴) 打斧 A。	⑧
Ⅱ	433	047 , -844	長円形か	110	57	15	183	66	上面と覆土中に礫。	④⑥
Ⅱ	435	044 , -836	長円形	206	152	37	183	66	石器２点。	
Ⅱ	440	046 , -842	円形	86	80	50	183	66	断面四角（深）	⑦
Ⅱ	441	044 , -845	長円形	111	96	31	184	66		
Ⅱ	451	043 , -844	円形	50	45	15	184	67		
Ⅱ	455	038 , -842	長円形	95	98	43	184	67		
Ⅱ	456	040 , -843	長円形	112	100	28	184	67		
Ⅱ	457	040 , -841	長円形	136	118	27	184	67		
Ⅱ	458	042 , -841	円形	115	111	26	184	67		
Ⅱ	467	038 , -839	長円形か	65	55	23	184	28		
Ⅱ	470	039 , -812	長円形	145	77	16	184	67	埋甕。（堀之内１）フレイク。	①
Ⅱ	471	042 , -854	長円形	187	101	24	184	67		
Ⅱ	472	042 , -851	円形	55	51	13	184	67		
Ⅱ	474	039 , -853	長円形	49	39	11	184	16		
Ⅱ	475	041 , -852	円形	35	30	13	184	67		
Ⅱ	476	038 , -851	長円形	129	120	26	184	67	518 土坑を切る。	
Ⅱ	481	036 , -856	長円形か	(60)	55	15	185	67	482 土坑に切られる。	
Ⅱ	482	036 , -856	長円形か	65	60	12	185	67	481 土坑を切る。礫石器。	
Ⅱ	485	034 , -850	円形	76	72	16	185	67		
Ⅱ	487	040 , -838	円形	129	116	35	185	67	打斧 A。	
Ⅱ	488	042 , -836	長円形	118	92	23	185	68		
Ⅱ	489	039 , -832	円形	142	130	28	185	68	断面四角（浅）	⑦
Ⅱ	490	034 , -848	長円形	56	47	18	185	68		
Ⅱ	492	038 , -855	円形か	103	75	19	185	16		
Ⅱ	497	035 , -849	円形	53	47	27	185	68		
Ⅱ	498	035 , -848	長円形	53	42	25	185	68	フレイク。	
Ⅱ	499	033 , -850	円形	46	45	18	185	68		
Ⅱ	501	039 , -857	円形	36	33	17	185	68		
Ⅱ	502	039 , -856	円形	23	22	19	185	68		

区	№.	位　置	形 状	規　模 (cm)			図	PL	備　考　・　重　複	特　徴
				長径	短径	深度				
Ⅱ	503	039 , -837	長円形	115	82	20	185	68	スクレイパー。	
Ⅱ	504	037 , -868	円形	34	27	15	185	68		
Ⅱ	506	038 , -860	長円形	51	37	11	186	68		
Ⅱ	507	038 , -861	長円形	28	20	16	186	68		
Ⅱ	508	037 , -861	長円形	39	31	25	186	68		
Ⅱ	511	036 , -859	円形か	58	(47)	14	186	68	512 土坑に切られる。	
Ⅱ	512	036 , -859	長円形	131	97	34	186	68	511 土坑を切る。断面四角（浅）	⑦
Ⅱ	513	035 , -858	長円形	125	77	31	186	68	514 土坑に切られる。	
Ⅱ	514	035 , -858	長円形	30	25	31	186	68,69	513 土坑を切る。	
Ⅱ	515	033 , -858	円形	105	97	52	186	69	断面四角（深）	⑦
Ⅱ	516	033 , -859	円形	50	47	24	186	69	517 土坑を切る。	
Ⅱ	517	034 , -859	長円形	100	92	20	186	69	516 土坑に切られる。	
Ⅱ	518	037 , -850	不明	(60)	52	28	186	69	476 土坑に切られる。	
Ⅱ	519	033 , -848	長円形	152	140	19	186	69	リタッチドフレイク。	
Ⅱ	521	038 , -851	長円形か	75	54	27	186	16		
Ⅱ	522	031 , -852	長円形	107	56	27	186	69		
Ⅱ	524	031 , -850	長円形	64	54	15	186	69		
Ⅱ	525	030 , -850	円形	40	38	17	186	69		
Ⅱ	527	030 , -854	円形	45	40	7	186	69		
Ⅱ	528	030 , -855	円形	40	35	22	187	69		
Ⅱ	529	032 , -856	円形か	38	31	24	187	69	530 土坑を切る。	
Ⅱ	530	032 , -856	円形か	27	(22)	18	187	69	529 土坑にられる。	
Ⅱ	531	034 , -824	長円形	110	97	36	187	69	打斧 A。	
Ⅱ	533	037 , -834	円形	142	138	48	187	69	断面四角（浅）石器２点。	⑦
Ⅱ	534	038 , -836	長円形	190	170	37	187	69	852 土坑に切られる。断面四角（浅）リタッチドフレイク	⑦
Ⅱ	535	030 , -853	円形	43	41	24	187	70		
Ⅱ	536	051 , -877	長円形	43	35	43	187	70		
Ⅱ	537	031 , -856	円形	103	100	48	187	70	538 土坑に切られる。	
Ⅱ	538	031 , -857	長円形か	(37)	38	12	187	70	537 土坑を切る。	
Ⅱ	539	031 , -858	長円形	116	(48)	28	187	70	540 土坑に切られる。	
Ⅱ	540	030 , -858	長円形	176	117	42	187	70	539 土坑を切る。石器３点。	
Ⅱ	541	032 , -852	円形	41	35	12	187	70		
Ⅱ	542	031 , -853	円形	140	132	40	187	70	石器２点。	
Ⅱ	543	024 , -827	長円形	148	103	40	187	70	断面四角（浅）	⑦
Ⅱ	545	034 , -853	長円形	133	115	28	188	22,70	22 住 P-5 、23 住 P-1 に切られる 。	
Ⅱ	546	030 , -827	長円形	37	30	46	188	70	547 土坑に切られる。フレイク。	
Ⅱ	547	030 , -826	長円形	(82)	80	17	188	70	546 土坑を切る。	
Ⅱ	548	029 , -828	長円形	87	66	34	188	70	610 土坑を切る。	
Ⅱ	550	035 , -856	長円形	100	(57)	19	188	70	551 土坑と重複。（新旧不明）	
Ⅱ	551	034 , -856	長円形	(148)	130	21	188	70	550 土坑と重複。（新旧不明）	
Ⅱ	553	029 , -826	円形	44	43	51	188	70		
Ⅱ	554	041 , -842	長円形	130	112	41	188	70	埋甕。上面に礫（加ＥⅡ）	①④
Ⅱ	555	-	—	—	—	—	—	70	平面図なし。	
Ⅱ	556	-	—	—	—	22	188	70	平面図ないが遺物あり。557 土坑を切る。	⑩
Ⅱ	557	-	—	—	—	42	188	70	平面図なし。556 土坑に切られる。	
Ⅱ	559	-	—	—	—	39	188	—	平面図ないが遺物あり。	⑩
Ⅱ	560	-	—	—	—	—	—	70	平面図なし。	
Ⅱ	563	-	—	—	—	—	—	71	平面図なし。	
Ⅱ	564	025 , -836	長円形	105	87	43	188	71	リタッチドフレイク。	
Ⅱ	565	028 , -841	長円形	59	53	37	188	—		
Ⅱ	566	032 , -844	長円形	160	107	14	188	71	567 土坑を切る。	
Ⅱ	567	032 , -843	円形	104	(103)	9	188	71	566 土坑に切られる。フレイク。	
Ⅱ	568	-	—	—	—	—	—	70	平面図なし。	
Ⅱ	570	027 , -843	長円形か	62	—	36	189	71	571 土坑と重複。（新旧不明）	
Ⅱ	571	027 , -843	長円形か	80	—	28	189	71	570 土坑と重複。（新旧不明）	
Ⅱ	572	026 , -843	円形	41	(37)	23	189	71		
Ⅱ	573	034 , -842	円形	88	85	25	189	71	石器３点。	
Ⅱ	574	026 , -842	長円形	70	60	33	189	71		
Ⅱ	575	026 , -839	長円形	111	95	15	189	71	576 土坑と重複。（新旧不明）	
Ⅱ	576	027 , -839	長円形	48	36	28	189	71	575 土坑と重複。（新旧不明）	
Ⅱ	577	033 , -841	長円形	120	110	25	189	71	断面四角（浅）	⑦
Ⅱ	578	026 , -835	長円形	120	84	20	189	71	579 土坑を切る。	
Ⅱ	579	027 , -834	長円形	200	(140)	35	189	71	578、580 土坑に切られる。	
Ⅱ	580	026 , -834	長円形	(85)	74	34	189	71	579 土坑を切る。581 土坑に切られる。	
Ⅱ	581	026 , -833	長円形	(83)	(58)	16	189	71	580 土坑を切る。	
Ⅱ	582	028 , -840	長円形	44	35	39	189	71,72		
Ⅱ	583	028 , -839	長円形	140	115	37	189	71,72	584 土坑を切る。	
Ⅱ	584	027 , -838	長円形か	(65)	120	24	189	71,72	583 土坑に切られる。石器２点。	
Ⅱ	585	035 , -853	不整長円形	70	35	29	189	72		
Ⅱ	587	035 , -852	円形	35	32	15	189	—		
Ⅱ	588	025 , -837	長円形	54	40	22	189	72		
Ⅱ	589	026 , -848	円形か	(62)	(59)	34	190	72		
Ⅱ	590	025 , -841	長円形か	(95)	96	37	190	72	591 土坑に切られる。	
Ⅱ	591	026 , -840	長円形か	154	104	41	190	72	590 土坑を切る。石器２点。	

区	№.	位　置	形 状	規　模 (cm)			図	PL	備　考　・　重　複	特　徴
				長径	短径	深度				
Ⅱ	592	027 , -835	長円形	54	40	70	190	72	623 土坑を切る。礫多。断面四角（深）石器４点。	⑥⑦
Ⅱ	593	027 , -836	長円形	46	34	20	190	72		
Ⅱ	594	026 , -838	円形	49	44	28	190	72		
Ⅱ	595	027 , -837	長円形	45	31	21	190	72		
Ⅱ	596	026 , -836	長円形	48	38	24	190	72		
Ⅱ	597	034 , -827	円形	109	102	46	190	72	断面四角（深）	⑦
Ⅱ	598	032 , -831	長円形	138	112	45	190	24	断面四角（深）石器２点。	⑦
Ⅱ	600	026 , -832	長円形	78	67	54	190	72		
Ⅱ	601	028 , -832	長円形	(60)	52	23	191	73	602 土坑を切る。	
Ⅱ	602	027 , -831	円形	(118)	115	24	191	73	601 土坑に切られる。断面四角（浅）	⑦
Ⅱ	603	029 , -834	長円形か	(74)	75	13	191	37	604 土坑に切られる。多孔石。	
Ⅱ	604	028 , -833	円形	118	108	88	191	37	603 土坑、625 土坑、33 住居、50 住 P-7 を切る。断面四角（深）石器２点。	⑦
Ⅱ	606	030 , -828	円形	85	78	15	190	73	697 土坑を切る。	
Ⅱ	607	031 , -827	長円形	60	47	17	190	73	上面に礫。	④
Ⅱ	608	032 , -827	長円形	55	42	14	190	73		
Ⅱ	610	029 , -827	長円形か	(47)	40	27	188	73	548 土坑に切られる。	
Ⅱ	611	030 , -827	長円形	53	40	10	191	73		
Ⅱ	613	032 , -832	長円形	52	33	22	191	31	33 住 P-7 に切られる。	
Ⅱ	615	028 , -827	長円形か	(44)	60	26	191	73		
Ⅱ	616	033 , -825	不整長円形	55	40	23	191	73		
Ⅱ	620	030 , -830	円形	50	47	35	191	73		
Ⅱ	621	031 , -831	長円形	54	43	15	191	73		
Ⅱ	622	031 , -832	長円形	51	30	32	191	73	磨斧。	
Ⅱ	623	027 , -835	長円形か	(18)	30	35	191	73	592 土坑に切られる。	
Ⅱ	625	028 , -833	長円形か	(38)	43	31	191	73	604 土坑、50 住居の P-7 に切られる。	
Ⅱ	626	034 , -828	長円形	50	44	26	191	73		
Ⅱ	628	033 , -828	円形	32	30	31	191	73		
Ⅱ	630	029 , -831	長円形	108	85	25	191	－	平面図ないが遺物あり。石器２点。	⑩
Ⅱ	631	030 , -831	円形	41	38	19	191	73		
Ⅱ	632	031 , -832	長円形	104	94	52	192	73		
Ⅱ	633	032 , -837	長円形	190	160	45	192	73	ドリル。	
Ⅱ	634	035 , -833	長方形	253	130	30	192	74	656 土坑に切られる。埋甕２個。（堀之内１）	①
Ⅱ	635	029 , -836	長円形	144	113	38	192	19	636 土坑を切る。	
Ⅱ	636	030 , -836	円形か	125	(91)	55	192	19	635、637 土坑に切られる。	
Ⅱ	637	031 , -836	長円形	120	98	52	192	19	636 土坑を切る。断面四角（深）フレイク。	⑦
Ⅱ	638	031 , -834	円形	100	96	129	192	19		
Ⅱ	640	-	－	－	－	34	192	74	平面図ないが遺物あり。	⑩
Ⅱ	641	-	－	－	－	18	192	74	平面図ないが遺物あり。642 土坑を切る。	⑩
Ⅱ	642	-	－	－	－	9	192	74	平面図ないが遺物あり。641 土坑に切られる。	⑩
Ⅱ	645	036 , -833	長円形	84	69	32	192	24		
Ⅱ	646	033 , -834	円形か	52	(42)	26	192	74	647 土坑に切られる。19 住 P-2 を切る。石器２点。	
Ⅱ	647	033 , -833	円形か	42	40	28	192	74	646 土坑、19 住 P-2 を切る。	
Ⅱ	651	033 , -862	長円形	40	30	61	192	74		
Ⅱ	652	032 , -862	長円形	48	40	21	192	74	石鏃。	
Ⅱ	653	033 , -862	長円形	53	35	36	192	74		
Ⅱ	655	035 , -835	長円形	62	38	45	192	20		
Ⅱ	656	035 , -834	長円形	56	50	46	193	74	634 土坑を切る。	
Ⅱ	659	034 , -836	長円形	(44)	34	46	193	20	19 住 P-9 に切られる。	
Ⅱ	660	032 , -833	円形	48	43	22	193	74		
Ⅱ	663	034 , -837	長円形	38	29	17	193	74		
Ⅱ	664	032 , -864	長円形	35	28	11	193	74	埋甕。（加ＥⅢ）	①
Ⅱ	669	029 , -834	円形	25	24	12	193	74		
Ⅱ	670	031 , -841	長円形か	216	134	32	193	74	728 土坑を切る。石器２点。	
Ⅱ	671	030 , -841	長円形	40	32	24	193	75	礫石器。	
Ⅱ	672	032 , -864	長円形	40	33	41	193	74	石器２点。	
Ⅱ	673	032 , -864	長円形	40	33	33	193	74		
Ⅱ	674	031 , -842	不整円形	62	59	21	193	75		
Ⅱ	675	035 , -831	長円形	87	72	36	193	75		
Ⅱ	677	037 , -829	不整円形か	(148)	138	26	193	24	678、860 土坑を切る。断面四角（浅）	⑦
Ⅱ	678	038 , -829	円形か	(30)	90	20	193	24	677 土坑に切られる。	
Ⅱ	682	032 , -835	円形	33	31	26	193	75	炭化物・焼土粒を少量含む。	③
Ⅱ	684	022 , -844	不整長円形	(145)	100	32	194	75	687 土坑に切られる。石器２点。	
Ⅱ	687	022 , -843	長円形	(245)	(135)	65	194	75	684、704 土坑を切る。礫石器。	
Ⅱ	688	021 , -842	長円形	88	66	39	194	－		
Ⅱ	689	025 , -841	長円形か	(152)	75	53	194	75		
Ⅱ	690	021 , -840	長円形	65	52	44	194	75		
Ⅱ	692	030 , -831	長円形	29	22	23	194	36		
Ⅱ	696	031 , -829	長円形	53	40	48	194	75		
Ⅱ	697	030 , -828	長円形	53	38	34	194	75	606 土坑に切られる。炭化物を含む。	③
Ⅱ	700	029 , -829	円形	42	40	18	194	75		
Ⅱ	701	028 , -835	長円形か	53	40	22	194	75	702 土坑を切る。炭化物を少量含む。	③
Ⅱ	702	028 , -835	長円形	(52)	58	22	194	75	701 土坑に切られる。	
Ⅱ	703	025 , -844	長円形か	105	(95)	18	194	75		
Ⅱ	704	023 , -842	長円形	(280)	(128)	77	194	75	687 土坑（新旧不明）　炭化物を少量含む。	③

区	№.	位　置	形 状	規　模 (cm)			図	PL	備　考　・　重　複	特　徴
				長径	短径	深度				
Ⅱ	705	033 , -834	円形か	63	(50)	50	195	76	706 土坑を切る。708 土坑と重複。（新旧不明）	
Ⅱ	706	032 , -834	長円形か	(62)	45	34	195	76	705 土坑に切られる。	
Ⅱ	707	033 , -836	円形か	106	102	33	195	76	708 土坑を切る。	
Ⅱ	708	033 , -835	長円形か	(72)	63	29	195	76	707 土坑に切られる。705 土坑と重複。（新旧不明）	
Ⅱ	709	033 , -822	長円形	54	45	26	194	76		
Ⅱ	710	032 , -822	長円形	33	25	20	194	76		
Ⅱ	711	030 , -823	長円形	83	70	35	195	76		
Ⅱ	712	028 , -822	長円形	51	42	23	195	76	729 土坑を切る。	
Ⅱ	715	027 , -833	長円形	37	28	20	195	76		
Ⅱ	716	026 , -833	長円形	35	27	35	195	76		
Ⅱ	717	026 , -833	長円形	41	29	28	195	76		
Ⅱ	718	034 , -838	円形	45	44	23	195	76	リタッチドフレイク。	
Ⅱ	719	032 , -839	長円形	73	64	23	195	76	石器４点。	
Ⅱ	720	-	－	－	－	－	－	76	平面図なし。	
Ⅱ	721	031 , -818	長円形	155	110	20	195	76	埋甕２個。（ともに堀之内１）石器５点。	①
Ⅱ	723	030 , -830	円形	32	30	13	195	76		
Ⅱ	724	032 , -815	長円形	61	53	26	195	76	725 土坑を切る。	
Ⅱ	725	032 , -815	円形	50	(45)	23	195	76	724 土坑に切られる。	
Ⅱ	726	030 , -818	円形	66	64	13	195	77	石器２点。	
Ⅱ	728	032 , -840	不明	(85)	95	(29)	193	－	670 土坑に切られる。	
Ⅱ	729	028 , -822	長円形	88	73	22	195	77	712 土坑に切られる。伏甕。（加ＥⅠ）	①
Ⅱ	730	027 , -819	長円形	163	90	33	196	77	石器３点。	
Ⅱ	737	032 , -819	長円形	72	58	16	196	77		
Ⅱ	738	033 , -819	円形	65	62	25	196	77		
Ⅱ	739	033 , -821	円形	29	26	32	196	77		
Ⅱ	740	029 , -818	長円形か	67	(37)	27	196	77	22 配石に切られる。	
Ⅱ	741	028 , -818	長円形	42	28	19	196	77		
Ⅱ	742	028 , -818	不整長円形	76	46	56	196	77		
Ⅱ	743	019 , -826	長円形	135	82	35	196	77		
Ⅱ	744	018 , -825	長円形	(60)	55	15	196	77	746 土坑を切る。	
Ⅱ	745	020 , -824	円形	45	40	32	196	77		
Ⅱ	746	017 , -825	長円形	155	95	22	196	77	747 土坑と重複（新旧不明）。ドリル。	
Ⅱ	747	018 , -825	長円形	49	45	13	196	77	746 土坑と重複（新旧不明）。	
Ⅱ	748	019 , -824	長円形	248	146	52	196	77	745 土坑に切られる。749 土坑を切る。横甕。（加ＥⅡ）	①
Ⅱ	749	021 , -823	長円形か	(104)	91	125	196	77	748 土坑に切られる。	
Ⅱ	852	038 , -835	長円形	72	47	25	187	－	534 土坑を切る。	
Ⅱ	855	014 , -839	長円形	60	47	25	196	－		
Ⅱ	856	025 , -855	長円形	33	27	23	196	－		
Ⅱ	857	010 , -884	円形か	－	(97)	18	161	－	10、11 号土坑に切られる。	
Ⅱ	858	027 , -878	長円形	167	68	18	165	－	62 土坑に切られる。	
Ⅱ	860	037 , -830	不整円形	(70)	68	18	193	－	677 土坑に切られる。	
Ⅱ	861	031 , -825	円形	(25)	22	5	196	－	29 住 -P4 に切られる。	
Ⅱ	862	013 , -842	円形	48	51	9	196	－		
Ⅱ	863	008 , -872	長円形	54	37	－	196	－		
Ⅱ	864	007 , -868	円形	72	62	－	196	－		

第１分冊　Ⅰ区　1 ～ 13、36 ～ 57、95

Ⅱ区　1、325 ～ 338、340 ～ 355、374 ～ 384、391 ～ 395、398、399、406、436 ～ 439、442 ～ 450、460 ～ 465、469、477 ～ 479、494、495

側　道　2区　750 ～ 851

欠　番　Ⅰ区　20、28、29

Ⅱ区　2、7、12、22、34、45、46、66、74、75、86、88、100、104、105、109、111、120、122、126、127、138、139、142、183、184、200、205、222、225、226、228、242、243、244、250、257、266、269、303、309、310、311、313、318、322、323、386、388、390、396、405、418、430、434、452 ～ 454、459、466、468、473、480、483、484、486、491、493、496、500、505、509、510、520、523、526、532、544、549、552、558、561 ～ 563、569、586、599、605、609、612、614、617 ～ 619、624、627、629、639、643、644、648 ～ 650、654、657、658、661、662、665 ～ 668、676、679 ～ 681、683、685、686、691、693 ～ 695、698、699、713、714、722、727、731 ～ 736、853、854、859

表５　柱穴計測表

区	№.	位置			形 状	規 模 (cm)		
						長径	短径	深度
Ⅱ	1	007	,	-874	円形	55	－	50
Ⅱ	2	008	,	-873	円形	50	－	55
Ⅱ	3	011	,	-884	円形か	45	－	25
Ⅱ	6	013	,	-883	不整円形	40	－	45
Ⅱ	7	010	,	-877	方形か	50	－	30
Ⅱ	10	010	,	-884	円形	25	－	30
Ⅱ	14	025	,	-877	円形	35	－	35
Ⅱ	18	025	,	-876	長円形	50	40	25
Ⅱ	19	025	,	-877	長円形か	60	50	10
Ⅱ	22	028	,	-837	円形	30	－	25
Ⅱ	24	018	,	-876	円形	40	－	25
Ⅱ	25	018	,	-875	長円形か	40	30	20
Ⅱ	26	016	,	-874	円形	45	－	35
Ⅱ	27	017	,	-874	円形	35	－	30
Ⅱ	28	019	,	-874	円形	45	－	20
Ⅱ	29	019	,	-874	円形	45	－	35
Ⅱ	30	016	,	-873	不整円形	50	－	55
Ⅱ	31	016	,	-876	円形	40	－	25
Ⅱ	32	016	,	-877	円形	45	－	60
Ⅱ	33	025	,	-850	円形か	35	－	30
Ⅱ	35	030	,	-875	円形	55	－	25
Ⅱ	40	030	,	-870	長円形	35	30	20
Ⅱ	42	031	,	-874	長円形	45	35	20
Ⅱ	43	028	,	-874	長円形	45	35	20
Ⅱ	45	030	,	-866	不整円形	45	－	20
Ⅱ	46	025	,	-867	不整円形	60	－	25
Ⅱ	47	028	,	-866	円形	40	－	25
Ⅱ	50	029	,	-866	不整円形	45	－	30
Ⅱ	52	027	,	-869	長円形	45	35	30
Ⅱ	53	024	,	-868	円形	45	－	25
Ⅱ	56	020	,	-868	円形か	70	－	65
Ⅱ	59	017	,	-859	不整円形か	65	－	30
Ⅱ	60	011	,	-859	長円形	55	40	15
Ⅱ	61	007	,	-852	円形	50	－	30
Ⅱ	62	023	,	-859	長円形	40	30	45
Ⅱ	63	023	,	-859	長円形か	40	20	35
Ⅱ	64	023	,	-859	長円形	40	35	35
Ⅱ	65	025	,	-864	長円形	70	55	30
Ⅱ	66	021	,	-859	長円形	30	25	20
Ⅱ	67	020	,	-858	長円形	50	35	40
Ⅱ	68	022	,	-855	円形	40	－	30
Ⅱ	69	031	,	-850	長円形	60	50	30
Ⅱ	70	016	,	-860	長円形	45	40	35
Ⅱ	72	025	,	-867	不整円形	50	－	20
Ⅱ	73	023	,	-866	不整円形	60	－	30

欠番　4、5、8、9、11～13、15～17、20、21、23、34、36～39、41、44、48、49、51、54、55、57、58、71

表６　住居柱穴・住居内土坑計測表

区	住 居 名	柱穴№.	形 状	規 模 (cm)		
				長径	短径	深度
Ⅰ	1 号住	1	円形	27	－	16
Ⅰ	1 号住	2	円形	39	－	19
Ⅰ	1 号住	3	円形	25	－	17
Ⅰ	1 号住	4	円形	37	－	18
Ⅰ	1 号住	5	円形	30	－	10
Ⅰ	1 号住	6	円形	27	－	14
Ⅰ	1 号住	7	長円形	36	30	16
Ⅰ	1 号住	8	円形	38	－	17
Ⅰ	1 号住	9	円形	33	－	19
Ⅰ	1 号住	10	円形	36	－	12
Ⅰ	1 号住	11	円形	35	－	18
Ⅰ	1 号住	12	円形	30	－	16
Ⅰ	1 号住	13	円形	31	－	18
Ⅰ	1 号住	14	長円形か	84	(50)	21
Ⅰ	1 号住	15	円形か	70	－	13
Ⅰ	2 号住	1	円形	33	－	26
Ⅰ	2 号住	2	円形	34	－	13
Ⅰ	2 号住	3	円形	27	－	10
Ⅰ	2 号住	4	円形	29	－	15
Ⅰ	2 号住	5	円形	30	－	25
Ⅰ	2 号住	6	長円形	43	34	18
Ⅰ	2 号住	7	円形	31	－	12
Ⅰ	2 号住	8	円形	35	－	10
Ⅰ	2 号住	9	円形	35	－	11
Ⅰ	2 号住	10	円形	30	－	12
Ⅰ	2 号住	11	円形	34	－	23
Ⅰ	2 号住	12	円形	36	－	25
Ⅰ	2 号住	13	長円形	27	23	24
Ⅰ	3 号住	1	円形	28	－	23
Ⅰ	3 号住	2	円形	30	－	33
Ⅰ	3 号住	3	円形	33	－	32
Ⅰ	3 号住	4	円形	29	－	32
Ⅰ	3 号住	5	円形	38	－	24
Ⅰ	3 号住	6	円形	39	－	32
Ⅰ	3 号住	7	円形	29	－	25
Ⅰ	3 号住	8	円形	28	－	28
Ⅰ	3 号住	9	円形	29	－	27
Ⅰ	3 号住	10	円形	32	－	33
Ⅰ	3 号住	11	円形	27	－	22
Ⅰ	3 号住	12	円形	24	－	21
Ⅰ	3 号住	13	円形	30	－	28
Ⅰ	4 号住	1	円形	47	－	23
Ⅰ	4 号住	2	円形	40	－	28
Ⅰ	4 号住	3	長円形	65	56	27
Ⅰ	4 号住	4	円形	55	－	23
Ⅰ	4 号住	5	長円形	52	47	28
Ⅰ	4 号住	6	円形	49	－	31
Ⅰ	5 号住	1	円形	43	－	22
Ⅰ	5 号住	2	長円形	36	30	28
Ⅰ	5 号住	3	円形	40	－	27
Ⅰ	5 号住	4	円形	61	－	25
Ⅰ	5 号住	5	長円形	50	43	22
Ⅰ	5 号住	6	円形	37	－	22
Ⅰ	5 号住	7	円形	39	－	20
Ⅰ	5 号住	8	長円形	45	35	40
Ⅰ	7 号住	1	円形か	45	－	34
Ⅰ	7 号住	2	長円形	47	43	38
Ⅰ	7 号住	3	長円形	50	45	29
Ⅰ	7 号住	4	長円形	43	40	36
Ⅰ	7 号住	5	長円形	45	39	44
Ⅰ	7 号住	6	円形	45	－	37
Ⅰ	7 号住	7	円形	44	－	34
Ⅰ	7 号住	8	長円形	50	38	35
Ⅰ	7 号住	9	長円形	52	43	42
Ⅰ	7 号住	10	円形か	43	－	27
Ⅰ	8 号住	1	長円形	45	38	28
Ⅰ	8 号住	2	長円形	67	54	16
Ⅰ	8 号住	3	長円形	49	43	15
Ⅰ	8 号住	4	円形	51	－	20
Ⅰ	8 号住	5	長円形	54	46	21
Ⅰ	8 号住	6	円形	50	－	14
Ⅰ	8 号住	7	円形	42	－	18
Ⅰ	8 号住	8	円形	55	－	18
Ⅰ	8 号住	9	円形	45	－	17
Ⅰ	8 号住	10	円形	45	－	25
Ⅰ	8 号住	11	円形	44	－	21
Ⅰ	8 号住	12	長円形	70	54	10
Ⅰ	8 号住	13	長円形	55	49	20
Ⅰ	8 号住	14	方形	42	－	35
Ⅰ	8 号住	15	方形	54	－	31
Ⅰ	9 号住	1	円形	44	－	32
Ⅰ	9 号住	2	長円形	48	45	40
Ⅰ	9 号住	3	長円形	51	44	45
Ⅰ	9 号住	4	長円形	45	40	41
Ⅰ	9 号住	5	長円形	48	41	26
Ⅰ	9 号住	6	円形	45	－	27
Ⅰ	9 号住	7	長円形	45	38	28
Ⅰ	9 号住	8	円形	43	－	31
Ⅰ	9 号住	9	長方形	45	38	27
Ⅰ	9 号住	10	円形	45	－	25
Ⅰ	9 号住	11	長円形	50	45	21
Ⅰ	13 号住	1	円形	65	－	17
Ⅰ	13 号住	2	円形	60	－	11
Ⅰ	13 号住	3	長円形	55	45	14
Ⅰ	13 号住	4	円形	43	－	16
Ⅰ	13 号住	5	長円形	45	35	15

区	住居名	柱穴№	形状	規模 (cm)		
				長径	短径	深度
Ⅰ	13号住	6	長円形	41	34	15
Ⅰ	13号住	7	円形	33	－	15
Ⅰ	13号住	8	長円形	49	40	16
Ⅰ	13号住	9	長円形	40	30	19
Ⅰ	13号住	10	円形か	27	－	6
Ⅰ	13号住	11	長円形	40	30	21
Ⅰ	13号住	12	円形	27	－	18
Ⅰ	13号住	13	円形	35	－	－
Ⅰ	14号住	1	円形	36	－	11
Ⅰ	14号住	2	長円形	48	44	20
Ⅰ	14号住	3	長円形	35	29	19
Ⅰ	14号住	4	長円形	45	39	10
Ⅰ	14号住	5	長円形	60	54	20
Ⅰ	14号住	6	長円形	103	78	14
Ⅰ	14号住	7	方形	50	47	12
Ⅰ	14号住	8	長円形	42	37	14
Ⅰ	14号住	9	長円形か	(60)	40	15
Ⅰ	14号住	10	長円形	59	45	18
Ⅰ	14号住	11	長円形	29	25	11
Ⅰ	14号住	12	円形	54	－	25
Ⅰ	14号住	13	長円形	49	43	16
Ⅰ	14号住	14	方形	32	－	12
Ⅰ	14号住	15	長方形	70	55	13
Ⅰ	14号住	16	長円形	60	46	9
Ⅰ	14号住	17	長円形	49	44	12
Ⅰ	14号住	18	長円形	55	50	22
Ⅱ	2号住	1	円形	30	－	10
Ⅱ	2号住	2	円形	35	－	20
Ⅱ	2号住	3	円形	35	－	20
Ⅱ	2号住	4	長円形	40	35	25
Ⅱ	3号住	1	長円形	45	40	30
Ⅱ	3号住	2	円形	40	－	15
Ⅱ	3号住	3	不整円形	70	－	30
Ⅱ	3号住	4	不整長円形	50	40	20
Ⅱ	3号住	5	長円形	50	45	20
Ⅱ	3号住	6	円形か	45	－	35
Ⅱ	3号住	7	円形	50	－	45
Ⅱ	3号住	8	不整形か	40	30	30
Ⅱ	3号住	9	不整形か	55	45	35
Ⅱ	3号住	10	不整形か	50	45	30
Ⅱ	3号住	11	長円形か	50	－	25
Ⅱ	3号住	12	円形か	55	－	15
Ⅱ	3号住	13	円形	70	－	20
Ⅱ	3号住	14	長円形	60	50	30
Ⅱ	3号住	15	長円形	65	(60)	20
Ⅱ	3号住	16	長円形	55	50	20
Ⅱ	3号住	17	円形	40	－	20
Ⅱ	3号住	18	長円形	55	40	20
Ⅱ	3号住	19	不整円形か	55	－	20
Ⅱ	3号住	20	不整円形か	90	－	20
Ⅱ	3号住	21	長円形	60	35	30
Ⅱ	3号住	22	円形か	(35)	(30)	45
Ⅱ	3号住	23	不整方形	40	－	25
Ⅱ	3号住	24	円形	40	－	15
Ⅱ	3号住	25	長円形	70	55	60
Ⅱ	3号住	26	円形	60	－	35
Ⅱ	3号住	27	長円形	100	80	50
Ⅱ	3号住	28	円形	65	－	25
Ⅱ	4号住	1	長円形	45	40	30
Ⅱ	4号住	2	長円形	35	25	30
Ⅱ	5号住	1	円形	35	－	20
Ⅱ	5号住	2	円形	35	－	25
Ⅱ	5号住	3	円形	27	－	10
Ⅱ	5号住	4	円形	43	－	10
Ⅱ	5号住	5	円形	30	－	8
Ⅱ	5号住	6	円形	53	－	30
Ⅱ	5号住	7	円形	45	－	45
Ⅱ	5号住	8	円形	40	－	40
Ⅱ	5号住	9	円形	42	－	25
Ⅱ	6号住	1	長円形	35	30	25
Ⅱ	6号住	2	不整円形	40	－	35
Ⅱ	6号住	3	円形	40	－	40
Ⅱ	6号住	4	不整形か	(55)	(40)	20
Ⅱ	6号住	5	不整形か	(70)	(45)	30
Ⅱ	6号住	6	不整円形か	65	－	35
Ⅱ	6号住	7	不整方形	65	－	10

区	住居名	柱穴№	形状	規模 (cm)		
				長径	短径	深度
Ⅱ	6号住	8	長円形	45	35	20
Ⅱ	6号住	9	円形	45	－	10
Ⅱ	6号住	10	長円形か	50	45	5
Ⅱ	6号住	11	方形	(60)	－	25
Ⅱ	6号住	12	不整長円形	75	70	30
Ⅱ	6号住	13	長円形	(65)	(45)	24
Ⅱ	6号住	14	円形	60	－	20
Ⅱ	6号住	15	長円形	50	45	15
Ⅱ	6号住	16	不整長円形か	60	(40)	18
Ⅱ	6号住	17	不整長円形か	40	－	45
Ⅱ	6号住	18	長円形	45	35	15
Ⅱ	6号住	19	円形	35	－	10
Ⅱ	6号住	20	長円形	60	50	10
Ⅱ	6号住	21	長円形	95	65	25
Ⅱ	6号住	22	不整円形	55	－	15
Ⅱ	6号住	23	不整長方形か	(80)	(70)	20
Ⅱ	6号住	24	不整方形か	(80)	(75)	20
Ⅱ	6号住	25	不整形か	(40)	－	10
Ⅱ	6号住	26	不整円形	55	50	15
Ⅱ	7号住	1	円形	35	－	15
Ⅱ	7号住	2	円形	40	－	20
Ⅱ	7号住	3	長円形	45	40	24
Ⅱ	7号住	4	長円形	77	48	30
Ⅱ	7号住	5	円形	42	40	25
Ⅱ	9号住	1	長円形	40	30	50
Ⅱ	9号住	2	円形	40	－	45
Ⅱ	9号住	3	円形	55	－	15
Ⅱ	9号住	4	円形	60	－	20
Ⅱ	9号住	5	円形	30	－	15
Ⅱ	9号住	6	長円形	60	45	20
Ⅱ	9号住	7	円形	45	－	15
Ⅱ	10号住	1	円形か	50	－	30
Ⅱ	10号住	2	不整形	(55)	－	15
Ⅱ	10号住	3	不整形	(73)	－	15
Ⅱ	10号住	4	長方形	85	50	20
Ⅱ	10号住	5	方形か	75	－	35
Ⅱ	10号住	6	円形	40	－	15
Ⅱ	10号住	7	長円形	35	25	15
Ⅱ	10号住	8	円形	30	－	40
Ⅱ	10号住	9	不整形	(70)	－	15
Ⅱ	10号住	10	円形か	50	－	20
Ⅱ	10号住	11	円形	35	－	15
Ⅱ	10号住	12	円形	40	－	20
Ⅱ	10号住	13	円形か	50	－	15
Ⅱ	10号住	14	長円形	30	20	10
Ⅱ	15号住	1	長方形	60	50	30
Ⅱ	15号住	2	長方形	55	45	50
Ⅱ	15号住	3	円形	50	－	20
Ⅱ	15号住	4	長円形	60	50	20
Ⅱ	15号住	5	長円形	55	45	25
Ⅱ	16号住	1	長円形	53	37	17
Ⅱ	16号住	2	長円形	60	38	17
Ⅱ	16号住	3	長円形か	－	50	25
Ⅱ	16号住	4	円形か	50	－	20
Ⅱ	16号住	5	長円形か	(85)	74	24
Ⅱ	17号住	1	長円形	61	45	16
Ⅱ	17号住	2	長円形	48	39	14
Ⅱ	17号住	3	円形	46	-	17
Ⅱ	18号住	1	長円形	49	38	21
Ⅱ	18号住	2	円形	43	39	25
Ⅱ	18号住	3	長円形	50	40	22
Ⅱ	18号住	4	円形	32	24	－
Ⅱ	19号住	1	長円形	57	50	32
Ⅱ	19号住	2	長円形	44	(31)	28
Ⅱ	19号住	3	長円形	50	42	43
Ⅱ	19号住	4	長円形か	－	－	54
Ⅱ	19号住	5	長方形か	47	42	7
Ⅱ	19号住	6	長円形か	(46)	41	23
Ⅱ	19号住	7	長円形	54	45	38
Ⅱ	19号住	8	円形	42	41	46
Ⅱ	19号住	9	長円形	48	(32)	35
Ⅱ	22号住	1	円形	40	-	17
Ⅱ	22号住	2	長円形	48	42	11
Ⅱ	22号住	3	長円形	56	40	17
Ⅱ	22号住	4	不明	(45)	56	(23)
Ⅱ	22号住	5	不明	56	28	27

区	住居名	柱穴№	形状	規模 (cm)		
				長径	短径	深度
Ⅱ	22 号住	6	長円形か	60	—	33
Ⅱ	23 号住	1	長円形	70	56	23
Ⅱ	23 号住	2	長円形	52	45	18
Ⅱ	23 号住	3	円形	52	50	19
Ⅱ	23 号住	4	円形	35	—	22
Ⅱ	23 号住	5	円形	37	—	19
Ⅱ	23 号住	6	長円形	55	30	32
Ⅱ	25 号住	1	長円形	46	40	19
Ⅱ	25 号住	2	長円形か	(20)	50	34
Ⅱ	25 号住	3	長円形か	(20)	27	38
Ⅱ	25 号住	4	長円形	70	45	35
Ⅱ	25 号住	5	長円形	66	45	28
Ⅱ	25 号住	6	長円形	64	56	20
Ⅱ	26 号住	1	円形	40	—	12
Ⅱ	26 号住	2	円形	40	—	15
Ⅱ	26 号住	3	円形	40	—	15
Ⅱ	26 号住	4	長方形か	55	50	22
Ⅱ	26 号住	5	円形か	47	—	30
Ⅱ	26 号住	6	長円形	55	50	20
Ⅱ	27 号住	1	円形か	42	—	47
Ⅱ	27 号住	2	円形	46	—	29
Ⅱ	27 号住	3	円形	48	—	41
Ⅱ	28 号住	1	方形	42	—	47
Ⅱ	28 号住	2	不整形	(40)	—	15
Ⅱ	28 号住	3	不整形	(32)	—	20
Ⅱ	28 号住	4	不整形	(32)	(25)	27
Ⅱ	28 号住	5	不整形	(40)	—	15
Ⅱ	28 号住	6	方形	30	—	20
Ⅱ	28 号住	7	長円形	45	33	30
Ⅱ	28 号住	8	円形	32	—	22
Ⅱ	28 号住	9	不整形	(27)	—	11
Ⅱ	28 号住	10	長円形	60	50	20
Ⅱ	28 号住	11	長円形か	42	35	18
Ⅱ	28 号住	12	長円形か	37	30	15
Ⅱ	28 号住	13	方形か	45	—	10
Ⅱ	28 号住	14	方形	35	—	13
Ⅱ	28 号住	15	円形	32	—	25
Ⅱ	28 号住	16	長方形	32	27	10
Ⅱ	28 号住	17	長円形	30	25	18
Ⅱ	28 号住	18	長方形	45	40	12
Ⅱ	28 号住	19	長円形	37	32	8
Ⅱ	28 号住	20	円形	22	—	10
Ⅱ	28 号住	21	長円形	30	25	15
Ⅱ	28 号住	22	円形	45	—	17
Ⅱ	28 号住	23	方形	45	—	20
Ⅱ	28 号住	24	長円形	55	45	38
Ⅱ	29 号住	1	長円形か	47	42	39
Ⅱ	29 号住	2	長円形	53	40	37
Ⅱ	29 号住	3	円形	54	52	55
Ⅱ	29 号住	4	長円形	52	36	48
Ⅱ	29 号住	5	長円形	50	35	51
Ⅱ	29 号住	6	円形	40	—	56
Ⅱ	29 号住	7	長円形	42	30	23
Ⅱ	29 号住	8	長円形	30	24	32
Ⅱ	29 号住	9	長円形	42	35	25
Ⅱ	29 号住	10	長円形	60	(43)	46
Ⅱ	30 号住	1	長円形	40	30	40
Ⅱ	30 号住	2	長円形	65	52	38
Ⅱ	30 号住	3	不整長円形	75	60	43
Ⅱ	30 号住	4	円形か	37	—	31
Ⅱ	30 号住	5	長円形か	68	50	61
Ⅱ	30 号住	1 土坑	長円形	59	51	17
Ⅱ	30 号住	2 土坑	長円形	64	51	24
Ⅱ	30 号住	3 土坑	円形	35	—	51
Ⅱ	30 号住	4 土坑	円形	34	—	14
Ⅱ	30 号住	5 土坑	長円形	57	45	38
Ⅱ	30 号住	6 土坑	長円形	35	27	28
Ⅱ	30 号住	7 土坑	円形	47	—	39
Ⅱ	30 号住	8 土坑	長円形	70	50	36
Ⅱ	32 号住	1	円形	48	44	21
Ⅱ	32 号住	2	円形	36	34	23
Ⅱ	32 号住	3	円形	33	—	43
Ⅱ	32 号住	4	長円形	42	31	12
Ⅱ	32 号住	5	長円形か	(46)	43	23
Ⅱ	32 号住	6	長円形	58	49	45
Ⅱ	33 号住	1	円形	31	—	25

区	住居名	柱穴№	形状	規模 (cm)		
				長径	短径	深度
Ⅱ	33 号住	2	円形	49	46	12
Ⅱ	33 号住	3	長円形か	33?	25	20
Ⅱ	33 号住	4	円形	40	36	33
Ⅱ	33 号住	5	長円形	48	38	47
Ⅱ	33 号住	6	長円形	50	45	44
Ⅱ	33 号住	7	長円形	47	36	33
Ⅱ	44 号住	1	長円形	48	32	20
Ⅱ	44 号住	2	長円形	63	49	22
Ⅱ	44 号住	3	長円形	67	52	40
Ⅱ	45 号住	1	長方形	42	35	20
Ⅱ	45 号住	2	長方形	44	34	10
Ⅱ	45 号住	3	円形	65	—	39
Ⅱ	46 号住	1	長円形	50	45	34
Ⅱ	46 号住	2	円形か	—	—	30
Ⅱ	46 号住	3	長円形	64	55	28
Ⅱ	46 号住	4	長円形か	60	56	10
Ⅱ	46 号住	5	長円形	60	50	25
Ⅱ	46 号住	6	長円形	50	35	53
Ⅱ	47 号住	1	長円形か	50	40	10
Ⅱ	47 号住	2	円形か	45	—	25
Ⅱ	47 号住	3	円形	35	—	20
Ⅱ	47 号住	4	方形	43	—	30
Ⅱ	47 号住	5	長方形	55	45	20
Ⅱ	47 号住	6	長円形	62	55	39
Ⅱ	47 号住	7	長円形	67	55	50
Ⅱ	47 号住	8	長方形	52	35	10
Ⅱ	47 号住	9	不明	—	53	29
Ⅱ	48 号住	1	円形か	67	67	44
Ⅱ	48 号住	2	長円形	78	47	42
Ⅱ	48 号住	3	長円形か	—	60	53
Ⅱ	48 号住	4	長円形	80	60	47
Ⅱ	48 号住	5	円形	60	—	42
Ⅱ	48 号住	6	長円形	80	65	56
Ⅱ	48 号住	7	不整円形	65	—	64
Ⅱ	48 号住	8	長円形	87	65	60
Ⅱ	48 号住	9	長円形	105	78	47
Ⅱ	49 号住	1	不整長円形か	76	64	61
Ⅱ	49 号住	2	長円形	75	59	44
Ⅱ	49 号住	3	長円形	75	55	38
Ⅱ	49 号住	4	不整長円形か	112	100	48
Ⅱ	49 号住	5	長円形	95	70	50
Ⅱ	49 号住	6	長円形	87	70	53
Ⅱ	49 号住	7	長円形	62	48	65
Ⅱ	49 号住	8	長円形	88	72	60
Ⅱ	50 号住	1	長円形	55	30	39
Ⅱ	50 号住	2	長円形	48	39	45
Ⅱ	50 号住	3	長円形	50	44	32
Ⅱ	50 号住	4	長円形	41	36	22
Ⅱ	50 号住	5	長円形	42	38	14
Ⅱ	50 号住	6	長円形	49	(30)	17
Ⅱ	50 号住	7	長円形か	(35)	40	33
Ⅱ	50 号住	8	長円形	49	37	29
Ⅱ	50 号住	9	長円形	25	21	23
Ⅱ	51 号住	1	不整長円形	243	90	40
Ⅱ	51 号住	2	長円形	53	48	42
Ⅱ	51 号住	3	長方形	40	35	10
Ⅱ	52 号住	1	長円形	80	55	23
Ⅱ	52 号住	2	長円形	62	48	22
Ⅱ	52 号住	3	長円形	(57)	(52)	17
Ⅱ	52 号住	4	長円形か	(75)	50	32
Ⅱ	52 号住	5	長円形	60	55	23
Ⅱ	54 号住	1	長円形	85	76	30
Ⅱ	54 号住	2	長円形	80	55	29
Ⅱ	54 号住	3	円形	66	—	52
Ⅱ	54 号住	4	長円形	90	76	29
Ⅱ	54 号住	5	長円形	8	50	23
Ⅱ	54 号住	6	円形	48	—	34
Ⅱ	54 号住	7	長円形か	(75)	(70)	51
Ⅱ	54 号住	8	長円形か	(80)	(70)	50
Ⅱ	54 号住	9	長円形	88	70	44

表７　土器観察表

遺物番号				器種	部位	色調	胎　土	特　徴・法　量　等	時期	図版	写真
Ⅰ	1	住居	1	—	胴	橙	赤粒、小石	横位隆帯、沈線。破片左端に微隆線か？	加ＥⅡ	10	83
Ⅰ	1	住居	2	—	胴	暗灰褐	白粒、小石	縄文後、低い隆帯の両側に沈線。	加ＥⅢ	10	83
Ⅰ	1	住居	3	—	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	縦位微隆線、磨消縄文。	加ＥⅣ	10	83
Ⅰ	1	住居	4	—	胴	褐灰	輝・角、小石	沈線文、細縄文。	堀之内１	10	83
Ⅰ	1	住居	5	—	胴	褐灰	輝・角、小石	横位沈線。	堀之内１	10	83
Ⅰ	1	住居	6	—	口	灰褐	白粒、輝・角、小石	横位鎖状微隆帯。	堀之内２	10	83
Ⅰ	1	住居	7	—	胴	鈍橙	輝・角、小石	沈線文、細縄文。	堀之内２	10	83
Ⅰ	2	住居炉埋	1	—	胴	淡橙	白粒、輝・角	無文。２とは別個体。（胴径 23.9cm）	称名寺	12	83
Ⅰ	2	住居炉埋	2	—	底	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	無文。端部は角ばり、僅かに上げ底。１とは別個体。（底径 10.4cm）	称名寺	12	83
Ⅰ	2	住居	3	—	口	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	沈線文間に刺突列点文。	称名寺	12	83
Ⅰ	2	住居	4	—	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	沈線文間に刺突列点文。	称名寺	12	83
Ⅰ	2	住居	5	—	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	沈線文間に刺突列点文。	称名寺	12	83
Ⅰ	2	住居	6	—	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	沈線文間に刺突列点文。	称名寺	12	83
Ⅰ	2	住居	7	—	底	浅黄橙	白粒、輝・角	無文。平底。（底径 7.4cm）	称名寺	12	83
Ⅰ	2	住居	8	—	口～胴	鈍橙	白粒、輝・角	胴部に３条１組の条線斜格子文。	堀之内１古	13	83
Ⅰ	2	住居	9	—	口	浅黄橙	小石	口縁部に円形刺突。胴部は縄文。	堀之内１	13	83
Ⅰ	2	住居	10	—	突起	明赤褐	小石	両側から刺突される瘤状の突起。隆帯による区画の中は刻み。	加ＥⅠ	13	83
Ⅰ	2	住居	11	—	口	橙	赤粒、小石	隆帯と沈線による区画と渦巻文。区画内は微かに縄文。	加ＥⅡ	14	83
Ⅰ	2	住居	12	—	口	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	口縁部は無文。横位隆帯があり、その下位は摩耗激しく施文の有無が不明。	加ＥⅢ	14	83
Ⅰ	2	住居	13	—	口	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	口縁部は無文。横位隆帯があり、その下は微かに縄文。	加ＥⅢ	14	83
Ⅰ	2	住居	14	—	突起	暗灰褐	白粒、輝・角、小石	内側に太沈線の渦巻文。口縁部は沈線で区画、区画内は縄文。	加ＥⅢ	14	83
Ⅰ	2	住居	15	—	胴	灰褐	白粒、輝・角、小石	縦位隆帯の右側は無文、左は縄文か？	加ＥⅢ	14	83
Ⅰ	3	住居１埋	1	深鉢	口～胴	浅黄橙	白粒、輝・角	斜位の埋甕。口縁部無文帯の下に横位沈線。胴部は縄文。（口径 40.2cm）	加ＥⅣ	17	84
Ⅰ	3	住居１埋	2	—	口	浅黄橙	白粒	口縁部無文。横位隆帯、指頭圧痕ありか？	加ＥⅣ	17	84
Ⅰ	3	住居１埋	3	—	口	浅黄橙	白粒、小石	口縁部無文。横位隆帯。	加ＥⅣ	17	84
Ⅰ	3	住居２埋	4	—	口	鈍褐	白粒、輝・角、小石	口縁部は内湾し、横位の隆帯と沈線で区画。瘤状突起と波状口縁の一部見える。胴部は縄文、沈線文。５と同一個体か。	称名寺	18	84
Ⅰ	3	住居２埋	5	—	胴	鈍褐	白粒、輝・角、小石	２帯構成で上は「∪」字状、下は「∩」字状の沈線文、文様内縄文。４と同一個体か。	称名寺	18	84
Ⅰ	3	住居	6	深鉢	口～胴	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	口縁部無文帯の下に隆線。胴部は縄文。	加ＥⅣ	18	84
Ⅰ	3	住居	7	—	胴	鈍褐	白粒、器	縄文。	堀之内１	17	84
Ⅰ	3	住居	8	—	胴	鈍褐	白粒、輝・角、小石	沈線文、縄文。	堀之内１	17	84
Ⅰ	3	住居	9	—	胴～底	浅黄橙	白粒、小石	胴部無文。底部窄まり平底。（底径 6.6cm）	堀之内１	17	84
Ⅰ	3	住居	10	—	口	浅黄橙	輝・角、小石	無文。粗いナデ。	堀之内２	17	84
Ⅰ	3	住居	11	—	口	浅黄橙	白粒、赤粒、輝・角	口唇部に横位沈線。胴部は沈線文、縄文。	堀之内	18	84
Ⅰ	4	住居炉	1	深鉢	口～胴	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	口縁部無文帯の下に横位隆線、瘤状の隆起。胴部は縄文。２と同一個体。（口径 19.2cm）	加ＥⅣ	20	85
Ⅰ	4	住居炉	2	—	口～胴	鈍褐	白粒、輝・角、小石	口縁部無文帯の下に横位隆線と瘤状突起。胴部は縄文。１と同一個体。	加ＥⅣ	20	85
Ⅰ	4	住居炉	3	—	胴	浅黄橙	赤粒、小石	隆線と縄文。	加ＥⅣ	20	85
Ⅰ	4	住居炉	4	—	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	多方向からの縄文。	堀之内１	20	85
Ⅰ	5	住居	1	深鉢	口～胴	浅黄橙	輝・角、細砂	欠落するが把手が一カ所。無文。ジョッキ状の形状か。（口径 15.6cm）	後期？	22	85
Ⅰ	5	住居	2	—	口	鈍褐	白粒、輝・角、小石	波頂部に貫通孔。胴部は沈線文と刺突文。３と同一個体か。	称名寺	22	85
Ⅰ	5	住居	3	—	口	鈍褐	白粒、輝・角、小石	胴部は沈線文と刺突文。２と同一個体か。	称名寺	22	85
Ⅰ	5	住居炉	4	—	口	鈍褐	輝・角	波頂部側面に刺突、頂点から隆線垂下。胴部は沈線、細縄文。	称名寺？	22	85
Ⅰ	5	住居炉	5	—	口	暗灰褐	輝・角	沈線文間に刺突列。	称名寺	22	85
Ⅰ	5	住居	6	—	胴	橙白	白粒、輝・角、小石	無文。	称名寺	22	85
Ⅰ	5	住居	7	—	胴	鈍橙	輝・角僅	沈線文間に刺突列。	称名寺	22	85
Ⅰ	5	住居炉	8	—	底	鈍橙	白粒、輝・角	無文。端部はやや突出。平底。（底径 7.6cm）	後期	22	85
Ⅰ	5	住居	9	—	口	灰褐	白粒、輝・角、小石	口唇部に縦位沈線を入れた小突起とその左に沈線２条。胴部は縦位条線文。10 と同一個体か。	堀之内１	23	85
Ⅰ	5	住居	10	—	胴	灰褐～黒	白粒、輝・角、小石	縦位条線文。９と同一個体か。	堀之内１	22	85
Ⅰ	5	住居炉	11	—	胴	鈍黄橙	輝・角、小石	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	23	85

遺物番号				器種	部位	色調	胎　土	特　徴・法　量　等	時期	図版	写真
Ⅰ	5	住居炉	12	－	胴	浅黄橙	輝・角僅、小石僅	沈線、磨消縄文。内面にミガキ痕。	加ＥⅢ	23	85
Ⅰ	5	住居	13	－	胴	鈍黄橙	輝・角僅、小石僅	沈線文、磨消縄文。	加ＥⅢ	23	85
Ⅰ	5	住居	14	－	胴	灰褐	白粒、輝・角	縦位沈線と磨消縄文。破片上部は隆線か太沈線の下半か。	加ＥⅢ	23	85
Ⅰ	5	住居	15	－	胴	鈍褐	輝・角、小石	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	23	85
Ⅰ	6	住居	1	深鉢	口～胴	浅黄橙	白粒、輝・角	口縁部は隆帯と太沈線の区画、区画内縄文。胴部は沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	24	86
Ⅰ	6	住居	2	深鉢	口～胴	暗灰褐	白粒、輝・角、小石	４単位波状口縁。口縁部は太沈線による区画、区画内は縄文。胴部は蕨手状沈線、磨消縄文。（口径 34.2cm）	加ＥⅢ	25	86
Ⅰ	6	住居	3	－	口～胴	淡橙	白粒、輝・角、小石	口縁部は隆帯と太沈線の区画、区画内縄文。胴部は沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	25	86
Ⅰ	6	住居	4	－	口	褐灰	白粒、輝・角、小石	口縁部に太沈線。胴部は縄文。	加ＥⅢ	24	86
Ⅰ	6	住居	5	－	口	灰褐	白粒、輝・角、小石	波状口縁。口縁部は太沈線で区画、渦巻文。区画内と胴部は縄文。胴部に蕨手状沈線文か。	加ＥⅢ	24	86
Ⅰ	6	住居	6	－	口	灰黄褐	白粒、輝・角、小石	隆帯と太沈線で区画、渦巻文。区画内杉綾状縄文。胴部は縄文で沈線垂下。	加ＥⅢ	25	86
Ⅰ	6	住居	7	－	口	暗灰褐	白粒、輝・角、小石	隆帯と太沈線で区画、渦巻文。区画内杉綾状縄文。胴部は縄文で沈線垂下。	加ＥⅢ	25	86
Ⅰ	6	住居	8	－	口	橙～褐灰	輝・角、小石	小波状口縁。太沈線と低い隆帯で区画、渦巻文。区画内と胴部は縄文。胴部に蕨手状文と垂下沈線。	加ＥⅢ	25	86
Ⅰ	6	住居	9	－	口	鈍橙	白粒	隆帯と沈線による区画、区画内は縄文。	加ＥⅢ	25	86
Ⅰ	6	住居	10	－	口	浅黄橙	白粒、赤粒、輝・角	隆帯と沈線による区画、区画内は縄文。	加ＥⅢ	25	86
Ⅰ	6	住居	11	－	口	灰褐	輝・角僅、小石	隆帯と太沈線による区画、区画内は縄文。	加ＥⅢ	25	86
Ⅰ	6	住居	12	－	口	淡橙	白粒、輝・角、小石	波状口縁。口縁部は太沈線で区画、区画内は縄文。	加ＥⅢ	26	86
Ⅰ	6	住居	13	－	口	灰褐	白粒、輝・角僅、小石	波状口縁。口縁部は太沈線で区画、区画内は縄文。	加ＥⅢ	26	87
Ⅰ	6	住居	14	－	口付近	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	隆帯と太沈線による区画、区画内と胴部波状文。	加ＥⅢ	26	87
Ⅰ	6	住居	15	－	口	浅黄橙	輝・角、石英	縄文上に沈線∩字状文。	加ＥⅢ	26	87
Ⅰ	6	住居	16	－	口付近	灰褐	白粒、小石	隆帯と太沈線による区画、区画内と胴部は縄文。	加ＥⅢ	26	87
Ⅰ	6	住居	17	－	突起	橙	輝・角、小石	突起部に渦巻文。口縁部は隆帯と沈線による区画と文様、区画内は縄文。	加ＥⅢ	26	87
Ⅰ	6	住居	18	－	口	灰褐	白粒、小石	口縁部に横位２条沈線。胴部は縦位の波形櫛描文。	加ＥⅢ	26	87
Ⅰ	6	住居	19	－	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	26	87
Ⅰ	6	住居	20	－	胴	灰褐	白粒、石英、小石	沈線、磨消縄文。24 と同一個体。	加ＥⅢ	26	87
Ⅰ	6	住居	21	－	胴	浅黄橙	赤粒僅、輝・角	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	26	87
Ⅰ	6	住居	22	－	胴	鈍褐	白粒、小石	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	26	87
Ⅰ	6	住居	23	－	胴	灰褐	輝・角、小石	口縁部文様帯の下端。胴部は沈線、縄文。	加ＥⅢ	26	87
Ⅰ	6	住居	24	－	胴	灰褐	白粒、石英、小石	沈線、磨消縄文。20 と同一個体。	加ＥⅢ	26	87
Ⅰ	6	住居	25	－	胴	灰褐	白粒、小石	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	27	87
Ⅰ	6	住居	26	－	胴	淡橙	白粒、赤粒僅	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	27	87
Ⅰ	6	住居	27	－	胴	暗褐	白粒、小石	２条１組の隆帯文。その両側は縞状の沈線。	加ＥⅢ	27	87
Ⅰ	6	住居	28	－	底	橙	白粒、輝・角、小石	底面付近まで沈線垂下。縄文も微かにあり。平底。（底径 9.8cm）	加ＥⅢ	27	87
Ⅰ	6	住居	29	－	底	浅黄橙	白粒、小石	胴部に平行沈線。平底。	加ＥⅢ	27	87
Ⅰ	6	住居	30	－	口	淡橙	白粒、輝・角	口縁部無文帯の下に横位隆線と瘤状突起。	加ＥⅣ	27	87
Ⅰ	6	住居	31	土製円板	胴	橙	金雲母僅、小石	隆線と小隆起。２条１組の沈線文。（長径 4.9cm）	阿玉台Ⅱ	27	87
Ⅰ	6	住居	32	－	口	鈍褐	金雲母、小石	２列の押引文による区画、区画内は同一施文具によると思われる沈線波状文。	阿玉台Ⅱ	27	87
Ⅰ	6	住居	33	－	口	鈍褐	白粒、赤粒僅	２列の押引文による区画、区画内は無文。	阿玉台Ⅱ	27	87
Ⅰ	6	住居	34	－	胴	灰褐	白粒、金雲母	隆帯が迫り上がって瘤状の突起に。胴部は縄文。	阿玉台Ⅳ	27	87
Ⅰ	6	住居	35	－	底	鈍橙	白粒、輝・角、小石	胴部は条線文。平底。（底径 4.4cm）	？	27	87
Ⅰ	7	住居	1	－	胴	鈍橙	輝・角、小石	破片上部に沈線間に細縄文。あとは無文。	堀之内２	29	88
Ⅰ	7	住居	2	－	胴	鈍橙	白粒、小石	沈線、縄文。	加ＥⅠ	29	88
Ⅰ	7	住居	3	－	胴	鈍褐	白粒、小石	隆帯による区画か。区画内は沈線。	加ＥⅠ	29	88
Ⅰ	7	住居	4	－	胴	鈍褐	白粒、小石	沈線、縄文。	加ＥⅠ	29	88
Ⅰ	7	住居	5	－	口	浅黄橙	白粒、小石	無文。	中期後半	29	88
Ⅰ	7	住居	6	－	口	鈍褐	小石	口縁部は無文。括れ部に刺突と沈線。	勝坂３新	29	88
Ⅰ	7	住居	7	深鉢	口～胴	赤橙	白粒、輝・角	口縁部無文帯の下は沈線を主体とする横位文様帯。胴部は縦位沈線主体の文様。（口径 33.3cm）	加ＥⅡ	29	88
Ⅰ	8	住居炉	1	深鉢	口～胴	淡橙	白粒	全面に縄文後、沈線で口縁部に懸垂文、括れ部以下に区画文。（口径 26.4cm）	加ＥⅡ	31	88
Ⅰ	8	住居炉	2	深鉢	胴	淡橙	白粒、輝・角、小石	すべて沈線による文様描出。曽利式系土器。（胴径 34.2cm）	加ＥⅡ	31	88
Ⅰ	8	住居	3	－	口	鈍橙	白粒、小石	口縁部は隆帯と沈線で区画、渦巻文。区画内縄文。胴部はきっかりした沈線と磨消縄文。４と同一個体。	加ＥⅡ	32	88
Ⅰ	8	住居	4	－	胴	鈍橙	白粒、小石	きっかりした沈線と磨消縄文。３と同一個体。	加ＥⅡ	31	88
Ⅰ	8	住居	5	－	口	黒褐	白粒、輝・角、小石	口縁沿いに沈線。胴部は撚糸文と沈線文。6、7 と同一個体。	加ＥⅡ	31	88
Ⅰ	8	住居	6	－	口	黒褐	白粒、輝・角、小石	口縁沿いに沈線。胴部は撚糸文と沈線文。５、７と同一個体。波状口縁の根元か。	加ＥⅡ	31	88

遺物番号				器種	部位	色調	胎　土	特　徴・法　量　等	時期	図版	写真
Ⅰ	8	住居	7	－	口	黒褐	白粒、輝・角、小石	口縁沿いに沈線。胴部は撚糸文と沈線文。5、6 と同一個体。	加Ｅ Ⅱ	31	88
Ⅰ	8	住居	8	－	口	赤褐	輝・角、細砂	口唇部稜を持ち肥厚。無文。	加Ｅ Ⅱ	31	88
Ⅰ	8	住居	9	－	口	鈍橙	輝・角、小石	口唇部に沈線。口縁部は隆帯と沈線で区画、区画内撚糸文と沈線。胴部は撚糸文。	加Ｅ Ⅱ	31	88
Ⅰ	8	住居	10	－	口	橙	白粒、輝・角、小石	口唇部上面に沈線。胴部は撚糸文で一部沈線。11 と同一個体か。	加Ｅ Ⅱ	32	89
Ⅰ	8	住居	11	－	胴	橙	白粒、輝・角、小石	撚糸文。一部横位沈線。10 と同一個体か。	加Ｅ Ⅱ	32	89
Ⅰ	8	住居	12	－	突起	鈍い橙	白粒、金雲母、小石	深めの結節沈線。鰭状突起背面に刻み。	阿玉台Ⅱ	32	89
Ⅰ	9	住居	1	－	口	橙白	赤粒、小石	貫通孔の空く波状突起が欠損。口縁部は隆帯と沈線による区画、区画内縄文。	加Ｅ Ⅱ	34	89
Ⅰ	9	住居	2	－	胴	褐	白粒、輝・角	条線文、横位沈線。	加Ｅ Ⅱ	34	89
Ⅰ	9	住居	3	－	胴	黄白	白粒、輝・角	条線文、鎖状隆帯。４、５、６と同一個体。	加Ｅ Ⅱ	34	89
Ⅰ	9	住居	4	－	胴	黄白	白粒、輝・角	条線文、鎖状隆帯。３、５、６と同一個体。	加Ｅ Ⅱ	34	89
Ⅰ	9	住居	5	－	胴	黄白	白粒、輝・角	条線文、鎖状隆帯。３、４、６と同一個体。	加Ｅ Ⅱ	34	89
Ⅰ	9	住居	6	－	胴	褐灰	白粒、輝・角	条線文、鎖状隆帯。３、４、５と同一個体。	加Ｅ Ⅱ	34	89
Ⅰ	9	住居	7	－	胴	鈍橙	小石	隆帯間に交互刺突文。	加Ｅ Ⅱ	34	89
Ⅰ	9	住居	8	－	底	浅黄橙	輝・角、小石	平底。胴部は条線文、３条１組垂下沈線とその右に沈線文。（底径 10.4cm）	加Ｅ Ⅱ	34	89
Ⅰ	9	住居	9	小型深鉢	口～胴	鈍橙	赤粒、輝・角	上面渦巻状の突起１カ所。体部は無文。（口径 10.2cm）	加Ｅ Ⅲ	34	89
Ⅰ	9	住居	10	－	口～胴	灰褐	白粒、輝・角僅	波状口縁に太沈線渦巻文。口縁部は隆帯で区画するが無文か。括れ部以下の胴部に刻みを入れた隆帯と沈線で渦巻文や半円状の区画。区画内には交互刺突文、僅かに条線文。	加Ｅ Ⅱ	35	89
Ⅰ	9	住居	11	深鉢	口～胴	鈍黄橙	輝・角、小石	波状口縁。口縁部は隆帯による区画と文様。胴部は沈線文と磨消縄文。（口径 24.4cm）	加Ｅ Ⅲ	35	89
Ⅰ	9	住居	12	－	口	灰黄褐	白粒、輝・角、小石	波状口縁。口縁部は隆帯と太沈線で区画、区画内縄文。胴部は沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	35	89
Ⅰ	9	住居	13	－	口	鈍橙	白粒、小石	太沈線による区画、区画内は縄文。	加Ｅ Ⅲ	35	90
Ⅰ	9	住居	14	－	口	灰褐	輝・角僅	波頂部下に２段の沈線円。口縁部は隆帯と沈線による区画、区画内は縄文。15 と同一個体。	加Ｅ Ⅲ	35	90
Ⅰ	9	住居	15	－	口	灰褐	輝・角僅	波頂部が欠損。口縁部は隆帯と沈線による区画、区画内は縄文。胴部は沈線、磨消縄文。14 と同一個体。	加Ｅ Ⅲ	35	90
Ⅰ	9	住居	16	－	口付近	橙白	白粒、小石	隆帯と沈線による文様区画、区画内は縄文。、区画内は縄文。	加Ｅ Ⅲ	35	90
Ⅰ	9	住居	17	－	胴	淡橙	白粒、小石	横位の隆帯、沈線。胴部は沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	35	90
Ⅰ	9	住居	18	－	胴	灰褐	白粒、小石	隆帯と沈線による文様区画、区画内は縄文。	加Ｅ Ⅲ	35	90
Ⅰ	9	住居	19	－	胴	橙	白粒、輝・角、小石	３条１組沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	36	90
Ⅰ	9	住居	20	－	胴	黒灰	白粒、小石	太沈線文、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	36	90
Ⅰ	9	住居	21	－	胴	橙	白粒、小石	３条１組沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	36	90
Ⅰ	9	住居	22	－	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	36	90
Ⅰ	9	住居	23	－	口	浅黄橙	白粒、小石	無文。	加Ｅ Ⅲ	36	90
Ⅰ	9	住居	24	－	底	鈍橙	白粒、小石	高台状の上げ底。無文。（底径 6.8cm）	加Ｅ Ⅲ	36	90
Ⅰ	9	住居	25	－	底	灰褐	白粒、小石	胴部には平行沈線。平底。（底径 8.4cm）	加Ｅ Ⅲ	36	90
Ⅰ	9	住居	26	－	底	淡橙	白粒、赤粒僅	無文。やや丸みを帯びる平底。（底径 6.0cm）	加Ｅ Ⅲ	36	90
Ⅰ	9	住居	27	－	口	鈍褐	白粒、小石	口唇部沿いに沈線。口縁部に縦位隆帯、括れ部に横位隆帯。28 と同一個体。	堀之内１	36	90
Ⅰ	9	住居	28	－	口	鈍褐	白粒、小石	口唇部沿いに沈線。27 と同一個体。	堀之内１	36	90
Ⅰ	11	住居	1	－	口	浅黄橙	白粒、輝・角	隆帯区画、渦巻文。区画内撚糸文。	加Ｅ Ⅰ	37	90
Ⅰ	11	住居	2	－	口	暗赤褐	白粒、小石	波頂部下か。沈線渦巻文、隆帯に縄文。	加Ｅ Ⅰ	37	90
Ⅰ	11	住居	3	－	胴	橙	輝・角、小石	隆帯と沈線による区画。	加Ｅ Ⅰ	37	90
Ⅰ	11	住居	4	－	胴	暗赤褐	輝・角、小石	横位、斜位隆帯。縄文。	加Ｅ Ⅰ	37	90
Ⅰ	11	住居	5	－	口	黄白	輝・角	沈線区画。	加Ｅ Ⅱ	37	90
Ⅰ	11	住居	6	－	胴	浅黄橙	白粒、赤粒	沈線文。	加Ｅ Ⅱ	37	90
Ⅰ	11	住居	7	－	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	横位隆帯、無文。	加Ｅ Ⅱ	37	90
Ⅰ	11	住居炉	8	－	底	橙	白粒、小石	胴部無文。平底。（底径 8.0cm）	加Ｅ Ⅱ	37	90
Ⅰ	11	住居	9	－	底	橙	白粒	胴部縄文。平底。（底径 9.0cm）	加Ｅ Ⅱ	37	90
Ⅰ	11	住居	10	－	口～胴	鈍赤褐	白粒	口縁部は横位、胴部は縦位の沈線区画、区画内縄文。胴部縄文部に沈線文。	加Ｅ Ⅲ	38	91
Ⅰ	11	住居	11	－	胴	黒褐	白粒、小石	横位、縦位の隆帯、刺突文あり。区画内縄文。	加Ｅ Ⅲ	37	90
Ⅰ	11	住居	12	－	胴	浅黄橙	白粒、赤粒	沈線、磨消縄文。縄文部に蛇行沈線。	加Ｅ Ⅲ	38	91
Ⅰ	11	住居	13	－	底	浅黄橙	白粒、赤粒、輝・角	胴部は沈線、磨消縄文。平底。（底径 8.0cm）	加Ｅ Ⅲ	38	91
Ⅰ	11	住居	14	－	口	灰褐	白粒	沈線文。	称名寺	37	91
Ⅰ	11	住居	15	－	把手	浅黄橙	白粒、小石	無文。	堀之内１	37	91
Ⅰ	11	住居	16	－	底	明赤褐	輝・角、小石	胴部縄文。平底。底面に網代痕。	堀之内１	37	91
Ⅰ	13	住居	1	深鉢	ほぼ完形	鈍橙	白粒、小石	メガホン状に直線的に広がる。口縁部から底部まで、、１０単位ほどの条線文と一部沈線を施す。底部は、端部がやや丸みを帯びる平底。（口径 17.5cm、底部 6.7cm、器高 24.3cm）	加Ｅ Ⅱ	40	91
Ⅰ	13	住居	2	深鉢	口～胴	橙	白粒、小石	口縁部は隆帯と沈線による区画、区画内は無文。胴部は７単位の流水状条線文。	加Ｅ Ⅱ	40	91
Ⅰ	13	住居	3	深鉢	胴	淡橙	輝・角、小石	縦横の沈線と縄文。（胴径 13.8cm）	加Ｅ Ⅱ	40	91

遺物番号				器種	部位	色調	胎　土	特　徴・法　量　等	時期	図版	写真
Ⅰ	13	住居	4	—	口～胴	橙	白粒、輝・角	波頂部に橋状把手、上面に沈線渦巻文。口縁部は隆帯と沈線で区画、区画内沈線。胴部は縄文と沈線文。	加ＥⅡ	40	91
Ⅰ	13	住居	5	—	口	褐灰	白粒、輝・角	口唇部から縄文。	加ＥⅡ	40	91
Ⅰ	13	住居	6	—	口	浅黄橙	白粒、赤粒、小石	口唇部肥厚。横位沈線の他は無文。	加ＥⅡ	40	91
Ⅰ	13	住居	7	—	口	橙	赤粒、輝・角	無文。	加ＥⅡ	40	91
Ⅰ	13	住居	8	—	口	橙	輝・角、小石	口唇部肥厚。無文。	加ＥⅡ	40	91
Ⅰ	13	住居	9	—	口	暗赤	白粒、小石	無文。	加ＥⅡ	41	91
Ⅰ	13	住居	10	—	胴	灰黄褐	白粒、輝・角、小石	縄文。11と同一個体か。	加ＥⅡ	41	91
Ⅰ	13	住居	11	—	胴	灰黄褐	白粒、輝・角、小石	縄文。10と同一個体か。	加ＥⅡ	41	91
Ⅰ	13	住居	12	—	胴	灰黄褐	白粒、輝・角、小石	破片下半は杉綾状、上半は様々な方向から縄文を施文。	加ＥⅡ	41	91
Ⅰ	13	住居	13	—	胴	淡橙～褐	白粒、輝・角、小石	縄文、沈線文。	加ＥⅡ	41	91
Ⅰ	13	住居	14	—	胴	浅黄橙	白粒、小石	縄文、２条１組の隆帯。	加ＥⅡ	41	91
Ⅰ	13	住居	15	—	口	赤褐	輝・角	口縁部無文。刻みを入れた横位隆帯の下に隆帯・沈線で区画。区画内縄文。	勝坂末	41	91
Ⅰ	13	住居	16	—	口	鈍赤褐	白粒	橋状突起部欠損。口縁部隆帯・沈線区画、渦巻文。区画内沈線文。胴部撚糸文。	中峠	41	92
Ⅰ	13	住居	17	—	口	浅黄橙	白粒	隆帯区画、渦巻文。区画内沈線文。	加ＥⅠ	41	92
Ⅰ	13	住居	18	—	口	鈍赤褐	白粒、輝・角、小石	隆帯・沈線区画、区画内縄文。胴部は縄文。	加ＥⅠ	41	92
Ⅰ	13	住居	19	—	口	暗赤褐	白粒、輝・角	隆帯区画、渦巻文。	加ＥⅠ	41	92
Ⅰ	13	住居	20	—	口	浅黄橙	輝・角、細砂	隆帯区画、区画内縄文。	加ＥⅠ	41	92
Ⅰ	13	住居	21	—	突起	暗灰	白粒	橋状突起部欠損。頂部に沈線渦巻文。口縁部は隆帯区画、区画内沈線文。	加ＥⅠ	42	92
Ⅰ	13	住居	22	深鉢	口～胴	浅黄橙	白粒、輝・角	口縁部突起に沈線文。胴部は縄文と沈線文。	加ＥⅢ	42	92
Ⅰ	13	住居	23	—	胴	鈍橙	白粒、小石	垂下沈線、縄文。	加ＥⅢ	42	92
Ⅰ	13	住居	24	—	底	浅黄橙	輝・角	２条１組の沈線と波状沈線文、磨消縄文。平底。ほぼ垂直に立ち上がる。（底径 7.0cm）	加ＥⅢ	42	92
Ⅰ	14	住居炉	1	深鉢	口～胴	鈍橙	白粒、輝・角	３単位の波状口縁。口縁部は隆帯と沈線で６単位に区画、区画内は縄文。胴部は縄文後、沈線垂下。（口径 12.6cm）	加ＥⅡ	44	92
Ⅰ	14	住居炉	2	深鉢	胴	淡橙	白粒、輝・角	括れ部に横位沈線と交互刺突文。頸部、胴部とも条線文後、沈線文や縄文。（胴径 21.7cm）	加ＥⅡ	44	92
Ⅰ	14	住居炉	3	深鉢	胴～底	橙、暗褐	白粒僅、輝・角	逆位で傾いて埋設される。文様は撚糸文、沈線間は磨り消し。底面は平底。（底径 7.4cm）	加ＥⅡ	44	92
Ⅰ	14	住居炉	4	—	胴	鈍橙	白粒、輝・角僅	口縁部は隆帯と太沈線による区画、区画内は縄文。胴部は沈線のΠ字状区画、区画内は縄文。	加ＥⅡ	44	92
Ⅰ	14	住居炉	5	—	胴	鈍黄橙	輝・角、小石	太沈線によるΠ字状区画と磨消縄文。	加ＥⅡ	45	92
Ⅰ	14	住居炉	6	—	口～胴	灰褐	白粒、輝・角、小石	口縁部は隆帯と沈線で区画、区画内縄文。胴部は縄文、蛇行垂下沈線。	加ＥⅢ	45	92
Ⅰ	14	住居Ｐ９	7	—	口	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	口縁沿いに２段の竹管刺突文。胴部は縄文。	加ＥⅡ	45	92
Ⅰ	14	住居炉	8	—	胴	淡橙～褐	白粒、輝・角、小石	垂下沈線、磨消縄文。不規則な横位沈線。	加ＥⅢ	45	92
Ⅰ	14	住居炉	9	—	底	浅黄橙	輝・角	胴部は沈線、縄文。平底。	加ＥⅢ	45	92
Ⅰ	14	住居埋甕	10	鉢	口～胴	鈍褐	白粒、小石	口縁部に横位太沈線。胴部は無文。底部は欠損。（口径 35.2cm）	中期後半	45	92
Ⅰ	14	住居Ｐ６	11	—	胴	黒褐	白粒	垂下沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	45	93
Ⅰ	15	住居	1	—	胴	浅黄橙	輝・角、小石	撚糸文	加ＥⅡ	46	93
Ⅰ	15	住居炉	2	—	胴	明褐灰	白粒、輝・角	沈線文。	加ＥⅡ	46	93
Ⅰ	15	住居炉	3	—	胴	灰褐	白粒、輝・角、細砂	３条１組？の微隆線、磨消縄文。	加ＥⅢ	46	93
Ⅰ	16	住居	1	—	口	黒灰	白粒、輝・角	口縁部沈線区画、区画内縄文。胴部垂下沈線、磨消縄文、５単位条線文。	加ＥⅢ	47	93
Ⅰ	16	住居	2	—	胴	橙	小石	隆帯と太沈線で区画、区画内縄文。胴部縄文。	加ＥⅢ	47	93
Ⅰ	16	住居	3	—	胴	黒	白粒、輝・角	隆帯と太沈線で区画、渦巻文。区画内条線文。	加ＥⅢ	48	93
Ⅰ	16	住居	4	—	胴	橙	白粒、輝・角、小石	３条１組垂下沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	47	93
Ⅰ	16	住居	5	浅鉢	口～胴	橙	白粒、小石	口縁部に横位沈線。胴部は無文。底部は欠損。（口径 43.0cm）	加ＥⅣ	48	93
Ⅱ	1	住居	1	深鉢	口～胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	口縁部は隆帯と沈線による区画と文様、区画内は縄文。胴部は沈線、磨消縄文。（口径 40.0cm）	加ＥⅢ	49	94
Ⅱ	1	住居	2	深鉢	口～胴	浅黄橙	白粒僅、赤粒僅	波状口縁。口縁部は隆帯と沈線による区画と渦巻文、区画内は縄文。胴部は沈線のΠ字状区画と波形文、磨消縄文。（口径 39.4cm）	加ＥⅢ	49	94
Ⅱ	1	住居	3	深鉢	胴～底	浅黄橙	白粒僅、赤粒	沈線文、磨消縄文。（底径 4.4cm）	加ＥⅢ	49	94
Ⅱ	1	住居	4	—	口～胴	浅黄橙	白粒、輝・角	口縁部に円形刺突列と横位沈線。胴部は縦位の条線文。	加ＥⅢ	50	94
Ⅱ	1	住居	5	—	口～胴	鈍褐	白粒、輝・角、小石	波状口縁、口唇部やや肥厚。隆帯と沈線で渦巻文と区画。区画内縄文。胴部は沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	50	94

遺物番号				器種	部位	色調	胎　土	特　徴・法　量　等	時期	図版	写真
Ⅱ	1	住居	6	—	口～胴	淡橙	白粒、輝・角	波状口縁に沿って２段の円形刺突文列。胴部は沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	50	94
Ⅱ	1	住居	7	—	口	浅黄橙	赤粒、小石	波状口縁。太沈線による区画と文様。区画内縄文。波頂部内面にも太沈線文。	加ＥⅢ	50	94
Ⅱ	1	住居	8	—	口	明赤褐	白粒、赤粒、小石	波状口縁。太沈線による区画と文様。区画内縄文。波頂部内面にも太沈線文。	加ＥⅢ	50	94
Ⅱ	1	住居	9	—	口	暗褐	白粒、輝・角	隆帯による区画と文様。区画内縄文。	加ＥⅢ	50	94
Ⅱ	1	住居	10	—	口	暗灰褐	赤粒、小石	横位沈線の下は縦位条線文。口縁部に赤色塗彩の痕跡あり。	加ＥⅢ	50	94
Ⅱ	1	住居	11	—	口	鈍褐	白粒、輝・角	横位沈線の下は縦位条線文。	加ＥⅢ	50	94
Ⅱ	1	住居	12	—	胴	鈍褐	白粒、輝・角	口縁部は隆帯と太沈線で区画、区画内縄文。胴部は沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	50	94
Ⅱ	1	住居	13	—	胴	鈍橙	輝・角、細砂	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	51	95
Ⅱ	1	住居	14	—	胴	淡橙	白粒、輝・角	横位太沈線、胴部は縦位細沈線。	加ＥⅢ	51	95
Ⅱ	1	住居	15	—	胴	灰白	白粒、輝・角	沈線、磨消縄文。蕨手状沈線文。	加ＥⅢ	51	95
Ⅱ	1	住居	16	—	胴	明褐灰	赤粒、小石	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	51	95
Ⅱ	1	住居	17	—	胴～底	橙	輝・角、小石	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	51	95
Ⅱ	1	住居	18	—	底	鈍黄橙	白粒、輝・角	２条１組の沈線が垂下。平底。	加ＥⅢ	51	95
Ⅱ	1	住居	19	甕	2/3残存	淡橙	白粒、小石僅	口縁部が欠損。括れ部の隆帯が橋状把手と連結。胴部は無文。底部はやや丸みを帯びる平底。（最大径 64.3cm、底径 10.8cm）	中期後半	51	95
Ⅱ	1	住居	20	—	口	鈍褐	白粒、小石僅	口唇部に交互刺突文。胴部は縄文。	加ＥⅠ	51	95
Ⅱ	1	住居	21	—	口～胴	赤褐	赤粒、小石	隆帯と沈線による区画と文様。区画内と胴部に縄文。	加ＥⅡ	52	95
Ⅱ	1	住居	22	—	口	暗灰褐	輝・角僅	沈線による区画と刺突列。区画内縄文。	加ＥⅡ	51	95
Ⅱ	1	住居	23	—	口	赤褐	輝・角、小石	沈線文、縄文。	加ＥⅡ	52	95
Ⅱ	1	住居	24	—	胴	淡橙	輝・角、小石	縄文上に２条１組の隆帯。	加ＥⅡ	52	95
Ⅱ	2	住居炉	1	深鉢	底欠落	暗赤褐	白粒、赤粒	口縁部は隆帯による区画と渦巻文、区画内は沈線。頸部は無文で、胴部は縄文後、縦横と波形の沈線文。（口径 22.6cm）	加ＥⅡ	53	96
Ⅱ	2	住居	2	—	口～胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	口縁部は無文。胴部は縄文上に縦横の隆帯と鋸歯状の沈線文。	加ＥⅡ	53	96
Ⅱ	2	住居	3	深鉢	ほぼ完形	橙白	白粒、赤粒	口縁部は隆帯と沈線による渦巻文等。胴部は縄文。底部は端部がやや角張る平底。（口径 15.4cm、底径 7.0cm、器高 20.0cm）	加ＥⅡ	54	96
Ⅱ	2	住居炉	4	—	胴	鈍橙	白粒、輝・角	縄文後、隆帯の２条組や波形文が垂下。（胴径 23.0cm）	加ＥⅡ	54	96
Ⅱ	2	住居炉	5	—	胴	鈍褐	白粒僅	縄文上に縦横や渦巻状の沈線文。	加ＥⅡ	54	96
Ⅱ	2	住居	6	—	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	縄文上に蛇行隆帯。	加ＥⅡ	54	96
Ⅱ	2	住居	7	—	底	黄白	白粒、小石僅	縄文上に２条の隆帯。平底の底面に網代痕あり。	加ＥⅡ	54	96
Ⅱ	3	住居１埋	1	—	口	淡橙	白粒、輝・角、小石	沈線文、刺突文。	称名寺	57	96
Ⅱ	3	住居２埋	2	—	口～胴	橙白	白粒、輝・角、小石	沈線文、刺突列点文。	称名寺	57	96
Ⅱ	3	住居３埋	3	深鉢	口	浅黄橙	輝・角	沈線文、刺突列点文。一部ミガキ痕あり。（口径 36.6cm）	称名寺	58	96
Ⅱ	3	住居４埋	4	—	口	暗褐灰	白粒、輝・角	無文。比較的まっすぐ立ち上がる。	称名寺	57	97
Ⅱ	3	住居４埋	5	—	口	灰褐	輝・角、細砂	無文。口唇部が僅かに開く。	称名寺	57	97
Ⅱ	3	住居５埋	6	—	口	浅黄橙	輝・角、小石	低い４単位波状口縁、波頂部下に沈線渦巻文。胴部は沈線文間に刺突列点文。	称名寺	58	97
Ⅱ	3	住居	7	深鉢	口～胴	淡橙	白粒、小石	沈線文、刺突列点文。（口径 28.6cm）	称名寺	58	97
Ⅱ	3	住居炉掘	8	深鉢	口～胴	鈍橙	白粒、輝・角	口縁部に隆帯と太沈線、瘤状突起。胴部は撚糸文。（17.5cm）	加ＥⅢ	58	97
Ⅱ	3	住居	9	—	底	橙白	白粒僅	胴部無文。平底。（底径 8.0cm）	後期初頭	58	97
Ⅱ	3	住居	10	—	突起	暗赤褐	白粒	波頂部下に沈線渦巻文。胴部は撚糸文。口唇部上面に沈線２条と刻み。内側に鍔状の横位隆帯。	加ＥⅡ	58	97
Ⅱ	3	住居	11	—	口	橙白	白粒、輝・角	隆帯と太沈線で区画、区画内縄文。	加ＥⅢ	58	97
Ⅱ	4	住居	1	深鉢	口～胴	淡橙	白軽石、輝・角	４単位波状口縁。沈線の渦巻文と区画、区画内縄文。胴部は沈線文と磨消縄文。（口径 22.2cm）	加ＥⅢ	59	97
Ⅱ	5	住居Ｐ９	1	—	口	暗赤褐	白粒、輝・角	隆帯と太沈線による区画、区画内と胴部に縄文。	加ＥⅢ	61	97
Ⅱ	5	住居Ｐ５	2	—	口	灰黄	輝・角、小石	波状口縁。太沈線による区画、区画内縄文。波頂部内側にも太沈線文。	加ＥⅢ	61	97
Ⅱ	5	住居Ｐ５	3	—	胴	黄白	白粒、輝・角	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	61	97
Ⅱ	5	住居	4	—	胴	暗褐	白粒、小石	沈線、磨消縄文。磨り消し部に太沈線の蕨手状文。	加ＥⅢ	61	97
Ⅱ	5	住居Ｐ１	5	—	胴	浅黄橙	小石	縄文。	中期後半	61	97
Ⅱ	5	住居Ｐ７	6	—	口	暗灰褐	白粒、輝・角	無文。内外面ともミガキ痕あり。	？	61	98

遺物番号				器種	部位	色調	胎　土	特　徴・法　量　等	時期	図版	写真
Ⅱ	5	住居	7	—	口	鈍橙	輝・角僅、小石	波状口縁。口唇部沿いに２段の角押し文。胴部に沈線波状文。	阿玉台Ⅱ	61	98
Ⅱ	5	住居炉	8	—	口	暗赤褐	輝・角、小石	２段の交互刺突文の間に沈線、	加ＥⅠ	61	98
Ⅱ	5	住居Ｐ６	9	—	胴	橙	小石	太沈線で区画、区画内も太沈線。	加ＥⅡ	61	98
Ⅱ	5	住居Ｐ２	10	—	胴	明赤褐	赤粒、小石	括れ部に２段の角押し文。胴部は縄文上に一部角押しの沈線文。	加ＥⅡ	61	98
Ⅱ	6	住居１埋	1	—	口～胴	鈍橙	赤粒、輝・角	沈線文。	称名寺	63	98
Ⅱ	6	住居炉	2	—	口	淡橙	白粒、小石	沈線文、細縄文。	称名寺	63	98
Ⅱ	6	住居	3	—	胴	鈍黄橙	輝・角、小石	沈線文、刺突列点文。	称名寺	64	98
Ⅱ	6	住居	4	—	胴	鈍黄橙	輝・角僅	沈線文。	称名寺	64	98
Ⅱ	6	住居	5	深鉢	口～胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	波状口縁。口唇部と括れ部に沈線、頸部は刻みを入れた隆帯貼付のみ。胴部は沈線、複節縄文。（口径 29.0cm）	堀之内１	65	98
Ⅱ	6	住居炉	6	深鉢	口～胴	橙	白粒、輝・角	口縁部横位沈線。胴部は格子状の斜位沈線文と不規則な沈線。胴下半に一部ミガキあり。（口径 32.0cm）	堀之内１	65	98
Ⅱ	6	住居炉	7	深鉢	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	胴最大径部に環状貼付と横位沈線。それより上に沈線渦巻文と刺突列点文、下は無文。一部ミガキあり。（胴径 29.7cm）	堀之内１	64	98
Ⅱ	6	住居	8	—	胴～底	黒	白粒、輝・角	上半には沈線文、下半は無文。最下部は剥落。	堀之内２	65	98
Ⅱ	6	住居	9	—	底	橙	赤粒、小石	胴部無文。平底。（底径 18.0cm）	中～後期	65	98
Ⅱ	6	住居	10	—	口	暗灰褐	白粒、輝・角、小石	口唇部やや肥厚。口縁部文様帯は横位の沈線と交互刺突文。	加ＥⅠ	65	98
Ⅱ	6	住居	11	—	口	鈍橙	輝・角、小石	刻みを入れた隆帯の区画、区画内は沈線文と刺突文。	加ＥⅠ	65	98
Ⅱ	6	住居	12	—	口～胴	鈍黄橙	白粒、小石	口縁部は隆帯の区画と文様。区画内沈線。環状突起が欠損か。胴部は沈線波形文と縄文。	加ＥⅡ	65	99
Ⅱ	6	住居	13	—	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	撚糸文、沈線文。	加ＥⅡ	65	99
Ⅱ	6	住居	14	—	口	鈍褐	白粒、輝・角	口縁部は太沈線で区画、区画内縄文。胴部は沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	65	99
Ⅱ	6	住居	15	—	口	灰褐	輝・角、小石	小波状口縁。胴部は沈線文、縄文。	加ＥⅢ	66	99
Ⅱ	6	住居	16	—	口	淡橙	白粒、輝・角、小石	隆帯による区画と渦巻文、区画内は縄文。	加ＥⅢ	66	99
Ⅱ	6	住居	17	—	口	浅黄橙	白粒、小石	横位沈線文、円形刺突文。	加ＥⅢ	66	99
Ⅱ	6	住居	18	—	胴	浅黄橙	白粒	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	66	99
Ⅱ	6	住居	19	—	胴	淡橙	輝・角、小石	沈線、縄文。	加ＥⅢ	66	99
Ⅱ	6	住居	20	—	胴	灰白	輝・角	微隆線、条線文。	加ＥⅢ	66	99
Ⅱ	6	住居	21	—	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	66	99
Ⅱ	6	住居	22	深鉢	口～胴	橙～鈍褐	白粒、赤粒、輝・角	口縁部無文。横位隆帯以下に条線文。大型破片。	加ＥⅣ	66	99
Ⅱ	6	住居	23	—	口	灰	輝・角、小石	波状口縁。２段の円形刺突列。胴部は沈線文、磨消縄文。	加ＥⅣ	66	99
Ⅱ	7	住居２埋	1	深鉢	胴	橙	白粒、小石	縄文後、沈線渦巻文を主体とする文様。（胴径 18.5cm）	加ＥⅡ	68	99
Ⅱ	7	住居炉埋	2	深鉢	上半	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	口縁部は隆帯渦巻文と沈線による区画、区画内は縄文。胴部は沈線、磨消縄文。（口径 26.2cm）	加ＥⅢ	68	99
Ⅱ	7	住居	3	深鉢	胴	暗赤褐	白粒、小石多	沈線、磨消縄文。（胴径 37.5cm）	加ＥⅢ	68	100
Ⅱ	7	住居炉	4	—	胴	鈍黄橙	白粒、小石	縄文、沈線文。	加ＥⅢ	68	100
Ⅱ	7	住居炉	5	—	胴	浅黄橙	輝・角、小石	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	68	100
Ⅱ	7	住居炉	6	—	胴	鈍黄橙	小石	無文。	加ＥⅢ	68	100
Ⅱ	7	住居炉	7	—	胴	浅黄橙	輝・角僅、小石	条線文、沈線文。	加ＥⅢ	68	100
Ⅱ	9	住居炉	1	—	口	鈍橙	白粒、小石	２段の刺突列の下に沈線文、撚糸文。	加ＥⅢ	70	100
Ⅱ	9	住居１埋	2	—	胴～底	橙	輝・角、小石	胴部は沈線、磨消縄文。平底。（底径 7.2cm）	加ＥⅢ	70	100
Ⅱ	9	住居２埋	3	深鉢	胴	鈍赤褐	白粒、輝・角、小石	口縁部は低い隆帯で渦巻文１対と円形２対、その間を楕円形に区画。区画内無文。胴部は沈線文、縄文。（胴径 29.0cm）	加ＥⅢ	70	100
Ⅱ	9	住居２埋	4	—	口	褐灰	白粒、輝・角、小石	口縁部は沈線による区画と渦巻文。胴部は沈線垂下、縄文。	加ＥⅢ	71	100
Ⅱ	9	住居	5	—	胴	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	沈線、磨消縄文。（胴径 34.6cm）	加ＥⅢ	71	100
Ⅱ	9	住居	6	—	胴	灰褐	白粒、輝・角	沈線、縄文。	加ＥⅢ	70	100
Ⅱ	9	住居	7	—	胴～底	鈍褐	白粒、輝・角、細砂	縄文。沈線文、垂下沈線。（底径 7.0cm）	加ＥⅢ	71	100
Ⅱ	9	住居	8	—	口	暗灰褐	白粒	無文。	？	71	100
Ⅱ	10	住居	1	深鉢	完形	橙	白粒、小石	平口縁。口縁部は隆帯で区画され、上面に沈線渦巻文を施す５単位の瘤状突起を配置。区画内は沈線。胴部の地文はは複節縄文。突起の下に沈線が垂下し、３カ所は蕨手状文から３条一組の直線、２カ所は１条の鋸歯文。底部は平底。（口径 16.5cm、底径 7.8cm、器高 25.1cm）	加ＥⅠ	73	101
Ⅱ	10	住居	2	—	口	灰褐	輝・角、小石	隆帯による区画、区画内沈線と隆帯渦巻文か。	加ＥⅠ	73	101

遺物番号				器種	部位	色調	胎　土	特　徴・法　量　等	時期	図版	写真
Ⅱ	10	住居	3	－	口	鈍赤褐	輝・角、細砂	隆帯による区画、文様。区画内縄文。	加ＥⅠ	73	101
Ⅱ	10	住居	4	－	口	鈍赤褐	輝・角僅	隆帯による区画、区画内縄文。	加ＥⅠ	73	101
Ⅱ	10	住居	5	－	口	浅黄橙	白粒、小石	隆帯による区画、区画内縄文。	加ＥⅠ	73	101
Ⅱ	10	住居	6	－	口	鈍褐	白粒、輝・角僅	隆帯と沈線による渦巻文。	加ＥⅠ	73	101
Ⅱ	10	住居	7	－	口	暗赤褐	小石	隆帯と沈線で区画、区画内縄文。	加ＥⅠ	73	101
Ⅱ	10	住居	8	－	口	鈍黄橙	輝・角、小石	隆帯で区画。区画内は撚糸文上に粘土貼付で蕨手文。	加ＥⅠ	73	101
Ⅱ	10	住居	9	－	口	鈍黄橙	白粒	隆帯と沈線で区画、区画内縄文。	加ＥⅠ	73	101
Ⅱ	10	住居	10	－	口	赤褐	小石	隆帯による区画、区画内無文。	加ＥⅠ	73	101
Ⅱ	10	住居	11	－	口付近	赤褐	小石	２条の隆帯による渦巻文。	加ＥⅠ	73	101
Ⅱ	10	住居	12	－	把手	橙	白粒、赤粒	左右の高さが違う橋上突起。内面からも穿孔。両側面に沈線文。	加ＥⅠ	73	101
Ⅱ	10	住居	13	－	胴	鈍赤褐	白粒僅	隆帯による区画、区画内は縄文。頸部は無文。	加ＥⅠ	73	101
Ⅱ	10	住居	14	－	胴	鈍橙	白粒、小石	隆帯による区画、文様。括れ部に２条の横位隆帯。撚糸文。15と同一個体。	加ＥⅠ	73	101
Ⅱ	10	住居	15	－	胴	赤褐	白粒、小石	隆帯による区画、文様。括れ部に２条の横位隆帯。撚糸文。14と同一個体。	加ＥⅠ	73	101
Ⅱ	10	住居	16	－	胴	赤褐	赤粒	隆帯、縄文。	加ＥⅠ	73	101
Ⅱ	10	住居	17	－	胴	鈍赤褐	小石	隆帯、縄文。	加ＥⅠ	73	101
Ⅱ	10	住居	18	－	胴	橙	白粒、小石	隆帯、縄文。	加ＥⅠ	73	101
Ⅱ	10	住居	19	－	胴	浅黄橙	白粒	隆帯の上に縄文、下に沈線。	加ＥⅠ	73	101
Ⅱ	10	住居	20	－	胴	明褐灰	小石	隆帯、縄文。	加ＥⅠ	74	101
Ⅱ	10	住居	21	－	胴	橙	白粒、輝・角	沈線文、縄文。	加ＥⅠ	74	101
Ⅱ	10	住居	22	－	胴	鈍橙	白粒、小石	沈線文、縄文。	加ＥⅠ	74	101
Ⅱ	10	住居	23	－	胴	鈍黄橙	輝・角、白粒	縦横、波状の沈線と縄文。	加ＥⅠ	74	101
Ⅱ	10	住居	24	－	口	橙	赤粒、小石	隆帯区画と刻み。区画内縄文と沈線。	加ＥⅠ	74	101
Ⅱ	10	住居	25	深鉢	口～胴	暗灰褐	小石	括れ部に横位沈線と交互刺突文。胴部は縦位条線文と垂れ下がる沈線弧状文。	加ＥⅡ	74	101
Ⅱ	10	住居	26	－	口	鈍橙	輝・角、小石	波状口縁の上面に沈線。口縁部は隆帯と沈線の区画と渦巻文。区画内刺突文。	加ＥⅡ	74	102
Ⅱ	10	住居	27	－	突起	暗灰褐	小石	口唇部上面の太沈線が突起上面で渦巻文。口縁部は隆帯と沈線の区画で区画内沈線文。	加ＥⅡ	74	102
Ⅱ	10	住居	28	－	突起	暗赤褐	小石	隆帯によるとぐろ状の突起。所々に撚糸文。	加ＥⅡ	74	102
Ⅱ	10	住居	29	－	胴	明赤褐	白粒、小石	沈線、縄文。	加ＥⅡ	74	102
Ⅱ	10	住居	30	－	胴	鈍橙	輝・角、小石	沈線文、縄文。	加ＥⅡ	74	102
Ⅱ	10	住居	31	－	胴	鈍橙	小石	沈線文、縄文。	加ＥⅡ	74	102
Ⅱ	10	住居	32	－	胴	鈍橙	小石	沈線文、縄文。	加ＥⅡ	74	102
Ⅱ	10	住居	33	－	胴	鈍黄橙	金雲母多、小石	沈線文、縄文。	加ＥⅡ	74	102
Ⅱ	10	住居	34	－	胴	橙	赤粒、輝・角	沈線文、縄文。	加ＥⅡ	74	102
Ⅱ	10	住居	35	－	口	暗褐	白粒、赤粒、小石	太沈線の渦巻文か。	加ＥⅢ	75	102
Ⅱ	10	住居	36	－	口	鈍黄橙	白粒、小石	２条の横位沈線。胴部は縄文。	加ＥⅣ	75	102
Ⅱ	10	住居	37	－	口	暗灰褐	白粒僅	沈線による区画、区画内縄文。	中期後半	75	102
Ⅱ	10	住居	38	－	胴	灰黄褐	白粒、輝・角、小石	５単位条線文。（胴径 17.5cm）	中期後半	75	102
Ⅱ	12	住居	1	深鉢	上半	灰黄褐	白粒、輝・角	平口縁。隆帯の渦巻文と区画が５単位。区画内縄文。胴部は沈線垂下、磨消縄文。（口径 23.6cm）	加ＥⅢ	76	102
Ⅱ	12	住居	2	深鉢	胴	灰～淡橙	輝・角、小石	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	76	102
Ⅱ	12	住居	3	深鉢	胴	浅黄橙	白粒僅、輝・角	沈線、磨消縄文。（胴径 30.2cm）	加ＥⅡ	76	102
Ⅱ	12	住居	4	－	口	黄白	白粒、輝・角	口縁部は隆帯と沈線で区画、区画内沈線。頸部無文帯の下に沈線と竹管刺突文で施文。	加ＥⅠ	76	103
Ⅱ	12	住居	5	－	口・突起	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	口縁部は隆帯と沈線で区画、区画内縄文。突起部には隆帯で渦巻文。胴部垂下沈線、縄文。	加ＥⅡ	76	103
Ⅱ	12	住居	6	－	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	沈線文と縄文。	加ＥⅡ	76	103
Ⅱ	12	住居	7	－	底	鈍橙	輝・角、小石	隆帯垂下と縄文。	加ＥⅡ	76	103
Ⅱ	12	住居	8	－	口	黒褐	赤粒、輝・角	小波状口縁。沈線間に刺突列。胴部は縄文。	加ＥⅢ	76	103
Ⅱ	12	住居	9	－	口	浅黄橙	白粒、輝・角	口唇部と垂下する隆帯で区画。縄文、沈線文。	堀之内１	76	103
Ⅱ	12	住居	10	－	口	明褐灰	白粒	口縁部は「く」の字に屈曲。横位沈線。体部は縄文、沈線文。	中期中葉末	76	103
Ⅱ	12	住居	11	－	底	鈍黄橙	赤粒、細砂	縄文。	中期後半	76	103
Ⅱ	12	住居	12	－	底	鈍橙	輝・角、小石	胴部無文。平底。（底径 6.6cm）	中期後半	76	103
Ⅱ	15	住居炉	1	－	突起	鈍橙	白粒、小石	隆帯と沈線で渦巻状に区画。区画内は綾杉状の沈線文。上面では口唇上面から続く沈線が渦を巻く。	加ＥⅠ	77	103
Ⅱ	16	住居炉	1	深鉢	口～胴	鈍橙	白粒多、輝・角少	平口縁。隆帯と沈線による渦巻文と区画。区画内縄文。胴部は沈線文と縄文。（口径 25.0cm）	加ＥⅡ	78	103
Ⅱ	16	住居炉	2	－	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	縄文。沈線文。（胴径 25.6cm）	加ＥⅡ	78	103
Ⅱ	16	住居炉	3	－	胴	極暗赤褐	小石	隆帯と沈線による区画、区画内縄文。頸部は無文。	加ＥⅡ	78	103
Ⅱ	16	住居	4	－	口	鈍褐	白粒、輝・角、小石	隆帯と太沈線による渦巻文と区画。区画内沈線。胴部は沈線文、縄文。（口径 45.6cm）	加ＥⅡ	81	103
Ⅱ	16	住居	5	－	口	灰褐	白粒、小石	沈線による区画と渦巻文、区画内も沈線。頸部は無文。	加ＥⅡ	78	103
Ⅱ	16	住居	6	－	口	灰褐	小石	沈線文、縄文。	加ＥⅡ	81	103
Ⅱ	16	住居	7	－	胴	鈍褐	白粒、輝・角、小石	沈線、磨消縄文。	加ＥⅡ	81	103
Ⅱ	16	住居	8	－	胴	浅黄橙	輝・角、小石	括れ部に刻みを入れた隆帯。胴部は縄文。	加ＥⅡ	81	103

遺物番号				器種	部位	色調	胎　土	特　徴・法　量　等	時期	図版	写真
Ⅱ	16	住居Ｐ３	9	－	胴	鈍赤褐	赤粒、輝・角僅	隆帯、縄文。	加ＥⅡ	81	103
Ⅱ	16	住居	10	－	胴	暗褐	白粒、輝・角、小石	沈線、磨消条線文。	加ＥⅢ	81	103
Ⅱ	17	住居１埋	1	－	胴～底	灰白	輝・角僅	胴部は沈線、磨消縄文。平底。（底径 5.4cm）	加ＥⅢ	79	104
Ⅱ	17	住居２埋	2	深鉢	口縁欠落	橙	白粒、輝・角、小石	２条の横位沈線。胴部は５単位の条線文。（底径 7.4cm）	加ＥⅢ	79	104
Ⅱ	17	住居３埋	3	浅鉢	胴	橙	白粒、小石	無文。	加ＥⅢ	79	104
Ⅱ	18	住居埋甕	1	深鉢	下半	淡橙	輝・角、小石	胴中位に隆起線文。その上から縄文。底部付近は無文。（底径 8.8cm）	加ＥⅣ～称	81	104
Ⅱ	19	住居１埋	1	－	胴～底	橙～鈍褐	赤粒、輝・角	胴上半は沈線文と縄文。下半は無文で、ケズリ痕明瞭。底部はやや端部が突出。（胴径 27.0cm、底径 8.2cm）	称名寺	84	104
Ⅱ	19	住居	2	－	突起	鈍褐	白粒、輝・角	無文の環状突起。	称名寺	84	104
Ⅱ	19	住居	3	－	胴	灰黄褐	輝・角、小石	沈線文、磨消縄文。	称名寺	84	104
Ⅱ	19	住居	4	－	胴	赤	小石	沈線文間に細縄文。	堀之内１	84	104
Ⅱ	19	住居	5	－	底	極暗赤褐	輝・角僅	一旦括れてから大きく開いて立ち上がる。底面に網代痕あり。	堀之内１	84	104
Ⅱ	19	住居	6	－	口	鈍橙	輝・角、小石	横位沈線、縄文。	堀之内２	84	104
Ⅱ	19	住居	7	－	口	鈍黄橙	輝・角、小石	横位沈線、縄文。	堀之内２	84	104
Ⅱ	19	住居	8	－	胴	鈍黄橙	白粒、小石	沈線、細縄文。	堀之内２	84	104
Ⅱ	19	住居	9	－	胴	赤褐	赤粒、輝・角	沈線、細縄文。	堀之内２	84	104
Ⅱ	19	住居	10	深鉢	口～胴	灰黄褐	白粒、輝・角、小石	４単位波状口縁。隆帯による渦巻文と区画、区画内縄文。胴部は沈線、磨消縄文。（口径 33.8cm）	加ＥⅢ	84	105
Ⅱ	19	住居	11	深鉢	胴	鈍褐	白粒、小石	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	84	105
Ⅱ	19	住居	12	－	口	黄白	赤粒、輝・角	太沈線で口縁部区画と胴部文様。区画内と胴部縄文。	加ＥⅢ	84	105
Ⅱ	19	住居	13	－	口	暗灰褐	白粒、輝・角	波状口縁。口縁部は隆帯と沈線で区画。胴部は沈線垂下。区画内と胴部は縄文。	加ＥⅢ	85	105
Ⅱ	19	住居	14	－	口	灰黄褐	輝・角、小石	沈線で口縁部区画と胴部垂下。区画内と胴部縄文。	加ＥⅢ	85	105
Ⅱ	19	住居	15	－	口	鈍黄橙	輝・角	隆帯楕円区画、区画内無文。	加ＥⅢ	85	105
Ⅱ	19	住居	16	－	口	橙	白粒、赤粒、輝・角	沈線で区画、区画内縄文。	加ＥⅢ	85	105
Ⅱ	19	住居	17	－	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	隆帯と太沈線で区画、渦巻文。胴部は沈線垂下、磨消縄文。	加ＥⅢ	85	105
Ⅱ	19	住居	18	－	胴	淡橙	輝・角	縄文、隆帯区画。	加ＥⅢ	85	105
Ⅱ	19	住居	19	－	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	縄文。	加ＥⅢ	85	105
Ⅱ	19	住居	20	－	胴	鈍橙	輝・角	沈線、僅かに縄文。	加ＥⅢ	85	105
Ⅱ	19	住居	21	－	胴	橙	白粒、輝・角、小石	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	85	105
Ⅱ	19	住居	22	－	口	灰黄褐	白粒、輝・角	２条の隆帯で横位区画。沈線渦巻文。	加ＥⅠ	85	105
Ⅱ	19	住居	23	－	把手	淡橙	白粒、輝・角、小石	橋状把手。両側面に沈線文、頂部に沈線渦巻文。	加ＥⅠ	85	105
Ⅱ	19	住居	24	－	口	浅黄橙	石英、輝・角、小石	沈線渦巻文。区画内沈線。	加ＥⅡ	85	105
Ⅱ	19	住居	25	－	口	明赤褐	輝・角	隆帯と沈線による区画と渦巻文、渦巻の上に刺突。口唇部上面に沈線。	加ＥⅡ	85	105
Ⅱ	19	住居	26	－	胴	淡橙	白粒、小石	沈線文、条線文。	加ＥⅡ	85	105
Ⅱ	19	住居	27	－	胴	橙	白粒、小石	縦横の沈線、磨消縄文。（胴径 23.4cm）	加ＥⅡ	85	105
Ⅱ	19	住居２埋	28	深鉢	胴～底	鈍橙	白粒、輝・角	隆線、縄文。（底径 6.6cm）	加ＥⅣ	86	105
Ⅱ	19	住居３埋	29	－	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	縄文。底部に向け極端に窄まる。（胴径 28.6cm）	加ＥⅣ	86	106
Ⅱ	19	住居	30	－	口	橙	白粒、赤粒、小石	無文。	加ＥⅣ	86	105
Ⅱ	19	住居	31	－	口	浅黄橙	白粒、小石	隆帯区画、区画内角押し文。	中期	86	106
Ⅱ	19	住居Ｐ１	32	－	胴	浅黄橙	輝・角	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	86	106
Ⅱ	19	住居Ｐ１	33	－	胴	灰白	白粒、輝・角、小石	縄文。	加ＥⅢ	86	106
Ⅱ	19	住居Ｐ１	34	－	胴	黒褐	白粒、輝・角、小石	沈線文、縄文。	加ＥⅣ	86	106
Ⅱ	19	住居Ｐ６	35	－	口付近	浅黄橙	輝・角僅、小石	口縁部文様帯の下端。隆帯と沈線の区画、区画内は縄文。頸部は無文。	加ＥⅠ	86	106
Ⅱ	19	住居Ｐ７	36	－	胴	浅黄橙	輝・角、小石	２条１組の隆帯と、微かに縄文。	加ＥⅢ	86	106
Ⅱ	20	住居１埋	1	深鉢	ほぼ完形	鈍褐	白粒、輝・角、小石	４単位と思われる緩やかな波状口縁。隆線で区画し、縄文部と無文部の交互構成。（口径 32.2cm、底径 6.6cm、器高 49.0cm）	加ＥⅣ	88	106
Ⅱ	20	住居	2	深鉢	胴～底	浅黄橙	白粒、小石	胴部は縄文。底部は端部がやや突出する平底。（底径 8.2cm）	加ＥⅣ	88	106
Ⅱ	20	住居	3	－	口	浅黄橙	輝・角、小石	無節縄文。	加ＥⅣ	88	106
Ⅱ	20	住居	4	－	口	灰褐	白粒	２条の横位沈線と縄文。	加ＥⅣ	88	106
Ⅱ	20	住居	5	－	口	褐灰	白粒、輝・角	低い波状口縁。沈線文間に縄文。	加ＥⅣ	88	106
Ⅱ	20	住居	6	－	口	橙白	赤粒、輝・角	沈線区画、区画内縄文。	加ＥⅣ	88	106
Ⅱ	20	住居	7	－	口	鈍橙	白粒、輝・角、小石	２段の横位刺突列。胴部は縄文と沈線文。	加ＥⅣ	88	106
Ⅱ	20	住居	8	－	口	鈍橙	輝・角僅	２段の横位刺突列。胴部は縄文と沈線文。	加ＥⅣ	88	106
Ⅱ	20	住居	9	－	胴	鈍橙	赤粒、輝・角	２段の横位刺突列。胴部は縄文と沈線文。	加ＥⅣ	88	106
Ⅱ	20	住居	10	－	口	暗灰褐	輝・角、小石、金雲母	隆帯区画、区画内角押し文。	阿玉台Ⅰｂ	89	106

遺物番号				器種	部位	色調	胎　土	特　徴・法　量　等	時期	図版	写真
Ⅱ	20	住居	11	－	口	橙	白粒、小石	無文。口唇部に稜を持つ。	加ＥⅠ	88	106
Ⅱ	20	住居	12	－	口	灰褐	輝・角	無文。	加ＥⅡ	89	106
Ⅱ	20	住居	13	－	口	黒褐	白粒、小石	無文。	加ＥⅡ	89	106
Ⅱ	20	住居	14	－	口	灰褐	白粒	無文。口唇部が肥厚し内側に稜を持つ。	加ＥⅡ	89	106
Ⅱ	20	住居	15	－	胴	灰褐	白粒、輝・角	隆帯の逆∽字文か。胴部は撚糸文。括れ部に横位沈線。	加ＥⅡ	89	106
Ⅱ	20	住居	16	－	胴	鈍褐	白粒、輝・角、細砂	撚糸文。	加ＥⅡ	89	106
Ⅱ	20	住居	17	－	胴	黄白	白粒、輝・角	撚糸文。	加ＥⅡ	89	106
Ⅱ	20	住居	18	－	胴	鈍橙	輝・角、小石、細砂	縄文、細沈線。	加ＥⅡ	89	106
Ⅱ	20	住居	19	－	胴	淡橙	白粒、輝・角	沈線で縦横に区画、区画内縄文。	加ＥⅡ	89	106
Ⅱ	20	住居	20	－	胴	浅黄橙	輝・角、小石	沈線文。	加ＥⅡ	89	106
Ⅱ	20	住居	21	－	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	鎖状隆帯が括れ部に２条。	加ＥⅡ	89	107
Ⅱ	20	住居	22	－	口	暗灰褐	白粒、輝・角、小石	太沈線区画、区画内縄文。	加ＥⅢ	89	107
Ⅱ	20	住居	23	－	口	鈍褐	白粒、輝・角、小石	隆帯区画、区画内縄文。	加ＥⅢ	89	107
Ⅱ	20	住居	24	－	口	灰	白粒、輝・角、小石	横位太沈線。胴部は条線文。	加ＥⅢ	89	107
Ⅱ	20	住居	25	－	胴	淡橙	輝・角、小石	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	89	107
Ⅱ	20	住居	26	－	胴	黄白	白粒、輝・角、細砂	櫛状工具で半円を描出か。	加ＥⅢ	89	107
Ⅱ	20	住居	27	－	胴	淡橙	白粒、輝・角	微隆線が垂下。縄文部と無文部の交互構成。	加ＥⅢ	89	107
Ⅱ	20	住居	28	－	口	黒褐	白粒、輝・角	側面に刻みを、正面に沈線と刺突を入れた太い隆帯で区画。区画内沈線文。	称名寺	89	107
Ⅱ	20	住居	29	－	口	褐灰	白粒、輝・角	口唇部が内側に突出。胴部は沈線文間に縄文。	称名寺	89	107
Ⅱ	20	住居	30	－	口	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	口縁部横位沈線、胴部縦位隆帯。	堀之内１	89	107
Ⅱ	20	住居	31	－	口	鈍橙	白粒	隆帯と沈線で区画、区画内無文。	堀之内１	89	107
Ⅱ	20	住居	32	－	胴	鈍黄橙	白粒、石英	直線と弧状に垂下する微隆線と沈線文。	堀之内１	89	107
Ⅱ	20	住居	33	－	底	黒褐	白粒	端部が極端に突出。平底。	堀之内	89	107
Ⅱ	20	住居	34	－	口	鈍褐	輝・角、小石	連続刺突による文様描出。	中期中葉	89	107
Ⅱ	20	住居	35	－	胴	鈍褐	金雲母多、小石	縄文を施す隆帯とそれに沿う沈線による区画。区画内は縄文、２条沈線の波形文。隆帯の途中に環状の突起。	中期中葉	90	107
Ⅱ	20	住居	36	－	脚	鈍褐	輝・角、小石	無文。若干反り気味に立ち上がる。	？	89	107
Ⅱ	20	住居	37	耳栓	完形	橙	小石	上面沈線渦巻文と刺突文。下面沈線渦巻文のみ。（径上 2.8cm、径下 2.1cm）	？	89	107
Ⅱ	21	住居	1	深鉢	下半	鈍橙	白粒、輝・角、小石	隆線で区画。縄文部と無文部の交互構成。（底径 7.2cm）	加ＥⅣ	90	107
Ⅱ	21	住居	2	－	口	鈍黄橙	輝・角、小石	横位微隆線より下は縄文。	加ＥⅣ	90	107
Ⅱ	21	住居	3	－	口	灰黄褐	白粒、輝・角	口唇部やや肥厚。胴部は縄文。	加ＥⅣ	90	107
Ⅱ	21	住居	4	－	口	浅黄橙	白粒、小石	斜位２列の竹管刺突と縄文。	加ＥⅣ	90	107
Ⅱ	21	住居	5	－	胴	暗灰褐	白粒、輝・角	太沈線と縄文。	加ＥⅣ	90	107
Ⅱ	21	住居	6	－	胴	淡橙	輝・角、小石	沈線、縄文。	加ＥⅣ	90	107
Ⅱ	21	住居	7	－	胴	鈍黄橙	白粒、小石	沈線、縄文。	加ＥⅣ	90	107
Ⅱ	21	住居	8	－	胴	赤褐	白粒、小石	沈線、縄文。	加ＥⅣ	91	107
Ⅱ	21	住居	9	－	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	沈線、縄文。	加ＥⅣ	91	107
Ⅱ	21	住居	10	－	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	微隆線、縄文。	加ＥⅣ	91	108
Ⅱ	21	住居	11	－	胴	鈍橙	白粒、小石	沈線、条線。	加ＥⅡ	91	108
Ⅱ	21	住居	12	－	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	縄文地文に微隆線で区画、Ｊ字状文。	加ＥⅢ	91	108
Ⅱ	21	住居	13	－	口	淡橙	白粒、輝・角、小石	横位隆帯と太沈線。胴部は縄文。	加ＥⅢ	91	108
Ⅱ	21	住居	14	－	胴	淡橙	白粒、輝・角、小石	２条隆帯、縄文。	加ＥⅢ	91	108
Ⅱ	21	住居	15	－	胴	明赤褐	白粒、輝・角	稜の上位に沈線の痕跡。下位は無文。	加ＥⅢ	91	108
Ⅱ	21	住居	16	－	口	橙	小石	無文。口唇部やや肥厚。	加ＥⅢ	91	108
Ⅱ	21	住居	17	－	口	浅黄橙	白粒	口唇部に稜あり。無文帯の下に微隆線か。	加ＥⅢ	91	108
Ⅱ	21	住居	18	－	底	黄橙	白粒、小石	無文。上げ底。（底径 5.2cm）	加ＥⅢ	91	108
Ⅱ	21	住居	19	－	突起	灰黄褐	白粒、輝・角	波頂部外面に楕円形の貼付文と鎖状隆帯垂下。胴部は沈線と縄文。	称名寺	91	108
Ⅱ	21	住居	20	－	胴	鈍橙	白粒、小石	沈線文、小刺突列。	称名寺	91	108
Ⅱ	21	住居	21	－	胴	黒褐	白粒	沈線文、縄文。	堀之内２	91	108
Ⅱ	21	住居	22	－	胴	淡橙	白粒	条線文。	？	91	108
Ⅱ	21	住居	23	耳栓	下部欠損	黄白	白粒、細砂	沈線渦巻文。（径 2.4cm）	？	91	108
Ⅱ	21	住居	24	土製円板	完形	灰黄褐	白粒、細砂	無文。土器再利用。（径 3.6cm）	？	91	108
Ⅱ	22	住居炉	1	深鉢	胴	橙	白粒、小石	破片上部は口縁部文様帯下部で、横位沈線と隆帯渦巻文。胴部は沈線、磨消縄文。（胴径 11.6cm）	加ＥⅢ	92	108
Ⅱ	22	住居Ｐ２	2	－	胴	鈍橙	白粒	稜より上は縄文、下は無文。	堀之内２	92	108
Ⅱ	23	住居埋甕	1	深鉢	口～胴	鈍橙	白粒、輝・角	４単位波状口縁。隆帯と太沈線による渦巻文と区画。区画内縄文。胴部は沈線、磨消縄文。（口径 25.2cm）	加ＥⅢ	93	108
Ⅱ	24	住居炉	1	深鉢	上半	黄白	白粒、輝・角	突起下の隆帯渦巻文と区画は４単位。突起は１カ所のみ残存し、他の３カ所はちょうど欠落する。区画内縄文。胴部は沈線の∩字状文様内に縄文と蛇行沈線。（口径 29.6cm）	加ＥⅢ	94	108
Ⅱ	24	住居埋甕	2	－	胴	橙	白粒、小石	縄文地文。沈線の∩字状文と、上からの蕨手状文の一部。（胴径 24.2cm）	加ＥⅡ	94	108
Ⅱ	25	住居	1	－	口	淡橙	白粒、輝・角	口唇部上面に沈線。胴部は縦位沈線。	加ＥⅡ併行	95	108
Ⅱ	25	住居Ｐ４	2	－	口	鈍赤褐	輝・角、小石	無文。口唇部が若干肥厚。	加ＥⅢ	95	108

遺物番号				器種	部位	色調	胎　土	特　徴・法　量　等	時期	図版	写真
Ⅱ	25	住居Ｐ４	3	－	胴	橙～暗灰	白粒、小石	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	95	108
Ⅱ	25	住居Ｐ５	4	－	口	黒・鈍橙	白粒	口縁沿いに隆帯。胴部は縄文。	加ＥⅡ	96	108
Ⅱ	25	住居Ｐ６	5	－	胴	暗灰褐	輝・角、小石	沈線文。	加ＥⅡ	96	108
Ⅱ	25	住居Ｐ６	6	－	胴	灰褐	輝・角、小石	隆帯と沈線による区画、区画内は縄文。	加ＥⅡ	95	108
Ⅱ	26	住居	1	－	把手	褐灰	白粒	内面からも穿孔される橋状把手。外面と側面に沈線文。	加ＥⅠ	97	109
Ⅱ	26	住居	2	－	胴	橙	白粒、赤粒、小石	縄文。	加ＥⅡ	97	109
Ⅱ	26	住居	3	－	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	隆帯区画、区画内沈線。	加ＥⅡ	97	109
Ⅱ	26	住居Ｐ５	4	－	胴	鈍橙	白粒、小石	５単位櫛描文。	加ＥⅢ	97	109
Ⅱ	26	住居	5	－	口	浅黄橙	赤粒、小石	口唇部に押圧痕。胴部に沈線文。	称名寺	97	109
Ⅱ	26	住居	6	－	胴	暗灰褐	白粒、輝・角	無文。	称名寺	97	109
Ⅱ	27	住居炉転	1	深鉢	ほぼ完形	淡橙	白粒、輝・角	縦位条線文。平底。（口径 41.2cm、底径 9.6cm、器高 54.0cm）	堀之内１	98	109
Ⅱ	27	住居	2	－	胴	暗褐	輝・角、小石	８字状貼付文。沈線文と細縄文。	堀之内２	98	109
Ⅱ	28	住居	1	－	口	赤褐	白粒	隆帯区画に沿って２列の刺突文。硬質。	阿玉台Ⅰｂ	100	109
Ⅱ	28	住居	2	－	胴	鈍赤褐	白粒、赤粒、小石	全面に縄文後、低い隆帯を添付。その上に縄文。	阿玉台Ⅳ	100	109
Ⅱ	28	住居	3	深鉢	上半	灰黄褐	白粒、輝・角、小石	縄文を地文として、口縁部と括れ部に隆帯。（口径 24.5cm）	加ＥⅠ	100	109
Ⅱ	28	住居	4	－	口	暗赤褐	白粒、輝・角、小石	口縁部文様帯は縦位隆帯と横位沈線、交互刺突文。頸部は無文。	加ＥⅠ	100	109
Ⅱ	28	住居	5	－	口	極暗赤褐	輝・角僅、小石僅	口縁部は隆帯と沈線による区画と文様。胴部は撚糸文。破片下端に横位沈線。	加ＥⅠ	100	109
Ⅱ	28	住居	6	－	口	灰褐	白粒、小石	口縁部文様帯は横位沈線と上下交互刺突の波形文。瘤状突起に沈線渦巻文。体部は縄文。	加ＥⅠ	100	109
Ⅱ	28	住居	7	深鉢	口～胴	淡橙	白粒、輝・角	口縁部は隆帯による区画と渦巻文。区画内縄文。胴部はキザミを入れた２条１組の隆帯垂下、縄文。（口径 30.8cm）	加ＥⅡ	100	110
Ⅱ	28	住居	8	－	口～胴	灰褐	白粒、小石	口縁部は隆帯と沈線による区画と文様、区画内は縄文。胴部は沈線、磨消縄文。	加ＥⅡ	100	110
Ⅱ	28	住居	9	－	口	橙	小石	等間隔で縦位隆帯。	加ＥⅡ	100	110
Ⅱ	28	住居	10	－	口	明褐灰	白粒僅	口縁部横位沈線間に刺突列。胴部は縦位沈線と縄文。	加ＥⅡ	100	110
Ⅱ	28	住居	11	－	口	暗褐灰	白粒僅	口縁部は横位沈線間に２段の円形刺突列。胴部は縄文。	加ＥⅡ	100	110
Ⅱ	28	住居	12	－	把手	赤褐	輝・角	両側面と内面に開口する三又の橋状把手か。両側面と上面に沈線文。側面に一部ミガキあり。	加ＥⅡ	100	110
Ⅱ	28	住居	13	－	胴	鈍褐	輝・角、小石	縄文。（胴径 25.8cm）	加ＥⅡ	100	110
Ⅱ	28	住居	14	－	胴	灰褐	白粒、輝・角	横位隆帯と隆帯文。胴部は撚糸文。	加ＥⅡ	101	110
Ⅱ	28	住居	15	－	胴	橙白	白粒、輝・角	綾杉状の縄文後、縦位沈線。	加ＥⅡ	100	110
Ⅱ	28	住居	16	－	胴～底	暗赤褐	輝・角、小石多	胴部は縄文。底部は端部がやや張る平底。	加ＥⅡ	101	110
Ⅱ	28	住居	17	深鉢	胴～底	暗赤褐	輝・角、小石	胴部は撚糸文。底部は平底。（胴径 13.1cm、底径 7.8cm）	加ＥⅡ	101	110
Ⅱ	28	住居	18	－	口	鈍褐	白粒、小石	口縁部は隆帯と太沈線による区画、区画内縦沈線。胴部沈線、磨消縄文。（口径 60.8cm）	加ＥⅢ	101	110
Ⅱ	28	住居	19	－	口	鈍橙	輝・角	突起部欠損。隆帯区画、渦巻文。区画内縄文。	加ＥⅢ	101	110
Ⅱ	28	住居	20	－	胴	浅黄橙	赤粒僅、輝・角	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	101	110
Ⅱ	28	住居	21	－	胴	黒	小石	沈線と磨消縄文。縄文は複節。	加ＥⅢ	101	110
Ⅱ	28	住居	22	－	胴	浅黄橙	輝・角、小石	縄文。	加ＥⅢ	101	110
Ⅱ	28	住居	23	深鉢	胴～底	鈍黄橙	白粒、輝・角	胴部は沈線、磨消縄文。底部はやや丸みを帯びる平底。	加ＥⅢ	101	110
Ⅱ	28	住居	24	－	口～胴	浅黄橙	白粒、輝・角僅	口縁部は無文、横位隆線の一部が瘤状に。胴部は縄文。	加ＥⅣ	101	110
Ⅱ	28	住居	25	－	胴	暗灰褐	白粒、輝・角	沈線と磨消縄文。破片上部に横位微隆線と小さな瘤。	加ＥⅣ	101	110
Ⅱ	28	住居	26	－	口	橙	白粒	沈線で上下２帯に分割。上段には円形刺突文、下段には鋸歯縄文。	中峠	101	110
Ⅱ	28	住居	27	－	突起	灰褐	白粒、輝・角	外面に縄文。中央に穿孔。	称名寺	102	110
Ⅱ	28	住居	28	深鉢	ほぼ完形	灰褐	白粒、輝・角	口唇部に指頭圧痕。胴部はやや粗いナデのみの無文。底部欠損。（口径 28.6cm、底径 7.6cm、器高 43.2cm）	堀之内１	102	111
Ⅱ	28	住居	29	－	口	案赤褐	金雲母、白粒	細く深い沈線文。硬質。	中期中葉	102	110
Ⅱ	28	住居	30	－	口	鈍黄橙	輝・角、小石	無文。内面黒色。	中期後半	102	110
Ⅱ	28	住居	31	－	底	鈍黄橙	白粒、小石	胴部無文。平底。（底径 12.0cm）	中期後半	102	110
Ⅱ	28	住居	32	－	底	黒褐	小石	大きく開いて立ち上がる。端部がやや張る平底。（底径 7.0cm）	中期後半	102	110
Ⅱ	28	住居	33	－	突起	黄白～橙	輝・角、小石	橋状把手の基部か。胴部に縄文。	？	102	111
Ⅱ	28	住居	34	－	把手	灰褐～黒	白粒、輝・角、小石	無文の橋状把手。胴部には縄文。	？	102	111
Ⅱ	29	住居Ｐ７	1	深鉢	口～胴	赤褐	赤粒、輝・角	突起が付くが欠損。口縁部は隆帯と沈線による区画と文様、区画内は縄文。剣舞無文帯の下に横位隆帯。胴部は沈線文と縄文。（口径 22.5cm）	加ＥⅡ	103	111
Ⅱ	29	住居Ｐ１	2	深鉢	下半	橙～鈍褐	白粒、輝・角、小石	沈線文、縄文。（底径 7.5cm）	加ＥⅡ	103	111

遺物番号				器種	部位	色調	胎　土	特　徴・法　量　等	時期	図版	写真
Ⅱ	29	住居Ｐ１	3	－	口	赤褐	白粒、小石	隆帯区画、区画内縄文。胴部にも縄文。	加ＥⅠ	103	111
Ⅱ	29	住居炉	4	－	口	橙	白粒、赤粒、小石	波状口縁か。隆帯による文様。	中期中葉	103	111
Ⅱ	30	住居炉	1	－	口	暗褐	白粒	沈線で２条に分けた隆帯で区画、渦巻文。区画内は縄文。	加ＥⅡ	105	111
Ⅱ	30	住居炉	2	－	胴	橙～鈍褐	白粒、輝・角	５単位の条線文。括れ部に横位沈線。３と同一個体。	加ＥⅡ	105	111
Ⅱ	30	住居炉	3	－	胴	橙～鈍褐	白粒、輝・角	５単位の条線文。括れ部に横位沈線。２と同一個体。	加ＥⅡ	105	111
Ⅱ	30	住居炉	4	－	胴	鈍い橙	白粒、石英	縄文、横位沈線。	加ＥⅡ	105	111
Ⅱ	30	住居炉	5	－	胴	橙	輝・角、小石	縄文。	加ＥⅡ	105	111
Ⅱ	30	住居炉	6	－	胴	灰白	白粒、輝・角	沈線文、綾杉状縄文。	加ＥⅡ	105	111
Ⅱ	30	住居炉	7	－	胴	灰褐	小石	無文。括れ部から稜にかけて赤色塗彩あり。内面にも括れ部より上位に赤色塗彩あり。	加ＥⅡ	105	111
Ⅱ	30	住居	8	－	口～胴	橙	白粒、小石	波頂部の突起が欠落か。口縁は隆帯で区画、区画内沈線。胴部は６単位の条線文。９と同一個体。	加ＥⅡ	105	111
Ⅱ	30	住居	9	－	口～胴	橙	白粒、小石	波頂部の突起が欠落か。口縁は隆帯で区画、区画内沈線。胴部は６単位の条線文。８と同一個体。	加ＥⅡ	105	112
Ⅱ	30	住居	10	－	口	橙	白粒、赤粒	口縁部は隆帯と沈線で区画、区画内沈線。渦巻部は瘤状。胴部は沈線垂下。	加ＥⅡ	105	112
Ⅱ	30	住居	11	－	口	鈍赤褐	白粒、小石	隆帯で区画、区画内縄文。	加ＥⅡ	105	112
Ⅱ	30	住居	12	－	口	明赤褐	白粒、輝・角	波状口縁。口唇部稜を持ち肥厚、上面に沈線渦巻文。口縁部は隆帯と沈線で区画、文様。区画内縄文。	加ＥⅡ	106	112
Ⅱ	30	住居	13	－	口・突起	鈍褐	白粒、輝・角、小石	口縁部は隆帯と沈線で区画、区画内縄文。瘤状の突起は片側に沈線渦巻文。頸部は無文。	加ＥⅡ	106	112
Ⅱ	30	住居	14	－	口・突起	橙	輝・角、小石	波状口縁。隆帯と沈線で区画、区画内と胴部は撚糸文。波頂部正面と瘤状の突起は渦巻状。	加ＥⅡ	106	112
Ⅱ	30	住居	15	－	胴	鈍黄橙	白粒、小石	隆帯と沈線の区画と渦巻文。区画内縄文。上位に刺突列。	加ＥⅡ	106	112
Ⅱ	30	住居	16	－	胴	橙	白粒、赤粒、小石	沈線文、縄文。渦巻や蕨手部分で瘤状に盛り上がる。	加ＥⅡ	106	112
Ⅱ	30	住居	17	－	胴	暗灰褐	輝・角	括れ部に横位沈線。それより上位は無文、下位には条線文。	加ＥⅡ	106	112
Ⅱ	30	住居	18	－	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	条線文後、沈線文。	加ＥⅡ	106	112
Ⅱ	30	住居	19	－	胴	褐灰	白粒、小石	撚糸文後、細沈線で文様描出。	加ＥⅡ	107	112
Ⅱ	30	住居	20	－	胴	橙	白粒、小石	沈線文、縄文。	加ＥⅡ	106	112
Ⅱ	30	住居	21	－	胴	鈍赤褐	白粒、小石	縄文、沈線。	加ＥⅡ	106	112
Ⅱ	30	住居	22	－	胴	浅黄橙	白粒、小石	縄文、細沈線。	加ＥⅡ	106	112
Ⅱ	30	住居	23	－	胴	橙	白粒、赤粒、小石	条線文。	加ＥⅡ	107	112
Ⅱ	30	住居	24	－	胴～底	淡橙	輝・角、石英、小石	胴部沈線と縄文。平底、若干反り気味に立ち上がる。（底径 9.6cm）	加ＥⅡ	107	112
Ⅱ	30	住居炉	25	－	口	鈍橙	白粒、輝・角、小石	横位沈線と沈線を入れた弧状の隆帯で区画。区画内沈線。	加ＥⅠ	107	112
Ⅱ	30	住居	26	－	口	橙	白粒、赤粒	口縁部は隆帯と沈線による区画、区画内は沈線と刺突。胴部は縄文。	加ＥⅠ	107	112
Ⅱ	30	住居	27	－	口	淡橙	白粒、小石	波状口縁。隆帯と沈線で区画と渦巻文。区画内と胴部は撚糸文。	加ＥⅠ	107	112
Ⅱ	30	住居	28	深鉢	上半	黄白	白粒、輝・角	平口縁。隆帯による４単位の渦巻文と区画。区画内縄文。胴部は沈線の∩字状文様内に縄文と蛇行沈線。（口径 35.0cm）	加ＥⅢ	107	113
Ⅱ	30	住居	29	－	口	暗赤褐	赤粒、輝・角、小石	隆帯と太沈線で楕円形に区画、区画内縄文。胴部は沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	107	113
Ⅱ	30	住居	30	－	口～胴	鈍橙	白粒、雲母、小石	無文。	中期後半	107	113
Ⅱ	30	住居	31	－	底	明赤褐	白粒、輝・角、小石	胴部無文。平底。（底径 9.6cm）	中期後半	108	113
Ⅱ	30	住居	32	－	底	鈍黄橙	白粒	胴部無文。平底。（底径 4.9cm）	中期後半	108	113
Ⅱ	30	住居炉	33	－	底	浅黄橙	白粒、小石	胴部無文。平底。（底径 9.4cm）	中期後半	108	113
Ⅱ	30	住居炉	34	－	底	橙	白粒、赤粒、小石	胴部は縄文。平底。（底径 13.8cm）	中期後半	108	113
Ⅱ	30	住居	35	土製円板	完形	鈍橙	白粒、輝・角	無文か？（径 3.0cm）	?	108	113
Ⅱ	31	住居	1	浅鉢	口～底	鈍橙	白粒、輝・角	括れ部に隆帯波形文。その下に沈線による区画と文様。稜以下の胴部は無文。底部は丸みを帯び、外反しながら立ち上がる。平底。（口径 31.0cm、底径 8.2cm、器高 21.9cm）	加ＥⅡ	110	113
Ⅱ	31	住居	2	－	口	浅黄橙	赤粒、小石	隆帯の区画と渦巻文。区画内沈線。	加ＥⅡ	109	113
Ⅱ	31	住居	3	－	口	暗赤褐	白粒	口縁部文様帯は隆帯の区画と渦巻文。頸部は無文。	加ＥⅡ	109	113
Ⅱ	31	住居	4	－	口	黒褐	白粒、輝・角	隆帯文。	加ＥⅡ	109	113
Ⅱ	31	住居	5	－	突起	黒褐	白粒	突起に沈線渦巻文。口縁部区画は隆帯と沈線。頸部は無文。	加ＥⅡ	109	113
Ⅱ	31	住居	6	－	口	橙	小石	口唇部が肥厚し２段になる、。	加ＥⅡ	109	113

遺物番号				器種	部位	色調	胎　土	特　徴・法　量　等	時期	図版	写真
Ⅱ	31	住居	7	—	口	暗赤褐	白粒、赤粒	口唇部は稜を持ち、内側に鋭く突出。胴部は文様か整形痕か微妙。	加ＥⅡ	109	113
Ⅱ	31	住居	8	—	胴	鈍橙	白粒、小石	隆帯渦巻文による文様区画、区画内は沈線、一部に刺突。	加ＥⅡ	110	113
Ⅱ	31	住居	9	—	胴	暗灰褐	白粒、輝・角、小石	隆帯と沈線で区画、区画内沈線。隆帯渦巻文内は刺突。	加ＥⅡ	110	113
Ⅱ	31	住居	10	—	胴	暗赤褐	白粒、小石	隆起線文、縄文。	加ＥⅡ	110	113
Ⅱ	31	住居	11	—	胴	灰褐	小石、金雲母	条線文と沈線渦巻文。破片上端に交互刺突文。	加ＥⅡ	110	113
Ⅱ	31	住居	12	—	底	鈍橙	白粒、輝・角、小石	平底。端部はやや突出。胴部は無文で、丸みを帯びてまっすぐ立ち上がる。（底径 8.6cm）	加ＥⅡ	110	114
Ⅱ	31	住居	13	—	底	橙	白粒、輝・角、小石	平底。（底径 9.6cm）	加ＥⅡ	110	114
Ⅱ	31	住居	14	—	口～胴	鈍黄橙	白粒	口縁部は隆帯と沈線で区画、区画内縄文。胴部は沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	110	114
Ⅱ	31	住居	15	—	口	黒灰	白粒、輝・角、小石	太沈線区画、区画内縄文。	加ＥⅢ	110	114
Ⅱ	31	住居	16	—	口	黄白	白粒、小石	口縁部は沈線と微隆帯で区画、胴部は沈線垂下。区画内と胴部に縄文。	加ＥⅢ	110	114
Ⅱ	31	住居	17	—	口	淡橙	輝・角、小石	無文。	加ＥⅢ	110	114
Ⅱ	31	住居	18	—	胴	橙	輝・角	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	111	114
Ⅱ	31	住居	19	—	胴	淡橙	輝・角	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	110	114
Ⅱ	31	住居	20	—	胴	鈍橙	輝・角、細砂	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	110	114
Ⅱ	31	住居	21	—	胴	鈍黄橙	白粒、小石、細砂	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	110	114
Ⅱ	31	住居	22	—	胴	明赤褐	白粒、輝・角、小石	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	110	114
Ⅱ	31	住居	23	—	胴	鈍橙	白粒、小石	沈線の地文に隆帯渦巻文。	加ＥⅢ	111	114
Ⅱ	31	住居	24	—	胴	淡橙	小石	杉綾状の沈線文に隆帯垂下。一部に縄文。	加ＥⅢ	111	114
Ⅱ	31	住居	25	—	胴	浅黄橙	輝・角、小石	隆帯垂下、縄文。	加ＥⅢ	111	114
Ⅱ	31	住居	26	—	胴	黒褐	白粒、小石、金雲母	隆帯、沈線文、縄文。	阿玉台Ⅳ	111	114
Ⅱ	31	住居	27	—	胴～底	鈍橙	小石多	縦横の沈線。懸垂する刻みを入れた隆帯とそれに沿う沈線。底部はやや丸みを帯びる、平底。（底径 7.8cm）	加ＥⅠ	111	114
Ⅱ	31	住居	28	—	胴	黒褐	白粒、輝・角	隆帯文、縄文。下半は無文。	加ＥⅣ	111	114
Ⅱ	31	住居	29	—	胴	鈍橙	輝・角、小石	微隆起線文を境に縄文部と無文部。	加ＥⅣ	111	114
Ⅱ	32	住居炉	1	—	口	暗灰褐	白粒、輝・角、小石	隆帯区画、区画内縄文。	加ＥⅡ	112	115
Ⅱ	32	住居Ｐ１	2	—	胴	淡橙	輝・角、小石	沈線、磨消縄文。	加ＥⅡ	112	115
Ⅱ	32	住居Ｐ１	3	—	胴	鈍褐	輝・角、小石	３条１組の縦位沈線と斜位条線文。	加ＥⅡ	112	115
Ⅱ	32	住居炉	4	—	胴	橙	白粒、赤粒、砂	隆帯、沈線。口縁部文様帯の一部か。	中期中葉	112	115
Ⅱ	32	住居炉	5	—	口	暗褐	小石	緩やかな波状口縁。胴部は縄文。	？	112	115
Ⅱ	33	住居炉	1	深鉢	胴	鈍橙	白粒、輝・角	隆帯と太沈線による渦巻文と区画。区画内縄文。胴部は沈線、磨消縄文。（胴径 23.4cm）	加ＥⅢ	114	115
Ⅱ	33	住居炉	2	—	胴	灰褐	白粒	低い隆帯と太沈線。	加ＥⅢ	114	115
Ⅱ	33	住居炉	3	—	底	明褐灰	輝・角、小石	底面はやや丸みを帯びる。（底径 4.8cm）	？	114	115
Ⅱ	33	住居炉	4	深鉢	口～胴	浅黄橙	白粒、輝・角	４単位波状口縁。隆帯と太沈線による渦巻文と区画。区画内縄文。胴部は沈線、磨消縄文。（口径 18.8cm）	加ＥⅢ	114	115
Ⅱ	33	住居１埋	5	深鉢	胴	鈍黄橙	輝・角、小石	隆帯文、縄文。（胴径 22.8cm）	加ＥⅢ	114	115
Ⅱ	33	住居２埋	6	—	胴	褐灰	白粒、輝・角	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	114	115
Ⅱ	33	住居Ｐ７	7	—	胴	黒	輝・角、小石	沈線文。	堀之内１	114	115
Ⅱ	33	住居Ｐ７	8	—	胴	灰白	白粒、輝・角	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	114	115
Ⅱ	45	住居炉	1	深鉢	底欠落	橙	白粒、小石	口縁部は隆帯と沈線による区画、区画内と胴部は縄文。（口径 19.2cm）	加ＥⅡ古	116	115
Ⅱ	45	住居炉	2	深鉢	胴	浅黄橙	白粒、輝・角僅	沈線文、縄文。（胴径 25.1cm）	加ＥⅡ	116	115
Ⅱ	45	住居Ｐ３	3	—	口	灰黄	輝・角多	沈線文、縄文。	加ＥⅢ	116	115
Ⅱ	45	住居Ｐ３	4	—	胴	淡橙	輝・角僅	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	116	115
Ⅱ	46	住居炉	1	深鉢	口～胴	赤橙	白粒、輝・角、小石	口縁部は隆帯と沈線による区画と渦巻文、区画内は縄文。沈線、磨消縄文。（口径 34.0cm）	加ＥⅢ	118	116
Ⅱ	46	住居炉	2	—	口	浅黄橙	小石僅	沈線間に刺突列。（胴径 27.5cm）	加ＥⅡ	117	116
Ⅱ	46	住居１埋	3	壺	口～胴	浅黄橙	白粒、小石	全面に縄文。口縁部と括れ部に横位沈線。胴部には沈線の懸垂文と渦巻文。	加ＥⅡ	118	116
Ⅱ	46	住居１埋	4	—	胴	暗灰褐	白粒、輝・角	沈線、縄文。	堀之内１	117	116
Ⅱ	46	住居１埋	5	—	胴	暗灰褐	白粒、輝・角	沈線文、刺突列。	称名寺	117	116

遺物番号				器種	部位	色調	胎　土	特　徴・法　量　等	時期	図版	写真
Ⅱ	46	住居２埋	6	－	胴	橙白	白粒、小石	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	118	116
Ⅱ	46	住居２埋	7	－	口	淡橙	小石	口縁部は無文。括れ部に沈線。	堀之内１	118	116
Ⅱ	46	住居Ｐ２	8	－	胴	橙	白粒、小石	沈線文。	加ＥⅠ	117	116
Ⅱ	46	住居Ｐ２	9	－	胴	鈍褐	白粒、輝・角、小石	縄文。	中期後半	118	116
Ⅱ	46	住居Ｐ２	10	－	胴	鈍褐	輝・角、小石	縄文。	中期後半	118	116
Ⅱ	46	住居Ｐ２	11	－	胴	鈍橙	白粒、輝・角	２条の隆線。	中期後半	118	116
Ⅱ	47	住居１埋	1	－	胴	淡橙	白粒、小石多	２条１組の沈線で波形や縦横の文様と、縄文。（胴径 19.0cm）	加ＥⅡ	119	116
Ⅱ	47	住居１埋	2	－	口	橙	輝・角僅、小石	沈線間に刺突列。胴部は沈線文と縄文。３と同一個体。	加ＥⅣ	119	116
Ⅱ	47	住居１埋	3	－	口	橙	輝・角僅、小石	沈線間に刺突列。胴部は沈線文と縄文。２と同一個体。	加ＥⅣ	119	116
Ⅱ	47	住居１埋	4	－	口	暗灰褐	小石	口唇部上面に刻み､内面に横位沈線｡｡胴部には斜位の条線。	堀之内２？	119	116
Ⅱ	47	住居Ｐ２	5	－	胴	明褐灰	白粒、小石	把手が剥離か。隆線と縄文。	加ＥⅣ	119	116
Ⅱ	47	住居Ｐ６	6	－	口	浅黄橙	白粒、小石	隆帯による区画、区画内縄文。	加ＥⅢ	119	116
Ⅱ	47	住居Ｐ６	7	－	口	鈍黄橙	赤粒、輝・角	口唇部肥厚。隆帯、縄文。	加ＥⅢ	119	116
Ⅱ	47	住居Ｐ６	8	－	口	鈍橙	輝・角、小石	波状口縁。隆帯文。縄文。	加ＥⅢ	119	116
Ⅱ	48	住居Ｐ１	1	－	胴	黒灰	白粒、輝・角	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	122	116
Ⅱ	48	住居Ｐ１	2	－	胴	灰白	輝・角	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	122	116
Ⅱ	48	住居Ｐ３	3	－	胴	灰白	輝・角僅、小石	沈線。	称名寺	122	116
Ⅱ	48	住居Ｐ４	4	－	胴	暗赤褐	小石	縄文。	加ＥⅡ	122	116
Ⅱ	48	住居Ｐ４	5	－	胴	鈍橙	輝・角多、小石	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	122	116
Ⅱ	48	住居Ｐ７	6	－	胴	浅黄橙	輝・角	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	122	116
Ⅱ	48	住居Ｐ８	7	－	胴	鈍橙	白粒、小石	隆帯文の内側に半截竹管の刺突と沈線の刻み。	勝坂３	122	116
Ⅱ	49	住居Ｐ４	1	－	口	橙	白粒、輝・角	波状口縁。太沈線渦巻文、縄文。	加ＥⅢ	123	116
Ⅱ	49	住居Ｐ４	2	－	胴	橙	輝・角	沈線、縄文。312 土 - 1 と似る。	称名寺	123	116
Ⅱ	49	住居Ｐ４	3	－	口	黒、鈍橙	小石	縦横の沈線、縄文。煤が付着。４と同一個体か。	堀之内１	123	116
Ⅱ	49	住居Ｐ４	4	－	口	黒、橙	小石	横位沈線、縄文。煤が付着。３と同一個体か。	堀之内２	123	116
Ⅱ	49	住居Ｐ８	5	－	胴	鈍橙	白粒、輝・角	刻みを入れた隆帯と２段の半截竹管文。	勝坂３	123	116
Ⅱ	50	住居１埋	1	深鉢	胴	鈍黄橙	白粒、小石	沈線文、縄文。（胴径 22.2cm）	加ＥⅢ	124	117
Ⅱ	50	住居１埋	2	－	口	鈍褐	白粒、小石、細砂	波状口縁。口縁沿いに沈線と２段の刺突列。胴部は縄文。	加ＥⅢ	124	117
Ⅱ	50	住居１埋	3	－	胴	鈍橙	白粒、小石	縄文。	加ＥⅢ	127	117
Ⅱ	50	住居Ｐ３	4	－	胴	鈍黄橙	小石	沈線文、細縄文。	堀之内２	127	117
Ⅱ	50	住居Ｐ９	5	－	胴	淡橙	輝・角、小石	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	127	117
Ⅱ	51	住居炉	1	－	胴	鈍褐	白粒、小石、細砂	沈線文、縄文。（胴径 16.5cm）	加ＥⅡ	125	117
Ⅱ	52	住居炉	1	－	胴	明赤褐	赤粒、小石	２条１組の縦位沈線。上半は条線文。下半は縄文。	加ＥⅢ	127	117
Ⅱ	52	住居Ｐ１	2	－	胴	暗赤褐	白粒	刻みを入れた隆帯、沈線文。	加ＥⅠ	127	117
Ⅱ	52	住居Ｐ１	3	－	口	浅黄橙	赤粒、輝・角	小波状口縁。沈線文。	加ＥⅡ	127	117
Ⅱ	52	住居Ｐ１	4	－	口	赤褐	白粒、赤粒、小石	口唇部丸く肥厚。横位沈線の下は縄文。	加ＥⅢ	127	117
Ⅱ	52	住居Ｐ３	5	－	口	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	穿孔のある小波状口縁。内側に刺突。	堀之内１	127	117

遺物番号				器種	部位	色調	胎　土	特　徴・法　量　等	時期	図版	写真
Ⅱ	52	住居Ｐ３	6	－	胴	淡橙	白粒、小石	沈線幾何学文、細縄文。	堀之内２	127	117
Ⅱ	52	住居Ｐ３	7	－	胴	黒褐	輝・角	沈線幾何学文、細縄文。	堀之内２	127	117
Ⅱ	53	住居２埋	1	深鉢	2/3残存	鈍黄橙	白粒、小石	口縁部に２段の刺突列。全体に縦位条線文後、２条１組の沈線文様を施して間を磨り消す。底部は窄まり、平底。	加ＥⅡ	128	117
Ⅱ	54	住居Ｐ３	1	－	胴	灰白	白粒	微隆線、縄文。	加ＥⅣ	130	117
Ⅱ	54	住居Ｐ４	2	－	胴	褐灰・黒	白粒、輝・角、小石	８字状貼付文から横へ沈線と刺突列、下には沈線と縄文。	堀之内１	130	117
Ⅱ	54	住居Ｐ４	3	－	胴	鈍黄橙	小石	沈線、縄文。	称名寺	130	117
Ⅱ	54	住居Ｐ６	4	土製円板	完形	灰白	輝・角	縄文。（径 2.6cm）	？	130	117
Ⅱ	54	住居Ｐ９	5	－	胴	暗灰褐	輝・角、小石	隆帯、縄文。	加ＥⅡ	130	117
Ⅰ	4	配石	1	－	胴	灰黄	白粒、輝・角、小石	隆帯、磨消縄文。	加ＥⅣ	132	118
Ⅰ	6	配石	1	－	胴	浅黄橙	輝・角、小石	条線文、隆帯。	加ＥⅣ	132	118
Ⅰ	6	配石	2	－	胴	橙	赤粒、小石	横位隆帯以上は無文。胴部は垂下隆帯区画、区画内条線。	加ＥⅣ	132	118
Ⅰ	6	配石	3	－	胴	橙	輝・角	縦位隆帯、縦位条線。	加ＥⅣ	132	118
Ⅰ	6	配石	4	－	胴	黄白	輝・角、小石	沈線文、刺突列点文。	称名寺	132	118
Ⅰ	6	配石	5	－	ほぼ完形	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	口縁部に穿孔。底部には貼付痕。ミニチュア土器か、貼付文か。（口径 3.6cm、器高 3.3cm）	？	132	118
Ⅱ	5	配石	1	－	胴	橙	小石	隆帯による横位複数段区画。区画内交互刺突により鋸歯文を描出。	加ＥⅠ	133	118
Ⅱ	5	配石	2	－	胴	灰褐	小石	隆帯、沈線、縄文。	加ＥⅡ	133	118
Ⅱ	5	配石	3	－	胴	鈍橙	白粒	沈線文、縄文。	加ＥⅡ	133	118
Ⅱ	5	配石	4	－	口～胴	灰褐	白粒、小石	口唇部肥厚。無文。	中期後半	133	118
Ⅱ	6	配石	1	－	口～胴	灰黄褐	小石	小波状口縁。胴部は沈線文と縄文。	堀之内１	134	118
Ⅱ	6	配石	2	－	口	灰白	白粒、小石	無文。やや内湾する。	堀之内１	134	118
Ⅱ	6	配石	3	－	胴	橙	白粒、小石	隆帯。	加ＥⅢ	134	118
Ⅱ	8	配石	1	－	口	橙	輝・角、小石	口縁部に横位沈線２条。	加ＥⅡ	134	118
Ⅱ	8	配石	2	－	口	灰白	白粒、輝・角	口縁部は隆帯と太沈線で区画、区画内は縄文。胴部は沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	134	118
Ⅱ	8	配石	3	－	胴	灰褐	白粒、小石	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	134	118
Ⅱ	8	配石	4	－	胴	暗灰褐	白粒	沈線文、縄文。	称名寺	134	118
Ⅱ	8	配石	5	－	胴	鈍橙	輝・角、小石	沈線文。	称名寺	134	118
Ⅱ	8	配石	6	－	胴	灰白	白粒、輝・角	沈線。	堀之内１	134	118
Ⅱ	8	配石	7	－	胴	浅黄橙	輝・角、小石	沈線文。	堀之内１	134	118
Ⅱ	20	配石	1	－	把手	鈍黄橙	白粒、小石	無文の橋状把手。胴部には沈線文と縄文。	堀之内２	136	118
Ⅱ	21	配石	1	－	口	暗灰褐	輝・角、小石	隆帯と太沈線による区画、区画内は縄文。	加ＥⅢ	137	118
Ⅱ	21	配石	2	－	口	暗灰褐	白粒、小石	沈線文、縄文。	加ＥⅢ	137	118
Ⅱ	21	配石	3	－	胴	灰褐	白粒、輝・角、小石	縄文。	堀之内１	137	118
Ⅱ	21	配石	4	－	底	灰白	輝・角、小石	胴部無文。平底。	堀之内１	137	118
Ⅱ	21	配石	5	－	口	暗灰褐	輝・角、小石	沈線、僅かに縄文。	堀之内２	137	118
Ⅱ	22	配石	1	－	口	灰白	器	横位隆線。胴部は縄文。	加ＥⅢ	139	119
Ⅱ	22	配石	2	－	胴	暗灰褐	白粒、小石	沈線文。下半に稜あり。	堀之内２	139	119
Ⅰ	2	埋甕	1	深鉢	口～胴	淡橙	白粒多、輝・角僅	口唇部が１ヶ所若干盛り上がり、上面に沈線を施す。胴部は沈線文間に縄文。(口径 30.0cm)	堀之内２	140	119
Ⅰ	3	埋甕	1	深鉢	底欠落	鈍橙	白粒、小石	規則的な沈線文。部分的に縄文。（口径 27.8cm）	堀之内１	140	119
Ⅰ	4	埋甕	1	－	底	鈍橙	輝・角僅	端部がやや突出して外反。平底。（底径 6.2cm）	加ＥⅣ	140	119
Ⅰ	4	埋甕	2	深鉢	4/5残存	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	沈線文間に刺突列。底部は、端部が丸みを帯びる平底。（口径 29.4cm、底径 8.0cm、器高 35.8cm）	称名寺	140	119
Ⅰ	5	埋甕	1	深鉢	口	浅黄橙	赤粒、輝・角	沈線文、刺突列点文。２と同一個体。	称名寺	141	119
Ⅰ	5	埋甕	2	深鉢	胴	浅黄橙	赤粒、輝・角	沈線文、刺突列点文。１と同一個体。	称名寺	141	119
Ⅱ	4	埋甕	1	深鉢	口～胴	浅黄橙	白粒、赤粒僅、輝・角	口縁部は刻みを入れた隆帯で区画、区画内は撚糸文、沈線渦巻文、交互刺突文。胴部は撚糸文と括れ部に横位沈線。(口径 19.0cm)	加ＥⅠ	142	120
Ⅱ	11	埋甕	1	深鉢	口	淡橙	小石僅	隆帯と沈線による区画と文様、区画内は縄文。頸部は無文。(口径 24.3cm)	加ＥⅡ	142	120
Ⅱ	13	埋甕	1	浅鉢	完形	暗灰褐	白粒多、輝・角、小石	口縁部が内屈し上面を向く。全体の文様構成は沈線と縄文。(口径 17.9cm、底径 7.0cm、器高 12.2cm)	大洞Ｃ２	142	120
Ⅱ	13	埋甕	2	－	口	暗赤褐	白粒僅	隆帯と沈線による区画、区画内は沈線。	加ＥⅡ	142	120
Ⅱ	17	埋甕	1	深鉢	胴～底	黄灰	輝・角	無文か。一部にケズリ痕、ミガキ痕あり。（底径 7.4cm）	称名寺	143	120
Ⅱ	17	埋甕	2	－	胴	暗灰褐	輝・角	薄い沈線文。	称名寺	143	120
Ⅱ	17	埋甕	3	－	胴	灰	輝・角	沈線文間に縄文。	堀之内２	143	120
Ⅱ	18	埋甕	1	深鉢	胴	橙	白粒、小石	隆帯、撚糸文。（胴径 24.6cm）	加ＥⅡ	144	120
Ⅱ	22	埋甕	1	深鉢	口～胴	鈍橙	赤粒、輝・角、小石	波状口縁。沈線文、縄文。（口径 24.0cm）	加ＥⅢ	143	120

遺物番号				器種	部位	色調	胎　土	特　徴・法　量　等	時期	図版	写真
Ⅱ	22	埋甕	2	—	胴	鈍橙	輝・角、小石	破片上半は二重沈線の懸垂文と条線文。下半は沈線、磨消縄文。（胴径 45.0cm）	加ＥⅢ	143	120
Ⅱ	22	埋甕	3	—	口～胴	浅黄橙	白粒、輝・角	緩い波状口縁。沈線、磨消縄文。	加ＥⅣ	143	120
Ⅱ	23	埋甕	1	深鉢	胴～底	灰黄褐	輝・角、細砂	沈線文、刺突列点文。底部付近は無文。平底。（胴部 34.0cm、底部 8.0cm）	称名寺	144	120
Ⅱ	24	埋甕	1	深鉢	口～胴	暗褐	白粒、輝・角僅	口縁部は隆帯と沈線による区画と渦巻文、区画内は沈線。頸部は無文。胴部は縄文後、縦横と波形の沈線文。底部に近いところで欠落。（口径 19.5cm）	加ＥⅡ	144	121
Ⅲ	2	埋甕	1	深鉢	完形	明褐灰	白粒、輝・角	４突起とその下の環状貼付文を刻み入り隆帯が繋ぐ。口縁部沿いと胴部文様は沈線。（口径 30.2cm、底径 10.6cm、器高 44.0cm）	堀之内１	144	121
Ⅰ	15	土坑	1	—	胴	灰白	輝・角、小石	縄文。摩耗が激しい。	中期後半	154	121
Ⅰ	21	土坑	1	—	口	橙	輝・角	胴部は縦位の撚り糸押圧文と２条１組の沈線を横位に施文。	加ＥⅡ	154	121
Ⅰ	24	土坑	1	—	口	灰褐	白粒、輝・角	隆帯と太沈線による区画と渦巻文、区画内は縄文。渦巻文上は波状口縁か。	加ＥⅢ	154	121
Ⅰ	24	土坑	2	—	口	灰褐	白粒、輝・角	隆帯と太沈線による区画、区画内は櫛描文。波状口縁基部か。内側に稜あり。	加ＥⅢ	154	121
Ⅰ	24	土坑	3	—	胴	浅黄橙	輝・角僅	沈線、磨消縄文。（胴径 15.9cm）	加ＥⅢ	154	121
Ⅰ	24	土坑	4	—	胴	灰褐	白粒、輝・角、小石	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	154	121
Ⅰ	24	土坑	5	—	胴	黒灰	白粒、輝・角、小石	縄文。	加ＥⅢ	154	121
Ⅰ	24	土坑	6	—	胴	灰褐	白粒、輝・角	括れ部に隆帯と太沈線。上位に縄文。	加ＥⅡ	154	121
Ⅰ	32	土坑	1	—	底	橙	小石、細砂	撚糸文。平底。	加ＥⅡ	154	121
Ⅰ	34	土坑	1	深鉢	3/4 残存	橙	輝・角僅	横位埋甕。４単位と思われる橋状突起の痕跡が２ヶ所残る。口縁部は隆帯と沈線による区画、区画内は縄文。頸部無文帯あり。胴部は縄文後、縦横や波形の隆帯を貼付。底部はやや丸みを帯びて窄まり、平底。（口径 43.2cm、底径 10.4cm、器高 59.0cm）	加ＥⅠ新	154	121
Ⅰ	34	土坑	2	—	口	鈍赤褐	白粒、小石	口縁部は隆帯と沈線の区画と渦巻文。胴部は縄文と沈線波状文。	加ＥⅡ	154	122
Ⅰ	34	土坑	3	—	口	鈍褐	小石、細砂	隆帯と沈線による区画と文様、区画内は縄文。頸部は無文。	加ＥⅡ	154	122
Ⅰ	34	土坑	4	—	口	鈍褐	白粒、小石	横位隆帯の上下に沈線。胴部は縄文と沈線文か。	加ＥⅡ	154	122
Ⅰ	34	土坑	5	—	口	橙	小石、細砂	無文。	加ＥⅡ	154	122
Ⅰ	34	土坑	6	—	口	橙白	白粒僅、輝・角	隆帯と沈線による区画と渦巻文。区画内と頸部は無文。	加ＥⅡ	154	122
Ⅰ	34	土坑	7	—	底	淡橙	白粒、輝・角	胴部は縦位沈線。端部にやや丸みを持つ平底。	加ＥⅡ	154	122
Ⅰ	34	土坑	8	—	口・把手	橙、黒灰	白粒、赤粒、小石	両側が盛り上がって沈線を施し、中心線に刺突列を入れる星状把手。口縁に突起の痕跡を残すが、欠損。口縁部は隆帯と沈線による区画と文様、区画内は縄文。頸部は無文。大木８ｂ～９式の要素を有する。	加ＥⅠ	155	122
Ⅰ	34	土坑	9	—	口	暗褐	白粒、輝・角、小石	無文。	中期後半	155	122
Ⅰ	35	土坑	1	—	口	褐	金雲母、小石	隆起線による区画、口縁部と区画内に２列の角押文。区画内には縄文と爪形文。頸部に波形文。	阿玉台Ⅱ	155	122
Ⅰ	35	土坑	2	—	口	淡橙	小石僅	隆帯による区画、区画に沿って条線文、区画内は短沈線。胴部に沈線文か。	阿玉台Ⅱ	155	122
Ⅰ	35	土坑	3	—	口付近	鈍褐	金雲母、小石	隆帯を貼付。	阿玉台Ⅱ	155	122
Ⅰ	35	土坑	4	—	口	暗灰	小石	無文	加ＥⅡ	155	122
Ⅰ	35	土坑	5	—	胴	鈍褐	白粒、輝・角、小石	縦位３条と横位に沈線、磨消縄文。	加ＥⅡ	155	122
Ⅰ	35	土坑	6	—	口	黄白	白粒、赤粒	隆帯と太沈線による区画と円孔。	加ＥⅢ	155	122
Ⅰ	35	土坑	7	深鉢	口～胴	鈍褐	輝・角僅、小石	口縁部無文帯の下に隆線が２条。間に縄文、跨ぐ橋状把手の痕跡。胴部は縄文。（口径 28.2 ｃｍ）	加ＥⅣ	155	122
Ⅰ	35	土坑	8	—	口～胴	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	口縁部には刻みを入れた微隆帯と８の字状貼付文。胴部は沈線文。	堀之内２	155	122
Ⅰ	38	土坑	1	—	口	鈍橙	白粒、小石	隆帯と沈線による区画、区画内は沈線。	加ＥⅡ	155	122
Ⅰ	58	土坑	1	浅鉢	口	灰白	金雲母、輝・角、小石	隆帯による区画、区画内無文。	阿玉台	155	122
Ⅰ	58	土坑	2	—	突起	橙	金雲母、小石	口に刻みを入れた鰭状突起。	阿玉台Ⅰｂ	155	122
Ⅰ	58	土坑	3	—	胴	暗褐	小石僅	微隆帯の両側に刻み、その外側に沈線文。	勝坂３	155	122
Ⅰ	58	土坑	4	—	口	赤褐	白粒、輝・角僅	口縁部に横位沈線２条、胴部は縄文。	加ＥⅡ	155	122
Ⅰ	58	土坑	5	—	胴・把手	黒灰	白粒、輝・角、小石	沈線を施す橋状把手。胴部は条線文と低い隆帯文。	加ＥⅢ	156	122
Ⅰ	58	土坑	6	—	胴	鈍褐	白粒、輝・角	縄文後、渦巻文等の沈線文。	加ＥⅢ	155	122
Ⅰ	58	土坑	7	—	胴	鈍橙	白粒、輝・角	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	155	122
Ⅰ	58	土坑	8	—	胴	鈍橙	白粒僅、輝・角	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	156	122
Ⅰ	58	土坑	9	—	胴	鈍褐	白粒、輝・角	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	156	122
Ⅰ	58	土坑	10	—	底	黒・鈍褐	白粒、輝・角、小石	沈線、磨消縄文。煤が付着。	加ＥⅢ	156	123
Ⅰ	58	土坑	11	—	口	鈍橙	白粒、輝・角	口縁部無文帯の下に横位沈線。	加ＥⅣ	156	123
Ⅰ	58	土坑	12	—	口	灰褐	輝・角、小石	沈線文。	称名寺	156	123
Ⅰ	58	土坑	13	—	胴	鈍橙	輝・角、小石	多重沈線による渦巻文。縄文の痕跡あるが摩耗激しい。	堀之内１	156	123
Ⅰ	58	土坑	14	—	胴	淡橙	輝・角、小石	沈線文。	堀之内１	156	123
Ⅰ	58	土坑	15	—	胴	鈍赤褐	白粒、輝・角僅	低い隆帯の文様構成。円内は沈線と刺突。長句先負にも沈線が沿う。	中期中葉	156	123

遺物番号				器種	部位	色調	胎　土	特　徴・法　量　等	時期	図版	写真
Ⅰ	59	土坑	1	－	口	鈍橙	輝・角、小石	口縁部と頸部の境に低い稜を設ける。無文。	加ＥⅡ	157	123
Ⅰ	59	土坑	2	深鉢	胴～底	灰白	白粒、輝・角	沈線、磨消縄文。端部は丸みを帯びる平底。（底径 5.6cm）	加ＥⅢ	157	123
Ⅰ	59	土坑	3	－	口	鈍橙	輝・角、小石	太沈線で区画、渦巻文。区画内と胴部は縄文。胴部に垂下沈線。	加ＥⅢ	157	123
Ⅰ	59	土坑	4	－	口・突起	灰褐	輝・角、小石	上面に太渦巻の突起。胴部は縄文、沈線文。	加ＥⅢ	157	123
Ⅰ	59	土坑	5	－	口	灰褐	白粒、輝・角	横位太沈線、縄文。	加ＥⅢ	157	123
Ⅰ	59	土坑	6	－	口	暗灰	白粒、輝・角、小石	口縁部無文帯の下に沈線。	加ＥⅢ	157	123
Ⅰ	59	土坑	7	－	胴	鈍褐	輝・角、小石	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	157	123
Ⅰ	59	土坑	8	－	胴	淡橙	白粒、輝・角、小石	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	157	123
Ⅰ	59	土坑	9	－	胴	浅黄橙	輝・角	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	157	123
Ⅰ	59	土坑	10	－	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	157	123
Ⅰ	59	土坑	11	－	胴	暗灰褐	輝・角、小石僅	破片上部と下端に太沈線。	加ＥⅢ	157	123
Ⅰ	59	土坑	12	－	胴	鈍橙	金雲母、小石	隆線文とそれに沿う押引文。	中期中葉	157	123
Ⅰ	59	土坑	13	－	底	鈍橙	赤粒、輝・角僅	無文。平底。（底径 8.2cm）	中期後半	157	123
Ⅰ	59	土坑	14	－	胴	淡橙	白粒、輝・角僅	縄文後、沈線文。	加Ｂ２	157	123
Ⅰ	60	土坑	1	－	口	黒褐	輝・角僅	半截竹管と串？の刺突文、角押し文。	勝坂	157	123
Ⅰ	60	土坑	2	－	口	黒灰	輝・角	隆帯による渦巻文。	加ＥⅠ	157	123
Ⅰ	60	土坑	3	－	口・把手	鈍橙	白粒、輝・角	橋状把手。把手上と口縁部に沈線文。	加ＥⅠ	157	123
Ⅰ	60	土坑	4	－	口付近	鈍橙	輝・角僅、小石	隆帯と沈線文用、区画。区画内と胴部は撚糸文。	加ＥⅠ	158	124
Ⅰ	60	土坑	5	－	胴	橙	赤粒、小石	隆帯１条垂下。	加ＥⅠ	158	124
Ⅰ	60	土坑	6	－	口	鈍橙	白粒、小石	沈線による区画、区画内は縄文。	加ＥⅡ	158	124
Ⅰ	60	土坑	7	－	口	暗灰	白粒、輝・角	口縁部に２段の円形刺突列。胴部は縄文と沈線懸垂文。	加ＥⅡ	158	124
Ⅰ	60	土坑	8	－	括れ部	橙	白粒、輝・角、小石	上部は無文。下部は沈線区画、区画内も沈線。	加ＥⅡ	158	124
Ⅰ	60	土坑	9	－	口・突起	鈍黄橙	白粒、輝・角	隆帯と太沈線による区画、隆帯の交点に瘤状の突起。胴部は縄文。	加ＥⅢ	158	124
Ⅰ	60	土坑	10	－	口	暗灰褐	輝・角僅	口縁部は無文。横位太沈線の下に櫛描文。	加ＥⅢ	158	124
Ⅰ	60	土坑	11	－	口付近	鈍橙	赤粒、小石	隆帯と太沈線による区画。区画内と胴部は沈線。	加ＥⅢ	158	124
Ⅰ	60	土坑	12	－	胴	鈍橙	赤粒、石英、小石	太沈線と縄文。	加ＥⅢ	158	124
Ⅰ	60	土坑	13	－	胴	灰白	輝・角僅	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	158	124
Ⅰ	60	土坑	14	－	胴	黒灰	白粒、輝・角	沈線、条線。	加ＥⅢ	158	124
Ⅰ	60	土坑	15	－	底	灰白	白粒、輝・角	沈線、磨消縄文。平底。	加ＥⅢ	158	124
Ⅰ	60	土坑	16	－	口	淡橙	輝・角僅	波状口縁か。胴部は縄文。	加ＥⅣ	158	124
Ⅰ	60	土坑	17	－	底	浅黄橙	小石僅	平底。（底径 9.8cm）	後期？	158	124
Ⅰ	60	土坑	18	－	口	暗灰褐	輝・角僅	無文。	？	158	124
Ⅰ	60	土坑	19	土製円板	完形	灰褐	白粒僅	無文。もとは底面。（長径 4.1cm）	？	158	124
Ⅰ	61	土坑	1	－	口・把手	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	口縁部無文。肩部に太沈線文の把手。胴部は太沈線文、縄文。	加ＥⅢ	158	124
Ⅰ	61	土坑	2	－	口	鈍黄橙	白粒、輝・角	隆帯渦巻文。	加ＥⅢ	158	124
Ⅰ	65	土坑	1	甕？	口～胴	鈍赤褐	白粒、輝・角、小石	口唇部と括れ部に横位沈線。口縁部は無文。胴部は縦位と綾杉状の沈線文。（口径 23.0cm）	加ＥⅡ	158	124
Ⅰ	67	土坑	1	－	口	暗褐	金雲母、小石	波状口縁。波頂部から隆帯が垂下。	中期中葉	159	124
Ⅰ	74	土坑	1	－	胴	暗赤褐	小石	刻みを入れた隆帯と、それに沿う沈線。	勝坂	159	124
Ⅰ	74	土坑	2	－	胴	暗灰	白粒、輝・角	沈線∩字状文、縄文。	加ＥⅢ	159	124
Ⅰ	74	土坑	3	－	底	橙	小石	縄文。平底。（底径 8.0cm）	中期後半	159	124
Ⅰ	75	土坑	1	－	胴	黒褐	白粒、小石	交互刺突文、横位沈線、半截竹管の交互刺突文。	加ＥⅠ	159	124
Ⅰ	75	土坑	2	－	胴	黄白	輝・角僅	上部は口縁部か。隆帯と沈線による区画と文様。胴部は縄文。	加ＥⅡ	159	124
Ⅰ	75	土坑	3	－	胴	浅黄橙	白粒、輝・角僅	隆線、区画内は縄文。	加ＥⅡ	159	124
Ⅰ	84	土坑	1	－	口	鈍褐	白粒、小石僅	沈線、磨消縄文。沈線波形文。	加ＥⅣ	159	124
Ⅰ	84	土坑	2	－	胴	鈍黄橙	白粒	沈線∩字状文。文様内は縄文。	加ＥⅣ	159	124
Ⅰ	84	土坑	3	－	胴	鈍褐	輝・角	沈線∩字状文、∪字状文。文様内は縄文。	加ＥⅣ	159	124
Ⅰ	85	土坑	1	－	口	浅黄橙	輝・角僅	波状口縁が欠損。隆帯と沈線による区画。区画内と胴部は縄文。	加ＥⅡ	159	124
Ⅰ	98	土坑	1	－	口～胴	鈍褐	白粒、金雲母	口縁部は刻みを入れた隆帯と沈線による区画、区画内も沈線。胴部は沈線文と縄文。	加ＥⅡ	159	125
Ⅰ	98	土坑	2	－	口	橙～褐灰	小石	隆帯と沈線で区画、渦巻文。区画内と胴部は縄文。胴部に鋸歯状沈線文。	加ＥⅡ	159	125
Ⅰ	98	土坑	3	－	胴	暗灰褐	小石僅	縄文後、縦横の隆帯と沈線。	加ＥⅡ	159	125
Ⅰ	98	土坑	4	－	胴	鈍橙	白粒、小石	縄文後、３条の沈線。	加ＥⅡ	159	125
Ⅰ	98	土坑	5	－	胴	鈍橙	白粒、小石多	縄文後、低い隆帯と沈線。	加ＥⅡ	159	125
Ⅰ	99	土坑	1	－	胴	鈍褐	輝・角僅	縄文後、縦横の沈線と沈線波形文。	加ＥⅡ	160	125
Ⅰ	99	土坑	2	－	胴	浅黄橙	白粒、輝・角僅	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	160	125
Ⅰ	101	土坑	1	－	胴	橙	小石、細砂	多方向からの縄文。	加ＥⅡ	160	125
Ⅰ	101	土坑	2	－	胴	橙～暗褐	白粒、輝・角	撚糸文後、３条の沈線。	加ＥⅡ	160	125
Ⅰ	102	土坑	1	－	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	横位隆帯と沈線の下に縄文と２条の沈線。	加ＥⅡ	160	125

遺物番号				器種	部位	色調	胎　土	特　徴・法　量　等	時期	図版	写真
Ⅰ	102	土坑	2	―	脚	赤褐	白粒、赤粒、小石	ほぼ垂直に立ち上がる。穿孔１カ所。（底径 18.2cm）	加ＥⅡ？	160	125
Ⅰ	103	土坑	1	―	口	暗赤褐	赤粒、小石、細砂	無文帯、交互刺突文の下を沈線で区画。区画内縄文と沈線文。	加ＥⅠ	160	125
Ⅰ	103	土坑	2	―	胴	鈍赤褐	白粒、輝・角僅	横位隆帯、波形沈線の下に縄文を施す斜位の隆帯。	加ＥⅠ	160	125
Ⅰ	104	土坑	1	―	底	鈍橙	金雲母、小石	無文。平底。（底径 8.0cm）	中期中葉？	160	125
Ⅰ	104	土坑	2	―	底	明赤褐	白粒、小石	縄文。平底。３と同一個体。（底径 7.8cm）	中期後半	160	125
Ⅰ	104	土坑	3	―	底	明赤褐	白粒、小石	縄文。平底。２と同一個体。	中期後半	160	125
Ⅰ	106	土坑	1	―	胴	暗赤褐	小石	縄文を施す隆帯が２条。	加ＥⅠ？	160	125
Ⅰ	106	土坑	2	―	口付近	灰白	白粒、小石	隆帯と沈線による区画、区画内は縄文。	加ＥⅢ	160	125
Ⅰ	106	土坑	3	―	胴	淡橙	白粒僅	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	160	125
Ⅰ	106	土坑	4	―	胴	橙白	赤粒僅	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	160	125
Ⅰ	107	土坑	1	―	胴	橙	白粒、輝・角僅	断面三角形の隆帯の上下に細長の角押し文と先丸施文具の押引文。	勝坂	160	125
Ⅰ	107	土坑	2	―	胴	暗灰	白粒、輝・角僅	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	160	125
Ⅰ	108	土坑	1	―	胴	浅黄橙	輝・角、小石	条線文。北陸系の土器か？	中期前半	160	125
Ⅰ	108	土坑	2	―	口	鈍赤褐	白粒、雲母	波状口縁の頂部欠落。縦長の突起。無文。	中期中葉	160	125
Ⅰ	113	土坑	1	深鉢	胴	明赤褐	白粒、小石	４単位の条線文。破片上端は横位隆帯で稜を付け縦位沈線。（胴径 13.8cm）	加ＥⅡ	160	125
Ⅱ	4	土坑	1	―	口	鈍橙	赤粒、小石	口唇部肥厚、内外面に稜あり。胴部は縄文。	中期中葉	197	126
Ⅱ	4	土坑	2	―	胴	橙白	輝・角、小石	交互刺突による蛇行隆線、間の空白を１本書き沈線で充填。グリッド 2514、2515、2516 は同一個体か。	加ＥⅡ	197	126
Ⅱ	5	土坑	1	―	胴	淡橙	白粒、小石	撚糸文。	加ＥⅡ	197	126
Ⅱ	5	土坑	2	―	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	撚糸文。底部にさしかかる部分。	加ＥⅡ	197	126
Ⅱ	5	土坑	3	―	胴	暗灰褐	白粒	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	197	126
Ⅱ	5	土坑	4	―	胴	黒灰	白粒、輝・角	隆帯と沈線による区画、区画内沈線か。胴部は沈線と縄文。	加ＥⅢ	197	126
Ⅱ	6	土坑	1	―	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	流水状の条線文。	加ＥⅢ	197	126
Ⅱ	6	土坑	2	―	底	淡橙	輝・角、小石	胴部は隆帯垂下と条線文。底部は平底。（底径 7.8cm）	加ＥⅢ	197	126
Ⅱ	8	土坑	1	―	口	鈍橙	白粒、小石	口縁部隆帯区画、渦巻文。区画内縄文。頸部無文。	加ＥⅠ	197	126
Ⅱ	10	土坑	1	―	口	暗灰褐	小石、金雲母	斜位隆帯沿いに角押し文。	勝坂	197	126
Ⅱ	10	土坑	2	―	口	暗灰褐	白粒、輝・角	口唇部肥厚、横位太沈線。胴部は縄文。	加ＥⅢ	197	126
Ⅱ	10	土坑	3	―	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	197	126
Ⅱ	10	土坑	4	―	胴	淡橙	白粒、輝・角	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	197	126
Ⅱ	10	土坑	5	―	口	灰褐	白粒、輝・角	口唇部やや肥厚。横位の条線文と太沈線。	加ＥⅣ	197	126
Ⅱ	10	土坑	6	―	胴	黒褐	小石、金雲母	稜部に刻み。上半に沈線波形文。	中期中葉	197	126
Ⅱ	11	土坑	1	―	口	灰褐	白粒	口唇部やや肥厚。無文。	加ＥⅢ	197	126
Ⅱ	11	土坑	2	―	口	橙	小石	隆帯による区画。	中期中葉	197	126
Ⅱ	13	土坑	1	―	胴	橙	輝・角	刻みを入れた隆帯とそれに沿う沈線で鋸歯状に区画、区画内は沈線と半截竹管の刺突を組み合わせる。	勝坂３	197	126
Ⅱ	13	土坑	2	―	胴	橙	輝・角	刻みを入れた隆帯とそれに沿う沈線で鋸歯状に区画、区画内は沈線と半截竹管の刺突を組み合わせる。	勝坂３	197	126
Ⅱ	13	土坑	3	―	胴	暗灰褐	白粒、輝・角、小石	沈線、細縄文。	堀之内１	197	126
Ⅱ	13	土坑	4	―	口～胴	淡橙	白粒、輝・角、小石	口唇部内外面に沈線。胴部は沈線、細縄文。	堀之内２	197	126
Ⅱ	15	土坑	1	―	胴	鈍黄橙	白粒、小石	撚糸文。	加ＥⅡ	197	126
Ⅱ	15	土坑	2	―	胴	鈍橙～褐	輝・角、小石	沈線文。	称名寺	197	126
Ⅱ	15	土坑	3	―	底	淡橙	白粒、輝・角	胴部無文。平底。（底径 9.0cm）	称名寺？	197	126
Ⅱ	17・18	土坑	1	―	口	鈍黄橙	小石	沈線文、縄文。２と同一か。	加ＥⅢ	197	126
Ⅱ	17・18	土坑	2	―	口	鈍黄橙	小石	沈線文、縄文。１と同一か。	加ＥⅢ	197	126
Ⅱ	17・18	土坑	3	―	胴	鈍橙	小石	縄文、沈線。	加ＥⅢ	197	126
Ⅱ	17・18	土坑	4	―	胴	鈍褐	輝・角、小石	磨消縄文、沈線、	加ＥⅢ	197	126
Ⅱ	17・18	土坑	5	―	胴	浅黄橙	小石	磨消縄文、沈線、	加ＥⅢ	197	126
Ⅱ	19	土坑	1	―	胴	浅黄橙	白粒、小石	隆帯、撚糸文。	加ＥⅡ	198	126
Ⅱ	19	土坑	2	―	胴	明褐灰	白粒、輝・角	沈線、縄文。	加ＥⅡ	198	126
Ⅱ	19	土坑	3	―	口	淡橙	輝・角	無文。	称名寺	198	126
Ⅱ	19	土坑	4	―	胴	淡黄	白粒、輝・角、小石	僅かに沈線。	堀之内	198	126
Ⅱ	23	土坑	1	―	口	赤褐	小石	縦位沈線。	中期中葉	198	126
Ⅱ	23	土坑	2	―	胴	浅黄橙	白粒、小石	微隆帯、磨消縄文。	加ＥⅢ	198	126
Ⅱ	23	土坑	3	―	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	縄文、沈線。	称名寺	198	126
Ⅱ	24	土坑	1	―	胴	鈍赤褐	白粒、小石	２段の鋸歯状沈線文。	阿玉台	198	126
Ⅱ	24	土坑	2	―	口	黒褐	白粒、輝・角	横位の鎖状隆帯。	堀之内２	198	126
Ⅱ	25	土坑	1	深鉢	胴	鈍橙	小石	正位埋甕。区画文の隆帯脇に角押し文、一部隆帯上に刻み。区画内に２条１組の沈線鋸歯状文。（胴径 21.9cm）	阿玉台Ⅲ	198	126
Ⅱ	25	土坑	2	―	口	鈍橙	輝・角僅、小石	隆帯による区画に沿って２列の角押し文。	勝坂	198	127
Ⅱ	28	土坑	1	―	口	淡橙	赤粒、小石	口唇部に横位隆帯。胴部は縄文。	加ＥⅢ	198	127
Ⅱ	28	土坑	2	―	胴	鈍橙	白粒、輝・角	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	198	127
Ⅱ	28	土坑	3	―	底	鈍橙	白粒、輝・角	胴部には沈線垂下。平底、無文。（底径 6.8cm）	加ＥⅢ	198	127

遺物番号				器種	部位	色調	胎　土	特　徴・法　量　等	時期	図版	写真
Ⅱ	29	土坑	1	－	胴	鈍橙	輝・角僅、小石	縦横の隆帯と太沈線。区画内縄文。	加ＥⅡ	198	127
Ⅱ	29	土坑	2	－	胴	浅黄橙	小石	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	198	127
Ⅱ	29	土坑	3	－	胴	灰白	白粒、輝・角	沈線、縄文。	加ＥⅢ	198	127
Ⅱ	29	土坑	4	－	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	198	127
Ⅱ	29	土坑	5	－	胴	浅黄橙	輝・角	沈線。	称名寺	198	127
Ⅱ	29	土坑	6	－	胴	橙白	白粒、輝・角	沈線文、貼付文。	堀之内１	198	127
Ⅱ	30	土坑	1	－	胴	浅黄橙	白粒	括れ部に交互刺突文、胴部は縦位沈線。	加ＥⅠ	198	127
Ⅱ	30	土坑	2	－	口	淡橙	輝・角、小石	太沈線区画、区画内縄文。	加ＥⅢ	198	127
Ⅱ	30	土坑	3	－	胴	淡橙	輝・角、小石	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	198	127
Ⅱ	30	土坑	4	－	底	暗赤褐	白粒、小石	平底。	中期後半	198	127
Ⅱ	35	土坑	1	－	口	暗灰褐	白粒、輝・角	隆帯による区画、区画内沈線。	加ＥⅡ	199	127
Ⅱ	35	土坑	2	－	胴	黒褐	白粒、赤粒	沈線、縄文。	加ＥⅡ	199	127
Ⅱ	35	土坑	3	－	口	暗赤褐	白粒、輝・角	太沈線の渦巻文。	加ＥⅢ	199	127
Ⅱ	37	土坑	1	－	胴	鈍赤褐	白粒、赤粒	横位と斜位の沈線。刺突。	加ＥⅠ	199	127
Ⅱ	37	土坑	2	深鉢	口～胴	暗灰褐	輝・角	口縁部は隆帯と沈線による区画と渦巻文、区画内は縄文。胴部は沈線、磨消縄文。（口径 28.0cm）	加ＥⅢ	199	127
Ⅱ	37	土坑	3	－	胴	暗赤褐	白粒、赤粒、小石	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	199	127
Ⅱ	37	土坑	4	－	口	淡橙	小石僅	波状口縁、口唇部上面に沈線。胴部に沈線文。	加ＥⅢ	199	127
Ⅱ	38	土坑	1	－	胴	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	縄文。	加ＥⅡ	199	127
Ⅱ	38	土坑	2	深鉢	胴～底	浅黄橙	白粒、小石	正位埋甕。胴部は僅かに縄文。平底。（底径 9.6cm）	中期後半	199	127
Ⅱ	41	土坑	1	－	口	明褐灰	白粒、輝・角	口唇部肥厚。沈線、縄文。	加ＥⅡ	199	127
Ⅱ	41	土坑	2	－	胴	浅黄橙	輝・角僅	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	199	127
Ⅱ	42	土坑	1	－	胴	暗赤褐	白粒、赤粒	隆帯、縄文。	加ＥⅠ	199	127
Ⅱ	42	土坑	2	－	口～胴	鈍褐	白粒、輝・角	口縁部は無文、胴部は縄文。内面にミガキ痕あり。	加ＥⅣ	199	127
Ⅱ	42	土坑	3	－	胴	灰白	白粒、輝・角	稜に横位沈線。胴部は条線文。内面にミガキ痕あり。	加ＥⅣ	199	127
Ⅱ	42	土坑	4	－	胴	淡橙	輝・角僅、小石	条線文。	加ＥⅣ	199	127
Ⅱ	44	土坑	1	深鉢	2/3残存	淡橙	白粒、赤粒、小石	横位埋甕。沈線文、刺突列点文。（口径 29.6cm）	称名寺	199	128
Ⅱ	47	土坑	1	－	口	明赤褐	白粒、小石	隆帯と沈線による区画、区画内縄文。頸部は無文。	加ＥⅡ	200	128
Ⅱ	47	土坑	2	深鉢	口～胴	鈍褐	白粒、小石	４単位の突起は山形が１対と上面に渦巻文を持つ突起（対面側は欠落）。口縁部は隆帯と太沈線による区画と渦巻文、区画内は縄文。胴部は沈線文と縄文。（口径 22.0cm）	加ＥⅢ	200	128
Ⅱ	47	土坑	3	－	口	暗灰褐	白粒、輝・角	口縁部は無文。横位沈線より下は条線文。	加ＥⅢ	200	128
Ⅱ	47	土坑	4	－	口	橙	白粒、小石	横位沈線が１条。口唇部内側に稜あり。	加ＥⅢ	200	128
Ⅱ	47	土坑	5	－	胴	黒褐	輝・角、小石	隆帯による区画、区画内と胴部に縄文。	加ＥⅢ	200	128
Ⅱ	47	土坑	6	－	口	黒褐	輝・角、小石	波状口縁、無文。	加ＥⅢ	200	128
Ⅱ	47	土坑	7	－	口	浅黄橙	白粒僅	波状口縁。太沈線による渦巻文。	加ＥⅢ	200	128
Ⅱ	49	土坑	1	－	胴	暗赤褐	白粒、小石	沈線、縄文。	加ＥⅡ	200	128
Ⅱ	50	土坑	1	－	口	灰褐	白粒	交互刺突文と縦横の沈線。	加ＥⅠ	200	128
Ⅱ	50	土坑	2	－	口	橙白	輝・角	２段の円形刺突列。縄文。	加ＥⅡ	200	128
Ⅱ	50	土坑	3	－	胴	浅黄橙	白粒、小石	隆帯と沈線による区画。沈線文、磨消縄文。	加ＥⅡ	200	128
Ⅱ	50	土坑	4	－	胴	浅黄橙	輝・角、小石	上半隆帯区画、区画内縄文。下半磨消縄文、垂下沈線。	加ＥⅡ新	200	128
Ⅱ	50	土坑	5	－	口	黒褐	白粒、輝・角僅	波状口縁。太沈線による渦巻文。	加ＥⅢ	200	128
Ⅱ	50	土坑	6	－	胴	淡橙	白粒、赤粒、小石	隆帯と沈線による区画、文様。区画内縄文。	加ＥⅢ	200	128
Ⅱ	50	土坑	7	－	胴	橙	白粒、赤粒、小石	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	200	128
Ⅱ	50	土坑	8	－	胴	明褐灰	輝・角	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	200	128
Ⅱ	51	土坑	1	－	胴	暗灰	白粒、小石	沈線文、磨消縄文。	加ＥⅡ	200	128
Ⅱ	51	土坑	2	－	胴	鈍橙	輝・角、小石	沈線文、磨消縄文。	加ＥⅢ	200	128
Ⅱ	52	土坑	1	－	口	橙	白粒、小石	口唇部沿いに隆帯、両側に沈線。胴部は沈線文か。	加ＥⅡ	200	128
Ⅱ	52	土坑	2	－	胴	黄橙	白粒、小石	縄文。	中期後半	200	128
Ⅱ	53	土坑	1	－	口	暗赤褐	赤粒、小石	隆帯による区画、区画内は縄文。刺突を入れた太隆帯。胴部は縄文。	加ＥⅡ	201	129
Ⅱ	53	土坑	2	－	口	橙	白粒、輝・角	沈線文、縄文。	加ＥⅡ	201	129
Ⅱ	53	土坑	3	－	胴	赤褐	白粒、赤粒、小石	縄文。４と同一個体。	加ＥⅡ	201	129
Ⅱ	53	土坑	4	－	胴	赤褐	白粒、赤粒、小石	縄文。３と同一個体。	加ＥⅡ	201	129
Ⅱ	53	土坑	5	－	胴	明赤褐	赤粒、小石	隆帯文、縄文。	加ＥⅡ	201	129
Ⅱ	54	土坑	1	－	胴	暗赤褐	輝・角僅、小石	同心円状の沈線文。一部にケズリ痕あり。	加ＥⅡかⅢ	201	129
Ⅱ	60	土坑	1	－	胴	鈍黄橙	輝・角僅	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	201	129
Ⅱ	60	土坑	2	－	口～胴	暗褐	白粒、小石	４単位の突起もしくは波状口縁か。突起は両側面と内側に開口し、頂部は内面と右側面に穿孔。。その下の貫通孔は注口か。口縁部は稜を持ち、沈線や刺突を施す。胴部は無文。	称名寺	201	129
Ⅱ	60	土坑	3	－	口	暗灰褐	白粒、輝・角、小石	横位鎖状微隆帯。胴部は沈線、縄文。	堀之内２	201	129
Ⅱ	61	土坑	1	－	口	暗褐	白粒、輝・角、小石	２条１組の隆帯による波状文。	加ＥⅠ	201	129
Ⅱ	61	土坑	2	－	口	黒褐	白粒	口唇部沿いには２条の沈線、胴部に波状文と、２列の刺突列。	加ＥⅡ	201	129
Ⅱ	61	土坑	3	－	胴	浅黄橙	輝・角、小石	沈線と縄文か。	加ＥⅡ	201	129
Ⅱ	61	土坑	4	－	胴	鈍褐	白粒、小石	隆帯による区画、区画内と胴部は縄文。	加ＥⅡ	201	129
Ⅱ	61	土坑	5	－	胴	鈍褐	白粒、輝・角	横位沈線、縄文。	加ＥⅡ	201	129
Ⅱ	61	土坑	6	－	胴	橙	白粒、小石	隆帯文、縄文。	加ＥⅡ	201	129

遺物番号				器種	部位	色調	胎　土	特　徴・法　量　等	時期	図版	写真
Ⅱ	61	土坑	7	深鉢	完形	黒、灰褐	輝・角	横位埋甕。口縁沿いに８字状貼付文と鎖状微隆帯。胴部は沈線文と縄文。底には端部が突出し、底面に網代痕あり。（口径 15.7cm、底径 8.8cm、器高 16.3cm）	堀之内２	201	129
Ⅱ	62	土坑	1	－	胴	灰褐	白粒、輝・角	沈線、磨消縄文	加ＥⅢ	201	129
Ⅱ	63	土坑	1	－	胴	鈍橙	白粒、小石	条線文。	加ＥⅡ	201	129
Ⅱ	63	土坑	2	－	胴	暗赤褐	白粒、小石	縦横の隆帯、撚糸文。	加ＥⅡ	201	129
Ⅱ	64	土坑	1	－	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	沈線、磨消縄文。２とは同一個体。	加ＥⅢ	201	129
Ⅱ	64	土坑	2	－	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	沈線、磨消縄文。１とは同一個体。	加ＥⅢ	201	129
Ⅱ	65	土坑	1	－	口	暗赤褐	金雲母、小石	角押し文。	阿玉台Ⅰｂ	202	129
Ⅱ	65	土坑	2	－	胴	鈍橙	金雲母、小石	両側に角押し文の隆帯区画、区画内無文。	阿玉台Ⅰｂ	202	129
Ⅱ	65	土坑	3	－	胴	鈍黄橙	金雲母、小石	縄文を施す隆帯で区画。区画内は沈線文、縄文。	阿玉台Ⅳ	202	129
Ⅱ	65	土坑	4	－	口	暗灰褐	金雲母、小石	口唇部と区画の隆帯に縄文。区画内沈線。内側に稜あり。	阿玉台Ⅳ	202	129
Ⅱ	65	土坑	5	－	口	鈍橙	金雲母、小石	口唇部と区画の隆帯、区画内に縄文。	阿玉台Ⅳ	202	129
Ⅱ	65	土坑	6	－	胴	鈍橙	小石	沈線文、縄文。	加ＥⅠ	202	129
Ⅱ	70	土坑	1	－	胴～底	鈍黄橙	白粒、輝・角	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	202	129
Ⅱ	70	土坑	2	－	胴	浅黄橙	輝・角、小石	無文。	加ＥⅢ	202	130
Ⅱ	70	土坑	3	－	胴	赤褐	白粒、小石	無文。	加ＥⅢ	202	130
Ⅱ	70	土坑	4	－	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	202	130
Ⅱ	70	土坑	5	－	底	淡橙	白粒、小石	胴部沈線、磨消縄文。底部は端部がやや突出、平底。	加ＥⅢ	202	130
Ⅱ	70	土坑	6	－	胴	鈍赤褐	輝・角、小石	円形の沈線の外側に刻み、内側に沈線。	中期中葉	202	130
Ⅱ	71	土坑	1	－	胴	黒褐	輝・角、小石	隆帯、縄文。	加ＥⅡ	201	130
Ⅱ	71	土坑	2	－	口	灰白	白粒、小石	口唇部やや肥厚、内側に稜あり。隆帯と太沈線で区画。	加ＥⅢ	201	130
Ⅱ	71	土坑	3	－	口	浅黄橙	白粒、小石	口唇部やや肥厚。隆帯と太沈線で区画、区画内縄文。	加ＥⅢ	201	130
Ⅱ	71	土坑	4	－	口	灰白	白粒、輝・角	横位太沈線、胴部縄文。	加ＥⅢ	201	130
Ⅱ	72	土坑	1	－	胴	橙	白粒、小石	沈線∪字・∩字状文、縄文。	加ＥⅢ	202	130
Ⅱ	72	土坑	2	－	胴	黒褐	輝・角、小石	条線文。	加ＥⅢ	202	130
Ⅱ	73	土坑	1	－	胴	暗赤褐	白粒、小石	沈線文、縄文。	加ＥⅡ	202	130
Ⅱ	77	土坑	1	－	胴	灰褐	白粒、小石	鍔状の隆帯。	加ＥⅡ	202	130
Ⅱ	79	土坑	1	－	胴	鈍橙	白粒、小石	隆帯区画、区画内刻み。	勝坂３	202	130
Ⅱ	79	土坑	2	－	突起	暗灰褐	白粒僅	上面は中央が凹む円形、主体は三角柱状で内面が無文、外向きの２面に沈線文。	加ＥⅠ	202	130
Ⅱ	79	土坑	3	－	胴	橙	赤粒、輝・角	沈線、条線。	加ＥⅢ	202	130
Ⅱ	79	土坑	4	－	口	暗灰褐	輝・角、小石	口唇部稜あり。無文。	中期後半	202	130
Ⅱ	79	土坑	5	－	底	鈍橙	白粒僅	平底。（底径 9.4cm）	中期後半	202	130
Ⅱ	81	土坑	1	－	口	鈍黄橙	輝・角僅	沈線文。	加ＥⅢ	202	130
Ⅱ	81	土坑	2	－	胴	鈍黄橙	白粒僅、小石僅	沈線、縄文。	加ＥⅢ	202	130
Ⅱ	81	土坑	3	－	胴	橙	白粒、輝・角	隆帯区画、区画内縄文。	加ＥⅢ	202	130
Ⅱ	82	土坑	1	－	口	極暗赤褐	赤粒、小石	段差を持つ口縁。括れ部に沈線。内面に沈線文。	加ＥⅠ	203	130
Ⅱ	82	土坑	2	－	胴	黒褐	白粒、小石	微隆線、磨消縄文。	加ＥⅢ	203	130
Ⅱ	82	土坑	3	－	胴	赤褐	白粒、小石	縄文。	加ＥⅢ	203	130
Ⅱ	83	土坑	1	－	口	暗灰褐	白粒、小石	無文。口唇部やや肥厚。波状口縁か。	加ＥⅡ	203	130
Ⅱ	83	土坑	2	－	口	黒灰	白粒、小石	口唇部内面に横位沈線。胴部は条線文。	加ＥⅡ	203	130
Ⅱ	84	土坑	1	－	突起	橙	白粒、小石	斜め縦長の瘤状突起。両側に刺突。右は横位、左は縦位の隆帯と沈線。内面に鐔が巡る。	加ＥⅠ	203	130
Ⅱ	84	土坑	2	－	口	暗褐	白粒、小石	波状口縁。胴部沈線、粗いナデ。	加ＥⅢ	203	130
Ⅱ	84	土坑	3	－	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	203	130
Ⅱ	84	土坑	4	土製円板	完形	鈍橙	白粒、輝・角	条線文。土器再利用。（径 2.5cm）	？	203	130
Ⅱ	85	土坑	1	深鉢	胴～底	浅黄橙	白粒、輝・角	正位埋甕。沈線、磨消縄文。（胴部 24.8cm、底径 8.3cm）	加ＥⅢ	202	130
Ⅱ	87	土坑	1	浅鉢	口～胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	口唇部欠損。口縁部刻みを入れた隆帯で区画、渦巻文。区画内沈線文。胴部無文。内面ミガキ。（胴径 32.9cm）	加ＥⅠ	203	131
Ⅱ	87	土坑	2	浅鉢	胴	鈍橙	輝・角、小石	上半に隆帯と沈線による区画や渦巻文。下半は無文。	加ＥⅠ	203	131
Ⅱ	87	土坑	3	－	胴	鈍褐	白粒	横位の大区画。上段は刻み入り隆帯で波状に区画、中段は隆帯渦巻文で区画、区画内はいずれも沈線。（胴径 20.4cm）	加ＥⅠ	203	131
Ⅱ	87	土坑	4	－	胴	極暗褐	白粒、輝・角	刻みを入れた隆帯と沈線渦巻文。	加ＥⅠ	203	131
Ⅱ	87	土坑	5	－	口・把手	鈍褐	白粒、輝・角	大振りの環状把手。内面から穿孔、両側に沈線文。口縁円周上の直交する位置に山形突起。口縁部は刻みを入れた隆帯が区画、区画内沈線文。	加ＥⅠ	204	131
Ⅱ	87	土坑	6	－	胴・突起	暗赤褐	小石	３条の隆帯と蜷局状の突起。下半は縄文。	加ＥⅠ	203	131
Ⅱ	87	土坑	7	－	胴	灰黄褐	白粒	沈線を入れた隆帯の渦巻文。胴部は縄文。８と同一個体。	加ＥⅠ	204	131
Ⅱ	87	土坑	8	－	胴	灰黄褐	白粒	沈線を入れた隆帯の渦巻文。胴部は縄文。７と同一個体。	加ＥⅠ	204	131
Ⅱ	87	土坑	9	－	胴	鈍赤褐	白粒、輝・角、小石	撚糸文地文に３条１組の微隆線波状文。10、11 と同一個体か。	加ＥⅠ	204	131
Ⅱ	87	土坑	10	－	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	撚糸文地文に３条１組の微隆線波状文。9、11 と同一個体か。	加ＥⅠ	204	131
Ⅱ	87	土坑	11	－	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	撚糸文地文に３条１組の微隆線波状文。9、10 と同一個体か。	加ＥⅠ	204	131
Ⅱ	87	土坑	12	－	胴	灰白	輝・角僅	撚糸文。	加ＥⅠ	204	131

遺物番号				器種	部位	色調	胎　土	特　徴　・　法　量　等	時期	図版	写真
Ⅱ	87	土坑	13	－	口～胴	明赤褐	輝・角、小石	無文。最下部は既に底部か。	加ＥⅠ	204	131
Ⅱ	87	土坑	14	－	突起	橙	白粒、小石	内面沈線文。外面に微隆線。	中期中葉	204	131
Ⅱ	92	土坑	1	－	口	鈍橙	輝・角	口唇部上面に沈線。外面は括れ部まで沈線区画、区画内縄文。	加ＥⅠ	204	131
Ⅱ	92	土坑	2	－	胴	鈍橙	小石	隆帯による区画、区画内縄文。胴部も縄文。	加ＥⅢ	204	131
Ⅱ	92	土坑	3	－	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	204	131
Ⅱ	92	土坑	4	－	胴	淡橙	白粒、小石	無文。	？	204	131
Ⅱ	94	土坑	1	深鉢	口～胴	淡橙	白粒、小石	正位埋甕。隆帯と太沈線による区画、区画内縄文。胴部は沈線、磨消縄文。（口径 21.0cm）	加ＥⅡ	205	131
Ⅱ	94	土坑	2	－	胴	淡橙	輝・角	沈線、磨消縄文。蛇行沈線。	加ＥⅢ	205	131
Ⅱ	95	土坑	1	深鉢	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	正位埋甕。沈線文、縄文。（胴径 12.6cm）	加ＥⅡ	204	131
Ⅱ	95	土坑	2	－	口	淡橙	白粒、小石	口唇部肥厚。横位太沈線。	加ＥⅢ	204	131
Ⅱ	95	土坑	3	－	胴	暗灰褐	白粒、輝・角	隆帯と太沈線による区画、区画内縄文。	加ＥⅢ	204	131
Ⅱ	96	土坑	1	－	口	暗褐	赤粒、小石	口縁部文様帯に縦位沈線。突起の剥離痕あり。	加ＥⅡ	204	132
Ⅱ	96	土坑	2	－	口	橙	小石	無文。口唇部がやや肥厚し、内側に稜を持つ。	加ＥⅡ	204	132
Ⅱ	98	土坑	1	－	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	204	132
Ⅱ	98	土坑	2	－	口	暗褐	白粒	横位鎖状微隆帯と沈線間に細縄文。	堀之内２	204	132
Ⅱ	99	土坑	1	－	口	黒褐	輝・角	２段の円形刺突列。	加ＥⅡ	204	132
Ⅱ	99	土坑	2	－	胴	暗灰褐	白粒、輝・角	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	204	132
Ⅱ	99	土坑	3	－	胴	黒褐	白粒、小石	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	204	132
Ⅱ	101	土坑	1	－	口	暗褐	金雲母多、小石	波状口縁。Ｙ字状の隆線文。	中期中葉	204	132
Ⅱ	102	土坑	1	－	胴	橙	金雲母僅、小石	沈線文の間に細かい刺突。	加ＥⅠ	205	132
Ⅱ	102	土坑	2	－	胴	明赤褐	輝・角、小石	沈線文。	加ＥⅡ	205	132
Ⅱ	102	土坑	3	－	胴	淡橙	輝・角	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	205	132
Ⅱ	102	土坑	4	－	胴	灰白	小石僅	沈線、縄文。	加ＥⅢ	205	132
Ⅱ	102	土坑	5	－	胴	灰黄	白粒、輝・角	沈線文。	加ＥⅢ	205	132
Ⅱ	102	土坑	6	－	口	暗灰褐	輝・角	条線文状に沈線。	堀之内１	205	132
Ⅱ	102	土坑	7	－	口	暗褐	白粒、輝・角	口唇部やや肥厚、横位沈線。赤彩あり。	中期後半	205	132
Ⅱ	102	土坑	8	－	底	浅黄橙	白粒、輝・角	胴部無文。平底。（底径 7.0cm）	中期後半	205	132
Ⅱ	103	土坑	1	－	口	黒灰	白粒、輝・角僅	隆帯と沈線による区画と文様、区画内には沈線、縄文。口縁に沿って交互刺突文。胴部は縄文。	加ＥⅠ	205	132
Ⅱ	103	土坑	2	－	口	灰白	白粒、輝・角	隆帯と沈線による渦巻文。	加ＥⅠ	205	132
Ⅱ	103	土坑	3	－	口	鈍褐	白粒、小石	波状口縁。口縁部に２条の沈線。胴部は縄文。	加ＥⅡ	205	132
Ⅱ	103	土坑	4	－	胴	灰白	白粒、輝・角	上半は低い隆帯による区画と渦巻文。下半は沈線で区画。上下とも区画内は縄文。	加ＥⅡ	205	132
Ⅱ	103	土坑	5	－	胴	鈍褐	白粒、小石	複節縄文。	加ＥⅡ	205	132
Ⅱ	103	土坑	6	－	口	暗灰褐	白粒、小石	隆帯と太沈線による区画、区画内縄文。胴部は沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	205	132
Ⅱ	103	土坑	7	－	胴	黒灰	白粒	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	205	132
Ⅱ	103	土坑	8	－	底	灰	白粒、輝・角	胴部無文。平底。	中期後半	205	132
Ⅱ	107	土坑	1	－	胴	灰白	輝・角（僅）	縄文。	加ＥⅡ	205	132
Ⅱ	107	土坑	2	－	胴	暗赤褐	輝・角、小石	渦巻状の沈線文間に刻み。	中期中葉	205	132
Ⅱ	108	土坑	1	－	口付近	暗褐	白粒、赤粒、輝・角	刻みを入れた隆線で区画か。	加ＥⅠ	205	132
Ⅱ	108	土坑	2	－	底	鈍黄橙	白粒	胴部無文。平底。	中期後半	205	132
Ⅱ	110・111	土坑	1	－	底～胴	浅黄橙	輝・角、小石	逆位埋甕。胴部低い隆帯と縄文。底部付近は無文、ミガキ痕。平底。（底径 6.5cm）	加ＥⅣ	206	132
Ⅱ	112	土坑	1	－	口	橙	小石	隆帯による区画、区画内縄文。	加ＥⅠ	206	132
Ⅱ	112	土坑	2	－	胴	赤褐	小石	隆帯貼付後、縄文。	加ＥⅠ	206	132
Ⅱ	112	土坑	3	－	胴	鈍橙	白粒、輝・角、細砂	上部に微かな沈線文、胴部は撚糸文。	加ＥⅡ	206	132
Ⅱ	113	土坑	1	－	口	赤	白粒、小石	口唇部角ばり、やや肥厚。無文。	加ＥⅡ	206	132
Ⅱ	113	土坑	2	－	胴	鈍橙	白粒、輝・角	隆帯、撚糸文。	加ＥⅡ	206	132
Ⅱ	115	土坑	1	－	胴	灰白	白粒、小石	撚糸文、沈線。	加ＥⅡ	206	132
Ⅱ	115	土坑	2	－	胴	鈍褐	小石	沈線文、縄文。	加ＥⅡ	206	132
Ⅱ	115	土坑	3	－	胴	明赤褐	輝・角	条線文。	加ＥⅢ	206	132
Ⅱ	117	土坑	1	－	胴	橙	輝・角僅	撚糸文上に浅い沈線。	加ＥⅡ	206	132
Ⅱ	117	土坑	2	－	口	橙白	輝・角僅	波状口縁に太沈線。胴部は条線文。	加ＥⅢ	206	132
Ⅱ	117	土坑	3	－	口	灰白	白粒、輝・角	無文。	加ＥⅡ	206	132
Ⅱ	121	土坑	1	－	胴	鈍橙	白粒、輝・角	縄文。	加ＥⅡ	206	132
Ⅱ	128	土坑	1	深鉢	胴	淡橙～赤	赤粒、輝・角、小石	沈線文。	称名寺	206	133
Ⅱ	128	土坑	2	－	底	橙	白粒、赤粒	胴部無文。平底。（底径 8.0cm）	中期後半	206	133
Ⅱ	129	土坑	1	－	口～胴	鈍橙	白粒、小石	沈線幾何学文。一部に縄文。	堀之内２	206	132
Ⅱ	130	土坑	1	－	胴	鈍黄橙	白粒、小石	沈線、縄文。	加ＥⅡ	206	133
Ⅱ	130	土坑	2	－	底	鈍橙	白粒、輝・角	胴部に沈線。平底	加ＥⅢ	206	133
Ⅱ	130	土坑	3	－	胴	浅黄橙	白粒	沈線。４単位と２単位の短い条線。	堀之内	206	133
Ⅱ	131	土坑	1	－	胴	明褐灰	白粒、輝・角	沈線、縄文。	加ＥⅢ	206	133
Ⅱ	132	土坑	1	－	胴	明赤褐	赤粒、輝・角僅	頸部無文帯の下に横位隆帯。胴部は沈線、縄文。	加ＥⅡ	206	133

遺物番号				器種	部位	色調	胎　土	特　徴・法　量　等	時期	図版	写真
Ⅱ	133	土坑	1	－	口	橙	白粒、小石	波頂部？に弧状の貼付文。胴部は縄文。Ⅰ区Ｇ 2709 と同一個体か。	加ＥⅠ	206	133
Ⅱ	133	土坑	2	－	胴	暗赤褐	白粒、小石	縄文。	加ＥⅡ	206	133
Ⅱ	133	土坑	3	－	胴	浅黄橙	輝・角僅	条線文。	加ＥⅢ	206	133
Ⅱ	133	土坑	4	－	口	灰	輝・角、小石	口唇部沿いに沈線。	中期中葉	206	133
Ⅱ	133	土坑	5	注口土器	注口部	橙～灰褐	白粒、小石	無文。断面円形、先細り。（根本内径 1.9cm）	後期	206	133
Ⅱ	134	土坑	1	－	胴	橙	小石	沈線文、撚糸文。	加ＥⅡ	207	133
Ⅱ	134	土坑	2	－	胴	浅黄橙	輝・角	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	207	133
Ⅱ	134	土坑	3	－	口	黄白	白粒僅	沈線、縄文。	加ＥⅣ	207	133
Ⅱ	134	土坑	4	－	胴	灰黄	白粒、輝・角	沈線文。	称名寺	207	133
Ⅱ	134	土坑	5	－	胴	明褐灰	白粒、小石	沈線文、縄文。	堀之内１	207	133
Ⅱ	141	土坑	1	－	口	暗褐	小石	無文。	中期中葉	207	133
Ⅱ	143・144	土坑	1	－	口	橙	白粒、輝・角	隆帯による区画、文様。区画内縄文。	加ＥⅡ	207	133
Ⅱ	143・144	土坑	2	－	底	明赤褐	赤粒、小石	胴部に縄文。平底。	加ＥⅢ	207	133
Ⅱ	144	土坑	1	－	胴	鈍橙	輝・角、小石	隆帯文、縄文。	加ＥⅡ	207	133
Ⅱ	145	土坑	1	－	口	鈍橙	白粒僅	隆帯と沈線による区画、区画内は沈線。	加ＥⅡ	207	133
Ⅱ	145	土坑	2	－	胴	鈍橙	白粒、小石	縄文。	加ＥⅡ	207	133
Ⅱ	146	土坑	1	－	胴	明赤褐	白粒、小石	隆帯の両脇にやや幅広の角押し文。その外側にＶ字型の角押し文。	勝坂３	207	133
Ⅱ	146	土坑	2	浅鉢	口～胴	橙	白粒、輝・角、小石	無文。肩部に朱（ベンガラか？）を施す渦巻文貼付。（口径 43.0cm）	加ＥⅠ	207	133
Ⅱ	146	土坑	3	－	口～胴	暗赤褐	輝・角僅、小石	内向する口唇部の上面に沈線。胴部は縄文と沈線文。瘤状の突起は把手の欠落痕か。	加ＥⅠ	207	133
Ⅱ	146	土坑	4	－	口	鈍褐	白粒、輝・角	沈線の区画、区画内細沈線。	加ＥⅡ	207	133
Ⅱ	146	土坑	5	深鉢	胴	灰白	輝・角、小石	正位埋甕。縄文後、沈線文。	加ＥⅡ	207	134
Ⅱ	146	土坑	6	－	口付近	黄白	輝・角、小石	隆帯による区画、区画内縄文。胴部は沈線、縄文。	加ＥⅡ	207	133
Ⅱ	146	土坑	7	－	底	鈍橙	輝・角、小石	胴部に縄文。平底。	加ＥⅡ	207	134
Ⅱ	146	土坑	8	－	口	鈍橙	輝・角、小石	無文。	称名寺	207	134
Ⅱ	146	土坑	9	－	胴	鈍橙	輝・角、小石	横位沈線の他、か細い沈線で文様を描出。	称名寺	207	134
Ⅱ	146	土坑	10	－	胴	橙	白粒、小石	沈線。	称名寺	207	134
Ⅱ	146	土坑	11	－	胴	褐灰・黒	白粒、輝・角	稜より下は無文、上は微隆帯。	堀之内２	207	134
Ⅱ	146	土坑	12	－	口	橙	白粒、小石	口縁部内側に稜あり。外面は無文。口唇部上面から内側にかけて赤色塗彩あり。	中期後半	207	134
Ⅱ	146	土坑	13	－	口	鈍褐	白粒、輝・角、小石	沈線、縄文。	中期後半	207	134
Ⅱ	147	土坑	1	－	胴	鈍橙	小石僅	縄文。	加ＥⅡ	208	134
Ⅱ	147	土坑	2	－	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	縄文。	加ＥⅢ	208	134
Ⅱ	150	土坑	1	－	胴	暗灰褐	小石	沈線文、条線文。	加ＥⅡ	208	134
Ⅱ	150	土坑	2	－	胴	淡橙	輝・角、小石	横位隆帯、３条の横位沈線。撚糸文。	加ＥⅡ	208	134
Ⅱ	153	土坑	1	－	口	極暗赤褐	白粒、輝・角	波状口縁の基部か。沈線文、縄文。	加ＥⅣ	208	134
Ⅱ	156	土坑	1	－	胴	明赤褐	小石	横位沈線と撚糸文。	加ＥⅡ	208	134
Ⅱ	157	土坑	1	－	突起	橙	輝・角、小石	刻みを入れた２条の隆帯と繋がる瘤状の突起。上位には撚糸文。	加ＥⅠ	208	134
Ⅱ	157	土坑	2	－	口	明赤褐	輝・角僅、小石僅	口唇部が扁平に肥大。	加ＥⅡ	208	134
Ⅱ	168	土坑	1	－	胴	鈍褐	白粒、輝・角	弧状の沈線と縄文を施した隆帯。	加ＥⅠ	208	134
Ⅱ	168	土坑	2	－	口	鈍褐	輝・角僅	無文。	加ＥⅡ	208	134
Ⅱ	169	土坑	1	－	口～胴	淡橙	輝・角、小石	波状口縁から括れ部まで無文。胴部は沈線文、縄文。	堀之内１	208	134
Ⅱ	170	土坑	1	－	口	鈍黄橙	白粒、輝・角	口縁部は沈線と隆帯による区画か。区画内沈線、胴部は縄文。	加ＥⅡ	208	134
Ⅱ	170	土坑	2	－	底	橙	白粒、小石	胴部無文。平底。	中期中葉	208	134
Ⅱ	170	土坑	3	－	口	黒	金雲母、小石	口縁沿いに大小の角押し文。胴部も隆帯の間に細かい角押し文。	阿玉台Ⅱ	208	134
Ⅱ	171	土坑	1	－	底付近	橙	小石	撚糸文、隆帯。	加ＥⅡ	208	134
Ⅱ	172	土坑	1	深鉢	口～胴	橙	白粒、小石	正位埋甕。６単位条線文。口縁部は横位、胴部は斜位格子状。（口径 19.0cm）	堀之内１	208	134
Ⅱ	172	土坑	2	浅鉢	胴～底	鈍橙	輝・角、小石	逆位埋甕。無文。平底でやや端部突出。（底径 8.4cm）	堀之内１	208	134
Ⅱ	173	土坑	1	－	胴	鈍橙	白粒、輝・角	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	208	134
Ⅱ	173	土坑	2	深鉢	口～胴	暗褐	白粒、輝・角	横位埋甕。口縁部横位沈線。胴部沈線文。（口径 25.7cm）	堀之内１	208	134
Ⅱ	182	土坑	1	－	胴	灰白	白粒、輝・角	隆線、磨消縄文。	加ＥⅢ	208	134
Ⅱ	182	土坑	2	－	胴	橙白	白粒、輝・角	隆線、磨消縄文。	加ＥⅣ	208	134
Ⅱ	185	土坑	1	－	口	鈍褐	白粒、小石	刻み入り隆帯と沈線による区画、区画内は沈線。	加ＥⅡ	208	135
Ⅱ	191	土坑	1	－	胴	灰褐	輝・角、小石	隆線、磨消縄文。	加ＥⅣ	209	135
Ⅱ	191	土坑	2	深鉢	口～胴	鈍橙	白粒、輝・角	正位埋甕。口縁部の横位隆線上に瘤状の小突起。胴部は隆線と縄文。（口径 31.0cm）	称名寺	209	135
Ⅱ	191	土坑	3	特殊	先端欠落	浅黄橙	白粒、僅	スプーンの先が欠落したような形状。	称名寺	209	135

遺物番号				器種	部位	色調	胎　土	特　徴・法　量　等	時期	図版	写真
Ⅱ	193	土坑	1	－	胴	黒	白粒、輝・角、金雲母	刻み入り隆帯と環状貼付文。胴部は沈線文。	堀之内１	208	135
Ⅱ	195	土坑	1	－	口	赤褐	小石	隆帯による区画と渦巻文。区画内は縄文。	加ＥⅡ	209	135
Ⅱ	195	土坑	2	－	胴	浅黄橙	輝・角、小石	沈線文、磨消撚糸文。３と同一個体か。	加ＥⅡ	209	135
Ⅱ	195	土坑	3	－	胴	浅黄橙	輝・角、小石	沈線文、磨消撚糸文。２と同一個体か。	加ＥⅡ	209	135
Ⅱ	195	土坑	4	－	胴	橙	白粒、輝・角、小石	隆帯と沈線による区画、区画内は縄文。	加ＥⅡ	209	135
Ⅱ	195	土坑	5	－	口	灰褐	白粒、小石	沈線による区画、区画内も沈線で杉綾文。	加ＥⅢ	209	135
Ⅱ	195	土坑	6	－	口	鈍橙	白粒、小石	沈線による区画、区画内は縄文。	加ＥⅢ	209	135
Ⅱ	195	土坑	7	－	胴	鈍橙	輝・角、小石	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	209	135
Ⅱ	195	土坑	8	－	胴	橙	赤粒、輝・角、小石	沈線文。	加ＥⅢ	209	135
Ⅱ	195	土坑	9	－	口	鈍橙	白粒、小石	口唇部が内屈。口縁部は沈線文。	加ＥⅣ	209	135
Ⅱ	195	土坑	10	－	胴	鈍黄橙	輝・角僅、小石	縄文。	中期後半	209	135
Ⅱ	197	土坑	1	深鉢	口	暗灰褐	輝・角	沈線文、縄文。（口径 23.0cm）	堀之内２	209	135
Ⅱ	198	土坑	1	－	胴	橙	輝・角、小石	２条の隆帯、縄文。	加ＥⅡ	209	135
Ⅱ	198	土坑	2	－	胴	浅黄橙	輝・角、小石	沈線文、刺突文。	称名寺	209	135
Ⅱ	198	土坑	3	－	胴	浅黄橙	赤粒、輝・角	横位鎖状隆帯。	堀之内	209	135
Ⅱ	199	土坑	1	－	胴	明赤褐	小石	撚糸文。	加ＥⅡ	209	135
Ⅱ	201	土坑	1	－	口	鈍褐	小石	角押し文、半截竹管文等の刺突文。	勝坂２	210	135
Ⅱ	201	土坑	2	－	口・頸部	暗赤褐	赤粒、金雲母、小石	口縁部は隆帯と沈線による区画と文様、交互刺突文。区画内と頸部は撚糸文。	加ＥⅠ	210	135
Ⅱ	201	土坑	3	－	口	橙	白粒、輝・角	沈線、縄文。	加ＥⅡ	210	135
Ⅱ	201	土坑	4	－	胴	鈍赤褐	白粒、輝・角	刻みを入れた縦位隆帯、縦縞状の沈線文。	加ＥⅡ	210	135
Ⅱ	201	土坑	5	－	胴	鈍橙	白粒、輝・角、金雲母	縄文。	加ＥⅡ	210	135
Ⅱ	201	土坑	6	－	胴	暗赤褐	小石	沈線文、縄文。	加ＥⅡ	210	135
Ⅱ	201	土坑	7	－	胴	赤橙	輝・角、小石	縦位隆帯、横位沈線。縄文。	加ＥⅡ	210	135
Ⅱ	201	土坑	8	－	胴	橙	輝・角、小石	撚糸文。９と同一個体か。	加ＥⅡ	210	135
Ⅱ	201	土坑	9	－	底	橙	輝・角、小石	撚糸文。平底。８と同一個体か。（底径 12.7cm）	加ＥⅡ	210	135
Ⅱ	201	土坑	10	－	胴	浅黄橙	輝・角、小石	無文。一部に煤が付着。	称名寺	210	135
Ⅱ	201	土坑	11	－	胴	黒褐	輝・角、小石	沈線文、縄文。	堀之内２	210	135
Ⅱ	201	土坑	12	－	突起	赤橙	赤粒、小石僅	刻みを入れた環状貼付文、口唇部縁辺にも刻み。	中期中葉	210	136
Ⅱ	201	土坑	13	－	胴	灰	白粒、輝・角	沈線文。	？	210	136
Ⅱ	201	土坑	14	土製円板	完形	鈍橙	輝・角、小石	無文。土器再利用。（径 3.7cm）	？	210	136
Ⅱ	206	土坑	1	－	口	黄白	輝・角僅	環状貼付文から左下へ鎖状隆帯。	堀之内１	210	136
Ⅱ	206	土坑	2	－	口	黒	白粒、輝・角	無文。一部にミガキ。	堀之内１	210	136
Ⅱ	206	土坑	3	－	胴	暗褐	輝・角、小石	微かに沈線。	堀之内１	210	136
Ⅱ	206	土坑	4	－	口	橙	白粒、赤粒	口唇部に稜あり。無文か微かに沈線か。	堀之内	210	136
Ⅱ	207	土坑	1	－	口	暗赤褐	白粒、小石	隆帯と沈線による区画、区画内は縄文。	加ＥⅠ	211	136
Ⅱ	207	土坑	2	－	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	沈線文、刺突文。	称名寺	211	136
Ⅱ	207	土坑	3	－	口～胴	鈍黄橙	輝・角、小石	口唇部に円形押圧痕。胴部に沈線文。	堀之内１	211	136
Ⅱ	207	土坑	4	－	胴	鈍褐	小石多、輝・角	浅い沈線文。下半にはミガキ。５、６と同一個体か。	堀之内１	211	136
Ⅱ	207	土坑	5	－	胴	鈍褐	小石多、輝・角	沈線文。４、６と同一個体か。	堀之内１	211	136
Ⅱ	207	土坑	6	－	胴	鈍橙	輝・角、小石	沈線文。４、５と同一個体か。	堀之内１	211	136
Ⅱ	209	土坑	1	－	胴	明褐灰	白粒	撚糸文。	加ＥⅠ	211	136
Ⅱ	210	土坑	1	－	胴	明褐灰	白粒、輝・角	沈線文。	称名寺	211	136
Ⅱ	210	土坑	2	－	胴	灰褐	白粒、輝・角	斜位条線文。	堀之内１	211	136
Ⅱ	212	土坑	1	－	口	暗赤褐	小石僅	口縁部は沈線区画内に、沈線文と交互刺突文、刻み文を施す。胴部は縄文、。	加ＥⅠ	210	136
Ⅱ	212	土坑	2	－	口・把手	明赤褐	赤粒、輝・角	低い波頂部の下に橋状把手。両側に沈線文。胴部に縄文。	加ＥⅠ	210	136
Ⅱ	212	土坑	3	－	胴	暗灰褐	白粒、小石	沈線文。隆帯上にも縄文。	加ＥⅠ	210	136
Ⅱ	212	土坑	4	－	突起	黒	赤粒僅	基部と上部は欠損。刻み入り隆帯で区画区画内は沈線。	加ＥⅠ	210	136
Ⅱ	212	土坑	5	－	胴	鈍橙	白粒	条線文。	加ＥⅢ	210	136
Ⅱ	218	土坑	1	－	胴	黄白	輝・角、細砂	摩耗激しいが微かに沈線、縄文か。	加ＥⅢ	210	136
Ⅱ	219	土坑	1	－	胴	浅黄橙	白粒、小石	沈線、磨消縄文。	加ＥⅡ	211	136
Ⅱ	219	土坑	2	－	胴	橙	赤粒、小石	沈線、磨消縄文。	加ＥⅡ	211	136
Ⅱ	220	土坑	1	－	胴	灰	輝・角、小石	刻みを入れた隆帯、２条１組の沈線。	堀之内１	211	136
Ⅱ	220	土坑	2	－	胴	灰褐	白粒、輝・角	沈線文。	堀之内１	211	136
Ⅱ	220	土坑	3	－	胴	鈍橙	輝・角、小石	４単位と２単位の条線文。	堀之内	211	136
Ⅱ	221	土坑	1	－	口付近	暗褐	輝・角僅、小石	隆帯、縄文。	加ＥⅡ	211	136
Ⅱ	221	土坑	2	－	胴	灰白	白粒、輝・角	隆帯と沈線による区画、区画内は条線。	加ＥⅡ	211	136
Ⅱ	221	土坑	3	深鉢	胴～底	鈍橙	白粒、小石	正位埋甕。無文。平底。４～６と同一個体か。（底径 7.2cm）	堀之内１	211	136
Ⅱ	221	土坑	4	－	口	鈍橙	白粒、小石	口唇部に円形圧痕。胴部は沈線文。３、５、６と同一個体。	堀之内１	211	136
Ⅱ	221	土坑	5	－	胴	鈍橙	白粒、小石	沈線文。３、４、６と同一個体。	堀之内１	211	136
Ⅱ	221	土坑	6	－	胴	鈍橙	白粒、小石	沈線文。３～５と同一個体。	堀之内１	211	136
Ⅱ	229	土坑	1	－	口	灰黄	輝・角、小石	無文。	加ＥⅡ	212	136
Ⅱ	229	土坑	2	－	口	灰白	白粒、輝・角、小石	緩い波状口縁。口縁沿いに沈線、胴部は縄文。	加ＥⅢ	212	136
Ⅱ	229	土坑	3	－	胴	鈍黄橙	白粒、小石	沈線、縄文。	加ＥⅢ	212	136
Ⅱ	229	土坑	4	－	胴	暗赤灰	白粒	太沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	212	136

遺物番号				器種	部位	色調	胎　土	特　徴・法　量　等	時期	図版	写真
Ⅱ	229	土坑	5	－	胴	灰褐	白粒	流水状櫛描文。	堀之内	212	136
Ⅱ	230	土坑	1	－	突起	浅黄橙	輝・角	上面と内面で８の字状に捻転する。両側面に刺突。	称名寺	212	137
Ⅱ	233	土坑	1	－	口	浅黄橙	小石	沈線文？	称名寺	211	137
Ⅱ	234	土坑	1	－	口	暗褐	小石	無文。	中期後半	211	137
Ⅱ Ⅱ	235 65	土坑 柱穴	1	－	胴	鈍橙	白粒、小石	沈線文、磨消縄文。	加ＥⅣ	211	137
Ⅱ	237	土坑	1	－	胴	鈍褐	白粒、小石	沈線文、縄文。	加Ｂ１	211	137
Ⅱ	239	土坑	1	－	胴	明赤褐	白粒、輝・角	隆帯、爪形文。	勝坂２	211	137
Ⅱ	246	土坑	1	－	把手	灰	白粒、小石	橋状把手の中空部に上面と内面から穿孔。側面は孔の周りに沈線文。	加ＥⅠ	212	137
Ⅱ	246	土坑	2	－	口	灰褐	白粒、小石	肥厚する口唇部に繋がって隆帯の区画部分。	加ＥⅢ	212	137
Ⅱ	246	土坑	3	－	口	橙	白粒	沈線文、縄文。	加ＥⅣ	212	137
Ⅱ	246	土坑	4	－	口	鈍橙	輝・角僅	沈線文	称名寺	212	137
Ⅱ	246	土坑	5	－	胴	鈍赤褐	赤粒、輝・角	条線文。	？	212	137
Ⅱ	247	土坑	1	－	口	浅黄橙	赤粒、輝・角僅	沈線文間に刺突列。	称名寺	212	137
Ⅱ	247	土坑	2	－	口	浅黄橙	輝・角僅	沈線文、縄文。	称名寺	212	137
Ⅱ	247	土坑	3	－	底	鈍黄橙	白粒、小石	胴部無文。端部が張る平底。	称名寺	212	137
Ⅱ	251	土坑	1	－	胴～底	橙	赤粒、小石	胴部は沈線と縄文。平底。（底径 9.8cm）	加ＥⅢ	212	137
Ⅱ	251	土坑	2	深鉢	胴～底	赤褐	白粒、小石	横位埋甕。隆帯文。縄文。（底径 9.5cm）	加ＥⅡ	212	137
Ⅱ	253	土坑	1	－	口	鈍橙	夾雑物特になし	口縁沿いに２条横位沈線。体部は縄文と２条の波状沈線。	加ＥⅢ	212	137
Ⅱ	254	土坑	1	－	胴	灰褐	白粒	縄文。	加ＥⅡ	212	137
Ⅱ	254	土坑	2	－	口	暗灰褐	白粒、輝・角、小石	沈線文、細縄文。	堀之内２	212	137
Ⅱ	254	土坑	3	－	胴	灰褐	輝・角、細砂、小石	縄文。	加ＥⅡ	212	137
Ⅱ	258	土坑	1	－	胴	暗灰褐	白粒、輝・角、小石	隆帯、縄文。	加ＥⅡ	212	137
Ⅱ	258	土坑	2	－	口	暗灰褐	輝・角僅、小石	口唇部に沈線。	堀之内１	212	137
Ⅱ	258	土坑	3	－	胴	灰黄	白粒	弧状の沈線文、縄文。	堀之内１	212	137
Ⅱ	259	土坑	1	－	口	鈍橙	輝・角、小石	隆帯と太沈線による区画、区画内は縄文。	加ＥⅡ	213	137
Ⅱ	259	土坑	2	－	口	灰褐	白粒、輝・角、小石	隆帯の渦巻文。	加ＥⅡ	213	137
Ⅱ	259	土坑	3	－	口	橙	輝・角、小石	横位斜位の沈線と縄文。	加ＥⅡ	213	137
Ⅱ	259	土坑	4	－	胴	淡橙	輝・角、小石	隆帯と撚糸文。	加ＥⅡ	213	137
Ⅱ	259	土坑	5	－	胴	黒灰	輝・角菌	縄文と円形刺突。浅太の沈線。	加ＥⅡ	213	137
Ⅱ	259	土坑	6	－	口	灰褐	白粒、輝・角、小石	隆帯の区画。	加ＥⅢ	213	137
Ⅱ	259	土坑	7	－	胴	橙白	輝・角、小石	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	213	137
Ⅱ	259	土坑	8	－	口	橙	白粒、輝・角、小石	口唇部が内屈。横位沈線。	堀之内１	213	137
Ⅱ	259	土坑	9	－	口	灰白	白粒、輝・角、小石	環状貼付文、沈線、僅かに縄文。	堀之内１	213	137
Ⅱ	259	土坑	10	－	胴	淡橙	白粒、輝・角	沈線文、縄文。	堀之内１	213	137
Ⅱ	259	土坑	11	－	胴	灰白	輝・角、小石	沈線文、縄文。	堀之内１	213	137
Ⅱ	259	土坑	12	－	口	橙白	白粒、小石	横位沈線、刺突列。口縁部内側に沈線。	堀之内２	213	137
Ⅱ	260	土坑	1	－	胴	鈍赤褐	金雲母、小石	隆起線の両脇に角押し文。	阿玉台Ⅰｂ	213	137
Ⅱ	260	土坑	2	－	胴	暗赤褐	白粒、小石	破片上位から縄文、２条の隆帯、刺突列、浅い刻み入りの隆帯、無文部、沈線。	加ＥⅠ	213	137
Ⅱ	260	土坑	3	－	口	橙	白粒、小石	沈線を入れた隆帯による区画と渦巻文。区画内は撚糸文。	加ＥⅡ	213	137
Ⅱ	260	土坑	4	－	胴	鈍橙	輝・角、小石	撚糸文。５と同一個体。	加ＥⅡ	213	137
Ⅱ	260	土坑	5	－	胴	鈍橙	輝・角、小石	撚糸文。４と同一個体。	加ＥⅡ	213	137
Ⅱ	260	土坑	6	－	胴	黒灰	白粒、輝・角	沈線文、撚糸文。	加ＥⅡ	213	137
Ⅱ	260	土坑	7	－	胴	黒褐	輝・角、小石	縄文、横位沈線と沈線鋸歯文。	加ＥⅡ	213	138
Ⅱ	260	土坑	8	－	胴	暗灰褐	白粒、輝・角、小石	沈線、縄文。	加ＥⅡ	213	138
Ⅱ	260	土坑	9	－	胴	鈍橙	白粒、小石	撚糸文、括れ部に沈線文。	加ＥⅡ	213	138
Ⅱ	260	土坑	10	－	底	鈍橙	輝・角	僅かに縄文。平底。（底径 12.0cm）	加ＥⅡ	213	138
Ⅱ	260	土坑	11	－	底	灰白	白粒、輝・角	胴部無文。上げ底。（底径 4.6cm）	加ＥⅡ	213	138
Ⅱ	261	土坑	1	小壺	完形	鈍橙	白粒、輝・角	横位埋甕。括れ部下に横位微隆線。胴部も微隆線で対面に輪と懸垂文。底面に網代痕。（口径 11.4cm、底径 5.6cm、器高 11.3cm）	堀之内１	214	138
Ⅱ	261	土坑	2	－	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	括れ部に貼付文。胴部は沈線文と縄文。	堀之内１	214	138
Ⅱ	262	土坑	1	－	胴	灰	輝・角、小石	条線文。	加ＥⅢ	213	138
Ⅱ	264	土坑	1	－	胴	灰白	輝・角、小石多	微かに縄文。	堀之内１	213	138
Ⅱ	271	土坑	1	－	胴	赤橙	白粒、小石	沈線、縄文。	加ＥⅡ	214	138
Ⅱ	271	土坑	2	－	底	灰褐	白粒、輝・角	胴部無文。平底。（底径 10.6cm）	称名寺	214	138
Ⅱ	271	土坑	3	－	底	黄白	輝・角	胴部無文。平底。（底径 10.3cm）	称名寺	214	138
Ⅱ	271	土坑	4	鉢？	底	鈍橙	輝・角、小石	逆位埋甕。胴部無文。平底。（底径 7.2cm）	堀之内１	214	138
Ⅱ	271	土坑	5	－	胴	浅黄	石英、白粒、輝・角	無文。	堀之内	214	138
Ⅱ	273	土坑	1	－	口	浅黄橙	白粒、赤粒、輝・角	沈線文、刺突列点文。２は同一個体。	称名寺	213	138
Ⅱ	273	土坑	2	－	口	浅黄橙	白粒、赤粒、輝・角	沈線文、刺突列点文。１は同一個体。	称名寺	213	138
Ⅱ	274	土坑	1	－	胴	鈍橙	白粒、輝・角	沈線、縄文。破片左端に刺突。	加ＥⅡ	214	138
Ⅱ	274	土坑	2	－	口	鈍褐	輝・角僅	波状口縁。太沈線で区画と文様、区画内は縄文。	加ＥⅢ	214	138
Ⅱ	274	土坑	3	－	胴	灰褐	白粒、輝・角	沈線文、雨垂れ状刺突文。	称名寺	214	138
Ⅱ	274	土坑	4	－	胴	鈍橙	輝・角、小石	隆帯の上端が瘤状になり両側から刺突。同心円や横位の沈線。縄文の痕跡微か。	堀之内１	214	138
Ⅱ	274	土坑	5	－	胴～底	浅黄	白粒、小石	無文、端部やや突出。平底。	堀之内１	214	138

遺物番号				器種	部位	色調	胎　土	特　徴・法　量　等	時期	図版	写真
Ⅱ	274	土坑	6	－	胴	鈍褐	白粒、小石	沈線文、縄文。	堀之内２	214	138
Ⅱ	277	土坑	1	－	胴	淡橙	小石	隆帯、縦位沈線群。	加ＥⅡ	214	138
Ⅱ	277	土坑	2	－	胴	浅黄橙	小石	隆帯、沈線。	加ＥⅡ	214	138
Ⅱ	278	土坑	1	－	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	沈線区画、区画内も沈線。	加ＥⅡ	214	138
Ⅱ	281	土坑	1	－	胴	橙	小石	括れ部に隆帯と交互刺突文。	加ＥⅠ	214	138
Ⅱ	281	土坑	2	－	胴	暗褐	白粒僅、小石	横位隆帯２条。下部は沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	214	138
Ⅱ	282	土坑	1	－	口	鈍橙	輝・角	無文。内外面にミガキ。	称名寺	214	138
Ⅱ	285	土坑	1	－	胴	鈍橙	白粒	縄文。	加ＥⅡ	215	138
Ⅱ	288	土坑	1	－	胴	鈍橙	輝・角、小石	縄文後、隆帯の両脇に沈線。上部に横位沈線。	加ＥⅡ	215	138
Ⅱ	289	土坑	1	－	口	灰褐	白粒、小石	無文。口唇部やや肥厚。内面ミガキ顕著。	加Ｅ	215	139
Ⅱ	289	土坑	2	－	胴	淡橙	輝・角	沈線、磨消縄文。	加ＥⅡ	215	139
Ⅱ	289	土坑	3	－	胴	浅黄橙	白粒	櫛描文。	加ＥⅡ	215	139
Ⅱ	289	土坑	4	－	胴	灰白	白粒	沈線、磨消縄文。内面ミガキ顕著。	加ＥⅢ	215	139
Ⅱ	306	土坑	1	－	口	灰黄	白粒、小石	波状口縁か。太沈線。	加ＥⅢ	215	139
Ⅱ	312	土坑	1	－	胴	橙	輝・角	沈線、縄文。49 住 -4 と似る。	称名寺	215	139
Ⅱ	316	土坑	1	注口土器	注口部	橙	白粒、小石	断面はやや扁平。注ぎ口上面に小突起。（根元内径 0.7cm）	称名寺	215	139
Ⅱ	316	土坑	2	－	口～胴	赤橙	白粒僅、輝・角	波頂部内面に環状の突起。胴部は沈線文間に縄文。	称名寺	215	139
Ⅱ	316	土坑	3	－	口	黒褐	輝・角	沈線文、微かに縄文。	称名寺	215	139
Ⅱ	324	土坑	1	－	胴	赤橙	輝・角、小石	撚糸文？	加ＥⅠ	215	139
Ⅱ	324	土坑	2	－	胴	鈍黄橙	輝・角僅	刻みを入れた隆帯の下は沈線文。	加ＥⅠ	215	139
Ⅱ	324	土坑	3	－	口	灰黄褐	白粒、輝・角	隆帯と沈線による区画と渦巻文、区画内は縄文。	加ＥⅡ	215	139
Ⅱ	324	土坑	4	深鉢	胴～底	橙灰	白粒、輝・角	２条１組の隆線、磨消縄文。（底径 7.3cm）	加ＥⅢ	215	139
Ⅱ	324	土坑	5	－	口	浅黄橙	白粒、輝・角僅	隆帯渦巻文の一部。隆帯と沈線の区画内は縄文。	加ＥⅢ	215	139
Ⅱ	324	土坑	6	－	口～胴	鈍褐	白粒、赤粒僅	口縁部無文帯の下に隆線。胴部は縄文。	加ＥⅣ	215	139
Ⅱ	324	土坑	7	－	口・突起	淡橙	白粒、小石	波頂部外面に耳状の突起。隆帯と太沈線で区画、区画内縄文。	加ＥⅣ	215	139
Ⅱ	324	土坑	8	－	胴	橙	白粒、輝・角	無文。やや外反する。	称名寺	215	139
Ⅱ	324	土坑	9	－	胴	暗褐	小石	横位沈線文と縦位の条線文。	堀之内１	215	139
Ⅱ	324	土坑	10	－	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角僅	横位沈線。	堀之内２	215	139
Ⅱ	339	土坑	1	－	口	橙灰	白粒、輝・角	隆帯横位区画、区画内短沈線。	加ＥⅠ	216	139
Ⅱ	339	土坑	2	－	口	鈍橙	白粒、輝・角、金雲母	口唇部横位隆帯、沈線。胴部縄文。	加ＥⅡ	216	139
Ⅱ	339	土坑	3	－	胴	橙	白粒、小石	沈線、縄文。	加ＥⅡ	216	139
Ⅱ	341	土坑	1	－	胴	黄白	石英、小石	沈線文。	称名寺	215	139
Ⅱ	360	土坑	1	－	胴	鈍橙	小石多、輝・角	横位沈線に刻み、縄文。	加ＥⅠ	216	139
Ⅱ	360	土坑	2	－	胴	黒灰	輝・角、小石多	横位沈線、縄文。	加ＥⅢ	216	139
Ⅱ	361	土坑	1	－	胴	暗灰褐	白粒	沈線文、縄文。	堀之内２	216	139
Ⅱ	362	土坑	1	－	胴	赤褐	金雲母僅、小石	破片上端に隆帯。	加ＥⅠ	216	139
Ⅱ	397	土坑	1	－	胴	暗赤褐	小石僅	隆帯と沈線による区画、区画内は縄文。	加ＥⅠ	216	139
Ⅱ	402	土坑	1	－	口	褐灰	白粒、輝・角	緩い波状口縁。口唇部内側に横位沈線。２と同一個体。	堀之内１	216	139
Ⅱ	402	土坑	2	－	胴	褐灰	白粒、輝・角	弧状の微隆線。１と同一個体。	堀之内１	216	139
Ⅱ	406	土坑	1	－	胴	赤褐	小石	撚糸文上に３条１組の隆線と沈線で渦巻文。	加ＥⅡ	216	139
Ⅱ	406	土坑	2	－	胴	黒褐	白粒、金雲母、小石	縄文上に３条１組の横位沈線と破片両端に微かに縦位沈線。	加ＥⅡ	216	139
Ⅱ	406	土坑	3	－	胴	暗赤褐	小石	撚糸文。	加ＥⅡ	216	139
Ⅱ	406	土坑	4	－	底	鈍黄	石英、小石	平底。端部は角ばる。	中期後半	216	139
Ⅱ	409	土坑	1	－	胴	鈍黄	輝・角	沈線。	？	216	139
Ⅱ	432	土坑	1	－	胴	鈍橙	白粒、小石	縄文。	加ＥⅡ	216	140
Ⅱ	432	土坑	2	－	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	環状貼付文と沈線文。	堀之内１	216	140
Ⅱ	435	土坑	1	－	胴	灰褐	白粒、輝・角	横位隆帯、縦位沈線、複節縄文。	加ＥⅡ	216	140
Ⅱ	435	土坑	2	－	口～胴	暗灰	白粒、小石	口縁部は隆帯と太沈線で区画、区画内は縄文。胴部は沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	216	140
Ⅱ	435	土坑	3	－	口	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	隆帯と太沈線による区画、区画内外に縄文。	加ＥⅢ	216	140
Ⅱ	435	土坑	4	－	胴	鈍橙	白粒	沈線、磨消縄文。沈線文。	加ＥⅢ	216	140
Ⅱ	435	土坑	5	－	胴	橙	白粒、輝・角	沈線、磨消縄文。沈線文。	加ＥⅢ	216	140
Ⅱ	435	土坑	6	－	胴～底	浅黄橙	白粒、小石僅	胴部は沈線、磨消縄文。平底の底面に網代痕か？（底径 9.0cm）	加ＥⅢ	216	140
Ⅱ	440	土坑	1	－	口	灰黄	白粒、輝・角、小石	沈線文、磨消縄文。	加ＥⅣ	217	140
Ⅱ	455	土坑	1	－	口～胴	暗赤褐	輝・角、小石	口縁部は隆帯と沈線による区画、区画内は沈線。頸部は無文。破片下端に横位隆帯。	加ＥⅠ	217	140
Ⅱ	455	土坑	2	－	胴	灰褐	白粒	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	217	140
Ⅱ	463	土坑	1	－	胴	赤褐	赤粒、小石	縄文。	加ＥⅡ	217	140
Ⅱ	467	土坑	1	－	胴	灰黄	白粒、輝・角、細砂	縄文、横位沈線。	加ＥⅡ	217	140
Ⅱ	470	土坑	1	－	胴	暗灰褐	白粒、輝・角僅	縦横にＴ字状の隆帯。	加ＥⅡ	217	140
Ⅱ	470	土坑	2	－	胴	浅黄橙	輝・角、石英、小石	沈線、磨消縄文。	加ＥⅣ	217	140
Ⅱ	470	土坑	3	－	胴	灰褐	白粒、輝・角	沈線文、縄文、刺突。	称名寺	217	140
Ⅱ	470	土坑	4	深鉢	口～胴	鈍褐	輝・角	横位埋甕。口縁沿いに沈線と刺突。胴部は縄文。（口径 34.0cm）	堀之内１	217	140

遺物番号				器種	部位	色調	胎　土	特　徴・法　量　等	時期	図版	写真
Ⅱ	476	土坑	1	—	口	橙	赤粒、小石	口唇部が内側に突出。無文。	加ＥⅡ	217	140
Ⅱ	476	土坑	2	—	胴	暗赤褐	白粒、輝・角僅	無文。括れ部から稜にかけて赤色塗彩あり。内面にも括れ部より上位に赤色塗彩あり。	加ＥⅡ	217	140
Ⅱ	476	土坑	3	—	胴	灰黄	白粒、輝・角、小石	縄文、垂下沈線。	加ＥⅡ	217	140
Ⅱ	481	土坑	1	—	胴	橙	白粒、小石	縄文。	中期後半	217	140
Ⅱ	485	土坑	1	—	胴	淡橙	赤粒、輝・角	沈線文。	加ＥⅢ	217	140
Ⅱ	487	土坑	1	—	口～胴	鈍橙	輝・角	突起部に楕円形の貼付文。胴部は無文。	加ＥⅡ	217	140
Ⅱ	487	土坑	2	—	口・突起	暗褐	輝・角僅、細砂	突起と口唇部の上面に沈線。口縁部は隆帯と沈線による区画と渦巻文、区画内は沈線。頸部は無文。	加ＥⅡ	217	140
Ⅱ	487	土坑	3	—	胴	橙	白粒、輝・角、小石	隆帯による区画と文様。区画内と胴部は縄文。	加ＥⅡ	217	140
Ⅱ	487	土坑	4	—	胴	暗赤褐	小石	隆帯区画、撚糸文。	加ＥⅡ	217	140
Ⅱ	487	土坑	5	—	突起	橙	赤粒、小石	上面に沈線渦巻文。胴部に沈線文。	加ＥⅢ	217	140
Ⅱ	489	土坑	1	—	胴	黒	白粒、輝・角	縄文、微隆線文。	加ＥⅠ	218	141
Ⅱ	489	土坑	2	—	口～胴	橙白	輝・角、小石	口縁部は隆帯と沈線による区画と渦巻文。区画内と胴部は縄文。括れ部に沈線。	加ＥⅡ	218	141
Ⅱ	489	土坑	3	—	胴	橙	小石	沈線間に刺突列点文。	称名寺	218	141
Ⅱ	489	土坑	4	—	口	浅黄橙	白粒、小石	口唇部太沈線。体部縄文、沈線。	堀之内１	218	141
Ⅱ	503	土坑	1	—	胴	橙	白粒、小石	横位沈線、縦位条線。	加ＥⅠ	218	141
Ⅱ	503	土坑	2	—	胴	橙	白粒、小石	縄文、沈線文。	加ＥⅢ	218	141
Ⅱ	503	土坑	3	—	胴	灰白	白粒	沈線文、縄文。	加ＥⅢ	218	141
Ⅱ	503	土坑	4	—	底	黒褐	白粒	胴部無文。平底。底面に網代痕らしき痕跡あり。	中期後半	218	141
Ⅱ	506	土坑	1	—	胴	暗灰褐	白粒、小石	条線文、沈線文。	加ＥⅠ	218	141
Ⅱ	506	土坑	2	—	胴	暗灰褐	白粒、小石	縄文。	中期後半	218	141
Ⅱ	512	土坑	1	—	胴	橙	白粒	区画状の沈線文と撚糸文。	加ＥⅡ	218	141
Ⅱ	515	土坑	1	—	口	鈍黄橙	小石	縄文、沈線文。	加ＥⅡ	218	141
Ⅱ	515	土坑	2	—	胴	橙	白粒、小石	沈線でH字状の磨り消し部、縄文。	加ＥⅡ	218	141
Ⅱ	515	土坑	3	—	胴	橙	輝・角	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	218	141
Ⅱ	515	土坑	4	—	胴	鈍黄橙	白粒、小石	太沈線の区画、区画内は縄文。胴部は沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	218	141
Ⅱ	531	土坑	1	—	口	赤褐	輝・角、小石	口縁部は無文。括れ部に沈線。	加ＥⅠ古	218	141
Ⅱ	533	土坑	1	—	胴	灰黄～黒	白粒	撚糸文。	加ＥⅠ	218	141
Ⅱ	533	土坑	2	—	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	縄文。	加ＥⅡ	218	141
Ⅱ	533	土坑	3	—	底	橙	白粒、小石	胴部は条線文。平底。（底径 12.0cm）	加ＥⅡ	218	141
Ⅱ	533	土坑	4	—	底	鈍橙	白粒、金雲母僅	胴部無文。平底。（底径 7.8cm）	加ＥⅡ	218	141
Ⅱ	534	土坑	1	—	口・頸部	鈍橙	輝・角、小石	口縁部隆帯区画、区画内縄文。頸部無文。	加ＥⅠ	218	141
Ⅱ	534	土坑	2	—	胴	灰白	白粒、輝・角	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	218	141
Ⅱ	534	土坑	3	—	胴	黒褐	白粒、輝・角	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	218	141
Ⅱ	534	土坑	4	—	胴	淡橙	赤粒、小石	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	218	141
Ⅱ	538	土坑	1	—	口付近	赤褐	赤粒、小石	沈線による区画、区画内縄文。	加ＥⅠ	218	141
Ⅱ	538	土坑	2	—	突起	淡橙	白粒、小石僅	内面に沈線文。	加ＥⅡ	218	141
Ⅱ	538	土坑	3	—	胴	淡橙	白粒、小石	縄文。	加ＥⅡ	218	141
Ⅱ	540	土坑	1	—	胴	赤褐	白粒、小石	括れ部に隆帯と沈線。その上部は無文。	加ＥⅡ	219	141
Ⅱ	540	土坑	2	—	胴	鈍橙	輝・角、小石	4 単位の条線文。	加ＥⅡ	219	141
Ⅱ	540	土坑	3	—	底	黄白	白粒、輝・角	平底。底面に網代痕らしき痕跡あり。	加ＥⅡ	219	141
Ⅱ	540	土坑	4	深鉢	口～胴	灰褐	白粒、輝・角	４単位と思われる波状口縁。口縁部は隆帯と太沈線による区画と渦巻文、区画内は縄文。胴部は沈線、磨消縄文。（口径 25.0cm）	加ＥⅢ	219	141
Ⅱ	540	土坑	5	—	胴	鈍赤褐	白粒、小石	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	219	141
Ⅱ	542	土坑	1	浅鉢	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	上半は沈線による区画、区画内は沈線の充填と刻みを入れた隆帯による横位「逆∫」字状文。稜より下半は無文。	加ＥⅠ	219	141
Ⅱ	542	土坑	2	—	口・突起	橙	白粒、小石	口唇部上面に沈線。環状把手が欠損か。口縁部に沈線区画、区画内も沈線。さらに沈線渦巻文を持つ突起を貼付。胴部も縦位、横位の沈線区画文。	加ＥⅠ	219	142
Ⅱ	542	土坑	3	—	口～胴	暗灰褐	白粒、小石	口唇部上面の沈線が波頂部で渦巻文に。全面に縄文後、横位、縦位の沈線文。	加ＥⅡ	219	142
Ⅱ	542	土坑	4	—	口	橙白	白粒、輝・角	口縁部２条隆帯の区画文。胴部は条線文。	加ＥⅡ	219	142
Ⅱ	542	土坑	5	—	口	鈍黄橙	白粒、輝・角,、細砂	口縁部に横位の隆帯と沈線。その下に斜位沈線。	加ＥⅡ	219	142
Ⅱ	542	土坑	6	—	胴～底	淡橙	小石	胴部に撚糸文。平底。	加ＥⅡ	219	142
Ⅱ	542	土坑	7	—	脚	鈍橙	白粒、細砂	上部に横位沈線。	後期	219	142
Ⅱ	543	土坑	1	—	胴	橙	白粒、輝・角	条線文。	加ＥⅢ	219	142
Ⅱ	546	土坑	1	—	胴	鈍橙	白粒、輝・角僅	隆帯による区画、区画内は縄文。	加ＥⅡ	219	142
Ⅱ	547	土坑	1	—	胴	淡橙	白粒、輝・角	２条の横位隆帯、縄文。	加ＥⅡ	219	142
Ⅱ	547	土坑	2	—	胴	淡橙	白粒、赤粒、小石	横位隆帯、縦位は沈線と撚糸文。	加ＥⅡ	219	142
Ⅱ	547	土坑	3	—	胴	橙白	白粒、小石	不規則な撚糸文、条線文。３条１組の垂下沈線と蛇行沈線文。	加ＥⅡ	219	142
Ⅱ	547	土坑	4	—	胴	橙	白粒、小石	11 単位の流水状条線文。横位、縦位の２条１組沈線。	加ＥⅡ	219	142
Ⅱ	554	土坑	1	深鉢	口～胴	淡橙	白粒、輝・角、小石	正位埋甕。口縁部は隆帯と沈線による区画と文様、区画内は沈線。胴部に２段の横位刺突列、以下縄文。（口径 25.0cm）	加ＥⅡ	220	142

遺物番号				器種	部位	色調	胎　土	特　徴・法　量　等	時期	図版	写真
Ⅱ	556	土坑	1	－	胴	鈍赤褐	白粒、輝・角	隆帯区画と無文頸部。	加ＥⅠ	219	142
Ⅱ	556	土坑	2	－	胴	暗赤褐	白粒、小石	横位隆帯、縄文、垂下沈線。	加ＥⅡ	219	142
Ⅱ	556	土坑	3	－	胴	極暗赤褐	小石	縄文。破片上端に横位沈線。	加ＥⅡ	219	142
Ⅱ	559	土坑	1	－	胴	橙	白粒、輝・角	撚糸文。	加ＥⅠ	220	142
Ⅱ	564	土坑	1	－	胴	黒灰	白粒	撚糸文後、括れ部に横位沈線。2、3と同一個体。	加ＥⅠ古	220	142
Ⅱ	564	土坑	2	－	胴	暗褐灰	白粒	撚糸文。1、3と同一個体。	加ＥⅠ古	220	142
Ⅱ	564	土坑	3	－	胴	暗灰褐	白粒	撚糸文。底部付近無文。1、2と同一個体。	加ＥⅠ古	220	142
Ⅱ	565	土坑	1	－	口	橙	白粒、小石	隆帯で区画、区画内は横位沈線と交互刺突文。	加ＥⅠ	220	142
Ⅱ	566	土坑	1	－	口	赤褐	白粒	口唇部内側に稜あり。外側は横位隆帯の上下に刻み列。胴部は縄文。	加ＥⅠ	220	142
Ⅱ	566	土坑	2	－	頸	浅黄橙	白粒、小石	破片上端の口縁部は隆帯による区画と文様。頸部は無文。	加ＥⅠ	220	142
Ⅱ	566	土坑	3	－	口	鈍黄橙	白粒	無文。	中期中葉	220	142
Ⅱ	567	土坑	1	－	胴～底	浅黄橙	白粒、小石	胴部は沈線、磨消縄文。底部は若干上げ底。（底径 5.8cm）	加ＥⅢ	220	142
Ⅱ	571	土坑	1	－	胴	灰白	赤粒、輝・角	沈線文。	堀之内１	220	142
Ⅱ	572	土坑	1	－	胴	淡橙	白粒、赤粒、小石	縦横の沈線。胴部は縄文。	中期中葉	220	142
Ⅱ	573	土坑	1	－	胴	浅黄橙	白粒、赤粒、小石	沈線、磨消縄文。	加ＥⅡ	220	142
Ⅱ	575	土坑	1	－	口	暗赤褐	小石	太沈線文、磨消縄文。	加ＥⅢ	220	142
Ⅱ	575	土坑	2	－	胴	鈍橙	白粒、小石	細縄文、沈線幾何学文。	堀之内２	220	142
Ⅱ	577	土坑	1	－	口	橙	白粒、小石	交互刺突文と沈線文、縄文。	加ＥⅠ	220	142
Ⅱ	577	土坑	2	－	胴	淡橙	小石	２条の横位隆帯より上は無文の頸部か。下は縄文、隆帯２条垂下。	加ＥⅠ	220	142
Ⅱ	577	土坑	3	－	胴	鈍橙・褐	輝・角僅、小石	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	220	142
Ⅱ	580	土坑	1	－	胴	淡橙	白粒、赤粒、小石	沈線文。	称名寺	220	142
Ⅱ	582	土坑	1	－	口	黒・灰褐	白粒	隆帯と沈線による区画と渦巻文。区画内は縄文。2と同一個体。	加ＥⅢ	220	143
Ⅱ	582	土坑	2	－	口	黒・灰褐	白粒	隆帯と沈線による区画と渦巻文。区画内は縄文。1と同一個体。	加ＥⅢ	220	143
Ⅱ	583	土坑	1	－	口	黒褐	白粒、輝・角	沈線文。	勝坂３	221	143
Ⅱ	583	土坑	2	－	口	鈍赤褐	白粒、輝・角	縄文、密な縦位沈線。横位沈線の痕跡あり。	加ＥⅠ	221	143
Ⅱ	583	土坑	3	－	胴	黄白	輝・角、小石	縦位条線、横位沈線。	加ＥⅡ	221	143
Ⅱ	583	土坑	4	－	胴	鈍橙	輝・角	横位隆帯、縄文。	加ＥⅡ	221	143
Ⅱ	583	土坑	5	－	胴	浅黄橙	白粒、小石	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	221	143
Ⅱ	583	土坑	6	－	胴	鈍橙	白粒、輝・角	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	221	143
Ⅱ	583	土坑	7	－	胴	浅黄橙	輝・角	上下交互押圧する横位隆帯、横位条線。	堀之内	221	143
Ⅱ	584	土坑	1	－	胴	赤褐	白粒、輝・角	杉綾状縄文。2と同一個体。	加ＥⅡ	220	143
Ⅱ	584	土坑	2	－	底	赤褐	白粒、輝・角	胴部縄文。平底。1と同一個体。	加ＥⅡ	220	143
Ⅱ	591	土坑	1	－	口	暗赤褐	小石	隆帯区画、沈線渦巻文等。環状突起部が欠損か。	加ＥⅠ	221	143
Ⅱ	591	土坑	2	－	口	黒・灰褐	白粒、小石	隆帯で区画と渦巻文。区画内は条線。	加ＥⅡ	221	143
Ⅱ	591	土坑	3	－	胴	鈍橙	白粒	沈線、縄文。	加ＥⅡ	221	143
Ⅱ	591	土坑	4	－	胴	赤褐	白粒、赤粒	括れ部か。低い隆帯２条。	加ＥⅡ	221	143
Ⅱ	591	土坑	5	－	胴	黒褐	白粒、金雲母	沈線文、縄文。	堀之内２	221	143
Ⅱ	592	土坑	1	－	胴	黒褐	白粒、赤粒、小石	縄文上に添付した隆帯に沿って沈線が２条巡る。隆帯上にも縄文。	阿玉台Ⅳ	221	143
Ⅱ	592	土坑	2	－	口	暗赤褐	赤粒、小石	口縁部は上から刺突列、縄文、両側沈線の刻み入り隆帯。	加ＥⅠ	221	143
Ⅱ	592	土坑	3	－	口	鈍黄橙	輝・角、小石	口唇部に刺突。胴部は縄文。	加ＥⅡ	221	143
Ⅱ	592	土坑	4	－	胴	灰褐	輝・角	沈線文、縄文。	加ＥⅡ	221	143
Ⅱ	592	土坑	5	－	口	灰褐	輝・角僅	両側から寄せ上げるような波状口縁。胴部は沈線文。	称名寺	221	143
Ⅱ	592	土坑	6	－	口	浅黄橙	白粒僅	沈線文、刺突列点文。	称名寺	221	143
Ⅱ	592	土坑	7	－	胴	鈍橙	白粒、小石	沈線文。一部に縄文。	称名寺	221	143
Ⅱ	592	土坑	8	－	胴	暗褐	白粒、輝・角僅	沈線文、縄文。	称名寺	221	143
Ⅱ	593	土坑	1	－	口	灰褐	白粒、輝・角	口縁部は無文。括れ部に交互刺突文。	加ＥⅠ	222	143
Ⅱ	593	土坑	2	－	口	浅黄橙	白粒、輝・角	隆帯と沈線で区画、区画内は縄文。	加ＥⅠ	222	143
Ⅱ	593	土坑	3	－	口	橙～暗灰	白粒、赤粒、小石	波状口縁。口縁に沿う隆帯の両側に角押し文。胴部は縄文。	加ＥⅠ	222	143
Ⅱ	593	土坑	4	－	口	暗褐	輝・角僅	沈線間に細縄文。7と同一個体か。	堀之内２	222	143
Ⅱ	593	土坑	5	－	口	黒褐	白粒、輝・角	沈線、縄文。	堀之内２	222	143
Ⅱ	593	土坑	6	－	胴	鈍橙	白粒、輝・角	粗いナデ。	堀之内２	222	143
Ⅱ	593	土坑	7	－	胴	鈍褐	白粒、輝・角僅	沈線、細縄文。4と同一個体か。	堀之内２	222	143
Ⅱ	593	土坑	8	－	胴	浅黄橙	輝・角、小石	沈線、細縄文。	堀之内２	222	143
Ⅱ	598	土坑	1	－	胴	黒	白粒、輝・角僅	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	221	143
Ⅱ	598	土坑	2	－	底	暗灰褐	小石	胴部無文。平底。	加ＥⅢ	221	143
Ⅱ	598	土坑	3	－	口	灰褐	輝・角、小石	口唇部沿いにやや太い沈線、胴部は沈線、縄文。	加ＥⅣ	221	143
Ⅱ	600	土坑	1	－	口	鈍黄橙	輝・角僅	口唇部に稜あり。横位沈線。	称名寺	222	144
Ⅱ	600	土坑	2	－	口	暗褐	白粒	沈線文。縄文。	称名寺	222	144
Ⅱ	600	土坑	3	－	胴	淡橙	小石僅	無文。	称名寺	222	144
Ⅱ	600	土坑	4	－	胴	浅黄橙	白粒、輝・角僅	無文。	称名寺	222	144
Ⅱ	604	土坑	1	－	胴	赤褐	赤粒、小石	隆帯、沈線。	焼町	222	144
Ⅱ	620	土坑	1	－	胴	橙	輝・角、小石	条線文。	加ＥⅠ	222	144
Ⅱ	620	土坑	2	－	胴	灰褐	白粒、小石	縄文。	加ＥⅡ	222	144
Ⅱ	621	土坑	1	深鉢	底欠落	鈍褐～橙	白粒僅	４単位の波状口縁。胴部は沈線の区画と蕨手状文。区画内は縄文。（口径 12.0cm）	加ＥⅡ	222	144
Ⅱ	623	土坑	1	－	胴	橙	輝・角	撚糸文。	加ＥⅡ	222	144

遺物番号				器種	部位	色調	胎　土	特　徴・法　量　等	時期	図版	写真
Ⅱ	630	土坑	1	—	口～胴	暗赤褐	輝・角、小石	口縁部は隆帯と沈線による区画と文様、区画内は縄文と無文。胴部は縄文後、縦横の沈線。	加ＥⅡ	223	144
Ⅱ	630	土坑	2	—	口	暗赤褐	赤粒、輝・角	口縁部は隆帯の区画と文様。区画内と胴部に縄文。	加ＥⅡ	223	144
Ⅱ	630	土坑	3	—	口	鈍橙	白粒、輝・角	口縁部太沈線渦巻文、隆帯区画内縄文。胴部垂下沈線、磨消縄文。	加ＥⅡ	223	144
Ⅱ	630	土坑	4	—	口	浅黄橙	白粒、輝・角	波状口縁。太沈線の渦巻文、僅かに縄文。	加ＥⅢ	223	144
Ⅱ	630	土坑	5	—	把手	灰白	白粒、輝・角	全体的に丸みを持つ無文の橋状把手。胴部は揺れる条線文。	加ＥⅢ	223	144
Ⅱ	630	土坑	6	—	口	浅黄橙	赤粒、輝・角	口唇部は無文。隆線以下は縄文。	加ＥⅣ	223	144
Ⅱ	630	土坑	7	—	口	灰白	輝・角、小石	沈線文。縄文。	加ＥⅣ	223	144
Ⅱ	630	土坑	8	—	口	明褐灰	白粒、輝・角	口唇部稜あり。胴部に沈線文。９と同一個体。	称名寺	223	144
Ⅱ	630	土坑	9	—	口	明褐灰	白粒、輝・角	口唇部稜あり。胴部に沈線文。８と同一個体。	称名寺	223	144
Ⅱ	630	土坑	10	—	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	縄文、沈線文。	称名寺	223	144
Ⅱ	630	土坑	11	—	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	沈線区画、区画内縄文。	堀之内２	223	144
Ⅱ	630	土坑	12	—	胴	赤褐	輝・角僅	沈線、破片下部に縄文。	中期中葉	223	144
Ⅱ	631	土坑	1	—	胴	淡橙	白粒、赤粒	沈線文間に刺突列点文。	称名寺	224	145
Ⅱ	631	土坑	2	—	胴	浅黄橙	輝・角、小石僅	沈線文と６単位の短い条線文。	称名寺	224	145
Ⅱ	632	土坑	1	—	胴	灰白	白粒、小石	横位隆帯に雑な押圧。縦位に太く粗い条線。内面は丁寧なミガキ。	加ＥⅡ	224	145
Ⅱ	632	土坑	2	—	胴	黒	白粒、輝・角	沈線、磨消縄文。内面は浅黄橙色。	加ＥⅢ	224	145
Ⅱ	633	土坑	1	—	胴	暗赤褐	輝・角僅、小石	条線文。	加ＥⅢ	224	145
Ⅱ	634	土坑	1	—	把手	灰褐	金雲母、小石	先端を船首のように尖らせ、橋状に貼付。孔の周りは沈線文。上部には細沈線文。	加ＥⅠ	224	145
Ⅱ	634	土坑	2	—	胴	鈍黄橙	輝・角	隆帯区画、区画内無文。	加ＥⅡ	224	145
Ⅱ	634	土坑	3	—	胴	褐	白粒、小石	沈線渦巻文と縄文。	加ＥⅡ	224	145
Ⅱ	634	土坑	4	—	胴	灰褐	白粒、輝・角	太沈線の渦巻文か。	加ＥⅢ	224	145
Ⅱ	634	土坑	5	—	胴	灰褐	白粒、輝・角	太沈線の区画と蕨手状文。区画内縄文。	加ＥⅢ	224	145
Ⅱ	634	土坑	6	—	底	浅黄橙	白粒、輝・角	胴部は条線文。平底。	加ＥⅢ	224	145
Ⅱ	634	土坑	7	—	口	鈍黄橙	白粒、輝・角多	沈線文、磨消縄文。	加ＥⅣ	224	145
Ⅱ	634	土坑	8	—	胴	明褐灰	白粒、輝・角、小石	沈線間に多数の雨垂れ状刺突文。	称名寺	224	145
Ⅱ	634	土坑	9	壺	口～胴	橙	白粒、赤粒、小石	正位埋甕。括れ部に刻みを入れた隆帯。胴部は刺突入りの縦位隆帯と沈線文、縄文。（口径 18.5cm）	堀之内１	224	145
Ⅱ	634	土坑	10	—	口～胴	鈍赤褐	輝・角、小石	波状口縁に刺突が２つ。括れ部に８字状貼付文。胴部は沈線文と刺突文。	堀之内１	224	145
Ⅱ	634	土坑	11	—	口	赤褐	輝・角、小石	波状口縁に貫通孔と２つの円形刺突。括れ部に８字状貼付文。胴部は沈線文。	堀之内１	224	145
Ⅱ	637	土坑	1	—	口	黒褐	白粒	口唇上面に沈線。隆帯による区画で、区画の内外とも縄文。	加ＥⅠ	224	145
Ⅱ	637	土坑	2	—	口	暗灰褐	白粒、輝・角、小石	蜷局状の渦巻文。隆帯区画内は角押し文。	加ＥⅠ	224	145
Ⅱ	640	土坑	1	—	胴	灰白	小石	条線文。	加ＥⅢ	224	145
Ⅱ	640	土坑	2	—	口・突起	灰	白粒	縄文を施す捻転状突起。口縁沿いに隆線。胴部は縄文。	称名寺	224	145
Ⅱ	641	土坑	1	—	口	鈍橙	輝・角多	無文。	称名寺	225	145
Ⅱ	646	土坑	1	—	胴	淡橙	輝・角、雲母、小石	沈線、条線。	加ＥⅡ	225	145
Ⅱ	647	土坑	1	—	口	鈍赤褐	白粒、輝・角、小石	口縁部は２条の横位沈線内に円形刺突列。以下は縄文、２条沈線の連弧文。	加ＥⅡ	224	145
Ⅱ	655	土坑	1	—	胴	鈍橙	白粒、輝・角僅	沈線と浅い条線。	加ＥⅢ	225	145
Ⅱ	655	土坑	2	—	胴	灰褐	白粒、小石	沈線、縄文。	加ＥⅢ	225	145
Ⅱ	656	土坑	1	—	口	橙	輝・角、小石	口縁沿いに沈線。	加ＥⅡ	225	145
Ⅱ	659	土坑	1	—	胴	灰白	白粒、輝・角	∩字状の沈線文、縄文。	加ＥⅣ	225	145
Ⅱ	660	土坑	1	—	胴	赤褐	輝・角僅、小石	隆帯の区画内に深い条線文。	焼町？	225	145
Ⅱ	664	土坑	1	深鉢	口～胴	鈍橙	白粒、小石	正位埋甕。隆帯と沈線による区画、区画内は縄文。胴部は沈線、磨消縄文。（口径 21.5cm）	加ＥⅢ	225	145
Ⅱ	670	土坑	1	—	口	灰褐	白粒、輝・角、小石	隆帯区画、隆帯上に沈線、渦巻文。区画内杉綾状沈線文。頸部無文。	加ＥⅠ	225	146
Ⅱ	670	土坑	2	—	口	鈍褐	白粒	隆帯と沈線による区画、区画内は沈線。	加ＥⅡ	225	146
Ⅱ	670	土坑	3	—	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	沈線文、縄文。	加ＥⅡ	225	146
Ⅱ	670	土坑	4	—	胴	橙	輝・角、小石	縦位隆帯の他、撚糸文と縦横、∪∩状の沈線文。	加ＥⅡ	225	146
Ⅱ	670	土坑	5	—	底	鈍橙	小石	胴部は撚糸文。平底。	加ＥⅡ	225	146
Ⅱ	670	土坑	6	—	底	鈍黄橙	白粒、金雲母	胴部無文。平底。	中期中葉	225	146
Ⅱ	673	土坑	1	—	口	暗赤褐	小石	隆帯による区画、区画内は縄文。	加ＥⅡ	225	146
Ⅱ	673	土坑	2	—	頸	黒褐	白粒僅	頸部無文帯と胴部最上位の横位隆帯か。	加ＥⅡ	225	146
Ⅱ	674	土坑	1	—	口	暗灰褐	白粒、小石	無文。	後期初頭	225	146
Ⅱ	677	土坑	1	—	口	灰褐	輝・角、雲母、小石	隆帯区画、区画内縄文、区画間沈線文。	加ＥⅡ	225	146
Ⅱ	677	土坑	2	—	胴	灰	輝・角、小石	撚糸文。	加ＥⅡ	225	146
Ⅱ	684	土坑	1	壺	口～胴	黄灰	白粒、輝・角	穿孔、刺突文の把手。胴部は環状・８の字状貼付文と微隆線による文様で四分割される。	堀之内１	226	146
Ⅱ	687	土坑	1	—	胴	橙	小石僅	横位沈線、縦位条線文。	加ＥⅡ	226	146
Ⅱ	687	土坑	2	—	胴	浅黄橙	白粒、小石	太沈線、縄文。	加ＥⅢ	226	146
Ⅱ	687	土坑	3	—	胴	灰白	輝・角	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	226	146
Ⅱ	687	土坑	4	—	胴	黒褐	輝・角、小石	沈線文、縄文。	堀之内１	226	146
Ⅱ	689	土坑	1	—	胴	暗褐	輝・角、小石	沈線文、条線文。	加ＥⅡ	226	146
Ⅱ	689	土坑	2	—	口	黒褐	輝・角僅	沈線幾何学文、細縄文。	堀之内２	226	146
Ⅱ	689	土坑	3	—	底	浅黄橙	白粒、輝・角	端部がやや突出。平底の底面に網代痕あり。	堀之内	226	146

遺物番号				器種	部位	色調	胎　土	特　徴・法　量　等	時期	図版	写真
Ⅱ	700	土坑	1	－	胴	灰	白粒、輝・角	沈線、縄文。	加ＥⅢ	225	146
Ⅱ	702	土坑	1	－	胴	浅黄橙	白粒、小石	垂下沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	226	146
Ⅱ	704	土坑	1	－	口	鈍褐	輝・角、小石	隆帯と沈線による区画、区画内縄文。	加ＥⅡ	226	146
Ⅱ	704	土坑	2	－	胴	鈍黄橙	白粒	隆帯と沈線による区画、区画内縄文。	加ＥⅢ	226	146
Ⅱ	704	土坑	3	－	胴	鈍橙	白粒、輝・角僅	隆帯の両脇に角押し文。胴部は条線に横位沈線。	中期中葉	226	146
Ⅱ	706	土坑	1	－	口付近	鈍褐	白粒、輝・角、小石	沈線文、縄文。	加ＥⅡ	226	146
Ⅱ	718	土坑	1	－	突起	浅黄橙	白粒、赤粒、小石	突起上面凹む。口縁部太沈線区画、区画内縄文。	加ＥⅢ	226	146
Ⅱ	719	土坑	1	－	突起	鈍橙	白粒、小石	前後左右、上が開口する。両側面と上面には孔の周りに沈線円。外面も沈線文。欠損するが突起の痕跡あり。	加ＥⅠ	226	146
Ⅱ	719	土坑	2	－	口	暗灰褐	白粒、輝・角	隆帯と沈線による区画と文様。区画内は縄文。	加ＥⅢ	226	146
Ⅱ	719	土坑	3	－	胴	浅黄橙	輝・角	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	226	146
Ⅱ	719	土坑	4	－	胴	橙	白粒、小石	沈線文と刺突文。	称名寺	226	146
Ⅱ	719	土坑	5	－	胴～底	浅黄橙	白粒、輝・角	胴部に沈線文、縄文。	称名寺	226	146
Ⅱ	721	土坑	1	深鉢	底欠落	橙～黒	輝・角	逆位埋設。３単位波状口縁頂部に突起と８の字状貼付文、口縁部沿いに沈線。胴部は微隆線と刺突。（口径 13.0cm）	堀之内１	227	147
Ⅱ	721	土坑	2	注口土器	底欠落	橙～灰	白粒、輝・角、小石	正位埋設。胴上半を刻みを持つ横位隆帯で区画、区画内は鎖状隆帯や沈線、刺突、縄文。口縁部と底部欠損。（胴径 18.5cm）	堀之内１	227	146
Ⅱ	721	土坑	3	－	3/4残存	橙	白粒、小石	口縁部は無文。括れ部に８字状貼付文と横位沈線。胴部は沈線文。（口径 12.2cm、底径 4.6cm、器高 7.6cm）	堀之内１	227	147
Ⅱ	729	土坑	1	深鉢	口～胴	暗赤褐	白粒、小石	逆位埋甕。口縁部無文。胴部は刻みを入れた隆帯と沈線文、条線文。（口径 22.0cm）	加ＥⅠ	227	147
Ⅱ	729	土坑	2	－	口～胴	灰黄	白粒、輝・角	隆帯と沈線による渦巻文。口縁部と頸部は無文。	加ＥⅠ	227	147
Ⅱ	730	土坑	1	－	胴	橙	小石僅	隆帯の脇に角押し文。胴部は縄文。	勝坂２	226	147
Ⅱ	730	土坑	2	－	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	沈線文、縄文。	称名寺	226	147
Ⅱ	730	土坑	3	－	口	鈍褐	輝・角、小石	無文。	堀之内１	226	147
Ⅱ	730	土坑	4	－	胴	暗灰	白粒多、輝・角	沈線文、細縄文。	堀之内２	226	147
Ⅱ	730	土坑	5	－	胴	鈍橙	白粒、小石	破片上部に隆帯。	中期後半	226	147
Ⅱ	738	土坑	1	－	胴	淡橙	輝・角、小石	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	226	147
Ⅱ	741	土坑	1	－	胴	浅黄橙	輝・角、石英	沈線。	称名寺	226	147
Ⅱ	741	土坑	2	－	胴	灰白	輝・角	沈線。	堀之内１	226	147
Ⅱ	746	土坑	1	－	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	沈線、縄文。	加ＥⅣ	227	147
Ⅱ	747	土坑	1	－	胴	暗赤褐	輝・角、小石	沈線、縄文。	加ＥⅡ	227	147
Ⅱ	748	土坑	1	深鉢	口～胴	橙	白粒、小石、細砂	口縁部は隆帯と沈線で波状文、渦巻文。胴部は流水状櫛描文。（口径 17.0cm）	加ＥⅠ	228	147
Ⅱ	748	土坑	2	深鉢	底欠落	赤褐	赤粒、輝・角	横位埋甕。口縁部は波状隆帯文と縄文。頸部に横位沈線。胴部は縦位沈線文と縄文。（口径 20.0cm）	加ＥⅡ	228	147
Ⅱ	748	土坑	3	－	口～胴	暗灰褐	白粒、輝・角	口縁部無文。括れ部以下に縄文と横位沈線、連弧文。	加ＥⅡ	228	147
Ⅱ	748	土坑	4	－	口	浅黄橙	白粒、輝・角	隆帯区画、区画内沈線。	加ＥⅡ	228	147
Ⅱ	748	土坑	5	－	胴	暗赤褐	小石	縄文。	加ＥⅡ	228	147
Ⅱ	748	土坑	6	－	胴	鈍褐	輝・角	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	228	147
Ⅱ	748	土坑	7	－	胴	浅黄橙	輝・角	横位隆帯、条線文。	加ＥⅢ	228	147
Ⅱ	748	土坑	8	－	胴	鈍黄橙	輝・角	沈線、条線杉綾文。	加ＥⅢ	228	147
Ⅱ	748	土坑	9	－	胴	赤橙	小石	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	228	147
Ⅱ	748	土坑	10	－	胴～底	浅黄橙	白粒、輝・角	胴部は沈線と縄文、底面付近は無文。平底。（底径 5.0cm）	加ＥⅢ	228	147
Ⅱ	748	土坑	11	－	口	灰褐	白粒、輝・角	胴部に微かに条線文。口縁のやや下に径３mm 程の穿孔。	称名寺	228	147
Ⅱ	749	土坑	1	－	胴	橙	白粒、赤粒、輝・角	横位沈線２条の下に波状沈線文。胴部は条線文。	加ＥⅡ	227	148
Ⅱ	749	土坑	2	－	胴	灰	白粒、輝・角	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	227	148
Ⅱ	749	土坑	3	－	胴	灰褐	輝・角	条線文。	加ＥⅢ	227	148
Ⅱ	749	土坑	4	－	胴	明赤褐	赤粒、輝・角僅	沈線文、縄文。	加ＥⅢ	227	148
Ⅱ	22	柱穴	1	－	胴	浅黄橙	白粒僅	縄文。僅かに沈線。	加ＥⅢ	231	148
Ⅱ	29	柱穴	1	－	胴	灰黄	白粒、輝・角	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	231	148
Ⅱ	32	柱穴	1	－	胴	暗灰褐	白粒、小石	沈線∪字∩字状文。区画内縄文。	加ＥⅣ	231	148
Ⅱ	35	柱穴	1	－	口	赤褐	白粒僅	口縁部は隆帯区画、区画内刺突、沈線。	加ＥⅡ	231	148
Ⅱ	35	柱穴	2	－	胴	灰褐	白粒	刻みを入れた隆帯の両脇に沈線文。	堀之内１	231	148
Ⅱ	56	柱穴	1	－	口	暗灰褐	輝・角僅	太めの沈線による区画と渦巻文。区画内も沈線。	加ＥⅡ	231	148
Ⅱ	56	柱穴	2	－	口	淡橙	白粒、小石	口唇部やや肥厚。２段の円形刺突列。	加ＥⅡ	231	148
Ⅱ	56	柱穴	3	－	胴	鈍橙	輝・角、小石	横位太沈線。撚糸文。	加ＥⅡ	231	148
Ⅰ	1	遺物集中	1	深鉢	口～胴	鈍橙	白粒、輝・角	口縁沿いの隆線以下に縄文。波頂部から隆線が垂下し、Ｙ字状の無文部を構成。（口径 40.8cm）	加ＥⅣ～称	232	148
Ⅰ	1	遺物集中	2	－	口	鈍橙	輝・角、小石	口唇部無文。横位隆帯から胴部に縄文。	加ＥⅠ	232	148
Ⅰ	1	遺物集中	3	－	口	灰	輝・角、小石	口唇部無文。胴部縄文。	加ＥⅣ	232	148
Ⅰ	1	遺物集中	4	－	口	浅黄橙	白粒、赤粒、小石	沈線間に刺突列点文。	称名寺	232	148
Ⅰ	1	遺物集中	5	－	口	橙	小石	波頂部下に貫通孔、両脇に（（　））状沈線文と刺突文。胴部は縄文と垂下沈線。	堀之内１	232	148

遺物番号				器種	部位	色調	胎　土	特　徴・法　量　等	時期	図版	写真
Ⅰ	1	遺物集中	6	―	口	浅黄橙	輝・角、小石	口縁部に横位太沈線。胴部は縄文後粗い横撫で。	堀之内	232	148
Ⅰ	1	遺物集中	7	―	胴	灰	白粒、輝・角、小石	無文。	後期	232	148
Ⅰ	1	遺物集中	8	―	底	橙白	赤粒、輝・角、小石	胴部無文。平底。（底径 10.6cm）	堀之内	232	148
Ⅰ	1	遺物集中	9	―	底	灰黄	白粒、輝・角	胴部無文。平底。（底径 8.8cm）	後期	232	148
Ⅱ	1	集石	1	深鉢	口	鈍黄橙	白粒、輝・角	隆帯と沈線による区画、区画内は縄文。胴部は沈線文と縄文。（口径 37.5cm）	加ＥⅢ	233	149
Ⅱ	1	集石	2	―	胴	鈍橙	白粒、輝・角	低い隆帯の両側に太沈線で文様区画。区画内は縄文。	加ＥⅢ	233	149
Ⅱ	1	集石	3	―	口	黒・灰	輝・角僅	沈線文、縄文。	加ＥⅣ	233	149
Ⅱ	3	集石	1	深鉢	口～胴	淡橙	白粒、輝・角	口縁部は太沈線で区画、区画内縄文。胴部は沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	234	149
Ⅱ	3	集石	2	―	口～胴	灰	白粒、輝・角	口縁部は低い隆帯で区画、区画内は縄文。胴部は沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	234	149
Ⅱ	3	集石	3	―	胴	橙	白粒、小石	沈線、磨消縄文。（胴径 38.5cm）	加ＥⅢ	234	149
Ⅱ	6･7	集石	1	―	口	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	沈線文、磨消縄文。（口径 32cm）	加ＥⅢ	233	149
Ⅱ	6･7	集石	2	―	胴	灰	輝・角僅	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	233	149
Ⅱ	1	河道	1	蓋？	3/4残存	黒灰	輝・角、小石	無文。４カ所に穿孔。（径 7.8cm）	後期	234	149
Ⅰ		南壁トレ	1	―	胴	鈍黄橙	小石	沈線文間の所々に微かに縄文。	堀之内２	232	149
Ⅰ		南壁トレ	2	―	胴	浅黄橙	白粒、小石	破片上半は口縁部文様帯で、隆帯区画、区画内縄文。胴部は太沈線文、縄文。	加ＥⅢ	232	149
Ⅰ	-900	G	1585	―	胴	淡橙	輝・角僅、小石	綾杉状の沈線文上にボタン状の貼付文。	諸磯ｃ	235	150
Ⅰ	-900	G	1586	―	口付近	暗灰褐	赤粒、輝・角僅	懸垂する隆帯の下側に串状施文具で２段の刺突列。	阿玉台Ⅱ	235	150
Ⅰ	-880	G	1587	―	突起	鈍橙	白粒、金雲母、小石	刻みを入れた鰭状の突起。２列の連続刺突文が縦横に巡る。	阿玉台Ⅱ	235	150
Ⅰ	-880	G	1588	―	突起	橙	金雲母、小石	耳状突起。縁辺に刻みを入れ、内側に２列の刺突、結節沈線。	阿玉台Ⅱ	235	150
Ⅰ	-880	G	1589	―	胴	黒褐	金雲母、小石	隆帯に沿う角押し文。	阿玉台Ⅱ	235	150
Ⅰ	-880	G	1590	―	胴	鈍褐	金雲母、小石	微隆帯の区画の内側に２列の結節沈線。	阿玉台Ⅱ	235	150
Ⅰ	-880	G	1591	―	胴	鈍橙	金雲母、小石	微隆帯に沿う２列の押引文。外側の微隆帯が剥離。	阿玉台Ⅱ	235	150
Ⅰ	-880	G	1592	―	胴	鈍黄橙	小石	横位隆帯、沈線の上下に竹管刺突文。	勝坂	235	150
Ⅰ	-900	G	1593	―	口	橙	白粒、輝・角僅	刻みを入れた隆帯と２条の細沈線で区画、区画内は半截竹管文と刻み。	勝坂３	235	150
Ⅰ	-880	G	1594	―	胴	鈍黄橙	赤粒、小石	沈線と半截竹管の刺突列。	勝坂３	235	150
Ⅰ	-880	G	1595	―	胴	橙	小石	隆線の両側に刻み列。その上には沈線。下は別の刺突。	勝坂３	235	150
Ⅰ	-880	G	1596	―	胴	鈍橙	白粒、小石	隆線と沈線、両側に半截竹管の刺突列。	勝坂？	235	150
Ⅰ	-900	G	1597	―	口	暗赤褐	金雲母、小石	平らな面の口縁。２重沈線の内側に沈線で文様を描く。	中期中葉	235	150
Ⅰ	-900	G	1598	―	口	鈍橙	金雲母、小石	刻みを入れた隆帯と口唇部の肥厚で区画。区画に沿って２列の結節沈線、区画内は沈線文。	中期中葉	235	150
Ⅰ	-880	G	1599	―	口	極暗赤褐	白粒、赤粒、小石	口縁沿いに半円形刺突列。胴部は条線。	中期中葉	235	150
Ⅰ	-920	G	1600	―	胴	明褐	輝・角、小石	刻みを入れた隆帯で区画、区画内も刻み風の連続刺突。	中期中葉	235	150
Ⅰ	-920	G	1601	―	胴	鈍橙	輝・角、小石	刻みを入れた隆帯の∩字状文に沿って沈線文。	中期中葉	235	150
Ⅰ	-900	G	1602	―	胴	鈍橙	小石	縦位沈線間に横位の連続刺突。	中期中葉	235	150
Ⅰ	-900	G	1603	―	胴	暗褐	金雲母、小石	沈線と刻み列による区画、区画内は沈線文。	中期中葉	235	150
Ⅰ	-900	G	1604	―	胴	暗褐	金雲母、小石	２条の隆線による渦巻文。隆線間に条線文。	中期中葉	235	150
Ⅰ	-900	G	1605	―	胴	橙	白粒、赤粒、小石	弧状の隆帯に沿う沈線文。	中期中葉	235	150
Ⅰ	-900	G	1606	―	胴	黒褐	金雲母、小石	条線文。	中期中葉	235	150
Ⅰ	-880	G	1607	―	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	沈線による直線や波線、楕円内に刺突を連ねる文様。	中期中葉	235	150
Ⅰ	-880	G	1608	―	胴	鈍褐	小石僅	上面に刻みを入れた隆帯文による区画、区画内は沈線。	中期中葉	235	150
Ⅰ	-880	G	1609	―	胴	暗褐	金雲母、小石	縄文後、縦横の角押し文。	中期中葉	235	150
Ⅰ	-880	G	1610	―	胴	鈍橙	小石僅	稜より上部に沈線文。下部は無文。	中期中葉	235	150
Ⅰ	-880	G	1611	―	胴	灰褐	白粒、輝・角	縦横の沈線による区画、区画内は縄文。	中期中葉	235	150
Ⅰ	-880	G	1612	―	胴	鈍橙	金雲母、小石	破片中央部に刻み状の連続文。	中期中葉	235	150
Ⅰ	-880	G	1613	―	胴	暗褐	白粒、金雲母	刻み状の押引文。	中期中葉	236	150
Ⅰ	-900	G	1614	―	口	橙	赤粒、小石	小波状口縁。竹管で渦巻文や縦位、斜位の文様。	中期中葉末	236	150
Ⅰ	-880	G	1615	―	口	鈍橙	白小石、雲母	肥厚する口唇部に刻み。体部には垂下する２条の隆帯と沈線文。	中期中葉末	236	150
Ⅰ	-880	G	1616	―	胴	鈍褐	小石	瘤状隆起を伴う隆帯文。低位部は条線文と沈線文。	中期中葉末	236	150
Ⅰ	-880	G	1617	―	口・頸部	鈍黄橙	輝・角、小石	口縁部は隆帯と沈線による区画と渦巻文、区画内は沈線。頸部無文の下に横位沈線、縄文。	加ＥⅠ	236	150
Ⅰ	-880	G	1618	―	口	暗赤褐	石英、輝・角	口縁部は刻みを入れた隆帯で区画、区画内隆帯∞字文、撚糸文。	加ＥⅠ	236	150
Ⅰ	-900	G	1619	―	口	浅黄橙	白粒	横位沈線と、沈線を施す円形？の隆帯。	加ＥⅠ	236	150
Ⅰ	-880	G	1620	―	口	橙	白粒、小石	波頂部？に弧状の貼付文。胴部は縄文。Ⅱ区 133 土坑 -1 と同一個体か。	加ＥⅠ	236	150
Ⅰ	-880	G	1621	―	口	橙	赤粒、小石	瘤状の突起。口縁部は隆帯と沈線による区画、区画内は縞状の沈線文。	加ＥⅠ	236	150
Ⅰ	-880	G	1622	―	口	鈍黄橙	輝・角	突起は欠落するが、下部は中央に穿孔し、その周囲と口縁部を沈線で施文。稜に刻み。頸部は無文。	加ＥⅠ	236	151
Ⅰ	-880	G	1623	―	口	褐	白粒、輝・角	口縁部は沈線間に交互刺突文。胴部は撚糸文。	加ＥⅠ	236	151

遺物番号				器種	部位	色調	胎　土	特　徴・法　量　等	時期	図版	写真
Ⅰ	-880	G	1624	—	口・把手	橙	赤粒、輝・角、小石	刻みを入れた橋状把手。上面に穿孔と沈線、側面に沈線。口縁部は左右からの斜位沈線文。	加ＥⅠ	236	151
Ⅰ	-900	G	1625	—	突起	鈍橙	輝・角	縦縞状沈線後、隆帯の渦巻文。	加ＥⅠ	236	151
Ⅰ	-880	G	1626	—	突起	橙	赤粒、輝・角	左半部が欠落するが、多方向に開口する突起。沈線文を施し、胴部には縄文や隆帯の痕跡が見える。	加ＥⅠ	236	151
Ⅰ	-880	G	1627	—	突起	暗灰褐	白粒、輝・角僅	刻みを入れた隆帯が右から渦を巻きながら隆起する。区画内は沈線文。胴部は縄文。	加ＥⅠ	236	151
Ⅰ	-880	G	1628	—	把手	赤褐	赤粒、輝・角	上下に開口する把手。上面に沈線文、側面に刻み。胴部は条線文。	加ＥⅠ	236	151
Ⅰ	-880	G	1629	—	把手	鈍橙	白粒、輝・角、小石	両側面に沈線を施す把手。下部接地面から横位へ沈線と刺突。1630 と同一個体か。	加ＥⅠ	237	151
Ⅰ	-880	G	1630	—	把手	鈍橙	白粒、輝・角、小石	両側面に沈線を施す把手。口縁部無文帯の下は沈線間に縄文。下部接地面から横位へ沈線と交互刺突文。1629 と同一個体か。	加ＥⅠ	236	151
Ⅰ	-880	G	1631	—	胴	鈍黄橙	輝・角、小石	縄文後、隆帯の区画と渦巻文。	加ＥⅠ	236	151
Ⅰ	-880	G	1632	—	胴	淡橙	白粒、小石	撚糸文後、沈線文。	加ＥⅠ	237	151
Ⅰ	-880	G	1633	—	胴	灰褐	白粒、輝・角僅	横位と斜位の刻みを入れた隆帯。撚糸文。	加ＥⅠ	237	151
Ⅰ	-880	G	1634	—	胴	橙	白粒、細砂	撚糸文。	加ＥⅠ	237	151
Ⅰ	-880	G	1635	—	胴	鈍橙	赤粒、輝・角僅、小石	刻みを入れた隆帯による区画、区画内は沈線と角押し文。	加ＥⅠ	237	151
Ⅰ	-920	G	1636	—	胴	鈍黄橙	輝・角	しっかりした沈線文。	加ＥⅠ	237	151
Ⅰ	-880	G	1637	—	胴	暗灰褐	白粒、輝・角、小石	隆帯と沈線による区画、区画内は沈線。頸部は無文。	加ＥⅠ	237	151
Ⅰ	-880	G	1638	—	底	明赤褐	小石	平底。胴部は撚糸文。（底径 7.0cm）	加ＥⅠ	237	151
Ⅰ	-920	G	1639	—	底	橙	白粒、輝・角、小石	平底、端部やや突出。胴部に縄文と微かに∪字状沈線文？（底径 6.6cm）	加ＥⅠ	237	151
Ⅰ	-880	G	1640	—	口	橙	白粒、輝・角、小石	口唇部上面に沈線。口縁部隆帯の波状文と短沈線。胴部は縄文。	加ＥⅠ・Ⅱ	237	151
Ⅰ	-880	G	1641	深鉢	口～胴	橙	白粒、小石、細砂	隆帯と沈線による区画、区画内は縄文。頸部は無文。	加ＥⅡ	237	151
Ⅰ	-880	G	1642	深鉢	口～胴	浅黄橙	輝・角、小石	口縁部は隆帯と深い沈線で区画、区画内沈線。胴部は沈線区画、縄文。（口径 18.8cm）	加ＥⅡ	237	151
Ⅰ	-880	G	1643	深鉢	口～胴	灰白	輝・角僅	４単位と思われる突起は２ヶ所残存。１つは上面と外面にに沈線渦巻文を施し、もう１つは両側面と内側に開口する。口縁部は隆帯と沈線による区画で、区画内は沈線。胴部は沈線、縄文。（口径 16.2cm）	加ＥⅡ	237	151
Ⅰ	-880	G	1644	浅鉢	口	淡橙	白粒、赤粒、小石	稜部より上は沈線３条。下は無文。	加ＥⅡ	237	151
Ⅰ	-880	G	1645	—	口～胴	赤褐	白粒、小石	波頂部欠損。口縁部は平行沈線と渦巻文。稜より下の胴部は撚糸文。	加ＥⅡ	237	151
Ⅰ	-880	G	1646	—	口～胴	橙	小石、細砂	口唇部上面に２条の条線。胴部も２条１組の条線を垂下、蛇行。（口径 9.4cm）	加ＥⅡ	237	151
Ⅰ	-900	G	1647	—	口～胴	橙	白粒、輝・角、小石	波状口縁沿いに２条の沈線。胴部は縄文と沈線文。	加ＥⅡ	237	151
Ⅰ	-880	G	1648	—	口～胴	灰白	白粒、輝・角、小石	口縁部は無文。括れ部以下に沈線文。	加ＥⅡ	238	151
Ⅰ	-880	G	1649	—	口	鈍黄橙	白粒、輝・角	口縁部隆帯区画。区画内と胴部は沈線文、条線文。	加ＥⅡ	238	152
Ⅰ	-880	G	1650	—	口	灰黄褐	白粒、金雲母僅	口縁部隆帯区画、渦巻文。胴部は沈線文と条線文。	加ＥⅡ	237	152
Ⅰ	-880	G	1651	—	口	褐	白粒、輝・角僅	沈線文、縄文。	加ＥⅡ	238	152
Ⅰ	-880	G	1652	—	口	暗褐	金雲母僅、輝・角	口唇部に沈線。隆帯による区画と渦巻文。直線的な沈線文。	加ＥⅡ	238	152
Ⅰ	-880	G	1653	—	口	赤褐	輝・角	刻みを入れた隆帯と沈線で区画、区画内は縄文。胴部は縄文後、沈線３条。	加ＥⅡ	238	152
Ⅰ	-880	G	1654	—	口	灰褐	白粒、小石	沈線による区画、区画内と胴部は縄文。	加ＥⅡ	238	152
Ⅰ	-880	G	1655	—	口	鈍黄橙	輝・角、小石	口唇部上面に沈線。口縁部は隆帯と沈線による区画、区画内は縄文。	加ＥⅡ	238	152
Ⅰ	-880	G	1656	—	口	鈍橙	白粒、輝・角、小石	隆帯と沈線による区画と渦巻文、区画内は縄文。	加ＥⅡ	238	152
Ⅰ	-880	G	1657	—	口	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	隆帯と沈線で区画、区画内横位沈線。	加ＥⅡ	238	152
Ⅰ	-880	G	1658	—	口	鈍橙	白粒、小石	隆帯と沈線で区画、渦巻文。区画内縦位沈線。	加ＥⅡ	238	152
Ⅰ	-880	G	1659	—	口	浅黄橙	小石	隆帯と沈線による区画と渦巻文、区画内は沈線。	加ＥⅡ	238	152
Ⅰ	-880	G	1660	—	口	橙	白粒、輝・角	波状口縁。隆帯と沈線による区画と渦巻文、区画内も沈線、渦巻文。	加ＥⅡ	238	152
Ⅰ	-880	G	1661	—	口	鈍褐	輝・角僅	隆帯と沈線による区画と渦巻文、区画内は沈線。頸部は無文。	加ＥⅡ	238	152
Ⅰ	-880	G	1662	—	口	暗赤褐	白粒、輝・角	隆帯と沈線による区画と文様、区画内は撚糸文。	加ＥⅡ	238	152
Ⅰ	-900	G	1663	—	口	鈍褐	石英、小石、細砂	口縁部隆帯区画、渦巻文。胴部は撚糸文。	加ＥⅡ	238	152
Ⅰ	-880	G	1664	—	口	赤褐	白粒、輝・角	口縁部は沈線文。胴部は撚糸文。	加ＥⅡ	238	152
Ⅰ	-900	G	1665	—	口	灰白	白粒、輝・角僅	沈線による区画と渦巻文、区画内は刺突と縄文。	加ＥⅡ	238	152
Ⅰ	-880	G	1666	—	口	灰黄褐	白粒、輝・角僅	沈線による区画、区画内も沈線。頸部は無文。	加ＥⅡ	238	152
Ⅰ	-880	G	1667	—	口	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	沈線による四角い区画、区画内に僅かに条線文。	加ＥⅡ	238	152
Ⅰ	-880	G	1668	—	口	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	低い隆帯と太沈線による区画、区画内は縄文。胴部は沈線、磨消縄文。	加ＥⅡ	238	152
Ⅰ	-900	G	1669	—	口	淡橙	輝・角僅	低い波状口縁。口唇部上面に沈線。（口径 27.7cm）	加ＥⅡ	238	152
Ⅰ	-880	G	1670	—	口	鈍褐	白粒、輝・角僅	崩れた２段の円形刺突列。	加ＥⅡ	238	152
Ⅰ	-880	G	1671	—	口	橙	白粒、輝・角	屈曲する口縁部は無文。括れ部に刻みを入れた隆帯とその上下に沈線。	加ＥⅡ	239	152

遺物番号				器種	部位	色調	胎　土	特　徴　・　法　量　等	時期	図版	写真
Ⅰ	-880	G	1672	—	口	暗灰褐	白粒、輝・角	無文。口唇部が角張る。	加Ｅ Ⅱ	239	152
Ⅰ	-880	G	1673	—	口	暗灰褐	赤粒、小石僅	無文。口唇部が剥離。	加Ｅ Ⅱ	239	152
Ⅰ	-880	G	1674	—	口	橙	白粒、小石	厚く平らな口唇部。括れ部には沈線文。	加Ｅ Ⅱ	239	152
Ⅰ	-880	G	1675	—	口・突起	鈍褐	輝・角、小石	突起にめぐらした隆帯が胴部に垂下。胴部は縄文。	加Ｅ Ⅱ	239	152
Ⅰ	-880	G	1676	—	口・突起	暗赤褐	輝・角	沈線で上面と右側面に渦巻文、全面に刻みを入れる突起。胴部は縦横の沈線と縄文。	加Ｅ Ⅱ	239	152
Ⅰ	-900	G	1677	—	口・突起	浅黄橙	輝・角、小石僅	環状突起と思われるが欠落。口縁部は渦巻文等の沈線文。頸部は無文。	加Ｅ Ⅱ	239	152
Ⅰ	-880	G	1678	—	口付近	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	円形の浅い刺突列を施す２段の隆帯。	加Ｅ Ⅱ	239	152
Ⅰ	-900	G	1679	—	口付近	灰褐	輝・角、小石	隆帯と沈線による区画と渦巻文、区画内は縄文。	加Ｅ Ⅱ	239	152
Ⅰ	-900	G	1680	—	口付近	鈍黄橙	輝・角、小石僅	隆帯と沈線による区画と渦巻文、区画内は縄文。頸部は無文。	加Ｅ Ⅱ	239	152
Ⅰ	-880	G	1681	—	口付近	橙	白粒、輝・角	刻みを入れた隆帯と沈線。頸部は無文。	加Ｅ Ⅱ	239	152
Ⅰ	-880	G	1682	—	突起	鈍黄橙	輝・角、小石	突起上面に沈線渦巻文。口唇部上面に沈線。口縁部は隆帯による区画、区画内は沈線。	加Ｅ Ⅱ	239	152
Ⅰ	-880	G	1683	—	突起	橙	赤粒、小石	隆帯と沈線による渦巻文、中心が隆起。胴部は沈線による区画、区画内は縄文。	加Ｅ Ⅱ	239	152
Ⅰ	-900	G	1684	—	突起	淡橙	赤粒僅	瘤状隆起の上面の他、全面に沈線文。	加Ｅ Ⅱ	239	152
Ⅰ	-900	G	1685	—	胴	鈍黄橙	輝・角僅	横位隆線の下、縦位沈線と磨消縄文。	加Ｅ Ⅱ	239	152
Ⅰ	-880	G	1686	—	胴	鈍褐	赤粒、輝・角	横位隆線の下、縦位沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅱ	239	153
Ⅰ	-900	G	1687	—	胴	暗赤褐	白粒	沈線文と磨消縄文。	加Ｅ Ⅱ	239	153
Ⅰ	-900	G	1688	—	胴	鈍褐	白粒、輝・角、小石	横位隆帯の下、沈線文と磨消縄文。	加Ｅ Ⅱ	239	153
Ⅰ	-900	G	1689	—	胴	浅黄橙	白粒、輝・角僅	数条の直沈線。２条曲沈線の区画内に複節縄文。	加Ｅ Ⅱ	239	153
Ⅰ	-900	G	1690	—	胴	鈍赤褐	小石多	縦横の沈線。縄文部と無文部の交互構成。	加Ｅ Ⅱ	239	153
Ⅰ	-880	G	1691	—	胴	橙	小石	沈線、縄文。	加Ｅ Ⅱ	239	153
Ⅰ	-880	G	1692	—	胴	暗褐	白粒、小石	縄文後、沈線３条と鋸歯状文。	加Ｅ Ⅱ	240	153
Ⅰ	-880	G	1693	—	胴	鈍褐	白粒、輝・角	縄文後、縦横の沈線と重円状文。	加Ｅ Ⅱ	240	153
Ⅰ	-880	G	1694	—	胴	鈍橙	白粒僅、輝・角	胴および括れ部の低い隆帯上にも縄文。その上から沈線文。	加Ｅ Ⅱ	240	153
Ⅰ	-880	G	1695	—	胴	黒褐	輝・角、小石	横位隆帯。胴部は沈線と縄文。	加Ｅ Ⅱ	240	153
Ⅰ	-880	G	1696	—	胴	鈍褐	白粒、小石	沈線渦巻文と縄文。	加Ｅ Ⅱ	240	153
Ⅰ	-880	G	1697	—	胴	鈍褐	白粒、輝・角	縦横の太沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅱ	240	153
Ⅰ	-880	G	1698	—	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	縄文上に波形の隆帯貼付。	加Ｅ Ⅱ	240	153
Ⅰ	-880	G	1699	—	胴	鈍黄橙	白粒	縄文後、縦横の隆帯貼付。	加Ｅ Ⅱ	240	153
Ⅰ	-880	G	1700	—	胴	黒・暗褐	白粒	縦横の隆帯、縄文。	加Ｅ Ⅱ	240	153
Ⅰ	-880	G	1701	—	胴	鈍赤褐	白粒、輝・角	隆帯と沈線で縦横に区画。地文は縄文。	加Ｅ Ⅱ	240	153
Ⅰ	-900	G	1702	—	胴	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	縄文後、隆帯と沈線。	加Ｅ Ⅱ	240	153
Ⅰ	-880	G	1703	—	胴	灰褐	白粒	縄文。	加Ｅ Ⅱ	240	153
Ⅰ	-880	G	1704	—	胴	鈍橙	白粒	縄文。破片端部に沈線。1705 と同一個体。	加Ｅ Ⅱ	240	153
Ⅰ	-900	G	1705	—	胴	橙	白粒、輝・角、小石	縄文。1704 と同一個体。	加Ｅ Ⅱ	240	153
Ⅰ	-880	G	1706	—	胴	暗褐	白粒、輝・角	交互刺突文、縄文。	加Ｅ Ⅱ	240	153
Ⅰ	-880	G	1707	—	胴	灰褐	白粒、輝・角多	撚糸文、括れ部と破片上端に沈線。	加Ｅ Ⅱ	240	153
Ⅰ	-880	G	1708	—	胴	鈍橙	白粒、輝・角	沈線と撚糸文。	加Ｅ Ⅱ	240	153
Ⅰ	-880	G	1709	—	胴	鈍橙	輝・角、小石、細砂	撚糸文後、２条の隆帯。	加Ｅ Ⅱ	240	153
Ⅰ	-880	G	1710	—	胴	鈍橙	白粒、輝・角	撚糸文後、沈線文。	加Ｅ Ⅱ	240	153
Ⅰ	-880	G	1711	—	胴	暗灰褐	白粒、小石	撚糸文後、低い隆帯と沈線の細かい波形文。	加Ｅ Ⅱ	240	153
Ⅰ	-880	G	1712	—	胴	暗褐	白粒僅	沈線２条を施す隆帯。胴部は条線文。	加Ｅ Ⅱ	240	153
Ⅰ	-880	G	1713	—	胴	鈍黄橙	小石	撚糸文。	加Ｅ Ⅱ	241	153
Ⅰ	-880	G	1714	—	胴	赤褐	輝・角僅、小石	撚糸文。	加Ｅ Ⅱ	240	153
Ⅰ	-880	G	1715	—	胴	赤褐	輝・角、小石	撚糸文。	加Ｅ Ⅱ	241	153
Ⅰ	-880	G	1716	—	胴	淡橙	輝・角、小石、細砂	撚糸文。	加Ｅ Ⅱ	241	153
Ⅰ	-880	G	1717	—	胴	鈍橙	小石	条線文後、沈線文。	加Ｅ Ⅱ	241	153
Ⅰ	-900	G	1718	—	胴	暗赤褐	白粒、石英、小石	条線文後、縦横の沈線。	加Ｅ Ⅱ	241	153
Ⅰ	-880	G	1719	—	胴	淡橙～黒	白粒、輝・角僅	間隔にばらつきのある 15 単位の条線文。	加Ｅ Ⅱ	241	153
Ⅰ	-900	G	1720	—	胴	黒褐	白粒、輝・角	流水状条線文。	加Ｅ Ⅱ	241	154
Ⅰ	-900	G	1721	—	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	横位沈線間に２段の円形刺突列。胴部は条線文。	加Ｅ Ⅱ	241	154
Ⅰ	-880	G	1722	—	胴	暗灰	石英、小石	沈線と２段の円形刺突列。	加Ｅ Ⅱ	241	154
Ⅰ	-880	G	1723	—	胴	浅黄橙	白粒、小石	横位隆帯の上下に渦巻文などの沈線文。	加Ｅ Ⅱ	241	154
Ⅰ	-880	G	1724	—	胴	赤褐	白粒、輝・角僅	沈線の渦巻文。一部押し引きで施文。	加Ｅ Ⅱ	241	154
Ⅰ	-880	G	1725	—	胴	橙	赤粒、輝・角僅、小石	横位隆帯の下に沈線で右矢印状の連続文。	加Ｅ Ⅱ	241	154
Ⅰ	-880	G	1726	—	胴	明赤褐	輝・角、小石	沈線で刻んだ２条の隆帯。その上下に短沈線列。	加Ｅ Ⅱ	241	154
Ⅰ	-880	G	1727	—	胴	灰白	輝・角、小石	縦縞状の沈線と波形の隆帯と沈線。	加Ｅ Ⅱ	241	154
Ⅰ	-900	G	1728	—	胴	淡橙	白粒、輝・角僅	縦縞状の沈線と波形の隆帯と沈線。	加Ｅ Ⅱ	241	154
Ⅰ	-900	G	1729	—	胴	鈍褐	白粒、小石	交互押圧による横位の隆線波形文。その下に縦縞状に一本書き沈線。	加Ｅ Ⅱ	241	154
Ⅰ	-900	G	1730	—	胴	鈍黄橙	石英、小石	交互押圧による縦位の隆線波形文。その横に縦縞状に一本書き沈線。	加Ｅ Ⅱ	241	154
Ⅰ	-900	G	1731	—	胴	浅黄橙	石英、小石	２段の隆帯上に円形刺突列。他は無文。1732 と同一個体。	加Ｅ Ⅱ	241	154

遺物番号				器種	部位	色調	胎　土	特　徴・法　量　等	時期	図版	写真
Ⅰ	-880	G	1732	—	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	２段の隆帯上に円形刺突列。他は無文。1731 と同一個体。	加Ｅ Ⅱ	241	154
Ⅰ	-880	G	1733	—	底	浅黄橙	白粒、小石	撚糸文後、２条隆帯貼付。平底。（底径 10.0cm）	加Ｅ Ⅱ	241	154
Ⅰ	-880	G	1734	—	底	淡橙	赤粒、小石	撚糸文。厚手の平底。	加Ｅ Ⅱ	241	154
Ⅰ	-880	G	1735	—	底	明赤褐	白粒、輝・角僅	条線文。平底。	加Ｅ Ⅱ	241	154
Ⅰ	-900	G	1736	—	底	淡橙	白粒、赤粒	沈線。平底。（底径 8.0cm）	加Ｅ Ⅱ	241	154
Ⅰ	-900	G	1737	—	胴	橙	白粒、赤粒	綾杉状の縄文。	加Ｅ Ⅱ	241	154
Ⅰ	-880	G	1738	—	胴	淡赤橙	白粒、小石	沈線による区画、区画内は刺突を沈線で鋸歯状に繋ぐ。	加Ｅ Ⅱ	241	154
Ⅰ	-900	G	1739	—	口	浅黄橙	白粒、小石	口唇部肥厚。斜位沈線。欠損部に隆帯か何か貼付された痕跡を残す。	加Ｅ Ⅱ併行	241	154
Ⅰ	-880	G	1740	—	口	鈍橙	白粒、輝・角僅	口縁部隆帯と太沈線で区画、区画内縄文。体部沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ古	242	154
Ⅰ	-880	G	1741	深鉢	胴	淡橙	白粒	破片上端に低い隆帯と太沈線による口縁部区画の痕跡。胴部は沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	242	154
Ⅰ	-900	G	1742	—	口～底	浅黄橙	輝・角、小石僅	ミニチュア土器。口唇部に刺突。胴部縄文、沈線垂下。	加Ｅ Ⅲ	242	154
Ⅰ	-880	G	1743	—	口～胴	鈍橙	白粒、輝・角	口縁部は低い隆帯と沈線による区画、区画内は縄文。胴部は沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	242	154
Ⅰ	-900	G	1744	—	口～胴	暗褐	輝・角、小石	隆帯と沈線による区画、区画内は縄文。胴部には沈線文。1751 と同一個体。	加Ｅ Ⅲ	242	154
Ⅰ	-900	G	1745	—	口	黒褐	輝・角僅	波状口縁。隆帯と沈線による区画、区画内は縄文。胴部は沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	242	154
Ⅰ	-900	G	1746	—	口	灰白	白粒、小石	隆帯と沈線による区画、区画内と胴部は縄文。	加Ｅ Ⅲ	242	154
Ⅰ	-900	G	1747	—	口	橙	白粒、輝・角、小石	隆帯と沈線による区画、区画内は縄文。	加Ｅ Ⅲ	242	154
Ⅰ	-880	G	1748	—	口	橙白	白粒、小石	波状口縁。隆帯と沈線による区画、区画内は縄文。	加Ｅ Ⅲ	242	154
Ⅰ	-900	G	1749	—	口	鈍橙	輝・角	隆帯と沈線による区画、区画内は縄文。	加Ｅ Ⅲ	242	154
Ⅰ	-880	G	1750	—	口	鈍赤褐	白粒、輝・角	波頂部欠損。口縁部は低い隆帯で区画、区画内は縄文。胴部は沈線で縄文部と無文部を区画。	加Ｅ Ⅲ	242	155
Ⅰ	-880	G	1751	—	口	暗褐	輝・角僅	隆帯と沈線による区画、区画内は縄文。瘤状突起あり。1744 と同一個体。	加Ｅ Ⅲ	242	155
Ⅰ	-900	G	1752	—	口	暗褐	白粒、輝・角、小石	隆帯と沈線による区画、区画内は縄文、胴部は沈線と条線文。	加Ｅ Ⅲ	242	155
Ⅰ	-900	G	1753	—	口	暗灰褐	白粒、輝・角、小石	隆帯による区画と文様。	加Ｅ Ⅲ	242	155
Ⅰ	-900	G	1754	—	口	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	横位沈線の下に口縁部文様区画の沈線。	加Ｅ Ⅲ	242	155
Ⅰ	-900	G	1755	—	口	灰黄褐	白粒、輝・角	隆帯と太沈線による区画、区画内と胴部は縄文。	加Ｅ Ⅲ	243	155
Ⅰ	-900	G	1756	—	口	暗褐	白粒、輝・角、小石	口唇部上面の突起に太沈線。正面は低い隆帯と沈線による円形区画、区画内は縄文。	加Ｅ Ⅲ	243	155
Ⅰ	-880	G	1757	—	口	浅黄橙	白石、輝・角、細砂	波状口縁。隆帯と太沈線で区画、区画内縄文。	加Ｅ Ⅲ	243	155
Ⅰ	-880	G	1758	—	口	浅黄～黒	白粒	口唇部沿いに太沈線、隆帯渦巻文、縄文。	加Ｅ Ⅲ	243	155
Ⅰ	-900	G	1759	—	口	淡橙	白粒、輝・角、小石	低い隆帯と太沈線による区画、区画内は縄文。	加Ｅ Ⅲ	243	155
Ⅰ	-880	G	1760	—	口	鈍黄橙	白粒、輝・角	口縁部は隆帯と太沈線による区画、区画内縄文。胴部は沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	243	155
Ⅰ	-900	G	1761	—	口	灰黄褐	白粒、輝・角、小石	口縁部太沈線で区画、文様。区画内縄文。胴部は垂下沈線文、縄文。	加Ｅ Ⅲ	243	155
Ⅰ	-900	G	1762	—	口	暗褐	白粒、赤粒、輝・角	小波状口縁。太沈線による区画、区画内と胴部は縄文。	加Ｅ Ⅲ	243	155
Ⅰ	-900	G	1763	—	口	暗褐	白粒、輝・角、小石	太沈線による区画、区画内と胴部は縄文。	加Ｅ Ⅲ	243	155
Ⅰ	-900	G	1764	—	口	黒褐	白粒、輝・角、小石	太沈線による区画と逆∫字状文、区画内は縄文。	加Ｅ Ⅲ	243	155
Ⅰ	-900	G	1765	—	口	鈍褐	白粒、輝・角、小石	波状口縁。太沈線による区画、区画内は縄文。突起の内側に太沈線渦巻文。	加Ｅ Ⅲ	243	155
Ⅰ	-880	G	1766	—	口	鈍褐	輝・角僅、小石	太沈線による区画と文様、区画内は縄文。	加Ｅ Ⅲ	243	155
Ⅰ	-880	G	1767	—	口	赤褐	白粒僅、輝・角	太沈線による区画、区画内は縄文。	加Ｅ Ⅲ	243	155
Ⅰ	-900	G	1768	—	口	浅黄橙	輝・角、小石、細砂	波状口縁。太沈線による区画、区画内は縄文。	加Ｅ Ⅲ	243	155
Ⅰ	-900	G	1769	—	口	黒褐	輝・角多	太沈線２条。胴部は縄文。	加Ｅ Ⅲ	244	155
Ⅰ	-900	G	1770	—	口	鈍褐	白粒、輝・角	太沈線２条。胴部は縄文。	加Ｅ Ⅲ	244	155
Ⅰ	-900	G	1771	—	口	鈍黄橙	白粒、輝・角	せまい口縁部無文帯の下に横位太沈線。	加Ｅ Ⅲ	244	155
Ⅰ	-880	G	1772	—	口	灰褐	白粒、輝・角	波状口縁。横位の刺突列。	加Ｅ Ⅲ	244	155
Ⅰ	-900	G	1773	—	口	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	口縁部無文。横位沈線以下胴部は多方向からの縄文。（口径 20.4cm）	加Ｅ Ⅲ	244	155
Ⅰ	-900	G	1774	—	口・突起	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	波頂部が大きく凹む突起。口縁部は隆帯と沈線による渦巻文。胴部は縄文。	加Ｅ Ⅲ	244	156
Ⅰ	-900	G	1775	—	口・突起	暗褐	白粒、小石僅	波頂部が凹む突起。口縁部は太沈線による区画と渦巻文、区画内は縄文。	加Ｅ Ⅲ	244	156
Ⅰ	-900	G	1776	—	胴	鈍橙	輝・角、小石	隆帯と沈線による文様区画、区画内と胴部は縄文。	加Ｅ Ⅲ	244	156
Ⅰ	-900	G	1777	—	口付近	鈍黄橙	白粒、輝・角	隆帯による渦巻文。沈線による区画、区画内は縄文。	加Ｅ Ⅲ	244	156
Ⅰ	-900	G	1778	—	口付近	浅黄橙	白粒、石英、輝・角	隆帯と太沈線による区画、区画内は縄文。隆帯上に円形孔。	加Ｅ Ⅲ	244	156
Ⅰ	-880	G	1779	—	把手	淡橙	白粒	太沈線渦巻文を施す橋状把手。上方は２脚で上に開口。	加Ｅ Ⅲ	244	156
Ⅰ	-920	G	1780	—	胴	暗褐	白粒、輝・角、小石	低い隆帯と沈線による区画、区画内は縄文。胴部は沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	244	156
Ⅰ	-900	G	1781	—	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	沈線３条垂下、磨消縄文。無文部粗いナデ。	加Ｅ Ⅲ	244	156
Ⅰ	-900	G	1782	—	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	244	156
Ⅰ	-900	G	1783	—	胴	灰褐	輝・角、小石	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	244	156
Ⅰ	-900	G	1784	—	胴	灰褐	白粒、輝・角、小石	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	244	156

遺物番号				器種	部位	色調	胎　土	特　徴・法　量　等	時期	図版	写真
I	-900	G	1785	—	胴	鈍黄橙	輝・角、小石	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	244	156
I	-900	G	1786	—	胴	鈍黄橙	輝・角、小石、細砂	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	244	156
I	-900	G	1787	—	胴	暗灰褐	白粒、輝・角、小石	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	245	156
I	-900	G	1788	—	胴	灰褐	輝・角	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	245	156
I	-900	G	1789	—	胴	鈍橙	白粒、輝・角	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	245	156
I	-900	G	1790	—	胴	暗褐	白粒、輝・角	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	245	156
I	-900	G	1791	—	胴	灰褐	白粒多、小石	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	245	156
I	-900	G	1792	—	胴	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	245	156
I	-900	G	1793	—	胴	鈍黄橙	白粒	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	245	156
I	-900	G	1794	—	胴	暗灰褐	白粒、輝・角僅	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	245	156
I	-900	G	1795	—	胴	鈍橙	輝・角	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	245	156
I	-900	G	1796	—	胴	浅黄橙	白粒、輝・角僅	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	245	156
I	-900	G	1797	—	胴	鈍褐	白粒、輝・角僅	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	245	156
I	-900	G	1798	—	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角僅	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	245	156
I	-900	G	1799	—	胴	浅黄橙	白粒多、輝・角僅	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	245	157
I	-900	G	1800	—	胴	鈍黄橙	白粒多、輝・角僅	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	245	157
I	-900	G	1801	—	胴	鈍黄橙	白粒多	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	245	157
I	-900	G	1802	—	胴	鈍褐	白粒、輝・角	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	245	157
I	-900	G	1803	—	胴	浅黄橙	白粒、輝・角僅	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	246	157
I	-900	G	1804	—	胴	鈍黄橙	輝・角、小石	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	246	157
I	-880	G	1805	—	胴	浅黄橙	白粒	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	246	157
I	-880	G	1806	—	胴	橙	輝・角、小石、細砂	沈線、磨消縄文。（胴径 10.8cm）	加Ｅ Ⅲ	245	157
I	-880	G	1807	—	胴	鈍褐	白粒、輝・角僅	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	245	157
I	-880	G	1808	—	胴	橙	白粒、小石	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	246	157
I	-880	G	1809	—	胴	暗灰褐	赤粒、輝・角	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	246	157
I	-880	G	1810	—	胴	浅黄橙	白粒、小石	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	246	157
I	-920	G	1811	—	胴	橙	輝・角、小石、石英	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	246	157
I	-920	G	1812	—	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	縄文後、３条の垂下沈線。	加Ｅ Ⅲ	246	157
I	-900	G	1813	—	胴	明褐灰	輝・角僅、小石	縄文後、沈線文。	加Ｅ Ⅲ	246	157
I	-900	G	1814	—	胴	橙	白粒、輝・角	微かに沈線、縄文。	加Ｅ Ⅲ	246	157
I	-880	G	1815	—	胴	浅黄橙	輝・角	上半は２重沈線区画、区画内は縄文。下半は沈線蕨手状文が垂下。	加Ｅ Ⅲ	246	157
I	-900	G	1816	—	胴	鈍橙	白粒、輝・角僅	沈線、磨消縄文。縄文部に蛇行沈線。	加Ｅ Ⅲ	246	157
I	-920	G	1817	—	胴	鈍黄橙	白粒、小石	隆線、縄文。	加Ｅ Ⅲ	246	157
I	-900	G	1818	—	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	微隆起線が垂下、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	246	157
I	-900	G	1819	—	胴	鈍橙	白粒、輝・角	縦横にややだれた２条の隆帯で区画、区画内縄文。	加Ｅ Ⅲ	246	157
I	-900	G	1820	—	胴	灰	白粒、小石	破片上半は隆帯区画、渦巻文、区画内縄文。下半は条線文。	加Ｅ Ⅲ	247	157
I	-900	G	1821	—	胴	鈍黄橙	輝・角、小石	隆帯区画、区画内縄文。	加Ｅ Ⅲ	247	157
I	-900	G	1822	—	胴	浅黄橙	白粒、小石	隆帯による区画、文様と縄文。	加Ｅ Ⅲ	247	158
I	-900	G	1823	—	胴	黄白	白粒多、小石	隆帯区画、渦巻文、区画内縄文。	加Ｅ Ⅲ	247	158
I	-900	G	1824	—	胴	浅黄橙	輝・角	縄文後、隆帯と沈線による文様。	加Ｅ Ⅲ	247	158
I	-900	G	1825	—	胴	浅黄橙	白粒、輝・角、石英	括れ部上位は隆線による渦巻文。下位は沈線∩字状文内に縄文。	加Ｅ Ⅲ	247	158
I	-880	G	1826	—	胴	鈍褐	輝・角	縄文。	加Ｅ Ⅲ	247	158
I	-900	G	1827	—	胴	鈍褐	白粒、小石	縦位隆帯の両側に綾杉状の沈線文。	加Ｅ Ⅲ	247	158
I	-880	G	1828	—	胴	鈍褐	白粒、輝・角	縦位条線文、３条沈線。	加Ｅ Ⅲ	247	158
I	-900	G	1829	—	胴	灰	輝・角小石	条線文。破片上端に太沈線。	加Ｅ Ⅲ	247	158
I	-900	G	1830	—	胴	鈍橙	白粒、小石	条線文。	加Ｅ Ⅲ	247	158
I	-900	G	1831	—	胴	淡橙	輝・角、小石	縦位条線文。	加Ｅ Ⅲ	247	158
I	-900	G	1832	—	胴	暗褐	小石	縦位条線文。	加Ｅ Ⅲ	247	158
I	-900	G	1833	—	胴	鈍褐	石英、小石	縦位条線文。	加Ｅ Ⅲ	247	158
I	-880	G	1834	—	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	条線文。	加Ｅ Ⅲ	247	158
I	-880	G	1835	—	胴	暗褐	輝・角、小石	条線文。	加Ｅ Ⅲ	247	158
I	-880	G	1836	—	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	条線文。	加Ｅ Ⅲ	247	158
I	-880	G	1837	—	胴	黒褐	輝・角	条線文。	加Ｅ Ⅲ	248	158
I	-880	G	1838	—	胴	鈍黄橙	白粒、赤粒、小石	条線文。	加Ｅ Ⅲ	247	158
I	-880	G	1839	—	底	淡橙	白粒、輝・角	沈線、縄文。端部が角張る平底。（底径 11.0cm）	加Ｅ Ⅲ	248	158
I	-880	G	1840	—	底	灰黄	輝・角、小石	端部丸み帯びる平底。胴部は２条１組沈線の∪字状文、磨消縄文。（底径 7.4cm）	加Ｅ Ⅲ	248	158
I	-880	G	1841	—	底	浅黄橙	白粒、輝・角	端部丸み帯びる平底。胴部は条線杉綾文に隆帯垂下。（底径 6.2cm）	加Ｅ Ⅲ	248	158
I	-900	G	1842	—	底	浅黄橙	白粒多、輝・角、小石	平底。条線文。一部煤付着。（底径 9.0cm）	加Ｅ Ⅲ	248	158
I	-900	G	1843	—	底	灰黄褐	白粒、輝・角	沈線。端部が若干張り、底面はやや丸みを帯びる。（底径 7.1cm）	加Ｅ Ⅲ	248	158
I	-880	G	1844	—	底	鈍黄橙	白粒	沈線。端部が若干張り、底面はやや丸みを帯びる。（底径 7.0cm）	加Ｅ Ⅲ	248	158
I	-900	G	1845	—	底	橙	白粒僅、赤粒僅	最下部まで沈線。端部がやや張り、高台状になる上げ底。（底径 4.4cm）	加Ｅ Ⅲ	248	158
I	-900	G	1846	—	底	浅黄橙	白粒、輝・角僅	ミガキ痕あり。端部がやや丸みを帯びる平底。	加Ｅ Ⅲ	248	158
I	-920	G	1847	—	胴	灰褐	白粒、輝・角僅	沈線、縄文。	加Ｅ Ⅲ	248	158

遺物番号				器種	部位	色調	胎　土	特　徴・法　量　等	時期	図版	写真
Ⅰ	-900	G	1848	深鉢	口～胴	鈍橙	白粒、輝・角僅	口縁部無文帯の下に隆線、瘤状隆起。胴部は縄文。（口径23cm）	加ＥⅣ	248	158
Ⅰ	-900	G	1849	－	口～胴	灰白	輝・角、小石多	口縁部無文帯の下に縄文を施す横位隆帯。胴部は隆線で縄文部と無文部を区画。	加ＥⅣ	248	159
Ⅰ	-900	G	1850	－	口～胴	暗褐	輝・角僅、小石	口縁部無文帯の下に横位隆線と瘤状の突起。その下は縄文後に隆線による渦巻文。	加ＥⅣ	248	159
Ⅰ	-880	G	1851	－	口	淡橙	赤粒、小石	沈線文、縄文。	加ＥⅣ	248	159
Ⅰ	-900	G	1852	－	口	橙	白粒、輝・角	縄文後、沈線文。	加ＥⅣ	248	159
Ⅰ	-900	G	1853	－	口	暗灰褐	輝・角多	口唇部まで縄文。胴部に２重沈線の∩字状文。	加ＥⅣ	248	159
Ⅰ	-880	G	1854	－	口	暗灰褐	輝・角	縄文。口唇部内側に稜あり。	加ＥⅣ	248	159
Ⅰ	-900	G	1855	－	口	暗灰褐	白粒、輝・角、小石	縄文。	加ＥⅣ	248	159
Ⅰ	-900	G	1856	－	口	浅黄橙	白粒、小石	口縁沿いに横位沈線。胴部は沈線文、磨消縄文。	加ＥⅣ	248	159
Ⅰ	-900	G	1857	－	口	暗灰褐	白粒、輝・角、小石	せまい口縁部無文帯の下に縄文。割れ口に沿って斜位沈線。	加ＥⅣ	248	159
Ⅰ	-900	G	1858	－	口	浅黄橙	白粒、輝・角僅	口縁部無文。横位微隆線と瘤以下の体部は沈線文、縄文。	加ＥⅣ	248	159
Ⅰ	-900	G	1859	－	口	淡橙	白粒、輝・角	波頂部に瘤状突起、口縁沿いに隆線。胴部は沈線文、縄文。	加ＥⅣ	249	159
Ⅰ	-900	G	1860	－	口	浅黄橙	白粒多、輝・角	波頂部の瘤から口縁沿いに微隆線。胴部は微隆線の分岐懸垂文、磨消縄文。	加ＥⅣ	249	159
Ⅰ	-900	G	1861	－	口	鈍黄橙	輝・角、小石多	口縁部無文帯の下に隆線。胴部は隆線が斜位に下り、縄文部と無文部を区画。	加ＥⅣ	249	159
Ⅰ	-900	G	1862	－	口	黒灰	木、石英、小石多	口縁部無文帯の下に横位隆線。胴部は縄文と縦位隆線。	加ＥⅣ	249	159
Ⅰ	-900	G	1863	－	口	浅黄橙	輝・角僅、小石	口縁部無文帯の下に横位隆線。胴部は縄文後、斜位隆線。	加ＥⅣ	249	159
Ⅰ	-900	G	1864	－	口	灰褐	赤粒、輝・角、小石	口縁部無文帯の下に隆線と瘤状の突起。胴部は縄文。	加ＥⅣ	249	159
Ⅰ	-900	G	1865	－	口	鈍橙	白粒	口縁部無文帯の下に横位隆線。その下に縄文。	加ＥⅣ	249	159
Ⅰ	-900	G	1866	－	口	灰黄褐	白粒、輝・角、小石	口縁部無文。横位微隆線以下縄文。	加ＥⅣ	249	159
Ⅰ	-900	G	1867	－	口	褐	白粒、輝・角、小石	口縁部無文帯の下に横位隆線。胴部は縄文。	加ＥⅣ	249	159
Ⅰ	-900	G	1868	－	口	黒灰	白粒、赤粒、輝・角	口縁部無文帯の下に横位隆線。胴部は縄文。	加ＥⅣ	249	159
Ⅰ	-880	G	1869	－	口	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	口縁部無文帯の下に横位隆線。その下に縄文。	加ＥⅣ	249	159
Ⅰ	-880	G	1870	－	口	鈍橙	白粒、輝・角、小石	口縁部無文帯の下に横位隆線。胴部は縄文。	加ＥⅣ	249	159
Ⅰ	-900	G	1871	－	口	灰褐	白粒、輝・角、小石	口縁部無文帯の下に横位隆線。胴部は縄文。	加ＥⅣ	249	159
Ⅰ	-880	G	1872	－	口	黒、灰褐	輝・角多、小石	口縁部無文帯の下に横位沈線。胴部は条線文。	加ＥⅣ	249	159
Ⅰ	-880	G	1873	－	口	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	口縁部無文帯の下に横位隆線。胴部は縄文。	加ＥⅣ	249	159
Ⅰ	-900	G	1874	－	口	鈍褐	白粒、輝・角、小石	無文。内面ナデ。	加ＥⅣ	249	159
Ⅰ	-880	G	1875	－	口	鈍褐	輝・角	突起が欠落。胴部は縄文後、小隆帯と沈線の波状文。	加ＥⅣ	249	159
Ⅰ	-900	G	1876	－	口・突起	灰白	白粒	上面に太沈線で「の」字状文を施す突起。胴部は沈線∩字状文、縄文。	加ＥⅣ	250	159
Ⅰ	-900	G	1877	－	口・把手	暗灰褐	白粒僅、輝・角	波頂部から縄文を施す橋状把手。胴部は沈線文、縄文。	加ＥⅣ	249	159
Ⅰ	-900	G	1878	－	突起	灰褐	白粒、小石	中央に内側までの貫通孔、両側面に上下２段の貫通孔、上段には外面から穿孔。孔の周囲にはない外面とも沈線。胴部は沈線文、縄文。	加ＥⅣ	250	160
Ⅰ	-900	G	1879	－	把手	鈍褐	白粒、輝・角	環状の波頂部の下に橋状把手。外面に縄文。	加ＥⅣ	250	160
Ⅰ	-880	G	1880	－	把手	灰褐	輝・角、小石	沈線と縄文を施す橋状把手。口縁部には縄文。	加ＥⅣ	250	160
Ⅰ	-920	G	1881	－	把手	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	波頂部からの橋状把手。口縁部無文帯の下に稜線。把手外面と胴部は縄文。	加ＥⅣ	250	160
Ⅰ	-900	G	1882	－	胴	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	括れ部までの∪字状沈線と下まで続く平行沈線。所々に微かに縄文。	加ＥⅣ	250	160
Ⅰ	-900	G	1883	－	胴	鈍赤褐	白粒、輝・角、小石	２条沈線の∩字状文。磨消縄文。	加ＥⅣ	250	160
Ⅰ	-900	G	1884	－	胴	暗灰褐	輝・角	沈線文、縄文。	加ＥⅣ	250	160
Ⅰ	-900	G	1885	－	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	沈線∪字状・∩字状文、縄文。	加ＥⅣ	250	160
Ⅰ	-920	G	1886	－	胴	灰褐	小石	沈線による区画と蕨手文、区画内は縄文。	加ＥⅣ	250	160
Ⅰ	-900	G	1887	－	胴	鈍褐	白粒、輝・角、石英	微隆起線文と磨消縄文。	加ＥⅣ	250	160
Ⅰ	-900	G	1888	－	胴	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	隆線で文様区画、区画内は縄文。	加ＥⅣ	250	160
Ⅰ	-900	G	1889	－	胴	鈍褐	白粒、輝・角、小石	隆線で縄文部と無文部を区画。	加ＥⅣ	250	160
Ⅰ	-900	G	1890	－	胴	鈍褐	白粒、輝・角、小石	隆線で縄文部と無文部を区画。	加ＥⅣ	250	160
Ⅰ	-900	G	1891	－	胴	暗褐	白粒、輝・角、小石	隆線で縄文部と無文部を区画。	加ＥⅣ	250	160
Ⅰ	-900	G	1892	－	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	隆線で縄文部と無文部を区画。	加ＥⅣ	250	160
Ⅰ	-900	G	1893	－	胴	灰	白粒、輝・角	隆線で縄文部と無文部を区画。	加ＥⅣ	250	160
Ⅰ	-880	G	1894	－	胴～底	灰褐	白粒、輝・角	胴部は沈線文間に縄文。底部は端部がやや突出する平底。	加ＥⅣ	250	160
Ⅰ	-880	G	1895	－	口～胴	鈍褐	白粒、輝・角	屈曲する口縁部には隆帯と沈線。胴部は撚糸文。	中期後半	251	160
Ⅰ	-880	G	1896	－	口	鈍褐	輝・角、小石	無文。内面黒褐色、ミガキ。	中期後半	251	160
Ⅰ	-900	G	1897	－	口	鈍褐	白粒、輝・角、小石	無文。	中期後半	251	160
Ⅰ	-900	G	1898	－	胴	鈍黄橙	白粒、赤粒、小石	多方向からの縄文。	中期後半	251	160
Ⅰ	-900	G	1899	－	胴	橙	白粒、小石	無文。	中期後半	251	160
Ⅰ	-880	G	1900	－	胴	淡橙	角、輝・角	縄文。	中期後半	251	160
Ⅰ	-880	G	1901	－	胴	鈍橙	白粒、赤粒	無文。	中期後半	251	160
Ⅰ	-880	G	1902	－	底	鈍橙	白粒	細沈線､微かに縄文の痕跡。端部が張る平底。（底径 6.2cm）	中期後半	251	160
Ⅰ	-900	G	1903	－	底	明赤褐	白粒	縄文。端部が角張る平底。（底径 10.4cm）	中期後半	251	160
Ⅰ	-880	G	1904	－	底	灰白	輝・角	微かに条線の痕跡あり。端部が窄まる平底。（底径 4.3cm）	中期後半	251	160
Ⅰ	-900	G	1905	－	底	淡橙	白粒、輝・角、小石	無文。平底。（底径 7.6cm）	中期後半	251	160
Ⅰ	-880	G	1906	－	底	灰白	白粒、小石	無文。端部がやや角張る平底。（底径 11.0cm）	中期後半	251	160
Ⅰ	-900	G	1907	－	底	灰褐	白粒、輝・角、小石	無文。端部がやや張る。平底。（底径 6.0cm）	中期後半	251	160

遺物番号				器種	部位	色調	胎　土	特　徴・法　量　等	時期	図版	写真
I	-880	G	1908	—	底	鈍褐	白粒、赤粒	やや丸みを帯びる底面。（底径 9.0cm）	中期後半	251	161
I	-880	G	1909	—	口	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	口唇部上面と口縁部に沈線。胴部は縄文。	中期後半？	251	161
I	-900	G	1910	浅鉢	口～胴	鈍橙	白粒、小石	無文。内面黒褐色、ミガキ。	中期	251	161
I	-900	G	1911	深鉢	上半	鈍褐	白粒、輝・角	２ヶ所ある突起の一つは小振りで鎖状隆帯が垂下。もう一つは波形に捻転し、垂下する２条の隆帯の間に刺突を施す。口縁部～胴部にかけて、沈線文と縄文。（口径 19.5cm）	称名寺	251	161
I	-920	G	1912	深鉢	口～胴	淡橙	白粒、小石	口縁部無文帯あり。胴部は沈線文、縄文。（口径 31.8cm）	称名寺	252	161
I	-900	G	1913	深鉢	口	浅黄橙	白粒、	口唇部内側に沈線。胴部は沈線文。（口径 30.6cm）	称名寺	251	161
I	-900	G	1914	注口土器	注口・突起	鈍黄橙	白粒、輝・角	波頂部で渦巻状に粘土を巻く。中央部には貫通孔。注口部は欠落。	称名寺	252	161
I	-880	G	1915	—	口～胴	浅黄橙	白粒、小石	沈線文の中に刺突列点文。	称名寺	252	161
I	-900	G	1916	—	口～胴	鈍黄橙	輝・角僅、小石	波状口縁の中央に貫通孔。口唇部上面に刺突と沈線。胴部は沈線文。	称名寺	252	161
I	-880	G	1917	—	口～胴	灰	輝・角僅	波頂部に捻転状突起。口縁に沿って隆線。胴部は沈線文、縄文。	称名寺	252	161
I	-900	G	1918	—	口～胴	黄白	赤粒、小石	無文。	称名寺	252	161
I	-900	G	1919	—	口	鈍橙	白粒、輝・角	縦横の隆線。縄文部と無文部の交互構成。	称名寺	252	161
I	-900	G	1920	—	口	浅黄橙	白粒、小石	縦横の微隆起線文の他は無文。	称名寺	252	161
I	-880	G	1921	—	口	鈍橙	輝・角僅、小石	口縁部から体部へ沈線文。	称名寺	252	161
I	-920	G	1922	—	口	暗褐	白粒、輝・角、小石	沈線文。	称名寺	252	161
I	-900	G	1923	—	口	黒褐	白粒、輝・角	口唇部に横位沈線。波頂部下の刺突は微かに貫通。胴部に沈線文。	称名寺	252	161
I	-900	G	1924	—	口	鈍黄橙	白粒、小石	若干盛り上がる波状口縁。頂部から沈線文が分かれ、交互に縄文部と無文部。	称名寺	252	161
I	-900	G	1925	—	口	鈍黄橙	白粒、輝・角僅	沈線間が縄文、磨消縄文の交互構成。	称名寺	252	161
I	-900	G	1926	—	口	鈍黄橙	白粒、輝・角僅	沈線文間に縄文。	称名寺	252	161
I	-900	G	1927	—	口	灰黄褐	白粒、輝・角僅	沈線文間に縄文。	称名寺	252	161
I	-880	G	1928	—	口	暗灰褐	輝・角、小石	沈線間に縄文。	称名寺	252	161
I	-900	G	1929	—	口～胴	鈍褐	白粒	波状口縁、胴部は沈線文間に刺突。	称名寺	253	161
I	-900	G	1930	—	口	鈍黄橙	輝・角僅	沈線文。一部に縄文。	称名寺	252	162
I	-900	G	1931	—	口	暗褐	赤粒、石英、小石	沈線文間に縄文。	称名寺	252	162
I	-900	G	1932	—	口	淡橙	小石	横位沈線、下には条線文。	称名寺	253	162
I	-900	G	1933	—	口	淡橙	輝・角	口縁部横位沈線下に２列の円形刺突文。	称名寺	252	162
I	-900	G	1934	—	口	鈍黄橙	白粒、輝・角僅	口縁部横位沈線下に２列の円形刺突文。	称名寺	253	162
I	-900	G	1935	—	口	鈍黄橙	白粒、小石	波頂部に突起。口縁部に刺突と２条の沈線。胴部は無文。	称名寺	253	162
I	-900	G	1936	—	口	鈍黄橙	白粒、小石、金雲母	口縁部外側に稜あり。胴部は沈線文。	称名寺	253	162
I	-920	G	1937	—	口	鈍黄橙	白粒、小石	横位隆帯で口縁部を区画。	称名寺	253	162
I	-920	G	1938	—	口	浅黄橙	白粒、小石	口縁部に横位微隆線。以下は縄文。	称名寺	253	162
I	-920	G	1939	—	口	鈍橙	輝・角	括れ部に環状貼付文と横位沈線。	称名寺	253	162
I	-900	G	1940	—	口	淡橙・黒	白粒、輝・角	口縁部無文。横位沈線以下斜位条線文。	称名寺？	253	162
I	-900	G	1941	—	口・突起	灰褐	白粒、輝・角、小石	口縁が大きく内屈し、波頂部に貫通孔。外面は沈線文、縄文。	称名寺	253	162
I	-900	G	1942	—	口・突起	暗灰褐	白粒、輝・角、小石	４単位突起か。小突起は中央が凹み、沈線を施す捻転状突起。内面にも円形の凹み。大突起は上を向いて上面には刺突と沈線文を施し、上下に開口する。胴部は沈線文間に縄文と刺突列。	称名寺	253	162
I	-920	G	1943	—	口・突起	鈍褐	白粒、小石	波状口縁頂部に穿孔、８の字状の貼付。口縁部に２段の刺突列。	称名寺	253	162
I	-900	G	1944	—	口・把手	鈍黄橙	輝・角、小石	口唇部に刺突と繋がる沈線、やや扁平な環状把手。胴部には沈線文。	称名寺	253	162
I	-900	G	1945	—	突起	灰白	白粒	左側面に穿孔する突起。内面の中央が凹み、周囲に刺突と沈線。	称名寺	253	162
I	-900	G	1946	—	突起	淡橙	輝・角多、小石僅	８の字状貼付文の上部が環状突起に。周辺に刺突文。	称名寺	253	162
I	-900	G	1947	—	突起	暗灰褐	白粒、輝・角	上半が欠落した捻転状の突起。両斜め下に隆線と刺突列。	称名寺	253	162
I	-900	G	1948	—	突起	鈍黄橙	白粒、輝・角	内面は中央に円形の凹みを持ち、その周囲に沈線文と刺突。上部は橋状に渡す。	称名寺	253	162
I	-900	G	1949	—	突起	浅黄橙	赤粒	内面は中央に円形の凹みを持ち、その周囲に沈線文と刺突。上部が一部欠落。	称名寺	254	162
I	-900	G	1950	—	突起	鈍褐	小石	内側の上下に開口する環状突起。外面には沈線、縄文。	称名寺	254	162
I	-900	G	1951	—	突起	淡橙	白粒、輝・角、小石	中央に貫通孔あり、両側面に細長い凹み。上部中央が嘴状に突出し、その両脇は凹む。	称名寺	254	162
I	-900	G	1952	—	突起	灰黄褐	白粒、小石	上向きの環状突起。中央に隆線垂下、両側に沈線文と縄文。	称名寺	254	162
I	-900	G	1953	—	突起	灰黄褐	輝・角、小石僅	上向きに開く突起。外面に沈線と刺突列。	称名寺	254	162
I	-900	G	1954	—	突起	灰黄褐	輝・角、小石	鋭角な波状突起。頂点から鎖状隆帯が垂下し、その両側は沈線と縄文。	称名寺	254	162
I	-900	G	1955	—	突起	灰黄	輝・角、小石	中央に貫通孔を穿ち、両側に沈線を施す捻転状の突起。	称名寺	254	162
I	-900	G	1956	—	突起	暗灰褐	白粒、輝・角	沈線を施す８の字状突起。上半中央には貫通孔、下半中央には穿孔。口縁沿いの稜線間に２段の刺突列。	称名寺	254	162

遺物番号				器種	部位	色調	胎　土	特　徴・法　量　等	時期	図版	写真
I	-900	G	1957	—	突起	淡橙、褐	白粒、僅	８の字状捻転突起。上半は中央に貫通孔、外面は剥離。下半の中央は凹み、両側に沈線。口縁沿いに沈線と２段の刺突列。	称名寺	254	162
I	-880	G	1958	—	突起	灰褐	白粒、輝・角僅	８の字状捻転突起。上半は中央に貫通孔、外面と内面に刺突と沈線。下半の中央は凹み、両側に沈線。口縁沿いと胴部に沈線。	称名寺	254	162
I	-880	G	1959	—	突起	暗灰褐	白粒	側面に刺突、上面に刺突と沈線。外面には沈線文。	称名寺	254	162
I	-880	G	1960	—	突起	暗褐	白粒、輝・角	上部は欠損。刺突と連繋する沈線。外面は密集する沈線。	称名寺	254	162
I	-880	G	1961	—	突起	鈍褐	小石僅	口唇部上面に刺突と沈線。突起部には貫通孔と沈線を入れた橋状貼付。胴部は沈線文。	称名寺	254	162
I	-900	G	1962	—	突起	淡橙	輝・角僅	中央に貫通孔を施す捻転状突起。	称名寺	254	162
I	-880	G	1963	—	把手	浅黄橙	白粒、輝・角僅	橋状把手。胴部は沈線文間に刺突列。	称名寺	254	162
I	-900	G	1964	—	把手	浅黄橙	赤粒、輝・角	下半に刺突を入れる橋状把手。横断面は外反する。	称名寺	254	162
I	-920	G	1965	—	把手？	浅黄橙	輝・角	無文。扁平な粘土紐を斜めにして丸める。両端欠損。	称名寺	254	162
I	-900	G	1966	—	胴	浅黄橙	赤粒、輝・角、小石	渦巻等の沈線文。所々に縄文。	称名寺	255	162
I	-900	G	1967	—	胴	橙	白粒、輝・角、小石	沈線文、縄文。	称名寺	254	162
I	-900	G	1968	—	胴	鈍褐	輝・角	沈線文、縄文。	称名寺	255	163
I	-900	G	1969	—	胴	鈍黄橙	赤粒、石英、小石	沈線文間に縄文。	称名寺	255	163
I	-900	G	1970	—	胴	浅黄橙	赤粒、石英、小石	沈線間に縄文。1971 と同一個体。	称名寺	255	163
I	-880	G	1971	—	胴	鈍橙	白粒、輝・角僅	沈線間に縄文。1970 と同一個体。	称名寺	255	163
I	-880	G	1972	—	胴	鈍黄橙	輝・角僅	沈線文、縄文。	称名寺	255	163
I	-900	G	1973	—	胴	灰褐	赤粒、輝・角僅	沈線文、縄文。	称名寺	255	163
I	-900	G	1974	—	胴	鈍橙	白粒、小石	沈線間に刺突列。	称名寺	255	163
I	-880	G	1975	—	胴	鈍黄橙	輝・角、小石	沈線間に刺突。	称名寺	255	163
I	-880	G	1976	—	胴	橙	輝・角、小石僅	沈線文、刺突列。	称名寺	255	163
I	-880	G	1977	—	胴	鈍橙	輝・角	沈線文間に刺突列。	称名寺	255	163
I	-880	G	1978	—	胴	灰褐	白粒、輝・角僅	沈線文間に刺突列。	称名寺	255	163
I	-880	G	1979	—	胴	鈍黄橙	輝・角僅	沈線文間に刺突列。	称名寺	255	163
I	-880	G	1980	—	胴	淡橙	輝・角	沈線文間に刺突列。	称名寺	255	163
I	-880	G	1981	—	胴	鈍黄橙	輝・角	沈線文間に条線。1982 と同一個体。	称名寺	255	163
I	-880	G	1982	—	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角僅	沈線文間に条線。1981 と同一個体。	称名寺	255	163
I	-920	G	1983	—	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	沈線文内条線文。	称名寺	255	163
I	-920	G	1984	—	胴	黄橙	白粒、小石	沈線文。	称名寺	256	163
I	-920	G	1985	—	胴	鈍黄橙	白粒、小石	沈線文。1986 と同一個体。	称名寺	256	163
I	-920	G	1986	—	胴	鈍黄橙	白粒、小石	沈線文。1985 と同一個体。	称名寺	256	163
I	-920	G	1987	—	胴	鈍橙	白粒、小石	沈線文。1988 と同一個体。	称名寺	256	163
I	-900	G	1988	—	胴	鈍橙	白粒、小石	沈線文。1987 と同一個体。	称名寺	256	163
I	-900	G	1989	—	胴	灰黄～黒	輝・角僅、小石	沈線文。	称名寺	256	163
I	-900	G	1990	—	胴	灰、鈍橙	白粒、小石	沈線文。	称名寺	256	163
I	-900	G	1991	—	胴	浅黄橙	輝・角	沈線文。	称名寺	256	163
I	-880	G	1992	—	胴	灰	白粒、小石	沈線文。	称名寺	256	163
I	-880	G	1993	—	胴	鈍褐	輝・角、小石	沈線文。	称名寺	256	164
I	-900	G	1994	—	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	沈線文。	称名寺	256	164
I	-900	G	1995	—	胴	暗褐	白粒、輝・角	突起が欠落か。稜線に沿って上下に刺突列。胴部は縄文。	称名寺	256	164
I	-880	G	1996	—	底	鈍黄橙	輝・角僅	無文。端部がやや張る平底。（底径 7.6cm）	称名寺	256	164
I	-880	G	1997	—	底	暗灰褐	白粒、輝・角、小石	無文。平底。（底径 7.4cm）	称名寺	256	164
I	-880	G	1998	—	底	鈍褐	白粒、小石	無文。やや中央が浮く平底。（底径 9.0cm）	称名寺	256	164
I	-900	G	1999	—	底	鈍黄橙	白粒	無文。端部がやや張る平底。（底径 10.0cm）	称名寺	256	164
I	-900	G	2000	—	胴	暗灰褐	白粒、輝・角、小石	２単位の条線文。	称名寺？	256	164
I	-880	G	2001	—	胴	暗褐	白粒、輝・角	沈線文。	称名寺？	256	164
I	-900	G	2002	—	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	弱々しい沈線文。	称～堀？	257	164
I	-880	G	2003	深鉢	ほぼ完形	浅黄橙	白粒、輝・角僅	口唇部上面に刺突と沈線。括れ部に横位沈線と環状貼付文。胴部上半に沈線文と刺突。胴部下半は無文。底部の、端部はやや丸みを帯びる。底面部分は欠損。（口径 38.0cm、底径 14.6cm、器高 61.0cm）	堀之内１	257	164
I	-880	G	2004	深鉢	口～胴	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	波頂部中央に貫通孔、その周囲に刺突。胴部は沈線文。（口径 34.6cm）	堀之内１	257	164
I	-920	G	2005	深鉢	胴～底	灰褐	白粒、赤粒、輝・角	胴部に環状貼付文と沈線文、縄文。底部は平底。（底径 5.5cm）	堀之内１	257	164
I	-900	G	2006	多角浅鉢	口	浅黄橙	白粒、輝・角	大波状口縁刺突と刻みを入れた貼付文と沈線で区画、区画内は縄文。	堀之内１	257	164
I	-920	G	2007	注口土器	注口部	淡橙	白粒、輝・角	先端が一部欠損。断面ほぼ円形、肉厚。	堀之内１	257	164
I	-880	G	2008	—	口～胴	浅黄橙	白粒、輝・角	口唇部に刺突と沈線。小波状口縁。胴部は沈線文と縄文。	堀之内１	257	164
I	-880	G	2009	—	口～胴	灰褐	輝・角、小石	口唇部に沈線２条と刺突。胴部は２条１組の沈線文。2026 と同一個体か。	堀之内１	257	164
I	-920	G	2010	—	口～胴	暗灰褐	白粒、輝・角、小石	上面が広がる波状突起の下に括れ部を跨ぐ８の字状貼付文。そこから縦横に鎖状隆帯。胴部は沈線文。	堀之内１	257	164
I	-900	G	2011	—	口～胴	鈍褐	輝・角	口唇部内屈。胴部は無文、粗いナデ。	堀之内１	258	165
I	-880	G	2012	—	口	鈍黄橙	白粒。輝・角	口縁部隆帯と沈線による区画、文様。区画内縄文、刺突あり。	堀之内１	257	165

遺物番号				器種	部位	色調	胎　土	特　徴・法　量　等	時期	図版	写真
I	-900	G	2013	—	口	鈍褐	小石	口唇部上面に沈線。波頂部から刻みを入れた隆帯が垂下。	堀之内１	257	165
I	-920	G	2014	—	口	浅黄橙	輝・角、小石	横位と斜位の沈線。	堀之内１	257	165
I	-920	G	2015	—	口	淡橙	輝・角、小石	横位沈線と縄文。	堀之内１	257	165
I	-920	G	2016	—	口	浅黄橙	白粒、石英、小石	口唇部に横位沈線。胴部は縄文と垂下沈線。	堀之内１	258	165
I	-920	G	2017	—	口	黄橙	白粒、輝・角	口縁部は沈線文の両端に刺突、と繋がる横位沈線。胴部は縄文と沈線３条垂下。	堀之内１	258	165
I	-900	G	2018	—	口	鈍褐	白粒、輝・角	波状口縁か。口唇部に横位沈線。胴部は多重の沈線文。	堀之内１	258	165
I	-900	G	2019	—	口	灰褐	白粒、赤粒、小石	口唇部の内外面に沈線。頸部は無文。	堀之内１	258	165
I	-900	G	2020	—	口	淡橙	輝・角	口唇部に円形刺突列。胴部に沈線文。	堀之内１	258	165
I	-900	G	2021	—	口	鈍黄橙	輝・角、小石	口唇部上面に環状貼付文。口縁部は沈線と刺突。屈曲する頸部は無文。	堀之内１	258	165
I	-900	G	2022	—	口	淡橙	輝・角僅	上下に刺突、中間に沈線を入れた貼付文。胴部微かに沈線、縄文。	堀之内１	258	165
I	-880	G	2023	—	口	鈍黄橙	輝・角、小石	口唇部瘤状突起の上面に刺突。胴部は沈線文間に縄文後、斜位の鎖状隆帯。	堀之内１	258	165
I	-880	G	2024	—	口	浅黄橙	石英、輝・角、小石	瘤の中央に刺突と縦位沈線。その両側に３段の刺突と横位沈線。破片下端に沈線。	堀之内１	258	165
I	-880	G	2025	—	口	鈍橙	白粒、輝・角	口唇部に沈線、波頂部下に刺突文。	堀之内１	258	165
I	-880	G	2026	—	口	灰白	白粒、輝・角、小石	口唇部に沈線２条と刺突。胴部は２条１組の沈線文。2009 と同一個体か。	堀之内１	258	165
I	-880	G	2027	—	口	灰褐	輝・角多、小石	口唇部に沈線と刺突列。胴部は沈線文。	堀之内１	258	165
I	-880	G	2028	—	口	黒	輝・角多、小石	口唇部に沈線と刺突。胴部は沈線文と縄文。2029 と同一個体。	堀之内１	258	165
I	-880	G	2029	—	口	黒褐	白粒、輝・角、小石	口唇部に沈線と刺突。胴部は沈線文と縄文。2028 と同一個体。	堀之内１	258	165
I	-920	G	2030	—	口	浅黄橙	小石	口唇部上面に刺突と連繋する沈線。	堀之内１	258	165
I	-900	G	2031	—	口	橙	輝・角、小石	波頂部上面に指頭圧痕。口唇部に刺突と沈線。波頂部下から鎖状微隆帯垂下。	堀之内１	258	165
I	-880	G	2032	—	口	橙白	石英、小石	口唇部に押圧文列。	堀之内１	258	165
I	-900	G	2033	—	口	鈍橙	白粒、輝・角	口唇部に指頭圧痕。体部は粗いナデ。	堀之内１	259	165
I	-900	G	2034	—	口	灰白	白粒、小石	波状口縁に円形刺突。	堀之内１	258	165
I	-900	G	2035	—	口	黒	白粒、小石	口縁部に横位沈線。胴部は条線文。	堀之内１	258	165
I	-920	G	2036	—	口	灰黄褐	輝・角	口唇部沿いに横位沈線。体部は微隆起線が垂下。	堀之内１	259	165
I	-880	G	2037	—	口	褐灰	白粒、輝・角僅	波頂部と下の刺突入り貼付文を刻み入り隆帯が繋ぐ。波頂部内面中央に刺突。口唇部上面に沈線。	堀之内１	259	165
I	-900	G	2038	—	口	淡橙	白粒、輝・角、小石	口唇部と括れ部に沈線。環状貼付文。	堀之内１	259	165
I	-900	G	2039	—	口	暗灰褐	輝・角、小石	無文。	堀之内１	259	165
I	-900	G	2040	—	口	灰褐	白粒、輝・角、小石	無文。	堀之内１	259	165
I	-880	G	2041	—	口	鈍褐	白粒、小石	無文。	堀之内１	259	165
I	-920	G	2042	—	口	鈍褐	白粒	無文、やや粗いナデ。	堀之内１	259	165
I	-920	G	2043	—	口・把手	橙	白粒、輝・角	括れ部を跨ぐ橋状把手。上下の刺突を沈線で繋ぐ。口縁部に沈線か。	堀之内１	259	165
I	-900	G	2044	—	口・把手	浅黄橙	赤粒、輝・角	上面に沈線文を持つ環状把手の周囲と口唇部に刺突と沈線。胴部には把手下から微隆起線が垂下。	堀之内１	259	165
I	-900	G	2045	—	口・把手	浅黄橙	白粒、小石	捻転状の把手。括れ部に８の字状貼付文。	堀之内１	259	166
I	-920	G	2046	—	口・把手	橙白	輝・角	橋状把手の上面に沈線渦巻文。胴部は沈線文。	堀之内１	259	166
I	-900	G	2047	—	頸	鈍褐	白粒、赤粒	鎖状微隆帯が括れ部の刺突貼付文まで垂下。括れ部には横位沈線。	堀之内１	259	166
I	-900	G	2048	—	突起・把手	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	上面に凹み、側面と把手部に刺突と沈線。把手の下半は欠落。	堀之内１	259	166
I	-900	G	2049	—	突起	黄橙～黒	赤粒、小石僅	口唇部内面の両端に刺突、中間に縦位沈線３条を施す突起。外面は突起頂点から鎖状微隆帯が垂下。体部は沈線文、縄文。	堀之内１	259	166
I	-920	G	2050	—	突起	淡橙	白粒、輝・角	ループ状の突起。内面に刺突と沈線。外面は鎖状隆帯が垂下し、横に沈線文、縄文。	堀之内１	260	166
I	-900	G	2051	—	把手	鈍黄橙	白粒、輝・角	断面はほぼ円形。	堀之内１	259	166
I	-920	G	2052	—	把手	灰白	小石	上部に凹みと左右に刺突を入れた橋状把手。口縁部は沈線文か。	堀之内１	260	166
I	-920	G	2053	—	胴	橙	輝・角、小石	括れ部のＶ字型鎖状隆帯の先に刺突貼付文。胴部は沈線文と縄文。	堀之内１	260	166
I	-920	G	2054	—	胴	浅黄橙	輝・角、小石、石英	沈線文、縄文。	堀之内１	260	166
I	-900	G	2055	—	胴	鈍橙	白粒、小石	括れ部より下沈線文、縄文。	堀之内１	260	166
I	-900	G	2056	—	胴	淡橙	白粒、輝・角、小石	沈線文、縄文。	堀之内１	260	166
I	-920	G	2057	—	胴	灰褐	白粒、輝・角	沈線文、縄文。	堀之内１	260	166
I	-920	G	2058	—	胴	暗灰褐	白粒、輝・角	縄文。多重の沈線文。鎖状隆帯と８の字状貼付文。2059 は同一個体。	堀之内１	260	166
I	-900	G	2059	—	胴	暗灰褐	白粒、輝・角僅	縄文。多重の沈線文。鎖状隆帯。2058 は同一個体。	堀之内１	260	166
I	-900	G	2060	—	胴	浅黄橙	輝・角僅、小石	微かに縄文の痕跡あり。	堀之内１	260	166
I	-900	G	2061	—	胴	鈍黄橙	輝・角、小石	縄文。	堀之内１	260	166
I	-900	G	2062	—	胴	浅黄橙	白粒、小石	縄文。	堀之内１	260	166
I	-880	G	2063	—	胴	橙～暗褐	輝・角	条線文。	堀之内１	260	166

遺物番号				器種	部位	色調	胎　土	特　徴・法　量　等	時期	図版	写真
Ⅰ	-880	G	2064	—	胴	鈍橙	輝・角	沈線文、縄文。	堀之内１	260	166
Ⅰ	-880	G	2065	—	胴	灰白	白粒、小石	沈線文、縄文。	堀之内１	260	166
Ⅰ	-900	G	2066	—	胴	赤褐	輝・角僅	沈線文、細縄文。	堀之内１	261	166
Ⅰ	-920	G	2067	—	胴	灰褐	輝・角、小石	２重楕円と刺突を入れた隆帯。その両側は沈線文間に縄文。	堀之内１	260	166
Ⅰ	-900	G	2068	—	胴	暗灰褐	小石	沈線２条。	堀之内１	261	166
Ⅰ	-900	G	2069	—	胴	灰黄褐	輝・角僅	沈線渦巻文。	堀之内１	261	166
Ⅰ	-900	G	2070	—	胴	浅黄橙	白粒、小石	多重沈線による文様。穿孔の痕跡あり。	堀之内１	261	166
Ⅰ	-880	G	2071	—	胴	黒褐	白粒、輝・角僅	縦位と斜位の沈線。	堀之内１	261	166
Ⅰ	-900	G	2072	—	胴	淡橙	白粒、輝・角、小石	沈線渦巻状文。	堀之内１	261	166
Ⅰ	-880	G	2073	—	胴	灰褐	白粒、小石	刻みを入れた隆帯と沈線文。	堀之内１	261	166
Ⅰ	-920	G	2074	—	胴	淡橙	白粒、輝・角、小石	８の字状貼付文と沈線文。	堀之内１	261	166
Ⅰ	-920	G	2075	—	胴	鈍黄橙	輝・角、小石	無文、粗いナデ。2076 と同一個体か。	堀之内１	261	167
Ⅰ	-880	G	2076	—	胴	鈍黄橙	白粒、小石	無文、粗いナデ。2075 と同一個体か。	堀之内１	261	167
Ⅰ	-880	G	2077	—	底	灰白	白粒、小石	無文。端部が角張る平底。（底径 13.8cm）	堀之内１	261	167
Ⅰ	-880	G	2078	—	底	橙	白粒、小石	無文。端部がやや突出する平底。（底径 7.2cm）	堀之内１	261	167
Ⅰ	-900	G	2079	—	底	鈍褐	白粒	無文。端部が若干角張る平底。（底径 7.2cm）	堀之内１	261	167
Ⅰ	-880	G	2080	—	底	鈍黄橙	白粒、輝・角	端部がやや突出する平底。底面に網代痕あり。（底径 11.8cm）	堀之内１	261	167
Ⅰ	-880	G	2081	—	底	鈍橙	白粒、小石	端部が突出する平底。底面に網代痕あり。（底径 9.0cm）	堀之内１	261	167
Ⅰ	-920	G	2082	—	底	浅黄橙	輝・角	端部がやや突出する平底。底面に網代痕あり。（底径 11.4cm）	堀之内１	261	167
Ⅰ	-920	G	2083	深鉢	胴	浅黄橙	白粒、小石	沈線文、縄文。	堀之内２	261	167
Ⅰ	-920	G	2084	深鉢	胴～底	灰褐	白粒、輝・角、小石	胴部に沈線と縄文。底部は端部が突出し、反って立ち上がる。底面の一部だが網代痕あり。（底径 18.8cm）	堀之内２	262	167
Ⅰ	-920	G	2085	注口土器	胴	灰	白粒、輝・角、小石	胴部がくの字状に屈曲。上半は２条１組の沈線文の間に細縄文。注口部欠損。下半は無文。	堀之内２	262	167
Ⅰ	-900	G	2086	—	口～胴	灰褐	白粒、輝・角、小石	波頂部内面に刺突と縦位沈線の貼付文。外面は波頂部から刻みを入れた微隆帯垂下。胴部は沈線文、縄文。	堀之内２	262	167
Ⅰ	-920	G	2087	—	口～胴	鈍褐	白粒、輝・角、小石	口唇部はやや折り返し、胴部は沈線文幾何学文と縄文。	堀之内２	262	167
Ⅰ	-920	G	2088	—	口～胴	褐灰	白粒、輝・角、小石	沈線幾何学文。無文部と細縄文が交互構成。2089 と同一個体。	堀之内２	262	167
Ⅰ	-920	G	2089	—	口～胴	褐灰	白粒、輝・角、小石	沈線幾何学文。無文部と細縄文が交互構成。2088 と同一個体。	堀之内２	261	167
Ⅰ	-920	G	2090	—	口～胴	鈍褐～黒	白粒、小石	沈線文、細縄文。	堀之内２	262	167
Ⅰ	-900	G	2091	—	口	灰褐	白粒、輝・角、小石	多重沈線文。間隔広めの部分に微かに縄文。2113 と同一個体か。	堀之内２	261	167
Ⅰ	-900	G	2092	—	口	鈍褐	白粒、輝・角	沈線文。	堀之内２	262	167
Ⅰ	-900	G	2093	—	口	暗褐	白粒、輝・角、小石	口唇部内側に沈線。外面は粗いナデ。	堀之内２	262	168
Ⅰ	-900	G	2094	—	口	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	口唇部僅かに内傾。横位細沈線。2095 と同一個体か。	堀之内２	262	168
Ⅰ	-900	G	2095	—	口	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	口唇部僅かに内傾。数条の横位細沈線。2094 と同一個体か。	堀之内２	262	168
Ⅰ	-900	G	2096	—	口	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	沈線間に充填縄文。	堀之内２	262	168
Ⅰ	-900	G	2097	—	口	鈍黄橙	輝・角、小石	沈線間に充填縄文。	堀之内２	262	168
Ⅰ	-900	G	2098	—	口	灰褐	白粒、輝・角、小石	沈線幾何学文、充填縄文。	堀之内２	262	168
Ⅰ	-900	G	2099	—	口	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	沈線文、縄文。	堀之内２	262	168
Ⅰ	-900	G	2100	—	口	鈍黄橙	輝・角、小石	口唇部沿いに２条沈線。体部は縄文、沈線幾何学文。	堀之内２	262	168
Ⅰ	-900	G	2101	—	口	鈍橙	輝・角、小石	沈線文。縄文部と無文部の交互構成。	堀之内２	262	168
Ⅰ	-920	G	2102	—	口	鈍橙	白粒、輝・角、小石	口唇部に沈線。胴部は沈線、縄文。	堀之内２	263	168
Ⅰ	-900	G	2103	—	口	鈍黄橙	石英、小石	沈線文、微かに細縄文。	堀之内２	263	168
Ⅰ	-900	G	2104	—	口	鈍橙	小石	沈線文、細縄文。	堀之内２	263	168
Ⅰ	-920	G	2105	—	口	鈍橙	輝・角、小石	口唇部内面に斜位の刻みを入れた隆帯。外面は沈線文と縄文。	堀之内２	263	168
Ⅰ	-920	G	2106	—	口	明褐灰	白粒、輝・角	口縁部に刻みを入れた横位微隆帯。体部は沈線文、縄文。	堀之内２	263	168
Ⅰ	-920	G	2107	—	口	暗灰褐	白粒、小石	口唇部に８の字状貼付文。胴部は沈線文、細縄文。	堀之内２	263	168
Ⅰ	-920	G	2108	—	口	鈍橙	白粒、輝・角	口縁部に小型の８の字状貼付文と横位鎖状微隆帯。胴部は沈線文と細縄文。	堀之内２	263	168
Ⅰ	-920	G	2109	—	胴	暗褐灰	白粒、輝・角、小石	くの字型に屈曲する胴部。上側は沈線文、縄文。	堀之内２	263	168
Ⅰ	-920	G	2110	—	胴	灰黄褐	輝・角、小石	沈線文、細縄文。	堀之内２	263	168
Ⅰ	-920	G	2111	—	胴	鈍褐～黒	白粒、輝・角、小石	沈線文、細縄文。	堀之内２	263	168
Ⅰ	-900	G	2112	—	胴	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	刻みを入れた微隆帯。沈線幾何学文の間に縄文。	堀之内２	263	168
Ⅰ	-900	G	2113	—	胴	灰褐	白粒、輝・角、小石	細縄文、多重沈線文。2091 と同一個体か。	堀之内２	263	168
Ⅰ	-900	G	2114	—	胴	鈍橙	輝・角僅、小石	沈線文、細縄文。	堀之内２	263	168
Ⅰ	-900	G	2115	—	胴	黒褐	輝・角僅、小石	沈線文間に細縄文。2116、2117、2118 と同一個体。	堀之内２	263	168
Ⅰ	-900	G	2116	—	胴	暗褐	輝・角僅、小石	沈線文間に細縄文。2115、2117、2118 と同一個体。	堀之内２	263	168
Ⅰ	-900	G	2117	—	胴	暗褐	輝・角僅、小石	沈線文間に細縄文。2115、2116、2118 と同一個体。	堀之内２	263	168
Ⅰ	-900	G	2118	—	胴	暗褐	輝・角、小石	沈線文間に細縄文。2115、2116、2117 と同一個体。	堀之内２	263	168
Ⅰ	-900	G	2119	—	胴	鈍褐	小石	沈線文、細縄文。	堀之内２	263	168
Ⅰ	-880	G	2120	—	胴	暗褐	白粒、輝・角、小石	沈線文間に細縄文。	堀之内２	263	168
Ⅰ	-880	G	2121	—	胴	灰褐	白粒	沈線文、細縄文。	堀之内２	263	168
Ⅰ	-920	G	2122	—	胴	黒灰	白粒、輝・角、小石	沈線間に細縄文。	堀之内２	263	168

遺物番号				器種	部位	色調	胎　土	特　徴・法　量　等	時期	図版	写真
Ⅰ	-920	G	2123	—	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	胴部がくの字に屈曲。上半は鎖状微隆帯や８の字状貼付文、沈線文と縄文。下半は無文。	堀之内２	263	168
Ⅰ	-900	G	2124	—	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	沈線、縄文。	堀之内２	264	168
Ⅰ	-900	G	2125	—	胴	灰褐	白粒、輝・角、小石	沈線幾何学文、充填縄文。	堀之内２	264	169
Ⅰ	-900	G	2126	—	胴	灰褐	白粒、輝・角、小石	沈線幾何学文、磨消縄文。	堀之内２	264	169
Ⅰ	-880	G	2127	—	胴	灰褐	白粒、輝・角僅	多重沈線文、縄文部と無文部の交互構成。	堀之内２	264	169
Ⅰ	-880	G	2128	—	胴	暗赤褐	白粒、輝・角僅	沈線文、縄文。	堀之内２	263	169
Ⅰ	-880	G	2129	—	胴	鈍褐	輝・角僅、小石	沈線文間に縄文。	堀之内２	264	169
Ⅰ	-880	G	2130	—	胴	黄橙	白粒、輝・角	沈線渦巻状文内に縄文。	堀之内２	264	169
Ⅰ	-900	G	2131	—	胴	灰褐	輝・角	沈線間に円形刺突列。胴部は縄文。	堀之内２	264	169
Ⅰ	-920	G	2132	—	胴	黄白・黒	白粒、小石	微隆帯が垂下。外側に沈線文。	堀之内２	264	169
Ⅰ	-920	G	2133	—	底	黄白	白粒、輝・角	平底、底面に網代痕。端部突出。（底径 21.0cm）	堀之内２	264	169
Ⅰ	-920	G	2134	—	口	灰黄褐	白粒、輝・角、小石	口唇部に沈線、刺突。稜に斜位の刻み。	堀之内	264	169
Ⅰ	-920	G	2135	—	口	鈍橙	輝・角、小石	低い波頂部の下に２つ穿孔。胴部は無文。	堀之内	264	169
Ⅰ	-920	G	2136	—	口	暗灰褐	輝・角、小石	口唇部に横位沈線。胴部は斜位沈線と縄文。	堀之内	264	169
Ⅰ	-900	G	2137	—	胴	浅黄橙	輝・角、小石	無文。非常に粗いナデで仕上げ。	堀之内	264	169
Ⅰ	-920	G	2138	—	胴	鈍褐	輝・角、小石	無文。粗いナデ。	堀之内	264	169
Ⅰ	-920	G	2139	—	底	淡橙	白粒、輝・角、小石	平底。無文。直線的に立ち上がる。（底径 10.4cm）	堀之内	264	169
Ⅰ	-920	G	2140	—	底	灰黄	白粒、輝・角	平底、底面に網代痕。胴部は無文でやや丸みを持って立ち上がる。（底径 9.0cm）	堀之内	264	169
Ⅰ	-920	G	2141	—	底	褐灰	白粒、小石	平底、底面に網代痕。胴部は無文でやや反りながら立ち上がる。（底径 7.0cm）	堀之内	264	169
Ⅰ	-920	G	2142	—	底	浅黄橙	白粒、輝・角	平底、底面に網代痕。（底径 10.6cm）	堀之内	264	169
Ⅰ	-900	G	2143	—	底	灰赤	白粒僅	平底。端部突出。底面に網代痕？（底径 8.7cm）	堀之内	265	169
Ⅰ	-920	G	2144	—	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	沈線文、縄文。	加Ｂ２	265	169
Ⅰ	-880	G	2145	—	底	鈍黄橙	白粒、輝・角	平底、底面に網代痕。	後期	265	169
Ⅰ	-880	G	2146	—	胴	暗赤褐	白粒、輝・角	僅かに沈線と刺突。屈曲部が張り出す。2147 と同一個体。	後期	265	169
Ⅰ	-880	G	2147	—	胴	暗赤褐	赤粒、小石	僅かに沈線と刺突。屈曲部が張り出す。2146 と同一個体。	後期	265	169
Ⅰ	-900	G	2148	—	底	橙	白粒、輝・角	無文。端部にやや丸みを持つ平底。（底径 9.0cm）	後期	265	169
Ⅰ	-880	G	2149	—	口	暗褐	輝・角、小石	縄文を施す隆帯が口縁部で瘤状の小突起をつくる。胴部は隆線文、縄文。	？	265	169
Ⅰ	-900	G	2150	—	胴	鈍黄橙	輝・角、小石	沈線文。	？	265	169
Ⅰ	-880	G	2151	—	胴	浅黄橙	赤粒、輝・角、小石	沈線文。	？	265	169
Ⅰ	-880	G	2152	耳栓	完形	灰褐	白粒、小石	上下面とも中心に沈線渦巻文、四辺に内湾する沈線。刺突を散りばめる。（径 2.2cm）	？	265	169
Ⅰ	-880	G	2153	耳栓	完形	橙	小石	上下面とも中心に沈線渦巻文、四辺に内湾する沈線。刺突を散りばめる。（径 2.5cm）	？	265	169
Ⅰ	-900	G	2154	土製円板	完形	鈍黄橙	白粒、小石	無文。土器再利用。（径 4.8cm）	？	265	169
Ⅰ	-900	G	2155	土製円板	完形	橙白	輝・角	無文。土器再利用。（径 3.9cm）	？	265	169
Ⅰ	-900	G	2156	土製円板	完形	橙	白粒、輝・角	縄文？土器再利用。（径 3.1cm）	？	265	169
Ⅰ	-900	G	2157	土製円板	完形	橙	白粒、小石	縄文。（長径 3.8cm）	？	265	169
Ⅰ	-900	G	2158	土製円板	完形	暗灰褐	金雲母、小石	無文。もとの土器は中期中葉。（長径 2.8cm）	？	265	169
Ⅰ	-900	G	2159	土製円板	完形	鈍褐	白粒	無文。（長径 5.3cm）	？	265	169
Ⅰ	-880	G	2160	土製円板	完形	橙白	白粒、小石	無文。土器再利用。（径 3.0cm）	？	265	169
Ⅰ	-880	G	2161	土製円板	完形	暗褐	白粒	縄文。土器再利用。（径 3.0cm）	？	265	169
Ⅰ	-880	G	2162	土製円板	完形	鈍橙	石英、小石	無文。土器再利用。（径 3.1cm）	？	265	169
Ⅰ	-880	G	2163	土製円板	完形	暗灰褐	金雲母、小石	無文。もとの土器は中期中葉。（長径 4.0cm）	？	265	169
Ⅰ	-880	G	2164	土製円板	一部欠	橙	輝・角、小石	縄文？土器再利用。（径 3.6cm）	？	265	169
Ⅱ	-860	G	2165	—	胴	暗赤褐	金雲母僅、小石	隆帯区画に沿って角押し文。	阿玉台Ⅰｂ	266	170
Ⅱ	-860	G	2166	—	口	橙	小石、金雲母	口唇部に刻み。口縁部は隆帯で区画、区画内は角押し文。	阿玉台Ⅱ	266	170
Ⅱ	-860	G	2167	—	口	鈍橙	小石、金雲母	１列の刻み。	阿玉台Ⅱ	266	170
Ⅱ	-860	G	2168	—	突起	鈍黄橙	金雲母、輝・角、小石	２列の結節沈線。	阿玉台Ⅱ	266	170
Ⅱ	-860	G	2169	—	胴	鈍褐	小石、金雲母	３条の結節沈線。	阿玉台Ⅱ	266	170
Ⅱ	-860	G	2170	—	胴	鈍橙	赤粒、金雲母	隆帯の両側に結節沈線。	阿玉台Ⅱ	266	170
Ⅱ	-860	G	2171	—	胴	鈍橙	金雲母、小石	隆帯に沿って２列の結節沈線。	阿玉台Ⅱ	266	170
Ⅱ	-840	G	2172	—	胴	鈍橙	金雲母、小石	隆帯の両側に沿って角押し文。区画内は沈線、角押し文。	阿玉台Ⅱ	266	170
Ⅱ	-860	G	2173	—	胴	暗褐	金雲母、小石	隆帯による区画に沿って２列の結節沈線。区画内には条線文。	阿玉台Ⅱ？	266	170
Ⅱ	-860	G	2174	—	口	鈍褐	金雲母、小石	隆帯による区画、内縁に刺突列。口縁部内側に稜あり。	阿玉台Ⅲ	266	170
Ⅱ	-840	G	2175	—	口	鈍褐	白粒、輝・角、小石	口縁部を区画する隆帯と区画内に刻み状沈線。上部に交互刺突による文様帯の片鱗。胴部は撚糸文。	阿玉台Ⅲ	266	170

遺物番号				器種	部位	色調	胎　土	特　徴・法　量　等	時期	図版	写真
Ⅱ	-860	G	2176	—	口	鈍橙	金雲母、小石	肥厚する口唇部から縄文。口縁部区画の隆帯と区画内にも縄文。	阿玉台Ⅳ	266	170
Ⅱ	-860	G	2177	—	口	赤褐	小石	隆帯に沿って刻みや半截竹管文列。	勝坂３	266	170
Ⅱ	-860	G	2178	—	胴	暗赤褐	白粒、金雲母僅	三角形の掘り込みの周囲を刻み列で囲む。	勝坂３	266	170
Ⅱ	-860	G	2179	—	口	淡橙	白粒、赤粒、輝・角	口唇部に押圧痕を施した隆帯。胴部は縄文。	中期中葉	266	170
Ⅱ	-860	G	2180	—	口	鈍橙	白粒、金雲母	波頂部の隆起から縦長の突起。	中期中葉	266	170
Ⅱ	-860	G	2181	—	口	浅黄橙	金雲母、小石	縄文を施す隆帯と沈線で区画、区画内も沈線と縄文。	中期中葉	266	170
Ⅱ	-860	G	2182	—	口・把手	鈍褐	金雲母、小石	口唇部に横位沈線と縦位条線。口縁部の楕円形隆帯区画の端部に小振りの環状把手。区画内は刻みと沈線鋸歯状文。	中期中葉	266	170
Ⅱ	-860	G	2183	—	突起	暗赤褐	小石僅	上端部が欠損。刻みを入れた隆帯と、角押し文。	中期中葉	266	170
Ⅱ	-860	G	2184	—	突起	鈍赤褐	白粒、金雲母	縁辺に隆帯貼付。胴部に半截竹管による鋸歯状文。	中期中葉	266	170
Ⅱ	-860	G	2185	—	胴	黒褐	白粒、輝・角	３段の角押し文。	中期中葉	266	170
Ⅱ	-860	G	2186	—	胴	鈍橙	輝・角、金雲母	押圧痕を施した隆帯と、直交する刻み列。	中期中葉	266	170
Ⅱ	-860	G	2187	—	胴	赤褐	輝・角僅	縄文を施す隆帯と沈線による区画。	中期中葉	266	170
Ⅱ	-860	G	2188	—	胴	褐	白粒、赤粒、小石	破片上端の、内側に刻みを入れた隆帯文。2189 と同一個体か。	中期中葉	266	170
Ⅱ	-860	G	2189	—	胴	褐	白粒、赤粒、小石	破片上端の、内側に刻みを入れた隆帯文。2188 と同一個体か。	中期中葉	266	170
Ⅱ	-860	G	2190	—	胴	橙	白粒	同心円状の沈線文、中心部に刺突。	中期中葉	266	170
Ⅱ	-860	G	2191	—	胴	鈍橙	赤粒、輝・角僅	低い隆線の周囲に半截竹管の刺突。	中期中葉	266	170
Ⅱ	-860	G	2192	—	胴	鈍橙	赤粒	低い隆線の周囲に半截竹管の刺突と刻み。	中期中葉	266	170
Ⅱ	-860	G	2193	—	胴	橙	輝・角僅、小石	隆帯と沈線による区画、区画内は刻みと半截竹管文。	中期中葉	266	170
Ⅱ	-860	G	2194	—	胴	暗赤褐	白粒、小石	隆帯、縄文。	中期中葉	267	170
Ⅱ	-860	G	2195	—	底	赤褐	小石	端部が角張る平底。（底径 9.4cm）	中期中葉	267	170
Ⅱ	-860	G	2196	—	底	赤褐	小石僅	縄文。端部がやや角張る平底。内面は黒色。（底径 5.4cm）	中期中葉	267	170
Ⅱ	-860	G	2197	—	底	暗赤褐	白粒	無文。平底。内外面にミガキ。（底径 8.0cm）	中期中葉	267	170
Ⅱ	-860	G	2198	—	底	鈍橙	白粒多、輝・角	無文。平底。（底径 7.6cm）	中期中葉	267	170
Ⅱ	-860	G	2199	—	口	鈍橙	白粒、輝・角	沈線文。	中期中葉末	267	170
Ⅱ	-860	G	2200	—	突起	鈍赤褐	白粒、小石	縁辺に刻みを入れ、内外面とも形状に沿った沈線で装飾。内面と右側から穿孔され中空部ができる。	中期中葉末	266	170
Ⅱ	-860	G	2201	—	突起	灰	白粒、輝・角	頂部、口唇部上面、外面に結節沈線。下部の小瘤から横へ隆帯。	中期中葉？	267	170
Ⅱ	-860	G	2202	深鉢	口～胴	鈍橙	白粒、輝・角僅	口縁部は隆帯による波形文で区画、区画内と一部隆帯上に沈線。頸部は無文で胴部は縄文。（口径 20.6cm）	加ＥⅠ	267	170
Ⅱ	-810	G	2203	浅鉢	口～胴	暗赤褐	金雲母僅、小石	多方向に開口する突起が付くと思われるが欠損。突起の内面は粘土を貼付交互刺突文。胴部は縄文。	加ＥⅠ	267	170
Ⅱ	-860	G	2204	浅鉢	口・把手	橙	小石	角張った幅広の隆帯が２条。それを跨ぐように盛り上がる橋状把手。胴部は無文。	加ＥⅠ	267	170
Ⅱ	-810	G	2205	—	口～胴	暗灰褐	輝・角	口縁部は沈線による渦巻文等と交互刺突文。胴部は撚糸文と沈線文。	加ＥⅠ	267	170
Ⅱ	-860	G	2206	—	口～胴	淡橙	輝・角	口縁部は無文。横位沈線と交互刺突文の下は隆帯と沈線で区画、区画内と胴部に撚糸文。	加ＥⅠ	267	171
Ⅱ	-860	G	2207	—	口	橙	輝・角、小石	撚糸文上に隆帯渦巻文か。	加ＥⅠ	267	171
Ⅱ	-860	G	2208	—	口	淡橙	輝・角、小石	口唇部上面に沈線。口縁部は隆帯と沈線で区画、文様。区画内と胴部は縄文。	加ＥⅠ	267	171
Ⅱ	-860	G	2209	—	口	暗赤褐	小石	隆帯渦巻文と縄文。	加ＥⅠ	267	171
Ⅱ	-860	G	2210	—	口	黒褐	白粒、輝・角、金雲母	口唇部上面に沈線。口縁部には隆帯渦巻文と縄文。	加ＥⅠ	267	171
Ⅱ	-860	G	2211	—	口	鈍橙	白粒、輝・角、小石	口唇部上面に沈線。口縁部は隆帯と沈線で区画、文様。区画内は縄文。	加ＥⅠ	267	171
Ⅱ	-860	G	2212	—	口	暗褐	白粒、輝・角	口縁部は無文。括れ部に交互刺突文。胴部には刻みを入れた隆帯文。	加ＥⅠ	268	171
Ⅱ	-860	G	2213	—	口	灰黄	白粒僅	隆帯と沈線による区画と渦巻文、区画内縄文。	加ＥⅠ	267	171
Ⅱ	-860	G	2214	—	口	暗赤褐	小石	隆帯による区画と文様。区画内縄文。	加ＥⅠ	268	171
Ⅱ	-860	G	2215	—	口	鈍橙	白粒、輝・角	隆帯と沈線による区画、区画内は縄文。頸部は無文。	加ＥⅠ	268	171
Ⅱ	-860	G	2216	—	口	黄白	小石	隆帯による区画、区画内縄文。頸部無文。	加ＥⅠ	268	171
Ⅱ	-840	G	2217	—	口	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	口縁部は隆帯と沈線の区画と渦巻文、区画に縄文。頸部無文。	加ＥⅠ	268	171
Ⅱ	-810	G	2218	—	口	鈍赤褐	石英、小石	口縁部横位隆帯区画、区画内縄文。頸部無文。3240 と同一か。	加ＥⅠ	268	171
Ⅱ	-810	G	2219	—	口	明赤褐	小石	口縁は隆帯と沈線の区画と渦巻文、区画内縄文。頸部無文。	加ＥⅠ	268	171
Ⅱ	-860	G	2220	—	口	鈍橙	白粒、赤粒、輝・角	刻み入り隆帯による区画、区画内は縄文と沈線。胴部は縄文。	加ＥⅠ	268	171
Ⅱ	-860	G	2221	—	口	鈍橙	輝・角僅、小石	短沈線と刺突を入れた隆帯で区画、区画内は沈線の渦巻文等。	加ＥⅠ	268	171
Ⅱ	-860	G	2222	—	口	鈍褐	白粒、小石	隆帯と沈線による区画、区画内は隆帯渦巻文と縦位沈線。	加ＥⅠ	268	171
Ⅱ	-860	G	2223	—	口	褐	小石、金雲母僅	口縁部文様帯は縦位沈線列の上に隆帯文。	加ＥⅠ	268	171
Ⅱ	-860	G	2224	—	口	暗赤褐	白粒、小石僅	隆帯間に沈線鋸歯状文。	加ＥⅠ	268	171
Ⅱ	-840	G	2225	—	口	鈍橙	白粒、小石	口縁部は隆帯と沈線で区画、区画内は沈線杉綾文。頸部は無文。	加ＥⅠ	268	171
Ⅱ	-810	G	2226	—	口	暗赤褐	輝・角	刻みを入れた隆帯で区画、区画内沈線文。頸部は無文。	加ＥⅠ	268	171
Ⅱ	-840	G	2227	—	口	浅黄橙	輝・角	波状口縁。隆帯と沈線で区画、渦巻文、区画内と胴部は撚糸文。瘤状の隆起あり。	加ＥⅠ	269	171

遺物番号				器種	部位	色調	胎　土	特　徴・法　量　等	時期	図版	写真
Ⅱ	-860	G	2228	—	口	鈍褐	輝・角、小石	口縁部は上から隆帯、交互刺突文、沈線、胴部は縄文。	加ＥⅠ	269	171
Ⅱ	-860	G	2229	—	口	鈍橙	赤粒、輝・角	口縁部上部は無文。括れ部以下は隆帯と沈線で区画、区画内交互刺突文と縄文。	加ＥⅠ	269	171
Ⅱ	-860	G	2230	—	口	橙	小石	横位隆帯と沈線、交互刺突文。	加ＥⅠ	269	171
Ⅱ	-860	G	2231	—	口	極暗赤褐	白粒、小石	隆帯による区画内に２段の交互刺突列。	加ＥⅠ	269	171
Ⅱ	-860	G	2232	—	口	鈍橙	小石	口唇部に「し」の字状の沈線文。胴部に刻みを入れた波形隆帯と条線文。	加ＥⅠ	269	171
Ⅱ	-810	G	2233	—	口	橙	白粒、輝・角	小隆帯と沈線による文様構成。	加ＥⅠ	269	171
Ⅱ	-860	G	2234	—	口	暗赤褐	白粒、輝・角	縄文後、４単位の横位沈線と半円状の沈線文。	加ＥⅠ	269	171
Ⅱ	-860	G	2235	—	口	鈍橙	小石、金雲母僅	口唇部沈線間に交互刺突文。胴部は沈線と縄文。	加ＥⅠ	269	171
Ⅱ	-860	G	2236	—	口	暗赤褐	白粒、小石	横位沈線と交互刺突文。	加ＥⅠ	269	171
Ⅱ	-860	G	2237	—	口	橙	白粒、赤粒、小石	口縁部に交互刺突文と同心円状の沈線連弧文。赤色塗彩あり。	加ＥⅠ	269	172
Ⅱ	-860	G	2238	—	口	橙	小石	口縁部は２列の結節沈線を入れた隆帯と、２段の交互刺突文を囲む沈線。頸部に僅かに縄文。	加ＥⅠ	269	172
Ⅱ	-860	G	2239	—	口	淡橙	輝・角	横位の沈線と交互刺突文。縦位３条の隆線。	加ＥⅠ	269	172
Ⅱ	-860	G	2240	—	口	鈍黄橙	白粒、輝・角僅	幅広の口唇部上面に押圧、沈線、交互刺突文。突起上面には沈線渦巻文。胴部は撚糸文。	加ＥⅠ	269	172
Ⅱ	-860	G	2241	—	口	橙	輝・角	口縁部に横位刺突文と刻みを入れた貼付文。	加ＥⅠ	269	172
Ⅱ	-860	G	2242	—	口	赤褐	白粒、小石	平らで稜を持つ口唇部。括れ部に横位沈線２条。	加ＥⅠ	269	172
Ⅱ	-840	G	2243	—	口	赤褐	白粒、小石	口唇部に稜あり。無文。	加ＥⅠ	269	172
Ⅱ	-810	G	2244	—	口・突起	鈍赤褐	白粒、輝・角、小石	突起の大半は欠落。口縁部付近は沈線で文様描出。胴部は撚り糸文地文で、３条１組の波状隆帯。	加ＥⅠ	269	172
Ⅱ	-860	G	2245	—	口・突起	鈍橙	輝・角、小石	反って開く無文の口縁部。括れ部に沈線と刻みを持つ隆帯。中央に渦巻文の突起。	加ＥⅠ	269	172
Ⅱ	-860	G	2246	—	口・把手	赤褐	白粒	橋状把手。平坦な口唇部下の括れ部に２段の刺突文。胴部は隆帯と沈線で施文。	加ＥⅠ	269	172
Ⅱ	-810	G	2247	—	口	暗赤褐	輝・角、雲母、小石	口縁部は沈線文と波打つ隆帯。頸部に縄文。	加ＥⅠ	269	172
Ⅱ	-860	G	2248	—	口付近	黒灰	白粒、輝・角	２条の隆帯による文様。	加ＥⅠ	269	172
Ⅱ	-860	G	2249	—	口付近	鈍褐	輝・角	弧状に懸垂する沈線による区画、区画内と胴部は縄文。	加ＥⅠ	270	172
Ⅱ	-860	G	2250	—	口付近	橙	赤粒、小石	隆帯の区画と渦巻文か、区画内は縄文。	加ＥⅠ	270	172
Ⅱ	-860	G	2251	—	突起・把手	暗灰褐	白粒、輝・角、小石	内、左右、上面に開口する。正面から上面にかけて沈線渦巻文。口唇部上面と胴部にも沈線文。	加ＥⅠ	270	172
Ⅱ	-860	G	2252	—	突起	鈍褐	輝・角僅、小石	刻みを入れた隆帯が渦を巻き、端部がさらに盛り上がる。その周囲を多重の沈線が巻き、一部に幅広の刻みを施す。内面は縁に刻みを入れ、沈線文を施す。	加ＥⅠ	270	172
Ⅱ	-860	G	2253	—	突起	鈍褐	白粒	外面は中央に沈線渦巻文、沈線間に刻みを施す。縁辺に放射状の沈線、左面に沈線文、刺突。内面は中央部を一段凹めて沈線渦巻文。周囲に刻みを入れた環状帯を２重にめぐらす。	加ＥⅠ	270	172
Ⅱ	-860	G	2254	—	突起	明赤褐	小石	沈線渦巻文を施す瘤状突起。胴部は隆帯と沈線で蛸足状に描出。隙間に縄文。	加ＥⅠ	270	172
Ⅱ	-860	G	2255	—	突起	鈍橙	白粒僅	刻みを入れた２条の横位隆帯上に沈線渦巻文の突起。隆帯以下は沈線、縄文。	加ＥⅠ	270	172
Ⅱ	-860	G	2256	—	突起	橙	白粒、輝・角	瘤状にして両側から押し凹める。突起、胴部とも沈線を施す。	加ＥⅠ	270	172
Ⅱ	-860	G	2257	—	突起	橙	輝・角	隆帯と沈線で区画、渦巻文はとぐろ状に隆起。区画内と胴部は縄文。	加ＥⅠ	270	172
Ⅱ	-840	G	2258	—	突起	橙	赤粒、輝・角、小石	内外面、両側面、上面に開口する環状突起。口唇部～突起部には沈線。胴部は縄文。	加ＥⅠ	270	172
Ⅱ	-860	G	2259	—	突起	鈍黄橙	輝・角僅	上部に口唇部から続く太沈線の渦巻文を持つ環状突起。胴部は縄文後隆帯と太沈線で渦巻文。	加ＥⅠ	270	172
Ⅱ	-840	G	2260	—	把手	浅黄橙	白粒、小石	横位沈線を施す橋状把手。文様や欠損部の状況から、上位に突起が付く可能性あり。	加ＥⅠ	271	172
Ⅱ	-810	G	2261	—	把手	褐灰	白粒、輝・角	両側面と内面に開口する橋状把手。両側面に沈線文。口縁部は隆帯で区画し、区画内は沈線。	加ＥⅠ	271	172
Ⅱ	-810	G	2262	—	把手	鈍橙	白粒、雲母、小石	内外面と両側面、上面に開口すると思われる。渦巻文を含む沈線文。	加ＥⅠ	271	172
Ⅱ	-860	G	2263	—	胴	灰褐	白粒、小石	縦横の沈線による区画、区画内は縄文。	加ＥⅠ	271	172
Ⅱ	-860	G	2264	—	胴	暗灰褐	輝・角僅、小石	縄文後、沈線文。	加ＥⅠ	270	172
Ⅱ	-860	G	2265	—	胴	浅黄橙	白粒、小石	内側から穿孔する突起が欠損、突起基部に沈線文、破片下部に太沈線。胴部は縄文。	加ＥⅠ	271	172
Ⅱ	-860	G	2266	—	胴	浅黄橙	輝・角僅	縄文後、沈線文。	加ＥⅠ	270	172
Ⅱ	-860	G	2267	—	胴	灰褐	白粒	上半は沈線区画、区画内縄文。下半は無文。	加ＥⅠ	270	172
Ⅱ	-860	G	2268	—	胴	暗灰褐	金雲母、小石	縄文後、沈線文。	加ＥⅠ	270	172
Ⅱ	-860	G	2269	—	胴	黄白	白粒、小石	２条の隆帯での渦巻文。文内の縄文部に赤色塗彩。	加ＥⅠ	270	172
Ⅱ	-860	G	2270	—	胴	赤褐	輝・角僅、小石	括れ部に押圧を加えた隆帯。胴部は縄文。	加ＥⅠ	271	172
Ⅱ	-860	G	2271	—	胴	橙	白粒、小石	隆帯による渦巻文、中心部に縄文。	加ＥⅠ	271	172
Ⅱ	-860	G	2272	—	胴	鈍橙	白粒、小石	破片上部に隆帯の剥離痕。無文帯を挟んで下部は縄文。	加ＥⅠ	271	173
Ⅱ	-860	G	2273	—	胴	赤褐	赤粒、小石	縄文上に隆帯渦巻文。	加ＥⅠ	271	173

遺物番号				器種	部位	色調	胎　土	特　徴・法　量　等	時期	図版	写真
Ⅱ	-840	G	2274	—	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	縄文。蛇行隆帯の左縁を沈線でなぞる。	加ＥⅠ	271	173
Ⅱ	-840	G	2275	—	胴	橙	白粒、輝・角、小石	縄文。横位隆帯上にも縄文。	加ＥⅠ	271	173
Ⅱ	-860	G	2276	—	胴	灰褐	白粒僅	扁平な隆帯渦巻文に交互刺突。胴部は縄文。	加ＥⅠ	271	173
Ⅱ	-860	G	2277	—	胴	浅黄橙	白粒、輝・角僅	横位沈線と縄文を施す隆帯で区画、区画内は縄文。	加ＥⅠ	271	173
Ⅱ	-860	G	2278	—	胴	灰褐	輝・角僅	縄文後、中央に沈線を施す隆帯文を貼付。	加ＥⅠ	271	173
Ⅱ	-860	G	2279	—	胴	鈍橙	小石	上半は隆帯による区画、文様。下半は沈線文と縄文。	加ＥⅠ	271	173
Ⅱ	-860	G	2280	—	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角僅	撚糸文。低い隆帯と沈線の文様。	加ＥⅠ	272	173
Ⅱ	-860	G	2281	—	胴	橙	輝・角、小石	櫛描文後、沈線文。	加ＥⅠ	272	173
Ⅱ	-860	G	2282	—	胴	暗褐・橙	白粒	沈線渦巻文間に刺突列。隆帯が剥離。	加ＥⅠ	272	173
Ⅱ	-860	G	2283	—	胴	橙	白粒、細砂	刻みを入れた隆帯と沈線文。胴部は無文。	加ＥⅠ	272	173
Ⅱ	-860	G	2284	—	胴	鈍黄橙	小石	隆帯の区画、区画内沈線。胴部は無文。	加ＥⅠ	272	173
Ⅱ	-860	G	2285	—	胴	橙	白粒、小石	隆帯渦巻文。	加ＥⅠ	272	173
Ⅱ	-860	G	2286	—	胴	淡橙	輝・角、小石	刻みを入れた隆帯の渦巻文か。	加ＥⅠ	272	173
Ⅱ	-860	G	2287	深鉢	口～胴	暗灰褐	白粒僅、輝・角	４単位と思われる突起が２ヶ所残存。いずれも沈線渦巻文を施す。口縁部は隆帯と沈線による区画と文様、区画内は縄文。胴部は沈線による区画、区画内は縄文。（口径 20.0cm）	加ＥⅡ	272	173
Ⅱ	-860	G	2288	深鉢	口～胴	淡橙	白粒、輝・角	口縁部下部を隆帯と瘤状隆起で区画、区画内は沈線。胴部は撚糸文後、横位沈線。（口径 12.6cm）	加ＥⅡ	272	173
Ⅱ	-810	G	2289	深鉢	口～胴	鈍褐	白粒、小石	４単位の波状口縁、１ヶ所に橋状把手。口縁部は隆帯と沈線による区画と文様、区画内は沈線。頸部は無文。括れ部以下に沈線文と縄文。（口径 20.1cm）	加ＥⅡ	272	173
Ⅱ	-860	G	2290	深鉢	口～胴	橙白	輝・角	口縁部は隆帯と沈線による波形文と渦巻文。区画内と頸部は無文、括れ部に横位隆帯。胴部は２/３周が撚糸文、残り１/３は無文。（口径 13.8cm）	加ＥⅡ	272	173
Ⅱ	-840	G	2291	深鉢	口～胴	暗赤褐	小石	上方も開口する橋状把手には横位沈線と渦巻文。橋の下部と胴部は縄文。括れ部に隆線。	加ＥⅡ	272	173
Ⅱ	-860	G	2292	深鉢	口～胴	鈍黄橙	輝・角僅、小石	口縁部は２条の横位沈線間に刺突列。胴部は沈線Π字状区画と縄文。（口径 19.8cm）	加ＥⅡ	273	173
Ⅱ	-860	G	2293	深鉢	口～胴	淡橙	白粒、輝・角	波頂部で環状の隆帯が波形に垂下。地文は縄文。（口径 16.6cm）	加ＥⅡ	273	173
Ⅱ	-840	G	2294	深鉢	口～胴	灰褐・橙	赤粒、小石	口唇沿いに刺突列。胴部は沈線文と縄文。（口径 24.0cm）	加ＥⅡ	273	174
Ⅱ	-840	G	2295	深鉢	口～胴	橙～暗褐	白粒、細砂	口唇部に刺突と横位沈線。胴部は平行沈線と条線文。（口径 21.5cm）	加ＥⅡ	273	174
Ⅱ	-840	G	2296	深鉢	胴	淡橙	白粒、輝・角	縄文の上に２条１組の横位沈線と波状文。	加ＥⅡ	273	174
Ⅱ	-810	G	2297	深鉢	胴	赤褐	小石	沈線、縄文。	加ＥⅡ	273	174
Ⅱ	-840	G	2298	深鉢	胴	赤褐	白粒、小石	横位沈線、撚糸文。	加ＥⅡ	273	174
Ⅱ	-810	G	2299	深鉢	胴	淡橙	白粒、輝・角	押圧痕を施す隆帯の間に縦縞状の浅太沈線。	加ＥⅡ	274	174
Ⅱ	-860	G	2300	浅鉢	口～胴	褐	白粒、輝・角、小石	無文。口唇部に稜あり。（口径 36.0cm）	加ＥⅡ	274	174
Ⅱ	-860	G	2301	浅鉢	口	橙	小石	口唇部が内側に肥厚し稜を持つ。胴部には隆帯文がフック状に残る。	加ＥⅡ	274	174
Ⅱ	-810	G	2302	—	口～胴	明赤褐	赤粒、輝・角、小石	口縁部は隆帯で区画、内側に稜あり。胴部は重複する撚糸文。	加ＥⅡ	274	174
Ⅱ	-860	G	2303	—	口～胴	褐	白粒、輝・角	口縁部は隆帯と沈線による区画と渦巻文、区画内は縄文。胴部は沈線、磨消縄文。	加ＥⅡ	274	174
Ⅱ	-860	G	2304	—	口～胴	暗褐	赤粒、輝・角、小石	口縁部は隆帯と沈線による区画と渦巻文、区画内は縄文。胴部は沈線文、縄文。	加ＥⅡ	274	174
Ⅱ	-810	G	2305	—	口～胴	橙	白粒、赤粒、小石	口縁部は隆帯と沈線による区画と渦巻文、区画内は沈線と撚糸文。胴部は横位その他の沈線文。	加ＥⅡ	274	175
Ⅱ	-840	G	2306	—	口～胴	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	口縁部は隆帯と沈線による区画、区画内は沈線。橋状把手の痕跡あり。胴部は条線文。	加ＥⅡ	274	175
Ⅱ	-860	G	2307	—	口～胴	暗灰褐	白粒、輝・角	沈線による区画、区画内縄文。	加ＥⅡ	275	175
Ⅱ	-860	G	2308	—	口～胴	暗褐	白粒	括れ部に４条の沈線。胴部は縄文。	加ＥⅡ	274	175
Ⅱ	-860	G	2309	—	口～胴	灰白	白粒、輝・角	口縁部は無文。括れ部に交互刺突文と沈線。胴部は縄文と半円状貼付文、沈線文。	加ＥⅡ	275	175
Ⅱ	-810	G	2310	—	口～胴	暗褐	輝・角、小石僅	口縁部は無文。括れ部に横位沈線。胴部は３条１組沈線の懸垂文と条線文。	加ＥⅡ	275	175
Ⅱ	-860	G	2311	—	口	暗灰褐	白粒、小石	波状口縁で口唇部に粘土を貼り付け、上面に沈線。胴部は沈線、縄文。	加ＥⅡ	275	175
Ⅱ	-860	G	2312	—	口	赤褐	赤粒、小石	隆帯による渦巻文。	加ＥⅡ	275	175
Ⅱ	-860	G	2313	—	口	浅黄橙	輝・角僅、小石	隆帯による区画の右側は沈線円の周りに刺突列。左側は沈線文。	加ＥⅡ	275	175
Ⅱ	-860	G	2314	—	口	淡橙	白粒、小石	蜷局状に盛り上がる渦巻文。	加ＥⅡ	275	175
Ⅱ	-860	G	2315	—	口	鈍赤褐	小石	隆帯の∩字状文。内面ミガキ。	加ＥⅡ	275	175
Ⅱ	-810	G	2316	—	口	鈍橙	白粒、小石	口縁部は無文。括れ部に沈線。	加ＥⅡ	275	175
Ⅱ	-860	G	2317	—	口	鈍橙	小石	口縁部から大きく張り出した隆帯の上面に沈線文。頸部無文帯の下に横位沈線、縄文。	加ＥⅡ	275	175
Ⅱ	-860	G	2318	—	口	淡橙	輝・角僅、小石	隆帯と沈線による区画と渦巻文。頸部は無文。	加ＥⅡ	275	175
Ⅱ	-840	G	2319	—	口	鈍赤褐	白粒、小石	口縁部隆帯区画、区画内縄文。胴部縄文、蛇行沈線。	加ＥⅡ	275	175

遺物番号				器種	部位	色調	胎　土	特　徴・法　量　等	時期	図版	写真
Ⅱ	-860	G	2320	－	口	鈍褐	白粒、輝・角、小石	隆帯と沈線による区画、区画内と胴部は縄文。	加ＥⅡ	275	175
Ⅱ	-860	G	2321	－	口	赤褐	白粒、小石	隆帯による区画と渦巻文、区画内と胴部は縄文。	加ＥⅡ	275	175
Ⅱ	-840	G	2322	－	口	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	隆帯区画、区画内縄文。区画境に沈線渦巻文。胴部縄文。	加ＥⅡ	275	175
Ⅱ	-860	G	2323	－	口	赤橙	赤粒、小石	隆帯による区画、区画内は縄文。胴部は縦位条線文。	加ＥⅡ	275	175
Ⅱ	-860	G	2324	－	口	鈍褐	白粒、輝・角	隆帯による区画と文様、区画内は縄文。	加ＥⅡ	275	175
Ⅱ	-860	G	2325	－	口	赤褐	白粒、小石	隆帯と沈線による区画と文様、区画内は縄文。	加ＥⅡ	276	175
Ⅱ	-860	G	2326	－	口	橙	小石	隆帯と沈線による区画、区画内は縄文。	加ＥⅡ	276	175
Ⅱ	-860	G	2327	－	口	灰黄褐	小石多	隆帯による区画と渦巻文、区画内は縄文。	加ＥⅡ	276	175
Ⅱ	-860	G	2328	－	口	暗赤褐	白粒、小石	隆帯と沈線による区画と文様、区画内縄文。	加ＥⅡ	276	175
Ⅱ	-860	G	2329	－	口	橙	小石	隆帯と沈線による区画と渦巻文、区画内沈線。胴部は撚糸文か。	加ＥⅡ	276	175
Ⅱ	-860	G	2330	－	口	鈍黄橙	白粒、赤粒、小石	口縁部は隆帯による区画と渦巻文、区画内は短沈線。短い頸部無文帯があり、胴部は沈線鋸歯状文。	加ＥⅡ	276	175
Ⅱ	-860	G	2331	－	口	浅黄橙	白粒僅、小石	隆帯と沈線による区画、区画間に沈線、区画内と胴部および括れ部上位は無文。	加ＥⅡ	276	175
Ⅱ	-860	G	2332	－	口	鈍橙	輝・角僅	隆帯による区画、区画内外に沈線。下段の隆帯には刻み。	加ＥⅡ	276	175
Ⅱ	-860	G	2333	－	口	黒褐	白粒、金雲母僅	突起部が欠落。口縁部は無文部を挟んで隆帯と沈線による区画、区画内沈線。	加ＥⅡ	276	175
Ⅱ	-840	G	2334	－	口	鈍橙	白粒、輝・角、小石	突起部に渦巻文。口縁部に隆帯区画、区画内沈線。口唇部上面に沈線。	加ＥⅡ	276	175
Ⅱ	-840	G	2335	－	口	暗褐	白粒、輝・角、小石	隆帯と沈線による区画、区画内は沈線。	加ＥⅡ	276	176
Ⅱ	-810	G	2336	－	口	鈍赤褐	輝・角	小突起あり。口縁部隆帯区画、区画内沈線文。	加ＥⅡ	276	176
Ⅱ	-840	G	2337	－	口	鈍褐	小石多	隆帯と沈線による区画と渦巻文、区画内は沈線。頸部は無文。	加ＥⅡ	276	176
Ⅱ	-810	G	2338	－	口	鈍褐	小石	口縁部に２条の隆帯で波打つ区画、区画内短沈線。頸部無文帯の下は縄文、括れ部に２条の横位沈線。	加ＥⅡ	276	176
Ⅱ	-860	G	2339	－	口	極暗赤褐	白粒、小石	口唇上面に沈線。口縁部は隆帯と沈線の区画と渦巻文、区画内と胴部は条線文。	加ＥⅡ	276	176
Ⅱ	-860	G	2340	－	口	赤橙	赤粒、小石	隆帯による区画、区画内は条線文。	加ＥⅡ	276	176
Ⅱ	-860	G	2341	－	口	鈍褐	白粒、小石	隆帯と沈線による区画、区画内はランダムな条線。	加ＥⅡ	276	176
Ⅱ	-840	G	2342	－	口	鈍褐	白粒、小石	口縁部の隆帯区画に刺突、区画内は条線。	加ＥⅡ	276	176
Ⅱ	-810	G	2343	－	口	暗灰褐	白粒、小石	隆帯と沈線による区画、区画内条線。	加ＥⅡ	276	176
Ⅱ	-860	G	2344	－	口	赤褐	白粒、赤粒、小石	口縁部は低い隆帯で区画、区画内は条線文。頸部は無文。	加ＥⅡ	276	176
Ⅱ	-860	G	2345	－	口	暗灰褐	白粒、輝・角	隆帯による区画、区画内は円形刺突列。胴部は沈線、縄文。	加ＥⅡ	277	176
Ⅱ	-810	G	2346	－	口	淡橙	白粒	隆帯と沈線による区画、区画内は竹管の斜位刺突。	加ＥⅡ	277	176
Ⅱ	-860	G	2347	－	口	暗灰褐	白粒、輝・角僅	隆帯による区画、区画内は無文。	加ＥⅡ	277	176
Ⅱ	-860	G	2348	－	口	鈍黄褐	白粒、細砂	欠落する波頂部の下に沈線渦巻文。胴部は沈線文と縄文。	加ＥⅡ	277	176
Ⅱ	-860	G	2349	－	口	黒灰	白粒、輝・角、小石	１本書きの浅い沈線による縦縞文様。	加ＥⅡ	277	176
Ⅱ	-860	G	2350	－	口	浅黄橙	白粒、小石	斜位の１本書き沈線の集合文様。	加ＥⅡ	277	176
Ⅱ	-860	G	2351	－	口	赤橙	赤粒、小石	斜位の１本書き沈線の集合文様。	加ＥⅡ	277	176
Ⅱ	-860	G	2352	－	口	鈍褐	白粒、輝・角	口唇部付近は横位沈線で区画、区画内外を同心円状の沈線文。	加ＥⅡ	277	176
Ⅱ	-860	G	2353	－	口	鈍褐	輝・角僅、小石	縦横の沈線と縄文。	加ＥⅡ	277	176
Ⅱ	-860	G	2354	－	口	黒・褐	白粒、小石	算盤玉状に屈曲する上半に縄文と沈線懸垂文。	加ＥⅡ	277	176
Ⅱ	-860	G	2355	－	口	暗褐	小石	沈線文、縄文。	加ＥⅡ	277	176
Ⅱ	-860	G	2356	－	口	暗赤褐	小石	沈線文、撚糸文。内面ミガキ。	加ＥⅡ	277	176
Ⅱ	-860	G	2357	－	口	暗褐	白粒、輝・角	口唇部付近に沈線と２段の刺突。その下は沈線区画と渦巻文、区画内撚糸文。	加ＥⅡ	277	176
Ⅱ	-860	G	2358	－	口	暗灰褐	白粒、金雲母僅	口唇部と括れ部に横位沈線。小波状口縁の頂部から縦位沈線。一部に条線文。	加ＥⅡ	277	176
Ⅱ	-860	G	2359	－	口	暗赤褐	小石	口縁部は沈線間に刺突列。胴部は横位沈線と縄文。	加ＥⅡ	277	176
Ⅱ	-840	G	2360	－	口	橙	小石	口縁部２条の沈線間に竹管刺突列。胴部縄文。	加ＥⅡ	277	176
Ⅱ	-860	G	2361	－	口	橙	赤粒、輝・角	沈線文。口唇部上面にも沈線。	加ＥⅡ	277	176
Ⅱ	-860	G	2362	－	口	暗赤褐	赤粒、小石	口縁部は低い隆帯と太沈線。破片下端の胴部に縦横の沈線。	加ＥⅡ	277	176
Ⅱ	-860	G	2363	－	口	鈍橙	白粒、小石	隆帯と太沈線による区画、区画内と胴部は縄文。	加ＥⅡ	277	176
Ⅱ	-860	G	2364	－	口	淡橙	輝・角、小石僅	隆帯と太沈線による区画と渦巻文、区画内は縄文。	加ＥⅡ	277	176
Ⅱ	-860	G	2365	－	口	橙	輝・角、小石	隆帯と太沈線による区画、区画内は沈線。頸部は無文。	加ＥⅡ	278	176
Ⅱ	-860	G	2366	－	口	鈍褐	白粒、輝・角僅	隆帯と太沈線による区画、区画内は沈線。頸部は無文。	加ＥⅡ	278	176
Ⅱ	-860	G	2367	－	口	赤褐	白粒、小石	口縁部に瘤状隆起。胴部は撚糸文後、隆帯で文様構成。	加ＥⅡ	278	176
Ⅱ	-860	G	2368	－	口	鈍黄橙	赤粒、輝・角	弧状の沈線文。	加ＥⅡ	278	176
Ⅱ	-860	G	2369	－	口	明赤褐	白粒、小石	口唇部から縄文。２条１組の沈線文。	加ＥⅡ	278	176
Ⅱ	-860	G	2370	－	口	灰白	白粒、輝・角僅	縄文後、沈線文。	加ＥⅡ	278	177
Ⅱ	-810	G	2371	－	口	赤褐	輝・角、小石	口縁部に若干縄文。括れ部に沈線。胴部は縄文か。	加ＥⅡ	278	177
Ⅱ	-860	G	2372	－	口	黄白	白粒、輝・角、石英	口唇部に横位沈線、微かな括れ部まで無文。それより下は縄文。	加ＥⅡ	278	177
Ⅱ	-840	G	2373	－	口	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	円形刺突列。胴部は弱い沈線。	加ＥⅡ	278	177
Ⅱ	-860	G	2374	－	口	鈍赤褐	白粒、輝・角僅	波状口縁。口縁部に２段の円形刺突列。胴部は条線文。	加ＥⅡ	278	177
Ⅱ	-860	G	2375	－	口	黒褐	白粒、赤粒	口唇沿いに２段の円形刺突列。胴部は沈線、縄文。	加ＥⅡ	278	177
Ⅱ	-860	G	2376	－	口	浅黄橙	白粒僅	波状口縁。口唇部に３条の横位沈線。胴部は縄文。	加ＥⅡ	278	177
Ⅱ	-860	G	2377	－	口	灰褐	輝・角	口縁沿いに２段の刺突列。撚糸文上に横位沈線。	加ＥⅡ	278	177
Ⅱ	-860	G	2378	－	口	鈍褐	白粒、輝・角、小石	横位沈線を施す括れ部まで口縁部は無文。胴部は沈線懸垂文、縄文。	加ＥⅡ	278	177

遺物番号				器種	部位	色調	胎　土	特　徴・法　量　等	時期	図版	写真
Ⅱ	-810	G	2379	—	口	鈍黄橙	輝・角僅	口唇部稜あり。胴部に撚糸文。	加ＥⅡ	278	177
Ⅱ	-810	G	2380	—	口	鈍黄橙	輝・角僅	口唇部稜あり。胴部に撚糸文。括れ部に横位沈線。	加ＥⅡ	278	177
Ⅱ	-860	G	2381	—	口	鈍黄橙	小石	口唇部が内側に突出。口縁部は無文。括れ部に沈線。	加ＥⅡ	278	177
Ⅱ	-860	G	2382	—	口	橙	白粒、輝・角	無文。	加ＥⅡ	278	177
Ⅱ	-860	G	2383	—	口	鈍褐	輝・角	無文。	加ＥⅡ	278	177
Ⅱ	-860	G	2384	—	口	浅黄橙	白粒、輝・角	無文。断面円形で先細り。	加ＥⅡ	278	177
Ⅱ	-810	G	2385	—	口	橙・黒	白粒、輝・角、小石	口唇部角ばり肥厚。煤が付着。	加ＥⅡ	279	177
Ⅱ	-860	G	2386	—	口	極暗赤褐	白粒、小石	口唇部に横位粘土貼付。胴部は縦位櫛描文。	加ＥⅡ	278	177
Ⅱ	-860	G	2387	—	口・突起	灰白	輝・角	口唇部にアーチ状の突起。突起から胴部にかけて沈線文、縄文。	加ＥⅡ	279	177
Ⅱ	-860	G	2388	—	口付近	暗灰褐	輝・角僅、小石	隆帯による区画と文様、区画内は縄文。	加ＥⅡ	279	177
Ⅱ	-860	G	2389	—	口付近	浅黄橙	白粒、赤粒、小石	沈線による区画、区画内撚糸文。	加ＥⅡ	279	177
Ⅱ	-860	G	2390	—	口付近	浅黄橙	白粒、小石	隆帯による区画の内側に沈線。	加ＥⅡ	279	177
Ⅱ	-860	G	2391	—	括れ部	鈍橙	金雲母僅	口縁部は無文。括れ部に沈線。	加ＥⅡ	279	177
Ⅱ	-860	G	2392	—	突起	暗赤褐	白粒、輝・角、小石	全面、上面が欠落するが、前後、上、右に開口する突起。沈線による区画と文様、区画内は縄文。	加ＥⅡ	279	177
Ⅱ	-860	G	2393	—	突起	鈍橙	輝・角僅、小石	口唇沿いに沈線。突起は縦方向にせり出し、側面に沈線渦巻文。口縁部は沈線による区画、区画内は撚糸文。胴部は隆帯と沈線。	加ＥⅡ	279	177
Ⅱ	-860	G	2394	—	突起	橙	小石	盛り上がりながら渦を巻く。	加ＥⅡ	279	177
Ⅱ	-860	G	2395	—	突起	淡橙	小石僅	両側面と上面に沈線渦巻文。	加ＥⅡ	279	177
Ⅱ	-840	G	2396	—	突起	鈍褐	白粒、小石	刻みを持つ隆帯区画、沈線文。	加ＥⅡ	279	177
Ⅱ	-840	G	2397	—	突起	明赤褐	白粒、輝・角、小石	三又の環状突起か。口縁部は隆帯と沈線による渦巻文等。頸部は縄文。	加ＥⅡ	279	177
Ⅱ	-810	G	2398	—	突起	暗赤褐	白粒、輝・角、雲母	大きく反らせた口唇部の平坦面に沈線３条、縁に刻み。波頂部はとぐろ状に巻き上げる。胴部は縄文。	加ＥⅡ	280	177
Ⅱ	-860	G	2399	—	胴	橙	白粒、赤粒	３条の横位隆帯。上は無文、下は縄文。	加ＥⅡ	279	177
Ⅱ	-860	G	2400	—	胴	鈍赤褐	白粒、小石	沈線、磨消縄文。	加ＥⅡ	279	177
Ⅱ	-860	G	2401	—	胴	鈍橙	輝・角、小石	沈線、磨消縄文。	加ＥⅡ	279	177
Ⅱ	-860	G	2402	—	胴	灰白	輝・角僅、状	沈線、磨消縄文。	加ＥⅡ	279	177
Ⅱ	-840	G	2403	—	胴	淡橙	白粒	縦横の沈線、磨消縄文。	加ＥⅡ	280	177
Ⅱ	-810	G	2404	—	胴	赤橙	小石	縦横と弧状の沈線、磨消縄文。2436 と同一個体。	加ＥⅡ	280	178
Ⅱ	-860	G	2405	—	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	縄文後、沈線文。	加ＥⅡ	280	178
Ⅱ	-860	G	2406	—	胴	暗灰褐	白粒、細砂	縦横の沈線で区画、区画内は縄文。	加ＥⅡ	280	178
Ⅱ	-860	G	2407	—	胴	暗褐	白粒、輝・角	沈線、縄文。	加ＥⅡ	280	178
Ⅱ	-860	G	2408	—	胴	暗褐	白粒、輝・角	沈線、縄文。	加ＥⅡ	280	178
Ⅱ	-860	G	2409	—	胴	赤橙	白粒、輝・角	交互刺突文の上は沈線文と縄文、下は縄文。	加ＥⅡ	280	178
Ⅱ	-860	G	2410	—	胴	鈍黄橙	輝・角、小石	縄文後、沈線。	加ＥⅡ	280	178
Ⅱ	-860	G	2411	—	胴	赤橙	小石	縄文後、沈線。	加ＥⅡ	280	178
Ⅱ	-860	G	2412	—	胴	暗褐	小石	条線文後、沈線文。	加ＥⅡ	280	178
Ⅱ	-860	G	2413	—	胴	極暗赤褐	輝・角、小石	縄文後、沈線鋸歯状文。	加ＥⅡ	280	178
Ⅱ	-860	G	2414	—	胴	暗褐灰	白粒、輝・角	沈線文、縄文。	加ＥⅡ	280	178
Ⅱ	-860	G	2415	—	胴	灰褐	白粒僅	縄文後、沈線文。	加ＥⅡ	280	178
Ⅱ	-860	G	2416	—	胴	灰褐	輝・角僅、小石	縄文後、沈線文。	加ＥⅡ	280	178
Ⅱ	-860	G	2417	—	胴	暗灰	白粒、輝・角僅	縄文後、縦横の沈線文。	加ＥⅡ	280	178
Ⅱ	-860	G	2418	—	胴	暗赤褐	白粒、小石多	頸部無文帯の下、括れ部に横位沈線３条。胴部は縦位沈線３条と縄文。	加ＥⅡ	280	178
Ⅱ	-860	G	2419	—	胴	灰褐	輝・角多、小石	縄文後、沈線文。	加ＥⅡ	280	178
Ⅱ	-860	G	2420	—	胴	灰褐	白粒、輝・角	縄文後、縦横の沈線。	加ＥⅡ	280	178
Ⅱ	-860	G	2421	—	胴	灰白	白粒、輝・角僅	縦横の沈線文と縄文。	加ＥⅡ	280	178
Ⅱ	-860	G	2422	—	胴	鈍褐	白粒、小石	縄文後、２条１組の沈線。	加ＥⅡ	280	178
Ⅱ	-860	G	2423	—	胴	灰褐	小石	縄文後、２条１組の沈線。	加ＥⅡ	281	178
Ⅱ	-860	G	2424	—	胴	暗赤褐	小石僅	縄文後、２条１組沈線で渦巻文等。	加ＥⅡ	281	178
Ⅱ	-860	G	2425	—	胴	鈍褐	白粒、輝・角	縦横の沈線、縄文。	加ＥⅡ	281	178
Ⅱ	-860	G	2426	—	胴	黒褐	小石	沈線文、縄文。	加ＥⅡ	281	178
Ⅱ	-860	G	2427	—	胴	暗褐	白粒、輝・角	沈線文、縄文。	加ＥⅡ	281	178
Ⅱ	-860	G	2428	—	胴	灰褐	白粒、小石	沈線文、縄文。	加ＥⅡ	281	178
Ⅱ	-840	G	2429	—	胴	鈍褐	小石	沈線文、縄文。	加ＥⅡ	281	178
Ⅱ	-840	G	2430	—	胴	暗赤褐	赤粒、小石、細砂	沈線文、縄文。	加ＥⅡ	281	178
Ⅱ	-840	G	2431	—	胴	鈍黄橙	白粒、小石	沈線文、縄文。	加ＥⅡ	281	178
Ⅱ	-840	G	2432	—	胴	暗褐灰	白粒僅	括れ部無文帯の上下に沈線文と縄文。	加ＥⅡ	281	178
Ⅱ	-810	G	2433	—	胴	鈍橙	白粒、赤粒、小石	沈線、縄文。	加ＥⅡ	281	178
Ⅱ	-810	G	2434	—	胴	鈍赤褐	白粒、輝・角、小石	縦横の沈線、縄文。	加ＥⅡ	281	178
Ⅱ	-810	G	2435	—	胴	黒褐	白粒、輝・角	沈線文、縄文。	加ＥⅡ	281	178
Ⅱ	-810	G	2436	—	胴	赤橙	小石	沈線、磨消縄文。2404 と同一個体。	加ＥⅡ	281	178
Ⅱ	-860	G	2437	—	胴	橙	白粒僅	横位太沈線、やや斜位の沈線と縄文。	加ＥⅡ	281	178
Ⅱ	-860	G	2438	—	胴	暗灰	白粒、小石	隆帯による区画と渦巻文、区画内と胴部に縄文。	加ＥⅡ	281	178
Ⅱ	-860	G	2439	—	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	縄文後に貼付した隆帯が剥離。	加ＥⅡ	281	178

遺物番号				器種	部位	色調	胎　土	特　徴・法　量　等	時期	図版	写真
Ⅱ	-860	G	2440	—	胴	暗灰	白粒、輝・角、小石	縄文後、貼付した隆帯が剥離。	加ＥⅡ	281	179
Ⅱ	-860	G	2441	—	胴	黒褐	白粒、輝・角	２条の横位隆帯後に縄文。破片右上に隆帯と沈線による区画の痕跡あり。	加ＥⅡ	282	179
Ⅱ	-860	G	2442	—	胴	暗灰褐	白粒僅	縄文後、隆帯貼付。	加ＥⅡ	282	179
Ⅱ	-860	G	2443	—	胴	極暗赤褐	輝・角	隆帯による区画、区画内は縄文。頸部は無文。	加ＥⅡ	282	179
Ⅱ	-860	G	2444	—	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	縄文、隆帯。	加ＥⅡ	282	179
Ⅱ	-860	G	2445	—	胴	赤褐	白粒、小石	縄文後、２条１組の隆帯。	加ＥⅡ	282	179
Ⅱ	-860	G	2446	—	胴	橙	小石	隆帯、縄文。	加ＥⅡ	282	179
Ⅱ	-860	G	2447	—	胴	鈍橙・黒	白粒、輝・角	縄文後に沈線とやや粗雑な横位隆帯の蕨手文。	加ＥⅡ	282	179
Ⅱ	-860	G	2448	—	胴	鈍褐	白粒、金雲母僅、小石	隆帯と沈線による区画、区画内は沈線。胴部は縄文後、原体の側面押圧痕。	加ＥⅡ	282	179
Ⅱ	-860	G	2449	—	胴	鈍褐	輝・角僅、小石	隆帯と沈線による区画、区画内は縄文。	加ＥⅡ	282	179
Ⅱ	-860	G	2450	—	胴	灰褐	輝・角、小石	押引文の隆帯と沈線による区画、区画の内外は縄文。	加ＥⅡ	282	179
Ⅱ	-860	G	2451	—	胴	鈍赤褐	小石	縄文後、２条１組の隆帯、その外側に沈線。	加ＥⅡ	282	179
Ⅱ	-860	G	2452	—	胴	暗褐	輝・角僅、小石	隆帯と沈線による区画、区画内は縄文。胴部は縄文後、沈線文。	加ＥⅡ	282	179
Ⅱ	-860	G	2453	—	胴	赤褐	小石	隆帯と沈線による区画、区画内と隆帯上に縄文。	加ＥⅡ	282	179
Ⅱ	-860	G	2454	—	胴	橙	赤粒、小石	隆帯と沈線による横位区画と縄文。	加ＥⅡ	282	179
Ⅱ	-860	G	2455	—	胴	鈍褐	白粒、輝・角	隆帯と沈線による区画、区画内と胴部は縄文。	加ＥⅡ	282	179
Ⅱ	-840	G	2456	—	胴	鈍褐	白粒、小石	括れ部上位は隆帯と沈線による区画と文様、区画内と括れ部下位は縄文。	加ＥⅡ	282	179
Ⅱ	-860	G	2457	—	胴	暗褐	白粒、輝・角	縄文後、原体側面で施文か。	加ＥⅡ	282	179
Ⅱ	-860	G	2458	—	胴	橙	白粒、輝・角	縄文。	加ＥⅡ	282	179
Ⅱ	-860	G	2459	—	胴	淡橙	輝・角、小石	縄文原体の側面圧痕。	加ＥⅡ	282	179
Ⅱ	-860	G	2460	—	胴	赤橙	輝・角僅、小石	縄文原体の側面圧痕後、隆線文。	加ＥⅡ	282	179
Ⅱ	-840	G	2461	—	胴	黄白	小石	縄文原体の不規則な押圧痕。	加ＥⅡ	282	179
Ⅱ	-810	G	2462	—	胴	淡橙	白粒、輝・角、小石	縄文。	加ＥⅡ	282	179
Ⅱ	-860	G	2463	—	胴	鈍褐	赤粒、小石	沈線文、撚糸文。	加ＥⅡ	283	179
Ⅱ	-860	G	2464	—	胴	極暗赤褐	白粒	撚糸文後、沈線文。	加ＥⅡ	283	179
Ⅱ	-860	G	2465	—	胴	淡橙	輝・角	撚糸文、沈線。	加ＥⅡ	283	179
Ⅱ	-860	G	2466	—	胴	橙	白粒、小石	撚糸文後、沈線文。	加ＥⅡ	283	179
Ⅱ	-860	G	2467	—	胴	浅黄橙	白粒、輝・角僅	小さな瘤状突起の両側と下に沈線。胴部は撚糸文。	加ＥⅡ	283	179
Ⅱ	-860	G	2468	—	胴	暗赤褐	輝・角	撚糸文、沈線文。内面ミガキ。	加ＥⅡ	283	179
Ⅱ	-860	G	2469	—	胴	鈍黄橙	輝・角、小石	撚糸文と沈線文。破片下半は無文。	加ＥⅡ	283	179
Ⅱ	-860	G	2470	—	胴	橙	白粒、輝・角、小石	撚糸文後、沈線。	加ＥⅡ	283	179
Ⅱ	-860	G	2471	—	胴	暗赤褐	小石	撚糸文後、沈線。	加ＥⅡ	283	179
Ⅱ	-860	G	2472	—	胴	鈍橙	輝・角、小石	沈線文、撚糸文。	加ＥⅡ	283	179
Ⅱ	-860	G	2473	—	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	沈線文、撚糸文。	加ＥⅡ	283	179
Ⅱ	-860	G	2474	—	胴	浅黄橙	小石	沈線文、撚糸文。	加ＥⅡ	283	179
Ⅱ	-860	G	2475	—	胴	浅黄橙	白粒、小石	沈線、磨消撚糸文。	加ＥⅡ	283	179
Ⅱ	-860	G	2476	—	胴	鈍橙	白粒、小石	２条１組の隆線による区画、区画内は沈線。	加ＥⅡ	283	180
Ⅱ	-860	G	2477	—	胴	鈍赤褐	輝・角僅、小石	隆帯による区画、区画内は撚糸文。頸部は無文。	加ＥⅡ	283	180
Ⅱ	-860	G	2478	—	胴	暗赤褐	小石	隆帯と太沈線による区画と渦巻文、胴部は撚糸文。	加ＥⅡ	283	180
Ⅱ	-860	G	2479	—	胴	暗赤褐	輝・角、小石	隆帯による区画、区画内は沈線。胴部は撚糸文。	加ＥⅡ	283	180
Ⅱ	-860	G	2480	—	胴	淡橙	白粒、輝・角僅	括れ部に隆帯。その上位は撚糸文。下位は条線文。	加ＥⅡ	283	180
Ⅱ	-860	G	2481	—	胴	褐	小石	撚糸文？を施す隆帯が垂下。括れ部を境に、上半は無文、下半は撚糸文。	加ＥⅡ	283	180
Ⅱ	-860	G	2482	—	胴	橙	白粒、輝・角、小石	撚糸文。	加ＥⅡ	283	180
Ⅱ	-860	G	2483	—	胴	鈍橙	輝・角、小石	撚糸文。	加ＥⅡ	283	180
Ⅱ	-860	G	2484	—	胴	暗赤褐	白粒、細砂	撚糸文。	加ＥⅡ	283	180
Ⅱ	-860	G	2485	—	胴	暗赤褐	小石	撚糸文。	加ＥⅡ	284	180
Ⅱ	-860	G	2486	—	胴	橙	輝・角、小石	撚糸文。	加ＥⅡ	284	180
Ⅱ	-860	G	2487	—	胴	淡橙	輝・角僅、小石	撚糸文。	加ＥⅡ	284	180
Ⅱ	-860	G	2488	—	胴	黒	白粒、輝・角	縦横の沈線と櫛描文。	加ＥⅡ	284	180
Ⅱ	-860	G	2489	—	胴	鈍橙	輝・角	刻み入り隆帯による区画、区画内は沈線。胴部は条線文。	加ＥⅡ	284	180
Ⅱ	-860	G	2490	—	胴	鈍褐	白粒、小石	括れ部に横位沈線。胴部は条線文。	加ＥⅡ	284	180
Ⅱ	-860	G	2491	—	胴	鈍橙	白粒、小石	条線文。	加ＥⅡ	284	180
Ⅱ	-860	G	2492	—	胴	淡橙	輝・角僅、小石	横位沈線間に刺突列。以下は沈線文と縄文。	加ＥⅡ	284	180
Ⅱ	-860	G	2493	—	胴	灰褐	白粒僅	沈線文と刺突列。破片上端に僅かに縄文。	加ＥⅡ	284	180
Ⅱ	-860	G	2494	—	胴	淡橙	輝・角僅	横位沈線。	加ＥⅡ	284	180
Ⅱ	-860	G	2495	—	胴	鈍橙	白粒、輝・角	円形の凹みと沈線文。一部に赤色塗彩の形跡あり。	加ＥⅡ	284	180
Ⅱ	-860	G	2496	—	胴	明赤褐	白粒、輝・角	括れ部より上は無文。下は沈線区画、区画内も沈線。	加ＥⅡ	284	180
Ⅱ	-860	G	2497	—	胴	赤褐、黒	赤粒、小石	沈線渦巻文。	加ＥⅡ	284	180
Ⅱ	-860	G	2498	—	胴	暗灰褐	白粒、輝・角	４条の横位沈線。	加ＥⅡ	284	180
Ⅱ	-860	G	2499	—	胴	淡橙	輝・角	縦位、横位の沈線と蕨手状文。	加ＥⅡ	284	180
Ⅱ	-860	G	2500	—	胴	鈍黄橙	白粒、小石	沈線による区画と渦巻文。	加ＥⅡ	284	180
Ⅱ	-860	G	2501	—	胴	淡橙	白粒僅	刻みを入れた隆帯の周りに多重の沈線。	加ＥⅡ	284	180
Ⅱ	-860	G	2502	—	胴	黒灰	輝・角、小石	沈線を施す隆帯。	加ＥⅡ	284	180
Ⅱ	-860	G	2503	—	胴	鈍赤褐	輝・角、小石多	横位隆帯、沈線文。	加ＥⅡ	284	180
Ⅱ	-860	G	2504	—	胴	鈍黄津	白粒	隆帯の区画、区画内は沈線。	加ＥⅡ	284	180
Ⅱ	-840	G	2505	—	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	刻み入り隆帯の区画、区画内沈線文。	加ＥⅡ	284	180

遺物番号				器種	部位	色調	胎　土	特　徴・法　量　等	時期	図版	写真
Ⅱ	-810	G	2506	—	胴	灰黄	白粒、輝・角	縦縞の沈線に交互押圧痕を入れた隆帯。	加Ｅ Ⅱ	284	180
Ⅱ	-860	G	2507	—	胴	暗赤褐	白粒	隆帯の渦巻文。	加Ｅ Ⅱ	284	180
Ⅱ	-860	G	2508	—	胴	赤褐	赤粒僅	隆帯による区画、区画内と頸部は無文。内面ミガキ。	加Ｅ Ⅱ	284	180
Ⅱ	-840	G	2509	—	胴	暗赤褐	輝・角、小石	隆帯の懸垂文か。	加Ｅ Ⅱ	284	180
Ⅱ	-840	G	2510	—	胴	橙	白粒、細砂	隆帯の区画、区画内は無文。	加Ｅ Ⅱ	284	180
Ⅱ	-860	G	2511	—	胴	鈍橙	小石	半截竹管の刺突列。内面にミガキ。	加Ｅ Ⅱ	284	180
Ⅱ	-860	G	2512	—	胴～底	鈍橙	白粒、小石	２条１組の隆帯と沈線が交互に垂下。間には縄文。底部は、端部がやや角張る平底。（底径 10.6cm）	加Ｅ Ⅱ	285	180
Ⅱ	-810	G	2513	—	胴～底	褐灰	白粒、輝・角僅	撚糸文。僅かに上げ底。（底径 9.0cm）	加Ｅ Ⅱ	285	180
Ⅱ	-860	G	2514	深鉢	胴～底	橙白	輝・角、小石	交互刺突による蛇行隆線、間の空白を１本書き沈線で充填。4 土 -2、2515、2516 と同一個体。（底径 11.0cm）	加Ｅ Ⅱ	285	181
Ⅱ	-860	G	2515	—	胴～底	橙白	輝・角、小石	交互刺突による蛇行隆線、間の空白を１本書き沈線で充填。4 土 -2、2514、2516 と同一個体。	加Ｅ Ⅱ	285	181
Ⅱ	-860	G	2516	—	胴～底	橙白	輝・角、小石	交互刺突による蛇行隆線、間の空白を１本書き沈線で充填。4 土 -2、2514、2515 と同一個体。	加Ｅ Ⅱ	285	181
Ⅱ	-860	G	2517	—	底	淡橙	赤粒、輝・角	縄文後、沈線。端部が角張る平底。（底径 8.8cm）	加Ｅ Ⅱ	285	181
Ⅱ	-860	G	2518	—	底	鈍黄橙	白粒、輝・角	縄文。平底。	加Ｅ Ⅱ	285	181
Ⅱ	-860	G	2519	—	底	鈍黄橙	白粒、輝・角僅	縄文側面圧痕。	加Ｅ Ⅱ	285	181
Ⅱ	-810	G	2520	—	底	鈍橙	白粒、小石	胴部は沈線、縄文。平底。	加Ｅ Ⅱ	285	181
Ⅱ	-860	G	2521	—	底	鈍黄橙	白粒、輝・角	縄文後、隆帯。端部が若干張る平底。（底径 7.4cm）	加Ｅ Ⅱ	285	181
Ⅱ	-860	G	2522	—	底	橙	輝・角僅、小石	胴部には縄文。端部が若干張る平底。（底径 10.6cm）	加Ｅ Ⅱ	285	181
Ⅱ	-860	G	2523	—	底	橙	白粒僅	撚糸文。平底。	加Ｅ Ⅱ	285	181
Ⅱ	-860	G	2524	—	底	橙	赤粒、輝・角僅、小石	細い撚糸文。平底。（底径 6.8cm）	加Ｅ Ⅱ	285	181
Ⅱ	-860	G	2525	—	底	淡橙	白粒僅	撚糸文。平底。（底径 8.0cm）	加Ｅ Ⅱ	285	181
Ⅱ	-860	G	2526	—	底	赤褐	小石	沈線文。平底。	加Ｅ Ⅱ	285	181
Ⅱ	-860	G	2527	—	底	橙	白粒、赤粒	条線文。端部が角張る平底。	加Ｅ Ⅱ	285	181
Ⅱ	-860	G	2528	—	底	橙	白粒、小石	撚糸文。平底。	加Ｅ Ⅱ	285	181
Ⅱ	-810	G	2529	—	底	鈍橙	輝・角、小石	胴部条線文。平底。	加Ｅ Ⅱ	285	181
Ⅱ	-860	G	2530	—	底	橙	白粒、小石	胴部無文。平底。（底径 11.2cm）	加Ｅ Ⅱ	286	181
Ⅱ	-860	G	2531	—	底	鈍橙	白粒、輝・角	胴部に円下端の貼付文が１対。４単位かどうかは欠落のため不明。平底。（底径 7.3cm）	加Ｅ Ⅱ	286	181
Ⅱ	-810	G	2532	—	底	浅黄橙	白粒金	胴部無文。平底。ミニチュア土器。	加Ｅ Ⅱ	285	181
Ⅱ	-860	G	2533	—	底	橙	赤粒、小石	一旦括れて広がる高台状の上げ底。外面に沈線文、縄文。台部に透かし穴痕が２ヶ所。	加Ｅ Ⅱ	285	181
Ⅱ	-810	G	2534	深鉢	底欠落	淡橙	輝・角、小石	口縁部は隆帯の渦巻文と沈線の波状文。胴部は縄文。	加Ｅ Ⅱ	286	181
Ⅱ	-860	G	2535	—	突起	赤橙	赤粒、小石	突起部で周り、口縁沿いに人字状に貼付した隆帯。胴部は無文。	加Ｅ Ⅱ	286	181
Ⅱ	-860	G	2536	—	底	赤褐	小石	縄文後、隆帯。端部が角張る平底。（底径 7.8cm）	加Ｅ Ⅱ	286	181
Ⅱ	-840	G	2537	深鉢	ほぼ完形	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	波状口縁。隆帯と沈線による区画、区画内は縄文。胴部は沈線、磨消縄文。（口径 36.1cm、底部 6.0cm、器高 48.3cm）	加Ｅ Ⅲ	286	181
Ⅱ	-840	G	2538	深鉢	口～胴	鈍黄橙	白粒、輝・角、細砂	波状口縁。口縁部は隆帯と沈線の区画と渦巻文。胴部は沈線文、磨消縄文。（口径 32.4cm）	加Ｅ Ⅲ	286	182
Ⅱ	-860	G	2539	深鉢	口～胴	灰褐	輝・角、小石多	口縁部は隆帯と沈線による区画、区画内は縄文。胴部は沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	287	182
Ⅱ	-840	G	2540	深鉢	口～胴	黄白	輝・角、小石	口縁部は隆帯で区画、区画内縄文。胴部は沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	287	182
Ⅱ	-840	G	2541	深鉢	口～胴	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	波状口縁。口縁部は隆帯による区画と渦巻文、区画内は縄文。胴部は沈線、磨消縄文。（口径 26.0cm）	加Ｅ Ⅲ	287	182
Ⅱ	-810	G	2542	深鉢	口～胴	鈍黄橙	赤粒、輝・角	口縁に小突起。口縁部は低い隆帯と沈線による区画と渦巻文、区画内は縄文。胴部は沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	287	182
Ⅱ	-810	G	2543	深鉢	口～胴	鈍黄橙	輝・角僅	口縁部は隆帯と沈線による区画、区画内は縄文。胴部は沈線、磨消縄文。（口径 31.4cm）	加Ｅ Ⅲ	286	182
Ⅱ	-840	G	2544	深鉢	口～胴	橙	白粒、赤粒	口縁部は隆帯で区画、区画内縄文。胴部は沈線と縄文。	加Ｅ Ⅲ	287	182
Ⅱ	-860	G	2545	深鉢	口～胴	暗灰褐	白粒、輝・角、小石	波状口縁。口縁部は隆帯と太沈線で区画、区画内は縄文。胴部は沈線、磨消縄文。（口径 25.4cm）	加Ｅ Ⅲ	287	183
Ⅱ	-860	G	2546	深鉢	口～胴	灰褐	白粒、輝・角	平口縁上に突起。胴部は沈線と条線文。（口径 13.9cm）	加Ｅ Ⅲ	287	183
Ⅱ	-840	G	2547	深鉢	胴	淡橙	白粒、輝・角、細砂	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	288	183
Ⅱ	-840	G	2548	深鉢	胴	淡橙	白粒、小石、細砂	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	288	183
Ⅱ	-810	G	2549	深鉢	胴	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	288	183
Ⅱ	-810	G	2550	深鉢	胴	淡橙	白粒、輝・角	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	288	183
Ⅱ	-810	G	2551	深鉢	胴	淡橙	小石	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	288	183
Ⅱ	-810	G	2552	深鉢	胴	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	括れ部付近は沈線、磨消縄文。その上位は条線文。下位は無節撚り糸か？	加Ｅ Ⅲ	288	184
Ⅱ	-840	G	2553	深鉢	胴	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	沈線文、縄文。	加Ｅ Ⅲ	289	184
Ⅱ	-840	G	2554	深鉢	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	縄文、隆帯文。	加Ｅ Ⅲ	289	184
Ⅱ	-860	G	2555	深鉢	胴～底	浅黄橙	赤粒、輝・角僅	胴部は沈線、磨消縄文。底部は窄まり、平底。（底径 4.4cm）	加Ｅ Ⅲ	289	184

遺物番号				器種	部位	色調	胎　土	特　徴・法　量　等	時期	図版	写真
Ⅱ	-810	G	2556	深鉢	胴～底	淡橙	白粒、輝・角	胴部は沈線、磨消縄文。平底。（底径 9cm）	加Ｅ Ⅲ	289	184
Ⅱ	-860	G	2557	深鉢	胴～底	橙	白粒、輝・角	胴部は沈線、縄文。端部はやや丸みを帯びるが、直線的に立ち上がる。平底。（底径 7.0cm）	加Ｅ Ⅲ	289	184
Ⅱ	-810	G	2558	深鉢	胴～底	浅黄橙	輝・角	低いだれた隆帯と太沈線で渦巻文や懸垂文。一部に縄文。（底径 6.1cm）	加Ｅ Ⅲ	289	184
Ⅱ	-860	G	2559	浅鉢	底欠落	灰白	白粒、輝・角僅	口縁部無文帯の下に横位沈線。胴部は６～７単位の条線文。（口径 31.8cm）	加Ｅ Ⅲ	289	184
Ⅱ	-840	G	2560	甕	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	口唇欠損。上半に太沈線と一部隆線による区画と渦巻文、区画内も下半も無文。	加Ｅ Ⅲ	290	185
Ⅱ	-810	G	2561	土製円板	完形	赤褐	輝・角、小石	沈線、縄文。（径 4.0cm）	加Ｅ Ⅲ	289	185
Ⅱ	-840	G	2562	－	口～胴	鈍赤褐	白粒	口縁部は隆帯と沈線による区画、区画内縄文。胴部は沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	290	185
Ⅱ	-810	G	2563	－	口～胴	灰褐	白粒、輝・角、小石	波状口縁。口縁部は沈線で区画。胴部は沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	289	185
Ⅱ	-810	G	2564	－	口～胴	暗灰褐	輝・角、小石	口縁部は隆帯と太沈線による区画と渦巻文。胴部は沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	290	185
Ⅱ	-810	G	2565	－	口～胴	浅黄橙	輝・角、小石	口縁部は隆帯と太沈線の区画と文様、区画内は縄文。胴部は沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	290	185
Ⅱ	-860	G	2566	－	口～胴	灰白	白粒、輝・角	波状口縁。太沈線による区画、区画内は縄文。胴部は沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	290	185
Ⅱ	-860	G	2567	－	口～胴	灰黄褐	白粒、輝・角	口縁部は太沈線による区画、区画内は縄文。胴部は沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	290	185
Ⅱ	-810	G	2568	－	口～胴	暗褐	輝・角、小石	波状口縁。口縁部は太沈線の区画と文様、区画内は縄文。胴部は沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	291	185
Ⅱ	-840	G	2569	－	口～胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	口唇部上面に沈線。胴部は沈線と縄文。	加Ｅ Ⅲ	290	185
Ⅱ	-810	G	2570	－	口～胴	橙～灰白	輝・角、小石	口縁部は無文。胴部は隆帯による区画、区画内縄文。	加Ｅ Ⅲ	290	185
Ⅱ	-860	G	2571	－	口	浅黄橙	輝・角	口縁部は隆帯による区画、区画内縄文。胴部は沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	291	185
Ⅱ	-840	G	2572	－	口	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	口縁部は隆帯と沈線で区画、文様。胴部は沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	291	185
Ⅱ	-840	G	2573	－	口	黒褐	白粒、輝・角、小石	波状口縁、隆帯の渦巻文。胴部は沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	291	185
Ⅱ	-860	G	2574	－	口	黒褐	輝・角	隆帯と沈線による区画、区画内は縄文。	加Ｅ Ⅲ	291	185
Ⅱ	-860	G	2575	－	口	鈍橙	輝・角、小石	隆帯と沈線による区画、区画内は縄文。胴部に沈線。	加Ｅ Ⅲ	291	185
Ⅱ	-840	G	2576	－	口	黄白	白粒、小石	隆帯区画、楕円や渦巻の沈線文。区画内縄文。胴部縄文、沈線垂下か。	加Ｅ Ⅲ	291	186
Ⅱ	-810	G	2577	－	口	鈍橙	白粒、輝・角、小石	沈線文、複節縄文。	加Ｅ Ⅲ	291	186
Ⅱ	-810	G	2578	－	口	灰白	白粒、輝・角	口縁部は隆帯と太沈線による区画と文様、区画内は条線。胴部は沈線と磨消条線、磨消縄文。（口径 60.0cm）	加Ｅ Ⅲ	291	186
Ⅱ	-860	G	2579	－	口	鈍橙	輝・角	２条の隆線が垂下。疎らに縄文。	加Ｅ Ⅲ	291	186
Ⅱ	-860	G	2580	－	口	鈍黄橙	白粒、輝・角僅	沈線による区画、区画内は縄文。	加Ｅ Ⅲ	291	186
Ⅱ	-860	G	2581	－	口	暗灰褐	白粒、輝・角	沈線による区画、区画内は縄文。	加Ｅ Ⅲ	291	186
Ⅱ	-860	G	2582	－	口	鈍黄褐	赤粒僅、金雲母僅	波状口縁。隆帯と太沈線による渦巻文。	加Ｅ Ⅲ	292	186
Ⅱ	-860	G	2583	－	口	鈍橙	白粒、輝・角	波頂部下の渦巻文の他、胴部全体に太めの沈線で文様を描出。	加Ｅ Ⅲ	292	186
Ⅱ	-860	G	2584	－	口	鈍黄橙	小石	隆帯と太沈線による区画と渦巻文。	加Ｅ Ⅲ	292	186
Ⅱ	-860	G	2585	－	口	淡橙	輝・角	隆帯と太沈線による渦巻文。	加Ｅ Ⅲ	292	186
Ⅱ	-860	G	2586	－	口	暗赤褐	白粒、輝・角、小石	口縁部は隆帯と太沈線で区画、区画内縄文。胴部は沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	292	186
Ⅱ	-860	G	2587	－	口	鈍赤褐	白粒、輝・角	隆帯と太沈線による区画と渦巻文、区画内と胴部は縄文。	加Ｅ Ⅲ	292	186
Ⅱ	-860	G	2588	－	口	淡橙	輝・角僅、小石	小波状口縁。隆帯と太沈線による区画、区画内は縄文。	加Ｅ Ⅲ	292	186
Ⅱ	-860	G	2589	－	口	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	隆帯と太沈線による区画、区画内は縄文。	加Ｅ Ⅲ	292	186
Ⅱ	-860	G	2590	－	口	淡橙	白粒、小石	隆帯と太沈線による区画、区画内は縄文。	加Ｅ Ⅲ	292	186
Ⅱ	-860	G	2591	－	口	灰褐	輝・角、小石	波状口縁。隆帯と太沈線で区画、区画内は縄文。	加Ｅ Ⅲ	292	186
Ⅱ	-860	G	2592	－	口	鈍褐	輝・角	波状口縁。隆帯と太沈線で区画、区画内は縄文。	加Ｅ Ⅲ	292	186
Ⅱ	-860	G	2593	－	口	鈍褐	白粒	口縁部は太沈線で区画と文様。区画内と胴部は縄文。	加Ｅ Ⅲ	292	186
Ⅱ	-860	G	2594	－	口	浅黄橙	白粒、輝・角	波状口縁。隆帯と太沈線による区画、区画内は縄文。	加Ｅ Ⅲ	292	186
Ⅱ	-860	G	2595	－	口	灰褐	輝・角僅	波状口縁。隆帯と太沈線による区画、区画内は縄文。波頂部内面に太沈線の渦巻文。	加Ｅ Ⅲ	292	186
Ⅱ	-860	G	2596	－	口	灰褐	白粒、輝・角	波状口縁。隆帯と太沈線による区画、区画内は縄文。波頂部内面に太沈線の渦巻文。	加Ｅ Ⅲ	292	186
Ⅱ	-860	G	2597	－	口	灰白	白粒、輝・角、小石	隆帯と太沈線による区画、区画内は縄文。	加Ｅ Ⅲ	293	186
Ⅱ	-860	G	2598	－	口	灰白	白粒、石英、小石	隆帯と太沈線による区画、区画内は縄文。	加Ｅ Ⅲ	293	186
Ⅱ	-860	G	2599	－	口	橙	輝・角、小石	低い隆帯と太沈線による区画、区画内沈線。胴部は沈線文。	加Ｅ Ⅲ	293	186
Ⅱ	-860	G	2600	－	口	淡橙	小石	低い隆帯と沈線による区画、区画内沈線。	加Ｅ Ⅲ	293	187
Ⅱ	-810	G	2601	－	口	灰白	白粒、輝・角	太沈線による区画、区画内と胴部は条線文。	加Ｅ Ⅲ	293	187
Ⅱ	-860	G	2602	－	口	浅黄橙	白粒、輝・角	瘤状の隆起あり。太沈線による区画、区画内は縄文。	加Ｅ Ⅲ	293	187
Ⅱ	-860	G	2603	－	口	灰褐	輝・角僅	波状口縁。太沈線、縄文。	加Ｅ Ⅲ	293	187
Ⅱ	-860	G	2604	－	口	橙	白粒僅、小石	太沈線による区画、区画内は縄文。	加Ｅ Ⅲ	293	187
Ⅱ	-860	G	2605	－	口	橙	白粒、輝・角	太沈線で区画、区画内は縄文。	加Ｅ Ⅲ	293	187
Ⅱ	-860	G	2606	－	口	橙	白粒、小石	太沈線による区画と渦巻文、区画内は縄文。	加Ｅ Ⅲ	293	187

遺物番号				器種	部位	色調	胎　土	特　徴・法　量　等	時期	図版	写真
Ⅱ	-860	G	2607	—	口	浅黄橙	白粒	横位太沈線の下は縦位沈線と縄文。	加Ｅ Ⅲ	293	187
Ⅱ	-860	G	2608	—	口	極暗赤褐	輝・角	口唇部まで縄文。沈線波状文、Ｓ字状文。	加Ｅ Ⅲ	293	187
Ⅱ	-860	G	2609	—	口	淡橙	輝・角僅	２条の横位沈線間に円形刺突列。胴部は条線文、横位沈線。	加Ｅ Ⅲ	293	187
Ⅱ	-860	G	2610	—	口	浅黄橙	輝・角	口縁部に２段の円形刺突列。胴部は縄文。	加Ｅ Ⅲ	293	187
Ⅱ	-840	G	2611	—	口	灰黄褐	輝・角	口縁部には３段の円形刺突列。胴部は縄文に３条１組の波形沈線文。	加Ｅ Ⅲ	293	187
Ⅱ	-860	G	2612	—	口	暗褐	輝・角多、小石	口縁部無文帯の下に横位沈線。胴部は条線文。	加Ｅ Ⅲ	293	187
Ⅱ	-860	G	2613	—	口	暗灰褐	白粒	口唇部肥厚。横位太沈線より下は条線文。	加Ｅ Ⅲ	293	187
Ⅱ	-860	G	2614	—	口	淡橙	白粒、小石	口唇部が内側に突出。口縁部は無文。	加Ｅ Ⅲ	293	187
Ⅱ	-860	G	2615	—	口	黒褐	輝・角僅、小石	無文。２段の太沈線。	加Ｅ Ⅲ	293	187
Ⅱ	-860	G	2616	—	口・突起	暗灰褐	赤粒、小石	口縁部は隆帯と沈線による区画と文様。胴部は沈線と縄文。	加Ｅ Ⅲ	294	187
Ⅱ	-860	G	2617	—	口・突起	暗灰褐	輝・角、小石	上面に太沈線の渦巻文を施す環状突起。口縁部は隆帯と沈線で区画。胴部は沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	294	187
Ⅱ	-860	G	2618	—	口・突起	黒、淡橙	輝・角、小石	太沈線を施す突起。口縁部は隆帯と太沈線による区画、区画内は縄文。	加Ｅ Ⅲ	294	187
Ⅱ	-860	G	2619	—	口・突起	鈍黄橙	輝・角僅	口縁部無文。横位沈線の下に条線文。	加Ｅ Ⅲ	294	187
Ⅱ	-860	G	2620	—	口付近	灰白	白粒、輝・角	隆帯による区画、区画内縄文。	加Ｅ Ⅲ	294	187
Ⅱ	-860	G	2621	—	胴	暗灰褐	小石	橋状の突起？が欠損。口縁部は隆帯による区画と文様、区画内は縄文。胴部は沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	294	187
Ⅱ	-860	G	2622	—	胴	浅黄橙	輝・角、小石僅	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	294	187
Ⅱ	-860	G	2623	—	胴	浅黄橙	輝・角	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	294	187
Ⅱ	-860	G	2624	—	胴	鈍褐	白粒、輝・角	沈線、磨消縄文。2625、2626 と同一個体。	加Ｅ Ⅲ	294	187
Ⅱ	-860	G	2625	—	胴	鈍褐	白粒、輝・角	沈線、磨消縄文。2624、2626 と同一個体。	加Ｅ Ⅲ	294	187
Ⅱ	-860	G	2626	—	胴	鈍褐	白粒、輝・角	沈線、磨消縄文。2624、2625 と同一個体。	加Ｅ Ⅲ	295	187
Ⅱ	-860	G	2627	—	胴	鈍黄橙	白粒、赤粒、輝・角	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	295	188
Ⅱ	-860	G	2628	—	胴	鈍橙	白粒僅、輝・角僅	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	295	188
Ⅱ	-860	G	2629	—	胴	鈍黄橙	赤粒、輝・角	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	294	188
Ⅱ	-860	G	2630	—	胴	浅黄橙	白粒	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	295	188
Ⅱ	-860	G	2631	—	胴	浅黄橙	白粒、小石	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	295	188
Ⅱ	-860	G	2632	—	胴	鈍橙	白粒、輝・角	沈線、磨消縄文。複節。	加Ｅ Ⅲ	295	188
Ⅱ	-860	G	2633	—	胴	暗褐	白粒、輝・角	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	295	188
Ⅱ	-860	G	2634	—	胴	鈍橙	白粒、輝・角	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	295	188
Ⅱ	-860	G	2635	—	胴	鈍黄橙	輝・角僅、小石	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	295	188
Ⅱ	-860	G	2636	—	胴	灰褐	白粒、輝・角	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	295	188
Ⅱ	-860	G	2637	—	胴	灰褐	白粒、輝・角	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	295	188
Ⅱ	-860	G	2638	—	胴	赤褐	白粒、輝・角	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	295	188
Ⅱ	-860	G	2639	—	胴	暗灰褐	白粒、輝・角	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	295	188
Ⅱ	-860	G	2640	—	胴	灰白	輝・角、小石	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	295	188
Ⅱ	-860	G	2641	—	胴	橙	白粒、小石	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	296	188
Ⅱ	-860	G	2642	—	胴	黄白	輝・角	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	295	188
Ⅱ	-860	G	2643	—	胴	橙	輝・角	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	296	188
Ⅱ	-860	G	2644	—	胴	浅黄橙	白粒	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	296	188
Ⅱ	-860	G	2645	—	胴	橙	輝・角、小石	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	296	188
Ⅱ	-860	G	2646	—	胴	灰白	輝・角	沈線、磨消縄文。複節か。	加Ｅ Ⅲ	296	188
Ⅱ	-860	G	2647	—	胴	鈍橙	白粒、小石	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	296	188
Ⅱ	-860	G	2648	—	胴	鈍黄橙	輝・角僅	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	296	188
Ⅱ	-860	G	2649	—	胴	鈍橙	輝・角僅、小石	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	296	188
Ⅱ	-860	G	2650	—	胴	浅黄橙	輝・角、小石	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	296	189
Ⅱ	-860	G	2651	—	胴	灰褐	白粒、輝・角僅	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	296	189
Ⅱ	-860	G	2652	—	胴	灰褐	白粒	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	296	189
Ⅱ	-860	G	2653	—	胴	灰褐	白粒、輝・角僅	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	296	189
Ⅱ	-860	G	2654	—	胴	浅黄橙	白粒、小石	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	297	189
Ⅱ	-860	G	2655	—	胴	鈍橙	白粒、小石	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	296	189
Ⅱ	-860	G	2656	—	胴	橙	小石	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	296	189
Ⅱ	-860	G	2657	—	胴	鈍褐	白粒、輝・角、小石	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	297	189
Ⅱ	-860	G	2658	—	胴	灰	白粒、輝・角、小石	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	297	189
Ⅱ	-860	G	2659	—	胴	灰白	輝・角、小石	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	296	189
Ⅱ	-860	G	2660	—	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	297	189
Ⅱ	-860	G	2661	—	胴	灰	白粒、輝・角	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	297	189
Ⅱ	-860	G	2662	—	胴	鈍橙	白粒、小石	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	297	189
Ⅱ	-860	G	2663	—	胴	灰白	白粒、輝・角僅	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	297	189
Ⅱ	-860	G	2664	—	胴	暗灰褐	白粒、輝・角、小石	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	297	189
Ⅱ	-860	G	2665	—	胴	浅黄橙	輝・角僅	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	297	189
Ⅱ	-860	G	2666	—	胴	浅黄橙	輝・角僅、石英	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	297	189
Ⅱ	-860	G	2667	—	胴	暗灰褐	輝・角	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	297	189
Ⅱ	-860	G	2668	—	胴	灰	金雲母僅、輝・角僅	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	297	189
Ⅱ	-860	G	2669	—	胴	橙	輝・角、小石	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	297	189
Ⅱ	-860	G	2670	—	胴	鈍橙	白粒、輝・角	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	297	189

遺物番号				器種	部位	色調	胎　土	特　徴　・　法　量　等	時期	図版	写真
Ⅱ	-860	G	2671	－	胴	淡橙	白粒、輝・角	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	298	189
Ⅱ	-860	G	2672	－	胴	淡橙	白粒、輝・角	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	297	190
Ⅱ	-860	G	2673	－	胴	暗褐	輝・角	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	297	190
Ⅱ	-860	G	2674	－	胴	暗褐	白粒	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	298	190
Ⅱ	-860	G	2675	－	胴	浅黄橙	白粒、小石	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	298	190
Ⅱ	-860	G	2676	－	胴	鈍橙	白粒僅、小石	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	297	190
Ⅱ	-860	G	2677	－	胴	橙	輝・角、小石	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	298	190
Ⅱ	-860	G	2678	－	胴	鈍橙	白粒、小石	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	298	190
Ⅱ	-860	G	2679	－	胴	橙	白粒、小石	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	298	190
Ⅱ	-860	G	2680	－	胴	灰白	白粒、輝・角	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	298	190
Ⅱ	-860	G	2681	－	胴	灰褐	白粒、輝・角僅	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	298	190
Ⅱ	-860	G	2682	－	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	298	190
Ⅱ	-860	G	2683	－	胴	浅黄橙	輝・角、小石	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	298	190
Ⅱ	-860	G	2684	－	胴	鈍橙	輝・角僅、小石	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	298	190
Ⅱ	-860	G	2685	－	胴	淡橙	輝・角僅	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	298	190
Ⅱ	-860	G	2686	－	胴	橙	輝・角、小石	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	298	190
Ⅱ	-860	G	2687	－	胴	灰白	輝・角僅	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	298	190
Ⅱ	-860	G	2688	－	胴	黒褐	小石、細砂	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	298	190
Ⅱ	-860	G	2689	－	胴	橙	白粒、輝・角	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	298	190
Ⅱ	-860	G	2690	－	胴	鈍黄橙	白粒、小石	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	298	190
Ⅱ	-860	G	2691	－	胴	鈍褐	白粒僅	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	298	190
Ⅱ	-860	G	2692	－	胴	浅黄橙	輝・角僅	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	298	190
Ⅱ	-860	G	2693	－	胴	灰白	白粒、小石	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	298	190
Ⅱ	-860	G	2694	－	胴	黄白	輝・角僅	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	298	190
Ⅱ	-840	G	2695	－	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	298	190
Ⅱ	-840	G	2696	－	胴	浅黄橙	白粒、小石	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	298	190
Ⅱ	-810	G	2697	－	胴	橙	白粒、木、小石	沈線と複節の磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	299	190
Ⅱ	-810	G	2698	－	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	299	190
Ⅱ	-810	G	2699	－	胴	黒灰	白粒、輝・角、小石	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	299	190
Ⅱ	-810	G	2700	－	胴	鈍黄橙	白粒、小石	沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	299	190
Ⅱ	-860	G	2701	－	胴	灰白	輝・角僅	沈線、縄文。	加Ｅ Ⅲ	299	190
Ⅱ	-860	G	2702	－	胴	灰褐	輝・角僅	沈線、縄文。	加Ｅ Ⅲ	299	190
Ⅱ	-860	G	2703	－	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	沈線、縄文。	加Ｅ Ⅲ	299	191
Ⅱ	-860	G	2704	－	胴	鈍褐・黒	小石	沈線、磨消縄文。沈線文。	加Ｅ Ⅲ	299	191
Ⅱ	-860	G	2705	－	胴	橙	赤粒僅、輝・角僅	縄文後、沈線文。	加Ｅ Ⅲ	299	191
Ⅱ	-860	G	2706	－	胴	橙	小石	沈線文、縄文。	加Ｅ Ⅲ	299	191
Ⅱ	-860	G	2707	－	胴	橙白	赤粒	磨消縄文、沈線文。	加Ｅ Ⅲ	299	191
Ⅱ	-860	G	2708	－	胴	浅黄橙	輝・角	縄文後、沈線文。	加Ｅ Ⅲ	299	191
Ⅱ	-860	G	2709	－	胴	灰白	白粒、輝・角	沈線、縄文。	加Ｅ Ⅲ	299	191
Ⅱ	-860	G	2710	－	胴	淡橙	白粒、輝・角	沈線文、縄文。	加Ｅ Ⅲ	299	191
Ⅱ	-860	G	2711	－	胴	鈍褐	白粒、小石	縄文後、沈線文。	加Ｅ Ⅲ	299	191
Ⅱ	-860	G	2712	－	胴	暗灰褐	白粒、小石	沈線文、縄文。	加Ｅ Ⅲ	299	191
Ⅱ	-860	G	2713	－	胴	鈍橙	輝・角、小石	沈線文、縄文。	加Ｅ Ⅲ	299	191
Ⅱ	-860	G	2714	－	胴	鈍褐	白粒、輝・角	沈線文、縄文。	加Ｅ Ⅲ	299	191
Ⅱ	-860	G	2715	－	胴	鈍黄橙	白粒、赤粒	沈線文、縄文。	加Ｅ Ⅲ	299	191
Ⅱ	-840	G	2716	－	胴	鈍褐	白粒、小石	沈線文、縄文。	加Ｅ Ⅲ	299	191
Ⅱ	-840	G	2717	－	胴	浅黄橙	白粒、小石	沈線、縄文。	加Ｅ Ⅲ	299	191
Ⅱ	-840	G	2718	－	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	沈線文、縄文。	加Ｅ Ⅲ	299	191
Ⅱ	-810	G	2719	－	胴	灰白	輝・角僅	沈線、縄文。2720 と同一個体か。	加Ｅ Ⅲ	300	191
Ⅱ	-810	G	2720	－	胴	灰白	輝・角僅	沈線、縄文。2719 と同一個体か。	加Ｅ Ⅲ	300	191
Ⅱ	-860	G	2721	－	胴	浅黄橙	輝・角、細砂	太沈線の区画、区画内と胴部は縄文。	加Ｅ Ⅲ	300	191
Ⅱ	-860	G	2722	－	胴	鈍褐	輝・角、小石	太沈線で区画、区画内は縄文。胴部は沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	300	191
Ⅱ	-860	G	2723	－	胴	鈍橙	白粒、小石	上半は太沈線区画、区画内縄文。胴部は沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	300	191
Ⅱ	-860	G	2724	－	胴	浅黄橙	輝・角、小石	太沈線文、縄文。	加Ｅ Ⅲ	300	191
Ⅱ	-840	G	2725	－	胴	淡橙	輝・角、小石	太沈線による区画、区画内と胴部に縄文。	加Ｅ Ⅲ	300	191
Ⅱ	-860	G	2726	－	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	縄文。上端に隆帯区画の一部。	加Ｅ Ⅲ	300	191
Ⅱ	-860	G	2727	－	胴	暗灰褐	白粒、輝・角	縄文後、２条の隆帯。	加Ｅ Ⅲ	300	191
Ⅱ	-860	G	2728	－	胴	灰白	白粒、輝・角	隆帯による区画と文様、区画内は縄文。	加Ｅ Ⅲ	300	191
Ⅱ	-860	G	2729	－	胴	橙	輝・角、小石	隆帯、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	300	191
Ⅱ	-840	G	2730	－	胴	灰・鈍橙	白粒、輝・角	隆帯、縄文。	加Ｅ Ⅲ	300	192
Ⅱ	-860	G	2731	－	胴	鈍橙	白粒、小石	隆線が垂下。微かに縄文？の痕跡あり。	加Ｅ Ⅲ	300	192
Ⅱ	-860	G	2732	－	胴	黒褐	輝・角、細砂	横位隆帯区画と縦横の沈線。区画内と胴部に縄文。	加Ｅ Ⅲ	300	192
Ⅱ	-860	G	2733	－	胴	鈍黄橙	白粒僅、輝・角	隆帯と沈線による区画、区画内と胴部は縄文。	加Ｅ Ⅲ	301	192
Ⅱ	-860	G	2734	－	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	隆帯と沈線による区画、区画内縄文。	加Ｅ Ⅲ	301	192
Ⅱ	-860	G	2735	－	胴	鈍橙	輝・角僅、小石	縄文上に２条１組の沈線と２条１組の隆帯が垂下。	加Ｅ Ⅲ	301	192
Ⅱ	-810	G	2736	－	胴	浅黄橙	輝・角僅	隆帯と沈線による区画と渦巻文、区画内と胴部に縄文。	加Ｅ Ⅲ	301	192
Ⅱ	-860	G	2737	－	胴	鈍褐	白粒、輝・角	隆帯と太沈線による区画、区画内と胴部は縄文。	加Ｅ Ⅲ	300	192
Ⅱ	-860	G	2738	－	胴	橙	輝・角、小石	隆帯と太沈線による区画と渦巻文。胴部は縄文。	加Ｅ Ⅲ	301	192
Ⅱ	-860	G	2739	－	胴	橙	白粒、小石	隆帯と太沈線による文様と区画、区画内は縄文。	加Ｅ Ⅲ	301	192
Ⅱ	-860	G	2740	－	胴	暗褐	輝・角	条線、縄文。	加Ｅ Ⅲ	301	192
Ⅱ	-860	G	2741	－	胴	灰褐	輝・角、小石	縄文後、一部に微かな条線文。	加Ｅ Ⅲ	301	192

遺物番号				器種	部位	色調	胎　土	特　徴・法　量　等	時期	図版	写真
Ⅱ	-860	G	2742	—	胴	鈍橙	小石	条線文。一部に縄文。	加Ｅ Ⅲ	301	192
Ⅱ	-860	G	2743	—	胴	暗褐	白粒、輝・角僅	縄文。	加Ｅ Ⅲ	301	192
Ⅱ	-860	G	2744	—	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	沈線文、条線文。	加Ｅ Ⅲ	301	192
Ⅱ	-860	G	2745	—	胴	灰褐	輝・角	条線文。破片上端に横位沈線。	加Ｅ Ⅲ	301	192
Ⅱ	-860	G	2746	—	胴	鈍褐	白粒、小石	横位沈線文、縦位条線文。	加Ｅ Ⅲ	301	192
Ⅱ	-860	G	2747	—	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	沈線と条線文、破片下部に縄文。	加Ｅ Ⅲ	301	192
Ⅱ	-860	G	2748	—	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	幅広の条線文と沈線文。	加Ｅ Ⅲ	301	192
Ⅱ	-860	G	2749	—	胴	灰黄、黒	輝・角、小石	沈線、縄文、条線文。	加Ｅ Ⅲ	301	192
Ⅱ	-860	G	2750	—	胴	灰黄	輝・角	沈線、条線文。	加Ｅ Ⅲ	301	192
Ⅱ	-840	G	2751	—	胴	黄橙	輝・角、小石	横位２条沈線。条線文。	加Ｅ Ⅲ	301	192
Ⅱ	-860	G	2752	—	胴	鈍褐	白粒、輝・角	４単位の櫛描文。	加Ｅ Ⅲ	301	192
Ⅱ	-860	G	2753	—	胴	淡橙	白粒、小石	条線文。	加Ｅ Ⅲ	302	192
Ⅱ	-860	G	2754	—	胴	灰褐	白粒、輝・角	条線文。	加Ｅ Ⅲ	302	192
Ⅱ	-860	G	2755	—	胴	灰褐、黒	白粒、輝・角	条線文。	加Ｅ Ⅲ	301	192
Ⅱ	-860	G	2756	—	胴	暗褐	石英、小石	条線文。	加Ｅ Ⅲ	302	192
Ⅱ	-860	G	2757	—	胴	鈍黄橙	輝・角、小石	左端の間隔が広い７単位の条線文。	加Ｅ Ⅲ	302	193
Ⅱ	-860	G	2758	—	胴	鈍橙	白粒、小石	８単位の条線文。	加Ｅ Ⅲ	302	193
Ⅱ	-860	G	2759	—	胴	鈍橙	輝・角僅	６単位の条線文。	加Ｅ Ⅲ	302	193
Ⅱ	-860	G	2760	—	胴	鈍橙	赤粒、輝・角僅	条線文と横位の浅い沈線。	加Ｅ Ⅲ	302	193
Ⅱ	-860	G	2761	—	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	条線文。	加Ｅ Ⅲ	302	193
Ⅱ	-860	G	2762	—	胴	灰褐	輝・角僅	条線文。	加Ｅ Ⅲ	302	193
Ⅱ	-860	G	2763	—	胴	浅黄橙	白粒僅、輝・角僅	条線文。	加Ｅ Ⅲ	302	193
Ⅱ	-860	G	2764	—	胴	灰褐	白粒、輝・角	条線文。	加Ｅ Ⅲ	302	193
Ⅱ	-860	G	2765	—	胴	灰	白粒	９単位の条線文。	加Ｅ Ⅲ	302	193
Ⅱ	-860	G	2766	—	胴	明褐灰	小石	条線文。	加Ｅ Ⅲ	302	193
Ⅱ	-860	G	2767	—	胴	鈍橙	輝・角	条線文。	加Ｅ Ⅲ	302	193
Ⅱ	-860	G	2768	—	胴	鈍黄橙	白粒、小石	条線文。	加Ｅ Ⅲ	302	193
Ⅱ	-860	G	2769	—	胴	鈍黄橙	輝・角、小石	条線文。	加Ｅ Ⅲ	302	193
Ⅱ	-860	G	2770	—	胴	黒灰	輝・角	条線文。	加Ｅ Ⅲ	302	193
Ⅱ	-860	G	2771	—	胴	黒褐	白粒	６単位条線文。	加Ｅ Ⅲ	302	193
Ⅱ	-810	G	2772	—	胴	淡橙	白粒、輝・角	条線文。	加Ｅ Ⅲ	302	193
Ⅱ	-810	G	2773	—	胴	浅黄橙	輝・角	条線文。	加Ｅ Ⅲ	302	193
Ⅱ	-860	G	2774	—	胴	鈍黄橙	輝・角、小石	２条沈線の懸垂文。空白部を横位短沈線で充填。2775 と同一個体。	加Ｅ Ⅲ	302	193
Ⅱ	-860	G	2775	—	胴	灰黄褐	輝・角、小石	２条沈線の懸垂文。空白部を横位短沈線で充填。2774 と同一個体。	加Ｅ Ⅲ	302	193
Ⅱ	-860	G	2776	—	胴	淡橙	白粒、小石	低い隆帯の両側に沈線。空白部を横位短沈線で充填。2793 と同一個体。	加Ｅ Ⅲ	302	193
Ⅱ	-860	G	2777	—	胴	浅黄橙	輝・角、小石	２条の沈線で)(状に区画。区画内は横位短沈線。	加Ｅ Ⅲ	302	193
Ⅱ	-860	G	2778	—	胴	暗灰褐	白粒	沈線文。	加Ｅ Ⅲ	302	193
Ⅱ	-860	G	2779	—	胴	赤褐	小石	浅い沈線による区画と渦巻文、区画内も沈線。	加Ｅ Ⅲ	302	193
Ⅱ	-860	G	2780	—	胴	黄白	白粒、輝・角	沈線文。	加Ｅ Ⅲ	303	193
Ⅱ	-860	G	2781	—	胴	鈍赤褐	白粒、小石	太沈線文。	加Ｅ Ⅲ	303	193
Ⅱ	-840	G	2782	—	胴	淡橙	白粒、輝・角、小石	細沈線斜格子状文。太沈線垂下。2783 と同一個体。	加Ｅ Ⅲ	303	193
Ⅱ	-840	G	2783	—	胴	淡橙	白粒、輝・角、小石	細沈線斜格子状文。太沈線垂下。2782 と同一個体。	加Ｅ Ⅲ	303	193
Ⅱ	-810	G	2784	—	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	微かに縦位沈線の痕跡が見える。	加Ｅ Ⅲ	303	193
Ⅱ	-860	G	2785	—	胴	橙	白粒、小石	隆帯文。沈線杉綾文。	加Ｅ Ⅲ	303	193
Ⅱ	-860	G	2786	—	胴	鈍橙	小石	緩やかに曲がる隆帯と杉綾状の直線的な沈線。	加Ｅ Ⅲ	303	193
Ⅱ	-860	G	2787	—	胴	鈍橙	白粒、小石	破片上半は弧状の隆帯の両側に短沈線。下半は中沈線と細沈線。	加Ｅ Ⅲ	303	193
Ⅱ	-860	G	2788	—	胴	橙	小石	縦位隆帯。杉綾状沈線文。	加Ｅ Ⅲ	303	193
Ⅱ	-860	G	2789	—	胴	鈍橙	白粒、小石	隆帯と沈線による区画、区画内は放射状沈線文。	加Ｅ Ⅲ	303	193
Ⅱ	-860	G	2790	—	胴～底	橙	白粒、輝・角僅	胴部は沈線、磨消縄文と沈線波形文。	加Ｅ Ⅲ	303	193
Ⅱ	-810	G	2791	—	胴～底	淡橙	白粒、輝・角	胴部は沈線、磨消縄文。平底。	加Ｅ Ⅲ	303	194
Ⅱ	-840	G	2792	—	胴～底	褐灰	白粒、輝・角	沈線、縄文。	加Ｅ Ⅲ	303	194
Ⅱ	-860	G	2793	—	底付近	淡橙	白粒、小石	低い隆帯の両側に沈線。空白部を横位短沈線で充填。底部付近に一部縄文。2776 と同一個体。	加Ｅ Ⅲ	303	194
Ⅱ	-860	G	2794	—	底	鈍黄橙	赤粒、輝・角	沈線、磨消縄文。平底。（底径 6.4cm）	加Ｅ Ⅲ	303	194
Ⅱ	-860	G	2795	—	底	淡橙	輝・角僅、小石	沈線、磨消縄文。平底。（底径 5.0cm）	加Ｅ Ⅲ	303	194
Ⅱ	-860	G	2796	—	底	鈍黄橙	輝・角僅、小石	沈線、磨消縄文。平底。（底径 6.0cm）	加Ｅ Ⅲ	303	194
Ⅱ	-860	G	2797	—	底	灰白	輝・角	沈線、磨消縄文。平底。（底径 7.3cm）	加Ｅ Ⅲ	303	194
Ⅱ	-860	G	2798	—	底	黄白	白粒、輝・角、小石	平底。胴部は沈線、磨消縄文。	加Ｅ Ⅲ	303	194
Ⅱ	-840	G	2799	—	底	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	沈線、磨消縄文。端部はやや丸みを帯びる平底。	加Ｅ Ⅲ	303	194
Ⅱ	-860	G	2800	—	底	灰褐	輝・角、小石	沈線、縄文。平底。（底径 6.0cm）	加Ｅ Ⅲ	303	194
Ⅱ	-860	G	2801	—	底	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	沈線、縄文。（底径 8.0cm）	加Ｅ Ⅲ	303	194
Ⅱ	-860	G	2802	—	底	浅黄橙	白粒、輝・角	沈線、縄文。（底径 5.8cm）	加Ｅ Ⅲ	303	194
Ⅱ	-860	G	2803	—	底	浅黄橙	白粒、輝・角僅	沈線、縄文。平底。（底径 6.0cm）	加Ｅ Ⅲ	303	194
Ⅱ	-840	G	2804	—	底	浅黄橙	白粒、小石	胴部は沈線、縄文。底部は平底。	加Ｅ Ⅲ	303	194
Ⅱ	-810	G	2805	—	底	淡橙	白粒、輝・角多	胴部は沈線、縄文。平底。（底径 7.9cm）	加Ｅ Ⅲ	303	194

遺物番号				器種	部位	色調	胎　土	特　徴・法　量　等	時期	図版	写真
Ⅱ	-860	G	2806	—	底	鈍橙	小石	平底。胴部は隆帯、縄文。	加ＥⅢ	304	194
Ⅱ	-860	G	2807	—	底	橙	赤粒、小石	胴部縄文。平底。	加ＥⅢ	304	194
Ⅱ	-860	G	2808	—	底	灰褐	輝・角	沈線、条線。内面ミガキ。（底径 6.5cm）	加ＥⅢ	304	194
Ⅱ	-860	G	2809	—	底	鈍赤褐	輝・角僅	縦縞状の集合沈線。平底。（底径 6.4cm）	加ＥⅢ	304	194
Ⅱ	-860	G	2810	—	底	明赤褐	白粒、小石	やや丸みを帯びる平底。胴部には沈線。（底径 6.2cm）	加ＥⅢ	304	194
Ⅱ	-810	G	2811	—	底	淡橙	白粒、輝・角	胴部沈線垂下。底部やや丸み帯びる。（底径 7.6cm）	加ＥⅢ	304	194
Ⅱ	-810	G	2812	—	底	鈍黄橙	白粒、輝・角	胴部に沈線。平底	加ＥⅢ	304	194
Ⅱ	-860	G	2813	—	底	浅黄橙	白粒、輝・角	胴部無文。平底。（底径 4.0cm）	加ＥⅢ	304	194
Ⅱ	-860	G	2814	—	底	浅黄橙	白粒、輝・角	無文。やや丸みを帯びる平底。（底径 6.4cm）	加ＥⅢ	304	194
Ⅱ	-860	G	2815	—	底	淡橙	白粒、小石	無文。平底。（底径 9.6cm）	加ＥⅢ	304	194
Ⅱ	-860	G	2816	—	底	浅黄橙	輝・角	やや丸みを帯びる平底。（底径 6.8cm）	加ＥⅢ	304	194
Ⅱ	-860	G	2817	—	底	浅黄橙	白粒、小石	底部中央がやや上げ底。（底径 8.6cm）	加ＥⅢ	304	194
Ⅱ	-860	G	2818	—	胴	淡橙	金雲母僅、小石	条線文後、沈線文。	加ＥⅢ？	304	194
Ⅱ	-860	G	2819	深鉢	口～胴	鈍黄橙		波状口縁で口唇部に太沈線。胴部は縄文上に隆線の区画と文様。（口径 26.0cm）	加ＥⅣ	304	194
Ⅱ	-840	G	2820	深鉢	口	灰褐	白粒、輝・角僅	横位沈線以下に縄文。	加ＥⅣ	304	194
Ⅱ	-860	G	2821	深鉢	胴	浅黄橙	白粒、輝・角、細砂	隆線、磨消縄文。	加ＥⅣ	304	194
Ⅱ	-860	G	2822	—	口	浅黄橙	白粒、輝・角	波状口縁。沈線文と縄文。	加ＥⅣ	304	194
Ⅱ	-810	G	2823	—	口	鈍黄橙	輝・角、小石	円形押圧痕と横位沈線、胴部は縄文。	加ＥⅣ	304	194
Ⅱ	-860	G	2824	—	口	鈍橙	輝・角、小石	波状口縁。口縁沿いに沈線。胴部は沈線∩字状文、波状文と磨消縄文。	加ＥⅣ	304	194
Ⅱ	-860	G	2825	—	口	淡橙	輝・角僅、小石	沈線∩字状文、磨消縄文。	加ＥⅣ	304	194
Ⅱ	-860	G	2826	—	口	灰白	白粒、輝・角	２重の沈線∩字状文、磨消縄文。	加ＥⅣ	304	194
Ⅱ	-860	G	2827	—	口	橙	白粒、輝・角	沈線、磨消縄文。	加ＥⅣ	304	194
Ⅱ	-860	G	2828	—	口	鈍黄橙	輝・角、小石	口縁沿いに沈線。胴部は沈線∩字状文と磨消縄文。	加ＥⅣ	305	195
Ⅱ	-860	G	2829	—	口	暗褐灰	白粒、輝・角	横位沈線以下、条線文とランダムな沈線。	加ＥⅣ	305	195
Ⅱ	-860	G	2830	—	口	鈍褐	白粒、輝・角	口縁部無文帯の下は沈線文と磨消縄文。	加ＥⅣ	305	195
Ⅱ	-810	G	2831	—	口	明褐灰	白粒、輝・角僅	口縁部に横位太沈線。胴部は縄文。	加ＥⅣ	305	195
Ⅱ	-860	G	2832	—	口	褐灰	白粒、輝・角僅	口縁部無文帯の下に横位隆線。	加ＥⅣ	305	195
Ⅱ	-810	G	2833	—	口	暗灰褐	白粒、輝・角、小石	口縁部無文帯の下に隆線と縄文。	加ＥⅣ	305	195
Ⅱ	-860	G	2834	—	口	鈍黄橙	輝・角、小石	口縁部無文帯の下に隆線。その下半から胴部は縄文。	加ＥⅣ	305	195
Ⅱ	-860	G	2835	—	口	浅黄橙	輝・角	口縁部無文帯の下に隆線。胴部は条線文。	加ＥⅣ	305	195
Ⅱ	-810	G	2836	—	口	灰黄	輝・角僅	隆線文。	加ＥⅣ	305	195
Ⅱ	-860	G	2837	—	口・突起	暗赤褐	白粒、輝・角	沈線文、縄文。	加ＥⅣ	305	195
Ⅱ	-860	G	2838	—	突起	暗褐	白粒	上面は両側から巻き込む。ほぼまっすぐ立ち上がり、沈線と縄文を施す。	加ＥⅣ	305	195
Ⅱ	-860	G	2839	—	把手	橙～灰褐	白粒、小石	縄文を施す橋状把手。上部は欠損するが、環状突起か。	加ＥⅣ	305	195
Ⅱ	-860	G	2840	—	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	沈線、磨消縄文。	加ＥⅣ	305	195
Ⅱ	-860	G	2841	—	胴	黒灰	白粒、輝・角	沈線により、縄文部と無文部の交互構成。	加ＥⅣ	305	195
Ⅱ	-860	G	2842	—	胴	鈍黄橙	輝・角僅、小石、細砂	沈線∩字状文で縄文部と無文部を画する。	加ＥⅣ	305	195
Ⅱ	-860	G	2843	—	胴	鈍褐	白粒、輝・角	沈線文、縄文。	加ＥⅣ	306	195
Ⅱ	-860	G	2844	—	胴	淡橙	白粒、輝・角	隆線文、縄文。	加ＥⅣ	305	195
Ⅱ	-840	G	2845	—	胴	黒褐	輝・角、小石	沈線文。	加ＥⅣ	305	195
Ⅱ	-860	G	2846	—	底	淡橙	白粒、輝・角僅	端部がやや膨らむ平底。（底径 8.7cm）	加ＥⅣ	305	195
Ⅱ	-840	G	2847	—	口	赤褐	白粒、小石	口唇部は２条の横位沈線。胴部は縦位沈線と縄文。	中期後半	306	195
Ⅱ	-840	G	2848	—	口	淡橙	赤粒、輝・角、小石	口縁沿いに沈線。口唇部角ばり内側に稜あり。	中期後半	306	195
Ⅱ	-840	G	2849	—	口	鈍橙	白粒、小石	口縁部に太めの沈線２条。	中期後半	306	195
Ⅱ	-860	G	2850	—	口	鈍黄橙	白粒、輝・角	大きく開く口唇部上面に沈線。波状口縁か。括れ部まで無文、以下縄文。	中期後半	306	195
Ⅱ	-860	G	2851	—	口	鈍褐	白粒、輝・角	無文。	中期後半	306	195
Ⅱ	-860	G	2852	—	口	橙	輝・角僅、小石	無文。内面にミガキ。	中期後半	306	195
Ⅱ	-860	G	2853	—	口	灰白	白粒、輝・角	無文。	中期後半	306	195
Ⅱ	-860	G	2854	—	胴	浅黄橙	輝・角	縄文。	中期後半	306	195
Ⅱ	-840	G	2855	—	胴	褐	白粒、小石	横位と楕円形の沈線による区画、区画内と胴部に縄文。	中期後半	306	195
Ⅱ	-840	G	2856	—	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	沈線文、縄文。	中期後半	306	196
Ⅱ	-860	G	2857	—	胴	浅黄橙	白粒、小石	縄文。	中期後半	306	196
Ⅱ	-860	G	2858	—	胴	灰黄	白粒、輝・角、小石	縄文。	中期後半	306	196
Ⅱ	-860	G	2859	—	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	縄文。	中期後半	306	196
Ⅱ	-860	G	2860	—	胴	鈍橙	小石、石英	縄文。	中期後半	306	196
Ⅱ	-860	G	2861	—	胴	淡橙	白粒、小石	縄文。	中期後半	306	196
Ⅱ	-810	G	2862	—	胴	淡橙	白粒、輝・角	縄文。	中期後半	306	196
Ⅱ	-860	G	2863	—	胴	灰白	白粒、輝・角	横位沈線と縦位は細沈線か。	中期後半	306	196
Ⅱ	-860	G	2864	—	底	赤橙	輝・角僅、小石	胴部に沈線か。端部が若干角張る平底。（底径 8.8cm）	中期後半	306	196
Ⅱ	-860	G	2865	—	底	淡橙	小石	無文。平底。（底径 9.2cm）	中期後半	307	196
Ⅱ	-860	G	2866	—	底	浅黄橙	輝・角、小石	無文。平底。一部煤付着。（底径 6.8cm）	中期後半	307	196
Ⅱ	-860	G	2867	—	底	灰褐	金雲母僅、小石	無文。平底。（底径 10.9cm）	中期後半	307	196
Ⅱ	-860	G	2868	—	底	灰	輝・角僅	無文。平底。（底径 6.2cm）	中期後半	307	196
Ⅱ	-860	G	2869	—	底	浅黄橙	白粒、輝・角	平底で大きく開いて立ち上がる。胴部は無文。（底径 7.0cm）	中期後半	307	196
Ⅱ	-840	G	2870	—	底	浅黄橙	輝・角	胴部無文。平底。	中期後半	307	196
Ⅱ	-860	G	2871	—	底	鈍黄橙	白粒、輝・角	無文。端部が丸みを帯びる平底。（底径 6.8cm）	中期後半	307	196

遺物番号				器種	部位	色調	胎　土	特　徴・法　量　等	時期	図版	写真
Ⅱ	-860	G	2872	—	底	浅黄橙	白粒、輝・角	端部が角ばる平底。（底径 7.9cm）	中期後半	307	196
Ⅱ	-860	G	2873	—	底	灰褐	輝・角	端部がやや角張る平底。（底径 6.2cm）	中期後半	307	196
Ⅱ	-860	G	2874	—	底	淡橙	輝・角	端部がやや角張る平底。（底径 7.1cm）	中期後半	307	196
Ⅱ	-840	G	2875	—	口	橙	小石	口唇部に隆帯。胴部は無文。	中期後半？	307	196
Ⅱ	-840	G	2876	—	口	暗褐	白粒、小石	無文。粗いナデ。	中期後半？	307	196
Ⅱ	-860	G	2877	—	突起	赤褐	赤粒、小石	口縁部沿いに稜のはっきりした太い隆帯と沈線。突起を山形に盛り上げ、両側から孔を穿つが貫通はしない。	中期	307	196
Ⅱ	-840	G	2878	深鉢	口～胴	鈍褐	白粒、輝・角、小石	沈線文。	称名寺	307	196
Ⅱ	-810	G	2879	深鉢	口～胴	黄白	小石	沈線文内に縄文。口唇部内側に稜あり。波状口縁か。	称名寺	307	196
Ⅱ	-810	G	2880	注口土器	注口部	淡橙	白粒、赤粒、輝・角	口唇部と橋状に繋がった注口部。断面円形。断面と上面に深い刺突。括れ部に沈線文。（根本内径 1.5cm）	称名寺	307	196
Ⅱ	-810	G	2881	蓋？	完形？	灰、淡橙	白粒、輝・角	把手付き土器を円く打ち欠いたもの。把手部は残していたか既に欠落していたかは不明。（長径 9.5cm）	称名寺	307	196
Ⅱ	-840	G	2882	—	口～胴	淡橙	白粒、輝・角	波状口縁の頂部下に穿孔、周囲に刺突と沈線。胴部は沈線文。	称名寺	308	196
Ⅱ	-810	G	2883	—	口～胴	浅黄橙	輝・角僅	沈線文。	称名寺	308	196
Ⅱ	-810	G	2884	—	口～胴	灰白	輝・角	沈線文。	称名寺	308	197
Ⅱ	-860	G	2885	—	口	鈍褐	白粒、小石	口縁沿いの２条の隆線間に２段の刺突列。胴部は縄文。	称名寺	307	197
Ⅱ	-860	G	2886	—	口	橙	白粒、赤粒	沈線。	称名寺	307	197
Ⅱ	-860	G	2887	—	口	暗褐	輝・角	沈線文。	称名寺	307	197
Ⅱ	-860	G	2888	—	口	浅黄橙	白粒僅、輝・角僅	沈線文。	称名寺	307	197
Ⅱ	-860	G	2889	—	口	灰黄褐	輝・角僅	沈線、縄文。	称名寺	307	197
Ⅱ	-860	G	2890	—	口	灰褐	白粒	沈線間に縄文。	称名寺	307	197
Ⅱ	-860	G	2891	—	口	暗褐	白粒、輝・角	内外面に刺突のある波状口縁の基部。外面は縄文と沈線文、刺突文。	称名寺	308	197
Ⅱ	-810	G	2892	—	口	灰白	白粒、小石	沈線文、縄文。	称名寺	308	197
Ⅱ	-860	G	2893	—	口	鈍黄橙	輝・角、小石	口縁部は沈線間に刺突文。胴部は沈線文。	称名寺	308	197
Ⅱ	-860	G	2894	—	口	鈍橙	小石	沈線文、刺突列点文。	称名寺	308	197
Ⅱ	-810	G	2895	—	口	橙	輝・角、小石	沈線文、刺突列点文。鋭利な補修孔あり。	称名寺	308	197
Ⅱ	-860	G	2896	—	口	灰褐	輝・角	口唇部上面に沈線と刺突。胴部は沈線文と縄文。	称名寺	308	197
Ⅱ	-860	G	2897	—	口	鈍橙	白粒、輝・角僅	口唇部に押圧痕を施した隆帯。胴部は無文。	称名寺	308	197
Ⅱ	-860	G	2898	—	口	鈍橙	輝・角、小石僅	口唇沿いに沈線。口縁部は無文。	称名寺	308	197
Ⅱ	-860	G	2899	—	口	浅黄橙	輝・角	中央を穿孔する波状口縁。内側に刺突と沈線。	称名寺	308	197
Ⅱ	-840	G	2900	—	口	暗灰	白粒、輝・角僅	波状気味の口縁から鎖状隆帯。胴部は縄文。	称名寺	308	197
Ⅱ	-810	G	2901	—	口	鈍褐	輝・角僅	波状口縁が欠落か。無文。微かにミガキ部分残る。	称名寺	308	197
Ⅱ	-860	G	2902	—	口	暗灰褐	輝・角	沈線文間に細縄文。	称名寺	308	197
Ⅱ	-860	G	2903	—	口	灰褐	輝・角僅	沈線文内に刺突列。	称名寺	308	197
Ⅱ	-840	G	2904	—	突起	橙	白粒、赤粒	片方の側面に渦巻文を施す突起。胴部は無文。	称名寺	309	197
Ⅱ	-860	G	2905	—	突起	鈍褐	白粒、輝・角僅	捻転状突起の中央に貫通孔。突起の刺突と連続して、口縁沿いの隆線間に２段の刺突列。	称名寺	309	197
Ⅱ	-860	G	2906	—	突起	浅黄橙	輝・角、小石	沈線を施す捻転状突起の中央に凹み、上部に貫通孔。胴部は縄文。	称名寺	309	197
Ⅱ	-860	G	2907	—	突起	鈍黄橙	白粒、輝・角	外側は欠落。内側は中央に凹み、貫通孔。２つの円形刺突と沈線。	称名寺	309	197
Ⅱ	-860	G	2908	—	突起	鈍赤褐	赤粒、輝・角	中央が凹み、表面に縄文を施す縦楕円形の突起。口縁部に２段の刺突列。内面に穿孔。	称名寺	309	197
Ⅱ	-860	G	2909	—	突起	灰白	輝・角僅	中央の孔の周りに刺突と沈線。内側からも穿孔。	称名寺	309	197
Ⅱ	-860	G	2910	—	突起	灰白	赤粒、輝・角	波頂部に捻転状の貼付。両側に円形刺突文。	称名寺	309	197
Ⅱ	-860	G	2911	—	突起	橙白	輝・角、小石	外面には楕円形の貼付文で刺突と沈線が連繋する。筒状の内面上部にも刺突と沈線。	称名寺	309	197
Ⅱ	-860	G	2912	—	突起	鈍橙	白粒、石英、小石	中央が凹み両側に沈線を施す楕円形の突起。微隆線で文様が区分され、区画内には刺突文や縄文。	称名寺	309	197
Ⅱ	-860	G	2913	—	突起	浅黄橙	白粒、輝・角	突起面は 3/4 が欠損し、中央の凹みと沈線の一部のみ残る。両側面から深い刺突。	称名寺	309	197
Ⅱ	-840	G	2914	—	突起	淡橙	輝・角僅	上面と外面に円形刺突多数。	称名寺	309	197
Ⅱ	-840	G	2915	—	突起	黄白	白粒、赤粒	外面は捻転状で微かに縄文。内面は沈線。側面に穿孔。胴部には沈線、刺突文。	称名寺	309	197
Ⅱ	-840	G	2916	—	突起	黄白～灰	白粒、輝・角、小石	外面沈線と刺突列点文。内面ラッパ状で刺突と連係する沈線。側面は３段に穿孔、刺突と沈線文。	称名寺	309	197
Ⅱ	-840	G	2917	—	突起	浅黄橙	輝・角僅	波状口縁の外面に突起、内面に刺突。口縁沿いに沈線と刺突列。胴部は沈線と縄文。	称名寺	309	197
Ⅱ	-810	G	2918	—	突起	鈍黄橙	輝・角	内面に環状に粘土貼付。上下に刺突、右側のみ沈線。	称名寺	309	197
Ⅱ	-810	G	2919	—	突起	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	横方向に穿孔。内面中央に凹み、その外側に沈線。外面は沈線区画文と刺突列点文。	称名寺	310	197
Ⅱ	-860	G	2920	—	突起	浅黄橙	輝・角僅	突起は上面と正面に凹み、側面の刺突から口唇部上面に沈線。胴部には沈線文。	称名寺	310	198
Ⅱ	-860	G	2921	—	胴	浅黄橙	赤粒、輝・角	沈線、縄文。	称名寺	309	198
Ⅱ	-860	G	2922	—	胴	黒灰	白粒、輝・角僅	破片上半は横位沈線、下半は縄文。	称名寺	310	198
Ⅱ	-860	G	2923	—	胴	暗褐	白粒、輝・角	沈線文、一部に縄文。	称名寺	310	198

遺物番号				器種	部位	色調	胎　土	特　徴・法　量　等	時期	図版	写真
Ⅱ	-860	G	2924	—	胴	浅黄橙	輝・角僅	沈線文内に縄文。	称名寺	310	198
Ⅱ	-860	G	2925	—	胴	淡橙	輝・角僅、小石	沈線文、縄文。	称名寺	310	198
Ⅱ	-860	G	2926	—	胴	浅黄橙	白粒	沈線文、一部に縄文。	称名寺	310	198
Ⅱ	-860	G	2927	—	胴	灰褐	白粒、輝・角、小石	沈線文間に縄文。	称名寺	310	198
Ⅱ	-860	G	2928	—	胴	鈍黄橙	輝・角僅	沈線文、縄文。	称名寺	310	198
Ⅱ	-860	G	2929	—	胴	浅黄橙	輝・角	沈線間に細縄文。	称名寺	310	198
Ⅱ	-860	G	2930	—	胴	暗灰	白粒、輝・角	沈線文間に刺突列。無文部にミガキ痕あり。	称名寺	310	198
Ⅱ	-860	G	2931	—	胴	暗灰褐	白粒	沈線文間に刺突列。	称名寺	310	198
Ⅱ	-860	G	2932	—	胴	橙	赤粒、輝・角	沈線、刺突列。	称名寺	310	198
Ⅱ	-860	G	2933	—	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	沈線文、刺突文。	称名寺	310	198
Ⅱ	-860	G	2934	—	胴	暗灰褐	輝・角	沈線文、刺突列。	称名寺	310	198
Ⅱ	-860	G	2935	—	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	沈線、刺突列点文。	称名寺	310	198
Ⅱ	-860	G	2936	—	胴	浅黄橙	白粒、輝・角	沈線間に刺突列点文。	称名寺	310	198
Ⅱ	-860	G	2937	—	胴	鈍黄橙	白粒、小石	沈線文間に円形刺突列。	称名寺	310	198
Ⅱ	-810	G	2938	—	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	沈線文に沿って刺突列。縄文。	称名寺	310	198
Ⅱ	-810	G	2939	—	胴	鈍黄橙	輝・角僅	沈線文、竹管刺突列点文。	称名寺	310	198
Ⅱ	-860	G	2940	—	胴	浅黄橙	輝・角、小石	沈線文間に条線文。	称名寺	310	198
Ⅱ	-860	G	2941	—	胴	浅黄橙	白粒僅	沈線文。	称名寺	310	198
Ⅱ	-860	G	2942	—	胴	浅黄橙	輝・角僅	沈線文。	称名寺	310	198
Ⅱ	-860	G	2943	—	胴	浅黄橙	白粒、赤粒、輝・角	沈線文。2944 と同一個体。	称名寺	311	198
Ⅱ	-860	G	2944	—	胴	浅黄橙	白粒、赤粒、輝・角	沈線文。2943 と同一個体。	称名寺	311	198
Ⅱ	-860	G	2945	—	胴	淡橙	白粒、小石	沈線文。2946、2947 と同一個体。	称名寺	311	198
Ⅱ	-860	G	2946	—	胴	淡橙	白粒、小石	沈線文。2945、2947 と同一個体。	称名寺	311	198
Ⅱ	-860	G	2947	—	胴	淡橙	白粒、小石	沈線文。2945、2946 と同一個体。	称名寺	311	198
Ⅱ	-860	G	2948	—	胴	灰褐	白粒、輝・角	沈線文。	称名寺	311	198
Ⅱ	-860	G	2949	—	胴	鈍黄橙	輝・角、小石	沈線文。	称名寺	311	198
Ⅱ	-860	G	2950	—	胴	淡橙	輝・角僅	沈線文。	称名寺	311	198
Ⅱ	-860	G	2951	—	胴	鈍橙	輝・角、石英、小石	沈線文。	称名寺	311	198
Ⅱ	-860	G	2952	—	胴	灰	白粒、輝・角	沈線文。	称名寺	311	198
Ⅱ	-860	G	2953	—	胴	鈍橙	白粒、小石	沈線文。	称名寺	311	198
Ⅱ	-860	G	2954	—	胴	淡橙	輝・角、小石	沈線文。	称名寺	311	198
Ⅱ	-860	G	2955	—	胴	鈍黄橙	小石	沈線文。	称名寺	311	198
Ⅱ	-860	G	2956	—	胴	淡橙	輝・角僅	沈線文。	称名寺	311	198
Ⅱ	-840	G	2957	—	胴	浅黄橙	輝・角僅	沈線文。	称名寺	311	198
Ⅱ	-810	G	2958	—	胴	灰褐	輝・角僅	沈線文。	称名寺	311	198
Ⅱ	-810	G	2959	—	胴	灰白	輝・角僅	沈線文。	称名寺	311	198
Ⅱ	-840	G	2960	—	胴～底	橙	白粒、赤粒	胴部無文。	称名寺	312	199
Ⅱ	-810	G	2961	—	底	浅黄橙	輝・角、小石	ほぼ平底。胴部は無文。（底径 7.4cm）	称名寺	312	199
Ⅱ	-860	G	2962	—	底	淡橙	輝・角、小石	無文。端部がやや角張る平底。（底径 10.0cm）	称名寺	311	199
Ⅱ	-840	G	2963	—	底	暗灰褐	白粒、輝・角僅	無文。端部は突出し、底面に網代痕あり。（底径 7.1cm）	称名寺	312	199
Ⅱ	-840	G	2964	—	底	橙	白粒、小石	胴部無文。端部はやや突出、平底。	称名寺	312	199
Ⅱ	-860	G	2965	—	底	浅黄橙	小石	端部角張る。平底。	称名寺	312	199
Ⅱ	-810	G	2966	—	底	浅黄橙	白粒、輝・角	端部はやや突出するが、底面は若干丸みを帯びる。胴下半に一部ミガキ痕が残る。（底径 6.2cm）	称名寺	312	199
Ⅱ	-860	G	2967	—	底	浅黄橙	白粒、輝・角	端部がやや丸みを帯びる平底。内面中央が若干盛り上がる。（底径 5.8cm）	称名寺	312	199
Ⅱ	-860	G	2968	—	底	鈍黄橙	白粒、輝・角	沈線、縄文。端部は窄まりやや角張る。平底。（底径 6.5cm）	称名寺	312	199
Ⅱ	-840	G	2969	深鉢	口～胴	暗灰褐	白粒、輝・角、小石	波状口縁に沈線文。括れ部は横位沈線と瘤状の貼付文。胴部は沈線文。2970、2971 は同一個体。	堀之内 1	312	199
Ⅱ	-840	G	2970	深鉢	口～胴	暗灰褐	輝・角、小石	沈線文。2969、2971 は同一個体。	堀之内 1	312	199
Ⅱ	-840	G	2971	深鉢	口	浅黄橙	輝・角、小石	波状口縁部に斜位、口縁部に横位の沈線。胴部は縦横の沈線文。2969、2970 は同一個体。	堀之内 1	312	199
Ⅱ	-840	G	2972	深鉢	口～胴	浅黄橙	輝・角、小石	括れ部より上位に縄文。下位は無文。	堀之内 1	313	199
Ⅱ	-860	G	2973	甕	口～胴	浅黄橙	白粒、小石	口縁部無文帯中に縦位微隆帯。括れ部以下に８の字状貼付文と沈線文、縄文。	堀之内 1	312	199
Ⅱ	-860	G	2974	—	口～胴	暗赤褐	白粒、輝・角、小石	沈線文、縄文。	堀之内 1	312	199
Ⅱ	-840	G	2975	—	口～胴	灰褐	輝・角、小石	縄文。	堀之内 1	312	199
Ⅱ	-840	G	2976	注口土器	ほぼ完形	浅黄橙	白粒、赤粒、輝・角	注口部欠損。沈線を施す２つの把手。底面に網代痕。（口径 6.0cm、底径 9.2cm、器高 17.4cm）	堀之内 1	313	200
Ⅱ	-810	G	2977	—	口～胴	暗灰	小石	斜位沈線。口唇部内側に横位沈線。	堀之内 1	313	200
Ⅱ	-860	G	2978	—	口～胴	鈍褐	輝・角、小石	口唇部沿いに沈線、突起中央に穿孔。胴部には８の字状の微隆帯。	堀之内 1	313	200
Ⅱ	-840	G	2979	—	口～胴	黄白	白粒、輝・角、小石	８の字状貼付文。沈線文と縄文。	堀之内 1	313	200
Ⅱ	-860	G	2980	—	口	灰	輝・角	縦横に鎖状隆帯。内側には沈線文。	堀之内 1	313	200
Ⅱ	-860	G	2981	—	口付近	鈍褐	輝・角、小石	口唇部に沈線。口縁部無文帯の下に沈線文。	堀之内 1	313	200

遺物番号				器種	部位	色調	胎　土	特　徴・法　量　等	時期	図版	写真
Ⅱ	-860	G	2982	—	口	浅黄橙	輝・角、小石	緩やかな波状口縁。沈線文と一部に縄文。	堀之内１	313	200
Ⅱ	-840	G	2983	—	口	灰褐	白粒、小石	沈線文。	堀之内１	313	200
Ⅱ	-840	G	2984	—	口	赤褐	白粒、小石	横位のやや大振りな鎖状隆帯。	堀之内１	313	200
Ⅱ	-840	G	2985	—	口	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	口唇沿いに沈線。胴部は沈線文、縄文。	堀之内１	313	200
Ⅱ	-860	G	2986	—	口	鈍橙	輝・角、小石	口唇部に円形押圧列。胴部に沈線文。	堀之内１	313	200
Ⅱ	-840	G	2987	—	口	鈍褐	白粒、小石	口唇部に円形押圧列。胴部は沈線文間に刺突列。	堀之内１	313	200
Ⅱ	-810	G	2988	—	口	灰白	白粒僅、輝・角僅	口縁沿いに沈線。胴部は縄文。	堀之内１	313	200
Ⅱ	-840	G	2989	—	口	黄白	小石	口唇部横位沈線、刺突。胴部２条１組沈線。	堀之内１	314	200
Ⅱ	-810	G	2990	—	口	淡橙	輝・角、小石	口唇部上面に刺突列。胴部は無文。	堀之内１	314	200
Ⅱ	-860	G	2991	—	口	浅黄橙	白粒、輝・角僅	口唇部に刺突と沈線。	堀之内１	314	200
Ⅱ	-860	G	2992	—	口	浅黄橙	白粒僅	沈線間に細かい刺突列。	堀之内１	314	200
Ⅱ	-860	G	2993	—	口	淡橙	白粒、輝・角、小石	小波状口縁の内外面に刺突。外面は刺突から同心円状に沈線文。内面は刺突横に沈線。	堀之内１	314	200
Ⅱ	-860	G	2994	—	口	灰	輝・角	内外面に刺突と沈線。	堀之内１	314	200
Ⅱ	-840	G	2995	—	口	鈍褐・黒	輝・角、小石	波状口縁の上面と外面に刺突。胴部は沈線文、煤付着。	堀之内１	314	200
Ⅱ	-840	G	2996	—	口	淡橙	輝・角	口唇部に指頭圧痕。胴部に微かな沈線文。	堀之内１	314	200
Ⅱ	-860	G	2997	—	口	黒褐	白粒	口唇部に隆帯。	堀之内１	314	200
Ⅱ	-840	G	2998	—	口	鈍褐	小石	口唇部に横位沈線。胴部は縄文に２条１組の沈線文。	堀之内１	314	200
Ⅱ	-810	G	2999	—	口	黄白	白粒、輝・角	口唇部に沈線。胴部は縄文。3000 と同一個体。	堀之内１	314	200
Ⅱ	-810	G	3000	—	口	灰黄	白粒、輝・角	口唇部に沈線。胴部は縄文。2999 と同一個体。	堀之内１	314	200
Ⅱ	-860	G	3001	—	口	浅黄橙	輝・角、小石	口縁部無文。横位沈線以下条線文。	堀之内１	314	200
Ⅱ	-810	G	3002	—	口	黒～灰褐	白粒、輝・角	波状口縁の表裏に沈線文。胴部に鎖状隆帯が垂下。	堀之内１	314	200
Ⅱ	-860	G	3003	—	口	鈍褐	輝・角僅	口唇沿いに隆帯貼付。胴部は縄文。	堀之内１	314	200
Ⅱ	-860	G	3004	—	口	暗灰褐	輝・角	口縁部は無文。括れ部に微隆帯。	堀之内１	314	200
Ⅱ	-860	G	3005	—	口	灰褐	白粒	括れ部に細長い楕円形の沈線文。	堀之内１	314	200
Ⅱ	-810	G	3006	—	口	暗灰褐	白粒、輝・角僅	口縁部は大きく内屈し、上面に沈線と８の字状貼付文。胴部は無文。	堀之内１	314	200
Ⅱ	-860	G	3007	—	口	黒	白粒	２条の横位隆帯とそれを繋ぐ８の字状貼付文。	堀之内１	314	200
Ⅱ	-860	G	3008	—	口	鈍橙	白粒、小石	８の字状貼付文と沈線文、縄文。	堀之内１	314	200
Ⅱ	-860	G	3009	—	口	黒褐	白粒	口唇部沿いの刻み入り微隆帯、８の字状貼付文。	堀之内１	314	200
Ⅱ	-860	G	3010	—	口	灰	白粒	小波状口縁の下に８の字状貼付文の他、沈線と縄文。	堀之内１	314	201
Ⅱ	-860	G	3011	—	口・突起	鈍黄橙	輝・角	アーチ状と思われる突起は欠落。押圧痕を施す鎖状隆帯と沈線文。	堀之内１	314	201
Ⅱ	-920	G	3012	—	口・突起	鈍褐	白粒、輝・角	突起中央の穿孔の周囲に刺突と繋がる沈線。突起の右側の口唇部に沈線と刺突。胴部は沈線文と条線文。	堀之内１古	314	201
Ⅱ	-860	G	3013	—	括れ部	黒褐	白粒	８の字状貼付文、隆帯文。沈線の四角い区画。	堀之内１	314	201
Ⅱ	-810	G	3014	—	突起	淡橙	赤粒、輝・角	８の字をモチーフとする突起。刺突と沈線で文様を構成。内面から２段に穿孔され、上位の孔は貫通する。	堀之内１	314	201
Ⅱ	-860	G	3015	—	把手	鈍橙～黒	白粒僅	無文の橋状把手。括れ部に沈線文。	堀之内１	314	201
Ⅱ	-860	G	3016	—	把手	赤褐	白粒、小石	微隆帯と刺突文。	堀之内１	314	201
Ⅱ	-860	G	3017	—	把手	明褐灰	白粒、小石	沈線を施す橋状把手。上部には両側面に沈線渦巻文を持つ突起。括れ部にも沈線文。	堀之内１	314	201
Ⅱ	-860	G	3018	—	胴・把手	黒	白粒、輝・角、小石	三角形の橋状把手。胴部は鎖状隆帯の垂下と、沈線文間に縄文。	堀之内１	315	201
Ⅱ	-860	G	3019	—	胴	暗灰褐	白粒、輝・角	沈線文、細縄文。	堀之内１	315	201
Ⅱ	-860	G	3020	—	胴	黒	輝・角僅、小石	沈線文、縄文。	堀之内１	315	201
Ⅱ	-860	G	3021	—	胴	鈍橙	白粒、小石	沈線文、縄文。	堀之内１	315	201
Ⅱ	-860	G	3022	—	胴	鈍黄橙	輝・角、小石	沈線文、縄文。	堀之内１	315	201
Ⅱ	-860	G	3023	—	胴	灰白	白粒、輝・角、小石	沈線文、縄文。	堀之内１	315	201
Ⅱ	-860	G	3024	—	胴	灰白	白粒、輝・角、小石	沈線文、縄文。	堀之内１	315	201
Ⅱ	-860	G	3025	—	胴	淡橙	輝・角	沈線文と無節縄文か。	堀之内１	315	201
Ⅱ	-860	G	3026	—	胴	淡橙	白粒、輝・角	沈線文、縄文。	堀之内１	315	201
Ⅱ	-810	G	3027	—	胴	淡橙	白粒、輝・角	沈線文、縄文。	堀之内１	315	201
Ⅱ	-810	G	3028	—	胴	橙	白粒、小石	括れ部に２条沈線。胴部は縄文と沈線渦巻文等。3029 と同一個体か。	堀之内１	315	201
Ⅱ	-810	G	3029	—	胴	橙	白粒、小石	括れ部に２条沈線。胴部は縄文と沈線渦巻文等。3028 と同一個体か。	堀之内１	315	201
Ⅱ	-860	G	3030	—	胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	枝垂れ状の沈線、縄文。	堀之内１	315	201
Ⅱ	-840	G	3031	—	胴	暗灰褐	白粒、輝・角、小石	沈線文、細縄文。	堀之内１	315	201
Ⅱ	-810	G	3032	—	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	沈線文、細縄文。	堀之内１	315	201
Ⅱ	-810	G	3033	—	胴	暗灰褐	白粒、輝・角、小石	沈線文、細縄文。	堀之内１	315	201
Ⅱ	-860	G	3034	—	胴	鈍黄橙	輝・角僅	沈線文、条線文。	堀之内１	315	201
Ⅱ	-860	G	3035	—	胴	浅黄橙	輝・角僅	沈線３条。	堀之内１	315	201
Ⅱ	-860	G	3036	—	胴	灰	輝・角	沈線文。	堀之内１	315	201
Ⅱ	-860	G	3037	—	胴	鈍橙	白粒僅	沈線文。	堀之内１	315	201
Ⅱ	-860	G	3038	—	胴	赤褐	白粒僅、小石僅	沈線文。表面研磨。	堀之内１	315	201
Ⅱ	-860	G	3039	—	胴	淡橙	白粒、輝・角	沈線文。	堀之内１	315	201
Ⅱ	-840	G	3040	—	胴	暗赤褐	白粒	沈線文。	堀之内１	315	201
Ⅱ	-840	G	3041	—	胴	明赤褐	白粒、輝・角、小石	沈線文。	堀之内１	315	201
Ⅱ	-860	G	3042	—	胴	灰白	白粒、輝・角僅	環状貼付文に刻みを入れた隆帯。その周りは沈線文。	堀之内１	315	201
Ⅱ	-860	G	3043	—	胴	暗灰褐	白粒、輝・角	刻みを入れた隆帯。	堀之内１	315	201

遺物番号				器種	部位	色調	胎　土	特　徴・法　量　等	時期	図版	写真
Ⅱ	-860	G	3044	－	胴	鈍黄橙	白粒、小石	円形貼付文と繋がる横位隆線の上位は無文、鎖状隆帯。下位は条線文。	堀之内１	316	201
Ⅱ	-860	G	3045	－	胴	黒灰	白粒	櫛状施文具の回転によるブザーマーク状の文様が重なる。	堀之内１	316	201
Ⅱ	-860	G	3046	甕	胴～底	鈍黄橙	白粒、輝・角	２条１組の沈線で渦巻文、重円文等。磨消縄文。	堀之内１	316	201
Ⅱ	-810	G	3047	－	胴	暗灰褐	白粒、小石	無文。	堀之内１	316	202
Ⅱ	-860	G	3048	－	底	赤褐	輝・角僅	沈線間に細縄文。内面にミガキ。（底径 4.2cm）	堀之内１	316	202
Ⅱ	-860	G	3049	－	胴	鈍橙	金雲母僅、小石	縄文後、沈線文。	堀之内１？	316	202
Ⅱ	-810	G	3050	深鉢	口～底	鈍褐	輝・角、小石	無文。直線的に立ち上がり、口唇部内面がやや凹む。（口径 20.0cm、底径 9.8cm、器高 30.2cm）	堀之内２	316	202
Ⅱ	-840	G	3051	深鉢	口～胴	黒	白粒、輝・角	小波状口縁に刺突と沈線。口唇部に横位鎖状隆帯。胴部は沈線文と細縄文。	堀之内２	316	202
Ⅱ	-840	G	3052	深鉢	口～胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	沈線幾何学文、細縄文。	堀之内２	316	202
Ⅱ	-860	G	3053	深鉢	口～胴	灰褐	輝・角僅	口縁沿いに鎖状微隆帯と８の字状貼付文。胴部上半は、沈線文間に縄文。（口径 30.6cm）	堀之内２	316	202
Ⅱ	-840	G	3054	深鉢	口	鈍黄橙	小石	無文、粗いナデ。3055 とは同一個体。	堀之内２	316	202
Ⅱ	-840	G	3055	深鉢	口	鈍黄橙	小石	無文、粗いナデ。3054 とは同一個体。	堀之内２	316	202
Ⅱ	-810	G	3056	鉢	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	沈線文、細縄文。	堀之内２	316	202
Ⅱ	-860	G	3057	注口土器	注口部	橙	輝・角、小石	注口下に８の字状貼付文。胴部は沈線、細縄文。（根本内径 1.4cm）	堀之内２	316	202
Ⅱ	-860	G	3058	注口土器	胴	赤	白粒、輝・角僅	沈線文。注口部の付け根。	堀之内２	316	202
Ⅱ	-860	G	3059	－	口～胴	暗赤褐	白粒、小石僅	口縁沿いに鎖状微隆帯と８の字状貼付文。胴部は沈線文。	堀之内２	317	202
Ⅱ	-860	G	3060	－	口～胴	暗灰褐	輝・角僅、小石	口縁沿いに鎖状微隆帯。胴部は沈線幾何学文、細縄文。	堀之内２	317	202
Ⅱ	-810	G	3061	－	口～胴	鈍橙	白粒、輝・角、小石	沈線文間に縄文。	堀之内２	317	202
Ⅱ	-840	G	3062	－	口～胴	鈍橙	白粒、小石	沈線幾何学文の間に縄文。	堀之内２	317	203
Ⅱ	-840	G	3063	－	口～胴	暗赤褐	白粒、赤粒	沈線文、縄文。	堀之内２	317	203
Ⅱ	-810	G	3064	－	口～胴	鈍褐	白粒、輝・角、小石	口唇部内側に沈線。胴部は沈線幾何学文と細縄文。	堀之内２	317	203
Ⅱ	-810	G	3065	－	口～胴	灰褐	白粒、輝・角	口縁沿いに鎖状隆帯。胴部は沈線幾何学文と細縄文。	堀之内２	317	203
Ⅱ	-810	G	3066	－	口～胴	黒褐	白粒、輝・角	口縁部は大きく開き、無文。胴の稜部に横位沈線。	堀之内２	317	203
Ⅱ	-860	G	3067	－	口	灰褐	白粒、輝・角僅	沈線文。	堀之内２	317	203
Ⅱ	-860	G	3068	－	口	灰黄褐	白粒、輝・角	沈線文。	堀之内２	317	203
Ⅱ	-840	G	3069	－	口	橙	白粒、輝・角	沈線文。	堀之内２	317	203
Ⅱ	-860	G	3070	－	口	鈍黄橙	輝・角、小石	刻み入り微隆帯と沈線文、細縄文。	堀之内２	317	203
Ⅱ	-860	G	3071	－	口	橙	白粒、小石	沈線区画、区画内外に縄文。口唇部内側に横位沈線。	堀之内２	317	203
Ⅱ	-810	G	3072	－	口	鈍黄橙	白粒、輝・角	沈線幾何学文、縄文。	堀之内２	317	203
Ⅱ	-810	G	3073	－	口	鈍褐	白粒、輝・角、小石	沈線、縄文。	堀之内２	317	203
Ⅱ	-860	G	3074	－	口	淡橙	白粒、輝・角僅	沈線文間に細縄文。	堀之内２	317	203
Ⅱ	-860	G	3075	－	口	鈍褐	輝・角、小石	沈線間に細縄文。	堀之内２	317	203
Ⅱ	-840	G	3076	－	口	黄白・灰	輝・角、小石	沈線文、細縄文。	堀之内２	318	203
Ⅱ	-860	G	3077	－	口	暗灰褐	輝・角	細縄文。	堀之内２	318	203
Ⅱ	-840	G	3078	－	口	鈍褐	白粒、輝・角、小石	細縄文。	堀之内２	318	203
Ⅱ	-810	G	3079	－	口	暗褐	白粒、輝・角、小石	沈線文。破片左下に条線か。	堀之内２	318	203
Ⅱ	-860	G	3080	－	口	黒褐	輝・角	縄文。	堀之内２	317	203
Ⅱ	-840	G	3081	－	口	灰褐	白粒、小石	口唇部上面に刻みと短沈線、内面は２条横位沈線と上面短沈線の両端位置に刺突。外面は沈線と縄文。	堀之内２	318	203
Ⅱ	-860	G	3082	－	口	暗褐	輝・角	口唇部に刻み、内側に沈線。口縁沿いに鎖状微隆帯。胴部は沈線と縄文。	堀之内２	318	203
Ⅱ	-860	G	3083	－	口	鈍黄橙	白粒、輝・角	鎖状微隆帯が２条。胴部は沈線文と細縄文。3084 は同一個体。	堀之内２	318	203
Ⅱ	-860	G	3084	－	口	鈍黄橙	白粒、輝・角	波状口縁部が欠落。鎖状微隆帯が２条。胴部は沈線文。3083 は同一個体。	堀之内２	318	203
Ⅱ	-840	G	3085	－	口	灰白	輝・角	口唇部に横位鎖状隆帯。胴部は沈線文、細縄文。	堀之内２	318	203
Ⅱ	-840	G	3086	－	口	灰褐	小石	口唇部に鎖状微隆帯。胴部は沈線文、縄文。	堀之内２	318	203
Ⅱ	-860	G	3087	－	口	暗褐	輝・角僅	口唇部に鎖状隆帯。胴部は沈線文間に細縄文。	堀之内２	318	203
Ⅱ	-860	G	3088	－	口	暗褐	白粒、小石	口縁沿いに鎖状隆帯。胴部は沈線文、縄文。	堀之内２	318	203
Ⅱ	-860	G	3089	－	口	浅黄橙	白粒、輝・角	刻み入り微隆帯と沈線文、細縄文。	堀之内２	318	203
Ⅱ	-860	G	3090	－	口	暗褐	輝・角、小石	口唇部に横位鎖状微隆帯。胴部は沈線間に縄文。	堀之内２	318	203
Ⅱ	-860	G	3091	－	口	鈍黄橙	白粒	波状口縁。刻みを入れた微隆帯、沈線と縄文。口唇部内側に横位沈線。	堀之内２	318	203
Ⅱ	-860	G	3092	－	口	黒褐	白粒、輝・角	緩やかな波状口縁。穿孔あり。外面には横位鎖状微隆帯。内面にも沈線と縄文。	堀之内２	318	203
Ⅱ	-840	G	3093	－	口	黒	白粒	口唇部に２段の横位鎖状隆帯。	堀之内２	318	203

遺物番号				器種	部位	色調	胎　土	特　徴・法　量　等	時期	図版	写真
Ⅱ	-810	G	3094	－	口	黒灰	白粒、小石僅	波頂部は欠損するが、沈線と両側に円形刺突。横位鎖状隆帯の下は浅い沈線で斜位に交差。	堀之内２	318	203
Ⅱ	-810	G	3095	－	口	黒褐	輝・角、小石	口唇部上面に刻みと貼付文。胴部は沈線間に縄文。	堀之内２	318	203
Ⅱ	-860	G	3096	－	口	鈍橙	輝・角僅、小石	２段の刻み入り微隆帯と、それに跨る縦位貼付文。	堀之内２	318	203
Ⅱ	-860	G	3097	－	口	鈍褐	輝・角、小石	８の字状貼付文と刻み入り微隆帯。胴部に沈線と細縄文。	堀之内２	318	204
Ⅱ	-860	G	3098	－	口	暗褐	輝・角僅	８の字状貼付文と刻み入り微隆帯。胴部に沈線と細縄文。	堀之内２	318	204
Ⅱ	-860	G	3099	－	口	鈍黄橙	白粒、輝・角	８の字状貼付文と刻みを入れた横位微隆帯。胴部は沈線文間に細縄文。口唇部内側に沈線。	堀之内２	318	204
Ⅱ	-860	G	3100	－	口	黒褐	輝・角僅、小石	８の字状貼付文と鎖状微隆帯。胴部には沈線文と縄文。	堀之内２	318	204
Ⅱ	-860	G	3101	－	口	暗褐	輝・角	口縁部は８の字状貼付文と鎖状微隆帯。胴部は沈線文と細縄文。	堀之内２	318	204
Ⅱ	-860	G	3102	－	口	黒褐	輝・角	波状口縁に８の字状貼付文と横位鎖状微隆帯。内面にも粘土を添付し、沈線渦巻文。	堀之内２	319	204
Ⅱ	-860	G	3103	－	口	鈍橙	白粒、輝・角	８の字状貼付文と刻みを入れた横位微隆帯。胴部は沈線文。	堀之内２	319	204
Ⅱ	-840	G	3104	－	口	灰・淡橙	白粒、小石	口縁部に８の字状貼付文と鎖状微隆帯。胴部は沈線、縄文。	堀之内２	319	204
Ⅱ	-810	G	3105	－	口	鈍黄橙	白粒、輝・角	口縁沿いに刻みを入れた微隆帯と８の字状添付文。体部は沈線文、縄文。	堀之内２	319	204
Ⅱ	-860	G	3106	－	口	鈍褐	白粒、輝・角	口唇部は無文。胴部は縄文。	堀之内２	319	204
Ⅱ	-860	G	3107	－	口	浅黄橙	小石	無文。口唇部内側に沈線。	堀之内２	319	204
Ⅱ	-810	G	3108	－	口	灰褐	輝・角、小石	無文。	堀之内２	319	204
Ⅱ	-810	G	3109	－	突起	黒褐	輝・角、小石	上面が広がり中央に刺突。左は橋状把手風の仕上げ。刺突と沈線による文様構成。	堀之内２	319	204
Ⅱ	-840	G	3110	－	把手	黄白	白粒、輝・角	鶏冠状の頂部側面に沈線渦巻文。本体胴部に沈線文。3111 と同一個体。	堀之内２	319	204
Ⅱ	-840	G	3111	－	把手	黄白	白粒、輝・角	鶏冠状の頂部側面に沈線渦巻文。本体胴部に沈線文、細縄文。3110 と同一個体。	堀之内２	319	204
Ⅱ	-810	G	3112	－	把手	鈍褐	白粒、輝・角、小石	中位が括れる橋状把手。上面中心に穿孔。さらに上部は欠落。下の付け根に刺突、刻みを入れた微隆帯。	堀之内２	319	204
Ⅱ	-810	G	3113	－	把手	橙白	輝・角、小石	無文の橋状把手。胴部は沈線文と細縄文。	堀之内２	319	204
Ⅱ	-860	G	3114	－	胴	暗褐	輝・角、小石	沈線文間に細縄文。	堀之内２	319	204
Ⅱ	-860	G	3115	－	胴	暗褐	輝・角僅	沈線文間に細縄文。	堀之内２	319	204
Ⅱ	-860	G	3116	－	胴	淡橙	輝・角僅、小石	沈線間に細縄文。	堀之内２	319	204
Ⅱ	-860	G	3117	－	胴	暗灰褐	輝・角僅、小石	沈線文、細縄文。	堀之内２	319	204
Ⅱ	-860	G	3118	－	胴	極暗赤褐	白粒僅、輝・角僅	沈線文間に細縄文。3119 とは同一個体か。	堀之内２	319	204
Ⅱ	-860	G	3119	－	胴	極暗赤褐	白粒僅、輝・角僅	沈線文間に細縄文。3118 とは同一個体か。	堀之内２	319	204
Ⅱ	-860	G	3120	－	胴	暗灰褐	白粒僅	沈線文、細縄文。	堀之内２	319	204
Ⅱ	-860	G	3121	－	胴	褐灰～黒	白粒	沈線文、細縄文。	堀之内２	319	204
Ⅱ	-860	G	3122	－	胴	黒褐	小石	沈線文、細縄文。	堀之内２	319	204
Ⅱ	-860	G	3123	－	胴	鈍黄橙	輝・角僅、小石	沈線文間に縄文。	堀之内２	319	204
Ⅱ	-860	G	3124	－	胴	橙	小石	沈線文、細縄文。	堀之内２	319	204
Ⅱ	-860	G	3125	－	胴	浅黄橙	白粒、小石	沈線文、細縄文。	堀之内２	319	204
Ⅱ	-860	G	3126	－	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	沈線文、細縄文。	堀之内２	319	204
Ⅱ	-860	G	3127	－	胴	暗灰褐	白粒、小石	沈線文、細縄文。	堀之内２	319	204
Ⅱ	-840	G	3128	－	胴	黒・灰褐	白粒、輝・角	沈線渦巻文、細縄文。	堀之内２	319	204
Ⅱ	-840	G	3129	－	胴	暗灰褐	白粒、小石	沈線文間に細縄文。	堀之内２	320	204
Ⅱ	-840	G	3130	－	胴	暗灰	輝・角、小石	沈線文、細縄文。	堀之内２	320	204
Ⅱ	-840	G	3131	－	胴	鈍褐	輝・角僅	沈線文、細縄文。	堀之内２	319	204
Ⅱ	-810	G	3132	－	胴	赤褐	輝・角、小石	沈線文間に細縄文。	堀之内２	320	204
Ⅱ	-860	G	3133	－	胴	黒褐	輝・角僅、小石	沈線間に縄文。3100 と同一個体か。	堀之内２	320	204
Ⅱ	-860	G	3134	－	胴	鈍橙	輝・角、小石	沈線文、縄文。	堀之内２	320	204
Ⅱ	-860	G	3135	－	胴	黒褐	輝・角、小石	沈線文、縄文。	堀之内２	320	204
Ⅱ	-860	G	3136	－	胴	灰白	輝・角、小石	沈線文、縄文。	堀之内２	320	204
Ⅱ	-860	G	3137	－	胴	黒、灰褐	白粒、木	沈線幾何学文、縄文。	堀之内２	320	205
Ⅱ	-860	G	3138	－	胴	鈍黄橙	輝・角、小石	沈線文、縄文。	堀之内２	320	205
Ⅱ	-860	G	3139	－	胴	鈍黄橙	輝・角	沈線文、縄文。	堀之内２	320	205
Ⅱ	-860	G	3140	－	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	沈線文、縄文。	堀之内２	320	205
Ⅱ	-860	G	3141	－	胴	暗灰褐	白粒、輝・角僅	沈線文、縄文。	堀之内２	320	205
Ⅱ	-860	G	3142	－	胴	浅黄橙	白粒、小石	沈線文、縄文。	堀之内２	320	205
Ⅱ	-860	G	3143	－	胴	灰黄褐	白粒、小石	沈線文、縄文。	堀之内２	320	205
Ⅱ	-860	G	3144	－	胴	極暗赤褐	輝・角、小石	沈線文、僅かに縄文。	堀之内２	320	205
Ⅱ	-860	G	3145	－	胴	鈍黄橙	輝・角、小石	沈線文、縄文。	堀之内２	320	205
Ⅱ	-860	G	3146	－	胴	鈍黄橙	輝・角多、小石	沈線文、縄文。	堀之内２	320	205
Ⅱ	-860	G	3147	－	胴	浅黄橙	白粒、	沈線、縄文。	堀之内２	320	205
Ⅱ	-860	G	3148	－	胴	黄白・黒	白粒、輝・角、小石	沈線文、縄文。	堀之内２	321	205
Ⅱ	-860	G	3149	－	胴	灰・淡橙	白粒、輝・角	沈線文、縄文。	堀之内２	320	205
Ⅱ	-840	G	3150	－	胴	鈍橙	白粒、小石	沈線幾何学文の間に縄文。	堀之内２	321	205
Ⅱ	-840	G	3151	－	胴	黒褐	白粒、小石	沈線文、縄文。	堀之内２	320	205
Ⅱ	-840	G	3152	－	胴	暗褐	白粒、小石	沈線文、縄文。	堀之内２	320	205
Ⅱ	-840	G	3153	－	胴	灰褐	白粒、輝・角	沈線文、縄文。	堀之内２	321	205
Ⅱ	-840	G	3154	－	胴	鈍褐	白粒	沈線と縄文による幾何学文。	堀之内２	321	205
Ⅱ	-840	G	3155	－	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	沈線、縄文。	堀之内２	321	205
Ⅱ	-810	G	3156	－	胴	灰黄褐	白粒、小石	沈線文、縄文。	堀之内２	321	205

遺物番号				器種	部位	色調	胎　土	特　徴・法　量　等	時期	図版	写真
Ⅱ	-810	G	3157	—	胴	暗褐	輝・角、小石	沈線文、縄文。	堀之内２	321	205
Ⅱ	-860	G	3158	—	胴	黒褐	白粒	細い沈線間に細かい刺突文。	堀之内２	321	205
Ⅱ	-840	G	3159	—	胴	黒・灰褐	輝・角僅	沈線渦巻文の合間に刺突列。	堀之内２	321	205
Ⅱ	-810	G	3160	—	胴	鈍黄橙	白粒	沈線と刺突による文様描出。隙間に縄文。3171 と同一個体か。	堀之内２	321	205
Ⅱ	-860	G	3161	—	胴	橙	小石	沈線文。	堀之内２	321	205
Ⅱ	-860	G	3162	—	胴	鈍褐	白粒、小石	沈線文。	堀之内２	321	205
Ⅱ	-860	G	3163	—	胴	橙	白粒、小石	粗いナデ。	堀之内２	321	205
Ⅱ	-810	G	3164	—	胴～底	暗灰褐	小石	胴部に沈線文、細縄文。底部は端部突出、底面に網代痕あり。	堀之内２	321	206
Ⅱ	-860	G	3165	—	底	淡橙	輝・角	胴部に沈線と細縄文。端部突出。底面に網代痕あり。（底径 7.4cm）	堀之内２	321	206
Ⅱ	-860	G	3166	—	底	鈍橙	白粒、小石	胴部無文。端部突出する平底。底面に網代痕。	堀之内２	321	206
Ⅱ	-860	G	3167	—	口	暗灰褐	白粒	沈線文間に細縄文。	堀之内２？	321	206
Ⅱ	-860	G	3168	注口土器	注口部	褐灰	白粒、輝・角	無文。断面円形で先細り。（根本内径 2.0cm）	堀之内	321	206
Ⅱ	-840	G	3169	—	把手	鈍褐	白粒、小石	無文。先端欠損。	堀之内	321	206
Ⅱ	-840	G	3170	—	把手	鈍黄橙	白粒、小石	無文。先端欠損。	堀之内	321	206
Ⅱ	-810	G	3171	—	胴	鈍黄橙	白粒	沈線と刺突による文様描出。隙間に縄文。3160 と同一個体か。	堀之内	321	206
Ⅱ	-810	G	3172	—	胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	横位から環状に垂れる隆帯文の連結部に２つの８の字状貼付文。縄文。	堀之内	321	206
Ⅱ	-860	G	3173	—	底	鈍橙	白粒	無文。端部が突出する平底。底面に網代痕あり。	堀之内	321	206
Ⅱ	-860	G	3174	—	底	浅黄橙	輝・角	無文。端部がやや突出する平底。（底径 8.6cm）	堀之内	322	206
Ⅱ	-860	G	3175	—	底	鈍橙	輝・角僅、小石	無文。端部がやや突出する平底。底面に微かに網代痕あり。（底径 7.8cm）	堀之内	322	206
Ⅱ	-840	G	3176	—	底	橙	輝・角、小石	胴部無文。端部がやや突出。平底で底面に網代痕あり。（底径 9.8cm）	堀之内	322	206
Ⅱ	-840	G	3177	—	底	明赤褐	輝・角僅	胴部無文。端部が強く突出。平底。（底径 9.2cm）	堀之内	322	206
Ⅱ	-840	G	3178	—	底	橙	白粒、輝・角、小石	胴部無文。端部がやや突出。平底で底面に網代痕あり。（底径 8.0cm）	堀之内	322	206
Ⅱ	-840	G	3179	—	底	浅黄橙	白粒、小石	端部突出、無文。平底。（底径 11.0cm）	堀之内	322	206
Ⅱ	-840	G	3180	—	底	浅黄橙	白粒、輝・角	端部突出、平底。底面に網代痕あり。胴部は無文。（底径 11.6cm）	堀之内	322	206
Ⅱ	-840	G	3181	—	底	鈍褐	白粒、輝・角	胴部無文。端部突出する平底。底面に網代痕あり。	堀之内	322	206
Ⅱ	-810	G	3182	—	底	浅黄	白粒、小石	胴部無文。平底の底面に網代痕あり。（底径 7.1cm）	堀之内	322	206
Ⅱ	-810	G	3183	—	底	淡橙	白粒、輝・角	胴部無文。端部突出し、若干上げ底。（底径 13.0cm）	堀之内	322	206
Ⅱ	-810	G	3184	—	底	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	胴部無文。端部突出し、底面に網代痕あり。	堀之内	322	206
Ⅱ	-810	G	3185	—	底	灰	白粒、輝・角	胴部無文。端部は若干突出、底面に網代痕あり。	堀之内	322	206
Ⅱ	-860	G	3186	—	底	鈍橙	白粒、輝・角、小石	端部が突出する平底。底面に微かに網代痕が残る。（底径 11.0cm）	堀之内	322	206
Ⅱ	-860	G	3187	—	底	鈍橙	白粒僅、輝・角	端部が突出する平底。底面に網代痕あり。（底径 9.0cm）	堀之内	322	206
Ⅱ	-860	G	3188	—	底	橙	白粒、輝・角	端部突出、平底。底面に網代痕あり。	堀之内	322	206
Ⅱ	-860	G	3189	—	底	赤褐	白粒、輝・角、小石	端部突出。底面に網代痕あり。（底径 13.4cm）	堀之内	322	206
Ⅱ	-840	G	3190	—	底	淡橙	白粒、輝・角多	胴部に縄文。平底の底面に微かに網代痕あり。（底径 7.9cm）	堀之内	322	206
Ⅱ	-860	G	3191	—	底	橙	白粒、輝・角	端部突出。底面に網代痕あり。（底径 9.8cm）	堀之内	322	206
Ⅱ	-860	G	3192	—	底	浅黄橙	白粒、輝・角、小石	端部突出。底面に網代痕あり。	堀之内	322	206
Ⅱ	-860	G	3193	—	底	鈍褐	白粒、小石	端部突出。底面に網代痕あり。	堀之内	322	206
Ⅱ	-840	G	3194	—	底	鈍黄橙	白粒、輝・角、小石	端部が突出し、反って立ち上がる。平底の底面に網代痕あり。（底径７.6cm）	堀之内	322	206
Ⅱ	-810	G	3195	—	胴	鈍褐	小石	弧状に重なる刺突列。	三十稲場	322	206
Ⅱ	-860	G	3196	—	底	浅黄橙	輝・角、小石	無文。平底。底面に網代痕。（底径 7.4cm）	後期初頭	323	206
Ⅱ	-860	G	3197	—	口	暗灰褐	白粒、輝・角	口縁沿いに刻み入り隆帯。帯縄文に区切り文。	加Ｂ１	323	206
Ⅱ	-840	G	3198	—	口	暗褐灰	白粒、輝・角	口唇部上面に刻み、内面に稜あり。胴部は括れ部まで矢羽状沈線文。	加Ｂ１	323	207
Ⅱ	-840	G	3199	—	口	鈍黄橙	小石	口唇部沿いに８の字状貼付文と縄文。稜の上は無文、下はランダムな沈線。	加Ｂ１	323	207
Ⅱ	-840	G	3200	—	突起	橙	白粒、小石	突起の形状は欠損のため不明。両脇に環状貼付文。その下に横位の刻み入り隆線。	加Ｂ１	323	207
Ⅱ	-810	G	3201	—	胴	鈍褐	白粒、輝・角	沈線、縄文、区切り文。	加Ｂ１	323	207
Ⅱ	-860	G	3202	—	胴	灰褐	白粒、輝・角、小石	２条の沈線間に縄文。	加Ｂ１？	323	207
Ⅱ	-860	G	3203	—	口	黒灰	白粒、小石	５単位の波状口縁か。内面の口唇部沿いに沈線。胴部は矢羽状沈線文。	加Ｂ３	323	207
Ⅱ	-840	G	3204	深鉢	ほぼ完形	浅黄橙	白粒、細砂	ハンドマイク状に口縁が広がる。無文。平底。（口径 19.9cm、底径 5.0cm、器高 26.0cm）	後期	323	207
Ⅱ	-860	G	3205	注口土器	注口部	黒褐	白粒、小石	先端が欠落。無文。断面円形で先細り。（根本内径 1.9cm）	後期	323	207
Ⅱ	-840	G	3206	注口土器	注口部	黄白	白粒、小石	無文。断面ほぼ円形で先端細くなる。（根本内径 2.3cm）	後期	323	207
Ⅱ	-840	G	3207	注口土器	注口部	灰黄	白粒、輝・角、小石	無文。断面円形で肉厚、先細り。（根本内径 2.7cm）	後期	323	207
Ⅱ	-840	G	3208	注口土器	注口部	黄白	白粒、輝・角	無文。断面円形、やや肉厚。（根本内径 1.7cm）	後期	323	207

遺物番号				器種	部位	色調	胎　土	特　徴・法　量　等	時期	図版	写真
Ⅱ	-810	G	3209	注口土器	注口部	鈍黄橙	白粒、小石	無文。断面円形で細長い注口部。（根本内径 1.7cm）	後期	323	207
Ⅱ	-810	G	3210	注口土器	注口部	鈍黄橙	白粒、輝・角	付け根に刻みを入れた微隆帯が巡る。断面円形、やや先細り。（根本内径 2.7cm）	後期	323	207
Ⅱ	-860	G	3211	－	胴	鈍褐	白粒、輝・角僅	無文。	後期	323	207
Ⅱ	-860	G	3212	－	底	灰白	白粒	無文。端部はやや丸みを帯びる。平底。（底径 6.6cm）	後期	323	207
Ⅱ	-860	G	3213	－	底	淡橙	白粒	無文。平底。	後期	323	207
Ⅱ	-840	G	3214	－	完形	浅黄橙	白粒	丸底。手捏ね土器。	？	323	207
Ⅱ	-860	G	3215	－	口	鈍黄橙	白粒、輝・角	口唇部に刺突。胴部は沈線文。	？	323	207
Ⅱ	-860	G	3216	－	口	橙	白粒僅、小石僅	前後の若干ずれた２段の施文具による横位角押し文。内面に稜あり。	？	324	207
Ⅱ	-860	G	3217	－	口	暗褐	白粒	無文。内面にミガキ。	？	324	207
Ⅱ	-860	G	3218	－	口？	鈍褐	白粒	ミニチュア手捏ね土器か。もしくは突起の一部か。胴部に指頭圧痕あり。	？	324	207
Ⅱ	-840	G	3219	－	突起	浅黄橙	白粒僅	大きく広がった上面に 11 個の刺突。	？	324	207
Ⅱ	-810	G	3220	－	胴	橙	白粒、輝・角	沈線の斜格子状文。	？	324	207
Ⅱ	-810	G	3221	－	胴	鈍橙	白粒、輝・角	無文。	？	324	207
Ⅱ	-860	G	3222	－	底	浅黄橙	白粒、赤粒僅	無文。端部がやや角張る平底。（底径 8.8cm）	？	324	207
Ⅱ	-860	G	3223	－	底	黒灰	白粒、小石	胴部無文。平底。（底径 10.0cm）	？	324	207
Ⅱ	-840	G	3224	－	底	橙	白粒、小石	胴部無文。丸底。	？	324	207
Ⅱ	-810	G	3225	－	底	淡橙	輝・角、小石	胴部無文。台付き。（底径 8.8cm）	？	324	207
Ⅱ	-840	G	3226	耳飾り	完形	鈍黄橙	輝・角	無文。断面円形。中央やや括れる。（括れ部外径 2.8cm、内径 1.4cm）	？	324	207
Ⅱ	-860	G	3227	－	完形	淡橙	小石	縄文。	？	324	207
Ⅱ	-860	G	3228	土製円板	完形	浅黄橙	白粒僅	沈線、縄文。（長径 2.7cm）	？	324	207
Ⅱ	-860	G	3229	土製円板	完形	鈍橙	白粒、金雲母	無文。もとは中期中葉の土器。（長径 3.5cm）	？	324	207
Ⅱ	-860	G	3230	土製円板	完形	浅黄橙	白粒	無文。（長径 3.1cm）	？	324	207
Ⅱ	-860	G	3231	土製円板	完形	浅黄橙	白粒	無文。（長径 2.6cm）	？	324	207
Ⅱ	-860	G	3232	土製円板	完形	黄白	輝・角	沈線、磨消縄文。土器再利用。（径 5.2cm）	？	324	207
Ⅱ	-860	G	3233	土製円板	完形	褐灰	白粒	沈線。土器再利用。（径 3.7cm）	？	324	207
Ⅱ	-860	G	3234	土製円板	完形	橙白	白粒、輝・角	条線文。土器再利用。（径 3.8cm）	？	324	207
Ⅰ		表採	3235	深鉢	1/3残存	鈍褐、橙	白粒、輝・角	縄文を施す橋状把手。口縁部無文帯の下に隆帯、一部瘤状に隆起。胴部は縄文。底部は端部がやや張り、外反する。平底。（口径 25.6cm、底径 6.4cm、器高 34.6cm）	加ＥⅣ	324	208
Ⅰ		表採	3236	－	口	鈍黄橙	赤粒、輝・角、小石	口唇部に太沈線と刺突。胴部は沈線文。	称名寺	324	208
Ⅰ		表採	3237	－	口	鈍黄橙	白粒、輝・角	口縁部無文。横位隆線以下縄文。大型破片。	称名寺	325	208
Ⅰ		表採	3238	－	口	橙	赤粒、輝・角、小石	小突起状の波状口縁。胴部は沈線文。	称名寺	324	208
Ⅰ		表採	3239	－	脚	灰褐	白粒、輝・角、小石	横位の沈線蕨手状文。	？	324	208
Ⅱ		表採	3240	－	口	橙	小石	口縁部隆帯区画、区画内縄文。頸部無文。2218 と同一か。	加ＥⅠ	325	208
Ⅱ		表採	3241	－	胴	浅黄橙	輝・角、小石	隆帯と沈線による連弧文。弧の内外に縄文。	加ＥⅠ	325	208
Ⅱ		表採	3242	深鉢	口～胴	赤褐	白粒、小石	口唇部上面に太沈線。口縁部は沈線文。渦巻文部に突起。胴部は縄文。（口径 27.0cm）	加ＥⅠ新	325	208
Ⅱ		表採	3243	－	口～胴	鈍橙	輝・角、小石	渦巻文を持つ小突起。口唇部には沈線。体部は４単位の自由な櫛描文。	加ＥⅡ	325	208
Ⅱ		表採	3244	深鉢	口～胴	鈍黄橙	白粒、輝・角	口縁部は隆帯と沈線による区画と渦巻文、区画内は沈線。頸部は無文。胴部は縦横の沈線と条線文。（口径 27.0cm）	加ＥⅡ	325	208
Ⅱ		表採	3245	深鉢	口～胴	浅黄橙	白粒、輝・角	口唇沿いに２段の刺突列。口縁部、胴部とも条線と沈線文。（口径 26.0cm）	加ＥⅡ	325	208
Ⅱ		表採	3246	深鉢	口～胴	浅黄橙	白粒、小石	口縁部は無文。括れ部以下は縦横の隆帯で区画、区画内は縄文と鋸歯状沈線文。	加ＥⅡ	325	208
Ⅱ		表採	3247	深鉢	胴～底	浅黄橙	輝・角僅	胴部は沈線、磨消縄文。平底。（底径 6.4cm）	加ＥⅡ	324	208
Ⅱ		表採	3248	浅鉢	口	鈍橙	小石	口唇頂部と内外に稜あり。無文。	加ＥⅡ	325	208
Ⅱ		表採	3249	－	口～胴	暗赤褐	輝・角僅、小石	口縁部は隆帯と沈線による区画と渦巻文、区画内は縄文。胴部は縄文後、沈線垂下。	加ＥⅡ	326	208
Ⅱ		表採	3250	－	口～胴	鈍橙	輝・角、小石僅	口縁部は隆帯と沈線による区画と渦巻文、区画内は縄文。胴部は縄文後、縦横の沈線。	加ＥⅡ	326	209
Ⅱ		表採	3251	－	口～胴	浅黄橙	輝・角僅	口縁部は隆帯と沈線による区画と渦巻文、区画内と胴部は縄文。	加ＥⅡ	326	209
Ⅱ		表採	3252	－	口～胴	極暗赤褐	輝・角、小石	口唇部に隆帯、上面に沈線。胴部は縦位隆帯と横位は隆帯をつぶす沈線で文様。全体に撚糸文。	加ＥⅡ	326	209
Ⅱ		表採	3253	－	口	橙	白粒、小石	口縁部は沈線の区画と文様、区画内は縄文。頸部は無文。	加ＥⅡ	326	209
Ⅱ		表採	3254	浅鉢	口	橙	小石僅	口唇部が内傾し、粘土紐を貼り付けて肥厚させる。	加ＥⅡ	326	209
Ⅱ		表採	3255	－	胴	鈍褐	輝・角僅	縄文後、蛇行する隆帯。	加ＥⅡ	326	209
Ⅱ		表採	3256	－	胴	鈍橙	小石	撚糸文、３本１組横位沈線。	加ＥⅡ	326	209

遺物番号				器種	部位	色調	胎　土	特　徴・法　量　等	時期	図版	写真
Ⅱ		表採	3257	－	胴	黄白	輝・角僅、小石	隆帯と沈線による区画と渦巻文、区画内縦位沈線。	加ＥⅡ	327	209
Ⅱ		表採	3258	－	脚	黄灰	輝・角	裾部に太めの沈線。透かし穴２個。	加ＥⅡ	327	209
Ⅱ		表採	3259	深鉢	胴	浅黄橙	輝・角、小石	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	327	209
Ⅱ		表採	3260	－	口	鈍黄橙	輝・角、小石	口縁沿いに２段の刺突列。胴部は細い∩字状沈線文と縄文。	加ＥⅢ	326	209
Ⅱ		表採	3261	－	胴～底	橙	白粒、小石	沈線、磨消縄文。	加ＥⅢ	326	209
Ⅱ		表採	3262	深鉢	口～胴	橙白	白粒、輝・角	隆線で文様区画。胴部は無文部と縄文部の交互構成。内面に若干ミガキか。	加ＥⅣ	327	210
Ⅱ		表採	3263	深鉢	口～底	灰褐・橙	白粒、輝・角	口縁部に横位沈線。胴部は３単位の条線文。（口径 27.3cm、底径 7.3cm、器高 42.1cm）	称名寺	327	210
Ⅱ		表採	3264	深鉢	口～胴	浅黄橙	輝・角、小石	口唇部に刺突と沈線文。胴部は沈線文と細縄文。	堀之内１	327	210
Ⅱ		表採	3265	深鉢	口	鈍褐	白粒、輝・角、小石	小波状口縁に縦位沈線、口唇部沿いに横位沈線。括れ部まで無文で胴部は沈線文と縄文。大型破片。	堀之内１	328	210
Ⅱ		表採	3266	壺	口～胴	暗褐	白粒、小石	括れ部を跨ぐ８の字状貼付文から縦横に鎖状隆帯。胴部は沈線文。（口径 15.0cm）	堀之内１	328	210
Ⅱ		表採	3267	－	口～胴	黄白	輝・角、小石	無文。表面擦れるが粗いナデの痕跡あり。	堀之内１	328	210
Ⅱ		表採	3268	－	口	赤褐	白粒、小石	２単位の小波状口縁下に沈線（）状文と横位沈線。胴部は沈線文と縄文。	堀之内１	328	210
Ⅱ		表採	3269	－	口	淡橙	白粒、小石	無文、粗いナデ。（口径 40.4cm）	堀之内１	328	210
Ⅱ		表採	3270	－	口	浅黄橙	白粒、小石	無文。口唇部に緩い稜あり。横位の粗いナデ。	堀之内１	328	210
Ⅱ		表採	3271	－	胴	鈍橙	白粒	沈線の曲線で文様構成。隙間に縄文。	堀之内１	328	210
Ⅱ		表採	3272	注口土器	完形	暗灰褐	白粒、小石	１対の橋状把手の片方に注口。把手には沈線と刺突。胴部は流水状の沈線文と縄文。稜部に刻み。（口径 9.5cm、底径 8.4cm、器高 10.9cm）	堀之内２	328	211
Ⅱ		表採	3273	－	口	暗褐	輝・角	斜格子状の浅い沈線文。内側口縁沿いに沈線。	堀之内２	328	211
Ⅱ		表採	3274	－	口	暗灰褐	輝・角	口唇部に横位鎖状隆帯。胴部は沈線間に細縄文。	堀之内２	328	211
Ⅱ		表採	3275	－	胴	黒褐	輝・角、小石	沈線文、細縄文。稜部より下は無文か。	堀之内２	329	211
Ⅱ		表採	3276	－	胴	黒褐	輝・角、小石	沈線幾何学文、細縄文。3277 と同一個体。	堀之内２	329	211
Ⅱ		表採	3277	－	胴	黒褐	輝・角、小石	沈線幾何学文、細縄文。3276 と同一個体。	堀之内２	329	211
Ⅱ		表採	3278	－	底	暗赤褐	白粒、輝・角	胴部無文。端部突出。底面に網代痕あり。（底径 5.5cm）	堀之内２	329	211
Ⅱ		表採	3279	蓋	蓋	浅黄橙	輝・角	微隆線の二重円にまたがる二つの橋状のつまみ。	堀之内	328	211
Ⅱ		表採	3280	－	突起他	鈍黄橙	輝・角、小石	内側に折り返す口縁上に突起。欠損のため形状不明。胴部は隆帯と沈線で区画、区画内は縄文。	中期中葉末	329	211
Ⅱ		表採	3281	－	口	黒褐	小石僅	口唇部内側に沈線。胴部は左右からの斜位沈線。	加Ｂ２	329	211
Ⅱ		表採	3282	深鉢	口	鈍黄橙	赤粒、小石	無文。	？	329	211
Ⅱ		表採	3283	－	底	淡橙	白粒	胴部無文。端部は膨らむ。平底。	？	329	211
Ⅱ		表採	3284	土偶	胴	暗赤褐	白粒、赤粒、小石	左右似ているが非対称な沈線文。下腹部に２つの刺突。臀部は大きく張り出す。	？	329	211
Ⅱ		表採	3285	土偶	足	明赤褐	赤粒、輝・角、小石	がに股で足首が太く、どっしりする。付け根に横位沈線。	？	329	211
Ⅱ		表採	3286	土偶	足	赤褐	赤粒、小石	足首と膝？に横位沈線。	？	329	211
Ⅱ		表採	3287	土製円板	完形	鈍黄橙	小石僅	無文か。内面は赤褐色でミガキあり。（径 3.9cm）	？	329	211
Ⅱ		表採	3288	土製円板	完形	暗灰褐	金雲母、小石	隆帯文、沈線文。（径 3.7cm）	？	329	211
Ⅱ		表採	3289	土製円板	完形	灰白	白粒、輝・角	沈線、磨消縄文。（径 5.6cm）	？	329	211
Ⅱ		表採	3290	土製円板	完形	暗灰褐	白粒、小石	条線文。（径 3.2cm）	？	329	211

部位・・・口＝口縁部、胴＝胴部、底＝底部　　胎土・・・白粒＝白色粒、赤粒＝赤色粒、輝・角＝輝石・角閃石

表８　石器観察表

（最大長、最大幅、最大厚の単位はｃｍ、重量の単位は原則ｇだが、斜字はｋｇ）

区	遺物番号				遺物種	石 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	備考・特記事項	図版	写真
Ⅰ	1	号	住居	8	打斧	雲石片岩	17.1	8.3	2.8	442.3	刃部一部摩滅。	10	83
Ⅰ	1	号	住居	9	多孔石	粗輝安岩	15.6	14.8	7	1980.0		10	83
Ⅰ	1	号	住居	10	磨石	粗輝安岩	11.3	9.3	5.4	720.2		11	83
Ⅰ	1	号	住居	11	石棒	緑色片岩	11.6	2.6	2.6	142.7	両端欠損。	11	83
Ⅰ	2	号	住居	16	コア	黒色頁岩	10	13.5	5.8	749.1		14	83
Ⅰ	2	号	住居	17	打斧	黒色頁岩	9.1	3.5	1.8	71.5	刃部一部に摩滅・擦痕。	14	83
Ⅰ	2	号	住居	18	多孔石	粗輝安岩	19.6	22.2	9.8	5120.0		14	84
Ⅰ	2	号	住居	19	台石？	粗輝安岩	20.8	35.6	9.2	6640.0		14	84
Ⅰ	3	号	住居	12	多孔石	粗輝安岩	22	25.4	13	8930.0		18	84
Ⅰ	3	号	住居	13	凹石	粗輝安岩	16.9	22.6	10.1	5580.0		18	84
Ⅰ	3	号	住居	14	敲石	変玄武岩	9.1	2.6	2.3	90.6		18	84
Ⅰ	3	号	住居	15	石皿	粗輝安岩	29.6	29	8.8	8280.0		18	84
Ⅰ	5	号	住居	16	ドリル	黒色頁岩	4.3	2.6	0.8	4.8		23	85
Ⅰ	5	号	住居	17	多孔石	粗輝安岩	28.4	35.8	24.6	*29.8*	重量（kg）。	23	85
Ⅰ	5	号	住居	18	台石	粗輝安岩	26	21.4	8.4	5640.0		23	85

区	遺物番号				遺物種	石 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	備考・特記事項	図版	写真
Ⅰ	5	号	住居	19	棒状礫	緑色片岩	28.3	13.2	10.8	5410.0		23	85
Ⅰ	6	号	住居	36	ドリル	細輝安岩	5	4.6	1.8	31.5		27	87
Ⅰ	6	号	住居	37	打斧	黒色頁岩	12.7	5.2	2.2	126.9	刃部側縁部に摩滅。	27	87
Ⅰ	6	号	住居	38	打斧	黒色頁岩	13.0	4.8	2.1	137.6		27	87
Ⅰ	6	号	住居	39	棒状礫	緑色片岩	12.9	3.8	2.6	192.1		27	87
Ⅰ	7	号	住居	8	打斧	硬質泥岩	7.9	3.9	1.7	52.3	刃部側欠損。	29	88
Ⅰ	7	号	住居	9	皿・多	粗輝安岩	31.4	26.6	12.4	*11.0*	重量（kg）。	29	88
Ⅰ	7	号	住居	10	台石	粗輝安岩	21.2	20.4	8	4220.0		29	88
Ⅰ	7	号	住居	11	棒状礫	緑色片岩	17.4	4.7	4.9	633.0		29	88
Ⅰ	7	号	住居	12	棒状礫	雲石片岩	13	3.6	1.9	130.0		29	88
Ⅰ	8	号	住居	13	打斧	黒色頁岩	10.7	5.4	2.4	158.8	基部側・刃部側欠損、刃部側一部摩滅擦痕。	32	89
Ⅰ	8	号	住居	14	打斧	黒色頁岩	12.0	5.7	2.1	131.0		32	89
Ⅰ	8	号	住居	15	磨石	流紋岩	10.9	8.5	4.2	553.0		32	89
Ⅰ	9	号	住居	29	多孔石	粗輝安岩	22.6	26.2	6	3990.0		36	90
Ⅰ	9	号	住居	30	多孔石	粗輝安岩	16.4	22.4	13.2	5630.0		36	90
Ⅰ	11	号	住居	17	打斧	黒色頁岩	10.7	5.1	1.4	88.3	刃部摩滅・擦痕。	38	91
Ⅰ	13	号	住居	25	石皿	粗輝安岩	15.4	14	6	*16.4*	重量（kg）。	42	92
Ⅰ	14	号	住居	12	打斧	細輝安岩	9.8	4.1	1.7	87.6		45	93
Ⅰ	14	号	住居	13	多孔石	粗輝安岩	20.8	18.2	6.4	2620.0		45	93
Ⅰ	14	号	住居	14	磨石	粗輝安岩	13.2	7.9	4.2	712.5		45	93
Ⅰ	15	号	住居	4	台石	粗輝安岩	29.8	15.6	8.8	4780.0		46	93
Ⅰ	16	号	住居	6	打斧	黒色頁岩	13.7	5.2	2.15	148.9	刃部摩滅・擦痕。	47	93
Ⅰ	16	号	住居	7	皿・多	粗輝安岩	25.8	18	9.6	3870.0		48	93
Ⅰ	16	号	住居	8	皿・多	粗輝安岩	47	31.8	12.6	*20.9*	重量（kg）。	48	93
Ⅰ	16	号	住居	9	石皿	粗輝安岩	36.8	28.4	8.8	8730.0		48	93
Ⅰ	16	号	住居	10	石皿	粗輝安岩	26.8	19.6	8.6	4020.0		48	93
Ⅱ	1	号	住居	25	Sc	細輝安岩	6.3	7.5	2.6	140.5		52	95
Ⅱ	1	号	住居	26	打斧	珪質頁岩	8.2	6.7	2	144.9	基部側欠損。	52	95
Ⅱ	1	号	住居	27	磨・敲	粗輝安岩	10.6	9.6	4.8	642.5		52	95
Ⅱ	1	号	住居	28	棒状礫	雲石片岩	5.8	3.8	1.7	57.6		52	95
Ⅱ	2	号	住居	8	台石	粗輝安岩	16	22.6	9.8	4380.0	磨面あり。	54	96
Ⅱ	3	号	住居	12	石鏃	黒色頁岩	2.6	2.2	0.4	1.9		58	97
Ⅱ	3	号	住居	13	打斧	細輝安岩	8.7	3.8	1.6	60.9	打製石斧を転用したドリルの可能性あり。	58	97
Ⅱ	3	号	住居	14	打斧	黒色安岩	11.7	4.5	2.8	146.5	刃部・先端部欠損。	58	97
Ⅱ	4	号	住居	2	磨・敲	粗輝安岩	16.4	14.6	7.4	2340.0		59	97
Ⅱ	5	号	住居	11	磨・敲	粗輝安岩	16.4	9.1	5.1	864.8		61	98
Ⅱ	6	号	住居	24	打斧	黒色頁岩	6.9	5	1.5	59.9	基部欠損。	66	99
Ⅱ	6	号	住居	25	打斧	黒色頁岩	6.5	5.9	1.4	54.8	基部側欠損。	66	99
Ⅱ	6	号	住居	26	石皿	粗輝安岩	10.4	13	9.5	1385.0		66	99
Ⅱ	6	号	住居	27	台石	溶結凝岩	15	26.1	4.4	2830.0		66	99
Ⅱ	6	号	住居	28	多孔石	粗輝安岩	41.9	28	24.4	*31.0*	重量（kg）。	66	99
Ⅱ	7	号	住居	8	打斧	黒色頁岩	10.1	6.7	2.1	95.6	刃部摩滅擦痕。	68	100
Ⅱ	7	号	住居	9	多孔石	粗輝安岩	22.7	35.4	18	*18.1*	重量（kg）。	68	100
Ⅱ	9	号	住居	9	Sc	黒色頁岩	7.6	7.7	1.8	120.1		71	101
Ⅱ	9	号	住居	10	打斧	細輝安岩	8.3	7.8	2.6	151.4	基部側欠損。	71	101
Ⅱ	9	号	住居	11	多孔石	粗輝安岩	22.8	28.4	11.4	8850.0		71	101
Ⅱ	9	号	住居	12	棒状礫	緑色片岩	7.5	2.7	0.7	27.7	側縁部に連続した剥離痕。	71	101
Ⅱ	10	号	住居	39	打斧	黒色頁岩	10.8	4.6	2.5	138.4	刃部欠損。	75	102
Ⅱ	10	号	住居	40	打斧	ホルンフ	9.5	4	1.2	50.9	刃部破損後僅かに再加工。	75	102
Ⅱ	10	号	住居	41	打斧	珪質頁岩	8.2	10.2	3.2	298.0	刃部側欠損。	75	102
Ⅱ	10	号	住居	42	皿・多	粗輝安岩	20.8	16	9.6	3230.0		75	102
Ⅱ	10	号	住居	43	皿・多	粗輝安岩	15	26.6	9.4	3580.0	赤色顔料付着。	75	102
Ⅱ	10	号	住居	44	磨石	粗輝安岩	21.4	12.7	8.1	2950.0	赤色顔料付着。	75	102
Ⅱ	10	号	住居	45	敲石	粗輝安岩	12.9	9.6	6.7	978.9		75	102
Ⅱ	16	号	住居	11	打斧	黒色頁岩	9.3	5.7	2	119.1	基部側欠損、刃部摩滅擦痕。	81	103
Ⅱ	16	号	住居	12	打斧	黒色頁岩	8	4.1	1.8	75.0		81	103
Ⅱ	18	号	住居	2	打斧	黒色頁岩	6.5	5	2.05	55.6		81	104
Ⅱ	18	号	住居	3	多孔石	粗輝安岩	15.8	21.6	12.6	4540.0		81	104
Ⅱ	19	号	住居	37	棒状礫	黒色片岩	6	1.8	0.8	9.2		86	106
Ⅱ	19	号	住居	38	打斧	黒色頁岩	8.1	4.5	1.7	73.8	基部側欠損、刃部・側縁部摩滅擦痕。	86	106
Ⅱ	19	号	住居	39	打斧	黒色頁岩	11.9	5.1	2.95	193.3	刃部破損後に一部再加工。	86	106
Ⅱ	19	号	住居	40	Sc	細輝安岩	8.5	4	1.3	38.6		86	106
Ⅱ	20	号	住居	38	Sc	砂岩	6.9	5.5	2.4	82.5		90	107
Ⅱ	20	号	住居	39	ドリル	変玄武岩	4.7	3.2	1.4	16.9		90	107
Ⅱ	20	号	住居	40	打斧	黒色頁岩	10.2	4.3	2	84.5	刃部摩滅擦痕。	90	107
Ⅱ	20	号	住居	41	打斧	黒色頁岩	10.9	4.7	1.65	63.5		90	107
Ⅱ	20	号	住居	42	皿・多	粗輝安岩	24	21.2	8.6	4450.0		90	107
Ⅱ	20	号	住居	43	石棒	緑色片岩	26	9.8	8.8	3300.0		90	107
Ⅱ	21	号	住居	25	打斧	黒色頁岩	15.5	5.7	1.35	156.6		91	108
Ⅱ	21	号	住居	26	皿・多	粗輝安岩	22.8	17.6	8.6	3820.0		91	108
Ⅱ	21	号	住居	27	棒状礫	緑色片岩	21.2	8.8	4	926.3		91	108

区	遺物番号				遺物種	石 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	備考・特記事項	図版	写真
Ⅱ	25	号	住居	7	皿・多	粗輝安岩	22.4	27.6	10.2	7460.0	赤色顔料付着。	96	109
Ⅱ	25	号	住居	8	石皿	緑色片岩	35	16.8	5.6	4800.0		96	109
Ⅱ	26	号	住居	7	皿・多	粗輝安岩	15	12.6	9.6	2410.0		97	109
Ⅱ	28	号	住居	35	Sc	変質安岩	6.6	5.7	1.2	40.1		102	111
Ⅱ	28	号	住居	36	打斧	ホルンフ	14.5	4.6	2.9	231.0	刃部・側縁部摩滅擦痕。	102	111
Ⅱ	28	号	住居	37	打斧	黒色頁岩	11.4	4.7	2.3	119.4	二次加工が部分的で未製品の可能性。	102	111
Ⅱ	28	号	住居	38	打斧	細輝安岩	10.2	4	2.2	94.0		102	111
Ⅱ	28	号	住居	39	打斧	黒色頁岩	9.5	5	2.2	138.1	刃部側欠損、表・裏・側面擦痕。	102	111
Ⅱ	30	号	住居	36	打斧	細輝安岩	5.6	3.3	1.4	38.1	基部側欠損、刃部・側縁部摩滅擦痕。	108	113
Ⅱ	30	号	住居	37	Sc	ホルンフ	3.8	8	1.2	30.7		108	113
Ⅱ	30	号	住居	38	打斧	ホルンフ	20.2	9.3	5	1315.9		108	113
Ⅱ	30	号	住居	39	打斧	細輝安岩	10.1	5.4	3.15	212.3		108	113
Ⅱ	30	号	住居	40	多孔石	粗輝安岩	16.8	26.8	12.2	6080.0		108	113
Ⅱ	30	号	住居	41	棒状礫	黒色片岩	6.7	2.3	1.3	33.3	側縁部に剥離痕。	108	113
Ⅱ	30	号	住居	42	垂飾	変質安岩	4.6	4.2	0.9	18.6	刻み部上方。	108	113
Ⅱ	31	号	住居	30	Sc	チャート	4.1	3.7	1	13.1		111	114
Ⅱ	31	号	住居	31	ドリル	ホルンフ	3.7	1.6	0.7	4.3	錐部欠損。	111	114
Ⅱ	31	号	住居	32	打斧	細輝安岩	9.2	3.9	1.5	60.0	刃部摩滅擦痕。	111	114
Ⅱ	31	号	住居	33	打斧	黒色頁岩	9.5	4.8	1.7	94.6	基部側欠損、刃部・側縁部摩滅。	111	114
Ⅱ	31	号	住居	34	台石	粗輝安岩	20.2	41	14.4	*15.4*	磨面あり。重量（kg）。	111	114
Ⅱ	33	号	住居	9	打斧	黒色頁岩	9.2	4.9	1.9	114.6	基部側欠損。	114	115
Ⅱ	44	号	住居	1	多孔石	粗輝安岩	13.2	26.4	9	3380.0		115	115
Ⅱ	45	号	住居	5	打斧	黒色頁岩	11	8.5	1.9	119.2		116	115
Ⅱ	46	号	住居	12	磨か台	粗輝安岩	17.6	18.2	8	3430.0	凹み山あり。	118	116
Ⅱ	48	号	住居	8	Sc	黒色頁岩	4.1	8.1	1.5	39.8		122	116
Ⅱ	48	号	住居	9	多孔石	粗輝安岩	20.4	19.8	5	2640.0		122	116
Ⅱ	50	号	住居	6	打斧	チャート	9.3	4	1.5	65.7	刃部・側縁部に一部摩滅擦痕。	127	117
Ⅱ	51	号	住居	2	石皿	粗輝安岩	11.4	15.4	5.4	1006.6	赤色顔料付着。	125	117
Ⅱ	51	号	住居	3	多孔石	粗輝安岩	25.2	24	11.8	*100*	重量（kg）。	125	117
Ⅱ	51	号	住居	4	石棒？	変質安岩	13	5	3.9	469.8	未製品の可能性。	125	117
Ⅱ	52	号	住居	8	多孔石	粗輝安岩	33.8	33.2	19.6	*25.7*	重量（kg）。	127	117
Ⅱ	53	号	住居	2	皿・多	粗輝安岩	24.8	22.2	10.4	6760.0		130	117
Ⅱ	53	号	住居	3	台石	粗輝安岩	21.8	28.6	11.6	9460.0	磨面あり。	130	117
Ⅱ	53	号	住居	4	磨石	粗輝安岩	8.4	9.1	5.2	562.2		128	117
Ⅰ	4	号	配石	2	多孔石	粗輝安岩	15.8	19.2	6.8	2440.0		132	118
Ⅱ	21	号	配石	6	台石	粗輝安岩	18	20.4	8.6	3810.0		137	119
Ⅱ	21	号	配石	7	磨石	溶結凝岩	17.3	8.6	7.1	1768.3		137	119
Ⅱ	21	号	配石	8	磨か台	粗輝安岩	18.4	25.6	7.8	5960.0		137	119
Ⅱ	21	号	配石	9	石棒	デイサイ	22	12	9.6	2220.0		137	119
Ⅱ	22	号	配石	3	多孔石	粗輝安岩	24.6	29.2	16	*10.6*	重量（kg）。	139	119
Ⅰ	2	号	埋甕	2	打斧	黒色頁岩	6.9	4.1	1.3	45.1	基部側欠損、刃部一部摩滅。	140	119
Ⅰ	19	号	土坑	1	多孔石	粗輝安岩	19.6	29.6	8	5720.0		154	121
Ⅰ	24	号	土坑	7	打斧	細輝安岩	11.9	5.5	1.6	133.2		154	121
Ⅰ	35	号	土坑	9	石皿	粗輝安岩	14.2	17.5	5.8	1537.6	赤色顔料付着。	155	122
Ⅰ	58	号	土坑	16	コア	ホルンフ	3.3	3.3	1.8	17.2		156	123
Ⅰ	58	号	土坑	17	打斧	黒色頁岩	9.9	4.5	1.5	74.9	刃部摩滅・擦痕。	156	123
Ⅰ	58	号	土坑	18	打斧	チャート	8.7	3.9	1.4	54.9	刃部摩滅・擦痕。	156	123
Ⅰ	58	号	土坑	19	台石	粗輝安岩	18.3	15.8	8.8	3260.0		156	123
Ⅰ	58	号	土坑	20	凹石	粗輝安岩	9.2	7.9	4.1	348.7		156	123
Ⅰ	58	号	土坑	21	棒状礫	黒色片岩	8.1	2.9	2.3	82.8		156	123
Ⅰ	59	号	土坑	15	打斧	黒色頁岩	9.1	4.7	1.5	62.3		157	123
Ⅰ	59	号	土坑	16	棒状礫	黒色片岩	9.6	3.8	2	106.7	側縁部に敲打痕・剥離痕。	157	123
Ⅰ	67	号	土坑	2	打斧	チャート	8.8	4.9	1.4	64.0	基部側欠損。	159	124
Ⅰ	74	号	土坑	4	コア	黒色頁岩	15.6	12.3	6.7	1399.4		159	124
Ⅰ	84	号	土坑	4	磨石	粗輝安岩	10.1	10.5	7.9	1215.1		159	124
Ⅰ	94	号	土坑	1	石鏃	黒色頁岩	1.3	1.5	0.3	0.4		159	124
Ⅰ	98	号	土坑	6	ドリル	黒色頁岩	5.2	4.5	1.2	23.0		159	125
Ⅰ	98	号	土坑	7	磨石	粗輝安岩	11.5	9.2	5.3	702.8		159	125
Ⅰ	102	号	土坑	3	打斧	珪質頁岩	7.8	4.3	1.4	58.5	刃部側欠損。	160	125
Ⅰ	104	号	土坑	4	楔	黒色頁岩	3.4	2.8	0.7	7.0		160	125
Ⅰ	112	号	土坑	1	打斧	黒曜石	8.6	4.7	1.8	82.0	基部側欠損、刃部に摩滅擦痕。	160	125
Ⅱ	10	号	土坑	7	Sc	黒色頁岩	5.4	4.4	1.5	24.9		197	126
Ⅱ	25	号	土坑	3	Sc	黒色頁岩	5.9	10.3	2.4	110.8		198	127
Ⅱ	25	号	土坑	4	台石	粗輝安岩	17.4	18	13.1	5580.0		198	127
Ⅱ	42	号	土坑	5	皿・多	粗輝安岩	21.6	19.9	15.8	5500.0		199	127
Ⅱ	44	号	土坑	2	磨石	粗輝安岩	19	10.1	5.1	1668.4		199	128
Ⅱ	50	号	土坑	9	Sc	黒色頁岩	5.8	6	1.2	51.6		200	128
Ⅱ	50	号	土坑	10	打斧	黒色頁岩	11.2	5.9	2.6	192.5	基部側欠損。	200	128
Ⅱ	79	号	土坑	6	棒状礫	黒色片岩	11	2.6	1.4	55.2		202	130
Ⅱ	82	号	土坑	4	Sc	黒色頁岩	6.8	8.8	2.4	117.7		203	130
Ⅱ	84	号	土坑	5	楔	ホルンフ	3.3	3.8	1.1	13.6		203	130

区	遺物番号				遺物種	石 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	備考・特記事項	図版	写真
Ⅱ	87	号	土坑	15	磨石	粗輝安岩	11.6	11.2	2.2	438.1		204	131
Ⅱ	94	号	土坑	3	打斧	ホルンフ	10.9	4.35	1.95	110.4		205	131
Ⅱ	134	号	土坑	6	打斧	黒色頁岩	8.7	4.05	1.9	69.4	刃部摩滅擦痕。	207	133
Ⅱ	143	号	土坑	1	打斧	黒色頁岩	13.9	5.7	2.1	180.7	刃部摩滅擦痕、刃部再加工。	207	133
Ⅱ	144	号	土坑	2	打斧	黒色頁岩	9.5	4.45	1.9	81.3		207	133
Ⅱ	148 149	号	土坑	1	棒状礫	黒色片岩	9	3.2	1.1	41.4	側縁部に剥離痕。	208	134
Ⅱ	182	号	土坑	3	台か皿	溶結凝岩	30.2	16.6	5.6	3120.0	磨面あり。	208	134
Ⅱ	195	号	土坑	11	打斧	黒色頁岩	6.9	8.85	1.45	106.0	基部側欠損。	209	135
Ⅱ	201	号	土坑	15	打斧	黒色頁岩	12	5.05	1.6	89.1	刃部摩滅擦痕。	210	136
Ⅱ	201	号	土坑	16	棒状礫	黒色片岩	6.4	3	1.9	66.8	両側縁部に敲打痕。	210	136
Ⅱ	219	号	土坑	3	打斧	細輝安岩	6	4.7	1.2	37.3	基部側欠損、刃部摩滅擦痕。	211	136
Ⅱ	220	号	土坑	4	打斧	黒色頁岩	11.3	6.9	2.5	206.6	裏面一部摩滅擦痕。	211	136
Ⅱ	260	号	土坑	12	打斧	チャート	8.2	5.5	2.2	98.2		213	138
Ⅱ	273	号	土坑	3	ドリル	黒色頁岩	3.4	1.1	0.9	2.6	基部欠損、等倍。	213	138
Ⅱ	397	号	土坑	2	台石？	粗輝安岩	16.2	21	12.4	4980.0	磨面・凹み山あり。	216	139
Ⅱ	432	号	土坑	3	打斧	黒色頁岩	6.7	3	1.8	39.0		216	140
Ⅱ	487	号	土坑	6	打斧	黒色安岩	8.9	4.5	2.1	113.6	刃部側欠損。	217	140
Ⅱ	503	号	土坑	5	Sc	珪質頁岩	7	3.4	2	38.8		218	141
Ⅱ	584	号	土坑	3	打斧	珪質頁岩	7	5.4	1.6	58.9	基部側欠損、刃部・側縁部摩滅擦痕。	220	143
Ⅱ	592	号	土坑	9	棒状礫	雲石片岩	10.7	3.2	2	114.0		221	143
Ⅱ	598	号	土坑	4	打斧	変玄武岩	9.9	5.2	1.5	65.5	基部側欠損、刃部摩滅擦痕。	221	143
Ⅱ	603	号	土坑	1	多孔石	粗輝安岩	15	30.8	10.1	6140.0		222	144
Ⅱ	604	号	土坑	2	皿・多	粗輝安岩	17.6	16.8	8.4	2260.0		222	144
Ⅱ	604	号	土坑	3	台石	粗輝安岩	18.5	16.1	8.6	4290.0	凹み山あり。	222	144
Ⅱ	622	号	土坑	1	磨斧	黒曜石	9.8	4.5	2.6	195.2	基部側破損後に再加工。	222	144
Ⅱ	630	号	土坑	13	皿・多	粗輝安岩	14.3	15.8	6.4	1457.8		223	144
Ⅱ	630	号	土坑	14	多孔石	粗輝安岩	21.5	13.3	10.6	3560.0		223	144
Ⅱ	633	号	土坑	2	ドリル	チャート	3.2	1.3	0.9	1.9		224	145
Ⅱ	652	号	土坑	1	石鏃	黒色頁岩	2.6	1.8	0.35	1.2		225	145
Ⅱ	672	号	土坑	1	敲石	緑色片岩	10.2	3.4	2.3	117.2		225	146
Ⅱ	721	号	土坑	4	磨石	粗輝安岩	15	7.5	7	1100.2		227	147
Ⅱ	746	号	土坑	2	ドリル	珪質頁岩	2.9	2.5	0.8	4.1		227	147
Ⅱ	33	号	柱穴	1	Sc	黒色頁岩	6.3	2.5	1	16.5		231	148
Ⅱ	33	号	柱穴	2	楔	黒色頁岩	2.6	1.6	1.3	4.7		231	148
Ⅱ	2	号	集石	1	凹石	粗輝安岩	11.6	9.2	5.7	771.8		233	149
Ⅱ	3	号	集石	4	多孔石	粗輝安岩	25.2	34.8	11.4	8880.0		234	149
Ⅱ	8	号	集石	1	台石	石英斑岩	20.6	28.4	10.2	7990.0	磨面あり。	234	149
Ⅰ			G	3291	石鏃	黒色安岩	2.1	2	0.4	1.2		329	211
Ⅰ			G	3292	石鏃	黒色安岩	2.6	1.7	0.3	0.9	関部欠損。	329	211
Ⅰ			G	3293	石鏃	チャート	2.9	2.1	0.4	1.7		329	211
Ⅰ			G	3294	石鏃	チャート	1.9	1.7	0.3	0.8		330	211
Ⅰ			G	3295	石鏃	ホルンフ	2.3	1.3	0.4	1.0		330	211
Ⅰ			G	3296	石鏃	デイサイ	2	0.9	0.3	0.4		330	211
Ⅰ			G	3297	ポイント	黒曜石	4.9	3.4	1.3	20.2		330	211
Ⅰ			G	3298	Sc	黒色頁岩	2.4	2.3	0.7	2.4		330	211
Ⅰ			G	3299	Sc	黒色頁岩	3.4	2.4	0.9	4.8		330	211
Ⅰ			G	3300	Sc	黒色頁岩	6.1	8.2	1.2	56.8		330	211
Ⅰ			G	3301	Sc	蛇紋岩	9.2	5.3	1.9	98.3		330	211
Ⅰ			G	3302	Sc	チャート	8.5	5.1	3.8	191.7		331	211
Ⅰ			G	3303	Sc	黒色頁岩	6	12.5	2.7	150.7		330	211
Ⅰ			G	3304	楔	黒色安岩	6.2	7.4	3.0	15.4		331	212
Ⅰ			G	3305	打斧	硬質泥岩	10.7	5.9	1.8	119.0	刃部・側縁部摩滅擦痕。	330	212
Ⅰ			G	3306	打斧	黒色頁岩	8.6	4.1	1.5	73.9	刃部側破損後に一部再加工。	331	212
Ⅰ			G	3307	打斧	珪質頁岩	7.2	4.4	1.7	63.6	基部側破損後に再加工、刃部摩滅擦痕。	331	212
Ⅰ			G	3308	打斧	黒色頁岩	9.7	3.7	1.5	65.1	刃部・側縁部摩滅擦痕。	331	212
Ⅰ			G	3309	打斧	変玄武岩	9	4	1.6	70.2	刃部・側縁部摩滅擦痕。	331	212
Ⅰ			G	3310	打斧	硬質泥岩	9	4.3	1.5	84.8	刃部・側縁部広範囲に摩滅擦痕。	331	212
Ⅰ			G	3311	打斧	細輝安岩	13.3	5.2	3	211.2	刃部・表・裏面一部擦痕。	331	212
Ⅰ			G	3312	打斧	硬質泥岩	9.8	3.8	1.5	61.8	刃部摩滅擦痕。	331	212
Ⅰ			G	3313	打斧	粗輝安岩	15	6.8	3.1	328.3	基部側欠損。	331	212
Ⅰ			G	3314	打斧	細輝安岩	10.3	5.4	2.1	139.4	刃部摩滅擦痕。	331	212
Ⅰ			G	3315	打斧	黒色頁岩	8.8	4.4	1.5	68.4	刃部・側縁部摩滅擦痕。	331	212
Ⅰ			G	3316	打斧	硬質泥岩	8	3.2	1.2	40.2	刃部・側縁部摩滅擦痕。	331	212
Ⅰ			G	3317	打斧	チャート	20.2	7.6	3.7	602.2		332	212
Ⅰ			G	3318	磨斧	蛇紋岩	4.5	2.2	1	16.4		331	212
Ⅰ			G	3319	磨斧	変輝緑岩	3.8	1.6	0.9	9.3		331	212
Ⅰ			G	3320	磨斧	チャート	11	5.3	3	275.9	表・裏面敲打痕で側面・基部のみ研磨、再加工品。	332	212
Ⅰ			G	3321	皿・多	粗輝安岩	16.6	13.8	6.6	1144.4		332	212
Ⅰ			G	3322	皿・多	粗輝安岩	20.8	14.4	6	1742.2		332	212

区	遺物番号				遺物種	石 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	備考・特記事項	図版	写真
Ⅰ			G	3323	多孔石	粗輝安岩	19.4	27.7	9.2	6400.0		332	212
Ⅰ			G	3324	多孔石	粗輝安岩	16.8	23.4	10.6	5000.0		332	212
Ⅰ			G	3325	多孔石	粗輝安岩	15.5	24.3	8.8	3310.0		332	212
Ⅰ			G	3326	凹石	粗輝安岩	13.4	9.1	5	686.8		333	212
Ⅰ			G	3327	磨石	粗輝安岩	10.9	8.8	3.5	464.1		332	212
Ⅰ			G	3328	棒状礫	雲石片岩	10.8	3.9	1.1	79.6	一側縁部に連続した剥離痕	332	212
Ⅰ			G	3329	棒状礫	雲石片岩	24.6	5.8	2.9	750.9		332	212
Ⅰ			G	3330	棒状礫	雲石片岩	12.3	3.6	2.3	162.3	両側縁に抉り状の剥離痕	332	212
Ⅰ			G	3331	棒状礫	黒色片岩	6.2	2.9	1.7	48.0	側縁部に敲打痕と剥離痕	332	212
Ⅰ			G	3332	棒状礫	雲石片岩	14.9	3	2.4	159.9		333	212
Ⅰ			G	3333	棒状礫	黒色片岩	11.7	3	1.8	102.7		333	212
Ⅰ			G	3334	砥石	凝灰砂岩	10.4	7.7	2.7	229.8		333	212
Ⅱ			G	3335	石鏃	チャート	3.75	1.75	0.6	1.6		333	213
Ⅱ			G	3336	石鏃	赤碧玉	2.65	2.15	0.55	2.6		333	213
Ⅱ			G	3337	石鏃	黒曜石	2.3	1.3	0.5	53.6		333	213
Ⅱ			G	3338	ポイント	黒曜石	4.2	3.3	1.2	12.5		333	213
Ⅱ			G	3339	Sc	黒色頁岩	10.5	5.4	1.8	117.3		333	213
Ⅱ			G	3340	Sc	黒色頁岩	6.2	3.5	1.3	27.2		333	213
Ⅱ			G	3341	Sc	黒色頁岩	7	4.8	1.4	34.4		333	213
Ⅱ			G	3342	Sc	珪質頁岩	5.2	4.5	0.9	20.2		334	213
Ⅱ			G	3343	Sc	黒色安岩	4	7.6	1.7	48.0		334	213
Ⅱ			G	3344	Sc	黒色頁岩	4.5	4.6	1.6	36.4		334	213
Ⅱ			G	3345	Sc	黒色頁岩	3.8	4.2	1.6	25.8		334	213
Ⅱ			G	3346	Sc	黒色頁岩	7.1	4.7	1.7	61.2		334	213
Ⅱ			G	3347	Sc	黒色頁岩	6.2	8.1	2.2	129.6		334	213
Ⅱ			G	3348	Sc	黒色頁岩	4.4	8.1	1.4	59.3		334	213
Ⅱ			G	3349	Sc	チャート	7.9	3	1.6	47.1		334	213
Ⅱ			G	3350	Sc	黒色頁岩	8.6	4.6	2.2	81.5		334	213
Ⅱ			G	3351	Sc	黒色頁岩	5.1	7	1.4	39.6	剥落で一部欠落。	335	213
Ⅱ			G	3352	Sc	黒色頁岩	6.6	5	1.2	52.1		335	213
Ⅱ			G	3353	Sc	チャート	6.2	9.5	1.9	100.1		335	213
Ⅱ			G	3354	Sc	黒色頁岩	4	5.8	1.6	32.5		335	213
Ⅱ			G	3355	Sc	変輝緑岩	4	5.8	1.3	26.6		335	213
Ⅱ			G	3356	Sc	変玄武岩	4.5	9.2	1.5	53.6		335	213
Ⅱ			G	3357	ドリル	チャート	2.3	1.6	0.6	0.9		335	213
Ⅱ			G	3358	ドリル	チャート	6.1	3	0.8	6.4		335	213
Ⅱ			G	3359	ドリル		2.3	1.4	0.5	0.9		335	213
Ⅱ			G	3360	楔	黒色安岩	2.2	1.7	0.9	2.7		335	213
Ⅱ			G	3361	楔	黒色安岩	3.4	3.4	1.3	16.9		336	213
Ⅱ			G	3362	コア	チャート	2	2.8	1.4	5.7		336	213
Ⅱ			G	3363	コア	黒色頁岩	2.4	1.9	0.8	3.1		335	213
Ⅱ			G	3364	コア	黒曜石	6.3	13	5.9	483.8		336	213
Ⅱ			G	3365	コア	黒曜石	2.6	2.2	1.2	5.2		336	213
Ⅱ			G	3366	打斧	黒色頁岩	9.4	5.3	2.6	109.1		336	213
Ⅱ			G	3367	打斧	黒色頁岩	10	4.6	2	102.7	刃部やや摩滅。	336	213
Ⅱ			G	3368	打斧	黒色頁岩	8.8	3.6	1.3	48.6	刃部側広範囲に摩滅擦痕。	336	213
Ⅱ			G	3369	打斧	黒色頁岩	9.1	3.9	1.3	52.9	基部側欠損、表・裏面・側縁部の広範囲に摩滅擦痕、刃部再加工。	336	213
Ⅱ			G	3370	打斧	硬質泥岩	8.8	5.6	1.8	97.1	刃部摩滅擦痕。	336	213
Ⅱ			G	3371	打斧	ホルンフ	11.5	4.7	2.5	131.2	刃部・側縁部摩滅擦痕。	337	213
Ⅱ			G	3372	打斧	細輝安岩	8.3	4.9	2	88.3	基部側欠損。	337	213
Ⅱ			G	3373	打斧	ホルンフ	11.1	5.1	2	136.3	刃部・側縁部摩滅。	337	213
Ⅱ			G	3374	打斧	黒色頁岩	11.6	5.4	1.8	104.6	刃部・側縁部摩滅擦痕。	337	213
Ⅱ			G	3375	打斧	黒色頁岩	8.4	4.3	2	92.3	基部側欠損、刃部摩滅。	337	214
Ⅱ			G	3376	打斧	凝珪頁岩	8.9	4.2	1.9	78.0	刃部側破損後再加工、刃部側に摩滅擦痕。	337	214
Ⅱ			G	3377	打斧	黒色頁岩	9	5	1.2	58.9	刃部摩滅擦痕。	337	214
Ⅱ			G	3378	打斧	細輝安岩	10.2	4.2	1.5	63.8	刃部一部摩滅。	337	214
Ⅱ			G	3379	打斧	硬質泥岩	9.3	4.3	1.9	78.4	側縁部摩滅。	337	214
Ⅱ			G	3380	打斧	硬質泥岩	8.9	4	1.7	58.8	刃部・側縁部摩滅擦痕。	337	214
Ⅱ			G	3381	打斧	細輝安岩	9.7	4.7	1.7	89.1	刃部摩滅擦痕。	337	214
Ⅱ			G	3382	打斧	ホルンフ	9.5	3.7	1.5	60.1	刃部・基部摩滅擦痕。	337	214
Ⅱ			G	3383	打斧	細輝安岩	11.2	5.2	1.7	102.1		337	214
Ⅱ			G	3384	打斧	黒色頁岩	7.5	5.1	2.2	109.1	基部側欠損後再加工、刃部再加工、表・裏・側面広範囲に摩滅擦痕。	337	214
Ⅱ			G	3385	打斧	黒色頁岩	6.4	4.3	1.6	54.9		337	214
Ⅱ			G	3386	打斧	黒色頁岩	8.3	3.9	1.7	58.8		338	214
Ⅱ			G	3387	打斧	硬質泥岩	10.8	5	1.7	109.4	刃部・側縁部摩滅擦痕。	338	214
Ⅱ			G	3388	打斧	硬質泥岩	8.9	4.4	2.5	116.0	基部側欠損、刃部・表・裏・側面広範囲に摩滅擦痕、刃部再加工。	338	214
Ⅱ			G	3389	打斧	硬質泥岩	7.9	5	2	86.1		338	214
Ⅱ			G	3390	打斧	硬質泥岩	8.4	5	2.7	109.7	剥落で基部側欠損。	338	214

区	遺物番号				遺物種	石 材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	備考・特記事項	図版	写真
Ⅱ			G	3391	打斧	黒色頁岩	10.2	4.4	2.7	156.3		338	214
Ⅱ			G	3392	打斧	黒色頁岩	6.8	2.1	1	16.0		338	214
Ⅱ			G	3393	打斧	黒色頁岩	11.2	4.5	2	11.6	刃部側縁部摩滅擦痕。	338	214
Ⅱ			G	3394	打斧	黒色頁岩	9.5	4.5	1.8	71.1	刃部・側縁部一部摩滅擦痕。	338	214
Ⅱ			G	3395	打斧	黒色頁岩	10.4	4	1.6	70.5	刃部・側縁部摩滅擦痕。	338	214
Ⅱ			G	3396	打斧	黒色頁岩	10.9	4.7	1.7	100.4	刃部摩滅擦痕。	338	214
Ⅱ			G	3397	打斧	黒色頁岩	7.4	3.3	1.3	36.9		338	214
Ⅱ			G	3398	打斧	細輝安岩	7.5	5.3	2	64.8		338	214
Ⅱ			G	3399	打斧	黒色頁岩	9.6	4.4	1.4	68.5	刃部・側縁部摩滅擦痕。	338	214
Ⅱ			G	3400	打斧	細輝安岩	9.4	4.2	1.8	72.6	刃部・側縁部摩滅擦痕。	338	214
Ⅱ			G	3401	打斧	硬質泥岩	9.1	4.7	1.7	76.5		338	214
Ⅱ			G	3402	打斧	黒色頁岩	12.5	9.2	3	322.6		339	214
Ⅱ			G	3403	打斧	黒色頁岩	10.5	5.9	2.6	158.9	刃部側縁部一部摩滅擦痕・一部剥落。	339	214
Ⅱ			G	3404	打斧	黒色頁岩	13.8	8.9	3.5	47.2	側縁部欠損。	339	214
Ⅱ			G	3405	打斧	黒色頁岩	9.4	6.5	2.2	143.9		339	214
Ⅱ			G	3406	打斧	黒色頁岩	9.2	4.4	1.4	54.3		339	214
Ⅱ			G	3407	打斧	黒色頁岩	10	7.2	3	193.5		339	214
Ⅱ			G	3408	磨斧	変輝緑岩	8.7	5.5	3.3	252.5	基部・側縁部再加工。	339	214
Ⅱ			G	3409	磨斧	変輝緑岩	9.8	5	2.6	254.7	刃部側欠損。	339	214
Ⅱ			G	3410	磨斧	変玄武岩	6.3	4.8	2.4	134.6	基部側欠損。	339	214
Ⅱ			G	3411	磨斧	黒曜石	9.5	4.9	2.9	218.6	刃部側・基部側剥離痕、表・裏面一部敲打痕。	339	214
Ⅱ			G	3412	磨斧	蛇紋岩	11.3	5.8	2.5	276.0		340	214
Ⅱ			G	3413	磨斧	黒色頁岩	9.2	3.5	1.5	76.9		340	214
Ⅱ			G	3414	皿・多	粗輝安岩	19.4	20.4	7.2	2740.0		340	214
Ⅱ			G	3415	皿・多	粗輝安岩	23.8	17.6	8.2	3760.0		340	214
Ⅱ			G	3416	皿・多	粗輝安岩	30.8	17.4	6.4	3770.0		340	214
Ⅱ			G	3417	皿・多	粗輝安岩	16.6	14.2	5.8	1773.0		340	215
Ⅱ			G	3418	皿・多	粗輝安岩	19	23.4	6.6	2570.0		340	215
Ⅱ			G	3419	皿・多	粗輝安岩	31	28.6	7.2	8070.0		340	215
Ⅱ			G	3420	石皿	粗輝安岩	18.2	22.8	7.8	2120.0		340	215
Ⅱ			G	3421	石皿	粗輝安岩	17	19.4	6.2	1871.7		341	215
Ⅱ			G	3422	多孔石	粗輝安岩	13.9	19.5	7.2	2160.0		341	215
Ⅱ			G	3423	凹石	粗輝安岩	12	8.9	5.9	721.7		341	215
Ⅱ			G	3424	磨石	粗輝安岩	11.5	8	4.2	527.1		341	215
Ⅱ			G	3425	磨石	細輝安岩	13	4.5	2.3	228.1		341	215
Ⅱ			G	3426	磨・敲	粗輝安岩	13.2	7.3	2.9	450.4		341	215
Ⅱ			G	3427	敲石	砂岩	15.7	5.5	3.1	430.6		341	215
Ⅱ			G	3428	敲石	硬質泥岩	9	4.5	3.4	203.8	広範囲に敲打痕。	341	215
Ⅱ			G	3429	(敲石)	変質安岩	14.9	7.7	3.4	692.9	端部に剥離痕。	341	215
Ⅱ			G	3430	棒状礫	黒色片岩	9.5	3.8	1.3	70.0	側縁部に連続した剥離痕。	341	215
Ⅱ			G	3431	棒状礫	黒色片岩	11.6	3.5	2	130.3		341	215
Ⅱ			G	3432	棒状礫	黒色片岩	10.9	3.4	2.2	126.0		341	215
Ⅱ			G	3433	棒状礫	黒色片岩	11.2	3.5	1.7	92.6	側縁部に敲打痕・剥離痕。	341	215
Ⅱ			G	3434	棒状礫	黒色片岩	12.9	3.3	2.2	130.9		341	215
Ⅱ			G	3435	棒状礫	黒色片岩	10.4	3	2	89.8		341	215
Ⅱ			G	3436	棒状礫	雲石片岩	11.1	4.1	1.5	115.4	側縁部に剥離痕。	341	215
Ⅱ			G	3437	棒状礫	雲石片岩	10.4	3.4	1.8	106.1	側縁部に連続した剥離痕。	341	215
Ⅱ			G	3438	棒状礫	黒色片岩	15.1	3.7	1.5	116.0		341	215
Ⅱ			G	3439	棒状礫	雲石片岩	15.9	2.9	2.3	146.8		341	215
Ⅱ			G	3440	棒状礫	雲石片岩	13.9	3.4	1.9	149.8	側縁部に敲打痕。	341	215
Ⅱ			G	3441	棒状礫	変玄武岩	10.1	3.5	1.9	94.6		342	215
Ⅱ			G	3442	棒状礫	雲石片岩	20.3	3.6	2.8	308.8		342	215
Ⅱ			G	3443	砥石	砂岩	15.4	7.9	2.3	443.7		342	215
Ⅱ			G	3444	砥か垂	軽石	7	6.8	2.5	75.3	穿孔、磨面あり。	342	215
Ⅱ			表採	3445	石鏃	黒色頁岩	2	1.4	0.4	0.8		342	215
Ⅱ			表採	3446	石鏃	チャート	2.7	1.7	0.6	2.0		342	215
Ⅱ			表採	3447	石鏃	チャート	1.5	0.95	0.25	0.3		342	215
Ⅱ			表採	3448	石鏃	黒色頁岩	3.1	1.85	0.8	4.2		342	215
Ⅱ			表採	3449	石棒	閃緑岩	29.	8.6	6.2	2010.0	自然礫の転用か。	342	215

遺物種・・・皿・多（石皿・多孔石）、磨・敲（磨石・敲石）、磨か台（磨石か台石）、台か皿（台石か石皿）、砥か垂（砥石か垂飾）、Ｓｃ（スクレイパー）

石　材・・・細輝安岩（細粒輝石安山岩）、粗輝安岩（粗粒輝石安山岩）、黒色安岩（黒色安山岩）、変質安岩（変質安山岩）、凝珪頁岩（凝灰質珪質頁岩）、凝灰砂岩（凝灰質砂岩）、溶結凝岩（溶結凝灰岩）、デイサイ（デイサイト）、ホルンフ（ホルンフェルス）

第３章　　まとめ

第１節 下田遺跡の出土石器について

下田遺跡全体（北関道本線Ⅰ～Ⅴ区、側道１～５区)からは､5,583点の石器が出土した｡(単純に「礫」としたものは除く）分布の密度は、住居跡検出の密度とほぼ比例している。これらの器種組成を総括するとともに、石材との関係も概観してみたい。

まず、剥片系の石器の組成を見ると、コアやフレイク類と他１を除く製品1,956点のうちでは、打製石斧が圧倒的に多く、1,573点を占める。割合は80.4％に上る。狩猟具とされる石鏃やポイントは76点で3.9％しかない。他はスクレイパーが167点で8.5%、ドリルが92点で4.7%等である。

打製石斧の短冊形・撥形と分銅形の比率は、本線部の出土分（1,331点）では前者が91.2%（1,214点)、後者は8.8%（117点）である。

磨製石斧は総数が24点で、全体の中では極めて少なく、しかも遺構に伴う出土はない。

一方、礫系の石器を見ると、製品と呼べるものの総数は668点である。もっとも多いのは234点の磨石類（凹石や敲石兼用も含む）で、比率は35.0％である。特に側道２区からの出土が多い。石皿類は多孔石も含めて104点（15.6%）になる。石棒は８点と少ないが､大型で精巧なものが目立つ。

礫系石器の中には、石囲い炉や敷石に転用されていたものも少なからずある。

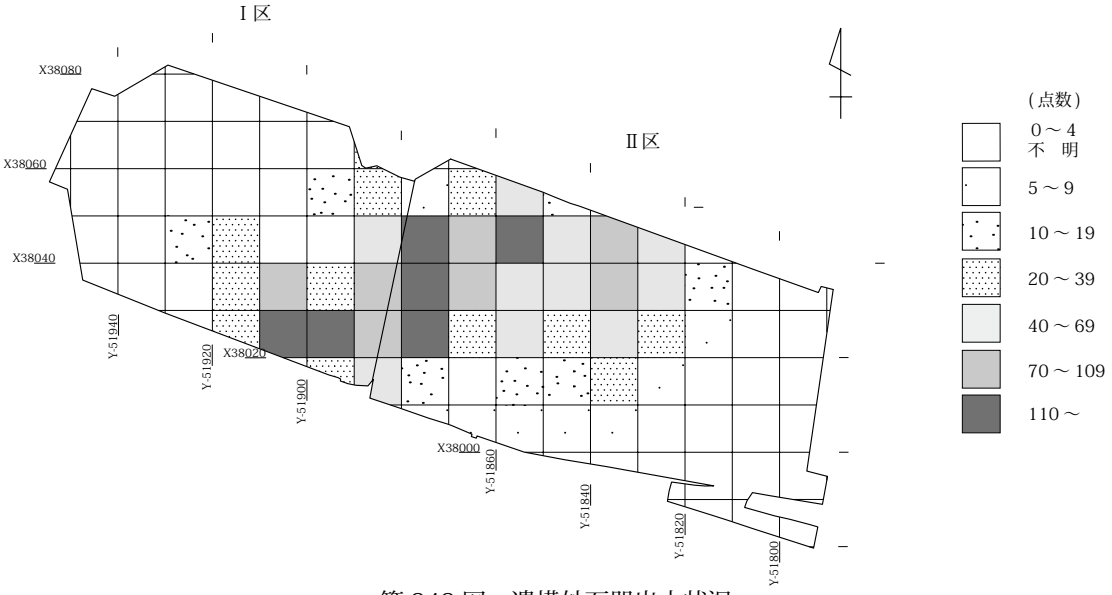
次に下田遺跡の出土石器について、器種と石材との関係を見てみる（第10表参照)。

剥片系の石器で最も多いのが黒色頁岩である。全397点で打製石斧の50.3％（581点中292点)、スクレイパーの69.3％（114点中79点）を占める。次いで打斧を中心に細粒輝石安山岩(全179点)やホルンフェルス(全76点)､石鏃やドリルでチャート（全58点）が多い。他には黒色安山岩や黒曜石も石鏃やドリルに使われている。打斧は上記の石材の他、全16種類の石材から作成されている。

礫系石器（466点）では、粗粒輝石安山岩の346点が突出する。石皿、多孔石、台石、凹石、磨石という主だった礫系石器で、100％近い割合で使用されている。他に目立つのは、棒状礫が黒色片岩と雲母石英片岩でほぼ二分されている。

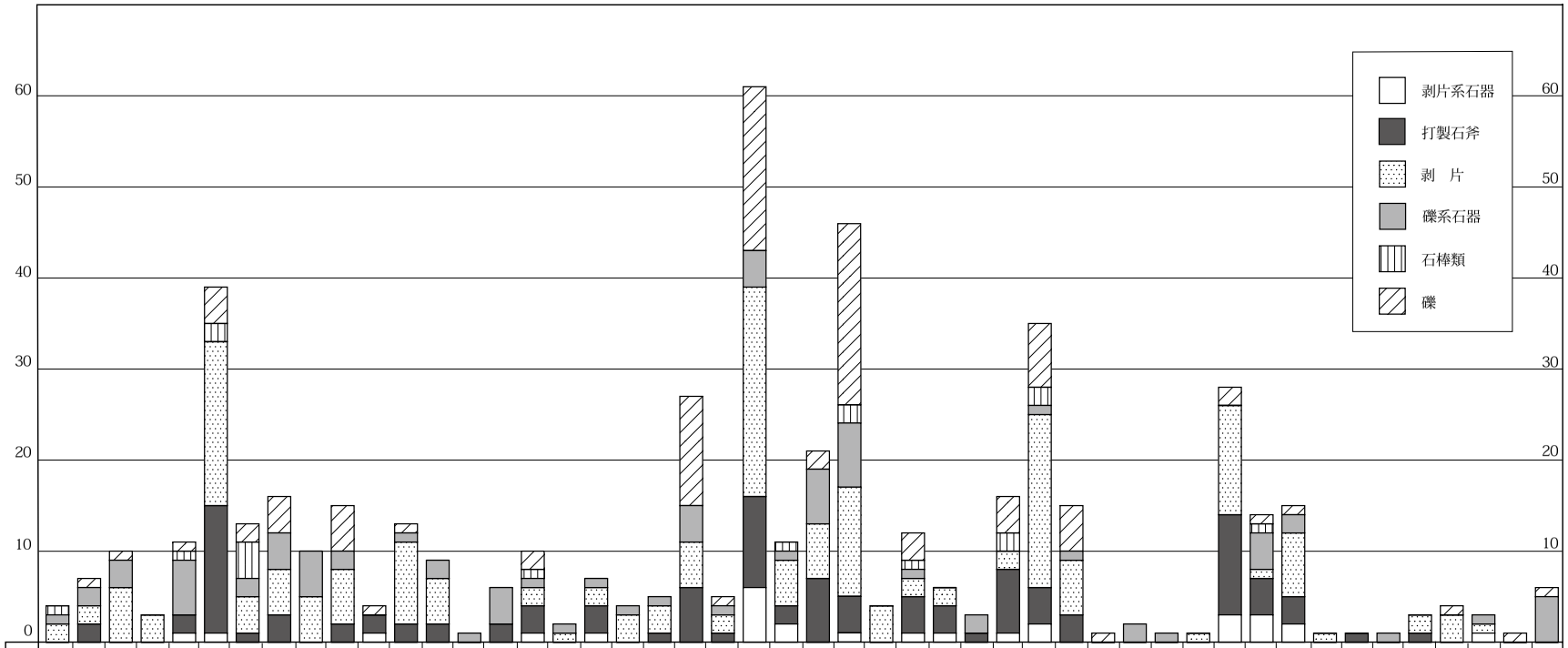
このような傾向は、群馬県内でほぼ一般的に見られる傾向であるといえる。

その他、石器組成表や住居別の石器出土状況等を別表に示すので、ご参照いただきたい。



第343図　遺構外石器出土状況

第９表　住居出土石器総点数表



住居名	1号住居	2号住居	3号住居	4号住居	5号住居	6号住居	7号住居	8号住居	9号住居	10号住居	11号住居	13号住居	14号住居	15号住居	16号住居	1号住居	2号住居	3号住居	4号住居	5号住居	6号住居	7号住居	8号住居	9号住居	10号住居	11号住居	12号住居	13号住居	16号住居	18号住居	19号住居	20号住居	21号住居	22号住居	25号住居	26号住居	27号住居	28号住居	30号住居	31号住居	32号住居	33号住居	44号住居	45号住居	47号住居	48号住居	49号住居	53号住居
区	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ
総計	4	7	11	3	11	39	13	16	10	15	4	13	9	1	6	10	2	7	4	5	27	5	61	11	21	46	4	12	6	3	16	35	15	1	2	1	1	28	14	15	1	1	1	3	4	1	2	6
剥石器	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	6	2	0	1	0	1	1	0	1	2	0	0	0	0	0	3	3	2	0	0	0	0	0	1	0	0
打斧	0	2	0	0	2	14	1	3	0	2	2	2	2	0	2	3	0	3	0	1	6	1	10	2	7	4	0	4	3	1	7	4	3	0	0	0	0	11	4	3	0	1	0	1	0	0	0	0
剥片	2	2	6	3	0	18	4	5	5	6	0	9	5	0	0	2	1	2	3	3	5	2	23	5	6	12	4	2	2	0	2	19	6	0	0	0	1	12	1	7	1	0	0	2	3	1	0	0
礫石器	1	2	3	0	6	0	2	4	5	2	0	1	2	1	4	1	1	1	1	1	4	1	4	1	6	7	0	1	0	2	0	1	1	0	2	1	0	0	4	2	0	0	1	0	0	1	0	5
石棒類	1	0	0	0	1	2	4	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	1	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
礫	0	1	1	0	1	4	2	4	0	5	1	1	0	0	0	2	0	0	0	0	12	1	18	0	2	20	0	3	0	0	4	7	5	1	0	0	0	2	1	1	0	0	0	0	1	0	1	1

剥片石器（石鏃、ポイント、スクレイパー、ドリル、楔形石器）　剥片（コア、フレイク、リタッチドフレイク）　石棒類（石棒、石棒礫）　礫系石器（石皿、多孔石、台石、磨石、敲石、凹石等）

表 10　掲載石器　器種・石材集計表

	雲母石英片岩	軽石	凝灰質珪質頁岩	凝灰質砂岩	珪質頁岩	硬質泥岩	黒色安山岩	黒曜石	黒色頁岩	黒色片岩	細粒輝石安山岩	砂岩	蛇紋岩	石英斑岩	赤碧玉	閃緑岩	粗粒輝石安山岩	チャート	デイサイト	変輝緑岩	変玄武岩	変質安山岩	ホルンフェルス	溶結凝灰岩	流紋岩	緑色片岩	珪質変質岩	輝緑岩	頁岩	輝緑凝灰岩	文象斑岩	その他	合計
石鏃							8	7	2						1			18									1						37
ポイント							4		2									1															7
Sc	1				5		6		79		8	1						10	1			2	1										114
ドリル					3		7	6	4		3	2						17					8	1									51
楔					1		5	1	12		1							5									1						26
コア							1	5	6			1			1			7				1											22
打斧	3		1		13	15	2		292		167	2					6				7	1	67					1	2	1	1		581
磨斧													3							4	7												14
石皿・多孔石																	28																28
石皿																	17									1							18
多孔石																	36																36
多孔石・磨石																	3																3
台石か石皿																	13							1									14
台石														1			17						1	4									23
凹石																	41																41
磨石				1					1	1	2						151		1	1		1	5	5	1								170
磨石か台石																	2																2
磨石・敲石																1	16					1											18
敲石						1			3			2					22	1			1	1	4			1						2	38
石棒										1						1			1			1				3							7
棒状礫	23								3	27											1		1		1	6							62
砥石		1		2								1													1								5
垂飾																					1												1
フレイク					21	1	64	11	419		46	11		1			5	55	1		9	2	103	5				10	2	1		4	771
リタッチドフレイク					6		25	6	197		22	2			1		2	30					25	1			1	2					320
合計	27	1	1	3	49	17	122	36	1020	29	249	22	3	2	3	2	359	144	4	5	26	10	215	17	3	11	3	13	4	2	1	6	2409

諸事情により２４０９点しか石材鑑定を行えなかったが、おおよその傾向は示せると思い、掲載した。

第 11 表　出土石器組成表

遺構・G No.	総数	石鏃	ポイ	スク	ドリ	楔形	コア	フレ	リタ	打斧A	打斧B	磨斧	皿・多	石皿	多孔	台/皿	台類	凹石	凹・磨	磨石	磨/台	磨・敲	敲石	石棒	棒状	砥石	他１	他２	不明	備考
Ⅰ区合計	1390	10	2	21	17	13	8	553	243	350	29	5	6	6	21	2	8	4	2	27		3	3	1	51	1	1	2	1	
Ⅱ区合計	2365	27	2	93	29	17	10	710	391	790	64	12	27	10	23	3	15	5	3	20	2	4	12	5	81	3		6	1	
Ⅲ区合計	308	6		6	4	8	3	125	66	42	19	2	2	3	5			2		3		1	2		6	2	1			
Ⅳ区合計	100	3		4	1	1	1	46	7	13	4				8		2	3		2		1	1	0	1	1	1			
Ⅴ区合計	159	10		5	5	0	2	73	21	19	1	1		1	0			2	1	5		1	5	1	1	1	4			
本線合計	4322	56	4	129	56	39	24	1507	728	1214	117	20	35	20	57	5	25	16	6	57	2	10	23	7	140	8	7	8	2	
１区合計	0																													
２区合計	911	11	2	32	26	7	3	288	143	184	－	3	4	6	3	8	8	7	1	112	3	13	21	1	13		7	2	3	
３区合計	106			3	2			54	17	18	－	1	1	1		1		1		3			1		1		1	1		
４区合計	128	3		2	5	1	1	57	22	18	－		1		1			1		10		1	1		1	1	2			
５区合計	116	0		1	3	1	1	49	17	22	－				1	1				14		1	2			1	2			
側道合計	1261	14	2	38	36	9	5	448	199	242	－	4	6	7	5	10	8	9	1	139	3	15	25	1	15	2	12	3	3	打斧A・Bを分類せず
全体合計	5583	70	6	167	92	48	29	1955	927	1456	117	24	41	27	62	15	33	25	7	196	5	25	48	8	155	10	19	11	5	

第 12 表　Ⅰ区・Ⅱ区出土石器組成表

遺構・G No.	総数	石鏃	ポイ	スク	ドリ	楔形	コア	フレ	リタ	打斧 A	打斧B	磨斧	皿・多	石皿	多孔	台/皿	台類	凹石	凹・磨	磨石	磨/台	磨・敲	敲石	石棒	棒状	砥石	他１	他２	不明	備考
Ⅰ区住居	141				2		1	48	16	32			2	4	10	2	7	1	2	4			1	1	7		1			
Ⅱ区住居	275	1		14	6	1	1	73	45	76	2		12	3	9	1	7			6		3	2	2	7			4		
住居小計	416	1	0	14	8	1	2	121	61	108	2	0	14	7	19	3	14	1	2	10	0	3	3	3	14	0	1	4	0	
Ⅰ区配石	10							3		1	1				1					2		1						1		
Ⅱ区配石	13			1				2	1						2	1	2			2	1			1						
配石小計	23	0	0	1	0	0	0	5	1	1	1	0	0	0	3	1	2	0	0	4	1	1	0	1	0	0	0	1	0	
Ⅰ区埋甕	5							4		1																				
Ⅱ区埋甕	5													1	1		1				1			1						
埋甕小計	10	0	0	0	0	0	0	4	0	1	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	
Ⅰ区土坑	78	1			1	1	2	29	13	18		0		2	2		1	1		2		1	1		3					
Ⅱ区土坑	153	1		10	3	1		61	20	28		2	3	2	2	1	4	1	2	4					8					
土坑小計	231	2	0	10	4	2	2	90	33	46	0	2	3	4	4	1	5	2	2	6	0	1	1	0	11	0	0	0	0	
Ⅰ区その他	8							4	1	2	1																			
Ⅱ区その他	37			2		1		9	4	14	4				1			1									1			
その他遺構	45	0	0	2	0	1	0	13	5	16	5	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	
Ⅰ区グリッド	991	9	2	15	13	9	5	410	185	252	20	5	4		8			2		12		1	1		35	1		1	1	
Ⅱ区グリッド	1669	18	2	63	18	12	9	505	287	608	46	6	9	3	4			1	1	6		1	8		58	1		2	1	
グリッド小計	2660	27	4	78	31	21	14	915	472	860	66	11	13	3	12	0	0	3	1	18	0	2	9	0	93	2	0	3	2	
Ⅰ区表採他	157			6	1	3		55	28	44	7									7					6					
Ⅱ区表採他	213	7		3	2	2		60	34	64	12	4	3	1	4		1	2	0	2			2	1	8	1				
表採他小計	370	7	0	9	3	5	0	115	62	108	19	4	3	1	4		1	2	0	9	0	0	2	1	14	1	0	0	0	
総合計	3755	37	4	114	46	30	18	1263	634	1140	93	17	33	16	44	5	23	9	5	47	2	7	15	6	132	4	1	8	2	

器種名略称：ポイ（ポイント）、スク（スクレイパー）、ドリ（ドリル）、フレ（フレイク）、リタ（リタッチドフレイク）、打斧１（短冊型・撥形打製石斧）、打斧２（分銅型打製石斧）、磨斧（磨製石斧）、皿・多（石皿で多孔石）、多孔（多孔石）、台 / 皿（台石か石皿）、台類（台石および台石の可能性のあるもの）、凹・磨（凹石で磨石）、磨 / 台（磨石か台石）、磨・敲（磨石で敲石）、棒状（棒状礫）、他１（剥片系石器のその他）、他２（礫系石器のその他）

第 13 表　Ⅰ区・Ⅱ区遺構別、グリッド別出土石器組成表

区	遺構・G　No.	遺構種	総数	石鏃	ポイ	スク	ドリ	楔形	コア	フレ	リタ	打斧A	打斧2	磨斧	皿・多	石皿	多孔	台/皿	台類	凹石	凹・磨	磨石	磨/台	磨・敲	敲石	石棒	棒状	砥石	他１	他２	不明	備考
Ⅰ	1	住居	4							1	1						1									1						
Ⅰ	2	住居	6						1	1		2					1		1													
Ⅰ	3	住居	9							5	1						1			1					1							
Ⅰ	4	住居	3							2	1																					
Ⅰ	5	住居	10				1					2					3		3								1					
Ⅰ	6	住居	35				1			12	6	14															2					
Ⅰ	7	住居	11							4		1				1			1								4					
Ⅰ	8	住居	12							4	1	3									1	3										
Ⅰ	9	住居	10							3	2						4				1											
Ⅰ	10	住居	11							5	1	2						2											1			スクレイパー・打製石斧
Ⅰ	11	住居	2									2																				
Ⅰ	13	住居	12							7	2	2				1																
Ⅰ	14	住居	9							4	1	2							1			1										
Ⅰ	15	住居	1																1													
Ⅰ	16	住居	6									2			2	2																
Ⅱ	1	住居	8			1				1	1	3												1			1					
Ⅱ	2	住居	2								1								1													
Ⅱ	3	住居	7	1							2	3				1																
Ⅱ	4	住居	4							2	1													1								
Ⅱ	5	住居	5							1	2	1												1								
Ⅱ	6	住居	15							2	3	6				1	1		2													
Ⅱ	7	住居	4							2		1					1															
Ⅱ	8	住居	44			2	3	1	1	13	9	10			1							2							2		凹石・敲石、多孔石・磨石
Ⅱ	9	住居	10			1				1	4	2					1										1					
Ⅱ	10	住居	19							5	1	6	1		3		1					1			1							
Ⅱ	11	住居	8							3		1										2			1		1					
Ⅱ	12	住居	4							1	3																					
Ⅱ	13	住居	10				1			1	1	4						1								1			1		台石・凹石
Ⅱ	16	住居	5							2		3																				
Ⅱ	18	住居	3									1			1		1															
Ⅱ	19	住居	12			1					2	6	1														2					
Ⅱ	20	住居	28			1	1			12	7	4			1											1	1					
Ⅱ	21	住居	10							5	1	3			1																	
Ⅱ	25	住居	2												1	1																
Ⅱ	26	住居	1												1																	
Ⅱ	27	住居	1							1																						
Ⅱ	28	住居	26			3				9	3	11																				
Ⅱ	30	住居	13			3				1		4			1		2										1		1		垂飾
Ⅱ	31	住居	14			1	1			6	1	3			1				1													
Ⅱ	32	住居	1							1																						
Ⅱ	33	住居	1									1																				
Ⅱ	44	住居	1														1															

区	遺構・G　No.	遺構種	総数	石鏃	ポイ	スク	ドリ	楔形	コア	フレ	リタ	打斧A	打斧2	磨斧	皿・多	石皿	多孔	台/皿	台類	凹石	凹・磨	磨石	磨/台	磨・敲	敲石	石棒	棒状	砥石	他１	他２	不明	備考
Ⅱ	45	住居	3							1	1	1																			
Ⅱ	47	住居	3							2	1																				
Ⅱ	48	住居	1														1														
Ⅱ	48	住居	2			1					1																				
Ⅱ	50	住居	1									1																			
Ⅱ	51	住居	1									1																			
Ⅱ	53	住居	5												1				3			1									
Ⅱ	54	住居	1							1																					
Ⅰ	1	配石	6							3		1	1									1									
Ⅰ	4	配石	1														1														
Ⅰ	5	配石	3																			1		1						1	多孔石・台石
Ⅱ	7	配石	1															1													
Ⅱ	21	配石	9			1				2	1								1			2	1			1					
Ⅱ	22	配石	3														2		1												
Ⅰ	1	埋甕	4							4																					
Ⅰ	2	埋甕	1									1																			
Ⅱ	6	埋甕	1																				1								
Ⅱ	10	埋甕	4													1	1		1							1					
Ⅰ	24	土坑	3							2		1																			
Ⅰ	25	土坑	4							1	3																				
Ⅰ	35	土坑	6							1	2	2				1															
Ⅰ	56	土坑	2							1	1																				
Ⅰ	58	土坑	18						1	6	1	6							1	1							2				
Ⅰ	59	土坑	3							1		1															1				
Ⅰ	60	土坑	7							3		3					1														
Ⅰ	74	土坑	2						1		1																				
Ⅰ	94	土坑	2	1							1																				
Ⅰ	95	土坑	2													1								1							
Ⅰ	98	土坑	7				1			3	2											1									
Ⅰ	102	土坑	2							1		1																			
Ⅰ	104	土坑	3					1		2																					
Ⅰ	その他	土坑	17							8	2	4					1					1			1						
Ⅱ	10	土坑	2			1					1																				
Ⅱ	25	土坑	4			1				2									1												
Ⅱ	29	土坑	1								1																				
Ⅱ	37	土坑	2								2																				
Ⅱ	42	土坑	3							1		1			1																
Ⅱ	44	土坑	1																			1									
Ⅱ	50	土坑	3			1				1		1																			
Ⅱ	53	土坑	2			1						1																			
Ⅱ	62	土坑	2							2																					
Ⅱ	72	土坑	2							1	1																				
Ⅱ	87	土坑	3							1		1										1									

区	遺構・G　No.	遺構種	総数	石鏃	ポイ	スク	ドリ	楔形	コア	フレ	リタ	打斧A	打斧2	磨斧	皿・多	石皿	多孔	台/皿	台類	凹石	凹・磨	磨石	磨/台	磨・敲	敲石	石棒	棒状	砥石	他１	他２	不明	備考
Ⅱ	94	土坑	2									1									1										
Ⅱ	96	土坑	2							2																					
Ⅱ	123	土坑	4							1		1		1		1															
Ⅱ	134	土坑	7			1				4		1									1										
Ⅱ	144	土坑	3							2		1																			
Ⅱ	146	土坑	5							4	1																				
Ⅱ	148/149	土坑	2								1																1				
Ⅱ	170	土坑	2							1	1																				
Ⅱ	201	土坑	4							2		1															1				
Ⅱ	206	土坑	2							2																					
Ⅱ	212	土坑	3			1				2																					
Ⅱ	219	土坑	1									1																			
Ⅱ	220	土坑	2								1	1																			
Ⅱ	260	土坑	4							3		1																			
Ⅱ	307/308	土坑	2							1	1																				
Ⅱ	344	土坑	2													1				1											
Ⅱ	397	土坑	1																1												
Ⅱ	435	土坑	2							2																					
Ⅱ	533	土坑	2							2																					
Ⅱ	542	土坑	2							1																	1				
Ⅱ	573	土坑	3			1				2																					
Ⅱ	584	土坑	2									2																			
Ⅱ	591	土坑	2							1		1																			
Ⅱ	592	土坑	3								1																2				
Ⅱ	598	土坑	2							1		1																			
Ⅱ	604	土坑	2												1				1												
Ⅱ	630	土坑	2												1		1														
Ⅱ	670	土坑	2							1																	1				
Ⅱ	672	土坑	2								1											1									
Ⅱ	684	土坑	1									1																			
Ⅱ	719	土坑	2								1	1																			
Ⅱ	721	土坑	4							2												1					1				
Ⅱ	730	土坑	2									2																			
Ⅱ	その他	土坑	45	1		3	3	1		17	7	8		1			1	1	1								1				
Ⅱ	33	柱穴	3			1		1		1																					
Ⅱ	56	柱穴	1									1																			
Ⅰ	1	遺物集中	3							3																					
Ⅱ	2	集石	1																	1											
Ⅱ	3	集石	1														1														
Ⅱ	1	溝	10							3	1	6																			
Ⅰ		河道	2							1	1																				
Ⅱ	1	河道	21			1				5	3	7	4															1			
Ⅰ		南壁トレ	3									2	1																		

区	遺構・G　No.	遺構種	総数	石鏃	ポイ	スク	ドリ	楔形	コア	フレ	リタ	打斧A	打斧2	磨斧	皿・多	石皿	多孔	台/皿	台類	凹石	凹・磨	磨石	磨/台	磨・敲	敲石	石棒	棒状	砥石	他1	他2	不明	備考
Ⅰ	010_890	G	34				1			10	11	6	3	1			1										1					
Ⅰ	010_900	G	1										1																			
Ⅰ	020_880	G	98	1		4	1			39	16	31	1									1					4					
Ⅰ	020_890	G	172	2		4	1		2	75	43	31	4	1	2		3										3			1		凹石・敲石
Ⅰ	020_900	G	186	1		2	1	2	2	77	26	62		1	1		2										9					
Ⅰ	020_910	G	32			2				14	4	8	1				1					1					1					
Ⅰ	030_880	G	108			1		3		47	18	31		1											1		5	1				
Ⅰ	030_890	G	34							13	6	7	1									1					6					
Ⅰ	030_900	G	72	3	1	1		1		27	18	18	2							1												
Ⅰ	030_910	G	34					1		14	6	10	1	1													1					
Ⅰ	030_920	G	3							1		2																				
Ⅰ	040_880	G	58		1		3	1		20	8	20										2					3					
Ⅰ	040_890	G	1				1																									
Ⅰ	040_900	G	1										1																			
Ⅰ	040_910	G	20							15	1	2	2																			
Ⅰ	040_920	G	13	2						4	2	2	2		1																	
Ⅰ	040_940	G	1									1																				
Ⅰ	050_870	G	5							3	2																					
Ⅰ	050_880	G	21							11	4	3										2									1	
Ⅰ	050_890	G	13							5	4	3										1										
Ⅰ	050_920	G	1								1																					
Ⅰ	050_940	G	4							3		1																				
Ⅰ	060_870	G	15				2			5	1	6															1					
Ⅰ	060_880	G	36			1	1	1	1	16	9	2								1		3		1								
Ⅰ	060_900	G	1									1																				
Ⅰ	060_910	G	3									2	1																			
Ⅰ	060_940	G	2							2																						
Ⅰ	070_870	G	13							7	2	3															1					
Ⅰ	070_880	G	8				1			2	3						1					1										
Ⅰ	070_890	G	1				1																									
Ⅱ	000_830	G	8			1				2	2	2	1																			
Ⅱ	000_840	G	6								1	1				1											2			1		凹石・敲石
Ⅱ	000_850	G	6	1						2	3																					
Ⅱ	000_860	G	6			1			1	1	1	2																				
Ⅱ	000_870	G	7							1		5															1					
Ⅱ	000_890	G	1									1																				
Ⅱ	010_820	G	5								1	4																				
Ⅱ	010_830	G	20							5	2	10	2														1					
Ⅱ	010_840	G	15							7	3	4		1																		
Ⅱ	010_850	G	16			1				7	1	5	1		1																	
Ⅱ	010_860	G	3		1							1													1							
Ⅱ	010_870	G	19							3	3	10	1														2					
Ⅱ	010_880	G	61			6				24	7	21	2				1															

区	遺構・G　No.	遺構種	総数	石鏃	ポイ	スク	ドリ	楔形	コア	フレ	リタ	打斧A	打斧2	磨斧	皿・多	石皿	多孔	台/皿	台類	凹石	凹・磨	磨石	磨/台	磨・敲	敲石	石棒	棒状	砥石	他１	他２	不明	備考
Ⅱ	020_810	G	8	1						2		5																			
Ⅱ	020_820	G	21			1			1	5	4	8													1		1				
Ⅱ	020_830	G	69			2		1		17	18	27			1		1					1					1				
Ⅱ	020_840	G	30	1		1				9	6	9	1	1		1	1														
Ⅱ	020_850	G	54	11		2	1	3	2	15	6	8	4														1	1			
Ⅱ	020_860	G	31					1		12	7	8	1											1						1	
Ⅱ	020_870	G	138			4	1	1		50	13	53	7												2		6			1	砥石か垂飾
Ⅱ	030_810	G	11			1				4	3	3																			
Ⅱ	030_820	G	65					1		11	20	28	1		1		1			1							1				
Ⅱ	030_830	G	84			3				20	12	39	3	1	2	1											3				
Ⅱ	030_840	G	67			3			2	25	12	17	2	1								2					3				
Ⅱ	030_850	G	61	1		3				14	14	20	6														3				
Ⅱ	030_860	G	90			1	2			27	23	31			1							1					4				
Ⅱ	030_860	G	1										1																		
Ⅱ	030_870	G	132			5	1	1		28	28	51	8														10				
Ⅱ	030_880	G	1									1																			
Ⅱ	030_890	G	1									1																			
Ⅱ	040_820	G	41			4			1	17	7	12																			
Ⅱ	040_830	G	100	1		3	3	1	1	32	15	36	2	1											1		4				
Ⅱ	040_850	G	119			6	2		1	46	15	45															4				
Ⅱ	040_850	G	1	1																											
Ⅱ	040_860	G	74			6	3			21	9	32	1														2				
Ⅱ	040_870	G	122			2				33	24	56	2		1							1					3				
Ⅱ	050_830	G	3									3																			
Ⅱ	050_840	G	18				1			4	5	7													1						
Ⅱ	050_850	G	62	1		2	1	1		27	4	21										1			1		3				
Ⅱ	050_860	G	32			2	2	2		13	6	7																			
Ⅱ	990_830	G	1									1																			
Ⅰ		現道下	50			3	1	1		21	10	8										4					2				
Ⅰ		表採	107			3		2		34	18	36	7									3					4				
Ⅱ		表採	193	6		3	2	2		57	31	52	11	4	3	1	4		1	2		2			2	1	8	1			
Ⅱ		包含層	20	1						3	3	12	1																		
	合　計		3755	37	4	114	46	30	18	1263	634	1140	93	17	33	16	44	5	23	9	5	47	2	7	15	6	132	4	1	8	2	

器種名略称：ポイ（ポイント）、スク（スクレイパー）、ドリ（ドリル）、フレ（フレイク）、リタ（リタッチドフレイク）、打斧Ａ（短冊型・撥形打製石斧）、打斧Ｂ（分銅型打製石斧）、磨斧（磨製石斧）、皿・多（石皿で多孔石）、多孔（多孔石）、台／皿（台石か石皿）、台類（台石および台石の可能性のあるもの）、凹・磨（凹石で磨石）、磨／台（磨石か台石）、磨・敲（磨石で敲石）、棒状（棒状礫）、他１（剥片系石器のその他）、他２（礫系石器のその他）

ついては、２点以上出土した土坑を載せた。１点のみのものは、土坑一覧表に器種を記した。

第２節　下田遺跡の埋設土器について

下田遺跡では、住居内（炉、埋甕）や土坑内、単独の埋甕等を合わせて、109 個体の土器が土中に埋設された状態で検出された。

住居内、炉内の埋甕から土坑墓と思われる事例まで、多様な出土の仕方をしている。時期も、加曽利ＥⅡ・ＥⅢ式期と称名寺・堀之内１式期の二つのピークを挟んで、阿玉台Ⅲ式から大洞Ｃ２式まで幅がある。土器そのものの他、出土位置や部位、状況など、資料価値は高いと思われる。しかし、筆者の力量では判断や解釈に戸惑うものもあり、時間的、紙面的な制約もあって、これらの個々について考察が及ばなかった。

せめて出土状態等を記した一覧表を以下に掲載する。ただ羅列しただけで、分析はおろか統計処理すらできず、まとめとはほど遠いが、ご容赦いただきたい。

表 14　埋設土器一覧表　（住居番号の＊印は柄鏡形住居）

通番	区	遺構・遺物番号				器種	時期（型式）	部位	埋位	出土状況・備考	遺構図番	遺物図番
1	Ⅰ	＊2	住	炉	1	深鉢	称名寺	胴	正	2 の上に乗せる。2 とは別個体。	12	12
2					2	深鉢	称名寺	底	正	1 の下に据える。1 とは別個体。	12	12
3	Ⅰ	＊3	住	1 埋	1	深鉢	加ＥⅣ	口～胴	斜	掘り方浅い。住居の方向に傾く。	15	17
4				2 埋	4･5	深鉢	称名寺	底欠	正	口縁部が露出。	15	18
5	Ⅰ	4	住	炉	1･2	深鉢	加ＥⅣ	底欠	正	4 住 4 とともに 2 個体分の破片が出土。	19	20
6	Ⅰ	＊5	住	炉	1	？	後期？	準完形	横	掘り方の底面より出土。形状は把手の付くジョッキ形。	22	22
7	Ⅰ	8	住	炉	1	深鉢	加ＥⅡ	上半	正	炉の中央に埋設。2 と入れ子状。（1 が内側）	31	31
8					2	深鉢	加ＥⅡ	胴	正	炉の中央に埋設。1 と入れ子状。（2 が外側）	31	31
9	Ⅰ	11	住	炉	8	深鉢	加ＥⅡ	底	正	炉の中央に埋設。	37	37
10	Ⅰ	14	住	炉	1	深鉢	加ＥⅡ	底欠	正	炉の掘り方下位から出土。	44	44
11					2	深鉢	加ＥⅡ	胴	正	口縁部が露出。	44	44
12					3	深鉢	加ＥⅡ	口欠	逆斜	逆位で傾く。底部が露出。	44	44
13					4	深鉢	加ＥⅡ	上半	正	口縁部が露出。	44	44
14			住	埋甕	10	深鉢	中・後	底欠	正	口唇部が僅かに露出。一回り広い掘り方を持つ。	43	45
15	Ⅱ	1	住	炉	1	深鉢	加ＥⅢ	上半	正	口唇部が僅かに露出。埋甕炉か。	49	49
16	Ⅱ	2	住	炉	1	深鉢	加ＥⅡ	底欠	横	炉底で潰れた状態で出土。	53	53
17					3	深鉢	加ＥⅡ	準完形	正	炉の中央に深く埋設。	53	54
18	Ⅱ	＊3	住	1 埋	1	深鉢	称名寺	口	正	口唇部が僅かに露出。深い掘り込みを伴う。	55	57
19				2 埋	2	深鉢	称名寺	口	正	口縁部が露出。深い掘り込みを伴う。	55	57
20				3 埋	3	深鉢	称名寺	口	正	口唇部が僅かに露出。深い掘り込みを伴う。	55	58
21				4 埋	4･5	深鉢	称名寺	口	正	口唇部が僅かに露出。深い掘り込みを伴う。	55	57
22				5 埋	6	深鉢	称名寺	口	正	口唇部が僅かに露出。深い掘り込みを伴う。	55	58
23				炉掘	8	深鉢	加ＥⅢ	底欠	横	底面から出土。炉掘り方ではなく別土坑の可能性あり。	56	58
24				炉	6	深鉢	堀之内 1	上半	正	炉の中央に埋設。埋甕炉か。	62	65
25	Ⅱ	＊6	住	1 埋	1	深鉢	称名寺	口	正	口縁部が露出。深い掘り込みを伴う。	62	63
26				2 埋	22	深鉢	加ＥⅣ	口胴	正	口縁部が露出。深い掘り込みを伴う。	62	66
27				床下	5	深鉢	堀之内 1	上半	横	床下土坑の立ち上がり部から出土。	63	65
28	Ⅱ	7	住	炉	2	深鉢	加ＥⅢ	上半	正	炉の中央に埋設。	67	68
29				1 埋	1	深鉢	加ＥⅡ	胴	正	床面より高位で出土。炉側に若干傾く。所在不明の為未掲載。	67	－
30				2 埋	－	深鉢	加ＥⅢ	上半	正	床面レベルで胴部上面が露出。広く深い掘り込みを伴う。	67	68
31	Ⅱ	9	住	炉	1	深鉢	加ＥⅢ	上半	正	炉の中央に埋設。	70	70
32				1 埋	2	深鉢	加ＥⅢ	下半	正	浅い掘り込みの上に据える。	70	70
33				2 埋	3･4	深鉢	加ＥⅢ	胴	正	床面レベルで胴部上面が露出。広く深い掘り込みを伴う。	70	70･71
34	Ⅱ	10	住	炉	1	深鉢	加ＥⅠ	完形	正	炉の中央やや南よりに埋設。	73	73
35	Ⅱ	16	住	炉	1	深鉢	加ＥⅡ	上半	正	炉の中央に埋設。2 と入れ子状。（1 が外側）	78	78
36					2	深鉢	加ＥⅡ	胴	正	炉の中央に埋設。1 と入れ子状。（2 が内側）	78	78
37	Ⅱ	17	住	1 埋	1	深鉢	加ＥⅢ	底	正	浅い掘り込みの上に据える。	79	79
38				2 埋	2	深鉢	加ＥⅢ	口欠	正	浅い掘り込みの上に据える。	79	79
39				3 埋	3	浅鉢	加ＥⅢ	胴	逆	やや浮いた位置から出土。	79	79
40	Ⅱ	18	住	1 埋	1	深鉢	ＥⅣ～称	下半	斜	敷石の合間。住居の中心に向けて傾く。	80	81
41	Ⅱ	＊19	住	1 埋	1	深鉢	称名寺	下半	正	炉と張り出し部の中間。扁平礫が方形に囲む。	82	84
42				2 埋	28	深鉢	加ＥⅣ	下半	正	敷石の合間。掘り込みは不明。	82	86
43				3 埋	29	深鉢	加ＥⅣ	胴	正	掘り方は広く深いが、土器は浅く据えられる。	82	86
44	Ⅱ	20	住	1 埋	1	深鉢	加ＥⅣ	準完形	斜	敷石の合間。住居の中心に向けて傾く。	88	88
45	Ⅱ	22	住	炉	1	深鉢	加ＥⅢ	胴	正	炉の中央に埋設。	92	92
46	Ⅱ	23	住	甕	1	深鉢	加ＥⅢ	上半	正	主柱穴の中心に埋設。口縁部が露出。	93	93
47	Ⅱ	24	住	炉	1	深鉢	加ＥⅢ	上半	正	炉の中央に埋設。掘り込みは不明。	94	94
48				埋甕	2	深鉢	加ＥⅡ	胴	正	床面レベルで胴部上面が露出。	94	94
49	Ⅱ	27	住	転倒	1	深鉢	堀之内 1	準完形	横	炉の検出面より若干下から出土。	98	98
50	Ⅱ	29	住	Ｐ1	2	深鉢	加ＥⅡ	下半	横	柱穴中位から出土。	103	103

通番	区	遺構・遺物番号			器種	時期（型式）	部位	埋位	出土状況・備考	遺構図番	遺物図番
51	Ⅱ	33	住	炉 1・2・3	深鉢	加ＥⅢ	上半	正	炉の中央に埋設。	113	114
52				炉 4	深鉢	加ＥⅢ	上半	正？	炉の構築礫の下から出土。	113	114
53				1埋 5	深鉢	加ＥⅢ	胴	正	口縁部が露出。	113	114
54				2埋 6	深鉢	加ＥⅢ	破片	正	床面レベルで胴部上面が露出。	113	114
55	Ⅱ	45	住 炉	1	深鉢	加ＥⅡ古	底欠	正	炉の中央に埋設。	116	116
56	Ⅱ	46	住	炉 1	深鉢	加ＥⅢ	口	正	炉の中央に埋設。	117	118
57				1埋 3	深鉢	加ＥⅡ	上半	正	炉に隣接。口唇部が僅かに露出。	117	118
58				2埋 6	深鉢	加ＥⅢ	胴	正	床面レベルで胴部上面が露出。	117	118
59	Ⅱ	47	住 1埋	1	深鉢	加ＥⅡ	胴	正	床面レベルで胴部上面が露出。	119	119
60	Ⅱ	50	住 1埋	1	深鉢	加ＥⅢ	胴	正	主柱穴の中心に埋設。床面レベルで胴部上面が露出。	124	124
61	Ⅱ	51	住 炉	1	深鉢	加ＥⅢ	胴	正	炉の中央に埋設。	125	125
62	Ⅱ	52	住 炉	1	深鉢	加ＥⅡ	胴	正	炉の中央に埋設。	126	127
63	Ⅱ	53	住	炉 －	深鉢	？	胴	正	炉の中央に埋設。所在不明の為未掲載。	128	－
64				1埋 1	深鉢	加ＥⅡ	準完形	正	口縁部が露出。	128	128
65	Ⅱ	5	配石	4	鉢	中期後半	口～胴	正	掘り込みの中位に埋設。上に礫。	133	133
66	Ⅰ	2	埋甕	1	深鉢	堀之内２	口～胴	斜	東に傾く。掘り込みは不明。	140	140
67	Ⅰ	3	埋甕	3	深鉢	堀之内１	底欠	正	掘り込みはあるのか不明。	140	140
68	Ⅰ	1	埋甕	1	深鉢	加ＥⅣ	底	逆	掘り込みはあるのか不明。２の下位より出土。	140	140
69	Ⅰ	4	埋甕	2	深鉢	称名寺	４／５	逆	掘り込みはあるが不明。１の被せるように埋設。	140	140
70	Ⅰ	5	埋甕	1・2	深鉢	称名寺	口・胴	逆	口縁部片の下に深い掘り込みを伴う。	141	141
71	Ⅱ	4	埋甕	1	深鉢	加ＥⅠ	口～胴	正	口縁部が露出。広く深い掘り込みを伴う。	142	142
72	Ⅱ	11	埋甕	1	深鉢	加ＥⅡ	口	逆	浅く広い掘り込みの上にあるが関係は不明。	142	142
73	Ⅱ	13	埋甕	1	深鉢	大洞Ｃ２	完形	正	浅い掘り込みの上に据える。	142	142
74	Ⅱ	17	埋甕	1	深鉢	称名寺	胴～底	正	浅い掘り込みの上に据える。	143	143
75	Ⅱ	18	埋甕	1	深鉢	加ＥⅡ	胴	正	浅い掘り込みの上に据える。	144	144
76	Ⅱ	22	埋甕	1	深鉢	加ＥⅢ	胴	正	浅い掘り方の底面から出土。２と入れ子状。（1が内側）	143	143
77				2	深鉢	加ＥⅢ	口～胴	正	浅い掘り方の底面から出土。１と入れ子状。（2が外側）	143	143
78	Ⅱ	23	埋甕	1	深鉢	称名寺	胴～底	正	掘り方に密着して埋設。	144	144
79	Ⅱ	24	埋甕	1	深鉢	加ＥⅡ	口～胴	横	南西向きに倒れる。	144	144
80	Ⅰ	34	土坑	1	深鉢	加ＥⅠ新	3/4	横	土坑上面に横転。口縁部が北を向く。	149	154
81	Ⅱ	25	土坑	1	深鉢	阿玉台Ⅲ	胴	斜？	土坑中位に埋設。上に大型礫。	162	198
82	Ⅱ	38	土坑	2	深鉢	中期後半	胴～底	正	確認面で胴部上面が露出。	163	199
83	Ⅱ	44	土坑	1	深鉢	称名寺	2/3	横	口縁部が西を向く。掘り込みは不明。	163	199
84	Ⅱ	61	土坑	7	深鉢	堀之内２	完形	横	土坑中位から出土。口縁部が南を向く。	164	201
85	Ⅱ	85	土坑	1	深鉢	加ＥⅢ	胴～底	正	土坑中央に深く埋設。	166	202
86	Ⅱ	94	土坑	1	深鉢	加ＥⅡ	口～胴	正	土坑中央に深く埋設。３礫がコの字状に囲む。	167	205
87	Ⅱ	95	土坑	1	深鉢	加ＥⅡ	胴	正	土坑中央に埋設。94・95 土は重複するが新旧は不明。	167	204
88	Ⅱ	110	土坑	1	深鉢	加ＥⅣ	胴～底	逆	浅い長円形土坑（長径 100cm 以上）の北寄りで出土。	167	206
89	Ⅱ	146	土坑	5	深鉢	加ＥⅡ	胴	横？	土坑の東縁から出土。	170	207
90	Ⅱ	172	土坑	1	深鉢	堀之内１	口～胴	正	２と重なって出土。（1が下）	171	208
91				2	浅鉢	堀之内１	胴～底	逆斜	二次的に傾いたものか。１と重なって出土。（2が上）	171	208
92	Ⅱ	173	土坑	2	深鉢	堀之内１	口～胴	横	浅い土坑の中位から出土。	171	208
93	Ⅱ	191	土坑	2	深鉢	称名寺	口～胴	正	浅い長円形土坑（長径 130cm）の北寄りで出土。上に礫。	172	209
94	Ⅱ	221	土坑	3	深鉢	堀之内１	胴～底	正	土坑の中央に深く埋設。	174	211
95	Ⅱ	251	土坑	2	深鉢	加ＥⅡ	胴～底	横	土坑中央の底面上から出土。	175	212
96	Ⅱ	261	土坑	1	小壺	堀之内１	完形	？	２と重なって出土。（1が下）	177	214
97				2	深鉢	堀之内１	胴	横	１と重なって出土。（2が上）	177	214
98	Ⅱ	271	土坑	4	鉢？	堀之内１	底	逆	長円形土坑（長径 160cm）の西寄りで出土。	177	214
99	Ⅱ	470	土坑	4	深鉢	堀之内１	口～胴	斜？	長円形土坑（長径 145cm）の南西寄りで出土。上に礫。	184	217
100	Ⅱ	554	土坑	1	深鉢	加ＥⅡ	口～胴	正	土坑東寄りに埋設。	188	220
101	Ⅱ	634	土坑	9	壺	堀之内１	口～胴	正	中央付近で底面から若干浮いて出土。	192	224
102	Ⅱ	664	土坑	1	深鉢	加ＥⅢ	口～胴	正	確認面で口唇部が僅かにが露出。	193	225
103	Ⅱ	721	土坑	1	深鉢	堀之内１	底欠	逆	土坑南寄りで底面に設置。	195	227
104				2	注口	堀之内１	底欠	正	底部を深く埋設。土坑の南北に礫を設置。	19	227
105	Ⅱ	729	土坑	1	深鉢	加ＥⅠ	口～胴	逆	土坑底面に設置。	195	227
106	Ⅱ	748	土坑	2	深鉢	加ＥⅡ	底欠	横	長円形土坑（長径 248cm）の北寄りで出土。	196	228
107	Ⅱ	1	集石	1	深鉢	加ＥⅢ	口	逆	集石に隣接。掘り込みは不明。	233	233
108	Ⅱ	3	集石	3	深鉢	加ＥⅢ	胴	正	浅い掘り方の中央に据える。中に３集石１、２が入る。	233	234
109	Ⅱ	6・7	集石	1	深鉢	加ＥⅢ	口	逆	集石に隣接。掘り込みは不明。	233	233

第３節　下田遺跡の住居の変遷について

下田遺跡の住居はⅠ区、Ⅱ区、２区を合わせて70軒検出されている。住居の時期については、主に炉帯土器や埋甕など、伴出する遺物を見て判断した。時期を特定できず不明とした住居４軒も含めて、すべて縄文時代中期後半から後期前半の範囲に収まると思われる。時期を示した66軒の中には推定の域を出ない住居もあるが、総合的に判断して、大きく外してはいないと思う。

この結果をもとにすると、本遺跡の住居は、時期別に見て次の９期に大別される。

Ⅰ期：加曽利ＥⅠ式期（９軒）
Ⅱ期：加曽利ＥⅡ式期（16軒）
Ⅲ期：加曽利ＥⅡ～ＥⅢ式期（９軒）
Ⅳ期：加曽利ＥⅢ式期（15軒）
Ⅴ期：加曽利ＥⅣ式期（３軒）
Ⅵ期：加曽利ＥⅣ～称名寺式期（４軒）
Ⅶ期：称名寺式期（６軒）
Ⅷ期：称名寺式～堀之内１式期（３軒）
Ⅸ期：堀之内１式期（１軒）

まず、これらの住居の選地状況を時期別に概観し、変遷についてまとめることとする。

次に、本遺跡で検出された柄鏡形住居について、項目別に特色をまとめてみたい。

（１）　時期別の立地の変遷

本遺跡の遺構検出状況には顕著な偏りがあり、Ⅰ区南東部・Ⅱ区南西部からⅡ区中央部・２区西半部に極端に集中している（第２図）。これは、Ⅰ区西半を現早川に、Ⅱ区東半を旧早川に浸食されていて、微高地が南北に細長く残ったためである。重複も多く、非常に高密度であるため、この微高地が居住域として定着していたことを示している（第３図）。北東から南西に入り込む浅い谷地部分に住居の空白地帯がみられ、ここで第１分冊と本書で扱う住居とを分けた。

また、Ⅱ区南側にも住居の空白部が見られる。周囲に配石や集石が弧状に巡ることから、環状居住域の中央広場であった可能性が考えられる。しかし、54号住居を除くとほぼ直線的に並んでいくようにも見えるので、谷地などの自然条件に制約されたのかもしれない。

いずれにしても、下田遺跡の住居は、Ⅰ区１～３住を除いて、微高地部に建てられている。その中でも時期によって建てる場所に若干違いが見られるので、その状況を少し詳しく見ていきたい。

Ⅰ期は縄文時代中期後半の加曽利ＥⅠ式に比定される。それ以前の中期中葉では、阿玉台式や勝坂式などの土器片も多少は出土し、これらを主体的に伴出すると思われる土坑も数基点在する。しかし、住居跡は検出されておらず、存在した可能性も低いと思われるため、まだ集落とはいえない段階であるといえる。さらにその前段階（縄文時代前期以前）となると、遺構は皆無であるうえ、遺物もほとんど出土していない。

Ⅰ期は下田ムラの集落形成が始まる時期で、Ⅰ区13住や２区34住など、次期に差しかかるやや新しいものも含めると９軒ある。全体に本遺跡の北半部から多く検出される。すなわち立地は、標高のより高い位置を意識して建てられているようである。Ⅱ区10住と11住、２区37住と42住などの重複があり、集落形成時期が複数期に細分されることを示している。壁は深く掘り込んでいたと見られ、立ち上がりが確認できた住居が多かった。

Ⅰ期（加曽利ＥⅠ式期）から増え始めた住居は、Ⅱ～Ⅳ期（加曽利ＥⅡ～ＥⅢ式期）にピークを迎える。その数は合計40軒で、６割以上（66軒中の40軒）を占めている。土器の出土量も、遺構外出土土器の集計ではあるが、加曽利ＥⅡ、ＥⅢ式は他の型式より数ポイント高い数値を示している（40頁・表３）。住居などの遺構出土分を加えると、さらに上昇することは確実である。

Ⅱ期は加曽利ＥⅡ式期に比定される。Ⅰ～Ⅸ期の中で一番多い16軒を数える。この時期から微高地の尾根筋に直線的に作られる傾向が見え始める。し

かし、谷地以北にもまだ４軒建てられており、Ⅱ区８住と 14 住が重複している。

Ⅲ期は「～」の記号を用いているが、加ＥⅡ、加ＥⅢ両型式の中間（過渡期）という訳ではなく、「中期後半」と同じく、どちらかに絞りきれなかったものも含まれる。９軒すべてが尾根筋上に建てられており、しかも中心線上に乗るものが多い。

Ⅳ期は加曽利ＥⅢ式期に比定され、Ⅱ期に次ぐ 15 軒を数える。２区 36 住を除いて、やはり尾根筋を中心に建てられるが、Ⅰ区６住のように低地にかかる住居も現れる。また、Ⅱ区１住、４住、12 住などの小規模な隅丸方形の住居も若干増加する。

Ⅴ期は加曽利ＥⅣ式期に比定される。相当する住居が３軒と激減し、集落形成が一時停滞する。Ⅰ区４住は微高地の突端に位置し、Ⅱ区 20 住と 21 住は谷地にかかる場所で重複するが、まだ尾根筋から外れた位置とまではいえない。

Ⅵ期は加曽利ＥⅣ～称名寺式期に比定され、４軒が相当する。このうち３軒（Ⅰ区３住、７住、Ⅱ区 19 住）が柄鏡形住居であり、本遺跡で本格的に柄鏡型住居が作られる時期といえる。全体的にはまだ尾根筋を中心に住居が建てられているが、Ⅰ区３住などは低地に建てられている。

Ⅶ～Ⅸ期は後期前半に比定される。Ⅶ期（称名寺式期）には６軒と、前次期よりは増える。しかしその後Ⅷ期（称名寺～堀之内１式期）には３軒になり、Ⅸ期（堀之内１式期）では僅かに１軒と、確実に減少していく。この時期の住居は尾根筋の中心線を避けるように離れ、低地際に建てられるようになっていく。

Ⅸ期以降の時期を見ると、堀之内２式は、土器は相当量出土するものの、該期の住居は１軒も確認されなかった。

後期前半には、このように住居数は減少していくものの、土器の出土量が極端に減る訳ではない。逆に配石はⅡ区６号、20 号、21 号、22 号など、信憑性の高いものだけで４基がこの時期に該当し、土坑の中にも該期の土器を主体的に伴出するものが少なからず見受けられる。したがってムラが縮小に向かっていったのは確かだとしても、人間の活動が途絶えたとまではいえない。居住域を今回の調査範囲外に移動していた可能性も考えられる。

しかし加曽利Ｂ式期に至っては、土器の出土量が激減し、遺構も確認されなくなった。すなわち、下田ムラの形成は、後期中葉には終焉を迎えたといえる。

このように、中期後半から集落の形成が一気に活性化し、加曽利ＥⅡ～ＥⅢ式期にピークを迎え、加曽利ＥⅣ～称名寺式期には減少が始まって、後期前半の堀之内２式期以降はほぼ消滅していくというパターンは、群馬県内だけでなく東日本全体で一般的に見られる傾向に合致する。

（２）下田遺跡の柄鏡形住居

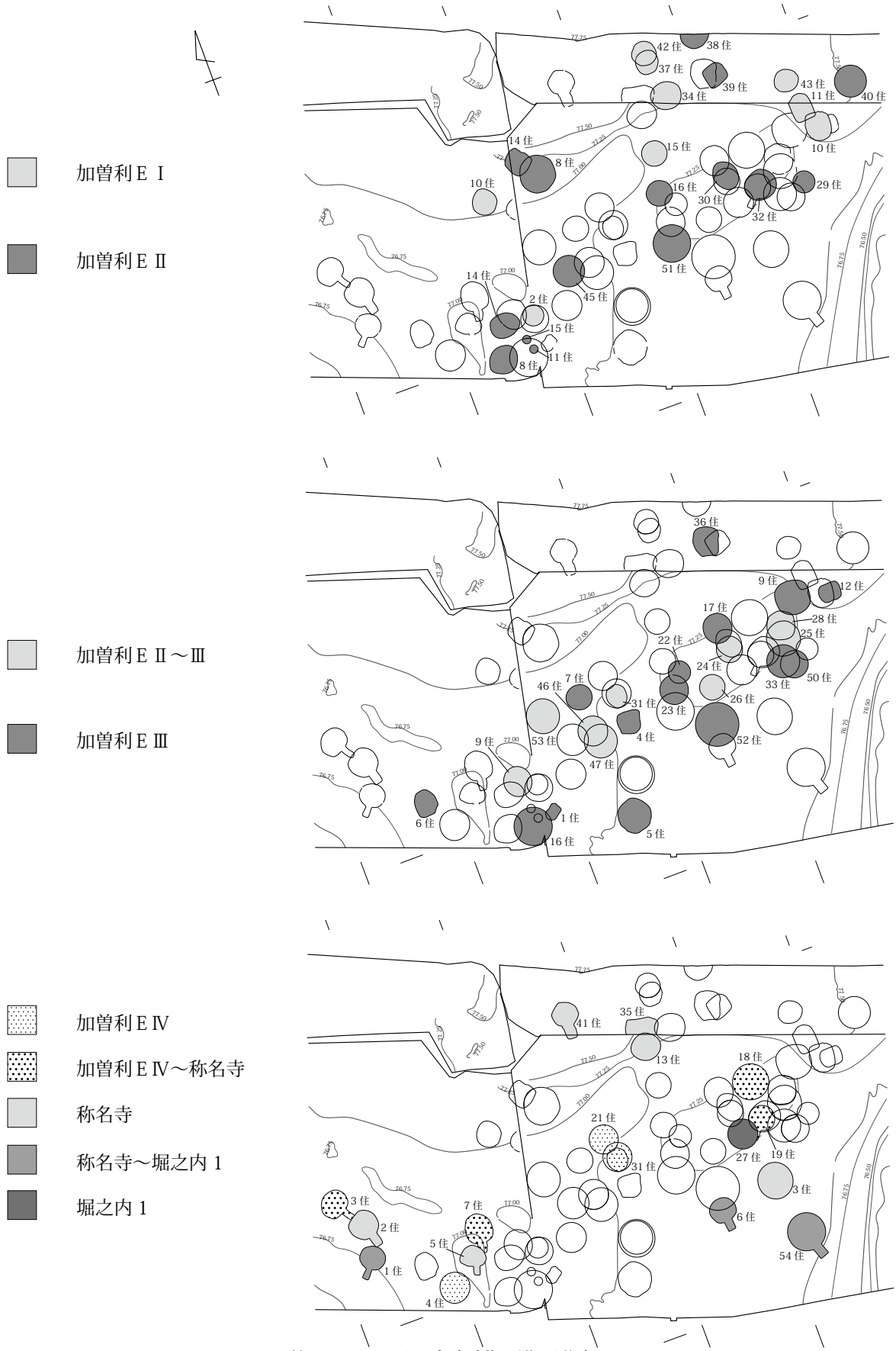
下田遺跡Ⅰ・Ⅱ・２区では、前項で示したⅥ～Ⅷ期の間に 10 軒の柄鏡形住居が検出された。内訳は、Ⅵ期４軒中３軒（Ⅰ区３住、７住、Ⅱ区 19 住）、Ⅶ期６軒中４軒（Ⅰ区２住、５住、Ⅱ区３住、２区 41 住）、Ⅷ期３軒中３軒（Ⅰ区１住、Ⅱ区６住、54 住）である。

それぞれの住居については、本文を参照いただきたい。ここでは時期的なくくりは一度外し、①主体部の規模・形状、②主軸方位、③炉、④埋甕、⑤柱穴、⑥敷石等、⑦その他の各項目に分けて概観してみたい。事実記載や住居一覧表（467・458 頁・表 13）と一部重複するが、ご容赦いただきたい。

①　規模

主体部の規模や形状が明確に判明したのは２区 41 住のみでで、直径 4.7 ｍの円形もしくは八角形である。他はすべて推定であるが、Ⅰ区５住が直径４ｍで最も小さく、最大はⅡ区 54 住の直径７ｍ強である。だいたい直径５～ 5.5 ｍの円の範囲に収まるものが多い。

周縁部環礫や広範囲の敷石を有する住居では、その形状からⅡ区３住は七角形ないし六角形、６住は



第 344 図　下田遺跡時期別住居分布図

八角形、19 住は五角形が想起される。

②　方位

Ⅰ区３住とⅡ区３住が西に 20°以上傾き、Ⅰ区１住とⅡ区 19 住は東に約 40°傾く。他の６軒は東西のぶれが 20°未満で、ほぼ北を向くといってよい。

③　炉

石囲い炉であることがほぼ間違いないのがⅠ区５住、７住、Ⅱ区６住、19 住で、可能性を有するのはⅠ区１住と３住である。Ⅱ区３住と２区 41 住は地床炉と見られ、Ⅰ区Ⅱ住とⅡ区 54 住からは炉が検出されなかった。

また、炉帯土器を伴っていたのはⅠ区５住とⅡ区６住であった。

④　埋甕

Ⅰ区１住、５住、７住、２区 41 住、Ⅱ区 54 住からは埋甕が出土しなかった。Ⅰ区２住の埋甕は炉帯土器の可能性がある。

Ⅰ区３住、Ⅱ区６住からは２基ずつ検出された。出土位置はⅠ区３住が柄の先端部と連結部、Ⅱ区６住が主体部内の周縁部環礫上である。

Ⅱ区 19 住からは、柄の先端部、連結部と炉の中間部、主体部敷石内からの３基が検出された。

Ⅱ区３住からはなんと５基が検出された。いずれも周壁際に巡る石列の頂点及びそれに対応する位置に埋設され、柱穴と見ても遜色ない掘り込みを伴っている。

⑤　柱穴

Ⅰ区５住が６本、Ⅱ区６住が５本の主柱穴構造と思われる。Ⅱ区 54 住も、全貌は掴めないが主柱穴構造の可能性がある。

Ⅰ区１住とⅡ区３住は、ピットは多く検出されているが、住居に伴うか否かを含め、柱穴構造は不明である。

他の５軒については、10 本前後の壁柱穴構造と推測される。

⑥　敷石等

８軒の住居で柄部や主体部に敷石を施している。Ⅰ区３住とⅡ区３住の２軒は、敷石の可能性は残すものの、明確には認められなかった。

位置別に見ると、Ⅱ区 19 住は主体部の広範囲に敷石を残すが柄部にはない。他の７軒は柄部に敷石を施す。Ⅰ区１住、５住及びⅡ区 54 住の敷石は方形に整えられている。またⅠ区７住、Ⅱ区６住、２区 41 住では連結部の主体部側にも伸びている。

周縁部環礫を施す住居は、Ⅱ区３住、６住、19 住の３軒である。19 住が平坦面を上にして敷石状に並べるのに対して、３住と６住のそれは細長礫を長軸方向に繋げる石列状である。３住は西半部、６住は東半部のみなのだが、初めからないのか、後から抜かれたのかは不明である。また、石列の屈曲部（頂点）に土器が埋設される点も共通している。

⑦　その他

Ⅱ区 19 住の連結部（柄部と炉の中間）の埋甕には、扁平な礫が回りを四角く囲っていた。いわゆる「連結部石囲い施設」と見て間違いないであろう。内部に土器を伴う例は、より古い段階で見られるということである。

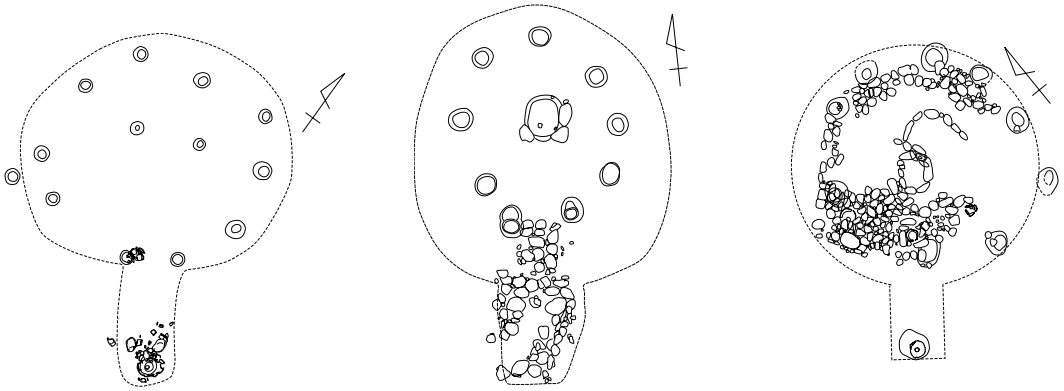
Ⅰ区５住では同様の位置に土坑が掘られ、上端を礫が廻っていた。こちらは「連結部石囲い施設」が土坑に変化した、新しい形と見てよいのではないだろうか。

なお、立地が離れていたのと不明点が多かったためここまであえて触れなかったが、Ⅳ区１住（第１分冊 106 ～ 112 頁）も柄鏡形を呈すると想定されている。時期は加曽利ＥⅣ式期に比定され、本遺跡でもっとも古い柄鏡形住居ということになる。当該地域の柄鏡形住居の出現期を考察する上で、興味深い住居であろう。

以上、下田遺跡の住居選地に見る集落構造の変遷と柄鏡形住居について概観してみた。

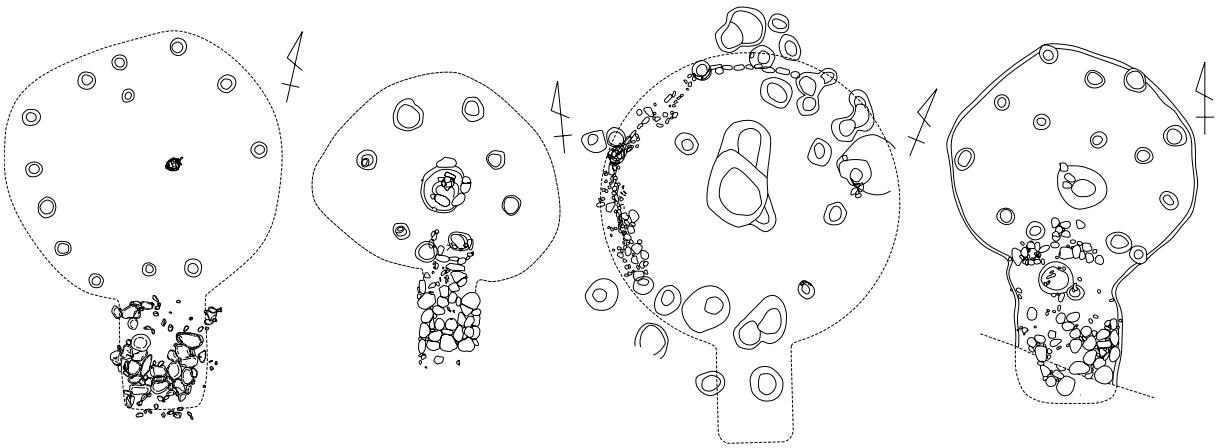
本遺跡の特徴として、覆土の切り合いが確認できないため、時期判定を土器型式に頼る部分が多かった。にもかかわらず、筆者の怠慢により土器型式をより細かく判別することができず、大雑把な時期分類になってしまった。細分により同時存在した住居

加曽利ＥⅣ式～称名寺式期



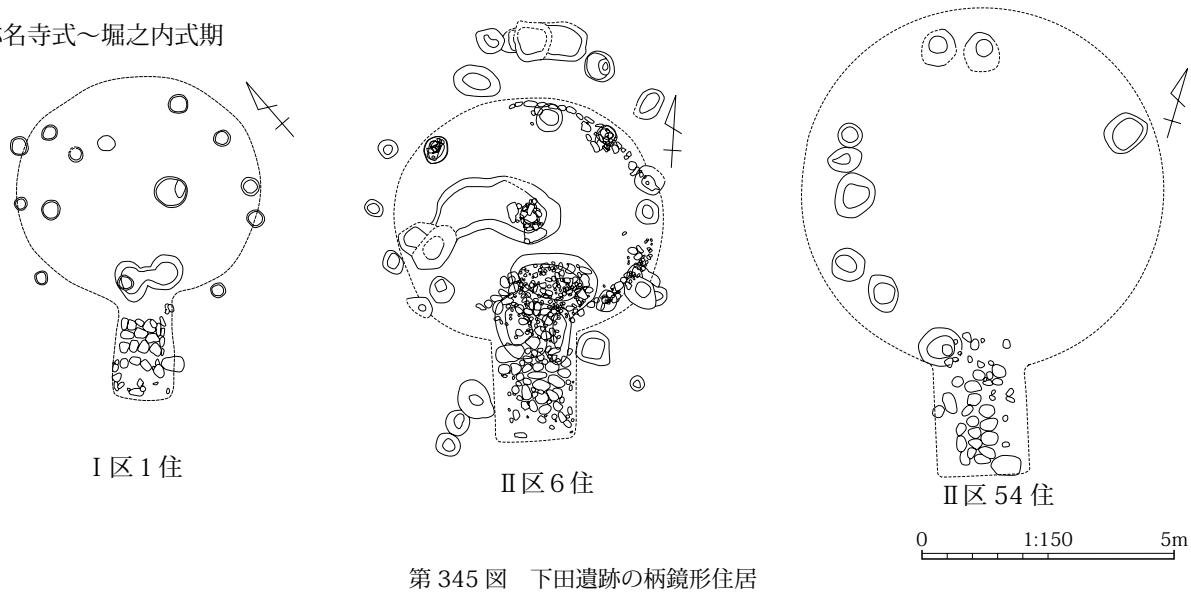
Ⅰ区３住　　Ⅰ区７住　　Ⅱ区 19 住

称名寺式期



Ⅰ区２住　　Ⅰ区５住　　Ⅱ区３住　　２区 41 住

称名寺式～堀之内式期



Ⅰ区１住　　Ⅱ区６住　　Ⅱ区 54 住

第 345 図　下田遺跡の柄鏡形住居

軒数が把握できれば、より具体的な集落変遷の動向が浮かび上がるであろう。今後の課題としていきたい。

柄鏡形住居については、優れた研究成果が数多く発表されているが、その集成・集計に新たに加えられる資料となったといえる。住居内埋甕や敷石・周縁部環礫、連結部施設などについては、検討に値する資料ではないかと思う。

配石や埋甕、土坑などの住居以外の集落施設についての考察は、まったく不十分に終わってしまった。特に配石墓や土坑墓と思われる遺構のほか、中央広場の縁辺や内部の遺構、あるは水辺の立地に伴う水場遺構等についても検討が必要である。柄鏡形住居以外の住居も含めて、今後これらの遺構の分析を重ねることで、下田ムラの全体像がより鮮明になっていくであろう。

本遺跡の４～６km 西方に天ヶ堤遺跡、三和工業団地Ⅱ遺跡（ともに伊勢崎市三和町）、６km 北方に曲沢遺跡（伊勢崎市曲沢町・国定町）といった縄文中期後半から後期前半にかけての拠点的大集落遺跡が存在している。その他、大間々扇状地桐原面上の湧水地周辺には縄文時代中期～後期の集落が点在する。一方、扇端部まで湧水点のない薮塚面上に集落は確認されていない。桐原面と薮塚面の境界付近に位置する下田ムラは、近隣地域のムラの中では東端に位置することになる。しかも他の遺跡とは異なり、より水場に近い低地帯に立地している。周辺の遺跡との比較・分析をはじめ、より広い地域間での対比も、本遺跡の位置づけを考える上で今後の課題である。

第１節、第２節も含めて考察が深められずに課題ばかりが山積してしまった。また、資料の見方、取り上げ方にも不備が多々あったと思う。可能な限り多くの資料を提示することを心がけはしたが、ひとえに筆者の力量不足と怠慢に他ならない。

今後先学諸氏のご批判やご教示を仰ぎながら、少しずつでも解明できるように努力していきたい。

主な参考文献

『群馬の遺跡　２縄文時代』群馬県埋蔵文化財調査事業団編 2005

池田政志 『三ッ子沢中遺跡』 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2000

石坂　茂 「柄鏡形住居址について」『荒砥二之堰遺跡』 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1985

石坂　茂 「縄文時代の遺構」『仁田遺跡・暮井遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団 1990

石坂　茂 「縄文時代中期末葉の環状集落の崩壊と環状列石の出現」『研究紀要２０』 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002

川名弘文 「柄鏡形住居跡の埋甕に見る象徴性」『土曜考古』第 10 号　1985

木村　収 『白倉下原・天引向原遺跡Ⅱ』 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1994

鈴木徳雄 「敷石住居址の連結部石囲い施設」『群馬考古学手帳』Ｖｏｌ．４　1994

関根慎二 『白川傘松遺跡』 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1995

山本暉久 「敷石住居」『縄文文化の研究８』1982

山本暉久 「柄鏡形（敷石）住居と埋甕祭祀　上・下」『神奈川考古』第 32・33 号　神奈川考古同人会 1996・1997

表 15　Ⅰ区・Ⅱ区・２区住居一覧表

区	No.	位置（グリッド）	時期	炉	埋甕	敷石	形状（主体部）	規模（主体部）	検出壁高	主軸方位	ピット（柱穴）	重複（古）	重複（新）	土器量	石器量	その他・備考
Ⅰ	1	030*035-910*916	称名寺～堀之内１	○		○	柄鏡形（円？）	直径５ｍ？	0（ｃｍ）	N-45°-E	１５本			－	4	石囲い炉か。敷石は柄部分のみ。立石あり。
Ⅰ	2	035*042-911*916	称名寺	◎		○	柄鏡形（円？）	直径５.５ｍ？	0	N-13°-E	１３本（１０本壁柱穴）			3.1	7	敷石は柄部分のみ。
Ⅰ	3	040*047-914*918	加ＥⅣ～称名寺		2	○	柄鏡形（円？）	直径５ｍ？	0	N-34°-W	１３本（８本壁柱穴）			6.4	10	柄の先端に１号埋甕。敷石は疎ら。
Ⅰ	4	020*027-898*903	加ＥⅣ	◎		○	不整円形	直径６ｍ弱？	0	－	６本（６本主柱穴）			2.3	3	方形石囲い炉。敷石は一部のみ。
Ⅰ	5	023*029-893*898	称名寺	◎	＊	○	柄鏡形（円？）	直径４ｍ？	0	N-10°-E	８本（６本主柱穴）	７（切り合い不明）		4.5	11	コの字型石囲い炉？敷石は柄部分のみ。５埋甕隣接。
Ⅰ	6	018*023-902*906	加ＥⅢ				ほぼ円形	４.９ｍ×４.２ｍ	３０～４０	－	なし			74.3	39	掘り込み深く、遺物非常に多い。
Ⅰ	7	027*034-890*895	中期末～後期前半	○		○	柄鏡形（円？）	５.５ｍ×５ｍ	0	N-7°-E	１０本（９本壁柱穴）	５（切り合い不明）		1.2	13	石囲い炉？敷石は柄部分のみ。
Ⅰ	8	016*021-889*894	加ＥⅡ	◎			ほぼ円形	５.７ｍ×５.２ｍ	5	N-47°-E	１５本			5.7	16	楕円形石囲い炉。炉内に入れ子状の埋甕。
Ⅰ	9	023*029-884*890	加ＥⅡ～加ＥⅢ	○	＊		円形	直径５.５ｍ？	0	－	１１本（１１本壁柱穴）	13、14		4.3	10	楕円形石囲い炉。炉付近に遺物集中あり。
Ⅰ	*10	046*051-883*888	加ＥⅠ	◎			ほぼ円形	５×４.７ｍ	22	－	１５本			8.6	16	長円形石囲い炉。
Ⅰ	11	017*020-884*886	加ＥⅡ	◎			（不明）	（不明）	0	－	（不明）	15､16（切り合い不明）		7.3	3	西半分の石囲い炉のみ。屋外炉か？
Ⅰ	*12	042*046-880*881	（不明）				円形？	直径４ｍ？	13	－	６本			0.1	0	西半分のみ。
Ⅰ	13	021*026-881*886	加ＥⅠ～加ＥⅡ	○			円形	直径５ｍ？	15	－	１２本（７α本壁柱穴）		9、Ⅱ区２	9.7	13	地床炉か、石が抜かれたか。
Ⅰ	14	022*027-886*891	加ＥⅡ	◎	1		ほぼ円形？	５ｍ強×４.５ｍ？	0	－	２２本		9	3.3	9	円形炉。石抜き取り穴あり。炉内外に埋甕５個。
Ⅰ	15	020*022-884*886	加ＥⅡか	○			（不明）	（不明）	0	－	（不明）	11､16（切り合い不明）		11	1	方形？の石囲い炉のみ。屋外炉か。
Ⅰ	16	014*018-886*889	加ＥⅢか	○			（不明）	（不明）	0	－	（不明）	11､15（切り合い不明）		19	6	楕円形？の石囲い炉のみ。屋外炉か。
Ⅱ	1	017*020-881*884	加ＥⅢ	◎			隅丸方形？	不整隅丸長方形	１５～２０	N-7°-E	なし			15.0	10	炉は埋甕のみ。覆土中に礫多い。
Ⅱ	2	022*026-882*885	加ＥⅡ	◎			円（西半のみ）	直径４.２ｍ	15	－	４本（４α本壁柱穴）	Ⅰ区 13		1.3	2	石囲い炉？Ⅰ区 13 住の炉を壊したか？
Ⅱ	3	018*023-835*841	称名寺	○	5	＊	柄鏡形（円？）	５.７ｍ×５.３ｍ？	0	N-21°-W	２８本			7.7	7	石囲い炉？西半壁石列が七角形状に並ぶ。
Ⅱ	4	027*031-861*865	加ＥⅢ	○			ほぼ正方形	一辺４.２ｍ	5	N-10°-E	２本			1.1	4	石囲い炉。西半部壁周溝あり。
Ⅱ	5	009*016-865*871	加ＥⅢ	○			ほぼ円形	直径６.５ｍ	１５～35	－	９本（６α本壁柱穴）			5.0	5	炉に石なし。南東部に壁周溝あり。
Ⅱ	6	015*022-849*851	称名寺～堀之内１	◎	2	○	柄鏡形（円？）	５.３ｍ×４.９ｍ？	0	N-5°-E	２７本（５本主柱穴）	52		19.4	27	石囲い炉？敷石は柄部分周辺。北東部に壁石並ぶ。
Ⅱ	7	035*039-868*873	加ＥⅢ	◎	2		円形？	直径４.５～５ｍ？	0	－	５本（５本主柱穴）			1.1	5	炉が中心より北西寄り。南半のみ石残る。
Ⅱ	*8	046*053-871*877	加ＥⅡ	◎	1		ほぼ円形	７.１×６.７ｍ	46	－	１５本（６本主柱穴？）	14		53.2	62	柱穴二重にまわる。建てかえか。
Ⅱ	9	037*044-823*830	加ＥⅢ	◎	2		円形？	直径６.５～７ｍ？	0	－	７本（６本壁柱穴）	10		2.3	10	方形石囲い炉。炉の西側に硬化面。
Ⅱ	10	037*042-818*824	加ＥⅠ	◎			円形	直径５.７ｍ	20～30	－	14 本（９本壁柱穴）	11	９、12	8.8	21	長円形石囲い炉。壁周溝がほぼ１周回る。
Ⅱ	*11	042*046-821*825	加ＥⅠ				不整隅丸方形	５ｍ×４.４ｍ	52	N-0°-E	８本		10	28.2	46	風倒木による撹乱を受ける。
Ⅱ	12	037*041-817*819	加ＥⅢ				方形？	一辺５ｍ	20	N-0°-E	なし	10		3.8	4	大半が 10 住と重複。
Ⅱ	*13	051*055-850*854	称名寺	○	1	＊	（不明）	（不明）	0	－	なし			2.5	13	敷石の残骸か。柄鏡形の可能性あり。
Ⅱ	*14	049*054-873*879	加ＥⅡ				不整隅丸方形？	一辺約３.５ｍ	46	N-47°-W	５本		8	1.6	0	確認状況が不良で、不明点多い。
Ⅱ	15	043*048-849*854	加ＥⅠ	◎			円形？	直径５ｍ強？	0	－	５本（５本主柱穴）			39	0	南空きコの字型石囲い炉。
Ⅱ	16	035*040-850*855	加ＥⅡ	◎			円形？	直径５ｍ強？	0	－	５本（５本主柱穴）		22	8.3	5	北空きコの字型石囲い炉。
Ⅱ	17	037*043-839*844	加ＥⅢ	○	3		円形？	直径５.５～６ｍ？	0	－	３本（３α本壁柱穴）		30、18?	23	0	石囲い炉。
Ⅱ	18	036*043-829*835	加ＥⅣ～称名寺		1	○	円形？	直径７ｍ強？	0	－	４本（４α本壁柱穴）	17?、28?		32	3	敷石は埋甕周辺。
Ⅱ	19	030*035-833*838	加ＥⅣ～称名寺	○	3	○	柄鏡形（円？）	直径５ｍ強？	0	N-39°-E	９本（９α本壁柱穴）	32、33	27	20.7	16	石囲い炉。南半に敷石、東以外六角形状に壁石並ぶ。
Ⅱ	20	032*038-860*867	加ＥⅣ	○	1	○	円形？	直径６.５ｍ以内	１５～20	－	なし	31	20 と 21 は新旧不明	18.1	35	敷石は南端部が中心。

区	No.	位置（グリッド）	時期	炉	埋甕	敷石	形状（主体部）	規模（主体部）	検出壁高	主軸方位	ピット（柱穴）	重複（古）	重複（新）	土器量	石器量	その他・備考
Ⅱ	21	036*042-859*965	加ＥⅣ			＊	円形？	直径５．５ｍ	15 ～ 21	－	なし	31		12.5	15	東側に敷石らしきもの。
Ⅱ	22	033*037-849*853	加ＥⅢ	◎			円形？	直径４．５ｍ？	0	－	６本（６本主柱穴）	16	23	16	1	石囲い炉（南部のみ石残る）。
Ⅱ	23	029*035-851*856	加ＥⅢ		1		円形？	直径５．５ｍ？	0	－	６本（６本主柱穴）	22	51 ？	9	0	住居中心に埋甕、炉か。
Ⅱ	24	035*036-841	加ＥⅡ～加ＥⅢ	◎	1		（不明）	（不明）	0	－	なし	17 ？、30 ？	27	19	0	コの字型石囲い炉？のみ
Ⅱ	25	031*037-827*834	加ＥⅡ～加ＥⅢか	○			円形？	直径６．５ｍ？	0	－	６本（６本主柱穴？）	29、32、33	19、28 ？	3	2	方形石囲い炉。
Ⅱ	26	027*032-844*849	中期後半か	○			円形？	直径５ｍ？	0	－	６本（６本主柱穴）			1.1	1	楕円形の石囲い炉か？
Ⅱ	27	029*033-837*842	堀之内１か	○			円形？	直径６ｍ弱？	0	－	３本（３α本壁柱穴）	19、24、30、32		1.4	1	楕円形の石囲い炉か？　直北に転倒土器。
Ⅱ	28	033*039-827*833	加ＥⅡ～加ＥⅢか	○			ほぼ円形	５．８×５．１ｍ	10 ～ 30	N-1° -W	24 本（４α本主柱穴）		9、18、25	31.3	28	楕円形石囲い炉。
Ⅱ	29	028*033-825*829	加ＥⅡ				ほぼ円形？	直径４ｍ？	0	－	10 本（10 本壁柱穴）		25、33、	8	0	北半に壁周溝。ピットに遺物あり。
Ⅱ	30	034*039-838*843	加ＥⅡ	○			南北楕円	５．６×４．５ｍ	５～25	N-23° -W	５本（５本主柱穴）		17、24、27	18.3	14	地床炉か？
Ⅱ	31	032*037-862*866	加ＥⅡ～加ＥⅢ				南北楕円	４．４×３．７ｍ	20 ～ 30	N-1° -E	なし		20、21	9.0	15	20 号住の真下。
Ⅱ	32	030*036-832*838	加ＥⅡ	○			ほぼ円形	直径６～６．５ｍ	10	－	６本（６α本壁柱穴）	（　新　）19、25、27、28、33、40		23	1	南空きコの字型石囲い炉。
Ⅱ	33	027*033-829*835	加ＥⅢ	◎２	2		円形？	直径６．５ｍ？	0	－	７本（７α本壁柱穴）	28、29、32	19、40	0.7	1	石囲い炉（対辺残る）？　炉内土器２個体。
2	*34	053*058-844*849	加ＥⅠ新	◎			円形	直径５．５ｍ前後	40	－	13 本		35	11.6	23	長円形の石囲い炉。遺物多量。
2	*35	050*053-848*854	称名寺？	○			方形？	東西６ｍ	24	N-25° -E	５本	34		18.4	10	地床炉。
2	*36	053*059-835*840	加ＥⅢ	○			不整隅丸長方形	５．４×４．７ｍ	49	N-20° -E	９本	39		42.1	162	礫と土器の変則石囲い炉。東西壁際に周溝。遺物多量。
2	*37	059*064-845*849	加ＥⅠ				円形？	直径４．３ｍ	25	－	９本		42	5.2	36	加ＥⅠより先行する可能性もあり。
2	*38	061*064-835:840	加ＥⅡ	○	1		円形	直径５．３ｍ	34	－	９本			11.4	37	石囲い炉。南壁際に周溝あり。
2	*39	053*057-834*837	加ＥⅡ	◎			隅丸方形？	一辺４ｍ前後	42	N-11° -W	２本		36	32.5	13	石囲い炉か。
2	*40	043*046-811*815	加ＥⅡ	○	1		（不明）	（不明）	0	－	３本			－	3	長円形地床炉。
2	*41	059*066-861*866	称名寺	○		○	柄鏡形（円？）	直径４．７ｍ	17	N- 7 ° -W	14 本（９本壁柱穴）			－	40	主体部は八角形の可能性有り。敷石は連結部～柄部分。
2	*42	063*066-846*849	加ＥⅠ	◎			円形？	直径４．５ｍ前後	12	－	５本	37		8.6	1	長円形の石囲い炉か。
2	*43	047*052-821:826	加ＥⅠ	○			円形	４．７×４．３ｍ	33	－	８本			18.7	12	円形の地床炉。
Ⅱ	44	021*027-874*880	（不明）	○			円形？	直径６ｍ？	0	－	３本			0	1	長方形の石囲い炉。屋外炉か。
Ⅱ	45	027*033-871*878	加ＥⅡ	◎			円形？	直径６ｍ？	0	－	３本		46、47	0.4	3	長方形の石囲い炉。
Ⅱ	46	027*033-867*873	加ＥⅡ～加ＥⅢ	◎	2		円形？	直径６ｍ？	0	－	６本（６本柱穴）	45	46 と 47 は新旧不明	0.4	0	南空きコの字型石囲い炉か？北に石抜き取り穴あり。
Ⅱ	47	025*031-866*872	加ＥⅡ～加ＥⅢ		1		円形？	直径６．５ｍ弱？	0	－	９本（９α本壁柱穴）	45		0.5	4	炉は確認できず。埋甕あり。
Ⅱ	48	016*023-862*869	（不明）	○			円形？	直径６ｍ？	0	－	９本（９本壁柱穴）	49		0.4	3	石囲い炉。49 住の建てかえ後。
Ⅱ	49	017*023-862*869	（不明）				円形？	直径６ｍ？	0	－	８本（６本主柱穴）		48	0.2	1	48 住の建てかえ前。
Ⅱ	50	026*031-828*833	加ＥⅢ		1		円形？	直径５．５ｍ？	0	－	９本（６本主柱穴？）	29		0.1	0	住居中心に埋甕、炉か。33 住とは新旧不明。
Ⅱ	51	025*031-851*858	加ＥⅡ	◎			円形？	直径７ｍ弱？	0	－	３本		23	0.2	0	南北楕円の石囲い炉。
Ⅱ	52	019*027-844*852	加ＥⅢ	◎			円形？	直径８ｍ？	0	－	５本（５α本壁柱穴）		6	0.2	0	小振りの方形石囲い炉。
Ⅱ	53	035*041-873*879	加ＥⅡ～加ＥⅢ	◎	1		（不明）	（不明）	0	－	（不明）			0	6	石囲い炉。屋外炉か。
Ⅱ	54	004*013-832*839	称名寺～堀之内１			○	柄鏡形（円？）	直径７ｍ強	0	N-18° -W	９本（３α本主柱穴）			0.1	0	敷石は柄部分のみ。

住居番号の＊は第１分冊で報告された住居。　　炉の◎は炉帯土器有、埋甕の数字は個数、敷石の＊は検討を要するものを表す。　　柱穴のαは＋αあり。
重複は対象を住居に限定。（古）は当該住居に切られ、（新）は当該住居を切る関係。　　土器量（掲載分除く）の単位は、斜字はｋｇ、太字は点数。石器量は総て点数。

下田遺跡の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

下田遺跡（群馬県伊勢崎市田部井町に所在）は、大間々扇状地を南流する早川左岸の低地上に位置する。大間々扇状地は渡良瀬川水系により更新世後期に形成および段丘化したとされ、５～６段の地形面に区分されている（日本の地質「関東地方」編集委員会，1986；群馬県地質図作成委員会，1999；貝塚ほか編，2000）。これら段丘面の内、遺跡付近の早川の低地西側に広がる段丘が桐原面に区分され、東側に広がる段丘が薮塚面に区分されている。ただし、早川の低地は、遺跡付近より上流部で両地形面の境界を構成する谷でなく、桐原面を開析する谷となっている。この付近の両地形面の境界は、岡登用水が流れている谷である。大間々扇状地の大部分は、この桐原面と藪塚面によって占められている。そして、これらの段丘形成年代は、テフラ層との層位関係から、桐原面が約５万年前、薮塚面が３～４万年前と考えられている（貝塚ほか編，2000）。

これまでの発掘調査により、本遺跡では微高地部で縄文時代中期の集落跡、この微高地を削る旧河道などが確認されている。今回、調査区内の層序を確立するために放射性炭素年代測定とテフラ分析を、旧河道内の埋積過程や堆積物の由来を検討するために珪藻分析と土壌の理化学成分（腐植含量･リン酸吸収係数）の測定を、稲作の消長を含めた周辺植生の変遷を検討するために花粉分析と植物珪酸体分析を実施する。また、縄文時代の住居跡から検出された埋甕の内部に、炭化した種実遺体や葉とみられる植物遺体が充填していたため、これらの種類についても明らかにすることを試みる。

１．試料

試料は、Ⅰ区およびⅡ区で採取した。Ⅰ区では微高地および旧河道が確認され、層序が 13 層に分層できる。これを便宜的に上位より１層～ 13 層とする。１層は現表土で、褐灰色シルトからなり、３mm 以下の軽石を含む。上部に糸根状酸化鉄が、下部にマンガン斑が沈着しており、現水田耕土・床土である。２層は暗褐色シルトよりなり、２mm 以下の軽石を含む。近世・近代以降の水田層である。３層は灰褐色砂混じりシルトで、２mm 以下の軽石を含む。４層は褐色～青灰色砂よりなり、中部に黒色腐植土を挟む。５層は灰色の極粗粒砂～細礫径の軽石により構成され、軽石は浅間Ｂテフラ（Ａｓ－Ｂ：新井，1979）に由来すると考えられている。６層は黒褐色粘土質シルトで、Ａｓ－Ｂ下位の水田層とされる。７層は灰白色粘土よりなり、泥流堆積物とされる。本層下位から８世紀代の遺物が出土する。８層は灰黒色粘土質シルトで、５mm 以下の軽石が混在する。本層も水田層とされている。９層は黒色粘土質シルトよりなり､縄文時代中期後期の遺物が検出される。10 層は、暗灰色の極粗粒砂～細礫径の軽石層である。11 層は旧河道を埋積する堆積物で、黒色シルト質粘土よりなる。12 層は、暗灰～黄褐色粘土よりなる。13 層は、旧河道の最下部に認められる砂礫層である。試料採取地点は、調査区南壁において２ヶ所設定した。旧河道部にあたる１地点では厚さ５cm で連続的に 29 点（上位より試料番号１～ 29）を、微高地部にあたる２地点では１地点と同様に 22 点（上位より試料番号１～ 22）を採取した。

Ⅱ区では、調査区北西壁の微高地部で試料を採取した。試料採取地点の層序は、６層に分層されている。これを便宜的に上位から１層～６層とする。１層は、褐灰色シルトからなる現表土である。２層は、灰褐色シルトないし砂よりなり、３mm 以下の軽石を含む。３層は、黒褐色軽石が混じるシルトからなるが、上部で黒色

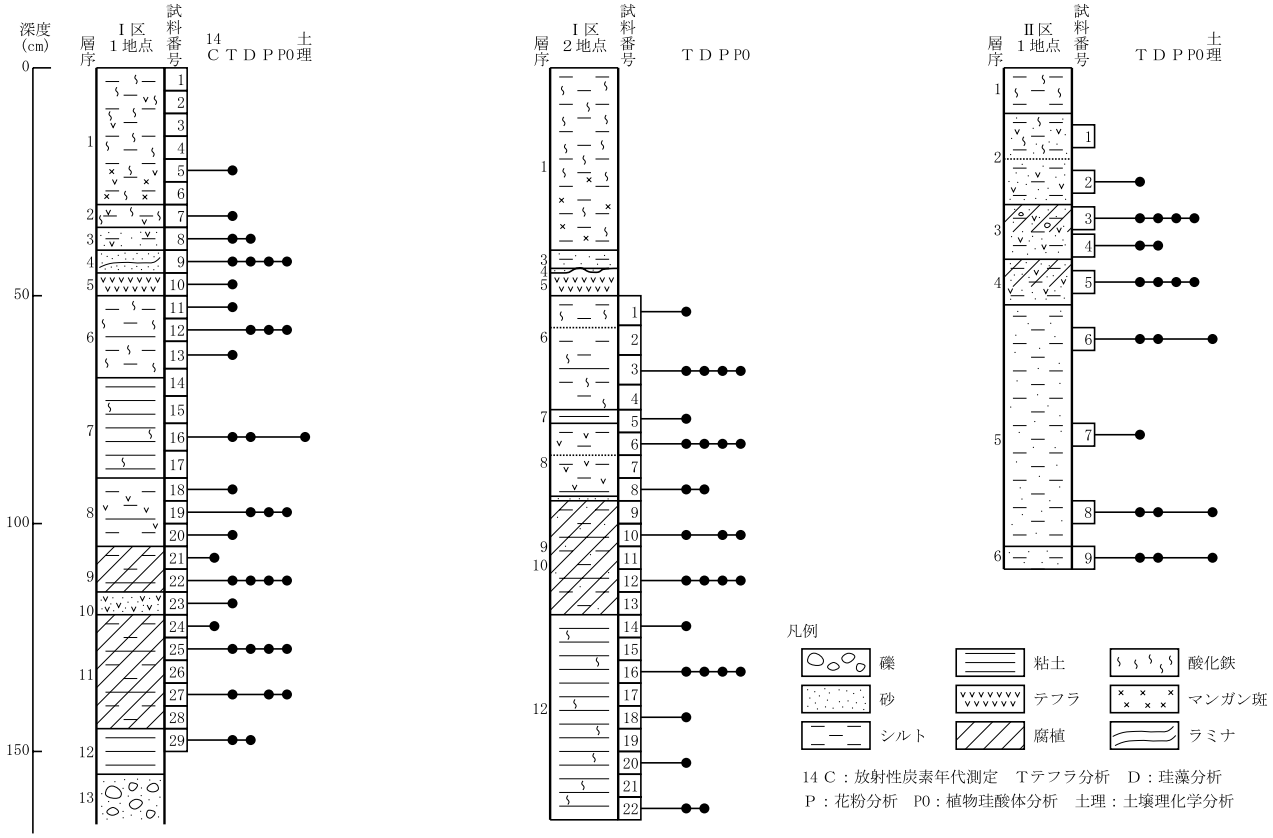


図１　３区および５区試料採取地点の層序および分析位置

が強く、下部でやや明るい色調を示す。４層は、黒褐色軽石混じりシルトよりなる。５層は、暗灰褐色砂混じりシルトからなり、縄文時代中期の遺物包含層である。６層は、明黄灰色砂混じりシルトよりなる。試料は層相を考慮し、２層～６層まで各層１～３点の試料を合計９点（上位より試料番号１～９）採取した。

これらの試料の中から、放射性炭素年代測定２点、テフラ分析 35 点、珪藻分析 20 点、花粉分析 13 点、植物珪酸体分析 13 点、土壌理化学分析４点を実施する。なお、各地点の層序と試料採取位置、および分析試料については、模式柱状図として図１に示す。

また、本遺跡では、縄文時代中期のⅡ-1 区 19 号住居跡で出土した埋甕に炭化した種実遺体が充填していた。この内部の炭化した種実遺体について種子同定を行う。さらに、Ⅰ区３号住居跡の連結部から出土した埋甕、Ⅱ-1 区 18 号住居跡より出土した埋甕内には、その底部に植物遺体が認められている。３号住居跡で出土した埋甕の底部に認められる植物遺体は、土塊に付着している状態にある。また、18 号住居跡で出土した埋甕底部に認められる植物遺体は、細長い植物体が幾重にも折り重なる状態にある。これら植物遺体について葉同定を行い、その種類について検討を行う。なお、葉同定の試料は、便宜上、３号住居跡出土埋甕、18 号住居跡出土埋甕と呼称する。

２．分析方法

（１）放射性炭素年代測定

測定は、株式会社加速器分析研究所の協力を得て、β線計数法にて行う。

（2）テフラ分析

試料約 20 g を蒸発皿に取り、水を加え泥水にした状態で超音波洗浄装置により粒子を分散し、上澄みを流し去る。この操作を繰り返すことにより得られた砂分を乾燥させた後、実体顕微鏡下にて観察する。観察は、テフラの本質物質であるスコリア・火山ガラス・軽石を対象とし、その特徴や含有量の多少を定性的に調べる。なお、火山ガラスについては、緩い曲率を持った薄手平板状および継ぎ目のある平板状のものをバブル型とし、スポンジ状に発泡したものおよび発泡が引き伸ばされて繊維束状のものを軽石型、破砕片状のものを中間型とする。

（3）珪藻分析

試料を湿重で 7 g 前後秤量し、過酸化水素水、塩酸処理、自然沈降法の順に物理・化学処理を施して、珪藻化石を濃集する。検鏡に適する濃度まで希釈した後、カバーガラス上に滴下し乾燥させる。乾燥後、プリュウラックスで封入して、永久プレパラートを作製する。検鏡は、光学顕微鏡で油浸 600 倍あるいは 1000 倍で行い、メカニカルステージで任意の測線に沿って走査し、珪藻殻が半分以上残存するものを対象に 100 個体以上同定・計数する。種の同定は、原口ほか（1998）、Krammer（1992）、Krammer and Lange-Bertalot（1986,1988,1991a,b）などを参照する。

同定結果は、淡水～汽水生種、淡水生種の順に並べ、その中の各種類をアルファベット順に並べた一覧表で示す。なお、淡水生種はさらに細かく生態区分し、塩分・水素イオン濃度（pH）・流水に対する適応能についても示す。また、環境指標種についてはその内容を示す。そして、産出個体数 200 個体以上の試料については、産出率 4.0％以上の主要な種類について、主要珪藻化石群集の層位分布図を作成する。また、産出化石が現地性か異地性かを判断する目安として、完形殻の出現率を求める。堆積環境の解析は、海水～汽水生種については小杉（1988）、淡水生種については安藤（1990）、陸生珪藻については伊藤・堀内（1991）、汚濁耐性については、Asai and Watanabe（1995）の環境指標種を参考とする。

（4）花粉分析

試料を湿重で約 10 g 秤量し、水酸化カリウム処理、篩別、重液分離（臭化亜鉛，比重 2.3）、フッ化水素酸処理、アセトリシス処理（無水酢酸：濃硫酸＝９：１）の順に物理・化学的な処理を施して花粉・胞子化石を分離・濃集する。処理後の残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作製した後、光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現する全ての種類について同定・計数を行う。

結果は同定・計数結果の一覧表および主要花粉化石群集の層位分布図として表示する。図中の各種類の出現率は木本花粉が木本花粉総数を、草本花粉・シダ類胞子が総数より不明花粉を除いた数をそれぞれ基数とした百分率で算出する。なお、図表中で複数の種類をハイフォン（-）で結んだものは種類間の区別が困難なものを示す。

（5）植物珪酸体分析

重 5 g 前後の試料について過酸化水素水・塩酸処理、超音波処理（70W，250KHz, 1 分間）、沈定法、重液分離法（ポリタングステン酸ナトリウム, 比重 2.5）の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。検鏡しやすい濃度に希釈し、カバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、プリュウラックスで封入してプレパラートを作製する。

表 1　放射性炭素年代 測定結果

調査区	地点	層位	番号	質	年代値	δ 14 C	δ 13 C	Δ 14 C	Code No.
Ⅰ区	1 地点	9 層	21	黒色粘土質シルト	1870 ± 70	-203.5 ± 7.1	-22.1	-208.1 ± 7.1	IAA-168
Ⅰ区	1 地点	11 層	24	黒色粘土質シルト	2330 ± 60	-241.7 ± 5.5	-18.1	-252.2 ± 5.5	IAA-169

注. (1) 年代値：1950 年を基点とした値。
(2) 誤差：標準偏差（ONE　SIGMA）に相当する年代
(3) δ 13 C：試料炭素の 13C ／ 12 C原子比を質量分析器で測定し、標準に PDB を用いて同様に算出した値

400 倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部（葉身と葉鞘）の葉部短細胞に由来した植物珪酸体（以下、短細胞珪酸体と呼ぶ）および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体（以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ）を、近藤・佐瀬（1986）の分類に基づいて同定・計数する。

結果は、検出された種類とその個数の一覧表で示す。また、検出された植物珪酸体の出現傾向から古植生や稲作について検討するために、植物珪酸体群集と珪化組織片の分布図を作成する。各種類の出現率は、短細胞珪酸体と機動細胞珪酸体の珪酸体毎に、それぞれの総数を基数とする百分率で求める。

（6）土壌理化学分析（腐植含量・リン酸吸収係数）

試料を風乾後、軽く粉砕して 2.00mm の篩を通過させる（風乾細土試料）。風乾細土試料の水分を加熱減量法（105℃、5 時間）により測定する。風乾細土試料の一部を粉砕し、0.5mm φの篩を全通させる（微粉砕試料）。

微粉砕試料 0.100 ～ 0.500 g を 100ml 三角フラスコに正確に秤りとり、0.4 N クロム酸・硫酸混液 10ml を正確に加え、約 200℃の砂浴上で正確に 5 分間煮沸する。冷却後、0.2％フェニルアントラニル酸液を指示薬に 0.2 N 硫酸第 1 鉄アンモニウム液で滴定する。滴定値および加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりの有機炭素量（Org-C 乾土％）を求める。これに 1.724 を乗じて腐植含量（％）を算出する。

また、乾土として 10.00 g になるように風乾細土試料を遠沈管にはかり、2.5％リン酸アンモニウム液（pH7.0）20ml を加え、時々振り混ぜながら室温で 24 時間放置する。乾燥ろ紙を用いてろ過し、そのろ液 100 μ l を 50ml メスフラスコに正確にとり、水約 35ml とリン酸発色 a 液 10ml を加えて定容し、よく振り混ぜる。発色後 30 分間放置し、420nm で比色定量する。定量された試料中のリン酸量を 2.5％リン酸アンモニウム液（pH7.0）のリン酸量から差引き、リン酸吸収係数を求める。

（7）種実遺体同定

試料は水湿を帯び、カビが付着している状態であったため、0.5mm の篩で水洗した後自然乾燥させる。双眼実体顕微鏡下で観察し、その形態的特徴と当社所有の現生標本との比較から種類を同定し、乾燥重量を求める。分析後の種実遺体は、種類毎に乾燥剤とともにビンに入れ、保存する。

（8）葉同定

3 号住居跡出土埋甕試料は土塊から植物遺体を分離するため、18 号住居跡出土埋甕試料は折り重なった植物体を分離するため、いずれも数％水酸化ナトリウム溶液に浸す。植物遺体を分離し、形態を観察する。また、18 号住居埋甕試料についてはイネ科の可能性を考慮し植物珪酸体の有無を確認するため、処理前の試料から植物体の一部を分離し、400 倍の光学顕微鏡下で観察する。

３．結果

（１）放射性炭素年代測定

結果を表１に示す。年代測定の結果、Ｉ区１地点の試料番号 21 が 1870 年前、１地点試料番号 24 が 2330 年前の年代値を示す。

（２）テフラ分析

＜テフラの同定＞

分析結果を表２に示す。各地点ともに軽石の層位的な産状が認められ、また、その色調や発泡度および包有する斑晶の違いなどから、以下に示す３種の軽石質テフラを識別することができた。

Ａｓ－Ｂ：各地点ともに上部の層位に多く含まれる軽石である。軽石の最大径は 2.5mm 程度であり、色調は灰褐色、発泡はやや不良な特徴を呈する。軽石の中には斜方輝石の斑晶を包有するものがある。また、微量のスコリアを伴い、安山岩の岩片を多く伴う。Ａｓ－Ｂは、平安時代の天仁元年（1108 年）に浅間火山から

表２　テフラ分析結果

区	地点	層名	試料番号	スコリア			火山ガラス		軽石			由来するテフラ
				量	色調 発泡度	最大 粒径	量	色調・形態	量	色調・発泡度	最大 粒径	
Ⅰ	1	1	5	+	Br・sb	1.3	-		++	GBr・sb(opx)	2.0	As-B
		2	7	(+)	Br・sb	1.0	-		+++	GBr・sb(opx)	2.0	As-B
		3	8	+	Br・sb	1.0	-		+++	GBr・sb(opx)	2.7	As-B
		4	9	+	Br・sb	1.0	-		++++	GBr・sb(opx)	2.0	As-B
		5	10	+	Br・sb	1.0	-		++++	GBr・sb(opx)	2.3	As-B
		6	11	-			-		++	GBr・sb(opx)	2.0	As-B
			13	-			+	cl・bw,cl・pm	++	GBr・sb(opx)>GW・b(ho)	3.0	As-B,Hr-FA or FP
		7	16	-			+	cl・bw,cl・pm	+	GW・b(ho)	1.5	Hr-FA or FP
		8	18	-			+	cl・bw,cl・pm	+++	GW・b(ho)>PGBr・sg(opx)	4.5	Hr-FA or FP,As-C
			20	-			+	cl・bw,cl・pm	+++	GW・b(ho)>PGBr・sg(opx)	4.0	Hr-FA or FP,As-C
		9	22	-			-		++++	PGBr・sg(opx)	3.5	As-C
		10	23	-			-		++++	PGBr・sg(opx)	4.0	As-C
		11	25	-			(+)	cl・bw,cl・pm	+	PGBr・sg(opx)	1.2	As-C
			27	-			＋	cl・bw,cl・pm	-			
		12	29	-			＋	cl・bw,cl・pm	-			
	2	6	1	(+)	Br・sb	1.0	(+)	cl・bw	+++	GBr・sb(opx)	2.5	As-B
			3	-			(+)	cl・bw	++	GBr・sb(opx)>GW・b(ho)	2.5	As-B,Hr-FA or FP
		7	5	-			(+)	cl・bw	++	GW・b(ho)>GBr・sb(opx)	2.5	As-B,Hr-FA or FP
		8	6	-			++	cl・pm	++	GW・b(ho),PGBr・sg(opx)	2.7	Hr-FA or FP,As-C
			8	-			+	cl・pm	+++	GW・b(ho),PGBr・sg(opx)	4.0	Hr-FA or FP,As-C
		9・10	10	-			++	cl・pm	+++	PGBr・sg(opx)	3.5	As-C
			12	-			+	cl・bw,cl・pm	++	PGBr・sg(opx)	3.0	As-C
			14	-			++	cl・bw,cl・pm	-			
		12	16	-			++	cl・bw,cl・pm	-			
			18	-			++	cl・bw,cl・pm	-			
			20	-			++	cl・bw,cl・pm	-			
			22	-			+	cl・bw,cl・pm	-			
Ⅱ	1	2	2	+	Br・sb	1.0	+	cl・bw	+++	GBr・sb(opx)	3.0	As-B
		3	3	-			+	cl・bw	++	GBr・sb(opx)>GW・b(ho)	4.0	As-B,Hr-FA or FP
			4	-			+	cl・pm	++	PGBr・sg(opx)>GW・b(ho)	6.0	Hr-FA or FP,As-C
		4	5	-			++	cl・pm	+++	PGBr・sg(opx)>GW・b(ho)	5.0	Hr-FA or FP,As-C
		5	6	-			++	cl・bw,cl・pm	-			
			7	-			++	cl・bw,cl・pm	-			
			8	-			++	cl・bw,cl・pm	(+)	W・g	1.2	
		6	9	-			+	cl・bw,cl・pm	-			

凡例　-: 含まれない．(+): きわめて微量．+: 微量．++: 少量．+++: 中量．++++: 多量．

B: 黒色．G: 灰色．Br: 褐色．GB: 灰黒色．GBr: 灰褐色．PGBr: 淡灰褐色．R: 赤色．W: 白色．GW: 灰白色．g: 良好．sg: やや良好．sb: やや不良．b: 不良．最大粒径は mm．cl: 無色透明．br: 褐色．bw: バブル型．md: 中間型．pm: 軽石型．(opx): 斜方輝石斑晶．(ho): 角閃石斑晶．

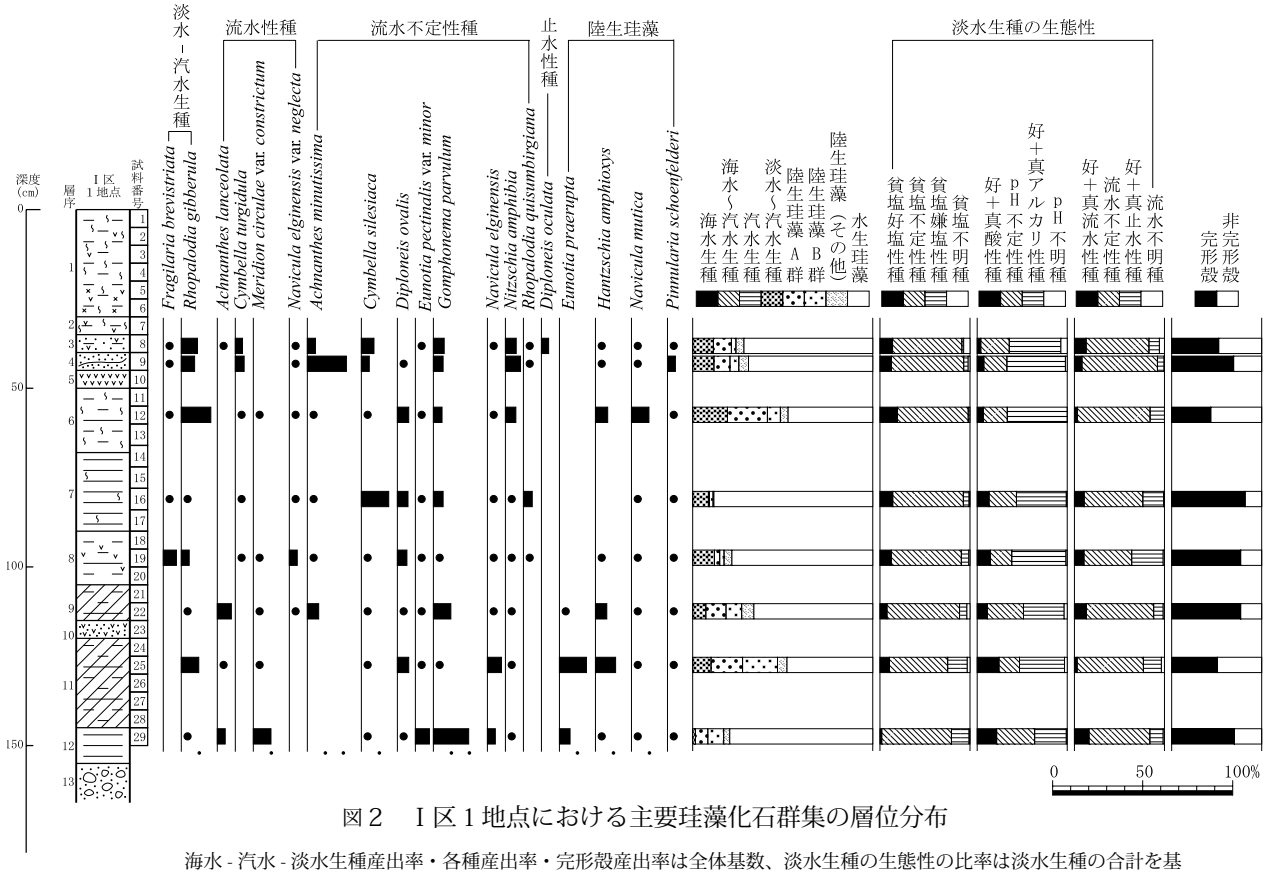


図２　Ⅰ区１地点における主要珪藻化石群集の層位分布

海水 - 汽水 - 淡水生種産出率・各種産出率・完形殻産出率は全体基数、淡水生種の生態性の比率は淡水生種の合計を基数として百分率で算出した。いずれも 100 固体以上検出された試料について示す。なお、●は４％未満の算出を示す。

噴出したとされている。

榛名二ツ岳渋川または伊香保テフラ（Ｈｒ - ＦＡ or ＦＰ、以下文中では便宜的に榛名テフラとする：新井，1979；早田，1989；町田・新井，1992）：各地点ともに上述のＡｓ - Ｂ軽石の濃集層準の下位および後述するＡｓ - Ｃ軽石の濃集層準の上位にいずれかのテフラと混在して産出する。軽石の最大径は４mm 程度、灰白色を呈し、発泡は不良である。軽石の中には角閃石の斑晶を包有するものがある。また、試料によってはスポンジ状の細粒火山ガラスを伴っている。Ｈｒ - ＦＡは降下火山灰と火砕流を主体とするテフラであり、古墳時代６世紀初頭の噴出とされ、Ｈｒ - ＦＰは降下軽石と火砕流を主体とするテフラであり、古墳時代６世紀中葉の噴出とされている。今回認められた軽石や火山ガラスは、土壌層中に混在するため、どちらのテフラに由来するものかは特定できない。

浅間Ｃテフラ（Ａｓ - Ｃ：新井，1979）各地点ともに上述の榛名テフラ下位の層位に多く産出する。軽石の最大径は５～６mm 程度、色調は淡灰褐色を呈し、発泡はＡｓ - Ｂに比べるとやや良好である。Ａｓ - Ｂと同様に斜方輝石の斑晶を包有する軽石も認められる。噴出年代は、考古遺物との層位関係から４世紀中葉頃に位置付けられている（石川ほか，1979）。

＜各地点におけるテフラの産状＞

・Ⅰ区１地点

土層断面でも確認されるように５層がＡｓ - Ｂの降灰層準であり、１～４層にはＡｓ - Ｂの軽石が拡散する。６層では、Ａｓ - Ｂと榛名テフラが混在するが、７層では榛名テフラの軽石のみで、８層ではＡｓ - Ｃと榛名テフラが混在する。９層および 10 層にはＡｓ - Ｃが濃集し、特に 10 層は層相よりＡｓ - Ｃの降灰層準に相当

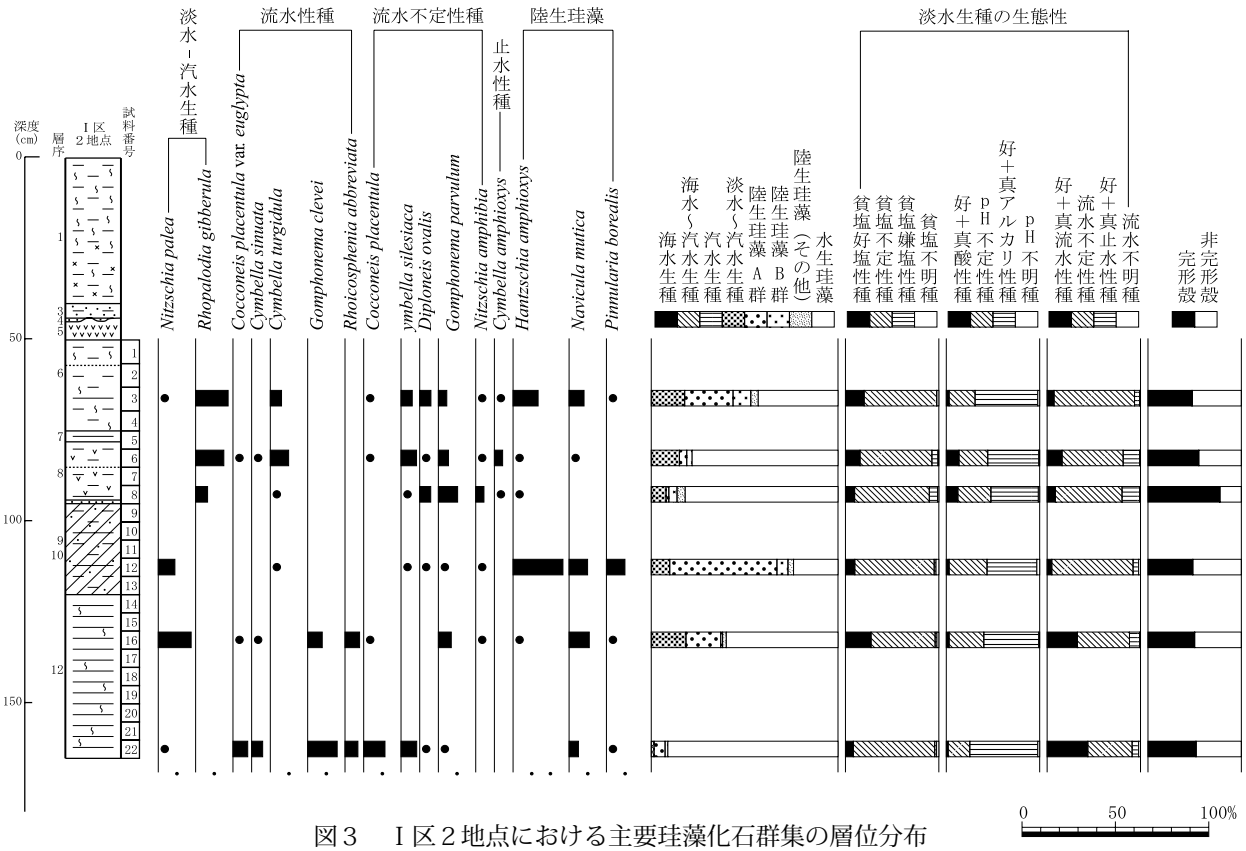


図３　Ⅰ区２地点における主要珪藻化石群集の層位分布

海水 - 汽水 - 淡水生種産出率・各種産出率・完形殻産出率は全体基数、淡水生種の生態性の比率は淡水生種の合計を基数として百分率で算出した。いずれも 100 固体以上検出された試料について示す。なお、●は４％未満の算出を示す。

する。11 層上部にはＡｓ - Ｃの軽石がわずかに拡散するが、中部以下には、おそらく周囲の段丘上のローム層に由来する火山ガラスが微量に含まれるのみである。

・Ⅰ区２地点

６層上部には、直上に堆積するＡｓ - Ｂの軽石が比較的多く含まれるが、中部ではＡｓ - Ｂと榛名テフラが混在する。７層でもＡｓ - Ｂと榛名テフラの混在が認められるが、その量比は榛名テフラの方が多い。８層では榛名テフラとＡｓ - Ｃが混在し、９・10 層ではＡｓ - Ｃのみが含まれる。Ａｓ - Ｃは９・10 層の上部に濃集する傾向がある。12 層には、おそらく周囲の段丘上のローム層に由来する火山ガラスが微量～少量含まれるのみである。

・Ⅱ区１地点

２層下部にはＡｓ - Ｂが比較的多く含まれる。３層上部ではＡｓ - Ｂと榛名テフラとが混在し、３層下部ではＡｓ - Ｃと榛名テフラとが混在する。４層でもＡｓ - Ｃと榛名テフラとの混在が認められる。５層では、おそらく周囲の段丘上のローム層に由来する火山ガラスが微量～少量含まれるのみである。

（３）珪藻分析

結果を表３～５、図２～４に示す。各地区、各試料とも珪藻化石が産出する。完形殻の出現率は、40～70％と層位によって変化する。産出分類群数は、合計で 31 属 234 種類である。以下に各地点ごとに珪藻化石の産状を述べる。

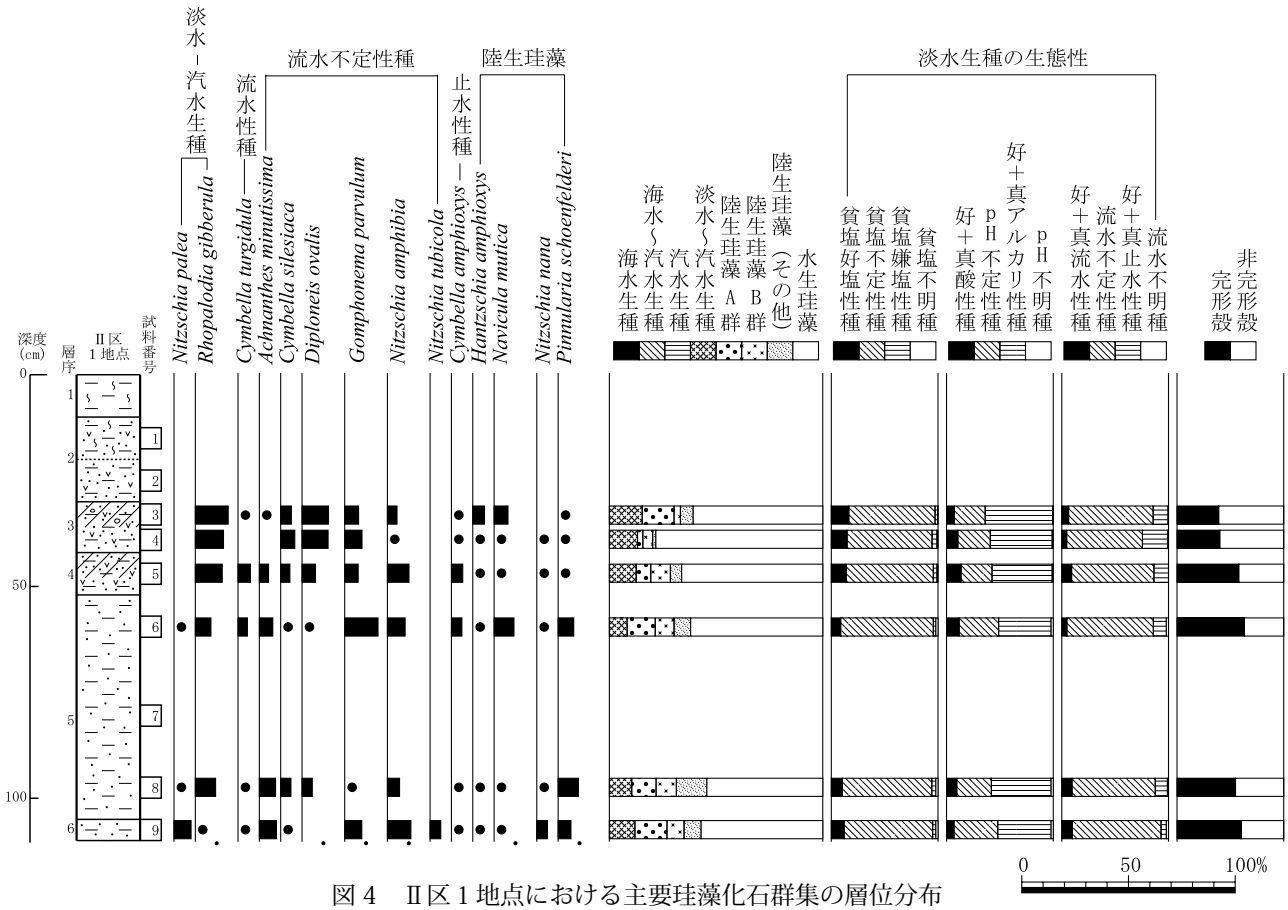


図４　Ⅱ区１地点における主要珪藻化石群集の層位分布

海水 - 汽水 - 淡水生種産出率・各種産出率・完形殻産出率は全体基数、淡水生種の生態性の比率は淡水生種の合計を基数として百分率で算出した。いずれも 100 固体以上検出された試料について示す。なお、●は４％未満の算出を示す。

・Ⅰ区１地点

全般的に淡水域に生育する水生珪藻（以下、水生珪藻という）が多産するが、陸上のコケや土壌表面など多少の湿り気を保持した好気的環境に耐性のある陸生珪藻も 20％前後産出する。淡水生種の生態性（塩分濃度、水素イオン濃度、流水に対する適応能）の特徴は、貧塩不定性種（小量の塩分には耐えられる種）、真＋好アルカリ性種（pH7.0 以上のアルカリ性水域に最もよく生育する種）、流水不定性種（流水域にも止水域にも普通に生育する種）が優占あるいは多産する。なお、最下部の試料番号 29 は、真＋好流水性種の割合が他の試料と比較して高い。主要珪藻化石の消長を下部から述べる。

試料番号 29 は、流水不定性の Gomphonema parvulum が約 20％と多産し、流水性で中～下流性河川指標種群（安藤，1990）の Achnanthes lanceolata、Meridion circulae var. constrictum、流水不定性で沼沢湿地付着生種群（安藤，1990）の Eunotia pectinalis var. minor、Navicula elginensis、陸生珪藻Ｂ群であり沼沢湿地付着生種群でもある Eunotia praerupta 等を伴う。中～下流性河川指標種群とは、河川中～下流部や河川沿いの河岸段丘、扇状地、自然堤防、後背湿地などに集中して出現することから、その環境を指標することができる種群のことである（安藤，1990）。沼沢湿地付着生種群とは、沼よりも浅く水深が１ｍ前後で一面に水生植物が繁茂している沼沢や更に水深の浅い湿地で優勢な出現の見られることから、その環境を指標することができる種群のことである（安藤，1990）。陸生珪藻Ｂ群とは、陸生珪藻の中でも耐乾性に対する適応性が広く、

表３　Ｉ区１地点の珪藻分析結果（１）

種類	生態性			環境								
	塩分	pH	流水	指標種	8	9	12	16	19	22	25	29
Amphora fontinalis Hustedt	Ogh-Meh	al-il	ind		1	-	-	-	-	-	-	-
Cymbella pusilla Grunow	Ogh-Meh	al-il	ind		-	-	-	1	1	-	-	-
Fragilaria brevistriata Grunow	Ogh-Meh	al-il	l-ph	U	3	3	6	8	15	-	-	-
Navicula cincta (Ehr.)Kuetzing	Ogh-Meh	al-il	ind		-	2	-	-	-	2	-	-
Navicula veneta Kuetzing	Ogh-Meh	al-il	ind	U	-	-	-	-	-	4	-	-
Nitzschia levidensis var. victoriae Grunow	Ogh-Meh	al-il	ind	U	-	1	-	-	-	-	-	-
Nitzschia obtusa var. scalpelliformis Grunow	Ogh-Meh	al-il	ind	S	-	1	-	-	-	-	-	-
Nitzschia palea (Kuetz.)W.Smith	Ogh-Meh	ind	ind	S	2	2	-	3	-	8	1	1
Rhopalodia gibberula (Ehr.)O.Muller	Ogh-Meh	al-il	ind		18	15	34	6	9	1	20	2
Achnanthes clevei Grunow	Ogh-ind	al-il	l-ph	T	-	-	-	-	-	-	1	-
Achnanthes convergens H.Kobayasi	Ogh-ind	ind	r-ph	T	-	-	-	-	1	-	-	-
Achnanthes exigua Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	S	-	-	-	3	6	-	-	-
Achnanthes lanceolata (Breb.)Grunow	Ogh-ind	ind	r-ph	K,T	2	-	-	-	-	16	2	9
Achnanthes minutissima Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	U	9	44	1	1	3	13	-	-
Achnanthes oblongella Ostrup	Ogh-ind	ind	ind	T	-	-	-	-	1	-	-	-
Amphora affinis Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	U	3	2	1	1	1	-	1	3
Amphora montana Krasske	Ogh-ind	ind	ind	RA	1	2	2	-	-	-	-	-
Anomoeoneis brachysira (Breb.)Grunow	Ogh-ind	ac-il	l-ph	O,T	-	-	4	2	-	-	-	-
Anomoeoneis styriaca (Grun.)Hustedt	Ogh-ind	ac-il	l-ph		-	-	-	-	2	1	-	-
Anomoeoneis vitrea (Grun.)Ross	Ogh-hob	ac-il	l-ph	T	-	2	1	-	-	-	-	-
Aulacoseira ambigua (Grun.)Simonsen	Ogh-ind	al-il	l-bi	N	-	-	5	7	3	-	-	-
Aulacoseira crenulata (Ehr.)Krammer	Ogh-ind	ind	l-ph		1	-	-	-	-	-	3	3
Aulacoseira italica (Ehr.)Simonsen	Ogh-ind	al-il	l-ph	U	-	-	1	4	8	5	-	-
Aulacoseira italica var. valida (Grun.)Simonsen	Ogh-ind	al-il	l-ph		-	-	-	-	1	2	-	-
Caloneis aerophila Bock	Ogh-ind	al-il	ind	RA	-	1	1	-	-	-	-	-
Caloneis bacillum (Grun.)Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	1	2	-	-	1	4	2	-
Caloneis hyalina Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	RA	3	4	-	-	-	-	-	-
Caloneis leptosoma Krammer & Lange-Bertalot	Ogh-ind	ind	l-ph	RB	1	-	1	-	-	-	3	-
Caloneis molaris (Grun.)Krammer	Ogh-ind	ind	ind		1	1	-	-	1	-	-	-
Caloneis silicula (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	al-il	ind		1	-	-	2	1	-	1	2
Caloneis silicula var. minuta (Grun.)Cleve	Ogh-ind	al-il	ind		2	-	1	3	-	-	-	-
Caloneis tenuis (Greg.)Krammer	Ogh-ind	al-il	ind		1	-	-	-	-	1	5	1
Caloneis spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	-	-	-	1	-
Cocconeis placentula (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	U	1	-	-	1	-	-	1	1
Cocconeis placentula var. euglypta (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	1	-	-	-	1	-	-	-
Cocconeis placentula var. lineata (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	-	-	-	-	1	-	-	-
Craticula cuspidata (Kuetz.)D.G.Mann	Ogh-ind	al-il	ind	S	-	-	1	-	-	-	-	-
Cymbella amphioxys (Kuetz.)Grunow	Ogh-ind	ac-il	l-ph		2	-	1	3	4	-	-	-
Cymbella aspera (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	O,T	1	-	-	-	-	-	-	-
Cymbella cistula (Ehr.)Kirchner	Ogh-ind	al-il	l-ph	O,T	-	-	1	-	-	-	-	-
Cymbella cuspidata Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind		-	-	-	1	1	-	-	1
Cymbella mesiana Cholnoky	Ogh-ind	al-bi	l-bi	O	-	-	-	-	-	1	-	2
Cymbella naviculiformis Auerswald	Ogh-ind	ind	ind	O	-	-	-	1	3	1	-	-
Cymbella silesiaca Bleisch	Ogh-ind	ind	ind	T	14	9	6	31	8	1	4	3
Cymbella sinuata Gregory	Ogh-ind	ind	r-ph	K,T	2	1	1	-	-	-	-	1
Cymbella subaequalis Grunow	Ogh-ind	al-il	l-ph	O,T	1	-	-	2	7	-	-	-
Cymbella tumida var. gracilis Hustedt	Ogh-ind	al-il	l-ph	T	-	-	-	-	1	-	-	-
Cymbella turgidula Grunow	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,T	8	10	2	7	2	-	-	-
Cymbella turgidula var. nipponica Skvortzow	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	1	-	-	1	1	-	-	-
Cymbella spp.	Ogh-unk	unk	unk		1	-	-	-	-	-	-	-
Diploneis oculata (Breb.)Cleve	Ogh-ind	al-il	l-ph		8	-	-	-	-	-	-	-
Diploneis ovalis (Hilse)Cleve	Ogh-ind	al-il	ind		-	2	13	12	11	3	13	4
Diploneis parma Cleve	Ogh-ind	ind	ind		-	-	2	-	2	-	1	-
Diploneis yatukaensis Horikawa et Okuno	Ogh-ind	ind	l-ph	RI	1	-	-	-	-	-	-	-
Epithemia adnata (Kuetz.)Brebisson	Ogh-ind	al-bi	ind		1	-	-	-	-	-	-	-
Epithemia turgida (Ehr.)Kuetzing	Ogh-ind	al-il	l-ph	T	1	-	-	-	-	-	-	-
Eunotia arcus Ehrenberg	Ogh-hob	ac-il	l-ph		-	-	-	1	-	1	-	-
Eunotia arcus var. bidens Grunow	Ogh-ind	ac-il	l-ph		-	-	3	1	4	-	-	-
Eunotia bilunaris (Ehr.)Mills	Ogh-hob	ac-il	l-ph		-	-	-	-	-	3	1	3
Eunotia duplicoraphis H.Kobayasi	Ogh-hob	ac-il	l-ph		-	-	-	1	2	-	-	-
Eunotia exigua (Breb.)Grunow	Ogh-hob	ac-bi	l-ph	P	-	1	-	-	-	-	-	-
Eunotia flexuosa (Breb.)Kuetzing	Ogh-hob	ac-il	l-ph	O	-	-	-	-	1	-	-	-
Eunotia gracialis Meister	Ogh-hob	ind	l-bi		-	-	-	-	-	-	1	2
Eunotia incisa W.Smith ex Gregory	Ogh-hob	ac-il	ind	O	-	1	-	-	-	-	-	-
Eunotia monodon var. asiatica Skvortzow	Ogh-hob	ac-il	ind		-	-	-	-	-	1	-	2
Eunotia monodon var. undulata Hustedt	Ogh-hob	ac-il	ind		-	-	-	-	-	-	-	1
Eunotia pectinalis var. minor (Kuetz.)Rabenhorst	Ogh-hob	ac-il	ind	O	3	-	1	4	4	8	7	16
Eunotia pectinalis var. undulata (Ralfs)Rabenhorst	Ogh-hob	ac-il	ind	O	-	-	-	-	-	-	5	-
Eunotia praerupta Ehrenberg	Ogh-hob	ac-il	l-ph	RB,O,T	-	-	-	-	-	2	31	12
Eunotia tenella (Grun.)Hustedt	Ogh-hob	ac-il	ind		-	-	-	-	1	-	-	-
Eunotia tridentula var. perpusilla Grunow	Ogh-hob	ac-il	ind		-	1	-	-	-	-	-	-
Eunotia spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	-	-	-	1	1
Fragilaria capucina Desmazieres	Ogh-ind	al-il	ind	T	-	-	-	-	1	-	-	-
Fragilaria construens (Ehr.)Grunow	Ogh-ind	al-il	l-ph	U	-	1	4	2	1	-	-	-

表３　Ｉ区１地点の珪藻分析結果（２）

種類	生態性			環境								
	塩分	pH	流水	指標種	8	9	12	16	19	22	25	29
Fragilaria construens fo. venter (Ehr.)Hustedt	Ogh-ind	al-il	l-ph	S	1	-	1	3	3	1	-	-
Fragilaria parasitica (W.Smith)Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	1	-	1	-	-	-
Fragilaria ulna (Nitzsch)Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	ind		1	-	-	2	-	2	-	2
Fragilaria vaucheriae (Kuetz.)Petersen	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,T	1	-	1	2	1	3	-	-
Fragilaria virescens var. capitata Oestrup	Ogh-ind	ac-il	l-ph		-	-	-	1	-	-	-	-
Fragilaria spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	-	-	1	-	-
Frustulia vulgaris (Thwait.)De Toni	Ogh-ind	al-il	ind	U	2	1	2	1	2	2	-	-
Frustulia weinholdii Hustedt	Ogh-ind	al-il	ind		1	-	-	-	-	-	-	-
Gomphonema acuminatum Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	O	-	-	-	-	1	1	-	1
Gomphonema acutiusculum (O.Muller)Cleve-Euler	Ogh-ind	al-il	l-ph		-	-	-	-	1	-	-	-
Gomphonema angustatum (Kuetz.)Rabenhorst	Ogh-ind	al-il	ind	U	5	2	-	2	-	1	-	1
Gomphonema angustatum var. linearis Hustedt	Ogh-ind	ac-il	unk		-	-	-	-	-	-	2	1
Gomphonema gracile Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	l-ph	O,U	1	-	-	1	3	-	-	-
Gomphonema insigne Gregory	Ogh-ind	ind	unk		-	-	-	-	1	-	-	-
Gomphonema parvulum Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	U	12	11	10	11	8	20	7	40
Gomphonema pumilum (Grun.)Reichardt & Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	ind		-	1	-	-	-	-	-	1
Gomphonema quadripunctatum (Oestrup.)Wislouch	Ogh-ind	al-bi	r-ph	K,T	1	-	-	-	-	-	-	-
Gomphonema sphaerophorum Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	ind	T	-	1	-	1	1	-	-	-
Gomphonema spp.	Ogh-unk	unk	unk		5	-	-	-	-	-	2	-
Gyrosigma pseudokuetzing Kobayasi	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	2	-	-	-	-
Hantzschia amphioxys (Ehr.)Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RA,U	3	2	14	-	1	13	23	6
Melosira varians Agardh	Ogh-hil	al-bi	r-ph	K,U	-	-	-	-	-	1	1	1
Meridion circulae var. constrictum (Ralfs)V.Heurck	Ogh-ind	al-il	r-bi	K,T	-	-	1	-	1	1	1	20
Navicula cohnii (Hilse)Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-bi	ind	RI	-	-	6	-	-	1	-	-
Navicula contenta Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RA,T	3	-	-	-	1	-	2	1
Navicula contenta fo. biceps (Arnott)Hustedt	Ogh-ind	al-il	ind	RA,T	-	-	1	-	-	-	-	-
Navicula cryptocephala Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	-	1	-	1	-	-
Navicula decussis Oestrup	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,U	-	-	-	-	1	-	-	-
Navicula elginensis (Greg.)Ralfs	Ogh-ind	al-il	ind	O,U	2	-	1	1	1	6	16	9
Navicula elginensis var. cuneata H.Kobayasi	Ogh-ind	al-il	ind		-	-	-	-	-	2	3	2
Navicula elginensis var. neglecta (Krass.)Patrick	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	5	3	2	4	9	2	-	-
Navicula hambergii Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	RI	-	-	-	-	-	2	1	-
Navicula hasta var. gracilis Skvortzow	Ogh-ind	al-il	l-ph		-	-	-	1	2	-	-	-
Navicula ignota Krasske	Ogh-ind	ind	ind	RB	1	-	5	-	-	6	1	-
Navicula ignota var. palustris (Hust.)Lund	Ogh-ind	ind	ind	RB	-	-	1	1	-	2	-	-
Navicula kotschyi Grunow	Ogh-ind	al-il	ind		2	1	2	2	4	-	-	1
Navicula lapidosa Krasske	Ogh-ind	ind	ind	RI	-	-	-	-	-	1	-	-
Navicula leptostriata Joergensen	Ogh-unk	unk	unk		-	1	-	-	-	-	-	-
Navicula mutica Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	RA,S	4	5	20	1	3	4	2	6
Navicula paramutica Bock	Ogh-ind	ind	ind	RB	-	-	1	-	-	-	-	-
Navicula plausibilis Hustedt	Ogh-ind	ind	ind		-	-	-	-	-	-	2	-
Navicula pseudolanceolata Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	-	1	-	1	-	-
Navicula seminulum Grunow	Ogh-ind	ind	ind	RB,S	-	-	-	-	-	2	-	-
Navicula subcostulata Hustedt	Ogh-ind	ind	ind		-	-	-	-	-	-	-	1
Navicula symmetrica Patrick	Ogh-ind	al-il	ind		-	-	-	-	-	-	-	-
Navicula tantula Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	RI,U	-	-	-	-	1	2	4	-
Navicula tokyoensis H.Kobayasi	Ogh-ind	ind	l-ph	RI	1	-	-	-	-	-	-	-
Navicula tridentula Krasske	Ogh-ind	al-bi	ind	RI	-	1	-	-	-	1	-	-
Navicula viridula (Kuetz.)Kuetzing	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,U	1	1	-	6	2	-	-	-
Navicula viridula var. rostellata (Kuetz.)Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,U	2	-	-	-	-	-	-	-
Navicula spp.	Ogh-unk	unk	unk		4	-	-	-	-	2	1	-
Neidium affine (Ehr.)Cleve	Ogh-hob	ind	l-bi		-	1	1	-	1	1	-	-
Neidium affine var. longiceps (Greg.)Cleve	Ogh-hob	ac-il	l-bi		-	-	-	-	-	1	-	-
Neidium alpinum Hustedt	Ogh-unk	unk	ind	RA	3	3	-	-	1	4	1	1
Neidium ampliatum (Ehr.)Krammer	Ogh-ind	ind	l-ph		1	2	2	1	1	2	-	2
Neidium apiculatum Reimer	Ogh-hob	ac-il	l-ph		-	-	-	-	1	-	-	-
Neidium binodis (Ehr.)Hustedt	Ogh-ind	ind	ind		1	-	-	-	-	-	-	-
Neidium bisulcatum (Lagerst.)Cleve	Ogh-ind	ac-il	ind	RI	-	-	-	-	-	1	-	1
Neidium iridis (Ehr.)Cleve	Ogh-hob	ac-il	l-bi	O	-	-	-	-	1	-	-	-
Nitzschia amphibia Grunow	Ogh-ind	al-bi	ind	S	12	17	12	4	4	8	7	2
Nitzschia brevissima Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RB,U	2	1	1	1	1	2	2	1
Nitzschia clausii Hantzsch	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	1	-	-	-	-	-	-
Nitzschia hantzschiana Rabenhorst	Ogh-ind	al-bi	ind		-	1	-	-	-	-	-	-
Nitzschia linearis W.Smith	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	-	-	-	1	-	-	-	-
Nitzschia nana Grunow	Ogh-ind	ind	ind	RB,S	-	3	-	-	-	3	-	-
Nitzschia paleacea Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	-	-	-	2	-	-
Nitzschia cf. perminuta (Grun.)Peragallo	Ogh-ind	ind	ind	RI	1	-	-	-	1	-	-	-
Nitzschia romana Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	1	-	-	-	-	-	-
Nitzschia sinuata var. delognei (Grun.)Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	l-ph	U	-	-	-	-	1	-	-	-
Nitzschia tubicola Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	S	-	3	-	-	-	3	-	-
Nitzschia umbonata (Ehr.)Lange-B.	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	1	-	-	-	-	-	-
Pinnularia acrosphaeria W.Smith	Ogh-ind	al-il	l-ph	O	-	1	2	1	2	-	1	1
Pinnularia aequilateralis Patrick-Freese	Ogh-ind	ind	ind		1	-	-	-	-	-	-	-
Pinnularia borealis Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	RA	2	-	7	-	-	-	5	-

表３　Ｉ区１地点の珪藻分析結果（３）

種類	生態性			環境指標種							
	塩分	pH	流水		8	9	12	16	19	22	25	29
Pinnularia borealis var. brevicostata Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	RA	-	-	1	-	-	-	1	-
Pinnularia borealis var. rectangularis Carlson	Ogh-ind	ind	ind	RA	1	-	-	-	-	-	-	-
Pinnularia brauniana (Grun.)Mills	Ogh-hob	ac-bi	l-ph		1	-	-	2	2	-	-	-
Pinnularia brebissonii (Kuetz.)Rabenhorst	Ogh-ind	ind	ind	U	-	-	1	-	-	-	-	1
Pinnularia brevicostata Cleve	Ogh-ind	ac-il	ind		-	-	-	1	-	-	-	1
Pinnularia divergentissima (Grun.)Cleve	Ogh-ind	ac-il	ind		-	1	-	-	-	1	-	-
Pinnularia gibba Ehrenberg	Ogh-ind	ac-il	ind	O	-	-	1	-	2	-	1	-
Pinnularia gibba var. linearis Hustedt	Ogh-hob	ac-il	ind		-	-	-	-	-	-	-	2
Pinnularia imperatrix Mills	Ogh-hob	ac-il	l-ph		-	-	-	-	-	-	-	1
Pinnularia krookii (Grun.)Cleve	Ogh-ind	ind	ind	RI	-	-	-	-	1	-	-	-
Pinnularia lagerstedtii (Cleve)Cleve-Euler	Ogh-ind	ind	ind	RI	1	-	-	-	-	-	-	-
Pinnularia macilenta (Ehr.)Cleve	Ogh-hob	ac-il	l-ph		-	-	-	1	-	-	-	-
Pinnularia mesolepta (Ehr.)W.Smith	Ogh-ind	ind	ind	S	3	3	-	4	-	-	-	-
Pinnularia microstauron (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	ac-il	ind	S	1	-	-	2	-	3	1	1
Pinnularia neomajor Krammer	Ogh-ind	ac-il	l-bi		-	-	-	-	-	-	-	1
Pinnularia obscura Krasske	Ogh-ind	ind	ind	RA	-	1	-	-	-	2	2	-
Pinnularia rupestris Hantzsch	Ogh-hob	ac-il	ind		-	-	1	-	-	-	-	-
Pinnularia schoenfelderi Krammer	Ogh-ind	ind	ind	RI	5	9	2	1	6	6	5	6
Pinnularia schroederii (Hust.)Krammer	Ogh-ind	ind	ind	RI	-	1	1	-	-	-	-	-
Pinnularia silvatica Petersen	Ogh-ind	ind	ind	RI	-	-	-	-	-	-	1	-
Pinnularia stomatophora (Grun.)Cleve	Ogh-ind	ac-il	l-ph		-	-	-	2	-	1	-	-
Pinnularia subcapitata Gregory	Ogh-ind	ac-il	ind	RB,S	1	5	2	2	2	-	2	1
Pinnularia subrostrata (A.Cleve)Cleve-Euler	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	-	1	-	-	-
Pinnularia subrupestris Krammer	Ogh-hob	ac-il	ind		-	-	-	2	1	-	-	-
Pinnularia substomatophora Hustedt	Ogh-hob	ac-il	l-ph		-	2	-	-	-	-	-	-
Pinnularia sudetica (Hilse)M.Peragallo	Ogh-hob	ac-il	l-ph		-	2	-	1	-	-	-	1
Pinnularia ueno Skvortzow	Ogh-hob	ac-il	l-ph		-	-	-	-	1	-	-	-
Pinnularia viridiformis Krammer	Ogh-ind	ind	ind		-	-	-	1	-	-	-	-
Pinnularia viridis (Nitz.)Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	O	1	1	2	1	1	1	1	4
Pinnularia spp.	Ogh-unk	unk	unk		1	-	-	-	1	-	-	-
Rhoicosphenia abbreviata (Ag.)Lange-B.	Ogh-hil	al-il	r-ph	K,T	1	-	-	1	-	-	-	-
Rhopalodia gibba (Ehr.)O.Muller	Ogh-ind	al-il	ind		-	2	-	3	2	-	1	-
Rhopalodia quisumbirgiana Skvortzow	Ogh-hil	al-il	ind		4	2	-	10	1	-	-	-
Sellaphora bacillum (Ehr.)Mann	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	-	1	-	-	-	-
Sellaphora laevissima (Kuetz.)Mann	Ogh-ind	ind	ind		1	-	3	1	2	1	-	3
Sellaphora pseudopupula (Krasske)Lange-B.	Ogh-ind	ind	ind		-	-	1	-	-	1	1	1
Sellaphora pupula (Kuetz.)Mereschkowsky	Ogh-ind	ind	ind	S	2	-	1	3	3	1	-	-
Sellaphora pupula fo. capitata (Skvortzow & Mayer)	Ogh-ind	ind	ind	U	-	-	-	-	1	-	-	-
Sellaphora rectangularis (Greg.)Lange-B.& Metzeltin	Ogh-ind	ind	ind		-	-	-	-	-	1	-	-
Stauroneis acuta W.Smith	Ogh-ind	al-il	l-ph		-	-	-	-	-	-	-	1
Stauroneis anceps Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	T	-	-	-	-	-	-	-	1
Stauroneis lauenburgiana Hustedt	Ogh-ind	al-il	ind		-	-	-	1	-	-	-	-
Stauroneis obtusa Lagerstedt	Ogh-ind	ind	ind	RB	-	1	4	-	-	-	-	-
Stauroneis phoenicenteron (Nitz.)Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	O	-	-	-	1	1	-	-	-
Stauroneis phoenicenteron fo. hattorii Tsumura	Ogh-ind	ind	ind	O	1	-	-	1	1	-	-	-
Stauroneis phoenicenteron var. signata Meister	Ogh-ind	ind	ind		-	-	-	-	-	-	-	1
Stauroneis tenera Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	RB	-	-	-	-	2	1	1	4
Surirella angusta Kuetzing	Ogh-ind	al-il	r-bi	U	-	-	-	-	1	-	-	1
Surirella bohemica Maly	Ogh-ind	ind	unk		-	-	-	-	-	-	-	1
Surirella linearis W.Smith	Ogh-ind	ind	ind		-	-	-	-	-	1	-	-
Surirella ovata var. pinnata (W.Smith)Hustedt	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	-	-	-	-	-	-	-	1
Tabellaria flocculosa (Roth)Kuetzing	Ogh-hob	ac-il	l-bi	T	-	-	-	1	2	-	-	-
海水生種					0	0	0	0	0	0	0	0
海水～汽水生種					0	0	0	0	0	0	0	0
汽水生種					0	0	0	0	0	0	0	0
淡水～汽水生種					24	24	40	18	25	15	21	3
淡水生種					177	179	167	186	181	191	185	201
珪藻化石総数					217	221	231	236	244	250	256	262

凡例

H.R.　：塩分濃度に対する適応性　　pH　：水素イオン濃度に対する適応性　　C.R.：流水に対する適応性

Euh　：海水生種　　al-bi　：真アルカリ性種　　l-bi　：真止水性種

Euh-Meh　：海水生種－汽水生種　　al-il　：好アルカリ性種　　l-ph：好止水性種

Meh　：汽水生種　　ind　：pH 不定性種　　ind　：流水不定性種

Ogh-Meh　：淡水－汽水生種　　ac-il　：好酸性種　　r-ph：好流水性種

Ogh-hil　：貧塩好塩性種　　ac-bi　：真酸性種　　r-bi　：真流水性種

Ogh-ind　：貧塩不定性種　　unk　：pH 不明種　　unk：流水不明種

Ogh-hob　：貧塩嫌塩性種　　Ogh-unk：貧塩不明種

環境指標種群

K: 中～下流性河川指標種，N: 湖沼沼沢湿地指標種，O: 沼沢湿地付着生種，P: 高層湿原指標種（以上は安藤，1990）S: 好汚濁性種，U: 広域適応性種，T: 好清水性種（以上は Asai and Watanabe，1995）

R: 陸生珪藻（RA:A 群，RB:B 群，RI: 未区分、伊藤・堀内，1991）

表４　Ｉ区２地点の珪藻分析結果（１）

種　　類	生態性 塩分	pH	流水	環境 指標種	3	6	8	12	16	22
Fragilaria brevistriata Grunow	Ogh-Meh	al-il	l-ph	U	-	1	3	-	-	-
Navicula cincta (Ehr.)Kuetzing	Ogh-Meh	al-il	ind		-	-	1	-	-	-
Navicula veneta Kuetzing	Ogh-Meh	al-il	ind	U	-	-	1	-	-	-
Nitzschia levidensis var. victoriae Grunow	Ogh-Meh	al-il	ind	U	-	-	1	1	-	-
Nitzschia obtusa var. scalpelliformis Grunow	Ogh-Meh	al-il	ind	S	-	-	-	-	1	-
Nitzschia palea (Kuetz.)W.Smith	Ogh-Meh	ind	ind	S	1	-	-	9	18	3
Rhopalodia gibberula (Ehr.)O.Muller	Ogh-Meh	al-il	ind		35	31	13	-	-	-
Achnanthes clevei Grunow	Ogh-ind	al-il	l-ph	T	-	-	-	-	-	4
Achnanthes crenulata Grunow	Ogh-ind	al-bi	l-ph	T	-	-	-	1	2	4
Achnanthes exigua Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	S	-	-	-	-	-	1
Achnanthes lanceolata (Breb.)Grunow	Ogh-ind	ind	r-ph	K,T	-	-	3	-	-	2
Achnanthes linearis var. pusilla Grunow	Ogh-ind	ind	r-ph		-	1	-	-	-	-
Achnanthes minutissima Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	U	1	-	3	-	-	-
Amphora affinis Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	2	2	-	1	6
Amphora inariensis Krammer	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	-	-	1
Amphora montana Krasske	Ogh-ind	ind	ind	RA	1	-	-	-	1	1
Amphora normanii Rabenhorst	Ogh-ind	ind	ind	RB	-	1	-	-	-	-
Anomoeoneis brachysira (Breb.)Grunow	Ogh-ind	ac-il	l-ph	O,T	-	1	-	1	-	-
Anomoeoneis vitrea (Grun.)Ross	Ogh-hob	ac-il	l-ph	T	-	-	1	-	-	-
Aulacoseira ambigua (Grun.)Simonsen	Ogh-ind	al-il	l-bi	N	1	-	2	-	-	-
Aulacoseira italica (Ehr.)Simonsen	Ogh-ind	al-il	l-ph	U	2	1	3	-	-	-
Caloneis aerophila Bock	Ogh-ind	al-il	ind	RA	-	-	-	1	-	-
Caloneis bacillum (Grun.)Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	1	2	1	1	-	-
Caloneis hyalina Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	RA	-	-	1	-	-	-
Caloneis leptosoma Krammer & Lange-Bertalot	Ogh-ind	ind	l-ph	RB	-	2	1	2	1	1
Caloneis molaris (Grun.)Krammer	Ogh-ind	ind	ind		2	1	1	1	-	-
Caloneis silicula (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	al-il	ind		-	1	-	-	-	2
Caloneis silicula var. minuta (Grun.)Cleve	Ogh-ind	al-il	ind		-	4	2	-	-	-
Cocconeis pediculus Ehrenberg	Ogh-ind	al-bi	ind	T	-	-	-	-	-	1
Cocconeis placentula (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	U	3	1	-	-	4	23
Cocconeis placentula var. euglypta (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	-	1	-	-	4	16
Cocconeis placentula var. lineata (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	-	1	1	-	-	2
Cocconeis pseudothumensis Reichardt	Ogh-ind	al-il	l-ph		-	-	-	-	1	1
Craticula cuspidata (Kuetz.)D.G.Mann	Ogh-ind	al-il	ind	S	-	1	-	-	-	-
Cymbella amphioxys (Kuetz.)Grunow	Ogh-ind	ac-il	l-ph		2	9	2	-	-	-
Cymbella cuspidata Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind		-	-	1	-	-	-
Cymbella mesiana Cholnoky	Ogh-ind	al-bi	l-bi	O	-	1	-	-	1	-
Cymbella naviculiformis Auerswald	Ogh-ind	ind	ind	O	-	5	4	1	-	-
Cymbella silesiaca Bleisch	Ogh-ind	ind	ind	T	12	17	6	1	-	17
Cymbella sinuata Gregory	Ogh-ind	ind	r-ph	K,T	-	1	-	-	4	12
Cymbella subaequalis Grunow	Ogh-ind	al-il	l-ph	O,T	1	1	4	-	-	-
Cymbella tumida (Breb. ex Kuetz.)V.Heurck	Ogh-ind	al-il	ind	T	2	1	-	-	-	1
Cymbella turgidula Grunow	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,T	12	20	1	1	-	-
Cymbella turgidula var. nipponica Skvortzow	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	-	2	-	-	-	-
Diploneis elliptica (Kuetz.)Cleve	Ogh-ind	al-il	l-ph	RA,T	-	-	-	-	1	-
Diploneis oculata (Breb.)Cleve	Ogh-ind	al-il	l-ph		-	-	1	-	-	-
Diploneis ovalis (Hilse)Cleve	Ogh-ind	al-il	ind		12	6	12	1	-	1
Diploneis parma Cleve	Ogh-ind	ind	ind		1	4	1	-	-	-
Diploneis yatukaensis Horikawa et Okuno	Ogh-ind	ind	l-ph	RI	-	-	1	-	1	-
Eunotia arcus var. bidens Grunow	Ogh-ind	ac-il	l-ph		2	-	1	-	-	-
Eunotia bilunaris (Ehr.)Mills	Ogh-hob	ac-il	l-ph		-	1	1	-	-	-
Eunotia duplicoraphis H.Kobayasi	Ogh-hob	ac-il	l-ph		-	1	1	-	-	-
Eunotia gracialis Meister	Ogh-hob	ind	l-bi		-	-	-	1	-	-
Eunotia incisa W.Smith ex Gregory	Ogh-hob	ac-il	ind	O	-	-	2	-	-	-
Eunotia pectinalis var. minor (Kuetz.)Rabenhorst	Ogh-hob	ac-il	ind	O	1	6	5	-	-	2
Eunotia praerupta Ehrenberg	Ogh-hob	ac-il	l-ph	RB,O,T	-	1	1	-	-	1
Fragilaria construens (Ehr.)Grunow	Ogh-ind	al-il	l-ph	U	-	1	1	-	-	-
Fragilaria construens fo. binodis (Ehr.)Hustedt	Ogh-ind	al-il	l-ph	U	-	-	-	-	-	1
Fragilaria construens fo. venter (Ehr.)Hustedt	Ogh-ind	al-il	l-ph	S	1	1	2	-	-	-
Fragilaria leptostauron (Ehr.)Hustedt	Ogh-ind	al-il	l-ph		-	-	-	-	1	1
Fragilaria pinnata var. lancettula (Schum.)Hustedt	Ogh-ind	al-il	l-ph	S	-	-	-	-	1	-
Fragilaria ulna (Nitzsch)Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	ind		-	-	2	-	-	6
Fragilaria vaucheriae (Kuetz.)Petersen	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,T	-	-	3	1	1	4
Frustulia vulgaris (Thwait.)De Toni	Ogh-ind	al-il	ind	U	3	3	3	-	-	-
Frustulia weinholdii Hustedt	Ogh-ind	al-il	ind		-	1	-	-	-	-
Gomphonema angustatum (Kuetz.)Rabenhorst	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	2	-	-	-	-
Gomphonema clevei Fricke	Ogh-ind	al-bi	r-ph	T	-	-	-	-	8	32
Gomphonema gracile Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	l-ph	O,U	-	1	3	-	-	-
Gomphonema grovei var. lingulatum (Hust.)Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	l-ph		-	1	-	-	-	-
Gomphonema helveticum Brun	Ogh-unk	ind	r-ph	T	-	-	-	-	1	1
Gomphonema olivaceum (Lyngb.)Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	1	-	-	-	-
Gomphonema parvulum Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	U	9	11	21	3	7	7
Gomphonema pumilum (Grun.)Reichardt & Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	ind		-	-	-	-	-	3
Gomphonema quadripunctatum (Oestrup.)Wislouch	Ogh-ind	al-bi	r-ph	K,T	-	-	-	-	-	4
Gomphonema sarcophagus Gregory	Ogh-ind	al-il	ind		-	-	1	-	-	-
Gomphonema spp.	Ogh-unk	unk	unk		1	-	-	-	1	2
Gyrosigma scalproides (Rabh.)Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph		-	-	1	-	-	-
Hantzschia amphioxys (Ehr.)Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RA,U	27	2	1	27	3	-
Martyana martyi (Heribaud)Round	Ogh-ind	al-il	ind		-	-	-	-	1	-
Melosira varians Agardh	Ogh-hil	al-bi	r-ph	K,U	1	-	-	-	1	-
Meridion circulae var. constrictum (Ralfs)V.Heurck	Ogh-ind	al-il	r-bi	K,T	-	2	1	-	-	1
Navicula contenta Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RA,T	1	1	-	4	-	-
Navicula contenta fo. biceps (Arnott)Hustedt	Ogh-ind	al-il	ind	RA,T	1	1	-	-	-	-
Navicula elginensis (Greg.)Ralfs	Ogh-ind	al-il	ind	O,U	1	-	4	2	1	1
Navicula elginensis var. cuneata H.Kobayasi	Ogh-ind	al-il	ind		1	-	1	-	-	-
Navicula elginensis var. neglecta (Krass.)Patrick	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	1	3	3	-	1	-
Navicula hasta var. gracilis Skvortzow	Ogh-ind	al-il	l-ph		-	1	2	-	-	-
Navicula ignota Krasske	Ogh-ind	ind	ind	RB	3	-	-	2	-	-

表４　Ｉ区２地点の珪藻分析結果（２）

種類	生態性			環境						
	塩分	pH	流水	指標種	3	6	8	12	16	22
Navicula ignota var.z palustris (Hust.)Lund	Ogh-ind	ind	ind	RB	3	1	2	-	-	-
Navicula kotschyi Grunow	Ogh-ind	al-il	ind		1	1	2	-	1	3
Navicula mobiliensis var. minor Patrick	Ogh-ind	al-il	ind		-	-	1	-	-	2
Navicula mutica Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	RA,S	16	3	-	10	11	10
Navicula paramutica Bock	Ogh-ind	ind	ind	RB	3	-	-	-	-	-
Navicula plausibilis Hustedt	Ogh-ind	ind	ind		1	-	-	-	-	-
Navicula pseudolanceolata Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	-	1	-	-
Navicula reinhardtii Grunow	Ogh-ind	al-bi	ind		-	-	-	-	1	3
Navicula rhynchocephala Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	1	-	-	-
Navicula tantula Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	RI,U	1	-	1	3	-	-
Navicula viridula (Kuetz.)Kuetzing	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,U	-	-	2	1	-	-
Navicula viridula var. rostellata (Kuetz.)Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,U	-	-	-	-	4	-
Navicula spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	2	-	1
Neidium affine var. longiceps (Greg.)Cleve	Ogh-hob	ac-il	l-bi		-	-	-	-	1	-
Neidium alpinum Hustedt	Ogh-unk	unk	ind	RA	3	-	1	1	-	-
Neidium ampliatum (Ehr.)Krammer	Ogh-ind	ind	l-ph		1	6	3	-	-	1
Neidium iridis (Ehr.)Cleve	Ogh-hob	ac-il	l-bi	O	-	1	-	-	-	-
Nitzschia amphibia Grunow	Ogh-ind	al-bi	ind	S	2	6	9	1	1	-
Nitzschia brevissima Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RB,U	4	-	2	-	-	-
Nitzschia nana Grunow	Ogh-ind	ind	ind	RB,S	1	-	-	-	-	-
Nitzschia palustris Hustedt	Ogh-ind	ind	unk		1	-	-	-	-	-
Nitzschia sinuata var. delognei (Grun.)Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	l-ph	U	1	1	-	-	-	-
Orthoseira roeseana (Rabh.)O'Meara	Ogh-ind	ind	ind	RA	-	-	-	-	1	-
Pinnularia acrosphaeria W.Smith	Ogh-ind	al-il	l-ph	O	-	1	4	-	-	-
Pinnularia borealis Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	RA	3	-	-	10	1	1
Pinnularia borealis var. brevicostata Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	RA	-	-	-	3	1	-
Pinnularia brauniana (Grun.)Mills	Ogh-hob	ac-bi	l-ph		-	-	-	1	1	-
Pinnularia brebissonii (Kuetz.)Rabenhorst	Ogh-ind	ind	ind	U	-	-	1	-	1	-
Pinnularia brevicostata Cleve	Ogh-ind	ac-il	ind		-	1	-	-	-	-
Pinnularia divergentissima (Grun.)Cleve	Ogh-ind	ac-il	ind		-	1	-	-	-	-
Pinnularia gibba Ehrenberg	Ogh-ind	ac-il	ind	O	-	1	-	-	-	-
Pinnularia gibba var. dissimilis H.Kobayasi	Ogh-hob	ac-il	ind		-	1	2	-	-	-
Pinnularia intermedia (Largerst.)Cleve	Ogh-ind	ind	ind	RA	-	1	-	-	-	-
Pinnularia macilenta (Ehr.)Cleve	Ogh-hob	ac-il	l-ph		-	-	1	-	-	-
Pinnularia mesolepta (Ehr.)W.Smith	Ogh-ind	ind	ind	S	-	1	1	-	-	-
Pinnularia microstauron (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	ac-il	ind	S	-	-	2	-	1	-
Pinnularia obscura Krasske	Ogh-ind	ind	ind	RA	-	-	-	2	-	-
Pinnularia rupestris Hantzsch	Ogh-hob	ac-il	ind		-	-	-	-	-	1
Pinnularia schoenfelderi Krammer	Ogh-ind	ind	ind	RI	-	-	7	-	-	-
Pinnularia schroederii (Hust.)Krammer	Ogh-ind	ind	ind	RI	6	-	-	-	1	-
Pinnularia semicruciata (Ehr.)Schmidt	Ogh-hob	ac-il	ind		-	-	1	-	-	-
Pinnularia stomatophora (Grun.)Cleve	Ogh-ind	ac-il	l-ph		-	1	-	-	-	-
Pinnularia subcapitata Gregory	Ogh-ind	ac-il	ind	RB,S	1	1	2	1	-	-
Pinnularia substomatophora Hustedt	Ogh-hob	ac-il	l-ph		-	1	1	-	-	-
Pinnularia ueno Skvortzow	Ogh-hob	ac-il	l-ph		-	-	1	-	-	-
Pinnularia viridiformis Krammer	Ogh-ind	ind	ind		-	-	2	-	-	-
Pinnularia viridis (Nitz.)Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	O	-	4	1	-	-	-
Pinnularia spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	2	2	-	-	-
Rhoicosphenia abbreviata (Ag.)Lange-B.	Ogh-hil	al-il	r-ph	K,T	-	-	-	-	8	14
Rhopalodia gibba (Ehr.)O.Muller	Ogh-ind	al-il	ind		1	1	-	-	-	-
Rhopalodia quisumbirgiana Skvortzow	Ogh-hil	al-il	ind		3	1	4	-	-	-
Sellaphora laevissima (Kuetz.)Mann	Ogh-ind	ind	ind		-	4	-	-	-	-
Sellaphora pupula (Kuetz.)Mereschkowsky	Ogh-ind	ind	ind	S	1	2	7	1	-	-
Sellaphora pupula fo. capitata (Skvortzow & Mayer)	Ogh-ind	ind	ind	U	-	1	2	-	-	-
Sellaphora rectangularis (Greg.)Lange-B.& Metzeltin	Ogh-ind	ind	ind		-	-	1	-	-	-
Stauroneis acuta W.Smith	Ogh-ind	al-il	l-ph		-	1	-	-	-	-
Stauroneis anceps Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	T	1	-	1	-	-	-
Stauroneis borrichii (Pet.)Lund	Ogh-ind	ind	ind	RI	1	-	-	-	-	-
Stauroneis obtusa Lagerstedt	Ogh-ind	ind	ind	RB	3	-	-	1	-	1
Stauroneis phoenicenteron fo. hattorii Tsumura	Ogh-ind	ind	ind	O	-	-	2	-	-	-
Stauroneis smithii Grunow	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	-	-	-	-	1	-
Stauroneis tenera Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	RB	1	-	1	-	-	-
Surirella angusta Kuetzing	Ogh-ind	al-il	r-bi	U	-	-	-	1	-	-
Surirella linearis W.Smith	Ogh-ind	ind	ind		-	-	-	1	-	-
Surirella ovata var. pinnata (W.Smith)Hustedt	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	-	-	2	-	-	-
Tabellaria flocculosa (Roth)Kuetzing	Ogh-hob	ac-il	l-bi	T	-	1	1	-	-	-
海水生種					0	0	0	0	0	0
海水～汽水生種					0	0	0	0	0	0
汽水生種					0	0	0	0	0	0
淡水～汽水生種					36	32	19	10	19	3
淡水生種					165	174	187	91	83	199
珪藻化石総数					204	212	214	113	118	224

凡例

H.R.　：塩分濃度に対する適応性　pH　：水素イオン濃度に対する適応性　C.R.：流水に対する適応性　Euh　：海水生種　al-bi　：真アルカリ性種　l-bi　：真止水性種　Euh-Meh：海水生種－汽水生種
al-il　：好アルカリ性種　l-ph　：好止水性種　Meh：汽水生種　ind　：pH 不定性種　ind　：流水不定性種　Ogh-Meh：淡水－汽水生種　ac-il　：好酸性種
r-ph　：好流水性種 Ogh-hil　：貧塩好塩性種　ac-bi：真酸性種　r-bi　：真流水性種　Ogh-ind：貧塩不定性種　unk　：pH 不明種　unk　：流水不明種
Ogh-hob：貧塩嫌塩性種　Ogh-unk：貧塩不明種

環境指標種群
K: 中～下流性河川指標種，N: 湖沼沼沢湿地指標種，O: 沼沢湿地付着生種（以上は安藤，1990）
S: 好汚濁性種，U: 広域適応性種，T: 好清水性種（以上は Asai and Watanabe，1995）
R: 陸生珪藻（RA:A 群，RB:B 群，RI: 未区分、伊藤・堀内，1991）

表５　Ⅱ区１地点の珪藻分析結果（１）

種類	生態性			環境						
	塩分	pH	流水	指標種	3	4	5	6	8	9
Fragilaria brevistriata Grunow	Ogh-Meh	al-il	l-ph	U	2	8	-	1	1	-
Nitzschia obtusa var. scalpelliformis Grunow	Ogh-Meh	al-il	ind	S	-	-	-	-	-	1
Nitzschia palea (Kuetz.)W.Smith	Ogh-Meh	ind	ind	S	-	-	-	2	1	8
Rhopalodia gibberula (Ehr.)O.Muller	Ogh-Meh	al-il	ind		31	26	26	15	10	3
Achnanthes lanceolata (Breb.)Grunow	Ogh-ind	ind	r-ph	K,T	1	-	-	-	-	-
Achnanthes minutissima Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	U	1	-	9	13	8	8
Amphora affinis Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	U	2	7	2	-	-	-
Amphora montana Krasske	Ogh-ind	ind	ind	RA	1	-	-	-	-	1
Anomoeoneis brachysira (Breb.)Grunow	Ogh-ind	ac-il	l-ph	O,T	1	4	1	3	-	-
Anomoeoneis vitrea (Grun.)Ross	Ogh-hob	ac-il	l-ph	T	-	-	-	1	3	1
Aulacoseira ambigua (Grun.)Simonsen	Ogh-ind	al-il	l-bi	N	2	5	-	-	-	-
Aulacoseira italica (Ehr.)Simonsen	Ogh-ind	al-il	l-ph	U	-	5	-	-	-	-
Caloneis aerophila Bock	Ogh-ind	al-il	ind	RA	1	-	2	4	3	2
Caloneis bacillum (Grun.)Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	1	1	-	-	2	2
Caloneis hyalina Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	RA	-	-	-	-	1	1
Caloneis leptosoma Krammer & Lange-Bertalot	Ogh-ind	ind	l-ph	RB	3	6	3	3	-	-
Caloneis molaris (Grun.)Krammer	Ogh-ind	ind	ind		-	2	1	-	-	-
Caloneis schumanniana (Grun.)Cleve	Ogh-ind	al-il	l-bi		-	1	-	-	-	-
Caloneis silicula (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	al-il	ind		2	3	1	-	-	-
Caloneis silicula var. minuta (Grun.)Cleve	Ogh-ind	al-il	ind		2	1	1	1	-	-
Cocconeis placentula var. euglypta (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	-	1	-	-	-	-
Craticula cuspidata (Kuetz.)D.G.Mann	Ogh-ind	al-il	ind	S	-	-	-	-	1	-
Cymbella amphioxys (Kuetz.)Grunow	Ogh-ind	ac-il	l-ph		8	4	11	10	2	1
Cymbella mesiana Cholnoky	Ogh-ind	al-bi	l-bi	O	-	-	1	-	-	-
Cymbella naviculiformis Auerswald	Ogh-ind	ind	ind	O	-	1	-	-	-	-
Cymbella silesiaca Bleisch	Ogh-ind	ind	ind	T	10	13	9	8	5	1
Cymbella sinuata Gregory	Ogh-ind	ind	r-ph	K,T	1	1	1	-	-	2
Cymbella subaequalis Grunow	Ogh-ind	al-il	l-ph	O,T	1	3	2	1	1	-
Cymbella turgidula Grunow	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,T	5	-	12	9	2	1
Cymbella spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	1	-	-	-	-
Diatoma mesodon (Ehr.)Kuetzing	Ogh-ind	al-il	r-bi	K,T	-	-	-	-	-	1
Diploneis ovalis (Hilse)Cleve	Ogh-ind	al-il	ind		25	24	13	4	5	-
Diploneis parma Cleve	Ogh-ind	ind	ind		3	2	-	-	-	-
Diploneis yatukaensis Horikawa et Okuno	Ogh-ind	ind	l-ph	RI	-	-	1	-	-	-
Epithemia adnata (Kuetz.)Brebisson	Ogh-ind	al-bi	ind		-	1	-	-	-	-
Eunotia arcus var. bidens Grunow	Ogh-ind	ac-il	l-ph		1	1	-	-	1	-
Eunotia bilunaris (Ehr.)Mills	Ogh-hob	ac-il	l-ph		-	1	-	-	-	-
Eunotia pectinalis var. minor (Kuetz.)Rabenhorst	Ogh-hob	ac-il	ind	O	-	1	-	-	-	-
Eunotia spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	-	1	-
Fragilaria construens (Ehr.)Grunow	Ogh-ind	al-il	l-ph	U	3	3	-	2	2	-
Fragilaria construens fo. venter (Ehr.)Hustedt	Ogh-ind	al-il	l-ph	S	-	2	-	-	-	-
Fragilaria ulna (Nitzsch)Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	ind		-	2	-	-	-	-
Frustulia rhomboides var. saxonica (Rabh.)De Toni	Ogh-hob	ac-il	l-ph	O	1	-	-	1	1	-
Frustulia vulgaris (Thwait.)De Toni	Ogh-ind	al-il	ind	U	1	-	1	2	1	-
Frustulia weinholdii Hustedt	Ogh-ind	al-il	ind		-	-	-	-	1	-
Gomphonema angustatum (Kuetz.)Rabenhorst	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	-	-	1	1
Gomphonema angustatum var. undulata (Greg.)Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	-	-	-	1
Gomphonema parvulum Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	U	13	16	13	32	4	8
Gomphonema sarcophagus Gregory	Ogh-ind	al-il	ind		-	-	1	-	-	-
Gomphonema spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	1	-	-
Gyrosigma scalproides (Rabh.)Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph		-	-	-	-	1	-
Hantzschia amphioxys (Ehr.)Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RA,U	11	1	4	3	2	2
Martyana martyi (Heribaud)Round	Ogh-ind	al-il	ind		-	1	-	-	-	-
Navicula atomus (Kuetz.)Grunow	Ogh-ind	ind	ind	RA,U	-	-	-	-	-	1
Navicula cohnii (Hilse)Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-bi	ind	RI	-	-	1	-	-	-
Navicula confervacea (Kuetz.)Grunow	Ogh-ind	al-bi	ind	RB,S	-	-	1	-	-	-
Navicula contenta Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RA,T	1	-	-	-	-	-
Navicula cryptocephala Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	U	1	-	-	-	-	1
Navicula elginensis (Greg.)Ralfs	Ogh-ind	al-il	ind	O,U	-	1	-	-	-	-
Navicula elginensis var. neglecta (Krass.)Patrick	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	3	4	3	-	3	1
Navicula ignota Krasske	Ogh-ind	ind	ind	RB	1	1	2	-	-	-
Navicula ignota var. palustris (Hust.)Lund	Ogh-ind	ind	ind	RB	-	-	1	-	1	-
Navicula kotschyi Grunow	Ogh-ind	al-il	ind		6	2	3	2	-	-
Navicula mutica Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	RA,S	13	2	3	19	4	3
Navicula symmetrica Patrick	Ogh-ind	al-il	ind		-	-	-	-	-	1
Navicula tantula Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	RI,U	-	-	-	-	1	-
Navicula tokyoensis H.Kobayasi	Ogh-ind	ind	l-ph	RI	1	-	-	-	1	-
Navicula tridentula Krasske	Ogh-ind	al-bi	ind	RI	-	-	-	-	1	2
Navicula viridula (Kuetz.)Kuetzing	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,U	1	1	3	1	2	1
Navicula spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	1	-	-
Neidium affine (Ehr.)Cleve	Ogh-hob	ind	l-bi		-	-	-	1	-	-
Neidium affine var. longiceps (Greg.)Cleve	Ogh-hob	ac-il	l-bi		1	-	-	-	-	-
Neidium alpinum Hustedt	Ogh-unk	unk	ind	RA	-	1	2	-	1	-
Neidium ampliatum (Ehr.)Krammer	Ogh-ind	ind	l-ph		1	2	1	1	-	-

表５　Ⅱ区１地点の珪藻分析結果（２）

種類	生態性			環境指標種						
	塩分	pH	流水		3	4	5	6	8	9
Neidium productum (W.Smith)Cleve	Ogh-ind	ind	ind		-	-	1	-	-	-
Nitzschia amphibia Grunow	Ogh-ind	al-bi	ind	S	9	7	21	17	6	11
Nitzschia brevissima Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RB,U	-	-	1	4	2	-
Nitzschia nana Grunow	Ogh-ind	ind	ind	RB,S	-	1	2	4	3	5
Nitzschia paleacea Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	-	1	-	-
Nitzschia cf. perminuta (Grun.)Peragallo	Ogh-ind	ind	ind	RI	2	-	-	1	2	-
Nitzschia sinuata var. delognei (Grun.)Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	l-ph	U	2	-	2	-	1	1
Nitzschia tubicola Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	S	-	-	-	-	-	5
Nitzschia spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	-	-	1
Pinnularia acrosphaeria W.Smith	Ogh-ind	al-il	l-ph	O	-	2	1	-	-	-
Pinnularia acrosphaeria var. undulata Skvortzow	Ogh-ind	al-il	l-ph	O	-	1	-	-	-	-
Pinnularia acuminata W.Smith	Ogh-ind	ac-il	l-ph		-	1	-	-	-	-
Pinnularia appendiculata (Ag.)Cleve	Ogh-hob	ind	ind	RB	-	-	-	-	-	1
Pinnularia borealis Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	RA	2	1	2	1	-	3
Pinnularia borealis var. brevicostata Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	RA	-	-	1	-	-	-
Pinnularia brauniana (Grun.)Mills	Ogh-hob	ac-bi	l-ph		-	1	-	-	-	1
Pinnularia brebissonii (Kuetz.)Rabenhorst	Ogh-ind	ind	ind	U	-	1	1	-	-	-
Pinnularia divergens W.Smith	Ogh-hob	ac-il	l-ph		-	2	1	-	-	-
Pinnularia divergentissima (Grun.)Cleve	Ogh-ind	ac-il	ind		-	1	-	-	-	-
Pinnularia imperatrix Mills	Ogh-hob	ac-il	l-ph		-	-	1	-	-	-
Pinnularia mesolepta (Ehr.)W.Smith	Ogh-ind	ind	ind	S	2	-	-	2	-	-
Pinnularia microstauron (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	ac-il	ind	S	-	-	2	-	-	1
Pinnularia neomajor Krammer	Ogh-ind	ac-il	l-bi		-	-	-	-	-	1
Pinnularia nodosa Ehrenberg	Ogh-hob	ac-il	l-ph	O	-	1	1	1	-	-
Pinnularia obscura Krasske	Ogh-ind	ind	ind	RA	1	-	-	-	1	2
Pinnularia rupestris Hantzsch	Ogh-hob	ac-il	ind		1	1	2	-	-	-
Pinnularia schoenfelderi Krammer	Ogh-ind	ind	ind	RI	6	2	8	15	10	6
Pinnularia schroederii (Hust.)Krammer	Ogh-ind	ind	ind	RI	3	-	1	-	-	-
Pinnularia semicruciata (Ehr.)Schmidt	Ogh-hob	ac-il	ind		-	1	-	-	-	-
Pinnularia silvatica Petersen	Ogh-ind	ind	ind	RI	-	1	-	-	-	-
Pinnularia subcapitata Gregory	Ogh-ind	ac-il	ind	RB,S	-	1	7	7	3	2
Pinnularia substomatophora Hustedt	Ogh-hob	ac-il	l-ph		-	1	1	1	-	-
Pinnularia ueno Skvortzow	Ogh-hob	ac-il	l-ph		1	-	-	-	-	-
Pinnularia viridiformis Krammer	Ogh-ind	ind	ind		-	1	-	-	-	-
Pinnularia viridis (Nitz.)Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	O	1	5	2	2	1	-
Pinnularia spp.	Ogh-unk	unk	unk		1	-	-	2	-	-
Rhoicosphenia abbreviata (Ag.)Lange-B.	Ogh-hil	al-il	r-ph	K,T	1	-	-	-	-	-
Rhopalodia gibba (Ehr.)O.Muller	Ogh-ind	al-il	ind		-	2	-	1	-	-
Rhopalodia quisumbirgiana Skvortzow	Ogh-hil	al-il	ind		1	3	3	1	-	-
Sellaphora bacillum (Ehr.)Mann	Ogh-ind	al-il	ind	U	1	-	-	-	-	-
Sellaphora pupula (Kuetz.)Mereschkowsky	Ogh-ind	ind	ind	S	3	2	7	4	2	2
Sellaphora pupula fo. capitata (Skvortzow & Mayer)	Ogh-ind	ind	ind	U	-	-	1	-	-	-
Sellaphora rectangularis (Greg.)Lange-B.& Metzeltin	Ogh-ind	ind	ind		-	1	-	-	-	-
Stauroneis lauenburgiana Hustedt	Ogh-ind	al-il	ind		-	1	-	1	-	-
Stauroneis legumen var. nipponica (Skv.)H.Kobayasi	Ogh-hob	ac-il	l-ph		-	-	1	-	-	-
Stauroneis obtusa Lagerstedt	Ogh-ind	ind	ind	RB	2	-	-	-	-	-
Stauroneis phoenicenteron (Nitz.)Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	O	1	1	-	-	-	-
Stauroneis smithii Grunow	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	-	1	-	-	-	-
Stauroneis tenera Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	RB	-	-	2	-	1	-
Surirella angusta Kuetzing	Ogh-ind	al-il	r-bi	U	-	-	-	-	-	2
Surirella spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	-	-	1
Tabellaria flocculosa (Roth)Kuetzing	Ogh-hob	ac-il	l-bi	T	1	-	-	-	-	-
海水生種					0	0	0	0	0	0
海水～汽水生種					0	0	0	0	0	0
汽水生種					0	0	0	0	0	0
淡水～汽水生種					33	34	26	18	12	12
淡水生種					170	171	181	188	94	88
珪藻化石総数					206	209	212	212	114	109

凡例

H.R.　：塩分濃度に対する適応性　pH　：水素イオン濃度に対する適応性　C.R.　：流水に対する適応性　Euh　：海水生種　al-bi　：真アルカリ性種
l-bi　：真止水性種　Euh-Meh：海水生種－汽水生種　al-il　：好アルカリ性種　l-ph　：好止水性種　Meh　：汽水生種
ind　：pH 不定性種　ind　：流水不定性種　Ogh-Meh　：淡水－汽水生種　ac-il　：好酸性種　r-ph　：好流水性種
Ogh-hil　：貧塩好塩性種　ac-bi　：真酸性種　r-bi　：真流水性種　Ogh-ind　：貧塩不定性種　unk　：pH 不明種
unk　：流水不明種　Ogh-hob：貧塩嫌塩性種　Ogh-unk　：貧塩不明種

環境指標種群

K: 中～下流性河川指標種, N: 湖沼沼沢湿地指標種, O: 沼沢湿地付着生種（以上は安藤, 1990）, ,S: 好汚濁性種, U: 広域適応性種, T: 好清水性種（以上は Asai and Watanabe, 1995）, R: 陸生珪藻（RA:A 群，RB:B 群，RI: 未区分、伊藤・堀内，1991）

水域にも陸域にも生育するとされている（伊藤・堀内，1991）。

試料番号 25 は、沼沢湿地性付着生種群の Eunotia praerupta が 15％産出し、小量の塩分あるいは塩類を含む水域を好んで生育する淡水～汽水性の Rhopalodia gibberula、流水不定性の Diploneis ovalis、Navicula elginensis、陸生珪藻の中でも分布がほぼ陸域に限られる耐乾性の高いとされる陸生珪藻 A 群（伊藤・堀内，1991）の Hantzschia amphioxys 等が産出する。

試料番号 22 では、特に多産種がなく、流水性種の Achnanthes lanceolata、流水不定性の Achnanthes minutissima、流水不定性種の Gomphonema parvulum、陸生珪藻 A 群の Hantzschia amphioxys 等が産出する。

試料番号 19 は、特に多産種がなく、淡水～汽水生の Fragilaria brevistriata、好流水性の Navicula elginensis var. neglecta、流水不定性種の Diploneis ovalis 等が産出する。

試料番号 16 は、流水不定性の Cymbella silesiaca が多産し、流水不定性種である Diploneis ovalis、Gomphonema parvulum、Rhopalodia quisumbirgiana 等を伴う。

試料番号 12 は、淡水～汽水性の Rhopalodia gibberula が多産し、流水不定性種の Diploneis ovalis、Gomphonema parvulum、Nitzschia amphibia、陸生珪藻 A 群の Hantzschia amphioxys、Navicula mutica 等を伴う。

試料番号 9 は、流水性種の Achnanthes minutissima が多産し、好流水性で中～下流性河川指標種群の Cymbella turgidula、流水不定性種の Rhopalodia gibberula、Cymbella silesiaca、Gomphonema parvulum、Nitzschia amphibia、未区分陸生珪藻（伊藤・堀内，1991）の Pinnularia schoenfelderi 等を伴う。

試料番号 8 は、特に多産する種がなく、流水不定性種の Rhopalodia gibberula、Achnanthes minutissima、Cymbella silesiaca、Gomphonema parvulum、Nitzschia amphibia 等が産出する。

・Ⅰ区２地点

全般的に水生珪藻が優占するが、試料番号 12 では陸生珪藻が 60％と多産する。また、淡水生種の生態性の特徴は、１地点と同様に貧塩不定性種、真＋好アルカリ性種、流水不定性種が優占あるいは多産するが、下位の試料番号 22・16 では、真＋好流水性種が多産する。

試料番号 22 は好流水性の Gomphonema clevei が多産し、同じく好流水性の Cocconeis placentula var. euglypta、好流水性で中～下流性河川指標種群の Cymbella sinuata、Rhoicosphenia abbreviata、流水不定性の Cocconeis placentula、Cymbella silesiaca、陸生珪藻 A 群の Navicula mutica 等を伴う。

試料番号 16 では、塩分を小量含む水域や有機汚濁の進んだ腐水域に耐性のある好汚濁性種（Asai and Watanabe，1995）の Nitzschia palea が多産し、好流水性種の Gomphonema clevei、Rhoicosphenia abbreviata、流水不定性の Gomphonema parvulum、陸生珪藻の Navicula mutica 等を伴う。

試料番号 12 は、陸生珪藻 A 群の Hantzschia amphioxys が約 30％と出現し、好汚濁性種の Nitzschia palea、陸生珪藻 A 群の Navicula mutica、Pinnularia borealis 等を伴う。

試料番号 8 は、特に多産種がなく、淡水～汽水性の Rhopalodia gibberula、流水不定性の Diploneis ovalis、Nitzschia amphibia、Gomphonema parvulum 等が産出する。

試料番号 6 は、流水不定性種の Gomphonema parvulum が約 15％と多産し、好流水性で中～下流性河川指標種群の Cymbella turgidula、流水不定性種の Cymbella silesiaca、Gomphonema parvulum、好止水性の Cymbella amphioxys 等を伴う。

試料番号 3 は前試料で産出する水生珪藻に加え、陸生珪藻 A 群の Hantzschia amphioxys、Navicula mutica 等が多産する。

表6　花粉分析結果

種類		Ⅰ区											Ⅱ区	
		1地点						2地点					1地点	
	試料番号	9	12	19	22	25	27	3	6	10	12	16	3	5
木本花粉														
	マキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-
	モミ属	-	-	39	12	3	4	-	-	16	18	1	-	-
	ツガ属	-	-	24	2	2	1	-	1	9	11	-	-	-
	トウヒ属	-	-	9	3	1	-	-	-	3	5	-	-	-
	マツ属単維管束亜属	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	マツ属複維管束亜属	-	-	7	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	マツ属（亜属不明）	-	-	3	7	2	3	-	-	8	12	-	1	-
	コウヤマキ属	-	-	-	1	1	1	-	-	3	-	-	-	-
	スギ属	-	-	7	2	-	-	1	-	2	-	-	-	5
	イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
	クルミ属	-	-	5	-	-	-	-	-	2	4	-	-	-
	クマシデ属－アサダ属	-	-	16	2	-	-	-	-	3	8	-	-	-
	カバノキ属	-	-	2	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-
	ハンノキ属	-	-	2	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
	ブナ属	-	-	22	1	-	-	-	-	1	2	-	-	1
	コナラ属コナラ亜属	-	-	48	7	3	2	-	3	38	32	1	1	-
	コナラ属アカガシ亜属	-	-	16	5	2	-	-	1	1	4	-	-	-
	クリ属	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ニレ属－ケヤキ属	-	-	4	1	1	-	-	-	3	2	-	-	1
	エノキ属－ムクノキ属	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
	シラキ属	-	-	1	1	-	-	-	-	14	4	-	-	-
	カエデ属	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	トチノキ属	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-
	ツタ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	クサギ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
草本花粉														
	ガマ属	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	オモダカ属	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	イネ科	-	-	316	74	9	7	5	389	252	153	6	8	6
	カヤツリグサ科	-	-	99	22	1	-	-	-	33	7	-	-	-
	ミズアオイ属	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	アヤメ科	-	-	-	-	-	-	-	-	8	6	-	-	-
	クワ科	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	サナエタデ節－ウナギツカミ節	-	-	5	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-
	アカザ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
	カラマツソウ属	-	-	1	3	1	-	-	1	23	2	-	-	1
	キンポウゲ科	-	-	1	-	1	-	-	-	3	2	-	-	-
	アブラナ科	-	-	4	3	-	-	-	-	4	-	-	-	-
	バラ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
	ソラマメ属	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
	マメ科	-	-	3	2	1	-	-	-	22	4	-	-	-
	フウロソウ属	-	-	2	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-
	セリ科	-	-	-	1	-	-	-	-	-	2	-	-	-
	ヒルガオ属	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-
	ネナシカズラ属	-	-	-	2	-	-	-	1	4	3	-	-	-
	シソ科	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-
	オミナエシ属	-	-	5	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-
	ツリガネニンジン属－ホタルブクロ属	-	-	7	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-
	ヨモギ属	-	-	59	30	18	16	-	30	242	150	1	6	7
	キク亜科	-	-	9	5	5	5	1	11	46	54	-	2	2
	タンポポ亜科	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	不明花粉	-	-	7	7	-	-	-	1	8	9	-	-	-
シダ類胞子														
	ゼンマイ属	-	-	-	1	-	-	-	-	1	2	-	-	-
	イノモトソウ属	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-
	他のシダ類胞子	-	5	164	64	114	140	5	42	93	550	17	44	27
合計														
	木本花粉	0	0	212	47	15	11	1	6	105	108	3	2	9
	草本花粉	0	0	522	149	36	28	6	432	649	385	8	17	16
	不明花粉	0	0	7	7	0	0	0	1	8	9	0	0	0
	シダ類胞子	0	5	164	65	114	140	5	43	95	552	17	44	27
	総計（不明を除く）	0	5	898	261	165	179	12	481	849	1045	28	63	52

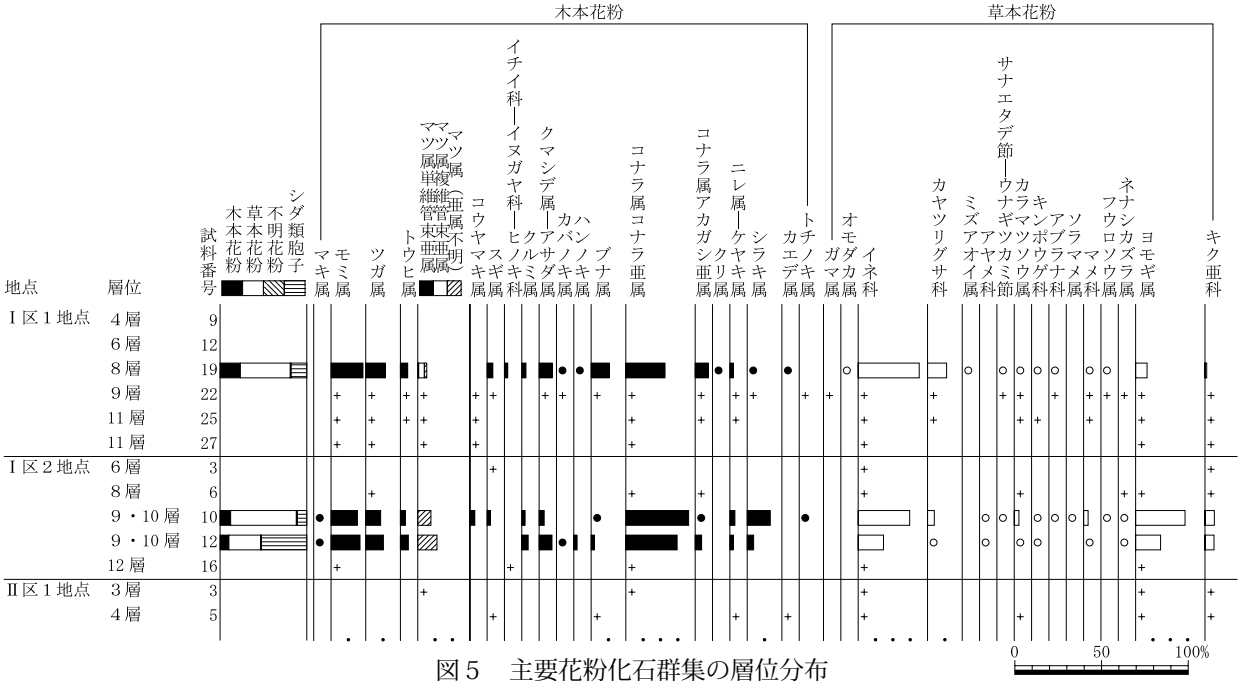


図５　主要花粉化石群集の層位分布

出現率は木本花粉が木本花粉総数を、草本花粉・シダ類胞子が総数より不明花粉を除いた数をそれぞれ基数として百分率で算出した。なお、●○は１％未満、＋は木本花粉 100 個未満の試料で検出された種類を示す。

・Ⅱ区１地点

水生珪藻が多産するが、陸生珪藻も 30％前後産出する。淡水生種の生態性の特徴は、貧塩不定性種、真＋好アルカリ性種、流水不定性種が優占あるいは多産する。

試料番号９では、特に多産する種がなく、淡水～汽水生で好汚濁性種の Nitzschia palea、流水不定性の Achnanthes minutissima、Gomphonema parvulum、流水不定性で好汚濁性種の Nitzschia amphibia、Nitzschia tubicola、陸生珪藻Ｂ群であり好汚濁性種でもある Nitzschia nana、未区分陸生珪藻の Pinnularia schoenfelderi 等が産出する。

試料番号８・６は特に多産する種がなく、淡水～汽水性の Rhopalodia gibberula、好流水性で中～下流性下流性河川指標種群の Cymbella turgidula、流水不定性種の Achnanthes minutissima、Gomphonema parvulum、Nitzschia amphibia、未区分陸生珪藻の Pinnularia schoenfelderi 等が産出する。

試料番号５では、特に多産する種がなく、淡水～汽水性の Rhopalodia gibberula、好流水性種の Cymbella turgidula、流水不定性種の Achnanthes minutissima、Cymbella silesiaca、Diploneis ovalis、Gomphonema parvulum、Nitzschia amphibia、好止水性の Cymbella amphioxys 等が産出する。

試料番号４・３は、淡水～汽水性の Rhopalodia gibberula が 15％前後と多産し、流水不定性種の Cymbella silesiaca、Diploneis ovalis、Gomphonema parvulum 等を伴う。

（４）花粉分析

結果を表６、図５に示す。Ⅰ区１地点試料番号 19、Ⅰ区２地点試料番号 10・12 では、木本花粉が比較的多く検出され、統計的に扱える量の産出をみた。これらの試料における木本花粉の産状は類似しており、コナラ属コナラ亜属が最も高率に産出し、この他にモミ属・ツガ属・マツ属・コナラ属アカガシ亜属などが検出さ

表７　植物珪酸体分析結果

種類		Ⅰ区											Ⅱ区	
		1地点						2地点					1地点	
	試料番号	9	12	19	22	25	27	3	6	10	12	16	3	5
イネ科葉部短細胞珪酸体														
	イネ族イネ属	13	1	3	-	-	-	3	2	-	-	-	7	2
	キビ族ヒエ属	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	キビ族キビ属	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
	キビ族チゴザサ属	4	1	3	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-
	タケ亜科ネザサ節	9	13	8	3	3	7	4	7	1	6	9	7	10
	タケ亜科	80	62	56	11	17	18	102	81	26	45	173	96	91
	ヨシ属	35	45	74	7	13	22	74	33	37	4	2	33	36
	ウシクサ族コブナグサ属	-	2	3	1	7	10	2	3	-	-	2	3	4
	ウシクサ族ススキ属	24	49	24	146	187	104	70	39	136	94	14	44	50
	イチゴツナギ亜科オオムギ族	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	イチゴツナギ亜科	9	5	2	-	2	-	7	6	7	2	2	2	5
	不明キビ型	77	71	51	44	91	44	85	61	57	51	14	60	38
	不明ヒゲシバ型	27	14	23	10	26	8	9	18	17	24	7	24	22
	不明ダンチク型	18	11	13	5	17	9	7	15	16	29	8	9	17
イネ科葉身機動細胞珪酸体														
	イネ族イネ属	15	7	13	-	-	-	8	14	-	-	-	14	9
	タケ亜科ネザサ節	22	6	6	6	5	6	8	15	4	11	5	13	5
	タケ亜科	30	33	46	22	22	54	55	60	35	53	103	57	74
	ヨシ属	21	25	33	26	7	6	12	21	6	24	27	15	5
	ウシクサ族	30	24	25	42	80	98	25	36	60	91	27	42	60
	不明	27	13	17	13	40	23	13	17	16	42	17	24	34
合　計														
	イネ科葉部短細胞珪酸体	301	274	260	227	363	224	364	265	297	255	231	285	275
	イネ科葉身機動細胞珪酸体	145	108	140	109	154	187	121	163	121	221	179	165	187
	総　計	446	382	400	336	517	411	485	428	418	476	410	450	462
組織片														
	イネ属穎珪酸体	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
	イネ属短細胞列	5	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-
	イネ属機動細胞列	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-

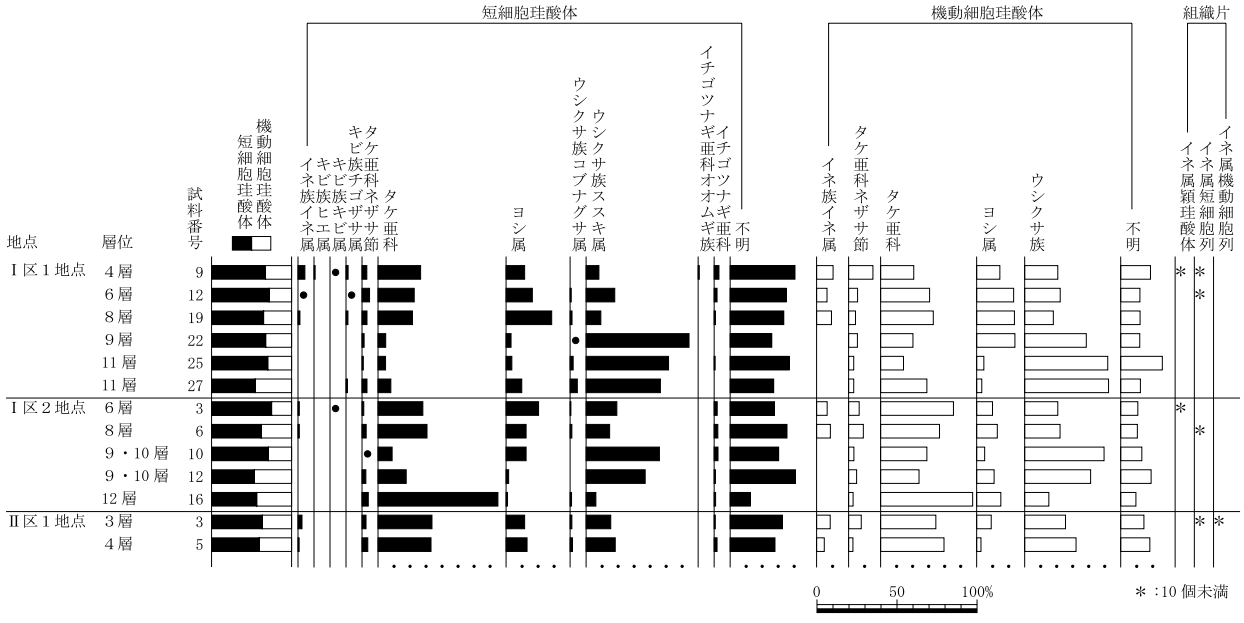


図６　植物珪酸体の層位分布

出現率は、イネ科葉部短細胞珪酸体、イネ科葉身機動細胞珪酸体の総数を基数として百分率で算出した。●は１％未満、＋は 100 個未満の試料で検出された種類を示す。また、組織片の産状を＊で示す。

れる。草本花粉では、イネ科が多産する。また、Ⅰ区２地点試料番号 10・12 では、イネ科の他にヨモギ属も多産する。また、木本花粉の検出個数が少ないが、１地点試料番号 22、２地点試料番号６ではイネ科が多く検出される。

その他の試料では、花粉化石の検出個数が少ない。なお、全体的に花粉化石の保存状態が悪く、外膜が溶けていたり、壊れているなど分解の痕跡が認められる。

（５）植物珪酸体分析

結果を表７、図６に示す。各試料からは植物珪酸体が検出されるものの、保存状態が悪く、表面に多数の小孔（溶食痕）が認められる。以下に、地点毎の産状を述べる。

・Ⅰ区１地点

植物珪酸体の産状は、試料番号 22 と試料番号 19 の間で大きく異なる。すなわち、試料番号 27・25・22 ではススキ属短細胞珪酸体やウシクサ族機動細胞珪酸体の産出が目立ち、ネザサ節を含むタケ亜科、ヨシ属、イチゴツナギ亜科などが認められる。

一方、上位の試料番号 19・12・９ではススキ属やウシクサ族が減少し、タケ亜科やヨシ属の産出も目立つ。また、これらの試料では、栽培植物であるイネ属が出現する。試料番号 19 のイネ属植物珪酸体は、短細胞珪酸体が約１％、機動細胞珪酸体が約９％である。試料番号 12 のイネ属植物珪酸体は、短細胞珪酸体が１％以下、機動細胞珪酸体が約６％となり、出現率がともに低下する。試料番号９になると、イネ属短細胞珪酸体が約４％、イネ属機動細胞珪酸体が約 10％と、出現率が再び増加する。なお、試料番号 12 で短細胞珪酸体列が、試料番号９で短細胞列と籾殻に形成される穎珪酸体もわずかに認められる。

・Ⅰ区２地点

植物珪酸体の産状は、試料番号 16 と試料番号 12、試料番号 10 と試料番号６の間で大きく異なる。下位の試料番号 16 ではネザサ節を含むタケ亜科の産出が目立ち、ヨシ属、ウシクサ族、イチゴツナギ亜科などが認められる。

試料番号 12・10 は、Ⅰ区１地点の試料番号 27・25・22 と同様にススキ属短細胞珪酸体やウシクサ族機動細胞珪酸体の産出が目立ち、ネザサ節を含むタケ亜科、ヨシ属、イチゴツナギ亜科などが認められる。

上位の試料番号６・３ではⅠ区１地点の試料番号 19・12・９と同様に、ススキ属やウシクサ族が減少し、タケ亜科やヨシ属の産出も目立つようになる。また、イネ属が両試料で検出される。その出現率は、短細胞珪酸体で 0.8％前後、機動細胞珪酸体で７％前後である。この中には、短細胞列や穎珪酸体もわずかに認められる。

・Ⅱ区１地点

試料番号３・５の植物珪酸体の産状は、Ⅰ区１地点の試料番号 19・12・９、Ⅰ区２地点の試料番号６・３と同様である。すなわち、イネ属が認められ、タケ亜科・ヨシ属・ウシクサ族の産出が目立つようになる。試料番号３では、イネ属の短細胞列や穎珪酸体もわずかに認められる。

（６）土壌理化学分析

結果を表８に示す。Ⅰ区１地点試料番号 16 では、腐植含量が 2.43％、リン酸吸収係数が 1890 を示す。Ⅱ区１地点では、腐植含量が 1.03 ～ 4.47％、リン酸吸収係数が 1290 ～ 1760 を示す。Ⅱ区１地点では、両成分とも上位に向かい増加する。

表８　土壌理化学分析結果

調査区	地点	試料番号	土性	土色		腐植含量 (%)	リン酸吸収係数 (mg/100g)
Ⅰ区	1 地点	16	HC	10YR3/4	暗褐	2.43	1890
Ⅱ区	1 地点	6	LiC	10YR1.7/1	黒	4.47	1760
		8	LiC	10YR2/2	黒褐	2.65	1600
		9	SC	10YR3/3	暗褐	1.03	1290

注１）土色：マンセル表色系に準じた新版標準土色帖（農林省農林水産技術会議監修，1967）による。
注２）土性：土壌調査ハンドブック（ペドロジスト懇談会編，1984）の野外土性による。
LiC･･･ 軽埴土（粘土 25 ～ 45%、シルト 0 ～ 45%、砂 10 ～ 55%）
SC･･･ 砂質埴土（粘土 25 ～ 45%、シルト 0 ～ 20%、砂 55 ～ 75%）
HC･･･ 重埴土（粘土 45 ～ 100%、シルト 0 ～ 55%、砂 0 ～ 55%）

（７）種実遺体同定

種実同定結果を表９に示す。殆どの種実遺体はコナラ属の子葉に同定され、１個体のみトチノキの種子が同定される。その他に、炭化材が検出される。なお、種類・部位の同定に至らなかった炭化物の破片を不明炭化物とした。以下に、同定された種類の形態的特徴を記す。

表９　種実遺体同定結果

調査区	試料	種類名	部位	状態		個数	重量 (g)
Ⅱ -1 区	19 号住居跡出土埋甕	コナラ属	子葉	炭化	完形	5	1.2
					半分・破片	多量	126.8
							計　128
		トチノキ	種子	炭化	炭化	1	0.05
		炭化材				破片	0.2
		不明炭化物				破片	2.5

・コナラ属（Quercus）　ブナ科多量の子葉が同定される。全個体が完全に炭化した状態で、子葉の合わせ目に沿って半分に割れている個体が多い。完形の炭化子葉は、５個体のみである。炭化子葉の全量が 128g で、完形５個体の全量が 1.2 ｇであることを考慮すると、少なくとも 500 以上の個体数が推定される。炭化子葉は黒色を呈す。完形は長楕円体や狭卵形体で、長さ 12 ～ 18mm、径５～ 11mm 程度。子葉頂部はやや尖るが、これは堅果頂部の円錐状の突出部内部を埋めていた部分であることから、成熟個体と考えられる。基部は平らである。表面には縦方向に走る維管束の圧痕が明瞭にみられる。２枚からなる子葉の合わせ目の線は直行し、頂部の尖った部分に集束する。尖った部分には幼痕がある。岡本（1979）は、日本産ブナ科植物の子葉には、２枚が離れやすいものと非常に離れにくいものがあることを指摘し、コナラ属ではアカガシ亜属イチイガシ、コナラ亜属クヌギ節アベマキ・クヌギを後者と報告している。これに従えば、今回出土した子葉は殆どの個体が合わせ目に沿って２つに割れているため、前者の離れやすいタイプと考えられ、上述以外のコナラ属が考えられる。

・トチノキ（Aesculus turbinata Blume）　トチノキ科トチノキ属

炭化種子の破片が１個体検出された。完形ならばやや偏平な球形か。径 7.5mm 程度で、未熟個体と思われる。種皮は薄く硬く、表面にはほぼ赤道面を一周する特徴的なカーブを境に、掻傷様の微細な模様があり光沢がある黒色の上部と、光沢のない灰褐色の下部に分かれる。

（８）葉同定

３号住居跡出土埋甕の底部に認められた植物遺体は、広葉樹の葉の一部に似た形態であり、葉脈に似た筋が認められる。一方、18 号住居跡出土埋甕の底部に認められた植物遺体は、葉脈が平行に走る単子葉類に似た

形態である。顕微鏡で組織の観察を行ったが、植物珪酸体は全く存在しておらず、細長い細胞で構成された組織が認められる。

４．考察

（１）各地点の堆積環境

・Ｉ区

12 層は、旧河道部で薄く、微高地部で厚く堆積する暗灰色～黄褐色粘土よりなる。本層準における珪藻化石群集は、１地点および２地点とも類似しており、中～下流性河川指標種群を含む流水性種や流水不定性種が多産する。このような群集からなる堆積物は、流水域で堆積した河川堆積物の群集と一致する。本遺跡は、前述のように近くに早川が流れ、この早川の西側が桐原面、東側が薮塚面という立地環境にある。このような地形的な背景から考えると、本層は早川の旧河川堆積物に相当し、河川活動に伴って供給された粘土と推定される。年代的には、微高地部において本層上位で縄文時代後期の住居跡が検出されることから、少なくともそれ以前であるが、詳細は不明である。

この 12 層を削り形成される旧河道は､腐植物を多量に含む黒色シルト質粘土(11 層)よって埋積されている。本層の珪藻化石群集は、水生珪藻と陸生珪藻が高い割合で混在している。また、産出種の中には沼沢湿地付着生種群が比較的多く産出する。このことから、河道形成後、流路内は、流れがほとんどなくなり、表層が乾くこともある湿潤な場所となっていたと考えられる。年代的には、本層直上でＡｓ‐Ｃの降灰層準（10 層）が認められることから、Ａｓ‐Ｃが降灰する直前の 4 世紀中葉頃までと考えられる。ところで本層では、Ａｓ‐Ｃ直下で約 2330 年前の年代値が得られており、土器編年からみた年代観と一致しない。しかし、本層には少量であるが火山ガラスが含まれていること、陸生珪藻が比較的多く検出されることから、周囲に分布する段丘上の黒ボク土やローム層も流れ込んでいると考えられる。したがって、これらの二次堆積物中に含まれる炭素分の影響で、やや古い年代が得られたと考えられる。

Ａｓ‐Ｃ降灰後、流路内は、黒色粘土質シルト（９層）が堆積する。流路内では、中～下流性河川指標種群を含む流水性種、流水不定性種などが検出されている。このことから、本層になると再度流水の影響を受ける不安定な環境となった可能性がある。本層は縄文時代中・後期の遺物を包含し、約 1870 年前の年代値が得られるが、テフラ層序と矛盾している。この点は、下位の 12 層と同様に、二次堆積物を含めた異なる時代の堆積物によって埋積が進んだことを意味する。これに対して、微高地側に位置した２地点では、陸生珪藻、中でも耐乾性の高いＡ群が多産する。この陸生珪藻が産出する割合は、土壌が好気的環境で堆積したことを示す量に近い値である（伊藤・堀内，1991）。このことから、微高地部では、水成堆積したのでなく陸上の好気的環境で徐々に堆積したと考えられる。

８層は、灰黒色粘土質シルトよりなり、Ｉ区の旧河道部だけでなく、微高地部でも認められる。年代的には、Ａｓ‐Ｃと榛名テフラが混在することから、古墳時代以降である。本層の珪藻化石群集は旧河道部および微高地部とも類似しており、Rhopalodia gibberula、Fragilaria brevistriata などの塩類濃度の高い水域に生育する好塩性種（淡水～汽水生種）が増加する。古代の水田層において Rhopalodia gibberula などの好塩性種が増加･多産する傾向は、高崎市北部で発掘された御風呂遺跡･舞台遺跡（田中，1987）、村北Ａ･天王前遺跡（パリノ・サーヴェイ株式会社，1983）、渋川市中村遺跡（パリノ・サーヴェイ株式会社，1986）等でも知られている。後述するように、本遺跡の周辺地域で古墳時代以降になると稲作が行われていたと考えられる点から、生業活動に伴う塩類濃度の増加など水質の変化を反映している可能性がある。

７層は、灰白色粘土よりなる。本層は、発掘調査段階においてＦＡが再堆積した泥流堆積物とされている。ここで、Ｈｒ－ＦＡの上位には、場所によってＨｒ－ＦＡ噴出後の短期間の内に発生した洪水の堆積物（Ｓ洪水堆積物）が認められることが報告されている（早田，1989）。ただし、この泥流は、旧利根川の流路だった広瀬川低地帯を埋めた時に大間々扇状地桐原面をオーバーフローして本地点周辺や扇状地の上流域に堆積したとは考えにくい。また、利根川から早川を逆流して本地点に堆積したとも考えにくい。事実、本層準において榛名山を給源とするテフラは、きわめて微量～少量程度であり、堆積物中に多く含まれていない。また、本層下位で奈良時代の遺物が出土する点も考慮すると、本層は、早田（1989）に示されたＨｒ－ＦＡが降灰した直後に発生した泥流堆積物とは異なると判断される。本層で検出される珪藻化石をみると、Cymbella silesiaca 等の流水不定性種が多産する。また、本層のリン酸吸収係数は、1890 を示す。リン酸吸収係数とは、リン酸固定力の強さを表す係数で、2000 以上が火山灰土壌、1500 ～ 2000 が火山灰の影響の強い土壌、1000 以下が非火山灰土壌の場合が多いとされている（例えば、三好ほか編，1983）。これらのことから、本層は、火山灰土壌（あるいはその影響を強く受けた土壌）が、何らかの要因によって二次的に水成堆積したと判断される。ただし、その由来や発生メカニズムなどについては、今後の課題として残される。早川上流域および赤城火山南麓における過去の地震や洪水などとの関連についても、地域的に検討していく必要がある。

６層は、黒褐色粘土質シルトである。その直上の５層がＡｓ－Ｂの降灰層準であることから、Ａｓ－Ｂ降灰直前までに堆積したものである。１地点および２地点ともに、珪藻化石群集は好塩性種が増加ないし多産する。これも、水田の水質が塩類の集積し易い環境となっていたことを反映している可能性がある。

Ａｓ－Ｂ上位の４層・３層は、褐色～青灰色砂ないし灰褐色砂混じりシルトからなる。本層では、引き続き前述の好塩性種や好汚濁性種が多産する他、中～下流性河川指標種群を含む流水性種を伴う。このことから、本層が堆積する頃になると流水の影響のある不安定な環境となったことが示唆される。堆積物中に砂分を多く含むこと、特に４層でラミナ構造が認められる点より、河川の氾濫によって堆積した可能性がある。

・Ⅱ区

最下部の６層は、明黄灰色砂混じりシルトよりなる。本層では、中～下流性河川指標種群を含む流水性種や流水不定性種が多産する珪藻化石群集が得られ、リン酸吸収係数が 1290 である。これらのことから、本層は、河川氾濫の影響によって、周辺の火山灰土壌を削剥しながら堆積したと考えられる。Ⅰ区 12 層と珪藻化石群集が類似することからⅠ区 12 層とほぼ同様な環境で堆積したとみられる。さらに、土質的にも類似すること、縄文時代中・後期の遺物包含層の下位にあたることなどから、これらの層準は対比される可能性がある。

５層は、暗灰褐色砂混じりシルトからなる。本層でも中～下流性河川指標種群を含む流水性種や流水不定性種が多産する。したがって、基本的に氾濫の影響を受けて堆積したと考えられる。また、リン酸吸収係数が 1600 ～ 1760 を示し、周囲の段丘上のローム層に由来するとみられる火山ガラスが微量～少量含まれる。さらに、上位に向かい、陸生珪藻が僅かであるが増加し、また腐植含量が高くなる。これらのことから、本層は、氾濫によって削剥された火山灰土に由来し、離水後に安定した状態となって土壌化が進んだと思われる。時代的には、テフラの産状、および遺物の出土状況を考慮すると、縄文時代中・後期以前に堆積したとみられる。

４層および３層は、いずれも軽石が混じる黒褐色シルトよりなる。ただし、３層では、下部でやや明るく、上部で黒色が強い色調を示す。両層準とも、珪藻化石群集で塩類濃度の高い水域に生育する好塩性種や流水不定性種が多産することから、塩類の集積しやすい環境で水生堆積したことが伺える。ところで、これらの層準で確認されるテフラは、４層および３層下部ではＡｓ－Ｃと榛名テフラが混在し、３層上部ではＡｓ－Ｂと榛名テフラが混在する。このことは、後代の撹乱の影響を受けているものの、３層下部と３層上部では、ある程

度の時間間隙が存在していることがわかる。各層準は、３層下部が榛名テフラが降灰した古墳時代以降に、３層上部および２層が が降灰した平安時代以降に、それぞれ堆積したと考えられる。

（２）周辺植生

Ⅰ区の 12 層では、２地点でみるとタケ亜科が多産する。タケ亜科の植物珪酸体は、他のイネ科と比較して風化に強く、また生産量の多い点がこれまでの研究から指摘されており（近藤，1982：杉山・藤原，1986）、他の種類よりも残留しやすいことが知られている。また、これまでの調査例によると、黒ボク土やロームで多産することが多い（パリノ・サーヴェイ株式会社，未公表）。前述したように本層には火山灰土に由来する堆積物が流れ込んでいることから、ここで検出されたタケ亜科植物珪酸体は本地点に生育していた植物に由来するものでなく、流域のイネ科植物を反映していると考えられる。また、堆積の過程でタケ亜科が選択的に残留し、タケ亜科の目立つ産状を呈したことも考えられる。

その後、Ⅰ区の 11 層～９層では、ススキ属短細胞珪酸体やウシクサ族機動細胞珪酸体が特徴的に産出する。このことから、周辺には、ススキ属が繁茂していたと思われる。この他にも、タケ亜科、ヨシ属、イチゴツナギ亜科などのイネ科植物、ヨモギ属なども生育していたことがうかがえる。これらの種類の中でヨシ属は、河道縁辺部などの湿潤な場所を好む比較的大型の水生植物である。このヨシ属がⅠ区１地点９層で多産することから、Ａｓ－Ｃ降灰以降、河道内あるいはその近辺で増加したとみられる。

Ⅰ区の８層・６層になると、１地点・２地点とも植物珪酸体群集はこれまでと異なり、栽培植物のイネ属が出現する。これらイネ属の出現率は、短細胞珪酸体が約１％前後、機動細胞珪酸体が約６～９％である。現在の水田土壌中に含まれる植物珪酸体の調査によれば、機動細胞珪酸体中のイネ属の割合は９％であるが、稲藁を堆肥として与えている水田では 16％に上がるという結果が得られている（近藤，1988）。本層準におけるイネ属機動細胞珪酸体の出現率は、現水田の調査例とほぼ同様な値である。このことから、調査地点の周辺では、古墳時代頃になると稲作が行われていた可能性がある。ここで、本遺跡の西方に位置する二宮千足遺跡では、Ａｓ－Ｃ下水田～Ａｓ－Ｂ下水田が検出されており、そこで行われた植物珪酸体分析によるとイネ属植物珪酸体含量が少なく、その要因としてヨシなど雑草の影響による生産性の低さが指摘されている（古環境研究所，1992）。本遺跡の場合もヨシ属の産出も目立つことから、８層・６層での稲作も雑草の影響を受けた可能性が考えられる。なお、Ⅱ区１地点の３層・４層も、Ⅰ区８層や６層と同様な植物珪酸体の産状が見られ、稲作が行われていたものの、やはり雑草の影響を受けていたと思われる。このことは、水田区画によって著しい差が存在しなかったことを示唆する可能性もある。この点については、今後、より平面的な調査を進めることで検証が可能になると思われる。

Ａs－Ｂテフラ直上に堆積したⅠ区の４層になると、下位層よりも高い出現率でイネ属が検出される。ただし、本層が氾濫によって堆積している点を考えると、周辺の水田土壌が削剥されて流れ込んだことも考えられる。ただし、イネ属が引き続き検出される点から、Ａｓ－Ｂ降灰後、周辺では火山災害後に水田が復旧されたことが想定される。

一方、広域的な植生を反映する木本花粉は、Ⅰ区１地点８層（試料番号 19）、Ⅰ区２地点９・10 層（試料番号 10・12）で検出される。その木本花粉化石群集は類似しており、コナラ亜属が最も高率に産出し、モミ属・ツガ属・マツ属などを伴う。ここで、今回検出される花粉化石は、いずれも保存状態が悪く、外膜に分解の痕跡がみられたり、壊れているものが大半を占める。また、シダ類胞子が多い傾向にある。一般的に、落葉広葉樹に由来する花粉よりも、針葉樹に由来する花粉やシダ類胞子の方が分解に対して抵抗性が高いとされて

いる（例えば、中村，1967）。したがって、今回、針葉樹に由来する花粉（モミ属・ツガ属・マツ属）が比較的高い割合となっているが、これらは分解に対して抵抗性があるために相対的に出現率が高くなっている可能性がある。すなわち、ここで得られた花粉化石群集は歪曲している可能性がある。その中でも、落葉広葉樹に由来するコナラ亜属の花粉が高率に産出する点を考えると、遺跡周辺には４～６世紀頃、コナラ亜属を中心とした落葉広葉樹林が成立していたと思われる。

（３）埋甕の内容物

３号住居跡出土埋甕および 18 号住居跡出土埋甕の底部に認められた植物遺体は、その種類を明確にすることができなかった。ただし、３号住居跡出土埋甕の底部にある植物遺体が広葉樹の葉、18 号住居跡出土埋甕の底部にみられた植物遺体が単子葉類に似た形態をそれぞれ示している。すなわち、３号住居跡出土埋甕と 18 号住居跡出土埋甕の底部に認められる植物遺体は、それぞれ異なる種類の植物であると判断できる。異なる遺構から出土した埋甕の内部に同じ種類の植物遺体が混入しているならば意図的行為の可能性が高いが、今回種類が異なることから植物遺体が人為的に埋納されたものか判断できない。

一方、埋甕から検出された種子は、コナラ属（いわゆるドングリ類）およびトチノキであった。コナラ属やトチノキは、暖温帯の落葉広葉樹林に極めて普通な落葉高木で、現在の周辺地域の山林にも生育している。コナラ属の一部とトチノキは、アク抜きが必要であるが、子葉が食用・長期保存が可能で収量も多いことから、古くから里山で保護されてきた種類である。上述したように花粉分析の結果でも周辺にコナラ亜属を中心とする落葉広葉樹林が成立していたと推定され、さらに多量のコナラ属の子葉が埋甕から完全に炭化した状態で出土したことを考慮すると、当該期の本遺跡周辺の森林から果実を入手し、甕内に貯蔵していたことが推定され

引用文献

安藤一男（1990）淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用．東北地理，42， p.73-88.

新井房夫（1979）関東地方北西部の縄文時代以降の指標テフラ層．考古学ジャーナル，157，p.41-52.

Asai, K. and Watanabe, T.（1995）Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relating to Organic Water Pollution（２）Saprophilous and saproxenous taxa．Diatom，10，p.35-47.

群馬県地質図作成委員会（1999）群馬県 10 万分の１地質図．内外地図株式会社.

原口和夫・三友 清・小林 弘（1998）埼玉の藻類 珪藻類．埼玉県植物誌，埼玉県教育委員会， p.527-600.

伊藤良永・堀内誠示（1991）陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用．珪藻学会誌，６， p.23-45.

石川正之助・井上唯雄・梅沢重昭・松本浩一（1979）火山堆積物と遺跡Ⅰ．考古学ジャーナル，159， p.3-40.

貝塚爽平・小池一之・遠藤邦彦・山崎晴雄・鈴木毅彦編（2000）日本の地形４ 関東・伊豆小笠原． 349p.，東京大学出版会.

古環境研究所（1992）プラント・オパール分析調査報告．群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第 125 集「二之宮千足遺跡 国道 17 号（上部道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（自然科学分析編）」，p.50-60，建設省・群馬県教育委員会・群馬県埋蔵文化財調査事業団.

近藤錬三（1982）Plant opal 分析による黒色腐植層の成因究明に関する研究．昭和 56 年度科学研究費 （一般研究Ｃ）研究成果報告書，32p.

近藤錬三（1988）十二遺跡土壌の植物珪酸体分析．「鋳師屋遺跡群十二遺跡－長野県北佐久郡御代田町十二遺跡発掘調査報告書－」，p.377-383，御代田町教育委員会.

近藤錬三・佐瀬 隆（1986）植物珪酸体分析，その特性と応用．第四紀研究，25，p.31-64.

小杉正人（1988）珪藻の環境指標種群の設定と古環境復原への応用．第四紀研究，27，p.1-20.

Krammer, K.（1992）PINNULARIA，eine Monographie der europaischen Taxa．BIBLIOTHECA DIATOMOLOGICA，BAND 26，p.1-353.，BERLIN・STUTTGART.

Krammer，K. and Lange-Bertalot，H.（1986）Bacillariophyceae，Teil 1，Naviculaceae．Band 2/1 von：Die Suesswasserflora

von Mitteleuropa，876p.，Gustav Fischer Verlag.
Krammer，K. and Lange-Bertalot，H.（1988）Bacillariophyceae，Teil 2，Epithemiaceae， Bacillariaceae，Surirellaceae．Band 2/2 von：Die Suesswasserflora von Mitteleuropa，536p.， Gustav Fischer Verlag.
Krammer，K. and Lange-Bertalot，H.（1991a）Bacillariophyceae，Teil 3，Centrales， Fragilariaceae，Eunotiaceae．Band 2/3 von：Die Suesswasserflora von Mitteleuropa，230p.， Gustav Fischer Verlag.
Krammer，K. and Lange-Bertalot，H.（1991b）Bacillariophyceae，Teil 4，Achnanthaceae， Kritsche Ergaenzungen zu Navicula（Lineolatae）und Gomphonema．Band 2/4 von：Die Suesswasserflora von Mitteleuropa， 248p.，Gustav Fischer Verlag.
町田　洋・新井房夫（1992）火山灰アトラス．276p.，東京大学出版会.
町田　洋・新井房夫（1992）火山灰アトラス．276p.，東京大学出版会.
三好　洋・嶋田永生・石川昌男・伊達　昇編（1983）「土壌肥料用語辞典」．259p.，社団法人　農山漁村文化協会.
中村　純（1967）「花粉分析」．232p.，古今書院．日本の地質「関東地方」編集委員会（1986）日本の地質３　関東地方．335p.，共立出版.
岡本素治（1979）遺跡から出土するイチイガシ．大阪市立自然史博物館業績，第 230 号，p.31-39.
パリノ・サーヴェイ株式会社（1983） 村北Ａ・天王前遺跡．高崎市文化財調査報告書第 40 集「矢中遺跡 群（Ⅲ）」，p.30-34，高崎市教育委員会，
パリノ・サーヴェイ株式会社（1986）自然科学分析．「中村遺跡　－関越自動車道（新潟線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書（ＫＣ－Ⅲ）－」， p.538-596．渋川市教育委員会.
早田　勉（1989）六世紀における榛名火山の二回の噴火とその災害．第四紀研究，27，p.297-312.
杉山真二・藤原宏志（1986）機動細胞珪酸体の形態によるタケ亜科植物の同定－古環境推定の基礎資料として－．考古学と自然科学，19，p.69-84.
田中宏之（1987）群馬県高崎市北部から発掘された古代水田の珪藻．群馬県立歴史博物館紀要，８， p.1-15.

図版１　テフラ

１．Ａｓ－Ｂの軽石（Ｉ区１地点；10）

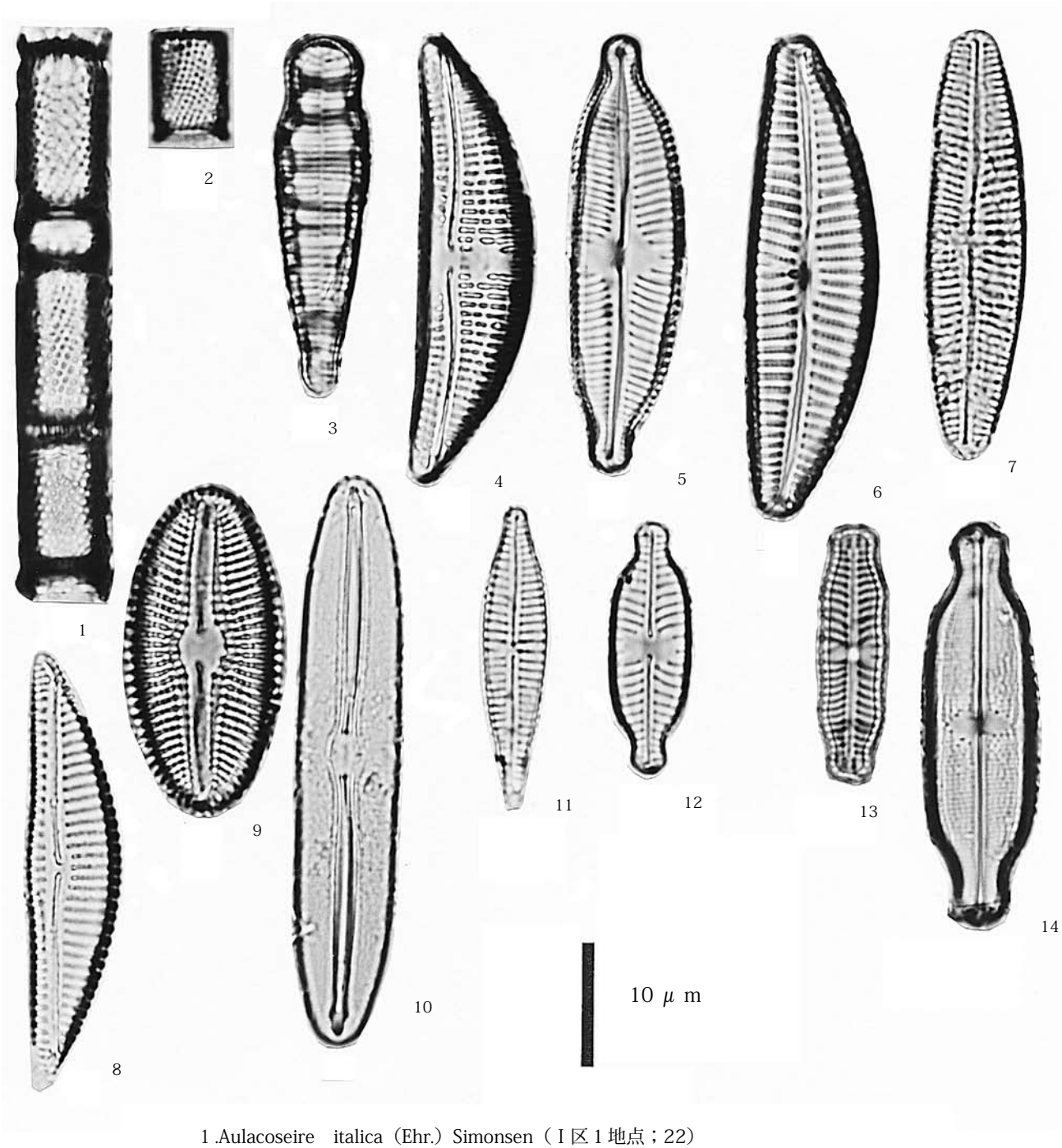
２．Ｈｒ－ＦＡ or ＦＰの軽石（Ｉ区１地点；18）

３．Ｈｒ－ＦＡ or ＦＰ火山ガラス（Ｉ区１地点；10）

７．Ａｓ－Ｃの軽石（Ｉ区１地点；22）

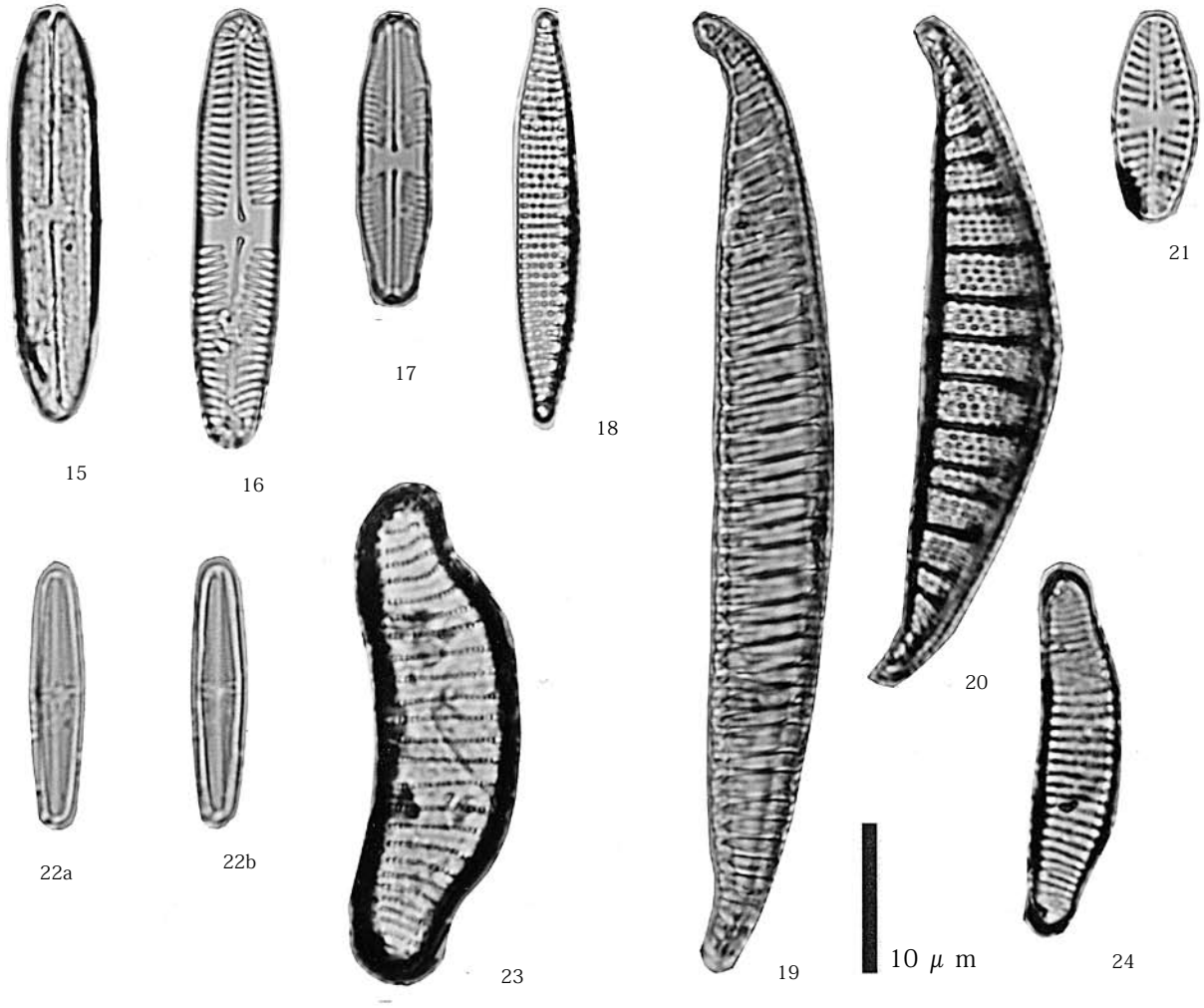
２㎜

図版２　珪藻化石（１）



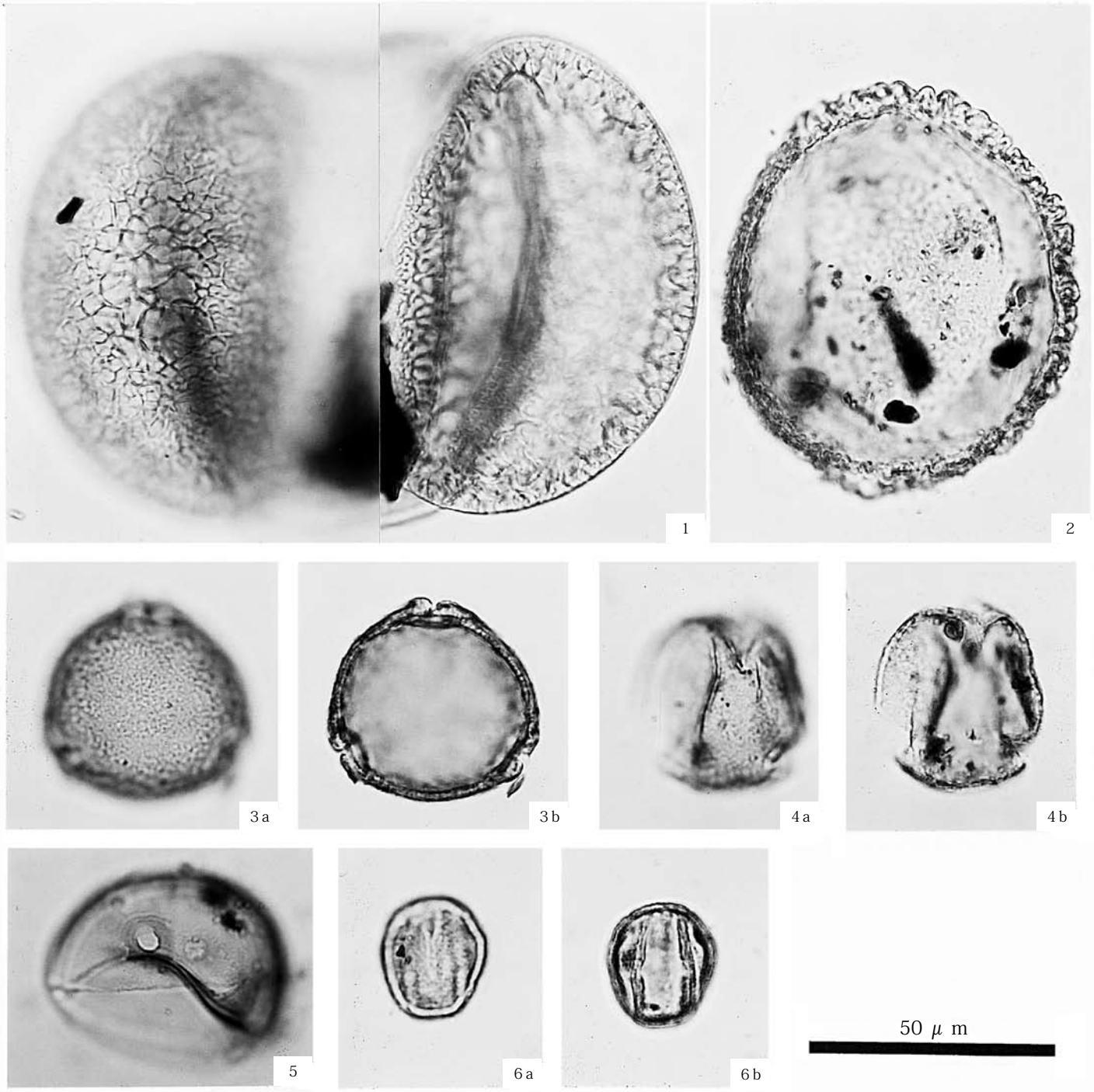
1 .Aulacoseire　italica（Ehr.）Simonsen（Ｉ区１地点；22）
2 .Aulacoseire　ambigua（Grun.）Simonsen（Ｉ区１地点；16）
3 .Meridion　circulaevar.constrictum（Ralfs）V.Heurck（Ｉ区１地点；29）
4 .Amphore　affinis　Ketzing（Ｉ区１地点；16）
5 .Cymbelle　naviculiformis　Auerswald（Ｉ区１地点；19）
6 .Cymbelle　turgidula　Grunow（Ｉ区１地点；９）
7 .Cymbelle　subaequalis　Grunow（Ｉ区１地点；16）
8 .Cymbelle　silesiaca　Bleisch（Ｉ区２地点；３）
9 .Diploneis　ovalis（Hilse）Cleve（Ｉ区１地点；12）
10.Gomphonema　parvulum　Kuetzing（Ｉ区１地点；16）
11.Frustulia　vulgaris（Thwait.）De　Toni（Ｉ区１地点；22）
12.Navicula　elginensis（Greg.）Ralfs（Ｉ区１地点；29）
13.Navicula　ignota　Krasske（Ｉ区１地点；12）
14.Neidium　affine（Ehr.）Cleve（Ｉ区１地点；９）

図版３　珪藻化石（２）



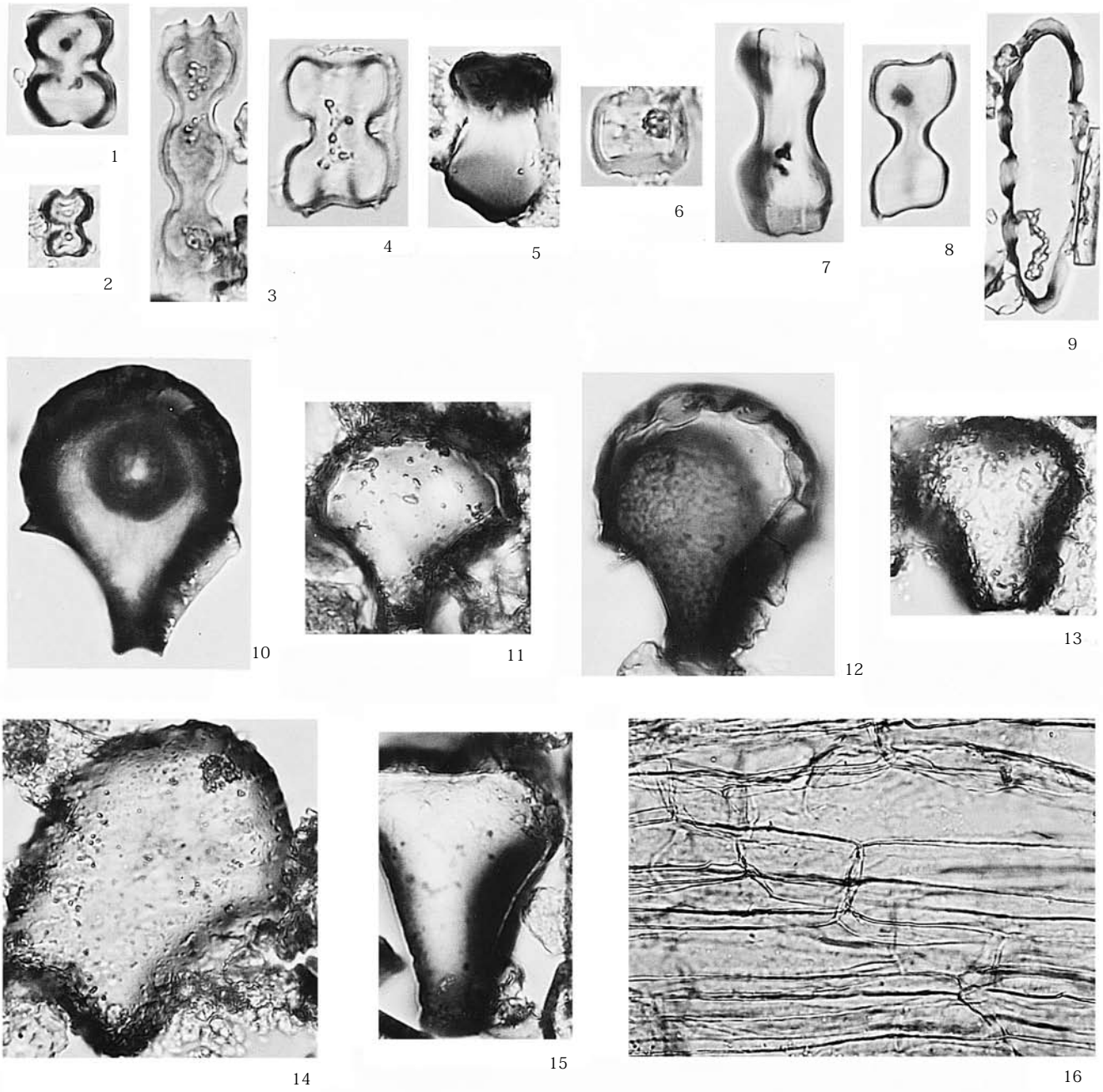
15.Neidium　alpinum　Hustedt（Ⅰ区２地点；３）
16.Pinnularia　schoenfelderi　Krammer（Ⅰ区１地点；22）
17.Stauroneis　obtusa　Lagerstedt（Ⅰ区１地点；12）
18.Nitzschia　amphibia　Grunow（Ⅰ区１地点；22）
19.Rhopalodia　quisumbirgiana　Skvortzow（Ⅰ区１地点；16）
20.Rhopalodia　gibberula（Ehr.）O.Muller（Ⅰ区１地点；16）
21.Achnanthes　lanceolata（Breb.）Grunow（Ⅰ区１地点；22）
22.Achnanthes　miuntissima　Kuetzing（Ⅰ区１地点；９）
23.Eunotia　praerupta　Ehrenberg（Ⅰ区１地点；25）
24.Eunotia　pectinalisvar.minor（Kuetz.）Rabenhorst（Ⅰ区１地点；29）

図版４　花粉化石



1.モミ属（Ⅰ区１地点；19）
2.ツガ属（Ⅰ区１地点；19）
3.ブナ属（Ⅰ区１地点；19）
4.コナラ亜属（Ⅰ区１地点；19）
5.イネ属（Ⅰ区１地点；19）
6.アカガシ亜属（Ⅰ区１地点；19）

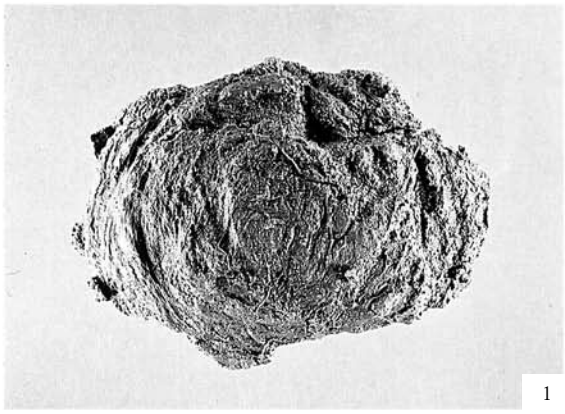
図版５　植物珪酸体



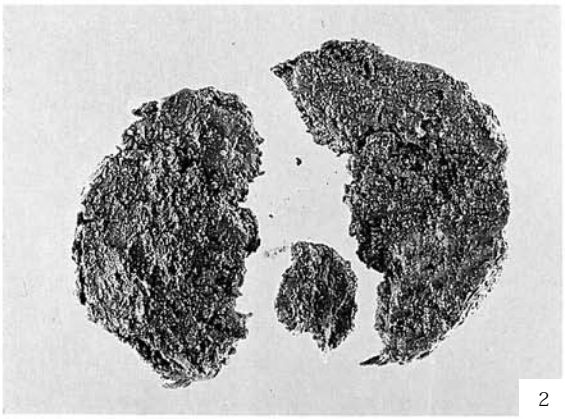
（1 - 9）　（10-15）　（16）

1．イネ属短細胞珪酸体（Ｉ区１地点；９）
2．イネ属短細胞珪酸体（Ｉ区１地点；３）
3．ヒエ属短細胞珪酸体（Ｉ区１地点；９）
4．キビ属短細胞珪酸体（Ｉ区１地点；９）
5．タケ亜科短細胞珪酸体（Ｉ区２地点；16）
6．ヨシ属短細胞珪酸体（Ｉ区２地点；３）
7．コブナグサ属短細胞珪酸体（Ｉ区１地点；25）
8．ススキ属短細胞珪酸体（Ｉ区１地点；22）
9．オムギ属短細胞珪酸体（Ｉ区１地点；９）
10. イネ属機動細胞珪酸体（Ｉ区１地点；９）
11. イネ属機動細胞珪酸体（Ｉ区２地点；３）
12. イネ属機動細胞珪酸体（Ｉ区２地点；6）
13. タケ亜科機動細胞珪酸体（Ｉ区２地点；16）
14. ヨシ属機動細胞珪酸体（Ｉ区２地点；３）
15. ウシクサ属機動細胞珪酸体（Ｉ区１地点；22）
16. 植物遺体（Ｉ区 18 号住居跡出土埋甕）

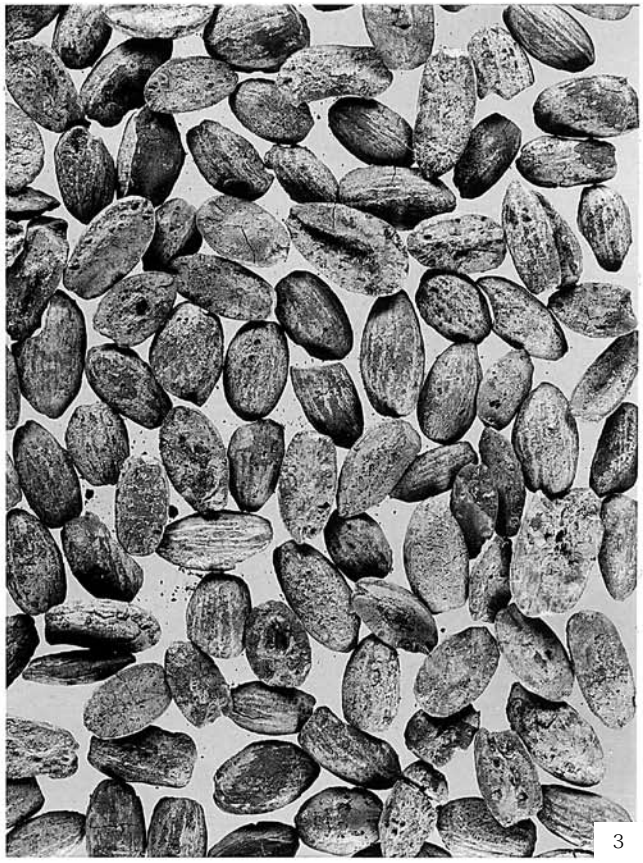
図版６　植物遺体



1



2



3

4a

4b

5a

5b

6

3㎝ (1-2)　1㎝ (3)　5㎜ (4-5)　2㎜ (6)

1．埋甕内植物遺体（Ⅰ区３号住居跡出土埋甕）
2．埋甕内植物遺体（Ⅰ区３号住居跡出土埋甕）
3．コナラ属　子葉（Ⅱ区 19 号住居跡出土埋甕）
4．コナラ属　子葉（Ⅱ区 19 号住居跡出土埋甕）
5．コナラ属　子葉（Ⅱ区 19 号住居跡出土埋甕）
6．トチノキ　種子（Ⅱ区 19 号住居跡出土埋甕）